愛知県東海市

畑間（はたま）・東畑（ひがしはた）・郷中（ごうちゅう）遺跡発掘調査報告

２０１２年

愛知県東海市教育委員会

遺跡から出土した弥生時代の土器

遺跡から出土した古墳時代の土器

巻頭図版第 2

遺跡から出土した古代から中世の土器と瓦

遺跡から出土した中世の土器

東畑遺跡 2 地点 SE1 から出土した土器と井戸枠

遺跡から出土した石器

巻頭図版第 4

上空から望む周辺の地形（▲は太田川駅東側第 1 砂堆中心部）

序

知多半島の付け根に位置する愛知県東海市は、沿岸部に展開する工業地帯に代表される「鉄」と全国有数の生産量を誇る「洋ラン」のまちとして、発展を遂げてきました。

現在では沿岸部の埋め立てによって海岸線が変化し、古代の景観を想起することは難しくなっていますが、古代から中世にかけては「あゆち潟」と呼ばれた広大な遠浅の海が広がっていました。

市では、名古屋鉄道太田川駅周辺を市の中心市街地と位置づけ、平成４年度より土地区画整理事業を進めてきました。これに伴い事業区域内に所在する遺跡の発掘調査を平成１１年度より行っています。この発掘調査によって、かつて「あゆち潟」と共に生きた太古の人々の暮らしが少しずつ明らかになってきました。

本報告書では平成２１年度に実施した調査成果を報告します。本年度の調査では東畑遺跡を中心に広がる弥生時代から古墳時代にかけての集落の中心部分の可能性のある区域を調査することができました。今後、本報告書が地域の歴史研究に活用され、埋蔵文化財への理解を深める一助となれば幸いです。

調査に際しては、地元の皆様ならびに関係者、関係諸機関より多大なる御理解、御協力を賜りました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成２４年３月

愛知県東海市教育委員会
教育長　加藤朝夫

例　　言

1. 本書は、愛知県東海市大田町に所在する畑間（はたま）遺跡、東畑（ひがしはた）遺跡および郷中（ごうちゅう）遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、東海太田川駅周辺土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として、東海市教育委員会が同事業施行者である東海市より依頼を受け、朝日航洋株式会社中部空情支社に畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査業務委託として委託し、実施した。報告書作成については、安西工業株式会社名古屋支店に発掘調査報告書作成業務委託として委託し、実施した。
3. 本事業は、現地の発掘調査ならびに1次整理作業を平成21年9月14日から平成22年8月27日まで実施し、平成23年6月22日から平成24年3月31日まで2次整理作業ならびに本書の作成作業を実施し、本書の刊行をもって終了した。発掘調査面積は 3,730 ㎡である。
4. 現地調査は、東海市教育委員会（社会教育課主事　宮澤浩司）の監督のもと、朝日航洋株式会社中部空情支社調査員 水野聡哉、楠部博世、測量技師 堀場集理が担当した。また、2次整理作業ならびに本書の作成作業は、安西工業株式会社名古屋支店調査員 有馬啓介が担当した。調査・整理の体制は第1章第4・5節に記した通りである。
5. 調査の実施にあたって、東海市中心街整備事務所、愛知県教育委員会、（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターなど、関係各位のご協力を賜った。
6. 出土した人骨については、金井慎司氏（パリノ・サーヴェイ株式会社）に同定を依頼した。
7. 出土した製塩土器については、立松彰氏（東海市立平洲記念館・郷土資料館館長）に実測と観察表作成を依頼した。
8. 調査および報告書作成にあたっては、石黒立人、宇佐見守、大杉規之、坂本範基、永井宏幸、西村誠治、宮腰健司（五十音順）の各氏にご指導・ご教示を賜った。記して感謝申し上げる。
9. 現地での遺構実測は、堀場が行った。遺構写真撮影は、水野と楠部が行った。
10. 本書に掲載した遺物の実測者と図版に掲載した遺物の写真撮影者は、第1章第5節に記した。
11. 出土した遺物、作成した図面・写真など記録・資料類はすべて東海市教育委員会で保管している。
12. 本書は宮澤の監督のもと、有馬が編集した。執筆分担は下記のとおりである。
    宮澤浩司（東海市教育委員会）　：第1章第1節～第4節
    有馬啓介（安西工業株式会社）　：第1章第5節、第2章、第3章、第4章、第5章、第6章、第7章、第9章
    金井慎司（パリノ・サーヴェイ株式会社）：第8章
13. 巻頭図版第4では国土地理院撮影の空中写真（2000年撮影）を、第3図では国土地理院発行の2万 5千分の1地形図（鳴海）を、第8図では東海市発行の1万5千分の1地形図を使用した。第7図は国土調査による土地分類基本調査（垂直調査）地質断面図（2005年度調査）を元に作成した。第179図は大日本帝国陸地測量部発行の2万分の1地形図（横須賀町・大高村・八幡村・刈谷町、1890～1891年測図）を元に作成した。

凡　　例

1. 調査記録の方位及び座標は、世界測地系の平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。ただし、単位（m）を省略している。
2. 標高は、すべて T.P.（東京湾平均海面高度）による。
3. 土層の土色観察および遺物の色調の観察には小山正忠・竹原秀雄編著・農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』(2007 年度版) を用いた。
4. 遺跡の略号は以下の通りである。

   東畑遺跡 1 地点：HH09-1　　東畑遺跡 2 地点：HH09-2

   東畑遺跡 3 地点：HH09-3　　東畑遺跡 4 地点：HH09-4

   畑間遺跡 5 地点：HM09-5

   郷中遺跡 6A 地点：GC09-6A　　郷中遺跡 6B 地点：GC09-6B

4. 遺構の記号は以下の通りである。

   SA：柵　SB：建物　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　SL：炉・カマド

   SN：水田・畑　SP：柱穴・ピット　ST：墓・埋葬施設　SX：不明遺構・その他

   NR：自然流路

5. 本書で使用する遺構番号は、遺構の種類ごとに通し番号を付けている。これらの番号の先頭に前述の遺構記号を付与し、遺構の種類を記すこととした。
6. 遺構図の縮尺は、各々図のタイトルに表示している。竪穴建物・土坑については 1/50、掘立柱建物・柵・溝については 1/100（断面図は 1/50・1/40)、井戸については 1/40、遺物出土状況図については 1/50・1/40・1/30・1/20 とした。
7. 本文中の遺構寸法は、特に断りの無い場合は残存長を示している。
8. 本書で使用する遺物番号は土器・土製品・瓦・石器・金属製品の種類を問わず、通し番号を付与した。これにより本文・観察表・実測図・写真において、一つの遺物を指示する際には同一の番号を使用している。
9. 遺物実測図の縮尺は 1/4 を基本としているが、遺物の大きさによって変更しているものがある。
10. 引用・参考文献は、筆者及び発行年（西暦）を文中（　）で示し、巻末に一括して掲載した。また、遺物の時期比定はこれらに依拠した。

目　　次

巻頭図版
序
例言・凡例

第 1 章 調査の経過
第 1 節　調査に至る経緯 ……1
第 2 節　畑間・東畑・郷中遺跡における既往の調査 ……3
第 3 節　発掘調査の方法 ……6
第 4 節　発掘作業の経過 ……9
第 5 節　整理作業の経過……10

第 2 章 遺跡の位置と環境
第 1 節　地理的環境……12
第 2 節　歴史的環境……13

第 3 章 東畑遺跡 1 地点の調査
第 1 節　概要と基本層序……18
第 2 節　遺構……26
第 3 節　出土遺物……32

第 4 章 東畑遺跡 2 地点の調査
第 1 節　概要と基本層序……35
第 2 節　遺構……63
第 3 節　出土遺物 ……103

第 5 章 東畑遺跡 3・4 地点の調査
第 1 節　概要と基本層序 ……113
第 2 節　遺構 ……129
第 3 節　出土遺物 ……143

第 6 章 畑間遺跡 5 地点の調査
第 1 節　概要と基本層序 ……148
第 2 節　遺構 ……163

第 3 節　出土遺物 ……174

第 7 章 郷中遺跡 6 地点の調査
第 1 節　概要と基本層序 ……177
第 2 節　遺構 ……196
第 3 節　出土遺物 ……204

第 8 章 自然科学分析
東畑遺跡 3 地点出土人骨の鑑定 ……206

第 9 章 総括 ……209

引用参考文献 ……214
遺物観察表 ……217
図版
報告書抄録

挿図目次

第 1 図　東畑・畑間・郷中遺跡の位置（1/5 千万・1/2 百万）　……1
第 2 図　知多半島地形図（1/200,000）……2
第 3 図　調査地位置図（1/25,000）　……3
第 4 図　調査区の位置（1/3,000）……5
第 5 図　東畑遺跡グリッド配置図（1/1,000）……7
第 6 図　畑間・郷中遺跡グリッド配置図（1/1,000）……8
第 7 図　知多半島北緯 35 度付近地質断面図……12
第 8 図　周辺の遺跡（1/15,000）……14
第 9 図　東畑遺跡 1 地点調査区全体図（1/500）……18
第 10 図　東畑遺跡 1 地点調査区全体図分割図 1（1/100）……19
第 11 図　東畑遺跡 1 地点調査区全体図分割図 2（1/100）……20
第 12 図　東畑遺跡 1 地点土層断面図の位置（1/500）……21
第 13 図　東畑遺跡 1 地点北壁（A-B）土層断面図 1（1/50）　……22
第 14 図　東畑遺跡 1 地点北壁（A-B）土層断面図 2（1/50）　……23
第 15 図　東畑遺跡 1 地点南壁（C-D）土層断面図 1（1/50）　……24
第 16 図　東畑遺跡 1 地点南壁（C-D）土層断面図 2（1/50）　……25
第 17 図　東畑遺跡 1 地点 SB1 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）……26
第 18 図　東畑遺跡 1 地点 SB2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）……27
第 19 図　東畑遺跡 1 地点 SB3 平面図・断面図（1/50）……27
第 20 図　東畑遺跡 1 地点 SB4 平面図・断面図（1/50）……28
第 21 図　東畑遺跡 1 地点 SB5 平面図・断面図（1/50）……29
第 22 図　東畑遺跡 1 地点 SB6 平面図（1/50）……29
第 23 図　東畑遺跡 1 地点 SB7 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）……30
第 24 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図（1/500）……36
第 25 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 1（1/100）……37
第 26 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 2（1/100）……38
第 27 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 3（1/100）……39
第 28 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 4（1/100）……40
第 29 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 5（1/100）……41
第 30 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 6（1/100）……42
第 31 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 7（1/100）……43
第 32 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 8（1/100）……44
第 33 図　東畑遺跡 2 地点調査区全体図分割図 9（1/100）……45
第 34 図　東畑遺跡 2 地点東壁（A-B）土層断面図 1（1/50）　……46
第 35 図　東畑遺跡 2 地点東壁（A-B）土層断面図 2（1/50）　……47
第 36 図　東畑遺跡 2 地点北壁（C-D）土層断面図 1（1/50）　……48

第 37 図　東畑遺跡 2 地点北壁 (C-D) 土層断面図 2 (1/50) ……49
第 38 図　東畑遺跡 2 地点南壁 (G-H) 土層断面図 1 (1/50) ……50
第 39 図　東畑遺跡 2 地点南壁 (G-H) 土層断面図 2 (1/50) ……51
第 40 図　東畑遺跡 2 地点東壁 (I-J) 土層断面図 (1/50) ……52
第 41 図　東畑遺跡 2 地点西壁 (M-N) 土層断面図 1 (1/50) ……53
第 42 図　東畑遺跡 2 地点西壁 (M-N) 土層断面図 2 (1/50) ……54
第 43 図　東畑遺跡 2 地点西壁 (M-N) 土層断面図 3 (1/50) ……55
第 44 図　東畑遺跡 2 地点西壁 (M-N) 土層断面図 4 (1/50) ……56
第 45 図　東畑遺跡 2 地点北壁 (O-P) 土層断面図 (1/50) ……57
第 46 図　東畑遺跡 2 地点南壁 (Q-R) 土層断面図 (1/50) ……58
第 47 図　東畑遺跡 2 地点北壁 (U-V) 土層断面図 (1/50) ……59
第 48 図　東畑遺跡 2 地点東壁 (E-F) 土層断面図 (1/50) ……60
第 49 図　東畑遺跡 2 地点南壁 (K-L) 土層断面図 (1/50) ……60
第 50 図　東畑遺跡 2 地点西壁 (S-T) 土層断面図 (1/50) ……61
第 51 図　東畑遺跡 2 地点南壁 (W-X) 土層断面図 (1/50) ……61
第 52 図　東畑遺跡 2 地点西壁 (Y-Z) 土層断面図 (1/50) ……62
第 53 図　東畑遺跡 2 地点土層断面図の位置 (1/1,000) ……62
第 54 図　東畑遺跡 2 地点 SB1 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……64
第 55 図　東畑遺跡 2 地点 SB2 平面図・断面図 (1/50) ……65
第 56 図　東畑遺跡 2 地点 SB3 平面図・断面図 (1/50) ……66
第 57 図　東畑遺跡 2 地点 SB4 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……67
第 58 図　東畑遺跡 2 地点 SB5 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……68
第 59 図　東畑遺跡 2 地点 SB6 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……69
第 60 図　東畑遺跡 2 地点 SB6 主柱穴断面図 (1/50) ……70
第 61 図　東畑遺跡 2 地点 SB7 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……71
第 62 図　東畑遺跡 2 地点 SB8 平面図・断面図 (1/50) ……72
第 63 図　東畑遺跡 2 地点 SB9 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……73
第 64 図　東畑遺跡 2 地点 SB10 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……74
第 65 図　東畑遺跡 2 地点 SB11・12 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……75
第 66 図　東畑遺跡 2 地点 SB13 平面図・断面図 (1/50) ……76
第 67 図　東畑遺跡 2 地点 SB14 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……77
第 68 図　東畑遺跡 2 地点 SB15 平面図・断面図 (1/50) ……78
第 69 図　東畑遺跡 2 地点 SB16 平面図・断面図 (1/50) ……79
第 70 図　東畑遺跡 2 地点 SB17 平面図・断面図 (1/50) ……80
第 71 図　東畑遺跡 2 地点 SB18 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/50) ……81
第 72 図　東畑遺跡 2 地点 SL1 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/40) ……82
第 73 図　東畑遺跡 2 地点 SK20 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/40) ……83
第 74 図　東畑遺跡 2 地点 SD16 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/40) ……84

第 75 図　東畑遺跡 2 地点 SX2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）……85
第 76 図　東畑遺跡 2 地点 SK61 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）……86
第 77 図　東畑遺跡 2 地点 SB19 平面図・エレベーション図（1/100）……87
第 78 図　東畑遺跡 2 地点 SB19 柱穴断面図（1/50）……88
第 79 図　東畑遺跡 2 地点 SB20 平面図・エレベーション図（1/100）……90
第 80 図　東畑遺跡 2 地点 SB20 柱穴断面図（1/50）……91
第 81 図　東畑遺跡 2 地点 SB21 平面図・断面図・エレベーション図（平面図・エレベーション図 1/100, 断面図 1/50）……92
第 82 図　東畑遺跡 2 地点 SB22 平面図・断面図・エレベーション図（平面図・エレベーション図 1/100, 断面図 1/50）……93
第 83 図　東畑遺跡 2 地点 SA1 平面図・断面図・エレベーション図（平面図・エレベーション図 1/100, 断面図 1/50）……94
第 84 図　東畑遺跡 2 地点 SA2 平面図・断面図・エレベーション図（平面図・エレベーション図 1/100, 断面図 1/50）……95
第 85 図　東畑遺跡 2 地点 SK18 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）……96
第 86 図　東畑遺跡 2 地点 SD1・2 平面図・断面図（平面図 1/100, 断面図 1/50）……98
第 87 図　東畑遺跡 2 地点 SD5 平面図（1/100）……99
第 88 図　東畑遺跡 2 地点 SD5 断面図・亀甲出土状況図（断面図 1/50, 亀甲出土状況図 1/40）……100
第 89 図　東畑遺跡 2 地点 SE1 平面図・断面図・井戸枠出土状況図（1/40）……101
第 90 図　東畑遺跡 2 地点 SE1 断面図・井戸枠出土状況図（1/40）……102
第 91 図　東畑遺跡 3・4 地点調査区全体図（1/500）……114
第 92 図　東畑遺跡 3・4 地点調査区全体図分割図 1（1/100）……115
第 93 図　東畑遺跡 3・4 地点調査区全体図分割図 2（1/100）……116
第 94 図　東畑遺跡 3・4 地点調査区全体図分割図 3（1/100）……117
第 95 図　東畑遺跡 3・4 地点調査区全体図分割図 4（1/100）……118
第 96 図　東畑遺跡 3・4 地点調査区全体図分割図 5（1/100）……119
第 97 図　東畑遺跡 3 地点北壁（A-B）土層断面図 1（1/50）……120
第 98 図　東畑遺跡 3 地点北壁（A-B）土層断面図 2（1/50）……121
第 99 図　東畑遺跡 3 地点北壁（A-B）土層断面図 3（1/50）……122
第 100 図　東畑遺跡 3 地点北壁（A-B）土層断面図 4（1/50）……123
第 101 図　東畑遺跡 3 地点南壁（C-D）土層断面図 1（1/50）……124
第 102 図　東畑遺跡 3 地点南壁（C-D）土層断面図 2（1/50）……125
第 103 図　東畑遺跡 3 地点南壁（C-D）土層断面図 3（1/50）……126
第 104 図　東畑遺跡 3 地点南壁（C-D）土層断面図 4（1/50）……127
第 105 図　東畑遺跡 3 地点西壁（E-F）土層断面図（1/50）……127
第 106 図　東畑遺跡 4 地点西壁（A-B）土層断面図（1/50）……128
第 107 図　東畑遺跡 3・4 地点土層断面図の位置（1/1,000）……129
第 108 図　東畑遺跡 3 地点 SB1 平面図・断面図（1/50）……130

第 109 図　東畑遺跡 3 地点 SB2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）　……131
第 110 図　東畑遺跡 3 地点 SB3 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）　……132
第 111 図　東畑遺跡 3 地点 SB4 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）　……133
第 112 図　東畑遺跡 3 地点 SB5 平面図・遺物出土状況図（1/50）　……134
第 113 図　東畑遺跡 3 地点 SB5 断面図（1/50）……135
第 114 図　東畑遺跡 3 地点 SB6 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）　……136
第 115 図　東畑遺跡 3 地点 SB7 平面図・断面図（1/50）　……137
第 116 図　東畑遺跡 3 地点 SB8 平面図・断面図（1/50）　……138
第 117 図　東畑遺跡 3 地点 SK15 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/30）……139
第 118 図　東畑遺跡 3 地点 SK16 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/30）……140
第 119 図　東畑遺跡 3 地点 SK4 平面図・断面図（1/50）　……140
第 120 図　東畑遺跡 3 地点 SE1 平面図・断面図・井戸枠出土状況図（1/40）　……141
第 121 図　東畑遺跡 3 地点 SE1 井戸枠出土状況図（1/40）　……142
第 122 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図（1/500）　……149
第 123 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 1（1/100）　……150
第 124 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 2（1/100）　……151
第 125 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 3（1/100）　……152
第 126 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 4（1/100）　……153
第 127 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 5（1/100）　……154
第 128 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 6（1/100）　……155
第 129 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 7（1/100）　……156
第 130 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 8（1/100）　……157
第 131 図　畑間遺跡 5 地点北壁（A-B）土層断面図 1（1/50）　……158
第 132 図　畑間遺跡 5 地点北壁（A-B）土層断面図 2（1/50）　……159
第 133 図　畑間遺跡 5 地点北壁（A-B）土層断面図 3（1/50）　……160
第 134 図　畑間遺跡 5 地点北壁（A-B）土層断面図 4（1/50）　……161
第 135 図　畑間遺跡 5 地点東壁（C-D）土層断面図（1/50）　……162
第 136 図　畑間遺跡 5 地点土層断面図の位置（1/1,000）……162
第 137 図　畑間遺跡 5 地点 SB1 平面図・断面図（1/50）　……164
第 138 図　畑間遺跡 5 地点 SB2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）　……165
第 139 図　畑間遺跡 5 地点 SK2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）　……166
第 140 図　畑間遺跡 5 地点 SK 群（SK35・36・39・40・41・43・44・47）平面図・断面図・遺物
出土状況図（1/40）　……167
第 141 図　畑間遺跡 5 地点 SD2・3・4・5・6 平面図（1/100）……168
第 142 図　畑間遺跡 5 地点 SD2・3・4・5・6 断面図（1/40）　……169
第 143 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 遺物出土状況図①（1/40）　……170
第 144 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 遺物出土状況図②（1/40）　……171
第 145 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 遺物出土状況図③（1/40）　……172
第 146 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 断面図（1/40）　……173

第 147 図　畑間遺跡 5 地点 SD5 遺物出土状況図（1/40）　……173
第 148 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図（1/500）　……178
第 149 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 1（1/100）　……179
第 150 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 2（1/100）　……180
第 151 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 3（1/100）　……181
第 152 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 4（1/100）……182
第 153 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 5（1/100）……183
第 154 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 6（1/100）……184
第 155 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 7（1/100）……185
第 156 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 8（1/100）……186
第 157 図　郷中遺跡 6A 地点西壁（A-B）土層断面図 1（1/50）……187
第 158 図　郷中遺跡 6A 地点西壁（A-B）土層断面図 2（1/50）　……188
第 159 図　郷中遺跡 6A 地点北壁（C-D）土層断面図（1/50）　……189
第 160 図　郷中遺跡 6A 地点東壁（E-F）土層断面図 1（1/50）　……190
第 161 図　郷中遺跡 6A 地点東壁（E-F）土層断面図 2（1/50）　……191
第 162 図　郷中遺跡 6A 地点東壁（E-F）土層断面図 3（1/50）　……192
第 163 図　郷中遺跡 6B 地点北壁（A-B）土層断面図 1（1/50）　……193
第 164 図　郷中遺跡 6B 地点北壁（A-B）土層断面図 2（1/50）　……194
第 165 図　郷中遺跡 6B 地点東壁（C-D）土層断面図（1/50）　……195
第 166 図　郷中遺跡 6A 地点土層断面図の位置（1/1,000）……195
第 167 図　郷中遺跡 6B 地点土層断面図の位置（1/500）　……195
第 168 図　郷中遺跡 6B 地点 SB1 平面図・断面図（1/50）　……196
第 169 図　郷中遺跡 6A 地点 SP60 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/30）……197
第 170 図　郷中遺跡 6A 地点 SK15 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）……197
第 171 図　郷中遺跡 6B 地点 SK30 平面図・断面図 ・遺物出土状況図（1/40）……198
第 172 図　郷中遺跡 6A 地点 ST1 平面図・断面図 ・遺物出土状況図（1/40）……199
第 173 図　郷中遺跡 6A 地点 SD2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）　……200
第 174 図　郷中遺跡 6A 地点 SD7・8・9・10・11 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）‥201
第 175 図　郷中遺跡 6A 地点 SE1 平面図・断面図・井戸枠出土状況図（1/40）　……202
第 176 図　人体骨格各部の名称　……206
第 177 図　東畑遺跡 3 地点 ST1 平面図・断面図・人骨出土状況図（1/20,1/5）……207
第 178 図　製塩土器分類図（1/4）　……211
第 179 図　大田・養父・八幡の谷（1/20,000）……213

付表目次

第 1 表　出土骨同定結果 ……207
第 2 表　畑間・東畑・郷中遺跡出土土器・陶磁器観察表 ……217
第 3 表　東畑・郷中遺跡出土土製品観察表 ……225
第 4 表　郷中遺跡出土軒丸瓦観察表 ……225
第 5 表　畑間・東畑・郷中遺跡出土瓦観察表 ……225
第 6 表　東畑遺跡出土石器観察表 ……225
第 7 表　畑間・東畑・郷中遺跡出土金属製品観察表 ……226
第 8 表　東畑遺跡出土製塩土器観察表 ……226
第 9 表　畑間遺跡出土製塩土器観察表 ……227
第 10 表　郷中遺跡出土製塩土器観察表 ……230

図版目次

巻頭図版第 1　上　遺跡から出土した弥生時代の土器
　　下　遺跡から出土した古墳時代の土器
巻頭図版第 2　上　遺跡から出土した古代から中世の土器と瓦
　　下　遺跡から出土した中世の土器
巻頭図版第 3　上　東畑遺跡 2 地点 SE1 から出土した土器と井戸枠
　　下　遺跡から出土した石器
巻頭図版第 4　上空から望む周辺の地形

図版第 1　東畑遺跡 1 地点出土土器実測図 (1)
図版第 2　上　東畑遺跡 1 地点出土土器実測図 (2)・石器実測図・銅鏃実測図
　　下　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1)
図版第 3　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (2)
図版第 4　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (3)
図版第 5　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (4)
図版第 6　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (5)
図版第 7　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (6)
図版第 8　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (7)
図版第 9　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (8)
図版第 10　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (9)
図版第 11　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (10)
図版第 12　上　東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (11)
　　下　東畑遺跡 2 地点出土土製品・瓦塔実測図・石器実測図 (1)

図版第 13　東畑遺跡 2 地点出土石器実測図 (2)
図版第 14　上　東畑遺跡 2 地点出土石器実測図 (3)・鉄滓実測図
下　東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1)
図版第 15　東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (2)
図版第 16　東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (3)
図版第 17　東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (4)
図版第 18　東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (5)
図版第 19　上　東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (6)
下　東畑遺跡 3 地点出土土製品実測図・瓦・石器実測図
図版第 20　畑間遺跡 5 地点出土土器実測図 (1)
図版第 21　畑間遺跡 5 地点出土土器実測図 (2)
図版第 22　上　畑間遺跡 5 地点出土瓦実測図・鉄鏃・銭貨実測図
下　郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (1)
図版第 23　郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (2)
図版第 24　郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (3)
図版第 25　郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (4)
図版第 26　東畑遺跡 6 地点出土土製品・瓦・鉄製品実測図
図版第 27　上　東畑遺跡 1 地点調査区全景 (東より)
下　東畑遺跡 1 地点 SB1 完掘状況 (東より)
図版第 28　上　東畑遺跡 1 地点 SB2 遺物出土状況 (1)(北より)
下　東畑遺跡 1 地点 SB2 遺物出土状況 (2)(北より)
図版第 29　上　東畑遺跡 1 地点 SB2 断面 (西より)　東畑遺跡 1 地点 SB3 完掘状況 (東より)
東畑遺跡 1 地点 SB4 完掘状況 (東より)　東畑遺跡 1 地点 SB5 完掘状況 (西より)
下　東畑遺跡 1 地点 SB6･7 完掘状況 (東より)　東畑遺跡 1 地点 SL1 遺物出土状況 (南より)　東畑遺跡 1 地点 SP24 遺物出土状況 (北より)　東畑遺跡 1 地点 SP44 銅鏃出土状況 (北より)
図版第 30　上　東畑遺跡 2 地点南北調査区全景 (北より)
下　東畑遺跡 2 地点南北調査区全景 (南より)
図版第 31　上　東畑遺跡 2 地点東西調査区東側全景 (西より)
下　東畑遺跡 2 地点東西調査区西側全景 (東より)
図版第 32　上　東畑遺跡 2 地点東西調査区西端全景 (南東より)
下　東畑遺跡 2 地点 SB1 遺物出土状況 (北東より)
図版第 33　上　東畑遺跡 2 地点 SB1 完掘状況 (南西より)　東畑遺跡 2 地点 SB3 完掘状況 (北より)
東畑遺跡 2 地点 SB4 遺物出土状況 (1)(西より)　東畑遺跡 2 地点 SB4 遺物出土状況 (2)(東より)
下　東畑遺跡 2 地点 SB4 遺物出土状況 (3)(西より)

図版第 34　上　東畑遺跡 2 地点 SB4 完掘状況（西より）　東畑遺跡 2 地点 SB5 遺物出土状況（西より）　東畑遺跡 2 地点 SB6 遺物出土状況（南東より）　東畑遺跡 2 地点 SB6 完掘状況（南より）

下　東畑遺跡 2 地点 SB7 遺物出土状況（北より）　東畑遺跡 2 地点 SB7 完掘状況（西より）　東畑遺跡 2 地点 SB8 完掘状況（西より）　東畑遺跡 2 地点 SB9・10 完掘状況（南より）

図版第 35　上　東畑遺跡 2 地点 SB11 遺物出土状況（南より）

下　東畑遺跡 2 地点 SB11・12 完掘状況（南より）

図版第 36　上　東畑遺跡 2 地点 SB13 完掘状況（南西より）　東畑遺跡 2 地点 SB15 完掘状況（北東より）　東畑遺跡 2 地点 SB14 遺物出土状況（北より）　東畑遺跡 2 地点 SB14 完掘状況（北より）

下　東畑遺跡 2 地点 SB16 完掘状況（北より）　東畑遺跡 2 地点 SB17 完掘状況（北より）　東畑遺跡 2 地点 SB18 完掘状況（北より）　東畑遺跡 2 地点 SB18 遺物出土状況 (1)（南より）

図版第 37　上　東畑遺跡 2 地点 SB18 遺物出土状況 (2)（北より）

下　東畑遺跡 2 地点 SL1 遺物出土状況（西より）　東畑遺跡 2 地点 SL1 断面（南東より）　東畑遺跡 2 地点 SK20 遺物出土状況（南より）　東畑遺跡 2 地点 SD16 完掘状況（北東より）

図版第 38　上　東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物出土状況 (1)（北より）

下　東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物出土状況 (2)（東より）　東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物出土状況 (3)（西より）　東畑遺跡 2 地点 SX2 完掘状況（北西より）　東畑遺跡 2 地点 ID17s・t 遺物包含層（南より）

図版第 39　上　東畑遺跡 2 地点 SK61 遺物出土状況（東より）　東畑遺跡 2 地点 IE19c 遺物出土状況（北より）　東畑遺跡 2 地点 SP51 断面（北東より）　東畑遺跡 2 地点 SP111 遺物出土状況（南より）

下　東畑遺跡 2 地点南北調査区 SB 完掘状況（北より）

図版第 40　上　東畑遺跡 2 地点 SB19・20・21 完掘状況（北より）

下　東畑遺跡 2 地点 SA2 完掘状況（北東より）

図版第 41　上　東畑遺跡 2 地点 SK18 遺物出土状況（西より）

下　東畑遺跡 2 地点 SD5 完掘状況（北より）

図版第 42　上　東畑遺跡 2 地点 SD5 亀出土状況 (1)（北東より）　東畑遺跡 2 地点 SD5 亀出土状況 (2)（北西より）　東畑遺跡 2 地点 SE1 断面（南西より）　東畑遺跡 2 地点 SE1 甕底面（北より）

下　東畑遺跡 2 地点 SE1 甕出土状況（西より）

図版第 43　上　東畑遺跡 3 地点調査区全景（南東より）

下　東畑遺跡 3 地点調査区全景（東より）　東畑遺跡 3 地点西側 SB 完掘状況（西より）　東畑遺跡 3 地点 SB1 完掘状況（南西より）　東畑遺跡 3 地点 SL1 検出状況（南東より）

図版第 44　上　東畑遺跡 3 地点 SB2 完掘状況（南西より）

下　東畑遺跡 3 地点 SB3 断面（南西より）　東畑遺跡 3 地点 SB3 遺物出土状況（北西より）　東畑遺跡 3 地点 SB3 完掘状況（北西より）　東畑遺跡 3 地点 SB4 完掘状況（北より）

図版第 45　上　東畑遺跡 3 地点 SB5 遺物出土状況 (1)（南より）

下　東畑遺跡 3 地点 SB5 遺物出土状況 (2)（東より）

図版第 46　上　東畑遺跡 3 地点 SB5 床面検出状況（南より）　東畑遺跡 3 地点 SB5 完掘状況（北より）　東畑遺跡 3 地点 SB6 完掘状況（北より）　東畑遺跡 3 地点 ST1 歯出土状況（東より）

下　東畑遺跡 3 地点 ST1 人骨出土状況（北より）

図版第 47　上　東畑遺跡 3 地点 SK15 遺物出土状況（南西より）　東畑遺跡 3 地点 SK16 遺物出土状況（南西より）　東畑遺跡 3 地点 SE1 断面（西より）　東畑遺跡 3 地点 SE1 甕出土状況 (1)（西より）

下　東畑遺跡 3 地点 SE1 甕出土状況 (2)（西より）

図版第 48　上　東畑遺跡 4 地点調査区全景（南西より）

下　畑間遺跡 5 地点調査区西側全景（北西より）

図版第 49　上　畑間遺跡 5 地点調査区西側全景（南東より）

下　畑間遺跡 5 地点調査区東側全景（北西より）

図版第 50　上　畑間遺跡 5 地点調査区東側全景（南東より）

下　畑間遺跡 5 地点 SB1 完掘状況（南西より）　畑間遺跡 5 地点 SB1 鉄鏃出土状況（北より）　畑間遺跡 5 地点 SK2 遺物出土状況（南東より）　畑間遺跡 5 地点 SK2 完掘状況（西より）

図版第 51　上　畑間遺跡 5 地点 SK41･47 検出状況（南より）　畑間遺跡 5 地点 SK41 遺物出土状況（東より）　畑間遺跡 5 地点 SK43･44 検出状況（南西より）　畑間遺跡 5 地点東側 SK 群検出状況（南西より）

下　畑間遺跡 5 地点 SD2 第 1 面 (1)（北東より）

図版第 52　上　畑間遺跡 5 地点 SD2 第 1 面 (2)（南東より）　畑間遺跡 5 地点 SD2 第 2 面 (1)（北西より）　畑間遺跡 5 地点 SD2 第 2 面 (2)（南西より）　畑間遺跡 5 地点 SD2 完掘状況（南西より）

下　畑間遺跡 5 地点 SD3 完掘状況（南西より）　畑間遺跡 5 地点 SD5 遺物出土状況（北東より）　畑間遺跡 5 地点 SD4・5 完掘状況（南西より）　畑間遺跡 5 地点 SD3 ～ 6 完掘状況 (1)（北より）

図版第 53　上　畑間遺跡 5 地点 SD3 ～ 6 完掘状況 (2)（南西より）

下　郷中遺跡 6A 地点調査区西側完掘状況（南西より）

図版第 54　上　郷中遺跡 6A 地点調査区西側完掘状況（北東より）

下　郷中遺跡 6A 地点調査区南東側全景（北西より）

図版第 55　上　郷中遺跡 6A 地点調査区南東側完掘状況（北東より）
　　下　郷中遺跡 6A 地点調査区南東側完掘状況（南西より）
図版第 56　上　郷中遺跡 6A 地点調査区東側全景（南西より）
　　下　郷中遺跡 6B 地点調査区全景（北西より）
図版第 57　上　郷中遺跡 6B 地点調査区全景（南東より）
　　下　郷中遺跡 6B 地点 SB1 完掘状況（北より）　郷中遺跡 6A 地点 SP60 遺物出土状況（南西より）　郷中遺跡 6A 地点 SK15 遺物出土状況（北東より）　郷中遺跡 6A 地点 SK15 底面（南東より）
図版第 58　上　郷中遺跡 6B 地点 SK30 遺物出土状況（南より）　郷中遺跡 6B 地点 SK30・SD5 完掘状況（西より）　郷中遺跡 6A 地点 ST1 遺物出土状況（南東より）　郷中遺跡 6A 地点 ST1 完掘状況（西より）
　　下　郷中遺跡 6A 地点 SD2 遺物出土状況（西より）　郷中遺跡 6A 地点 SD7・8 掘削状況（南東より）　郷中遺跡 6A 地点 SD7 遺物出土状況（東より）　郷中遺跡 6A 地点 NR3 断面（南西より）
図版第 59　上　郷中遺跡 6A 地点 SE1 断面（南東より）
　　下　郷中遺跡 6A 地点 SE1 甕出土状況 (1)（南東より）　郷中遺跡 6A 地点 SE1 甕出土状況 (2)（東より）　郷中遺跡 6A 地点 SE1 曲物出土状況（西より）　郷中遺跡 6A 地点Ⅶ D13h 瓦当出土状況（西より）
図版第 60　上　東畑遺跡 2 地点 SB1 掘削作業　東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物検出作業　東畑遺跡 3 地点 SB2 掘削・測量作業　東畑遺跡 3 地点 SE1 掘削作業
　　下　畑間遺跡 5 地点遺構検出作業　郷中遺跡 6A 地点遺物包含層掘削作業　ジェットマーカーによる遺物注記作業　遺物写真撮影作業
図版第 61　出土遺物 (1)
図版第 62　出土遺物 (2)
図版第 63　出土遺物 (3)
図版第 64　出土遺物 (4)
図版第 65　出土遺物 (5)
図版第 66　出土遺物 (6)
図版第 67　出土遺物 (7)
図版第 68　出土遺物 (8)
図版第 69　出土遺物 (9)
図版第 70　出土遺物 (10)
図版第 71　出土遺物 (11)
図版第 72　出土遺物 (12)
図版第 73　出土遺物 (13)
図版第 74　出土遺物 (14)
図版第 75　出土遺物 (15)

図版第 76　出土遺物（16）
図版第 77　出土遺物（17）
図版第 78　出土遺物（18）
図版第 79　出土遺物（19）
図版第 80　出土遺物（20）
図版第 81　出土遺物（21）
図版第 82　出土遺物（22）
図版第 83　出土遺物（23）
図版第 84　出土遺物（24）
図版第 85　出土遺物（25）
図版第 86　出土遺物（26）
図版第 87　出土遺物（27）
図版第 88　出土遺物（28）
図版第 89　出土遺物（29）
図版第 90　出土遺物（30）
図版第 91　出土遺物（31）
図版第 92　出土遺物（32）
図版第 93　出土遺物（33）
図版第 94　出土遺物（34）
図版第 95　出土遺物（35）
図版第 96　出土遺物（36）
図版第 97　出土遺物（37）
図版第 98　出土遺物（38）
図版第 99　出土遺物（39）
図版第 100　出土遺物（40）
図版第 101　出土遺物（41）
図版第 102　出土遺物（42）
図版第 103　出土遺物（43）
図版第 104　出土遺物（44）
図版第 105　出土遺物（45）
図版第 106　出土遺物（46）
図版第 107　出土遺物（47）
図版第 108　出土遺物（48）
図版第 109　東畑遺跡 3 地点出土人骨

第１章　調査の経過

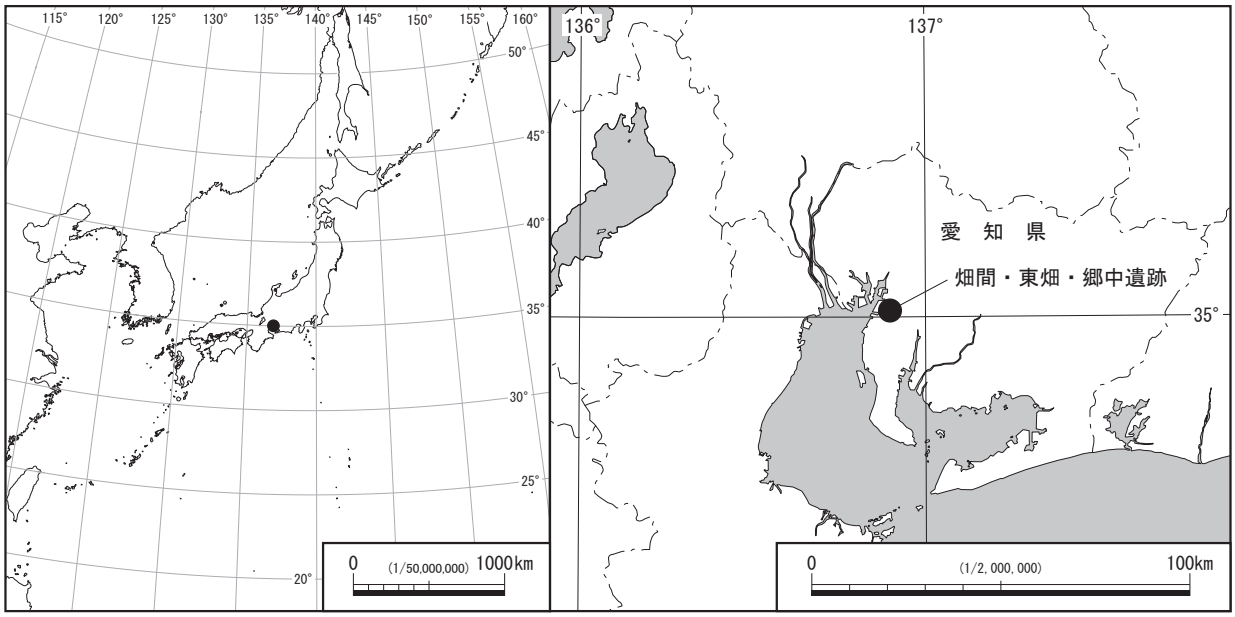
第１節　調査に至る経緯（第１～４図）

畑間遺跡、東畑遺跡および郷中遺跡は愛知県東海市大田町に位置する（第１～４図）。平成８年から10年にかけて愛知県教育委員会によって実施された詳細分布調査（長島・柴田 1999）によると、畑間遺跡は古墳時代から中世にかけての散布地、東畑遺跡は弥生時代から中世にかけての散布地、郷中遺跡は弥生時代から中世にかけての散布地とされている。

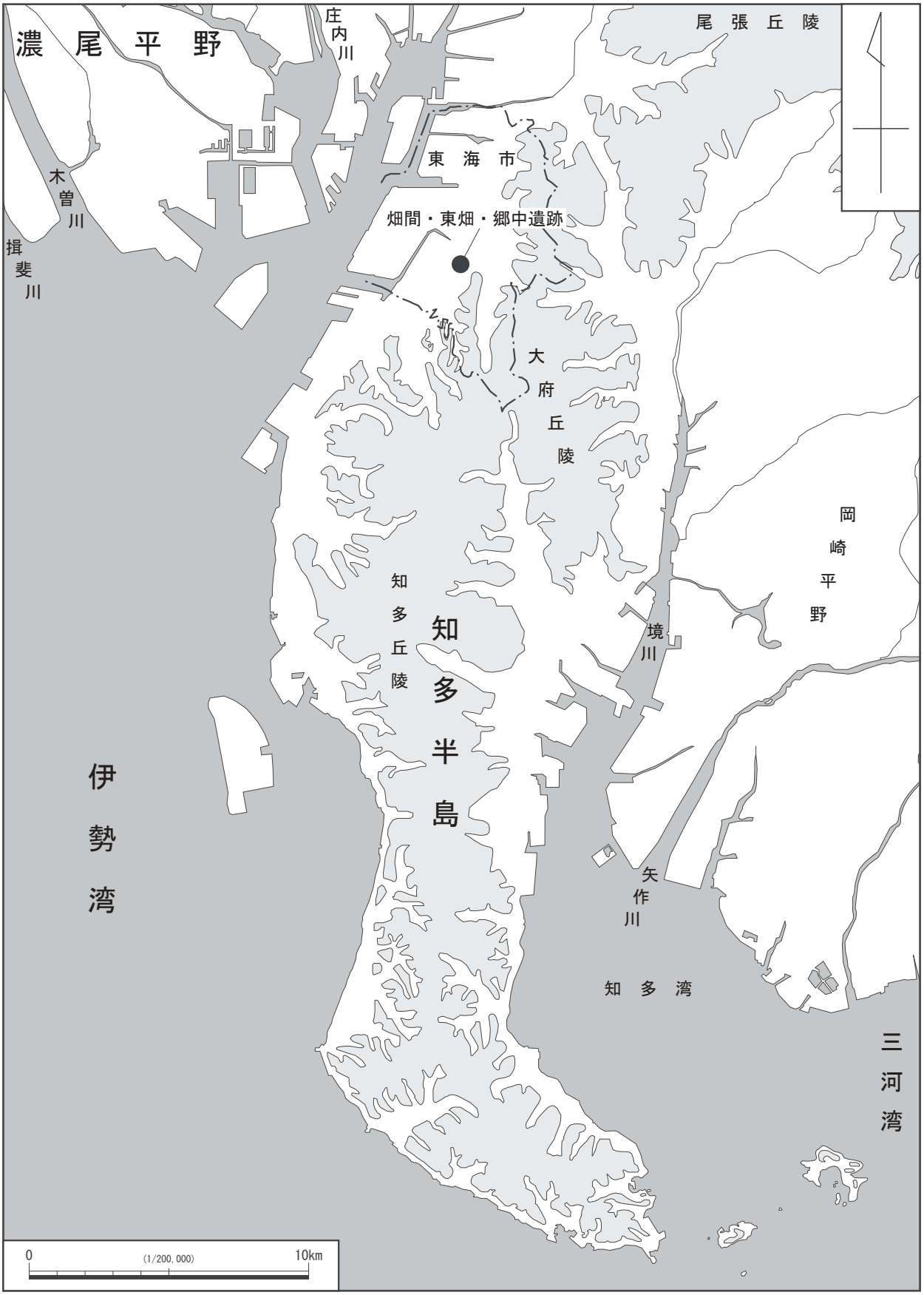
本市では、名古屋鉄道太田川駅周辺地区を中心市街地として位置づけ、平成４年度より土地区画整理事業および鉄道高架事業を実施している。これらの事業に伴い事業区域内に所在する埋蔵文化財包蔵地について、その範囲および性格を把握するために平成８年度に試掘・確認調査を実施した（立松 1997）。この調査によって、事業区域内には畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡をはじめ、後田遺跡、龍雲院遺跡が存在することが確認された。この試掘調査の結果に基づき土地区画整理事業担当部局である中心街整備事務所と協議・調整をはかり、平成11年度から東海市教育委員会により主に道路整備用地の記録保存を目的とした緊急発掘調査を継続して実施している。平成21年度末時点での調査済み面積は12,040㎡である。

平成21年度は畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡範囲内の６地点3,730㎡について、原因者で東海太田川駅周辺土地区画整理事業施行者である東海市長より平成21年５月18日付け中第35号にて発掘調査依頼があり、現地調査、１次整理作業について、平成21年７月29日に朝日航洋株式会社中部空情支社と業務委託契約を締結した。

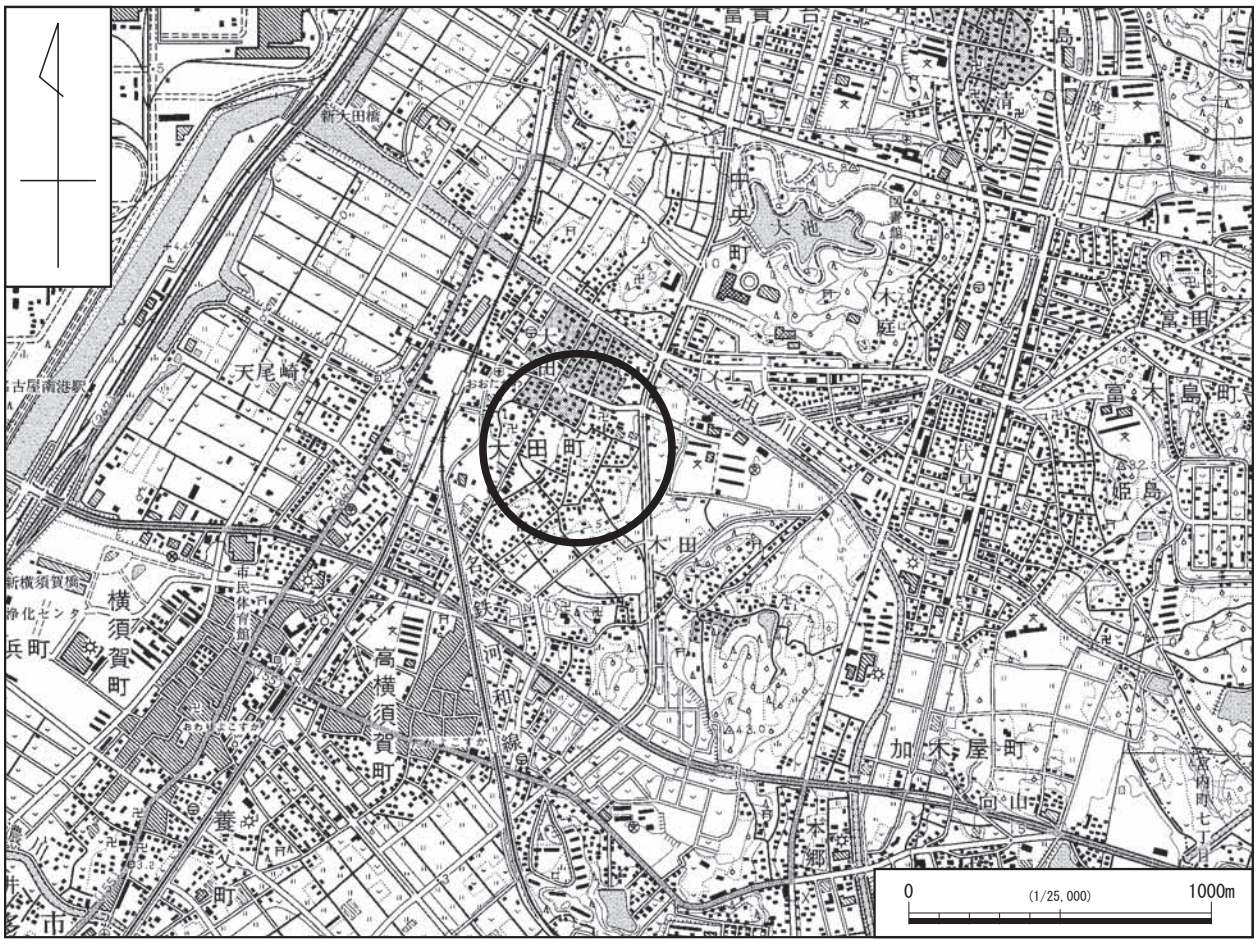
現地調査は調査予定地における土地移転交渉が遅れたことから、９月14日より着手し、３地点、４地点、６地点、５地点、２地点、１地点の順に調査を実施した。２地点以降の調査1,420㎡については、調査着手が遅れたことから、22年度へ繰越して調査を実施することとし、平成22年３月



第１図　東畑・畑間・郷中遺跡の位置（1/5千万・1/2百万）



第２図　知多半島地形図（1/200,000）



第３図　調査地位置図（1/25,000）

31 日付けで変更契約を締結した。平成 22 年 7 月 8 日に現地調査は終了し、その後整理作業を実施、8 月 27 日付けで成果品の納入を受けた。

報告書作成については、安西工業株式会社名古屋支店と２次整理作業及び報告書作成業務について、業務委託契約を平成 23 年 6 月 22 日に締結し、安西工業株式会社の整理事務所において、2 次整理作業及び報告書作成業務を実施し、本報告書の刊行に至ったものである。

第２節　畑間・東畑・郷中遺跡における既往の調査（第４図）

畑間遺跡、東畑遺跡および郷中遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてはいたが、これまで発掘調査は実施されていなかった。初めて調査されたのは、前述したとおり平成８年度に実施された中心街整備事業に先立つ試掘・確認調査である。調査では土地区画整理事業が予定されていた区域内に 20 箇所のトレンチを試掘した。このうち畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡に関係するトレンチは 16 箇所に上る。この試掘調査によって従前範囲が不明であった各遺跡について、概略ではあるが遺跡の範囲を特定することができた。各遺跡の時期については、畑間遺跡については中世から近世の時期、東畑遺跡については弥生時代中期から古墳時代前期の時期と古代から中

世の時期、郷中遺跡については弥生時代前期の遺物も出土しているが中世を中心とする時期であることが推測された。

その後、平成 11 年度から中心街整備事業に伴う緊急発掘調査により畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡それぞれの発掘調査が行われ、各遺跡の様相が明らかとなってきた。既往の調査地は第 4 図に示した通りであるが、各年次の調査は土地区画整理事業に伴う家屋移転の進捗に応じて調査を実施しており、小規模な調査とならざるを得ない。平成 21 年度末の調査済み面積は 12,040 ㎡である。この内平成 11 年度から平成 19 年度までは東海市教育委員会直営で調査を実施した。この間の調査成果については現在報告書刊行に向けて整理作業を実施しているが、概要については報告済みである（永井・宮澤 2007、宮澤 2009）。なお、平成 20 年度調査分については既に発掘調査報告書を刊行済みである（宮澤・桐山・坂野ほか 2009）。

既刊の概要報告及び発掘調査報告書によれば、畑間遺跡を中心とした調査区からは平成 8 年度実施の試掘調査での様相とはやや異なり、弥生時代から近世にかけての広範な時期の遺構・遺物が出土した。特に砂堆の海側の落ち際にあたる畑間遺跡の西側を中心に遠賀川系土器や条痕文系土器といった弥生時代前期に属する時代の土器が出土しており、明確な弥生時代前期の遺構は確認されていないものの、砂堆の海岸側に弥生時代前期の生活の痕跡が窺える。また、遺跡範囲のほぼ中央部には弥生中期から後期段階の方形周溝墓群を確認している。現在のところ道路工事の進捗に応じて調査を行っているため、方形周溝墓群の東西方向の範囲は確認しているものの、南北方向については十分な調査が済んでいない状況である。

また、東畑遺跡内では、畑間遺跡と接する北側区域から、平成 18 年度の調査の際に弥生中期から後期にかけての土器集中や溝などを確認している。北側には先述の方形周溝墓群が広がることから、居住域が広がっていることが想定される。

他方、畑間遺跡の北半分及び郷中遺跡からは弥生時代から古墳時代に属する遺物の出土は稀である。この地区での出土遺物の中心は古代から中世にかけての時期のものであり、時代の変遷に伴って明確に場所を変えて土地利用がなされていることが窺える。特筆すべき事項として畑間遺跡の東側おいて平成 20 年度の調査で確認した区画溝がある。周辺からは瓦や墨書土師皿埋納遺構などを確認しており、出土遺物から屋敷地とは考えにくい状況がある。周辺の調査例の増加を待つしかないが、小規模なお堂など、寺院に関係した遺構が存在する可能性が考えられよう。

第４図　調査区の位置（1/3,000）（数字は調査年度）

第３節　発掘調査の方法（第５・６図）

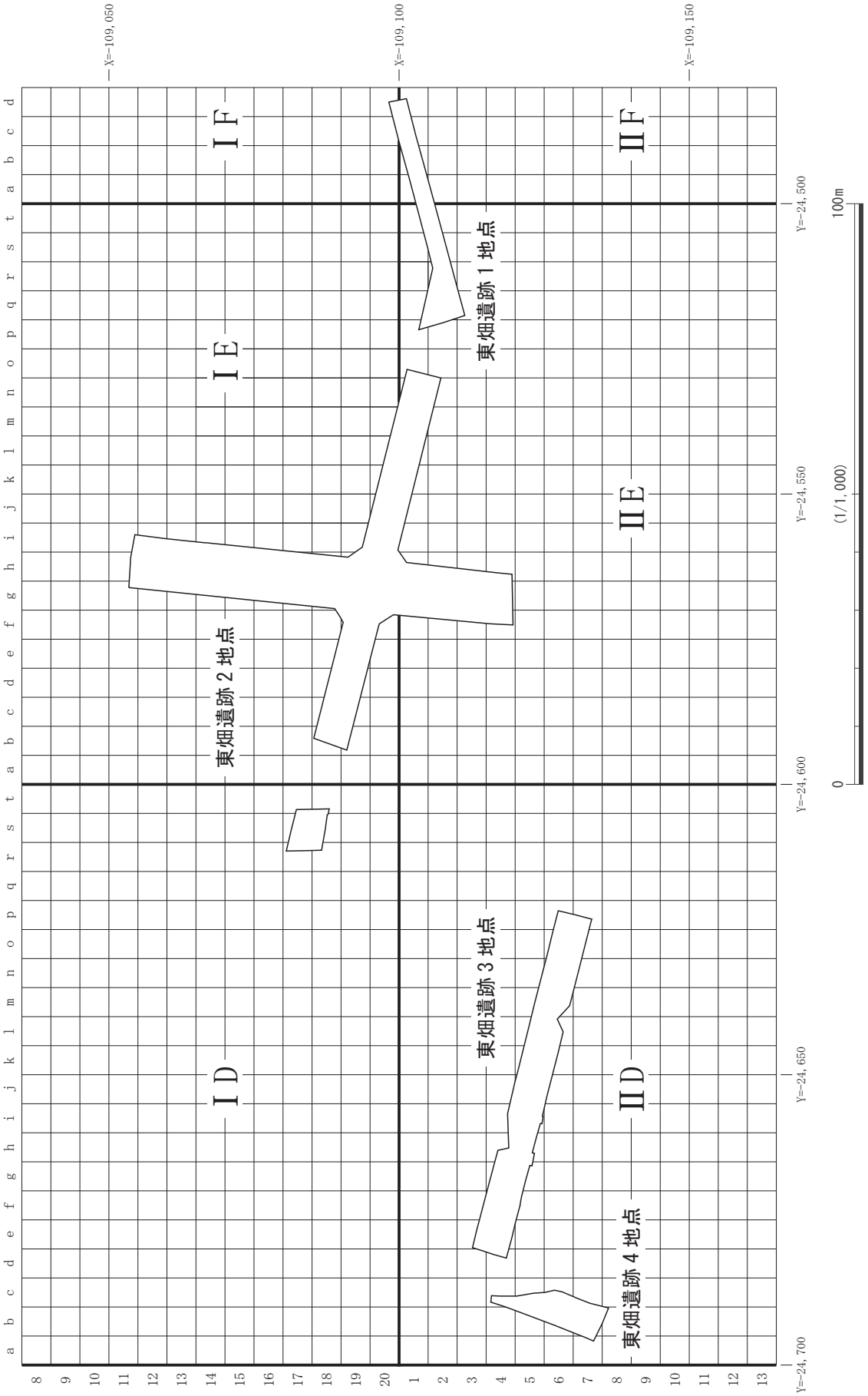
発掘調査に先立ち基準点測量を実施し、調査グリッドの設定を行った。『埋蔵文化財の調査・研究に関する基本マニュアル』（愛知県埋蔵文化財センター）に基づき、５ｍ×５ｍの小グリッドを最小単位とするグリッドを設定した（第5･6図）。すなわち世界測地系の平面直角座標系第Ⅶ系の座標に基づき、座標のＸ軸を座標系原点の子午線に一致する軸とし、Ｙ軸をＸ軸に直交する軸とし、座標系原点からＸ軸は真北､Ｙ軸は東へ向かう数値を正とする。これに基づき1km × 1kmの大グリッドを設定し、さらに100m × 100mの中グリッドを設定し、最小単位として5mグリッドを設定した。（第5･6図）

実際の発掘調査に際しては、重機を用いて上面の表土を掘削後、遺物包含層上面から人力による掘削を実施した。本遺跡は海浜部に立地するため、高潮、洪水等多くの地形改変を被ったとみられ、本来であれば複数の遺構面として把握できるものが、ほぼ一様の遺物包含層としてしか把握することができない状況である。このため、遺構の検出は地山層の上面でしか行えない場合がほとんどであった。検出遺構については、略号を用い、それぞれの略号の後ろに数字で連番を付している。今回の発掘調査で用いた遺構の種類を示す略号は以下のとおりである。

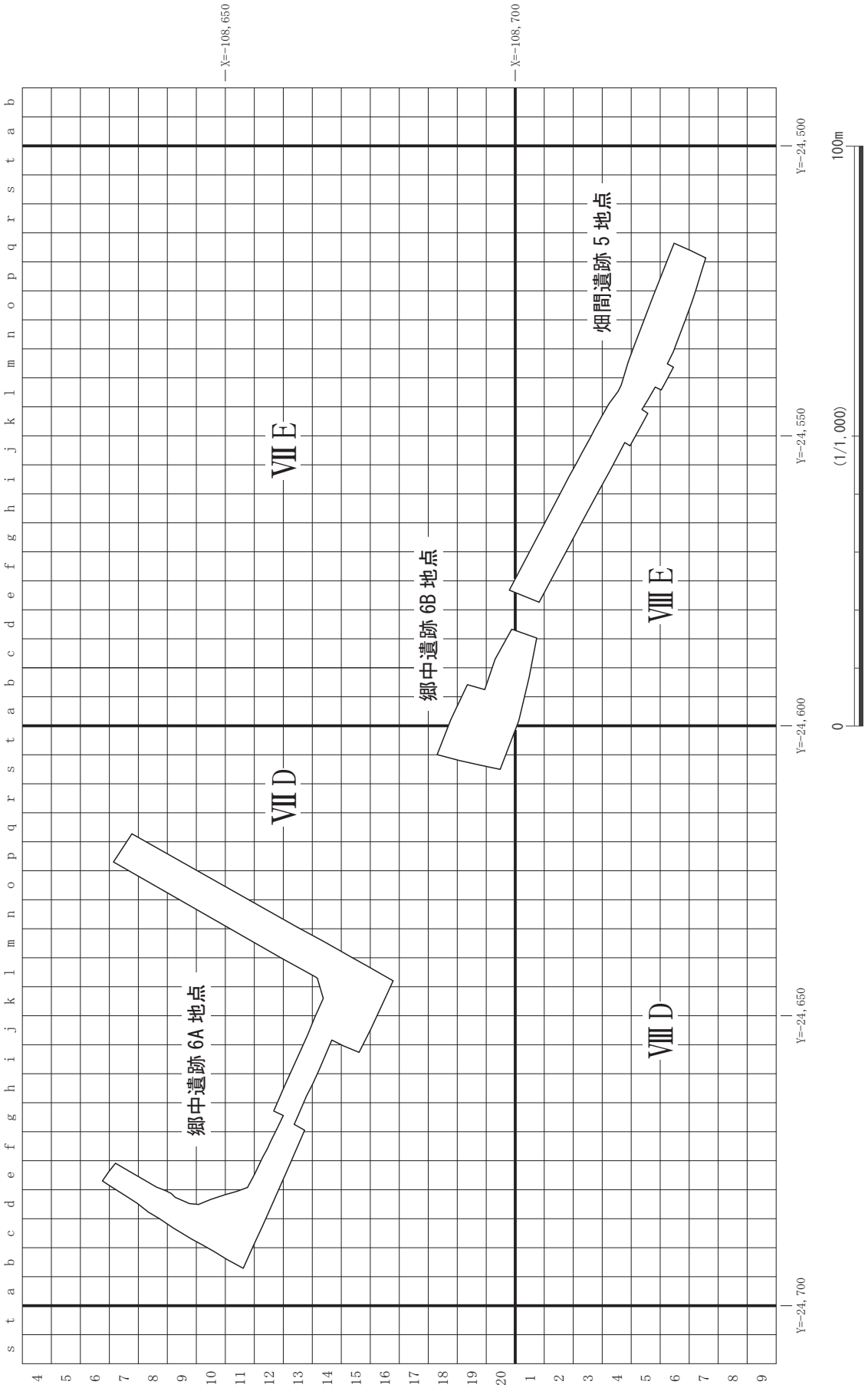
SA：柵　SB：建物　SD：溝　SE：井戸　SK：土坑　SL：炉・カマド
SN：水田・畑　SP：柱穴・ピット　ST：墓・埋葬施設　SX：不明遺構・その他
NR：自然流路

また、出土遺物の取上については、遺物包含層掘削中において、遺物が出土した場合には小グリッド単位で調査日ごとに順次取り上げし、１個体になる遺物などの重要遺物については、必要に応じて出土状況の図化・写真撮影を行い、出土地点について測量の上取り上げている。遺構内からの出土遺物については、遺構ごとに取り上げている。

掘削終了後、高所作業車を使用して完掘状況の高所撮影を実施し、測量及び調査区壁面のセクション図の作成等を行い、重機を用いて埋め戻し作業を行っている。出土遺物の洗浄・注記、遺構図の整理については現場事務所にて実施した。



第５図　東畑遺跡グリッド配置図（1/1,000）



第６図　畑間・郷中遺跡グリッド配置図（1/1,000）

第 4 節　発掘作業の経過（図版第 60）

現地調査については、業務委託契約締結後直ちに着手する予定であったが、発掘調査予定地点における既存建物及び土地の移転が完了しておらず、どの調査区も調査することができない状況であった。このため、移転交渉の進展を待って 9 月 14 日より現地調査を開始した。

現地調査は東畑遺跡の 3 地点から着手した。調査区の東側半分について重機を用いた表土掘削を 9 月 15 日まで行い、16 日からは作業員による調査区の壁面清掃を実施、その後遺物包含層の掘削を開始した。東側の遺物包含層掘削と並行して 18 日より西側半分の重機掘削を行い、25 日には完了した。3 地点は現況が畑地であり、耕作に伴う撹乱も僅かであったこともあり、遺物包含層の状況は良好であった。包含層掘削時点から、遺物を多く含んだ黒色土範囲を確認している。本遺跡の基本土質は砂層であり、海岸沿いの低地に位置することから、洪水や高潮、津波等によって自然堆積が撹乱を被ることが数多くあったとみられ、遺構面として把握することが非常に困難である。このため、上層では竪穴建物の可能性があると把握していても、実際に遺構として検出可能な面は地山面直上であった。28 日には中世とみられる土坑墓を確認している。10 月 8 日夜半には台風 18 号が知多半島に上陸し、激しい風雨にさらされたため、調査区内も水没し、一部遺構の崩壊や調査区壁面の一部が崩落するなどの被害を受けた。その後 23 日に全景写真の撮影を行い、27 日からは井戸枠の取上げを行い、30 日から 11 月 4 日まで重機を用いて埋め戻しを行った。

次に着手した 4 地点は 11 月 9 日より重機による表土掘削を開始した。本調査区の南側半分については地形が落ち込んでおり、遺物包含層及び遺構は確認されなかった。また遺物、遺構についても希薄であり、11 月 13 日には重機による埋め戻しを行って調査を終了した。

6 地点はフェンスの設置後、11 月 20 日より重機による表土掘削を開始した。本地点は地下水位が高く、湧水により調査は難渋した。また、南側半分は現代建物による撹乱を被っていた。確認した遺構・遺物は古代から中世末までの時期に収斂する。また、近世の遺物も出土している。掘削土置場の確保のため、2 回に分けて調査を実施し、翌年 1 月 26 日に埋め戻しを完了した。

6 地点に引き続き、1 月 27 日から 5 地点の重機による表土掘削を開始した。本地点は東西方向に長く、掘削土置場を確保するために半分に分けて調査を行った。主として古代から中世の遺構を確認した。2 月 18 日には西半分の完掘状況撮影を行い、23 日からは東半分の重機による表土掘削を開始した。撹乱が多かったが、遺構面が残存した部分からは西半分同様に古代から中世の遺構を確認した。3 月 16 日には全景撮影を行い、3 月 23 日には重機による埋め戻しを完了した。

2 地点及び 1 地点については当初、3 地点の調査終了後着手する予定であったが、土地移転交渉の遅れから 5･6 地点の調査後調査に着手した。2 地点は北側と南側 2 回に分けて表土掘削を実施した。道路の交差点にあたる調査区中央を中心として複数の竪穴建物を確認した。また、調査区北側からは常滑産の甕を利用した井戸を確認した。遺構数が多かったことからやや日数を要したものの、その後 1 地点の調査に移った。1 地点は既存の建物に起因する現代の撹乱が著しく、遺構の確認が困難な状況であったものの、竪穴建物を含め、2 地点同様に遺構が密に検出された。

その後 6 地点北側について、家屋移転が完了したことから調査に着手し、重機による表土掘削後､6 月 24 日より人力による包含層掘削を開始した。6 地点南側同様古代から中世にかけての遺構･

遺物が中心であった。終了後重機による埋め戻しを行った。

現地調査と並行して出土遺物の洗浄を実施していたが、現地調査終了後から遺物の注記作業を開始し、7 月末に現地事務所を撤収し、現地での作業を終了した。

発掘調査の体制は以下のとおりである。

調査監督員　宮澤浩司（東海市教育委員会社会教育課）
調　査　員　水野聡哉（朝日航洋株式会社中部空情支社）
調査補助員　楠部博世（朝日航洋株式会社中部空情支社）
計　測　員　堀場集理（朝日航洋株式会社中部空情支社）
発掘作業員　藤井恭彦、児玉五市、安原一也、牟田神東勝雄、平野光男、平野武光、
　　斉藤勝亮、生駒信子、江口智恵子、中野まち子、飯田サシ子

第 5 節　整理作業の経過（図版第 60）

平成 23 年 7 月 19 日に東海市役所郷土資料館収蔵庫にある遺物を名古屋市熱田区の遺物整理事務所に持ち帰った。また、朝日航洋株式会社から台帳や遺構図面、デジタル写真データ等の記録類を引き継ぎ、遺物の 2 次整理並びに報告書作成作業を進めた。まず、コンテナケースにして約 140 箱になる遺物の確認を行った。その中から、報告書に掲載する遺物や接合・復元が必要な遺物の抽出を行った。同時に遺構ごとの遺物の出土状況を把握し、遺構の性格や時期の特定を行った。遺物の抽出が終わったものから逐次、接合・復元を行った。その後、報告書掲載遺物の実測と写真撮影を行った。遺物実測では正射投影（オルソ）画像も併用し、正確で細かい情報の取得に努めた。手描き実測図面はスキャナでコンピュータに取り込み、デジタルでの図化を行った。

10 月からは図版作成を開始した。調査日誌や現場での記録写真・台帳等を分析し、遺構図面編集を行った。各地点におけるそれぞれの遺構の位置付けを行いながら、報告書掲載遺構の抽出を行った。また、遺物のデジタルトレース終了後に遺物実測図版の作成を行った。写真図版作成に当たっては、文章や実測図からだけでは理解が難しい遺構や遺物の特性、調査の経過を表現することに傾注した。

翌年、平成 24 年 3 月上旬にすべての報告文の執筆が終了した。その後、印刷所に入稿し、印刷・製本を終え、3 月 31 日に本書を刊行することとなった。

報告書作成の体制は以下のとおりである。

調査監督員　宮澤浩司（東海市教育委員会社会教育課）
調　査　員　有馬啓介（安西工業株式会社名古屋支店）
整理作業
抽出・コンテナ整理：淺井たつ江、河村圭子、金野正道、櫻井裕子、田村隆好、渋谷巧
接合・復元：岩月真由子、東條和栄、六十苅緑

遺物実測・トレース：安藤志保、入谷敦子、岩崎綾、岩間涼子、黒田祐規子、齋藤麻子、杉浦想斤、鈴木寛子、田口智子、田中直子、鳥居恵美子、野呂和子、馬場洋徳、樋上佐知子、水野多栄、森優子

遺構図編集：後藤淑恵、平野昌子、町野辰郎

遺物写真撮影：奥村要二、吉田秀雄

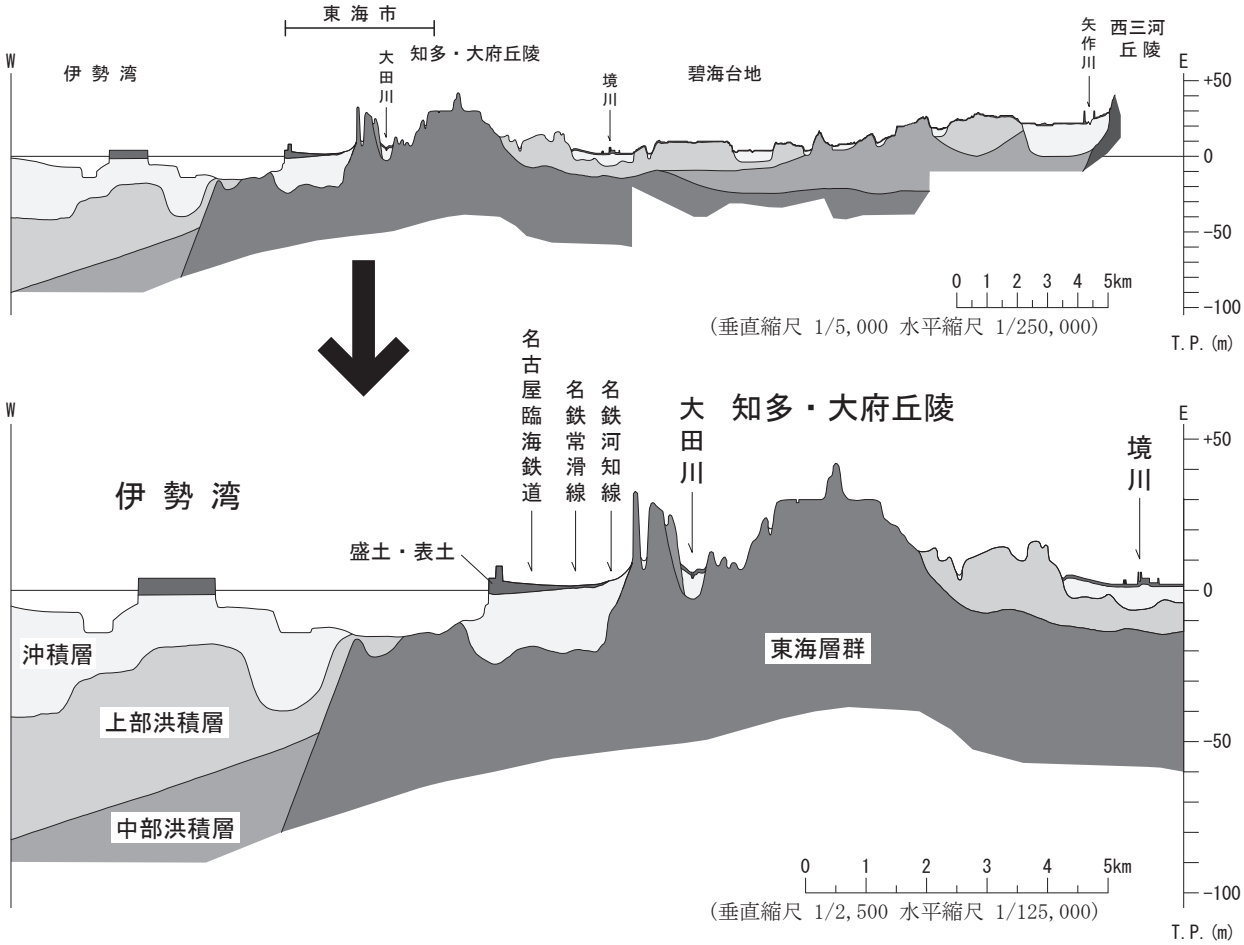
報告書編集：青木瑞葉、寺田満美、山尾玲子、山本彩乃

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境（巻頭図版第４，第７図）

畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡は、愛知県東海市大田町に位置する。

愛知県は、日本列島のほぼ中央部に位置し、南は太平洋に面している。古来の尾張と三河を合わせた地域である。地勢は、東から三河山地、尾張丘陵、濃尾平野と続き、概して東高西低である。その間を豊川・矢作川・庄内川・木曽川といった大きな河川が流れる。それらの河川は、流域に河岸段丘や沖積平野を形成し、人々の主要な生活の舞台を提供してきた。愛知県にはふたつの大きな半島がある。愛知県南部に位置し太平洋に沿って西方向にのびる渥美半島と濃尾平野の南に位置する知多半島である。尾張丘陵のうち瀬戸市南東にある猿投山の西麓から南西に続く丘陵は、やがて南方向に向きを変え、知多半島となる。この丘陵地帯は、猿投 - 知多上昇帯と呼ばれる隆起帯である。知多半島は、南北 44 km、東西最大幅 14 km、最小幅 6 km ほどの南北に細長い半島である。半島中央部には、尾張丘陵から続く標高 40 ～ 80m 程度の緩やかな大府丘陵や知多丘陵が連なり、平地は狭い。半島の南端はやや険しい地形をもつ山地となる。丘陵地帯を形成しているのがいわゆる東海層群で山地帯を形成しているのが師崎層群である。知多半島に分布する東海層



第７図　知多半島北緯 35 度付近 地質断面図

群は常滑層群ともいわれ、650 万年前の第 3 紀中新世末期から 220 万年前の第 3 紀鮮新世末期にかけて東海湖とよばれる湖に堆積した地層である（第７図）（牧野内・中山 1990）。この地層に見られる粘土が常滑焼の原料となっている。知多半島の西には伊勢湾、東には知多湾や三河湾が広がる。

東海市は、北緯 35 度 01 分 23 秒、東経 136 度 54 分 09 秒（東海市役所）にあり、知多半島の西北端に位置する。西は伊勢湾に面し、北は天白川を挟んで名古屋市、東は大府市と知多郡東浦町、南は知多市に接している。名古屋市の中心部まで約 15km の距離にある。東西 8.06km、南北 10.97km、面積 43.36k㎡である。1969 年（昭和 44 年）4 月に知多郡上野町と横須賀町が合併して市制を施行し、現在の東海市となった。

近年、東海市は、鉄と洋ランの街として知られている。伊勢湾に面した東海市西部は、中部圏最大の鉄鋼基地を擁し、名古屋南部臨海工業地帯の一部を形成している。その一方、自然に恵まれた東部の丘陵地や中央の平坦地には、農地及び市街地が広がる。洋ランは、県内でも有数な生産量を誇り、その他の作物ではフキの生産量が、全国第 1 位である。都市近郊農業地帯という側面を持つ。また、伊勢湾岸自動車道が市内を通り、国際貿易港である名古屋港を擁し、近隣に中部国際空港が開港したことから交通の要衝としても発展している。

畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡は、知多半島の伊勢湾岸で最も広い海岸平野にある。これを以前にまとめられた報告書と同様に大田の谷と呼ぶことにする（宮澤・桐山・坂野ほか 2009）。この海岸平野には、旧海岸線に並行して数条の砂堆と呼ばれる微高地の連なりを確認することができる。砂堆は、縄文時代中期以降の海進と海退が繰り返されるなかで形成されたものである。この知多市八幡から東海市大田町に続く砂堆列は、位置関係から 3 つに区分され、内陸の丘陵地側から第 1 砂堆、第 2 砂堆、第 3 砂堆と呼ばれている（杉崎 1969・杉崎編 1979）。畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡は、これらの中で最も内陸寄りにある第 1 砂堆上に立地している。最も海岸寄りにある第 3 砂堆の西側は、旧海岸線を形成していたが、近世以降の新田開発に伴う干拓や埋め立て、名古屋南部臨海工業地帯の形成により現在の海岸線は、西の沖合へ移動した。東海市高横須賀町の諏訪神社境内には、「愛知県」の語源である「あゆち潟」を詠んだ万葉歌碑があり、当時の風景を偲ぶことができる。畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡のある現在の名鉄太田川駅周辺の市街地は、こうした砂堆列からなる平野の上に形成されたものである。

第２節　歴史的環境（第８図）

今からおよそ 1 万年前、氷河期最後のウルム氷期が終わり、徐々に温暖な気候となり始めた。地質時代区分では最も新しい、現在に続く完新世と呼ばれる時代となった。地球規模の温暖化により自然環境は一変し、人類は全地球的に居住地を拡大させていったのである。知多半島では、旧石器時代のものと思われる石器の報告はあるが、確実な人類の営みの痕跡は、温暖化が始まる更新世末期から完新世にかけての縄文時代を待たなくてはならない。

東海市大田町の丘陵端、標高 10 ～ 22m に位置する高ノ御前遺跡では、縄文時代前期前葉から晩期にかけての土器が出土し、ハイガイを主体とした小規模な貝塚が確認されている。爪形文や羽状縄文を施した土器が、東海市における最も古い考古資料である。この他に縄文時代の遺跡とし

1	畑間遺跡	2	東畑遺跡	3	郷中遺跡	4	龍雲院遺跡	5	神宮前遺跡
6	王塚古墳	7	弥勒寺遺跡	8	後田遺跡	9	下浜田遺跡	10	上浜田遺跡
11	松崎遺跡	12	高ノ御前遺跡	13	丸根古墳	14	烏帽子遺跡	15	横須賀御殿跡・横須賀代官所
16	岩屋口古墳	17	柳ヶ坪遺跡	18	大木之本遺跡				

第 8 図　周辺の遺跡 (1/15,000)

て東海市名和町の菩薩遺跡や塚森遺跡、トドメキ遺跡がある。トドメキ遺跡からは、縄文時代晩期中葉にあたるドングリ類の貯蔵穴が検出されている。

海水面の上昇は、ウルム氷期最盛期の約 18000 年前から始まり、縄文時代前期にあたる約 6300 年前にピークを迎えた。縄文海進と呼ばれるもので、知多半島南部ではその時期に海面が現在の高さよりも 4 ～ 5m 上昇したという報告がある（松島 1983）。その結果、現在の海岸平野である多くの地点には海水が入り込み、人々の生活の舞台は丘陵へ移ったと考えられる。その後、知多半島の各地で、縄文時代中期以降の海進と海退が繰り返されるなかで砂堆が形成され、現在の海岸平野が形成された。知多半島においては最も海岸寄りの砂堆の主要部分は、縄文時代晩期（もしくは後期）に形成された可能性が高い一方、伊勢湾西岸域では最も内陸寄りの砂堆の形成時期が縄文時代晩期（もしくは後期）に形成時期が遡る可能性が高いという。伊勢湾を挟んだ両臨海部の砂堆列における活動可能な地表面の形成時期の相違が指摘されている（石黒 2006）。今回報告する畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡も縄文海進期以降に形成された大田の谷の砂堆の中で最も早く離水し、人々の活動可能な地表面が形成された可能性が高い第 1 砂堆上に位置している。早い段階で砂堆上での生活が営まれた遺跡として知多市の西屋敷貝塚が挙げられる。旧海岸線まで 200m の砂堆の内側斜面に立地し、縄文時代晩期前葉の雷式から後葉の条痕文土器にかけての遺物が出土している。

やがて、日本列島の西から稲作農耕の技術が伝播し、弥生時代が始まった。大田の谷では、縄文海進期におぼれ谷であった場所が砂堆形成後に後背湿地となり、主要な稲作農耕の場となった。立松彰は、東海市大田川から知多市八幡、朝倉にまでつづく海岸線を谷口とした大田の谷、養父の谷、八幡の谷が弥生時代前期の遺跡形成に適した地域であったと指摘している。知多半島でも弥生時代前期の北部九州の影響を受けた遠賀川式土器が出土した遺跡がいくつか知られている。一方、樫王式や水神平式といった縄文時代晩期からの突帯文土器の流れを引く条痕文土器も各地で見られる。畑間遺跡からも以前の調査で遠賀川式土器の壺が出土している（宮澤・桐山・坂野ほか 2009）。近隣では、知多市荒古遺跡、細見遺跡、下内橋遺跡で遠賀川式土器の出土が見られる。いずれも大田の谷から続く砂堆上に立地している。しかしながら、出土遺物から判断すれば、弥生時代前期の知多半島の人々は、三河地方と同様には縄文時代の生活様式を色濃く残していたと思われる。東海市で砂堆上に営まれた弥生時代の遺跡として高横須賀町の烏帽子遺跡や柳ヶ坪遺跡がある。弥生時代中期以降、砂堆上では遺跡の増加が見られる。知多市の獅子懸遺跡、野崎遺跡、法海寺遺跡が挙げられる。この頃、後背湿地では水田が切り開かれ、稲作農耕が定着し、砂堆上では安定的な居住環境を確保できたものと推察される。弥生時代後期になると、平野に近い丘陵上に進出する集落が現れ始める。東海市名和町のカブト山遺跡や同中ノ池の中ノ池遺跡、知多市の大廻間遺跡である。特に大廻間遺跡からは、V 字形に掘られた幅約 3m、深さ約 2.7m の区画溝が検出されており、高地性集落的な要素を持つ。

3 世紀後半、近畿地方を中心に大規模な墳丘をもつ前方後円墳が築造され、その後各地に広まった。古墳時代の到来である。東海市北部の名和町にある兜山古墳は 4 世紀後半に築造された知多半島で最も古い古墳である。また、三角縁獣文帯三神三獣鏡をはじめとした多彩な副葬品からも尾張南部で最も早く畿内の古墳文化を受け入れた古墳であることがいえる。この古墳は、あゆち

潟周辺の海上交通の要地を抑えた有力な首長の墳墓と考えられている。6 世紀になると、東海市域では名和町の三ツ屋第 1 号墳、荒尾町の丸根古墳、大田町の大塚古墳、高横須賀町の岩屋口古墳といった古墳が築造された。大塚古墳は、大田の谷の北側裾に位置する横穴式石室を持つ円墳と伝えられているが、現存していない。岩屋口古墳は、知多半島で最大規模の横穴式石室を有する。これらの後期古墳は、南知多町、とりわけ日間賀島にまとまった分布が見られるが、他の尾張地方や三河地方、渥美半島と比べると知多半島の古墳数は少ない。

7 世紀の後半になると、畿内以外の地域でも寺院の築造が見られるようになった。このことは 6 世紀中頃に日本に伝来した仏教文化が地方にも伝えられたことを示すものである。八幡の谷の旧海岸近い知多市八幡平井にある法海寺遺跡は知多半島では数少ない古代寺院跡である。古代の瓦溜りが検出され、白鳳期の特徴をもつ軒瓦が確認されている。直接古代寺院に関連する遺構は未発見で、伽藍配置は不明である。知多半島の南に位置する知多郡美浜町の海道田遺跡でも古代瓦が確認されており、古代寺院（奥田廃寺）の可能性が指摘されている。東海市域では、先に述べたトドメキ遺跡で白鳳期の軒瓦や鴟尾の破片を含む瓦溜りが検出されている。また、隣接する岡前川遺跡からは尾張国分寺跡出土のものと同范の軒平瓦が採集されており、名和廃寺とも呼ばれている。これらは採集資料であり、寺院跡に関連する遺構は確認されていない。

701 年（大宝元年）に制定された大宝律令によって日本国内は国・郡・里（後の郷）の行政区画に編成された。今日の知多半島地域は都から出土する木簡により大半が尾張国知多郡となったことが分かっている。10 世紀の前半に編纂された「和名類聚抄」によると知多郡には「番賀・贄代・富具・但馬・英比」の 5 郷があったとされる。知多半島の沿岸地域には古代の土器製塩遺跡が数多く分布する。このことは、この地域の人々が、律令下での租税のひとつである調を特産物である塩で貢納していたことを示す。平城京跡出土の木簡からも追認できる。知多半島沿岸一帯で行われた土器製塩は大田の谷の砂堆上に立地する遺跡でも盛んに行われた。最も海岸よりに位置する第 3 砂堆上には、松崎遺跡や上浜田遺跡といった土器製塩遺跡が所在する。松崎遺跡は、製塩土器堆積層や製塩作業に伴うたたき面・鹹水溜状遺構が確認されている全国的に著名な遺跡である。松崎遺跡では、古墳時代から平安時代にかけての 500 年以上もの間にわたる形状の製塩土器が出土している。この頃の大田の谷沿岸部の砂堆上では、塩作りが行われ、主要な生活の場となり、また後背湿地では、条里制で区画された水田で米作りが行われていた。東海市養父町から高横須賀町にかけては、古代の条里制による方形に区画された地割があったことが指摘されている（福岡ほか 1981）。

10 世紀になると、知多半島では土器製塩は衰退し、徐々に遺跡からの製塩土器の出土も無くなる。一方、平安時代末に谷奥の丘陵地では大規模な窯業が発達した。大田の谷の砂堆上の遺跡でもこれらの供給を受けた山茶碗や山皿、甕、壺等の日常雑器や瓦が出土している。代表的なものとして東海市加木屋町の加木屋古窯、社山古窯、権現山古窯、大府市の吉田古窯が挙げられる。以前の畑間遺跡の調査では杏葉唐草文を配する 12 世紀後半の知多窯産軒平瓦が確認されている（宮澤・桐山・坂野ほか 2009）。古代から中世に歴史が転換する 12 世紀から 14 世紀半ば頃まで知多半島全域で窖窯による陶器生産が行われ、知多半島古窯跡群と呼ばれている。ここで生産された中世陶器は、海運を利用して本州だけでなく四国や九州といった遠隔地にも供給されている。この頃、8 世

紀から 9 世紀にかけて成立した初期荘園に代わり、地方豪族や有力農民といった開発領主が、摂関家や院、大寺社といった中央の有力者へ私領を寄進するという形で拡大した寄進地系荘園が各地で成立した。知多半島内でも、摂関政治全盛の 11 世紀初めに寄進地系荘園が成立したと思われる。また、国衙領も荘園制の進展とともに国司の私領のような性格を濃くしていった。畑間遺跡、東畑遺跡、郷中遺跡周辺で比定がある程度可能な国衙領や熱田社領には、荒尾郷や大郷郷、木田郷、藪郷が挙げられる。なかでも大郷郷は、現在の東海市大田町、旧大里村にあたる。

戦国時代になると、大田の谷周辺の地域もその時代の潮流に組み込まれることになる。第 1 砂堆の北の丘陵上に位置する弥勒寺遺跡では、16 世紀前半の陶磁器類が確認され、その後の火災により寺院が廃絶した可能性が指摘されている（立松ほか 1998）。弥勒寺の近隣の観福寺や龍雲院、安楽寺、玉泉院、妙乗院といった当時の多くの寺院が、戦火や火災に見舞われている。

江戸時代に入り、1666 年（寛文 6 年）に尾張藩第 2 代藩主徳川光友がその別邸として現在の東海市高横須賀町に横須賀御殿を築いた。これに伴い周辺の整備が行われ、小規模ながら碁盤割の街並みが形成された。光友の没後に御殿は取り壊されたが、1783 年（天明 3 年）に御殿跡地に横須賀代官所が置かれ、知多半島西岸の行政拠点として機能した。なお、現在の大田の谷の砂堆列を横断して伊勢湾に注いでいる大田川は、光友が御殿造営の為に改修工事を行った際、流路を変更したものといわれている。

以上、大田の谷を中心とした地理的・歴史的環境を概観した。これまで東海太田川駅周辺土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査として、平成 11 年度から大田の谷の砂堆上に立地する遺跡の調査が進められ、10 年以上の資料の蓄積が行われた。その結果、砂堆が縄文時代から現代に至るまで人々の生活や生産・消費の空間として形を変えながら利用されてきたことが分かってきた。

第 3 章　東畑遺跡 1 地点の調査

第 1 節　概要と基本層序（第 9 ～ 16 図，図版第 27）

東畑遺跡 1 地点は、海岸から内陸に向かって数えて最も東側の第 1 砂堆上に位置する。また、第 1 砂堆南方の南縁にあたる。この辺りを境に南側が一段低くなる。東側には平成 18 年度の調査地点、西側には今回報告する東畑遺跡 2 地点が隣接する。基本層序は以下のとおりである（第 12 ～ 16 図）。

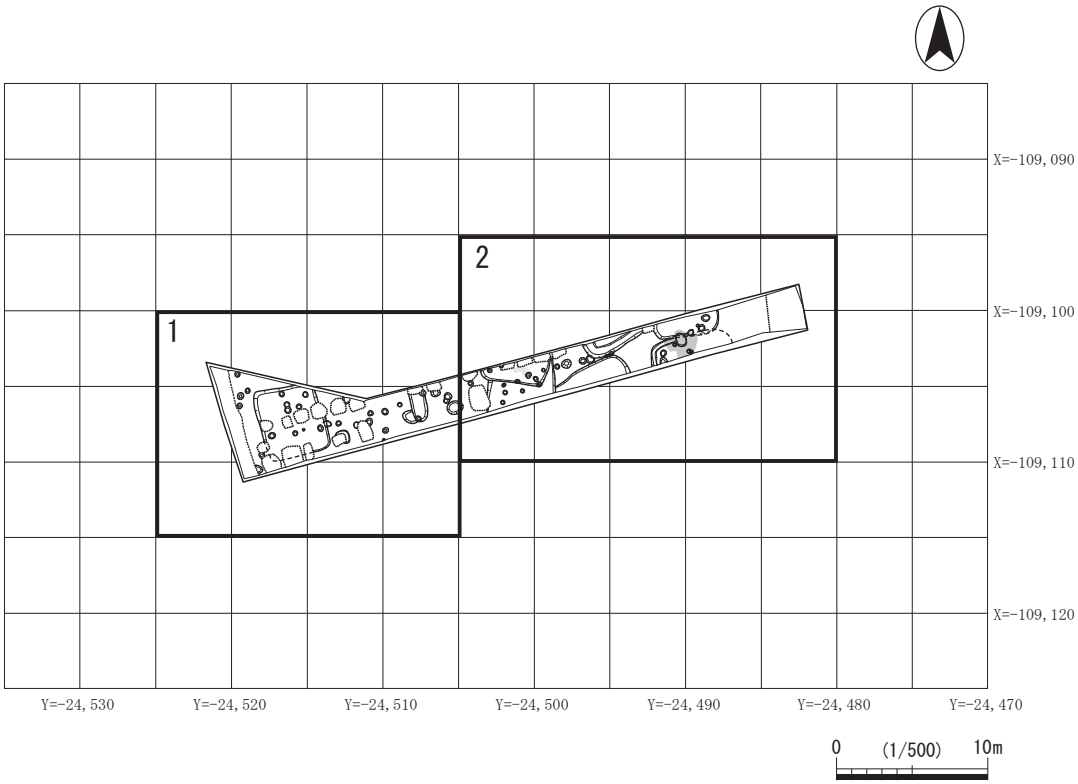
Ⅰ層：表土層。近現代の盛土または作土・床土である。

Ⅱ層：遺物包含層。10YR4/4 褐色中粒砂層以下の砂層がこれにあたる。主として弥生時代から中世の遺物の出土がみられる。弥生時代中期末にあたる高蔵式期の竪穴建物に切られる 10YR3/2 黒褐色中粒砂層は主として弥生時代中期以前の条痕文土器を含む層である。

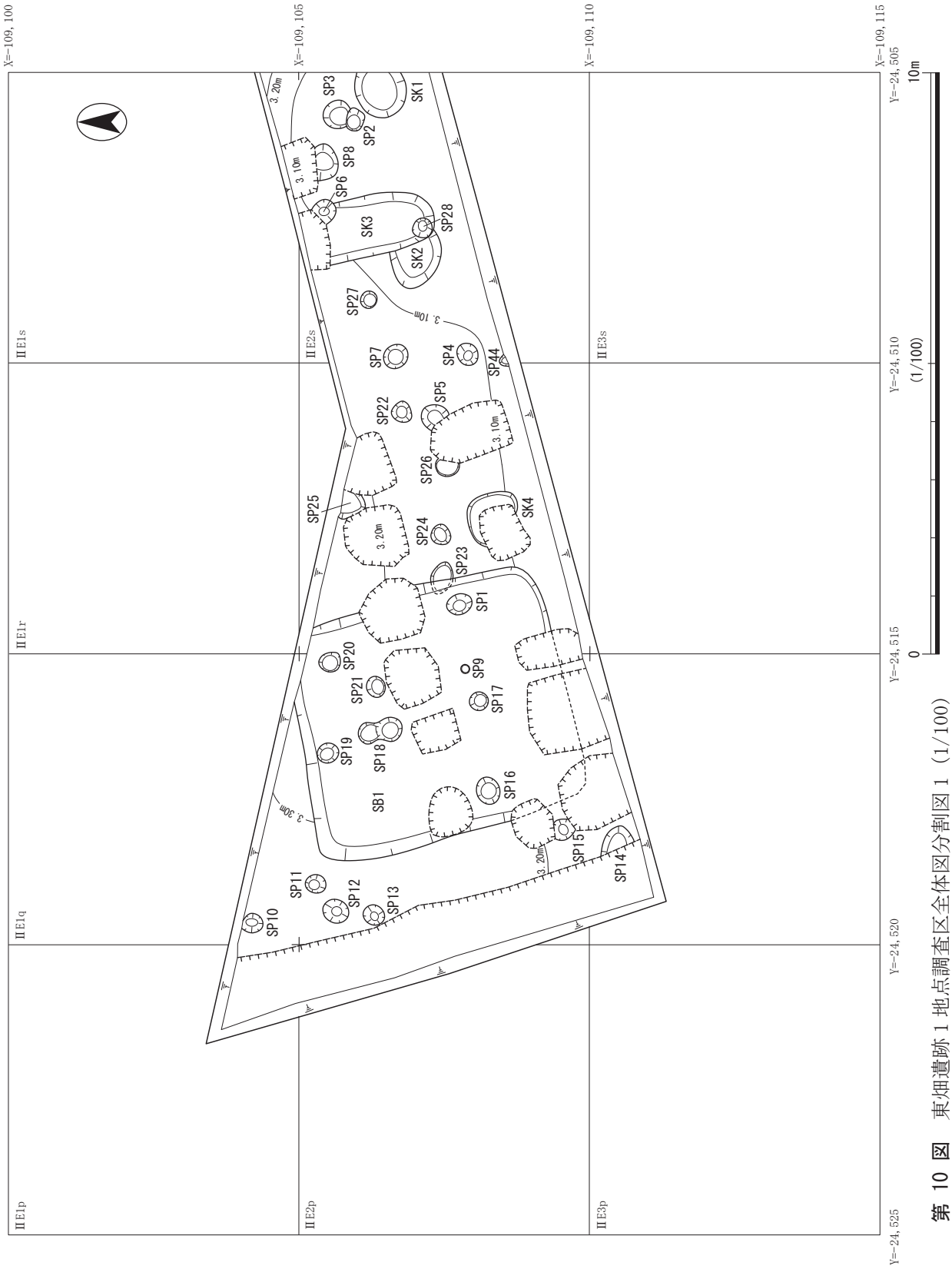
Ⅲ層：基盤層。10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂層がこれにあたる。地山層である。

東畑遺跡は第 1 砂堆の南側に位置し、その中でも東畑遺跡 1 地点は、弥生時代から古墳時代にかけての居住域と考えられている。東側に隣接する平成 18 年度の調査区では竪穴建物などの直接居住域に結びつく遺構は確認されていないが、弥生時代中期末の高蔵式期の遺物が多く出土している（宮澤 2009）。

調査区の幅は西側の一部で広いが、概ね 3m 程である。計 7 棟の竪穴建物が確認されているが、東西に細長い調査区のため、その全容を把握することは難しい。西側は既存の建物に起因する現代



第 9 図　東畑遺跡 1 地点調査区全体図（1/500）



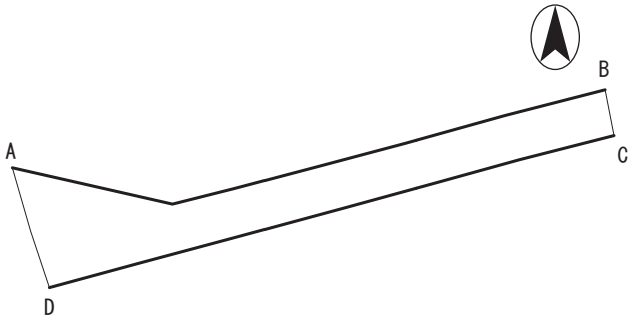
第 10 図　東畑遺跡１地点調査区全体図分割図１（1/100）

第 11 図　東畑遺跡１地点調査区全体図分割図２（1/100）

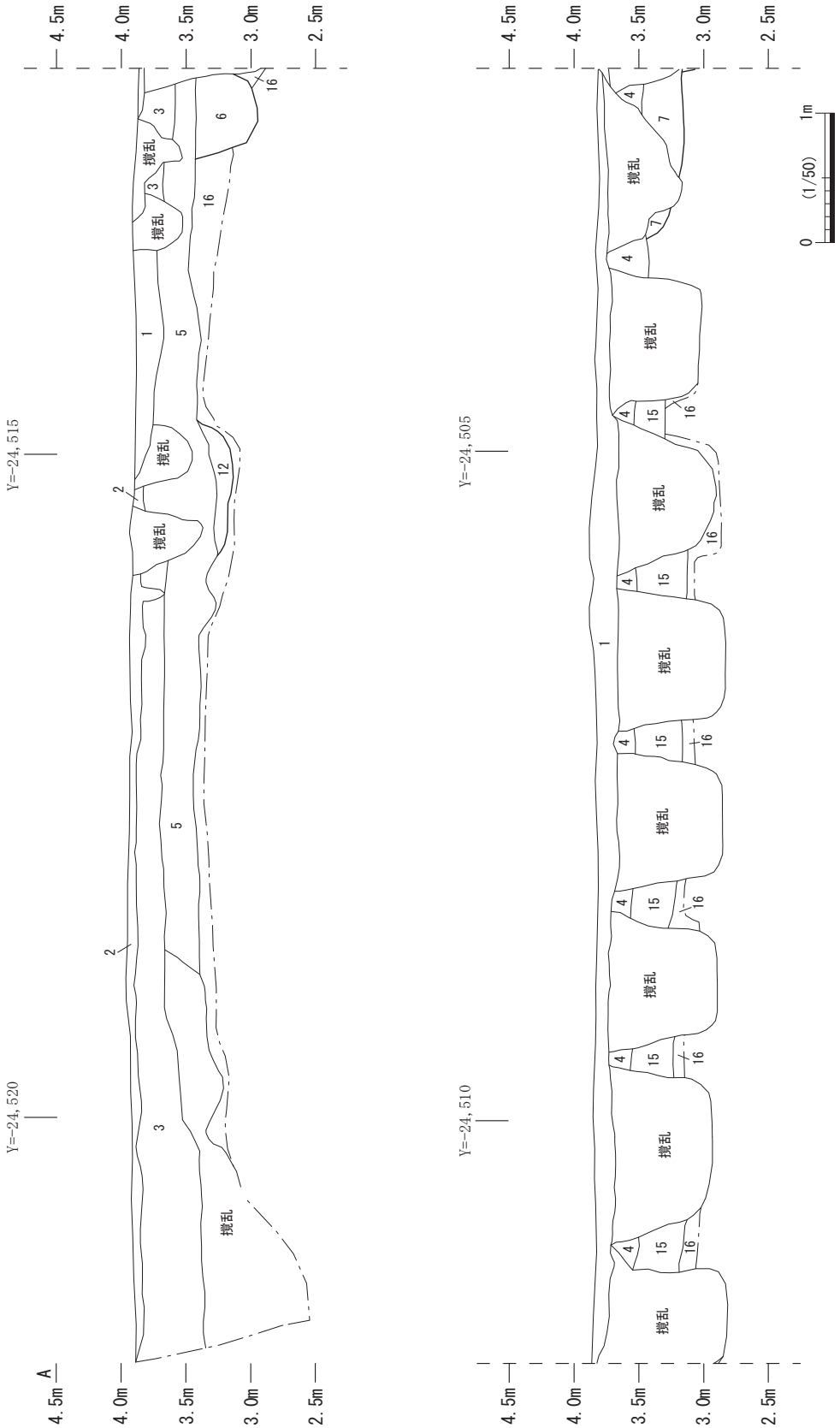
の撹乱が著しかった。また、砂堆に立地するため、高潮・洪水等多くの地形改変を被ったとみられる。遺構の残存状態はよくない。竪穴建物の時期は、弥生時代終末期にあたる廻間Ⅰ式期が中心である。また、弥生時代中期末の高蔵式期や古代にあたる 8 世紀前半のカマドを伴う竪穴建物も確認されている。

竪穴建物からは弥生土器、土師器、敲石等が出土している。また、調査区西側にある SP24 からは土師器の甑、SP44 からは銅鏃が出土している。一方、遺物包含層を中心に須恵器や山茶碗、知多式製塩土器、縄文土器や条痕文土器もみられる。

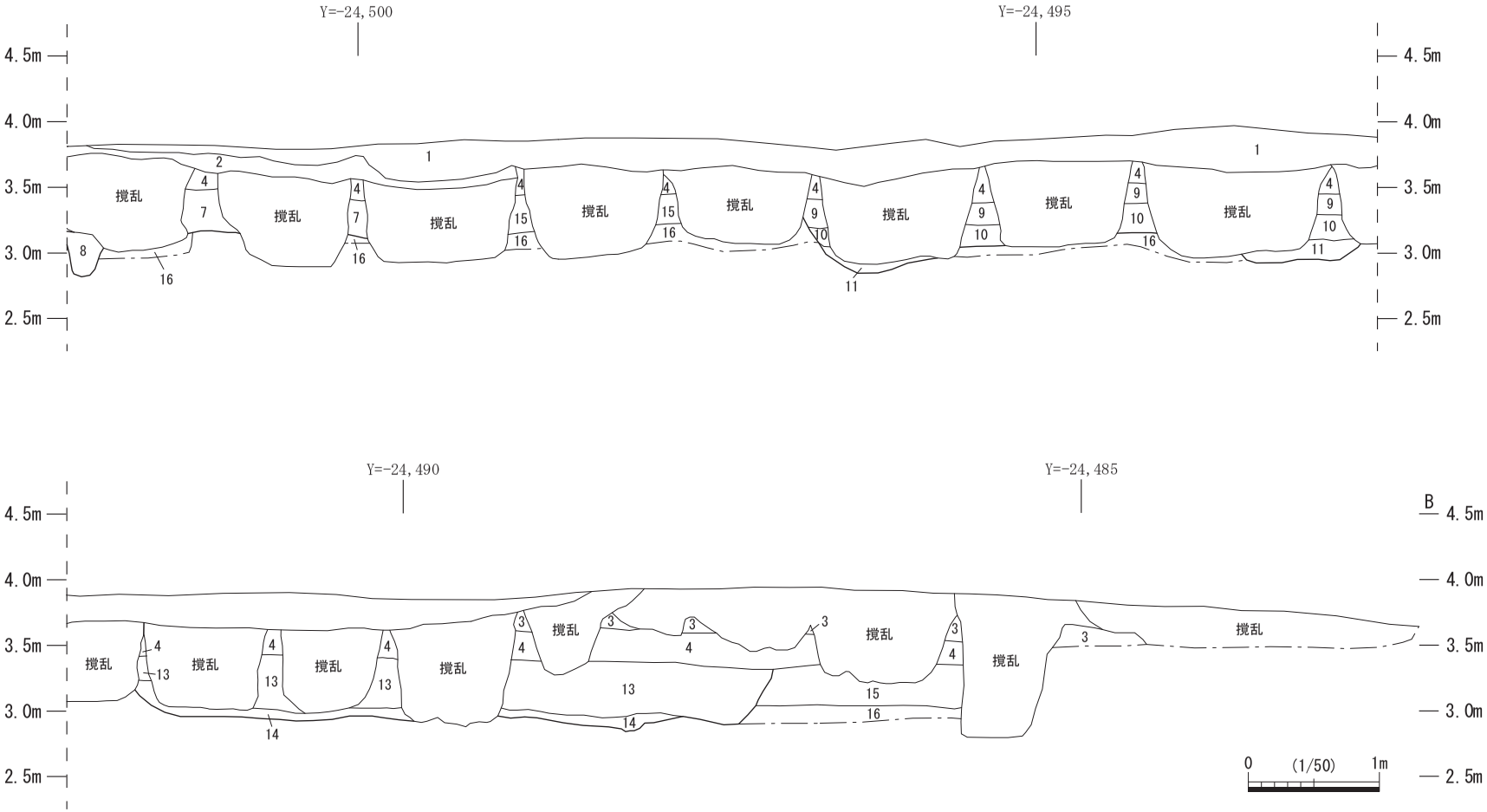
第 3 章では、竪穴建物とそれに伴う遺物を中心に報告を行う。製塩土器については、第 9 章で扱う。縄文土器、条痕文土器については、機会を改めて報告する。



第 12 図　東畑遺跡 1 地点土層断面図の位置（1/500）
（A ～ D は第 13 ～第 16 図の土層断面図と対応する）

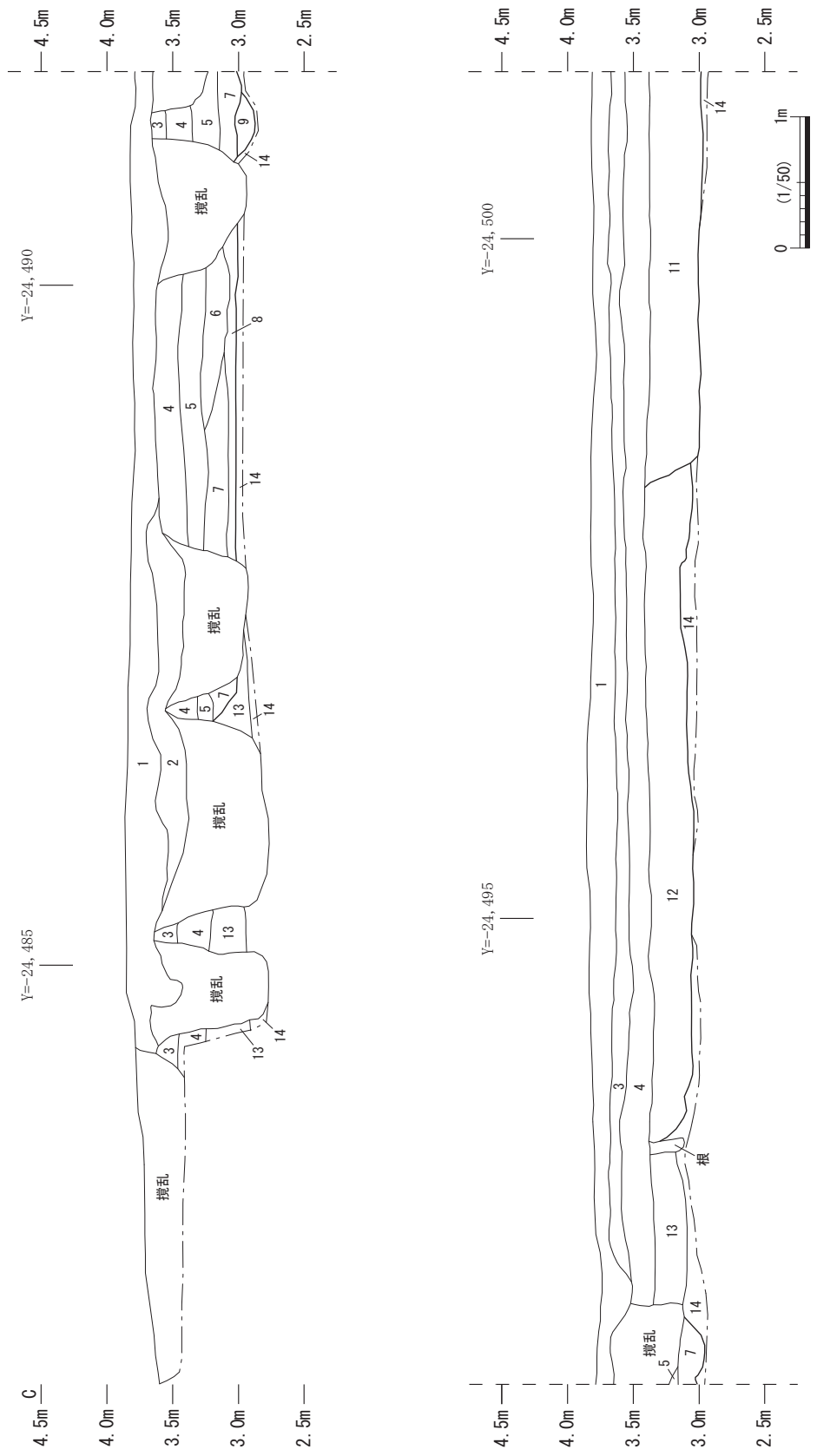


第 13 図　東畑遺跡１地点北壁（A-B）土層断面図１（1/50）

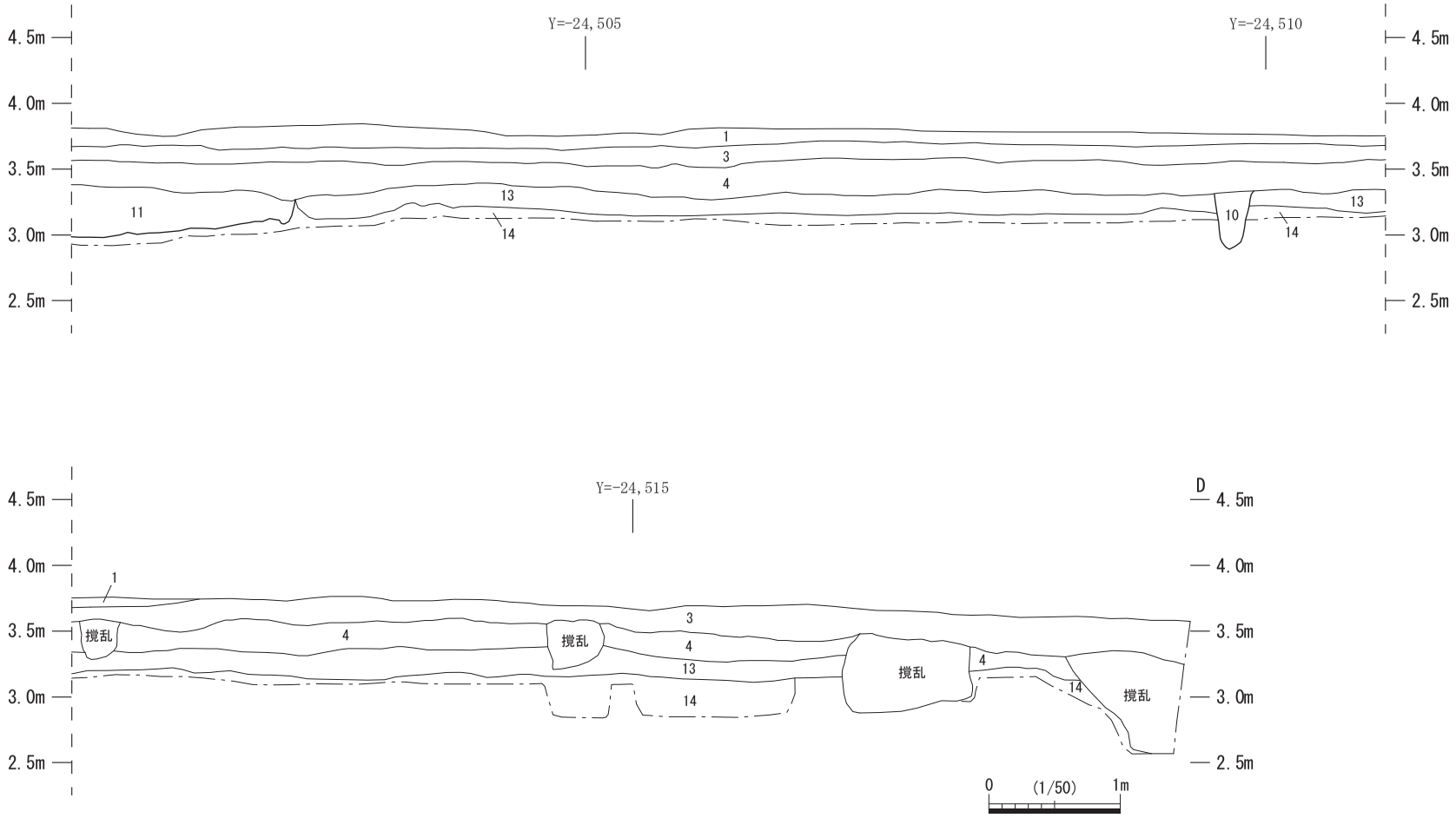


1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR4/4褐色中粒砂［主として古代から中世の遺物を含む］
5 10YR3/2黒褐色中粒砂［主として古墳時代から古代の遺物を含む］
6 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SP25埋土］
7 10YR2/2黒褐色中粒砂［SB2］
8 10YR3/1黒褐色中粒砂［SP56埋土］
9 10YR3/3暗褐色中粒砂［SB4埋土］
10 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB4埋土］
11 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB4掘方］
12 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SB1］
13 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB6］
14 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB6］
15 10YR3/2黒褐色中粒砂［主として弥生時代または古墳時代以前の遺物を含む］
16 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［基盤層］

第 14 図　東畑遺跡１地点北壁（A-B）土層断面図２（1/50）



第 15 図　東畑遺跡１地点南壁（C-D）土層断面図１（1/50）



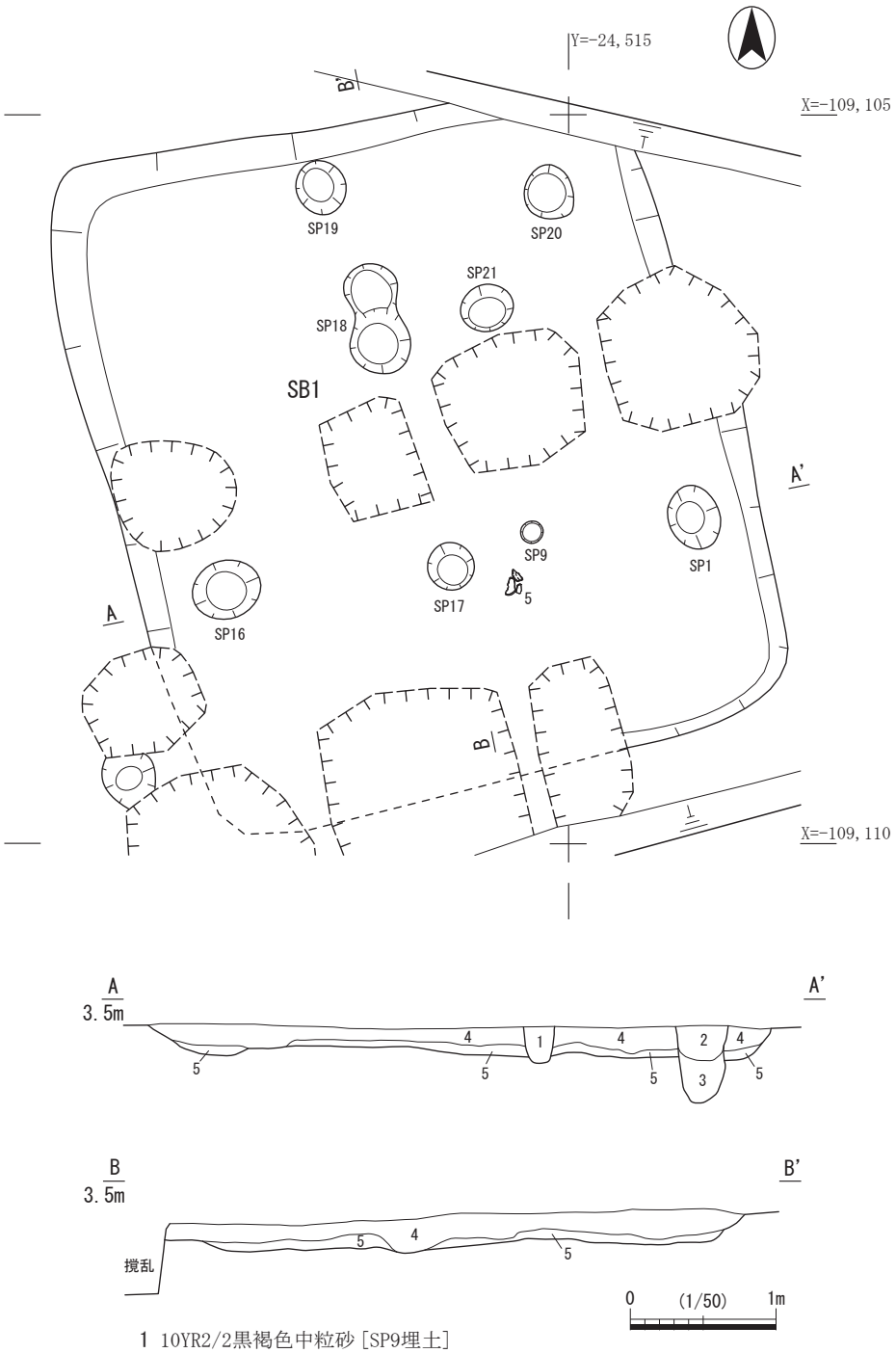
1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR4/4褐色中粒砂［主として古代から中世の遺物を含む］
5 10YR3/3暗褐色中粒砂［SB7埋土］
6 10YR4/3にぶい黄褐色粘土(5YR5/8明赤褐色焼土ブロックを多量に含む)［SL1崩土］
7 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB7埋土］
8 10YR3/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SB7貼床土］
9 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SP45埋土］
10 10YR2/3黒褐色中粒砂［SP44埋土］
11 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB3］
12 10YR2/3黒褐色中粒砂［SB5］
13 10YR3/2黒褐色中粒砂［主として弥生時代または古墳時代以前の遺物を含む］
14 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［基盤層］

第 16 図　東畑遺跡１地点南壁（C-D）土層断面図２（1/50）

第 2 節　遺　　構（第 17 ～ 23 図，図版第 27 ～ 29）

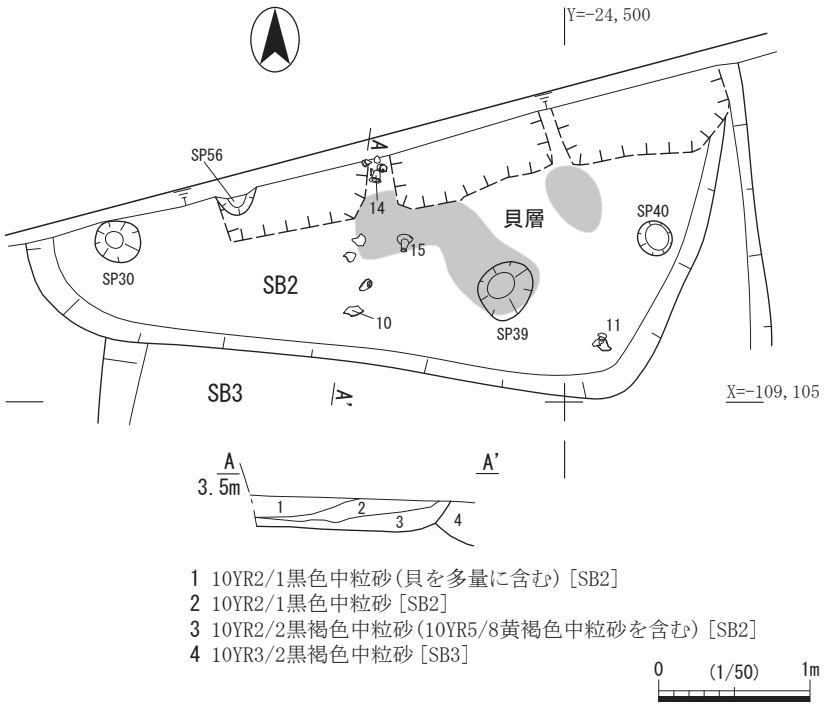
A　弥生・古墳時代

竪穴建物

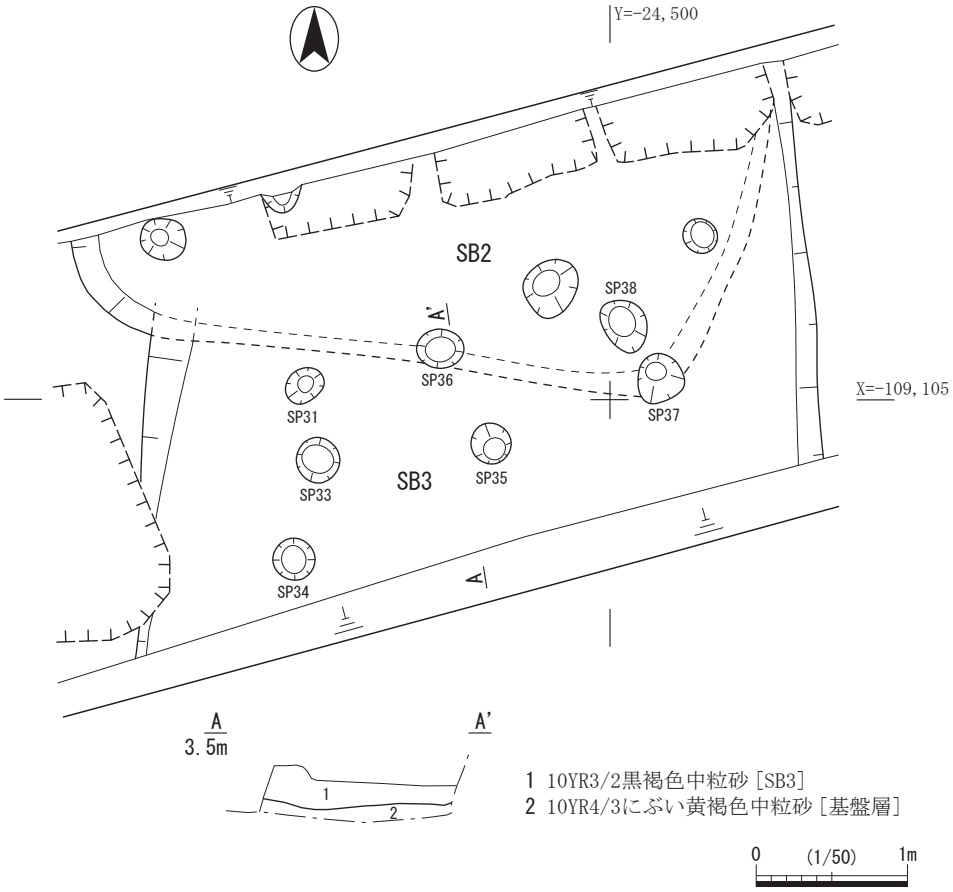


1 10YR2/2黒褐色中粒砂［SP9埋土］
2 10YR2/2黒褐色中粒砂［SP1埋土］
3 10YR2/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SP1埋土］
4 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB1］
5 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB1］

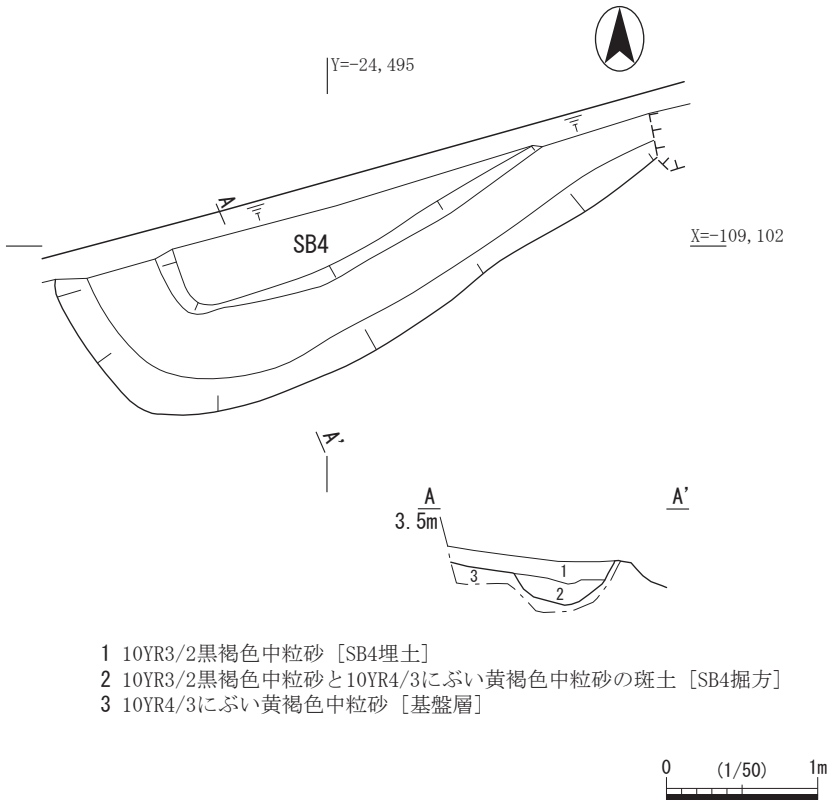
第 17 図　東畑遺跡 1 地点 SB1 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 18 図　東畑遺跡 1 地点 SB2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 19 図　東畑遺跡 1 地点 SB3 平面図・断面図（1/50）



第 20 図　東畑遺跡 1 地点 SB4 平面図・断面図（1/50）

SB1（第 17 図，図版第 27）

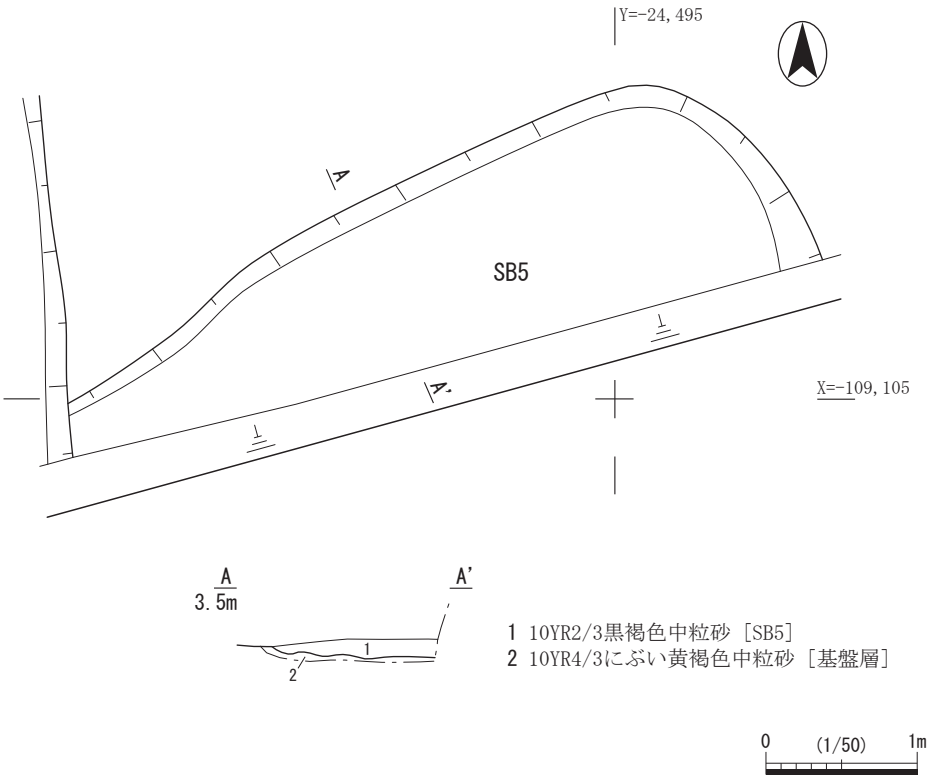
1 地点の西側Ⅱ E2q・2r 区に位置する。ほぼ正方形の平面プランを呈する竪穴建物である。北東隅は調査区外となる。南西隅は撹乱の為、検出されていない。長軸長約 460cm、短軸長約 430cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 20cm である。主柱穴・周壁溝は確認されていない。建物掘方は概ね平坦であるが、明確な掘り込みは見られないものの、壁際がやや深くなる。SB1 断面図の 5 層がこれにあたる。貼床土の可能性がある。SP1・9 は SB1 を切る。また、SP16 ～ 21 は SB1 の底面で検出しているが、SB1 との前後関係は不明である。

遺物は廻間式期のものが主体である。確実に遺構に伴うと考えられる土師器の鉢（5）は、廻間Ⅰ式に位置付けられる。その他の遺物からも遺構の時期は弥生時代終末期にあたる廻間Ⅰ式期と考えられる。

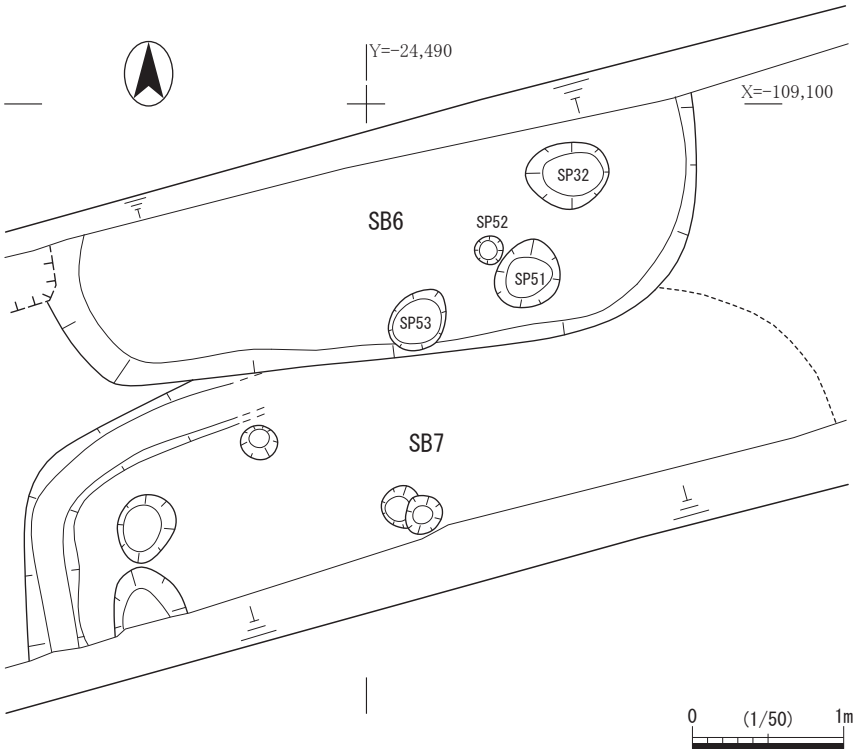
SB2（第 18 図，図版第 28・29）

1 地点のほぼ中央Ⅱ E1t、Ⅱ F1a 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の北側は調査区外へと続く。SB3 を切り、底面の高さは SB3 とほぼ同じである。長軸長約 447cm、短軸長約 220cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 21cm である。SB2 は包含層上で検出している。埋土は黒味が強く、貝殻を多量に含んでいた。主柱穴・周壁溝は確認されていない。建物掘方の底面は凹凸が激しい。掘削時には建物床面は確認できず、掘方底面まで掘削している。

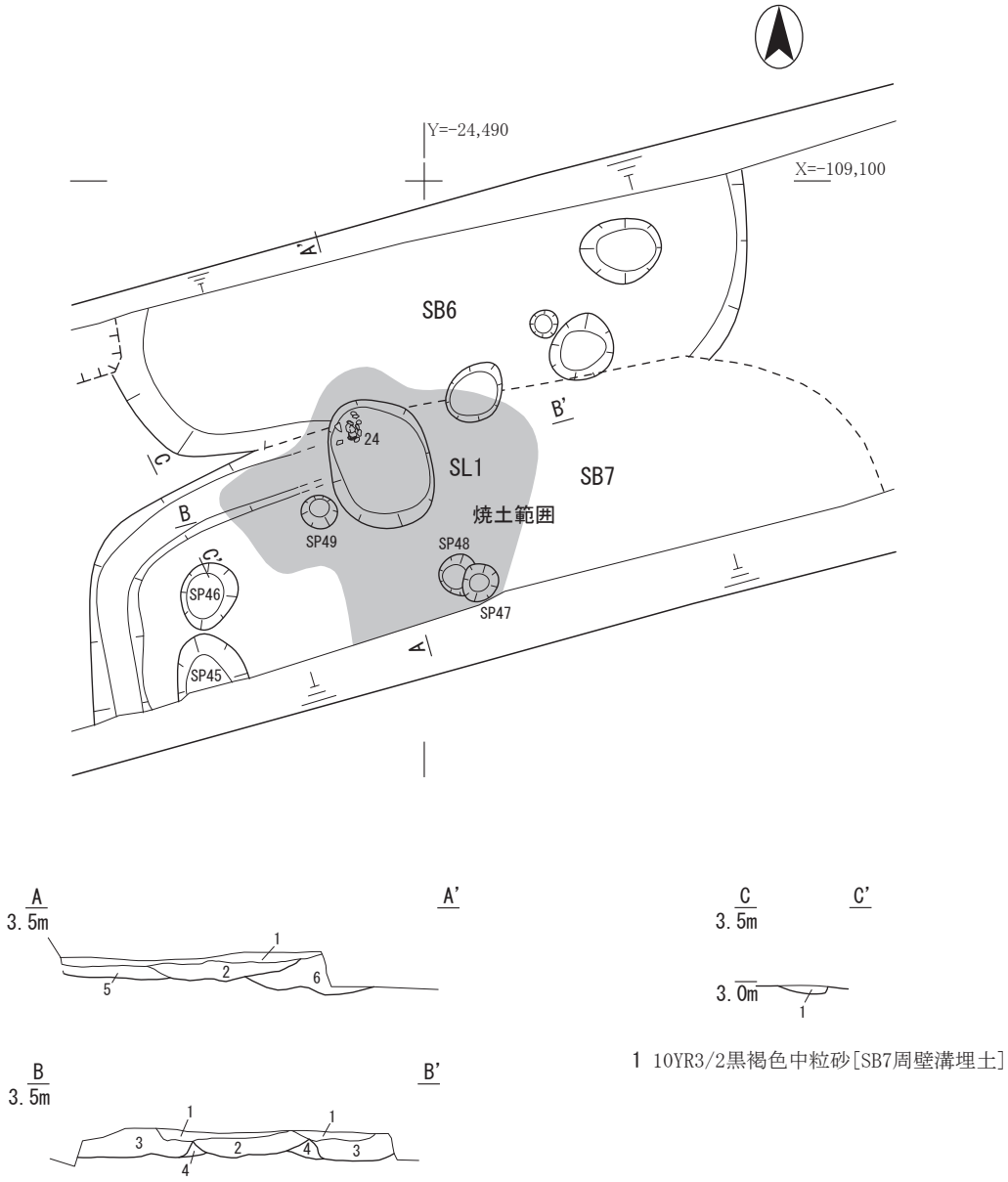
遺物は貝殻に混じって廻間式から松河戸Ⅰ式の土器がみられる。廻間式期の SB3 を切り、屈折



第 21 図　東畑遺跡 1 地点 SB5 平面図・断面図（1/50）



第 22 図　東畑遺跡 1 地点 SB6 平面図（1/50）



1 10YR4/3にぶい黄褐色粘土(5YR5/8明赤褐色焼土ブロックを多量に含む)[SL1崩土]
2 5YR3/2暗赤褐色中粒砂(5YR5/8明赤褐色焼土ブロックを含む)[SL1埋土]
3 10YR3/2黒褐色中粒砂[SB7埋土]
4 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土[SL1裾部]
5 10YR3/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)[SB7貼床土]
6 10YR3/2黒褐色中粒砂[SB6]

0　(1/50)　1m

第 23 図　東畑遺跡 1 地点 SB7 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

脚の高杯（14・15）、小型丸底壺が出土していることから、古墳時代前期にあたる松河戸Ⅰ式期の遺構であると考える。

SB3（第 19 図，図版第 29）

1 地点のほぼ中央Ⅱ E1t・2t、Ⅱ F1a・2a 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の北側は SB2 に切られ、南側は調査区外へと続く。長軸長約 451cm、短軸長約 240cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 29cm である。主柱穴・周壁溝は確認されていない。遺物は廻間Ⅰ式の広口壺や高杯が出土している。

SB4（第 20 図，図版第 29）

1 地点の東側Ⅱ F1a・1b 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の大半は調査区外で、南西隅の一部を検出したのみである。SB5 に近接するが、遺構検出面での切り合い関係はない。長軸長約 401cm、短軸長約 116cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 29cm である。主柱穴は確認されていない。壁際が溝状に深く掘り込まれており、これが掘方であると考えられる。遺物は廻間Ⅰ式の受口状口縁やく字状口縁の台付甕が出土している。

SB5（第 21 図，図版第 29）

1 地点の東側Ⅱ F1a・1b・2a 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の大半は調査区外で、北端を検出したのみである。遺構の北西端は SB3 に切られる。長軸長約 500cm、短軸長約 144cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 13cm である。柱穴・周壁溝は確認されていない。SB2 と同様に建物掘方の底面は凹凸が激しい。

遺物は高蔵式の細頸壺の胴部片が出土している。遺構はおそらく弥生時代中期の高蔵式期のものであろう。

SB6（第 22 図，図版第 29）

1 地点の東側Ⅱ F1b・1c 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の北側は調査区外へと続く。平面的には判断できなかったが、土層の観察より SB 7 に切られることを確認した。長軸長約 433cm、短軸長約 140cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 29cm である。主柱穴・周壁溝は確認されていない。建物掘方の底面は凹凸が激しい。遺物は高蔵式期の細頸壺の胴部片が出土している。

B　古代

竪穴建物

SB7（第 23 図，図版第 29）

1 地点の東側Ⅱ F1b・1c 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の南側は調査区外へと続く。当初、SL1 の掘削中には SB7 の平面プランは確認できておらず、SL1 は隣接する SB6 に伴うカマドか、あるいは包含層中に認識できていない竪穴建物が存在する可能性を考えていた。基盤層直上で SB7 北西隅の周壁溝がわずかに確認できたため、再度土層観察を行い、SB7 を SL1（カマド）が伴う竪穴建物と判断した。長軸長約 546cm、短軸長約 145cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 19cm である。主柱穴は確認されていない。土層観察では SB6 を切る遺構であることが確認されているが、北辺の SB6 と重なる部分は埋土の相違が明確ではなく、検出できなかった。

東辺は撹乱が著しく検出できなかった。

SL1から８世紀前半の濃尾系甕が出土している。よって､SB7もその時期の遺構であると推察する。

第３節　出土遺物（図版第１・2，図版第62・72～74，第２・６・７表）

A　弥生土器・土師器

SB1 出土土器

土師器の壺（1～3)、高杯（4)、鉢（5）がある。

1は加飾壺である。端部には不連続な擬凹線が巡り、垂下部は無い。剥離した可能性があるが、器面の痕跡から判断することは難しい。また、内外面に赤彩が施されているが、口縁下端部にはみられない。2は広口壺である。口縁部が屈曲するように外反し、内面に平坦面をもつ。頸部に突帯が貼り付けられているが、口縁端部やその周辺には施文や加飾は施されていない。口縁の外傾度合が高いため、廻間Ⅰ式でも古い様相のものと考えられる。3は壺の胴部片である。外面に赤彩および線刻が施されている。4は高杯の脚部である。杯部形状は不明である。脚部から杯部まで一体で製作され、杯部の底部を充填する。器面には粗いミガキが施され、隙間にハケ目が残る。5は小型の丸底の鉢である。口径と胴部径がほぼ同じ大きさとなる。口縁部は短く外反する。焼成時の黒斑が確認できる。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から廻間Ⅰ式に位置付けられる。

SB2 出土土器

土師器の壺（6・12)、甕（7～9)、高杯（10・11・13～15）がある。

6は二重口縁壺である。口縁は端に向かって薄くなり、端部を丸く収める。口縁部内外面には強いヨコナデがみられ、ハケ目を消している。7はく字状口縁台付甕である。口縁部は外傾し、端部を丸く収める。内外面ともハケ調整を施し、端部周辺のみヨコナデで消している。8は小型のＳ字状口縁台付甕（C類）である。器面にハケ目は無く、板ナデ・指ナデで調整されている。9はやや小型のＳ字状口縁台付甕（B類）である。口縁端部に明瞭な面をもつ。頸部に沈線が巡る。10は有段高杯である。口縁端部に明瞭な内傾面をもち、細部内弯調整による内弯がみられる。ミガキは非常に細かく施され、器面は丁寧に仕上げられている。色調は灰黄色を呈する。11は有段高杯の脚部である。内弯する脚部であるが、端部は丸く、やや外反する。外面には細かいミガキが施されているが、ハケ目やナデ調整が比較的多く残る。12は小型丸底壺である。口縁部は直線的で、頸部に稜がみられる。口径と胴部径がほぼ同じ大きさである。器面の調整には主として板ナデが施されている。13は有段高杯である。杯部上半はやや直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収められている。外面にはミガキ調整が施され、段は僅かに玉縁状となる。14は高杯の脚部である。柱状部が膨らみをもち、下半で大きく開く屈折脚である。脚内面は細長いヘラ状工具により円錐状に整形され、屈折部が顕著になっている。15は有段高杯である。杯部は直線的に立ち上がり、口縁部のみに僅かな外反がみられる。屈折脚であるが、柱状部の膨らみはみられない。

これらの土器は、廻間式と松河戸式に分けられる。器形や製作技法・調整から7・10・11は廻間Ⅰ式に、6・8・9は廻間Ⅲ式に、12～14は松河戸Ⅰ式に位置付けられる。また、15は松河戸式

でも古い様相を残している。

SB3 出土土器

土師器の壺（16）、高杯（17・18）がある。

16 は広口壺である。口縁部は大きく外反し、端部が下方に肥厚する。口縁端部にクシ状工具による羽状刺突文、内面には羽状刺突文とその下に扇形文を施す。外面に焼成時の被熱に伴う赤色化がみられる。17 は有段高杯である。口縁端部に外傾面をもつ。器面にはハケ目が残り、ミガキ調整は丁寧に施されていない。18 は有段高杯の脚部である。比較的に器高の高い脚部である。端部に僅かに面をもつ。内面はハケおよび板ナデ調整がみられるが、器面が摩滅しており不明な部分が多い。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から廻間 I 式に位置付けられる。

SB4 出土土器

土師器の甕（19・20）がある。

19 は受口状口縁台付甕である。口縁部は内弯するというよりは、むしろ外面が膨らむといった形状である。端部内面に平坦面をもつ。口縁部外端にはヘラ状工具による刺突が施されている。頸部には強いヨコナデ調整がみられる。20 はく字状口縁台付甕である。口縁部はやや直口気味に立ち上がり、端部に面をもつ。口縁部から頸部への流れからすると、胴部は球状ではなく長胴である可能性がある。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から廻間 I 式に位置付けられる。

SB5 出土土器

弥生土器の壺（21・22）がある。

21 は細頸壺の胴部片である。外面に 8 本 1 単位の多段状直線文が巡る。一部に縦位波状文による区画がみられる。22 は細頸壺の胴部片である。外面に多条直線文と波状文が施されている。また、細かいハケ調整がみられるが、ミガキ調整はみられない。器形や製作技法・調整から高蔵式に位置付けられる。

SB6 出土土器

弥生土器の細頸壺の胴部片（23）がある。外面はナナメハケ調整を全体に施した後に沈線で区画し、1 段置きにヨコミガキを加えている。ハケ調整を残した文様帯には、更にタテハケによる区画を行っている。器形や製作技法・調整から高蔵式と考えられる。

SB7 出土土器

SB7 内のカマドである SL1 から出土した土師器の甕（24）がある。平底で、底部上方に僅かに稜がみられる。稜を境に下側はヨコハケ、上側はタテハケ調整となる。底部内面に屈曲はみられず、なだらかに立ち上がる。底部に木の葉圧痕がみられる。器形や製作技法・調整から 8 世紀前半の濃尾系甕と考えられる。

SP24 出土土器

土師器の甑（25）がある。口径と胴部最大径がほぼ同じであり、頸部の屈曲もみられない筒形を呈する。底部には中央に 1 つ、その周囲に放射状に 5 つ、計 6 ヶ所に穿孔がある。器形や製作技法・調整から宇田式と考えられる。

SK25 出土土器

土師器の甕（26）がある。短頸のく字状口縁台付甕で、外面の調整には主として弱いハケが施されている。内面は指オサエないし指ナデ調整が目立ち、胴部には板ナデ調整もみられる。器形や製作技法・調整から宇田Ⅰ式に位置付けられる。

B　石器

27 は安山岩製の敲石である。敲打痕が平面と側面にみられる。SB6 から出土した。

C　金属製品

28 は腸抉柳葉式の銅鏃である。SP44 から出土した。刃部の先端部周辺はやや膨らみをもち、細身となる辺りから逆刺部までは内側に反るような断面形状となる。ただし、十字鎬のような明瞭な稜はみられない。茎からは鋳型のずれが観察でき、端部に切断の痕跡がみられる。整形・研磨痕は不明である。刃部長 2.0cm、茎長 1.6cm である。

第 4 章　東畑遺跡 2 地点の調査

第 1 節　概要と基本層序（第 24 ～ 53 図，図版第 30 ～ 32）

東畑遺跡 2 地点は、海岸から内陸に向かって数えて最も東側の第 1 砂堆上に位置する。また、東畑遺跡 1 地点と同様に第 1 砂堆南方の南縁にあたる。調査区よりも南側で一段低い面が広がっている。北側には平成 20 年度の調査地点、東側には今回報告する東畑遺跡 1 地点が隣接する。基本層序は以下のとおりである（第 34 ～ 53 図）。

Ⅰ層：表土層。近現代の盛土または作土・床土である。

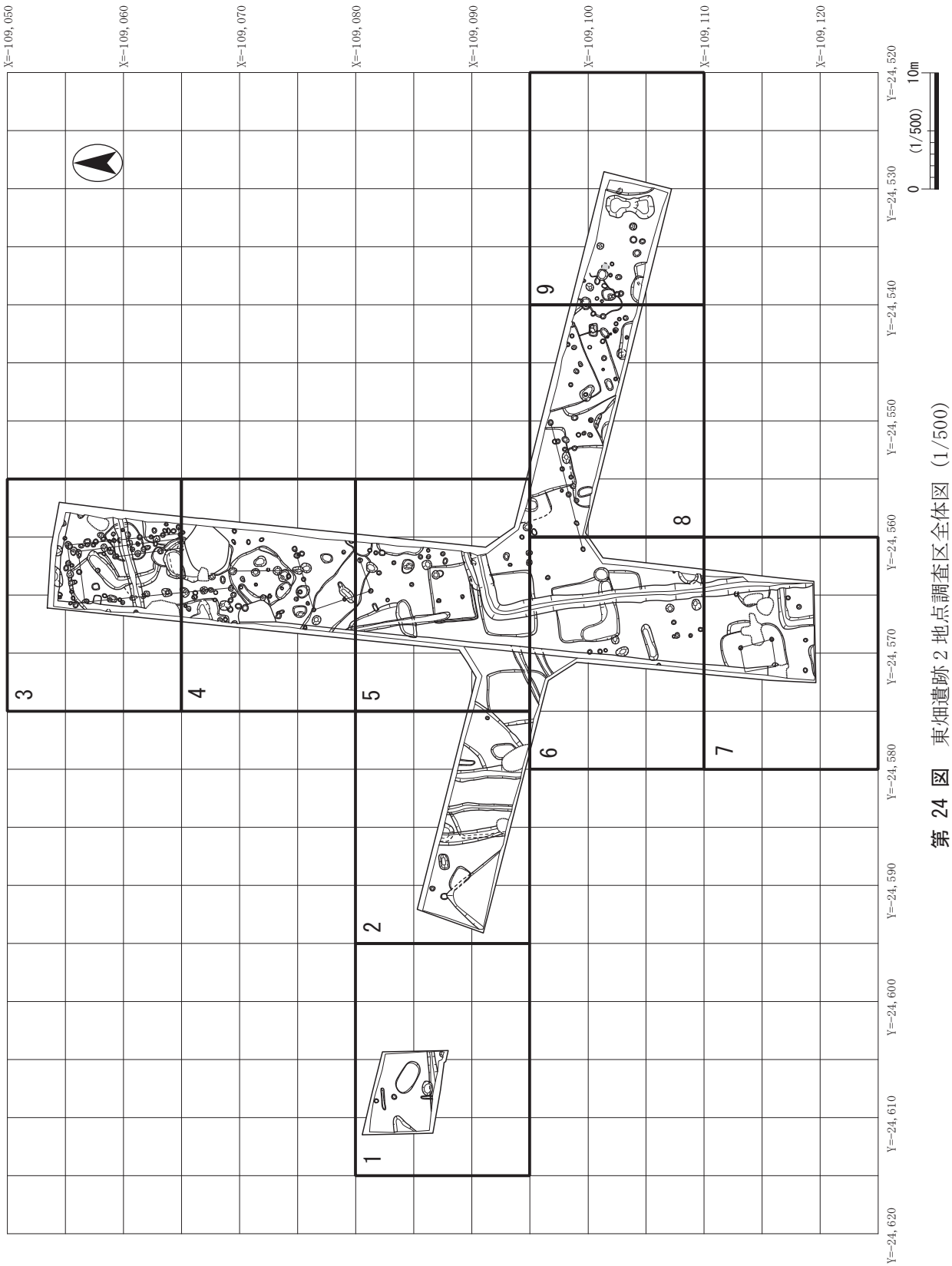
Ⅱ層：遺物包含層。10YR3/4 暗褐色中粒砂層以下の砂層がこれにあたる。主として弥生時代から中世の遺物の出土がみられる。弥生時代中期の竪穴建物築造以前に堆積した 10YR2/3 黒褐色中粒砂と 10YR5/4 にぶい黄褐色中粒砂の斑土層以下には、条痕文土器や縄文時代晩期前葉の元刈谷式土器の出土が確認されている。この弥生時代中期以前の遺物包含層は主として調査区東側でみられる。

Ⅲ層：基盤層。10YR5/4 にぶい黄褐色中粒砂と 10YR2/2 黒褐色中粒砂の互層、10YR5/6 黄褐色中粒砂層、10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂層、西壁（M-N）の 10YR5/3 にぶい黄褐色粗粒砂層以下がこれにあたる。地山層である。

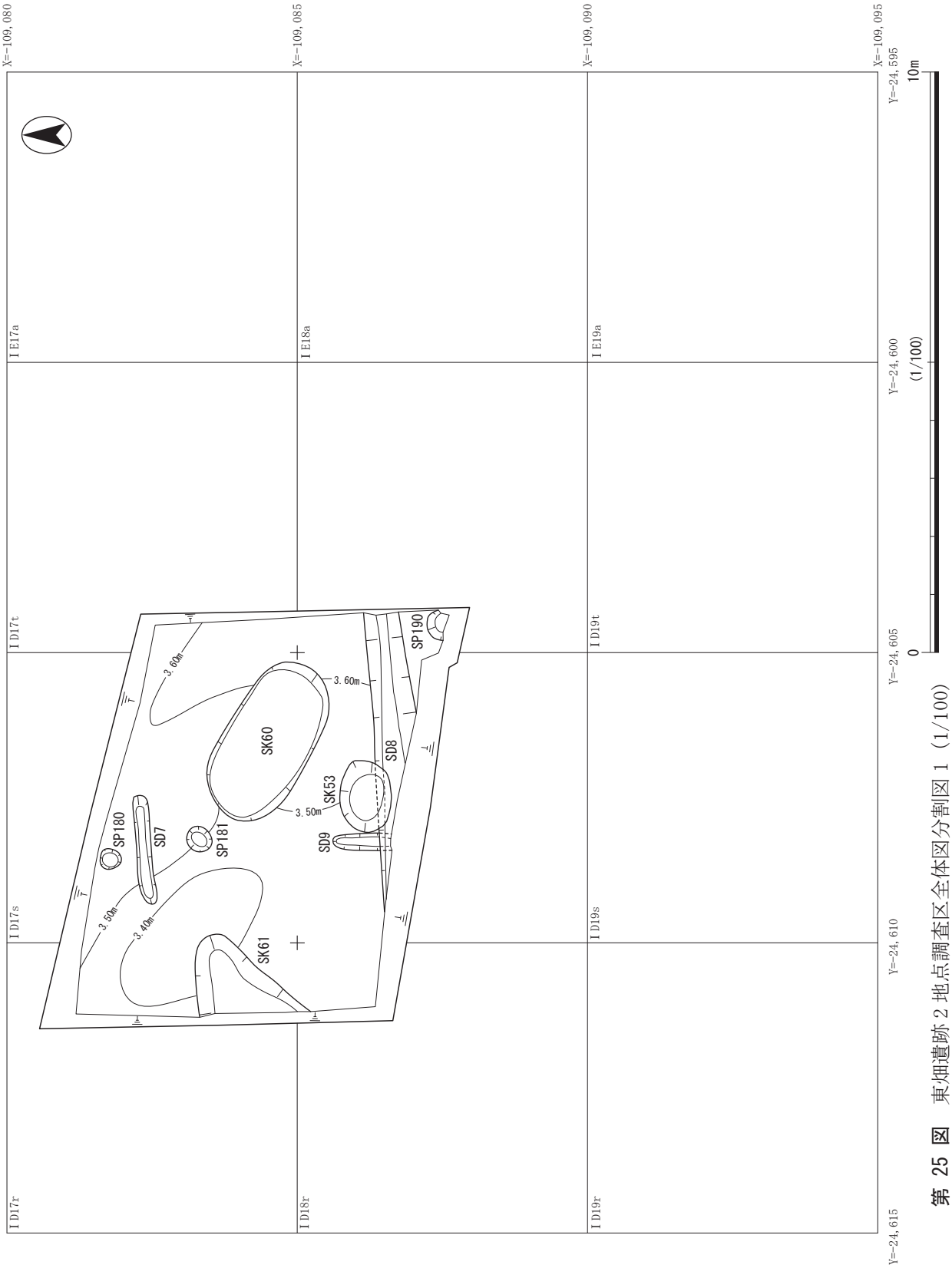
東畑遺跡は第 1 砂堆の南側に位置し、その中でも東畑遺跡 2 地点は、弥生時代から古墳時代にかけての居住域と考えられている。調査区は十字形である。北側に隣接する平成 20 年度の調査地点や更にその北側では方形周溝墓が確認されており、弥生時代の墓域と想定されている（永井・宮澤 2007、宮澤 2009、宮澤・桐山・坂野ほか 2009）。今回の調査では、方形周溝墓の可能性のある溝が確認されているが、主として検出されたのは弥生時代から古墳時代にかけての竪穴建物である。計 18 棟の竪穴建物が確認されている。調査外に続く遺構が多く、その全容を把握できるものは多くない。また、砂堆に立地するため、高潮・洪水等多くの地形改変を被ったとみられ、残存状態はよくない。竪穴建物の時期は、弥生時代中期（貝田町式期）から古墳時代前～中期（松河戸Ⅱ式期）までである。調査区東側で検出した SL1 は、宇田Ⅰ式期の竪穴建物のカマドの可能性が高い。その他に竪穴建物の可能性がある遺構として SK37 と SX3 が挙げられる。いずれも弥生時代中期の土器の出土が確認されている。弥生時代から古墳時代にかけての遺構には、その他に SD16 や SX2 が挙げられる。SX2 からは弥生時代中期末の高蔵式期の土器が多く出土しており、一括性が高い。古代の遺構には 8 世紀前半の SK61 があるが、調査区全体からすれば当該期の遺構は希薄である。しかし、調査区西側の遺物包含層からは瓦塔や浄瓶といった古代の仏教に関わる遺物が出土している。

中世の遺構には掘立柱建物や柵、土坑、溝、井戸がある。第 2 節で述べる遺構以外にも SK4・19・49・50 で山茶碗の碗・小皿や常滑の片口鉢・甕などのまとまった出土がみられる。

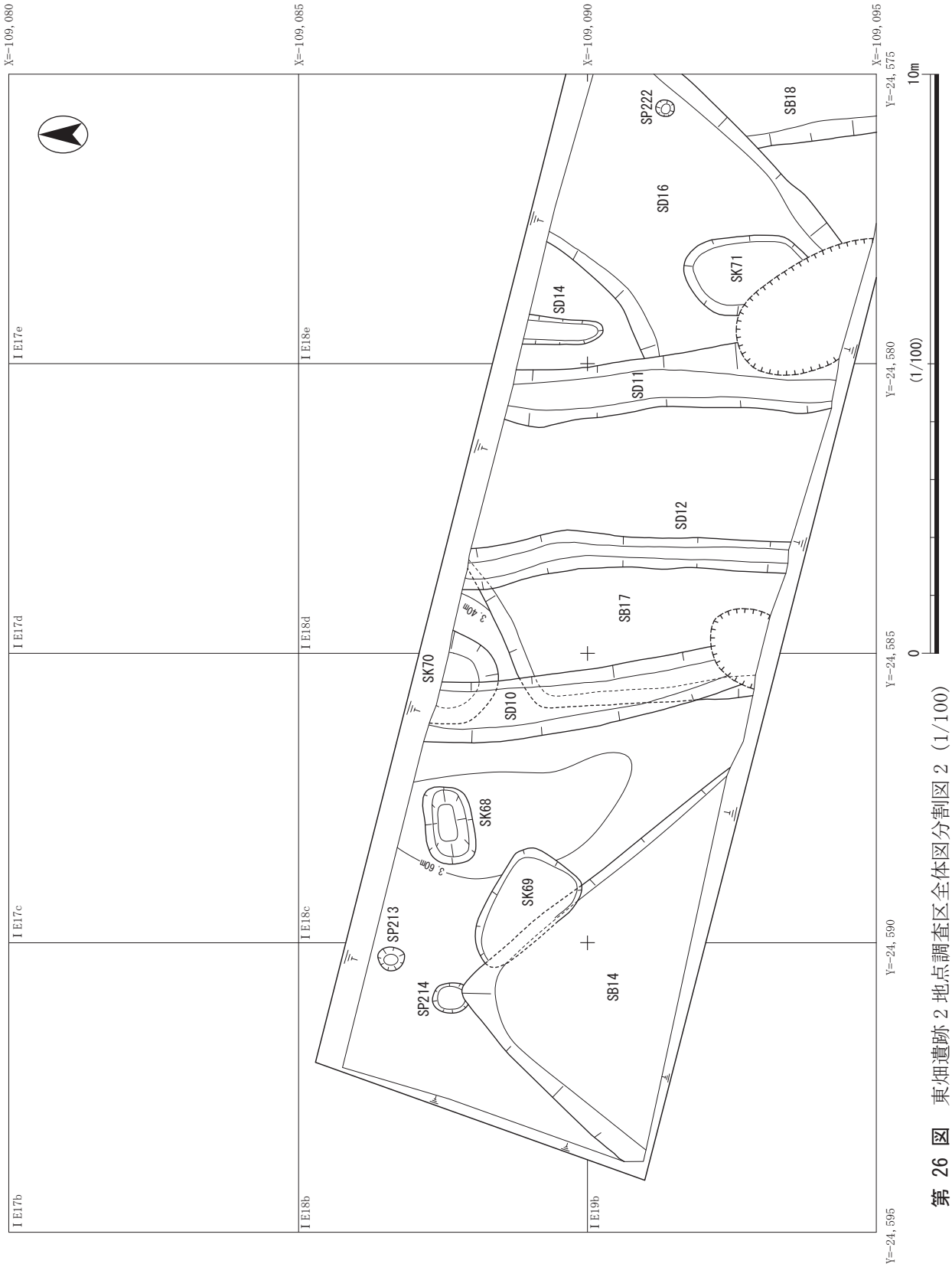
第 4 章では、主要遺構とそれに伴う遺物を中心に報告を行う。製塩土器については、第 9 章で扱う。縄文土器、条痕文土器については、機会を改めて報告する。



第 24 図　東畑遺跡２地点調査区全体図（1/500）

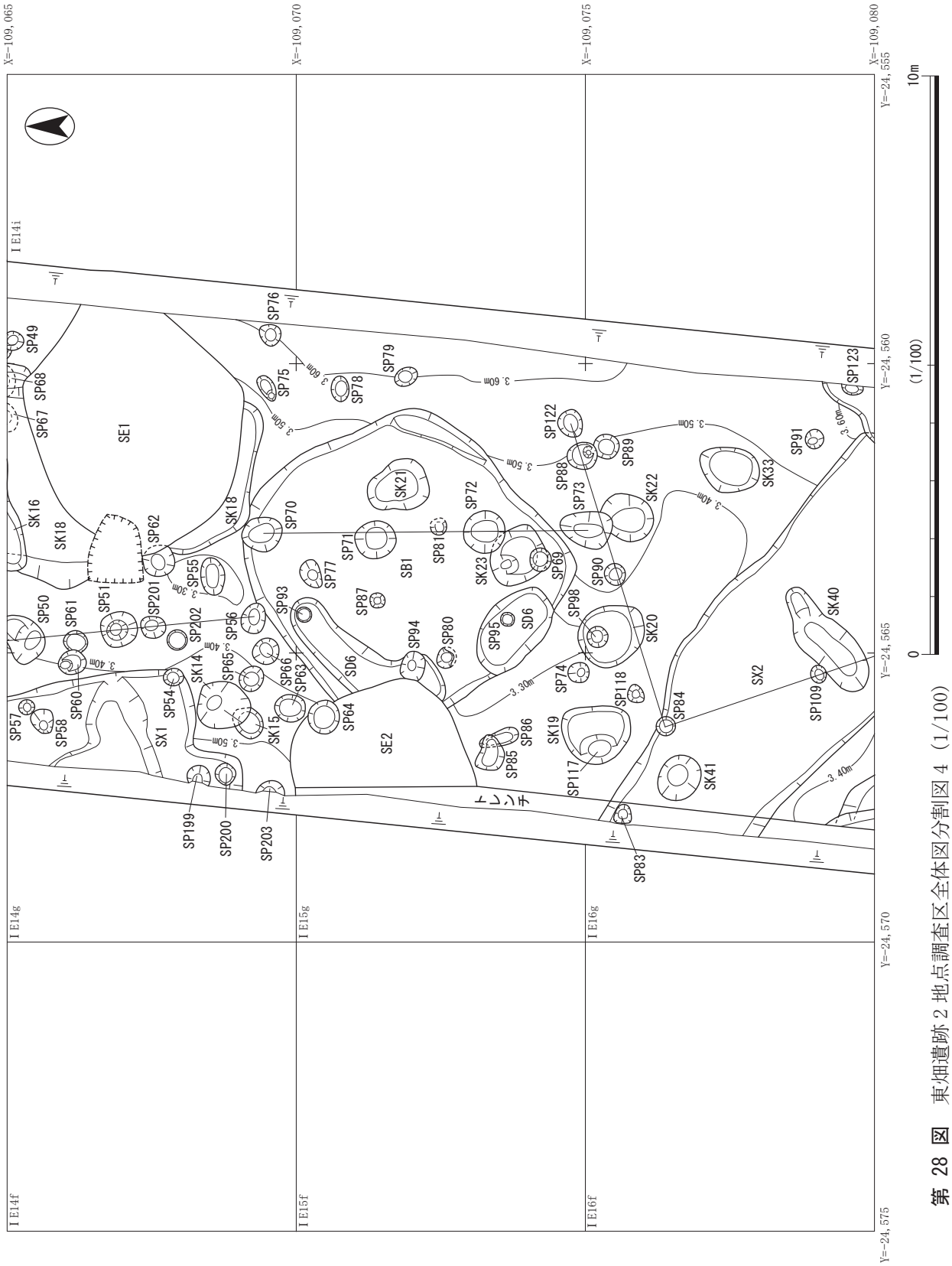


第 25 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図１（1/100）

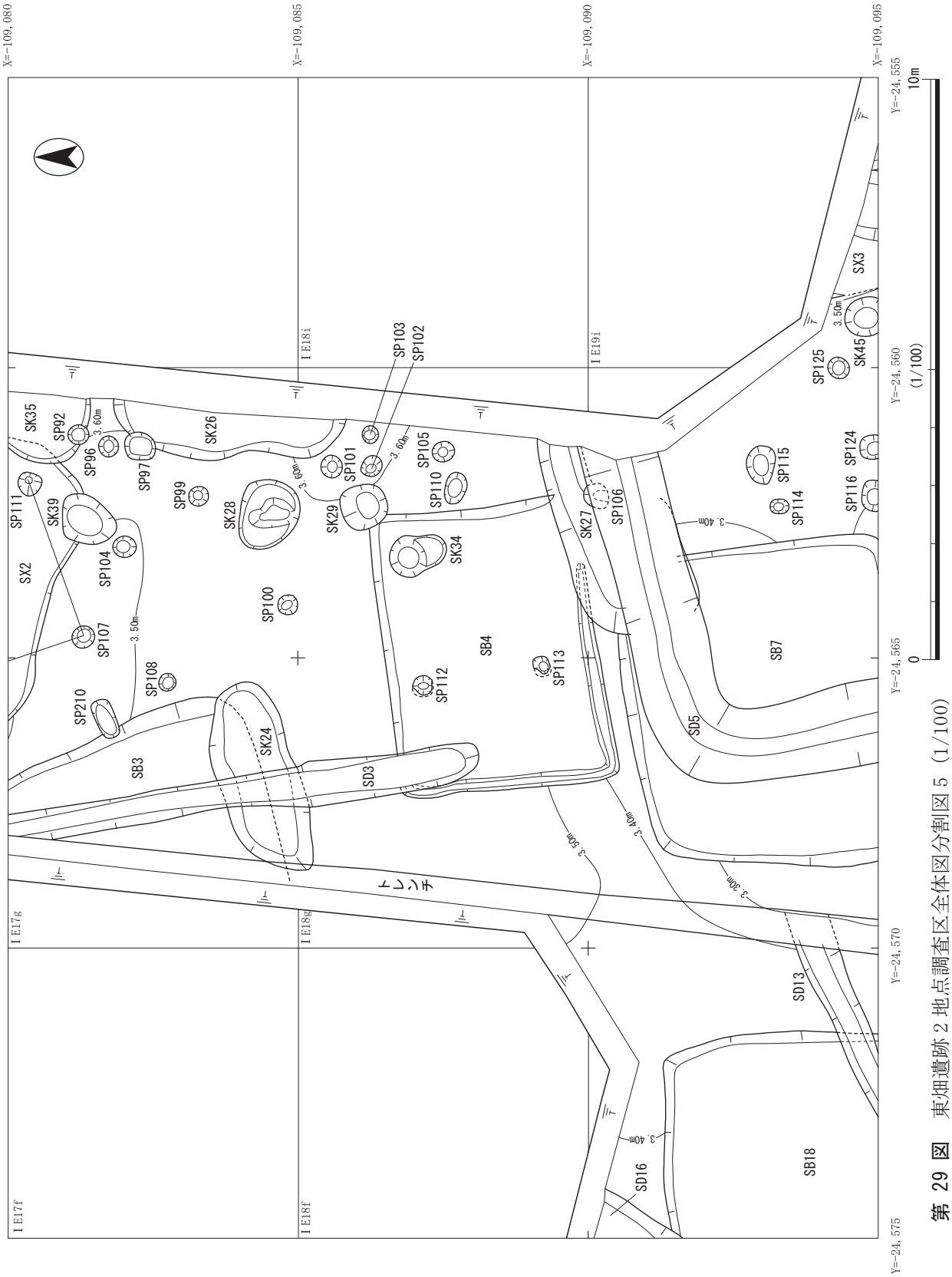


第 26 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図２（1/100）

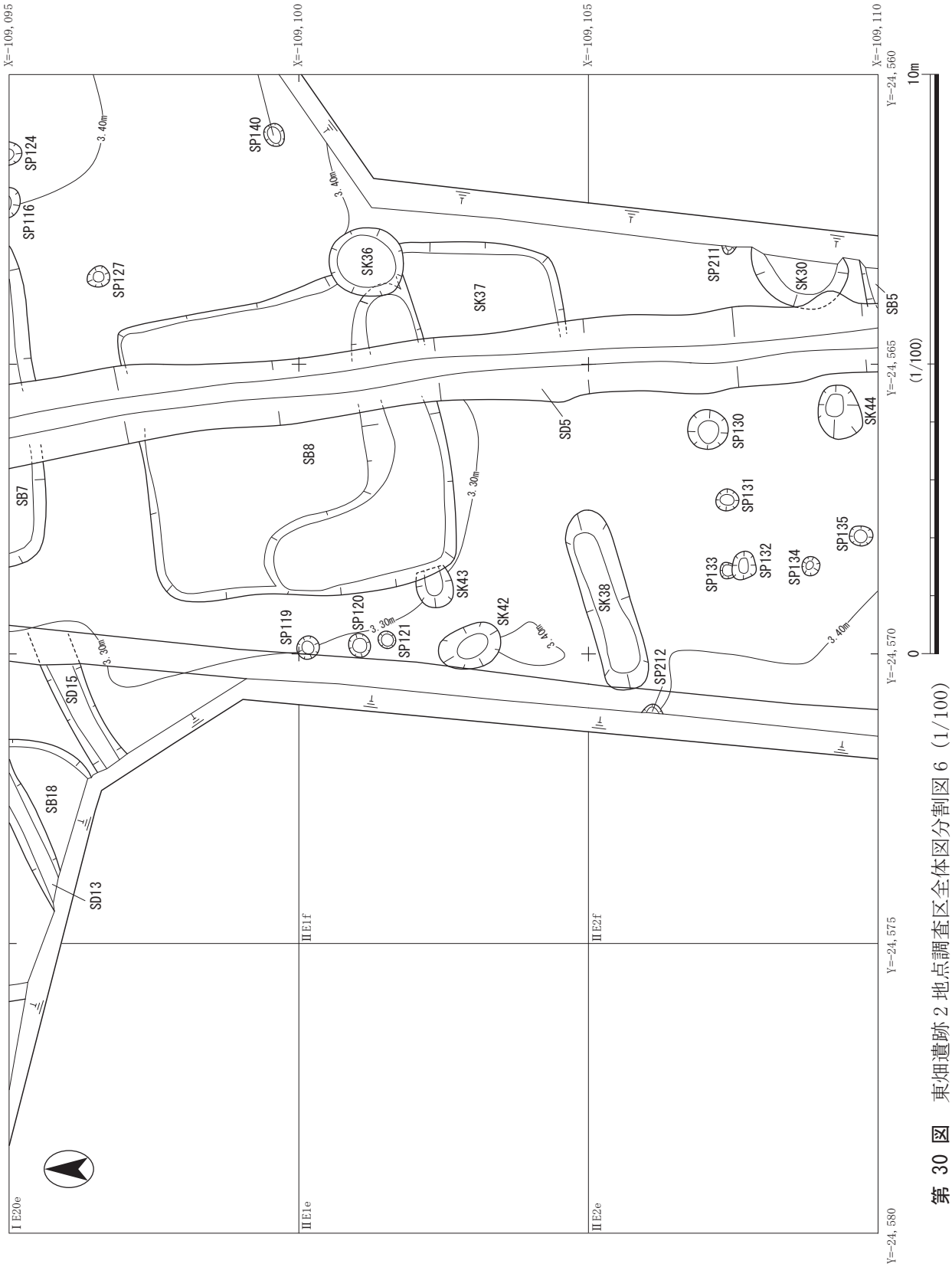
第 27 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図３（1/100）



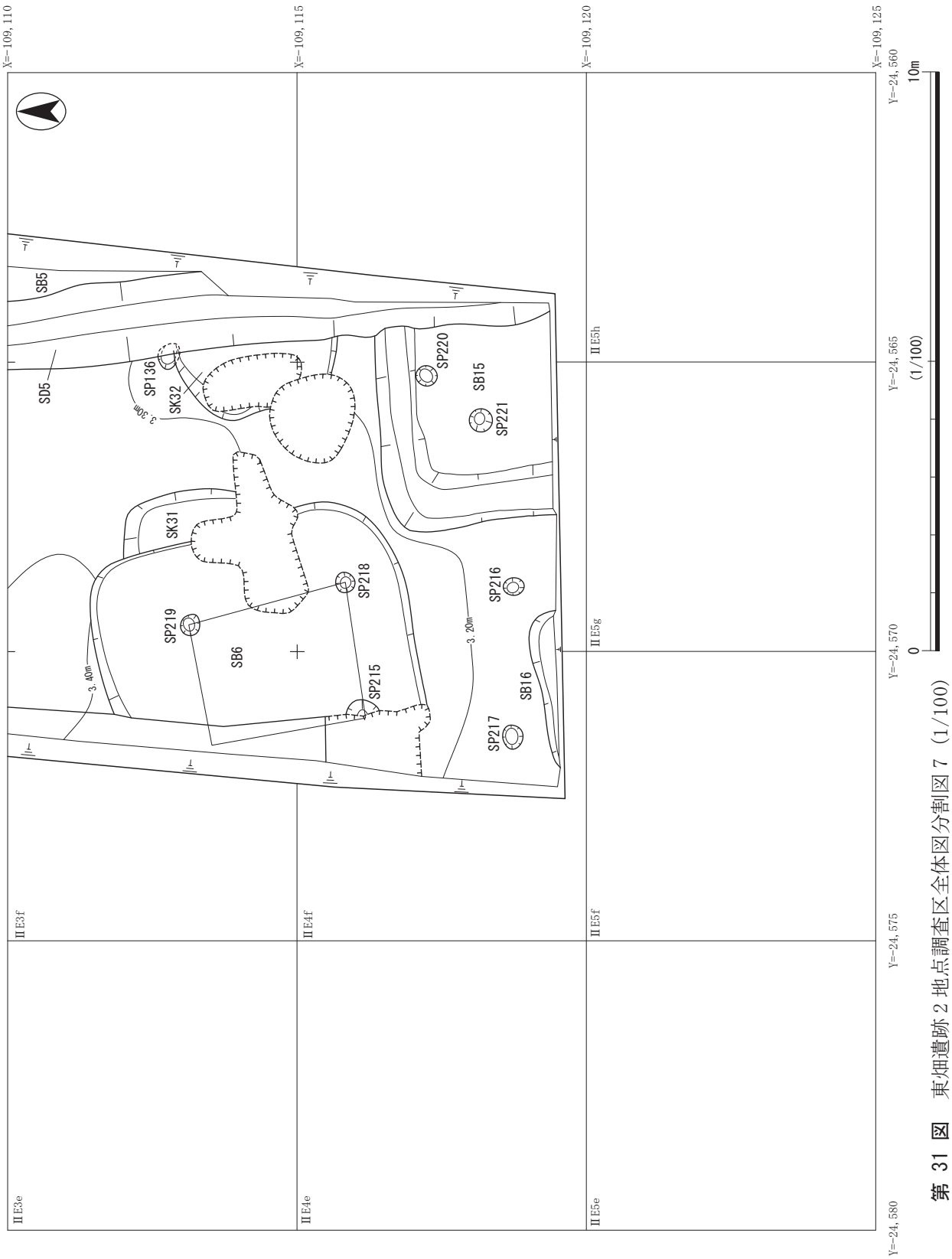
第 28 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図４（1/100）



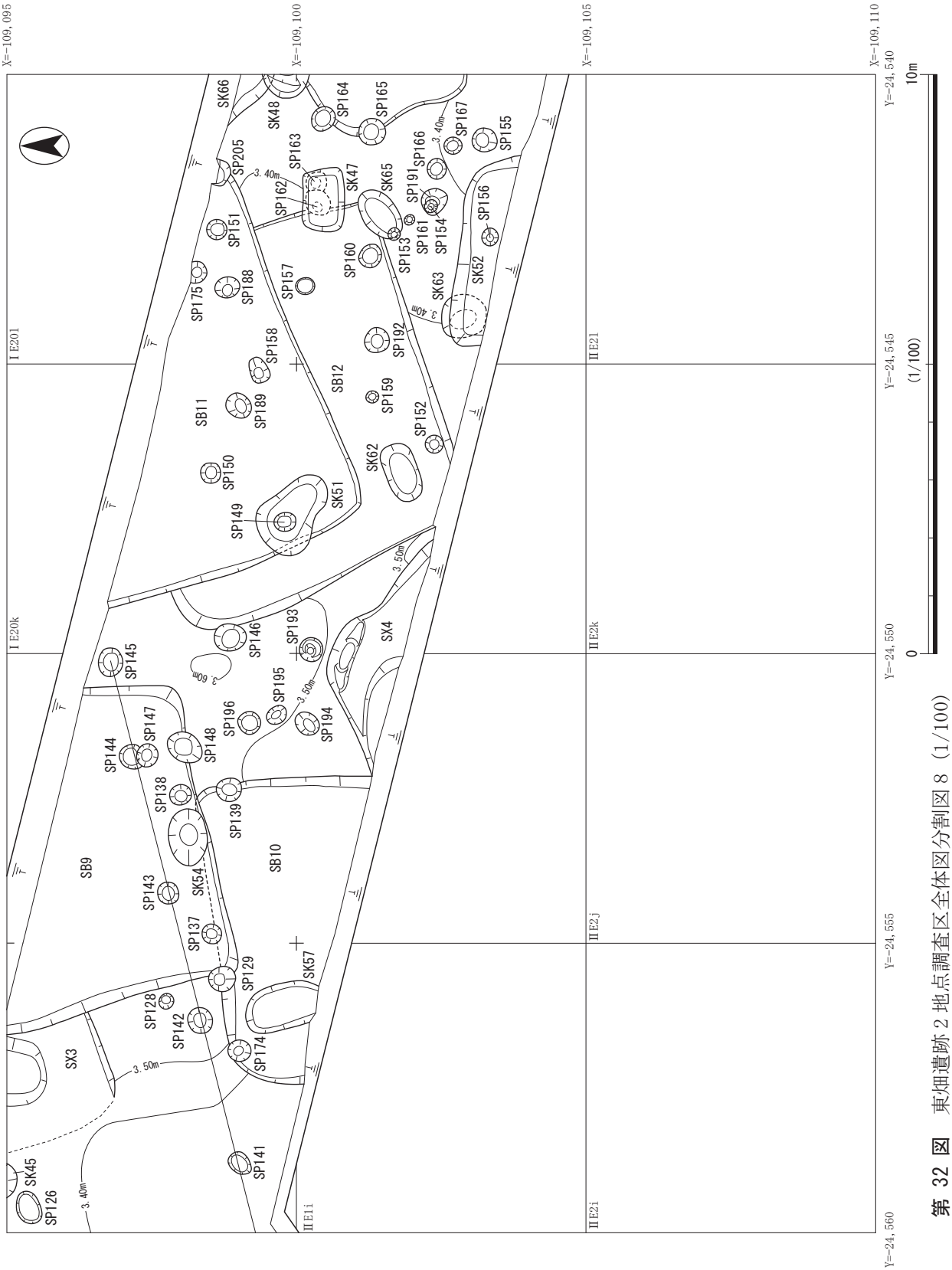
第 29 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図５（1/100）



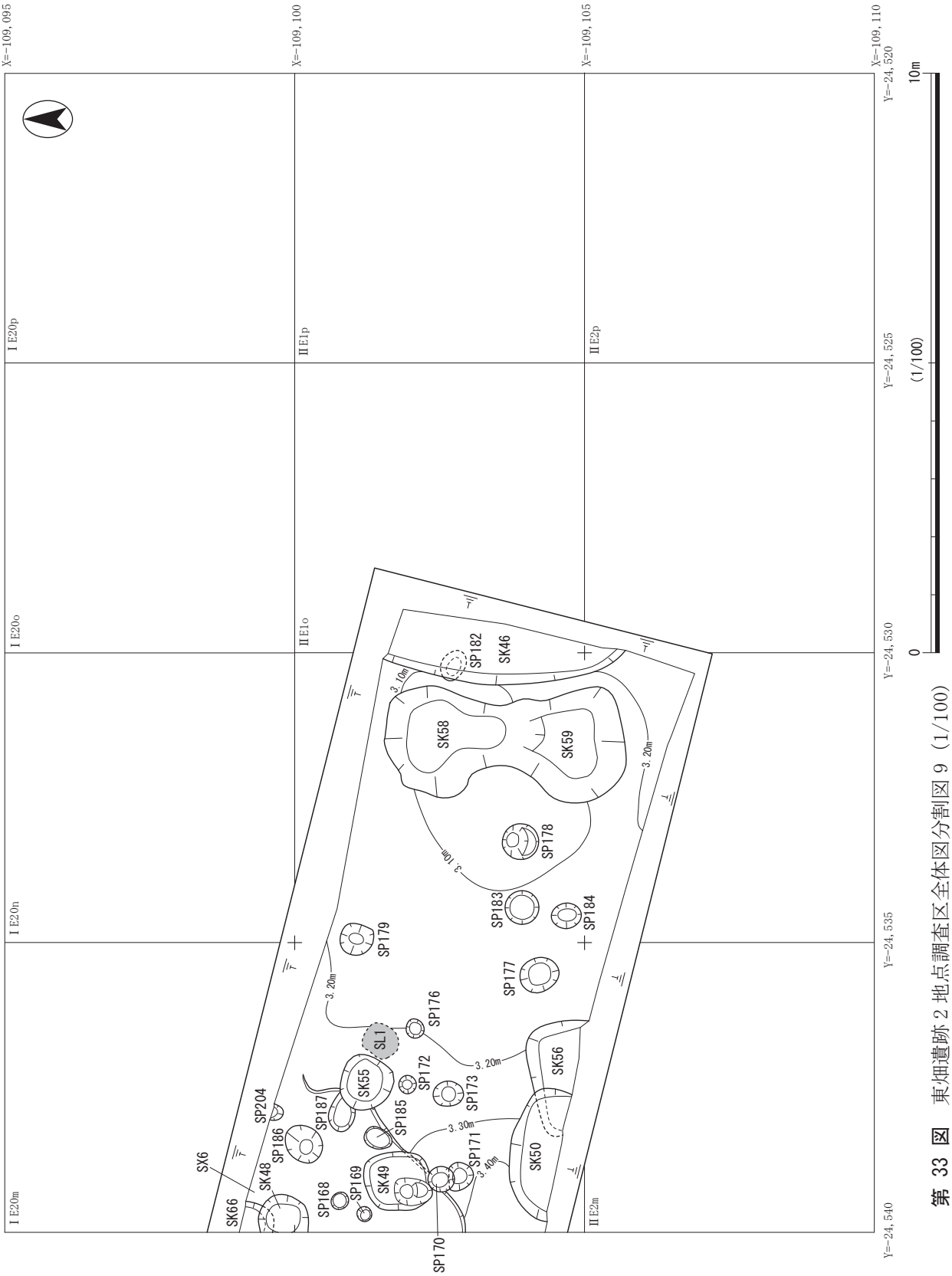
第 30 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図６（1/100）



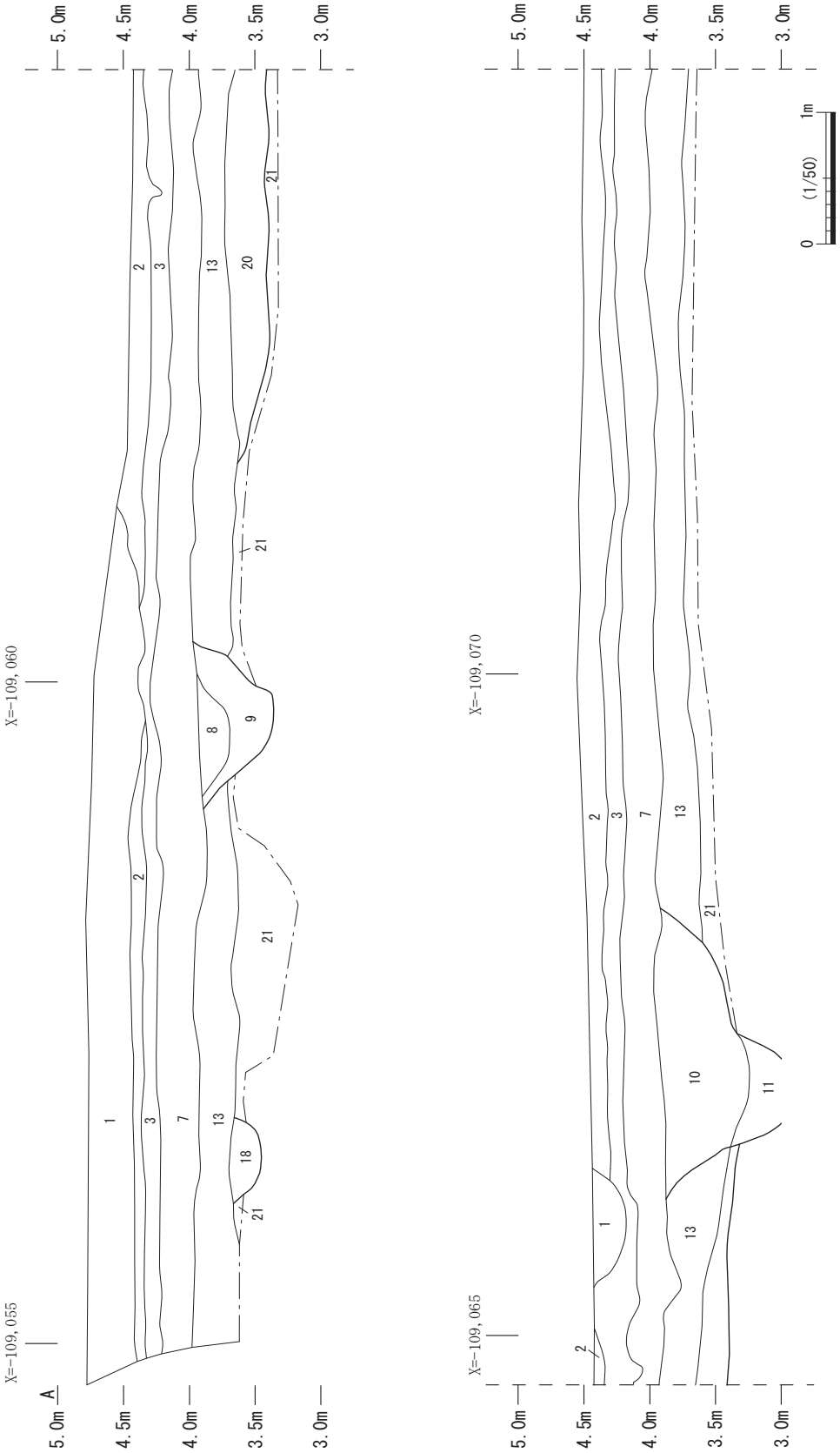
第 31 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図７（1/100）



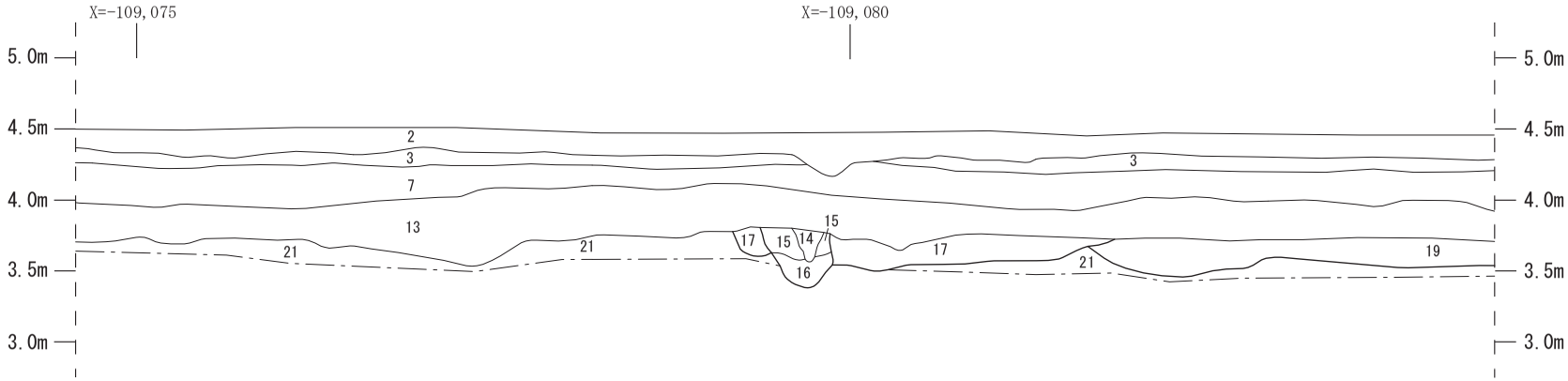
第 32 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図８（1/100）

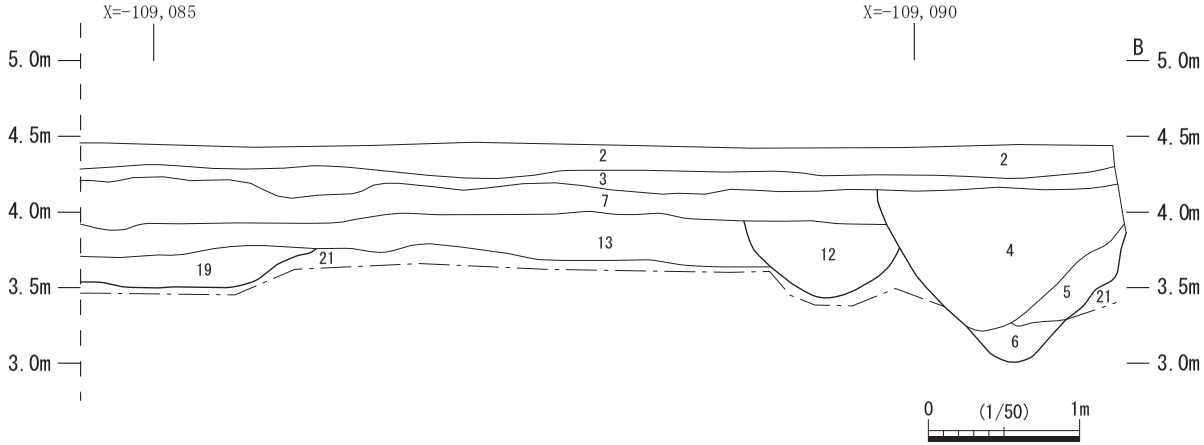


第 33 図　東畑遺跡２地点調査区全体図分割図９（1/100）



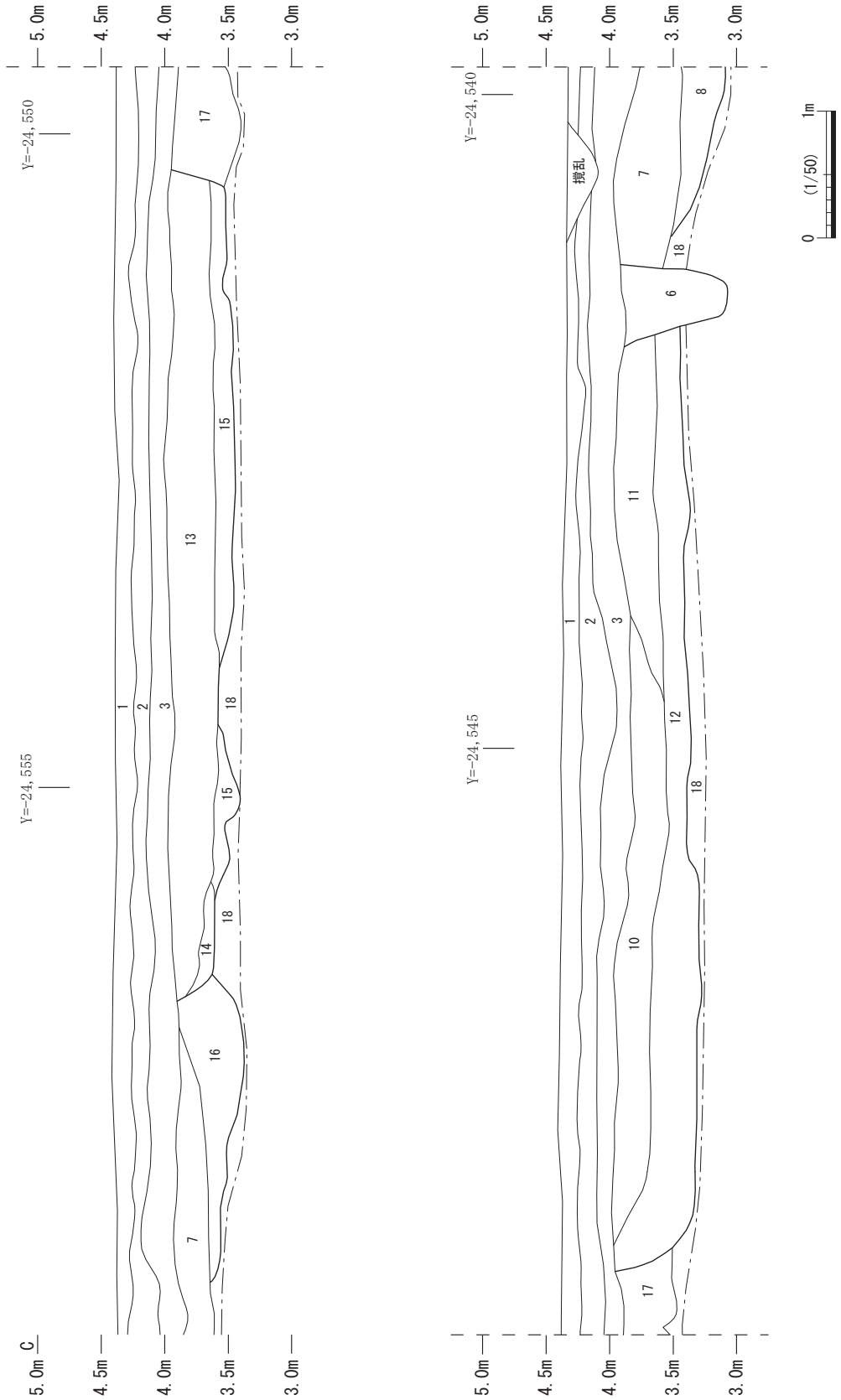
第 34 図　東畑遺跡２地点東壁（A-B）土層断面図１（1/50）



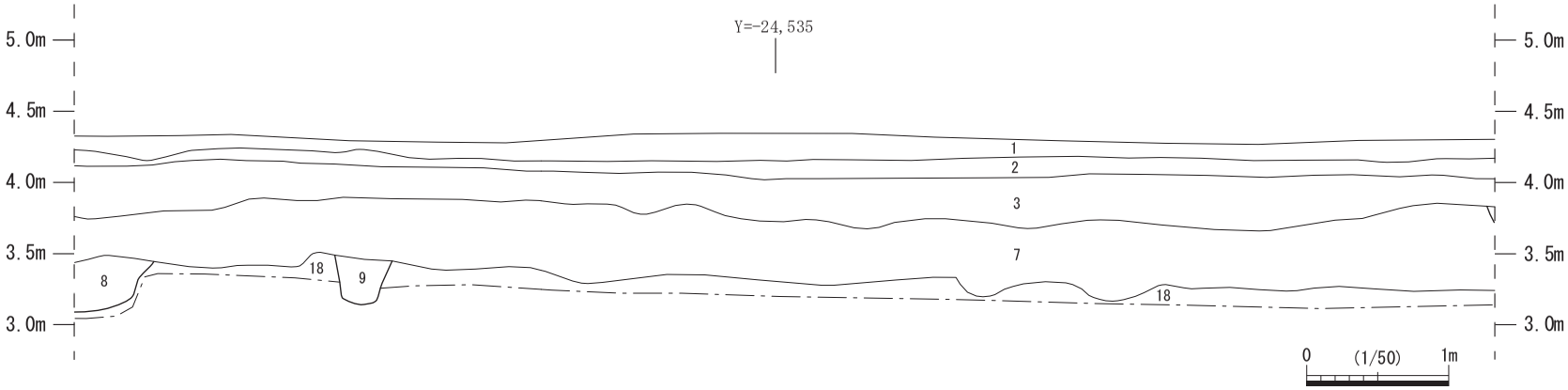


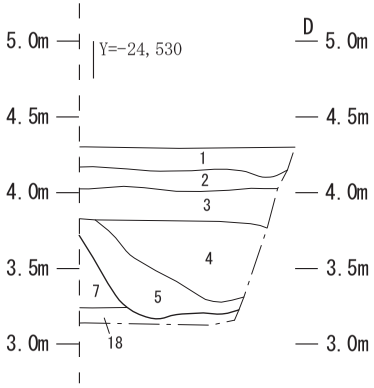
1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD5埋土］
5 10YR2/2黒褐色中粒砂［SD5埋土］
6 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SD5埋土］
7 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
8 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD1埋土］
9 2.5Y3/3暗オリーブ褐色中粒砂［SD1埋土］
10 10YR3/1黒褐色中粒砂［SE1掘方］
11 10YR4/2灰黄褐色粗粒砂［SE1掘方］
12 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK27埋土］
13 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
14 10YR2/1黒色中粒砂［SP123埋土］
15 10YR3/3暗褐色中粒砂［SP123埋土］
16 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SP123埋土］
17 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SK35埋土］
18 10YR2/2黒褐色中粒砂［SP197埋土］
19 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/4褐色中粒砂の斑土［SK26埋土］
20 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SB2］
21 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 35 図　東畑遺跡２地点東壁（A-B）土層断面図２（1/50）



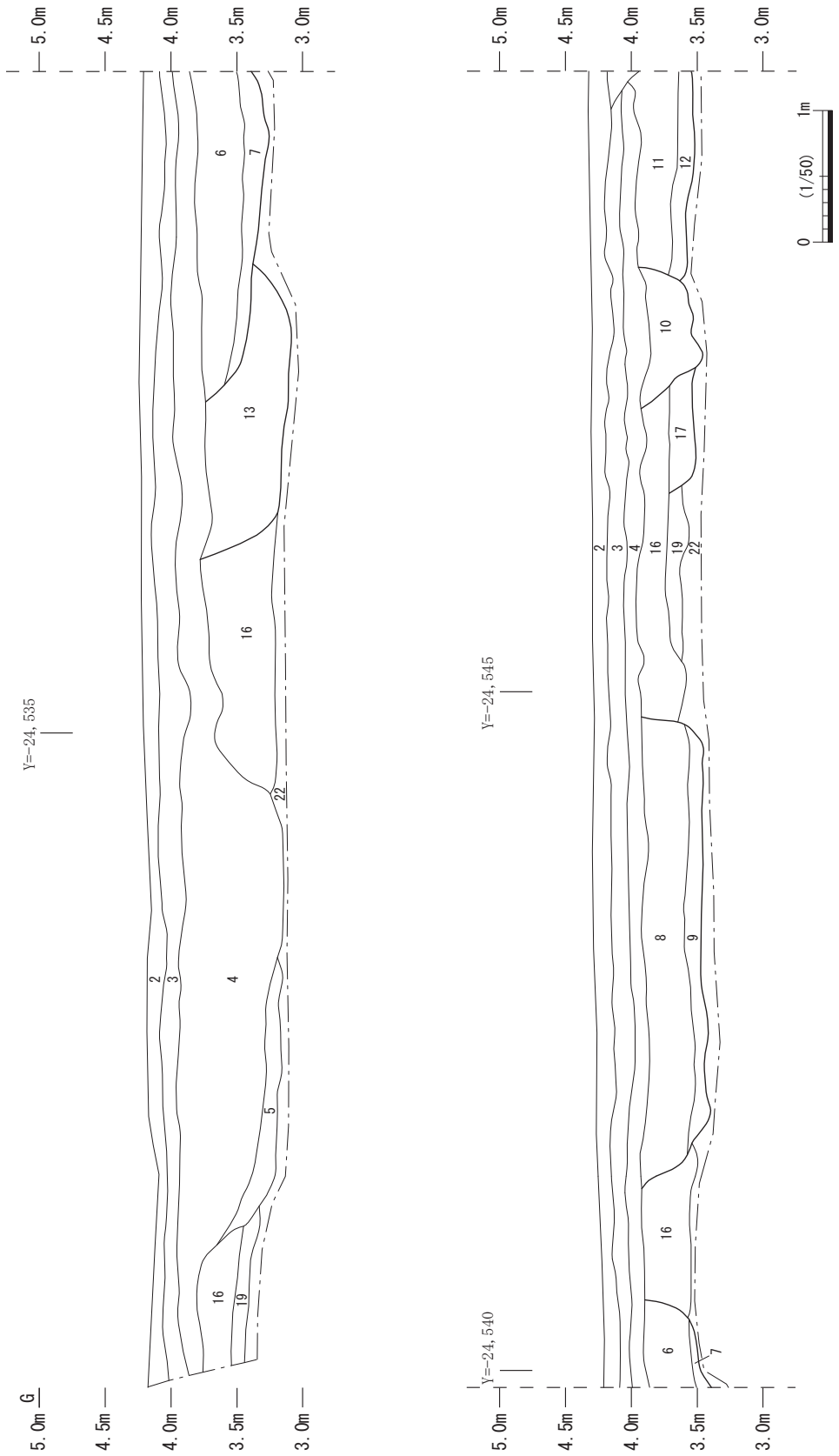
第 36 図　東畑遺跡２地点北壁（C−D）土層断面図１（1/50）



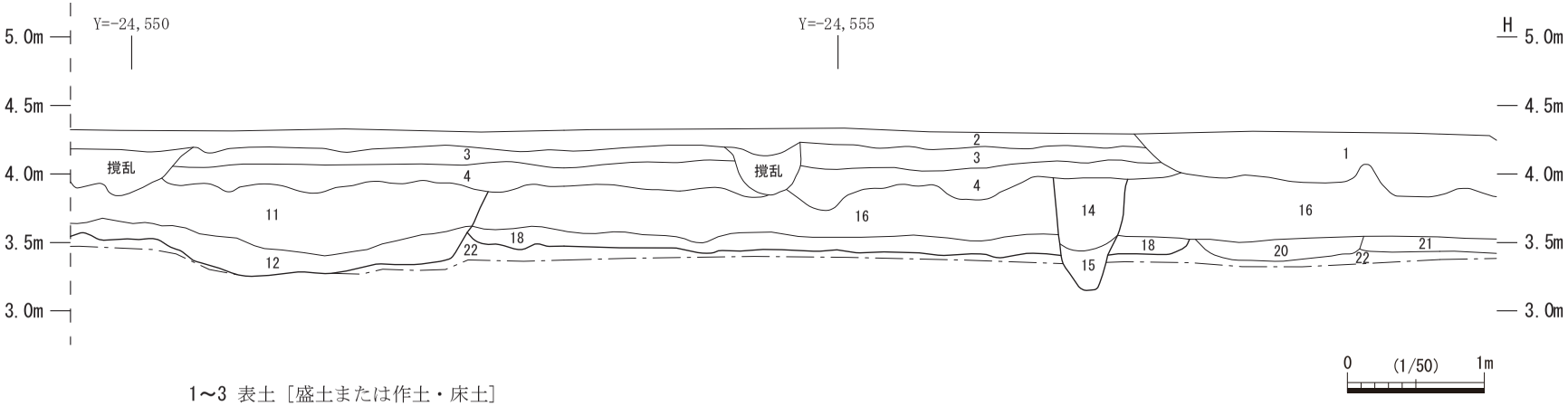


1～2 表土［盛土または作土・床土］
3 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
4 10YR3/3暗褐色中粒砂(貝を多量に含む)［SK46埋土］
5 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK46埋土］
6 10YR3/3暗褐色中粒砂［SP205埋土］
7 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
8 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［SK66埋土］
9 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SP204埋土］
10 10YR2/1黒色中粒砂［SB11］
11 10YR2/3黒褐色中粒砂［SB11］
12 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［SB11］
13 10YR2/3黒褐色中粒砂［SB9埋土］
14 10YR2/3黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SB9埋土］
15 10YR2/3黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土(地山ブロックを多量に含む)［SB9掘方］
16 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SX3埋土］
17 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［遺構埋土か］
18 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 37 図　東畑遺跡２地点北壁（C-D）土層断面図２（1/50）

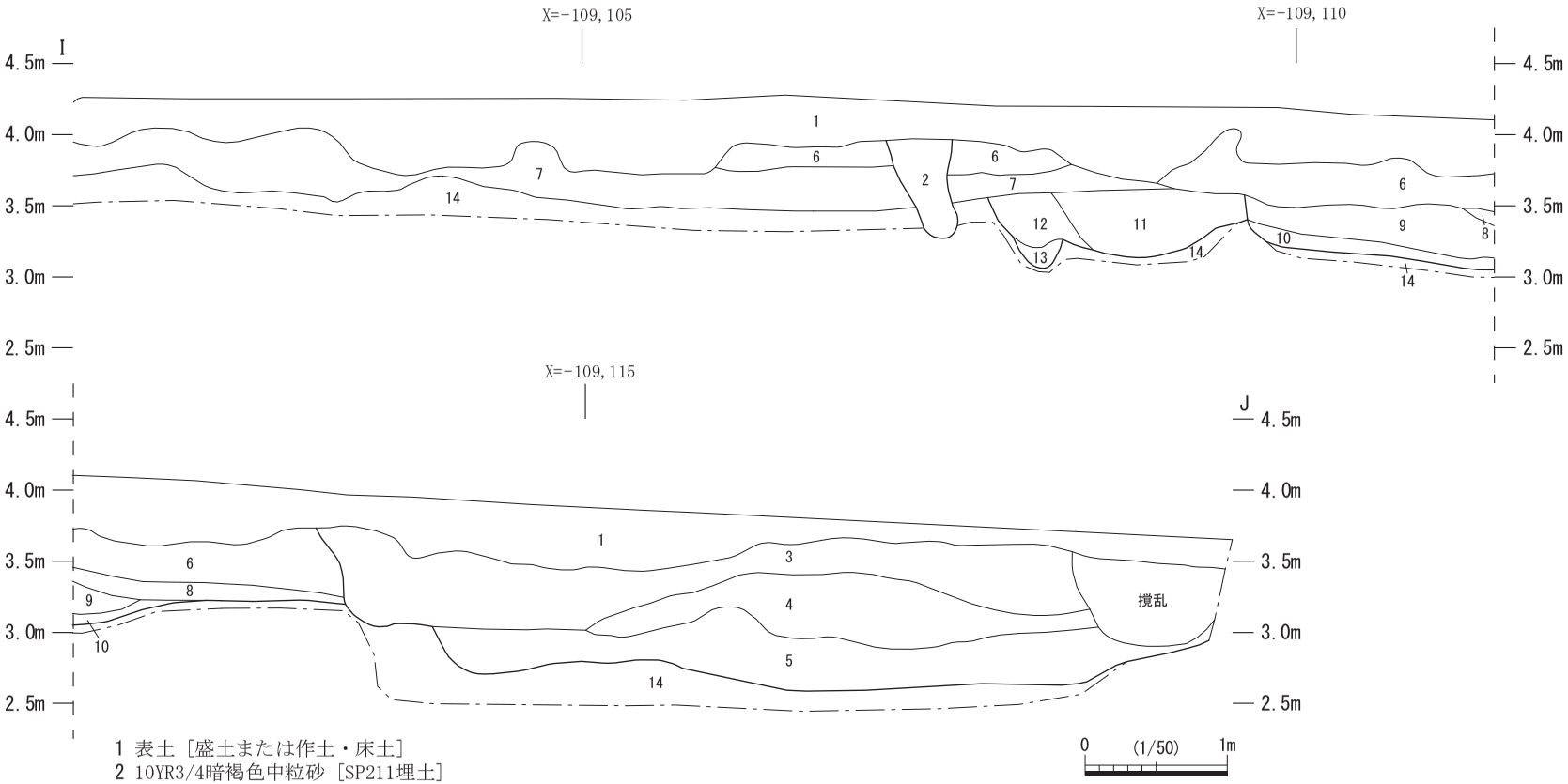


第 38 図　東畑遺跡２地点南壁（G-H）土層断面図１（1/50）



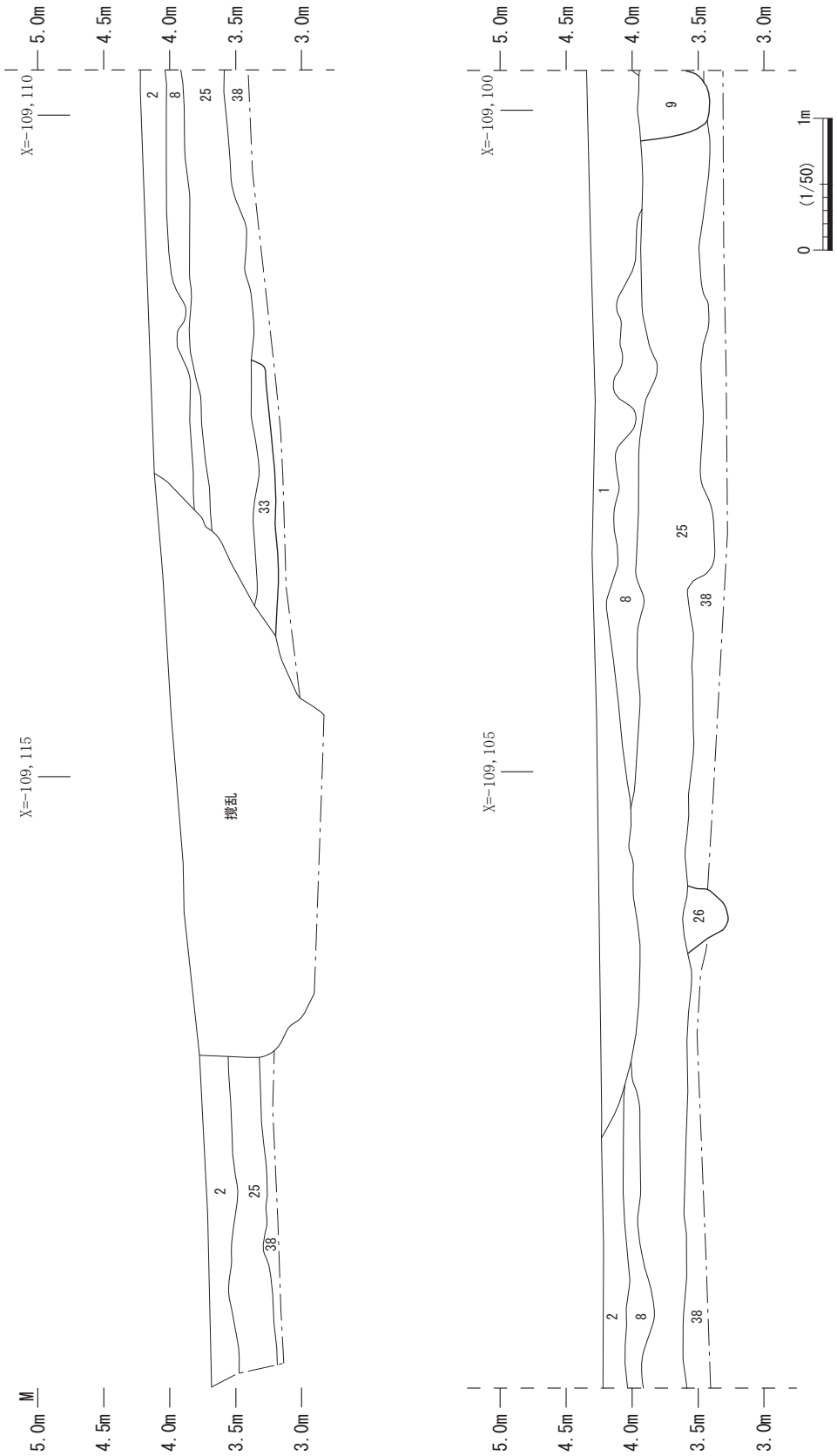
1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
5 10YR3/3暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
6 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロックを少量含む。炭化物を多量に含む)［SK50埋土］
7 7.5Y3/3暗褐色中粒砂(10YR2/2黒褐色中粒砂を多量に含む)［SK50埋土］
8 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK52埋土］
9 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SK52埋土］
10 10YR2/1黒色中粒砂［遺構埋土か］
11 10YR2/2黒褐色中粒砂［SX4埋土］
12 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SX4埋土］
13 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SK56埋土］
14 10YR2/3黒褐色中粒砂［SK57埋土］
15 10YR2/3黒褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SK57埋土］
16 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
17 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB12］
18 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(10YR3/2黒褐色中粒砂ブロックを含む)［SB10］
19 10YR2/3黒褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土［主として縄文時代から弥生時代の遺物を含む］
20 10YR2/3黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［主として縄文時代から弥生時代の遺物を含む］
21 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の互層［主として縄文時代から弥生時代の遺物を含む］
22 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 39 図　東畑遺跡２地点南壁 (G-H) 土層断面図２ (1/50)

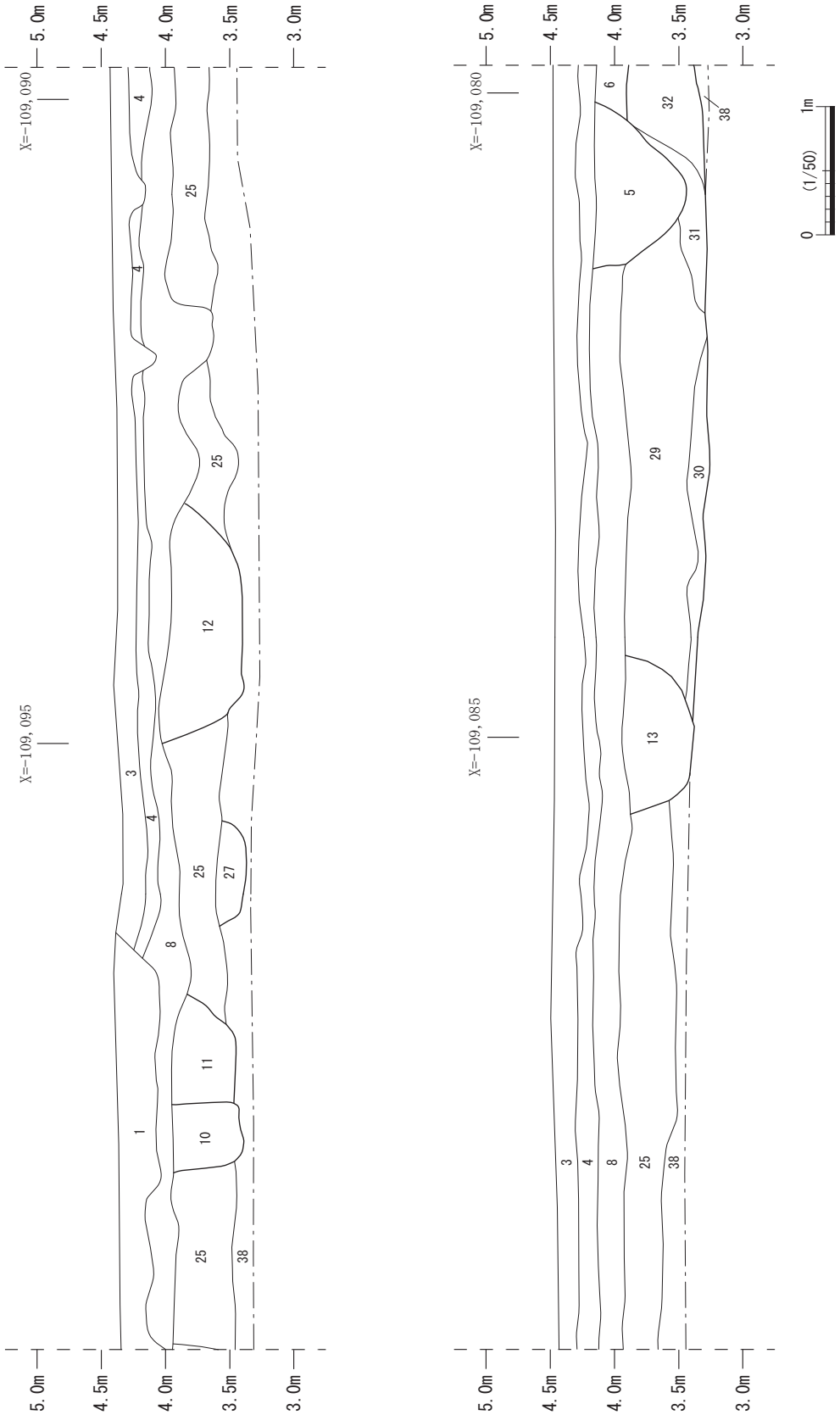


1 表土［盛土または作土・床土］
2 10YR3/4暗褐色中粒砂［SP211埋土］
3 10YR3/4暗褐色中粒砂［SD5埋土］
4 10YR2/3黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SD5埋土］
5 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SD5埋土］
6 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
7 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
8 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB5］
9 10YR2/2黒褐色中粒砂［SB5］
10 10YR2/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB5］
11 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK30埋土］
12 10YR3/3暗褐色中粒砂［SK30埋土］
13 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR3/3暗褐色中粒砂の互層［SK30埋土］
14 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

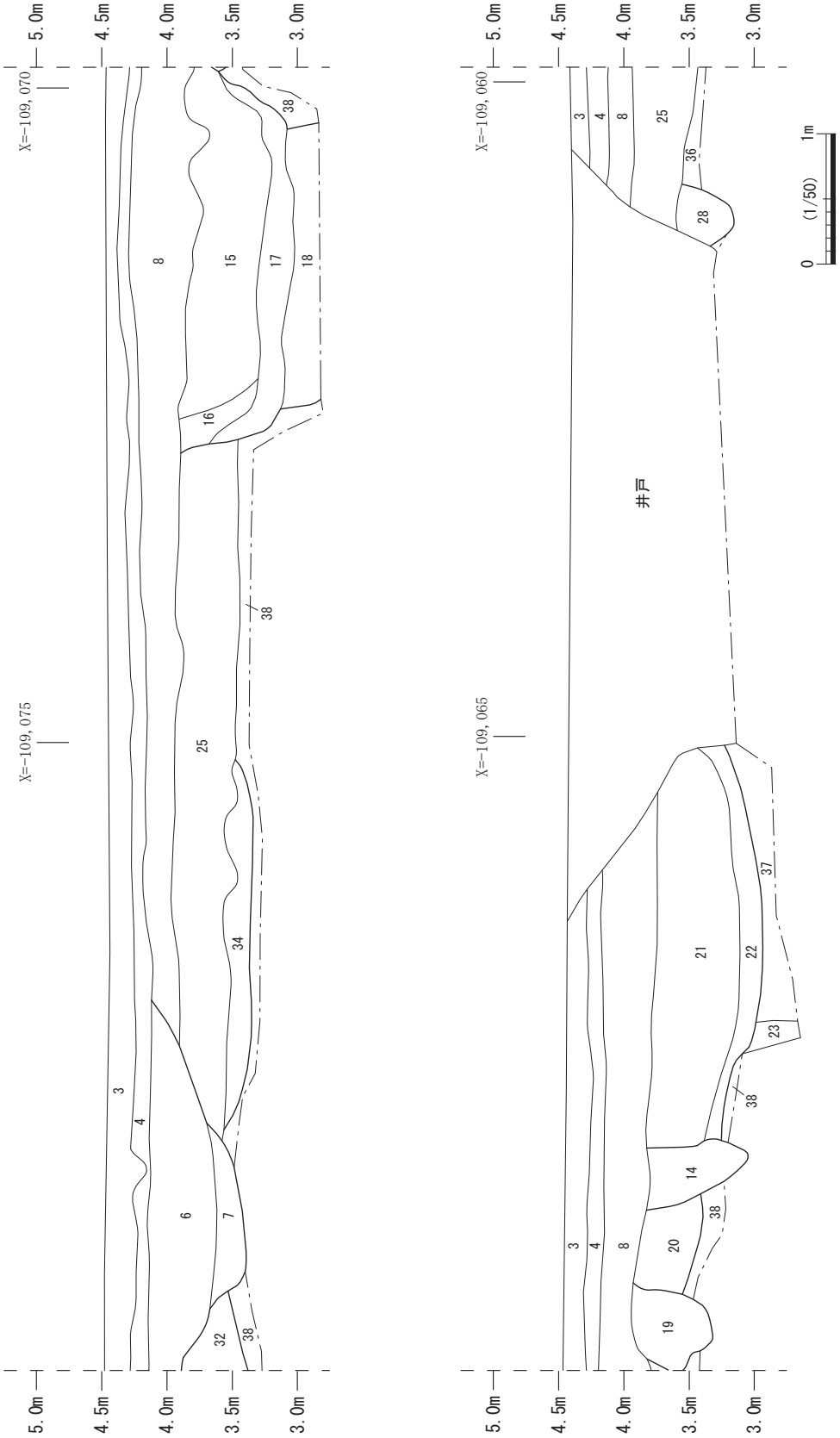
第 40 図　東畑遺跡２地点東壁（I-J）土層断面図（1/50）



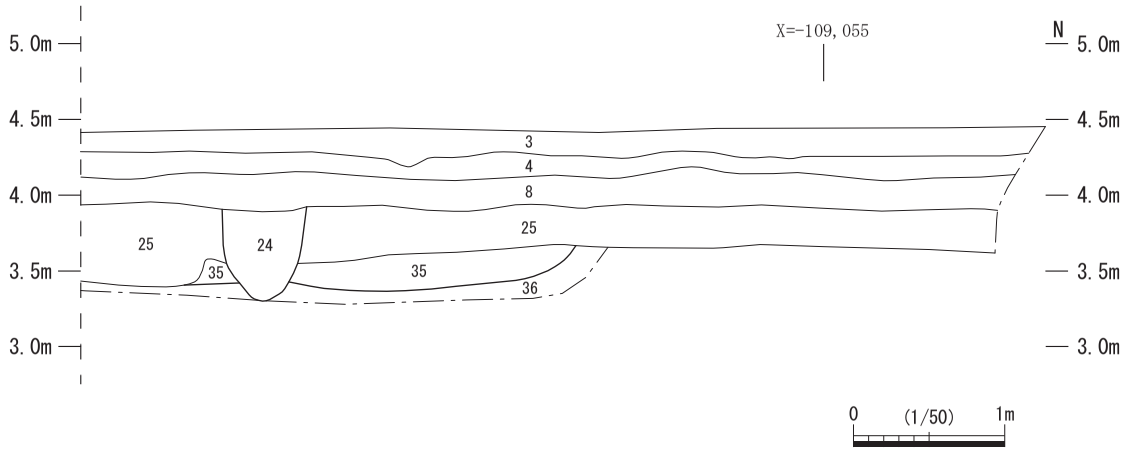
第 41 図　東畑遺跡２地点西壁（M-N）土層断面図１（1/50）



第 42 図　東畑遺跡２地点西壁（M-N）土層断面図２（1/50）

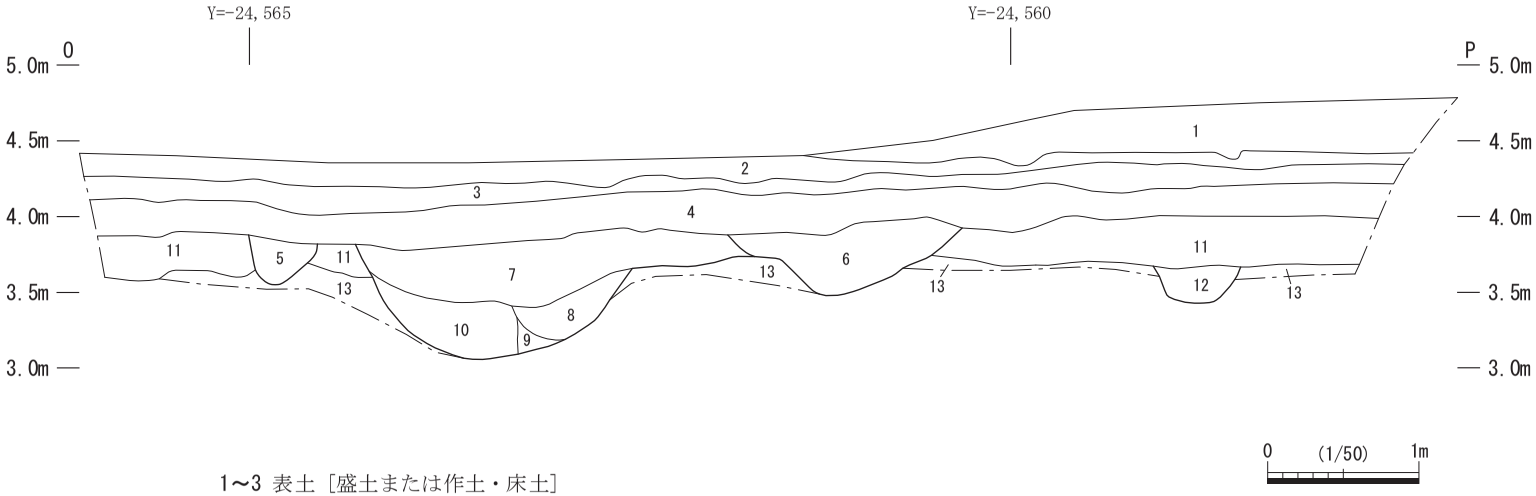


第 43 図　東畑遺跡２地点西壁（M-N）土層断面図３（1/50）



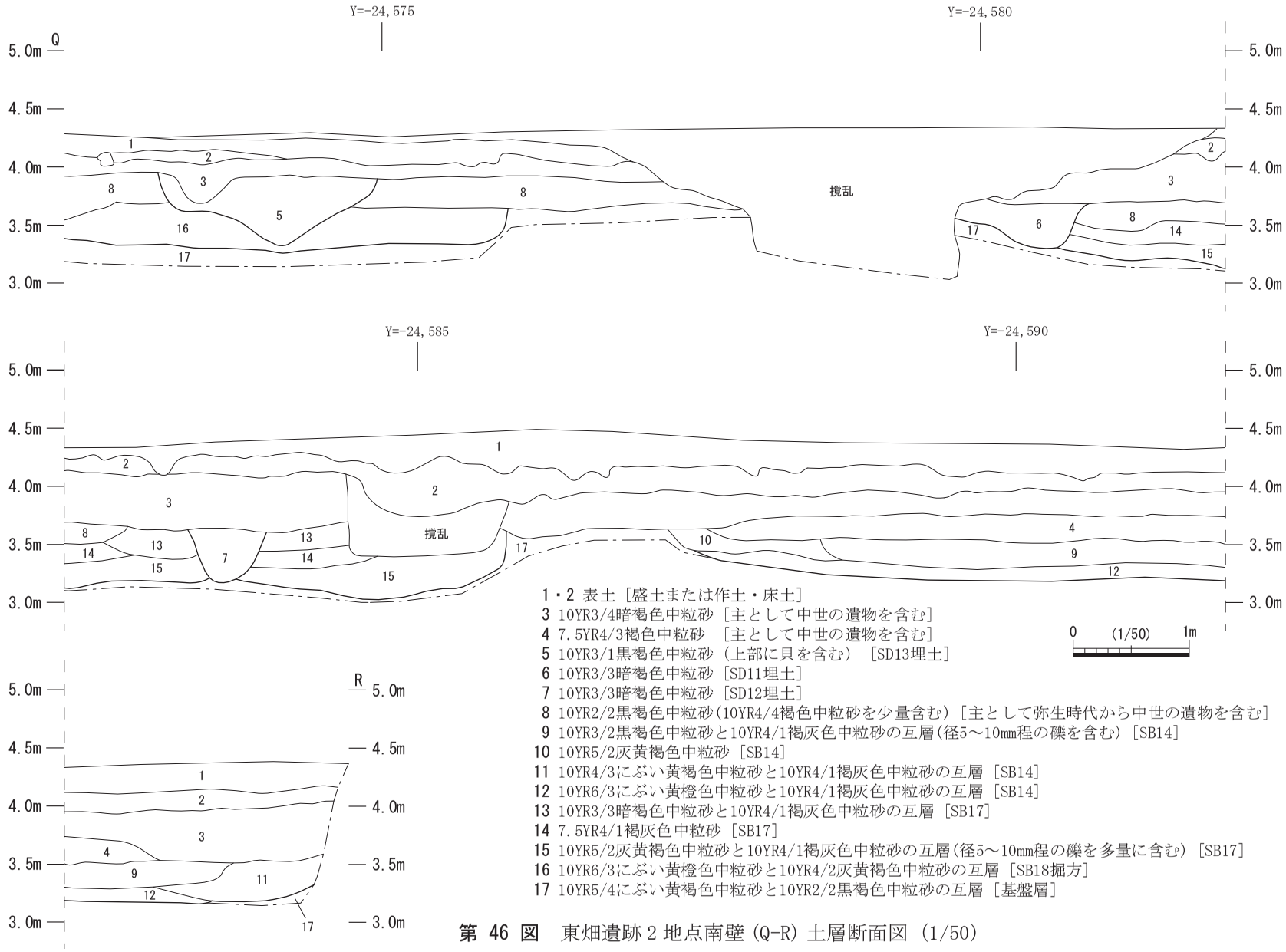
1～4 表土［盛土または作土・床土］
5 10YR3/3暗褐色中粒砂［遺構埋土か］
6 7.5Y3/2黒褐色中粒砂［SD3埋土］
7 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SD3埋土］
8 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
9 10YR2/2黒褐色中粒砂［遺構埋土か］
10 10YR3/2黒褐色中粒砂［遺構埋土か］
11 10YR2/2黒褐色中粒砂［遺構埋土か］
12 10YR3/1黒褐色中粒砂［SD13埋土］
13 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を含む)［SK24埋土］
14 10YR2/2黒褐色中粒砂［SP199埋土］
15 10YR3/2黒褐色中粒砂［SE2埋土］
16 10YR3/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SE2埋土］
17 10YR3/1黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SE2埋土］
18 10YR3/1黒褐色中粒砂［SE2埋土］
19 2.5Y3/3暗オリーブ褐色中粒砂［SP203埋土］
20 10YR2/3黒褐色中粒砂［SX1埋土］
21 10YR2/3黒褐色中粒砂［SX1埋土］
22 10YR3/2黒褐色砂質シルト［SX1埋土］
23 2.5Y3/2黒褐色中粒砂［根か］
24 10YR2/2黒褐色中粒砂［SP209埋土］
25 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)
［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
26 10YR2/2黒褐色中粒砂［SP212埋土］
27 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD15埋土］
28 2.5Y3/2黒褐色中粒砂［SP198埋土］
29 10YR3/1黒褐色中粒砂　［SB3］
30 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SB3］
31 10YR2/1黒色中粒砂［SB3］
32 10YR2/2黒褐色中粒砂［SB3］
33 10YR3/3暗褐色中粒砂［SB6］
34 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［SX2埋土］
35 2.5Y3/3暗オリーブ褐色中粒砂［SB13］
36 10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂［基盤層］
37 10YR4/4褐色中粒砂［基盤層］
38 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 44 図　東畑遺跡２地点西壁（M-N）土層断面図４（1/50）



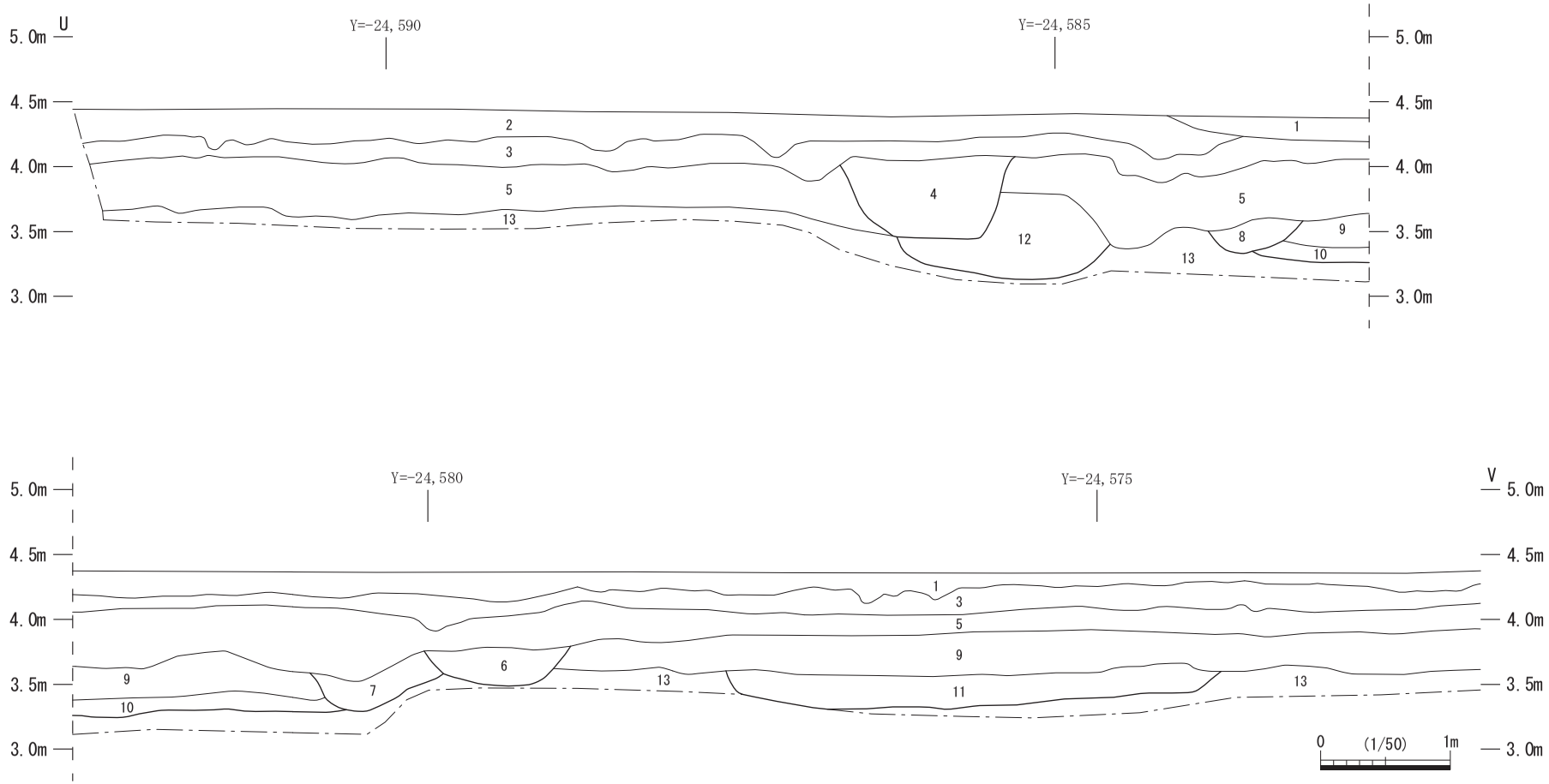
1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
5 10YR2/1黒色中粒砂［遺構埋土か］
6 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SK11埋土］
7 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK8埋土］
8 10YR3/2黒褐色中粒砂［SK8埋土］
9 10YR6/4にぶい黄橙色中粒砂(10YR3/2黒褐色中粒砂を含む)［SK8埋土］
10 10YR3/2黒褐色中粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SK8埋土］
11 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
12 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［SP12埋土］
13 10YR5/6黄褐色中粒砂［基盤層］

第 45 図　東畑遺跡２地点北壁（O-P）土層断面図（1/50）



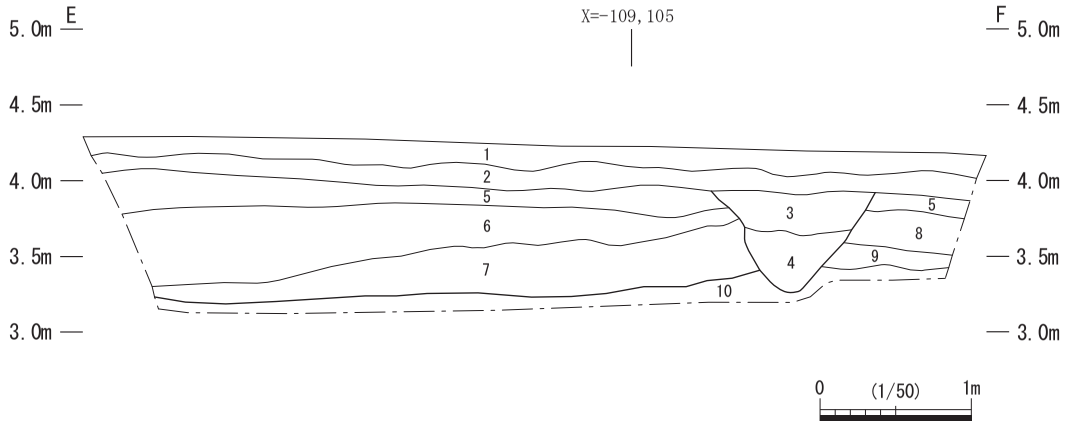
1・2 表土［盛土または作土・床土］
3 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
4 7.5YR4/3褐色中粒砂　［主として中世の遺物を含む］
5 10YR3/1黒褐色中粒砂（上部に貝を含む）［SD13埋土］
6 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD11埋土］
7 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD12埋土］
8 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
9 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層(径5～10mm程の礫を含む)［SB14］
10 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SB14］
11 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SB14］
12 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SB14］
13 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SB17］
14 7.5YR4/1褐灰色中粒砂［SB17］
15 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層(径5～10mm程の礫を多量に含む)［SB17］
16 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の互層［SB18掘方］
17 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 46 図　東畑遺跡２地点南壁（Q-R）土層断面図（1/50）



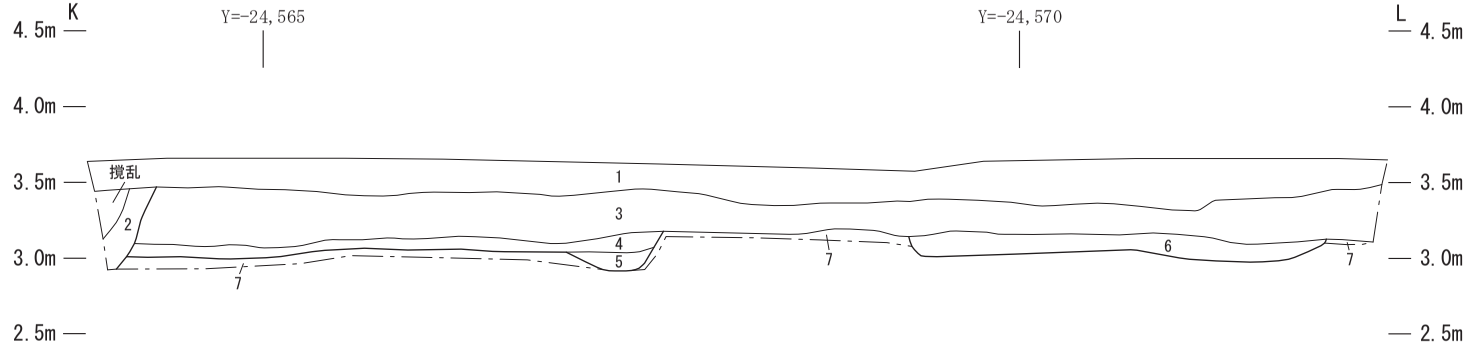
1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR3/4暗褐色中粒砂［SD10埋土］
5 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
6 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD14埋土］
7 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD11埋土］
8 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD12埋土］
9 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
10 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層(径5～10mm程の礫を多量に含む)［SB17］
11 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SD16埋土］
12 10YR3/1黒褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SK70埋土］
13 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 47 図　東畑遺跡２地点北壁（U-V）土層断面図（1/50）



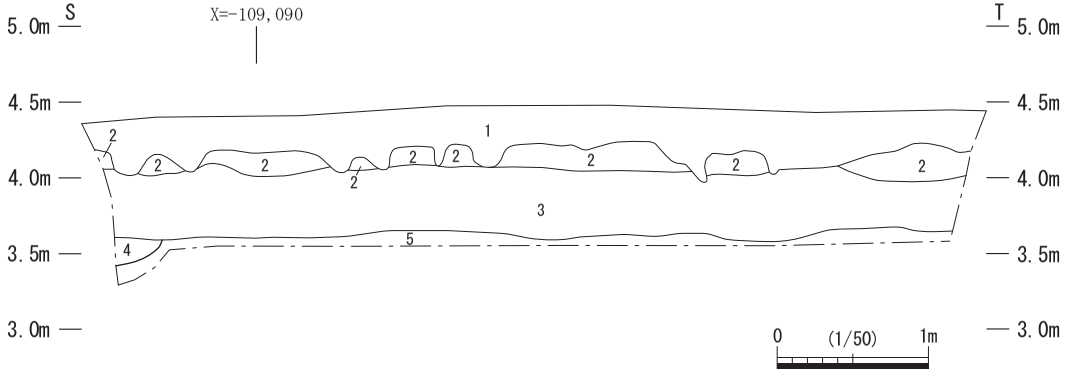
1～2 表土［盛土または作土・床土］
3 10YR3/3暗褐色中粒砂［遺構埋土か］
4 10YR5/8黄褐色粗粒砂［遺構埋土か］
5 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
6 10YR3/3暗褐色中粒砂(貝を多量に含む)［SK46埋土］
7 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK46埋土］
8 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
9 10YR2/3黒褐色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土［主として縄文時代から弥生時代の遺物を含む］
10 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 48 図　東畑遺跡２地点東壁（E-F）土層断面図（1/50）



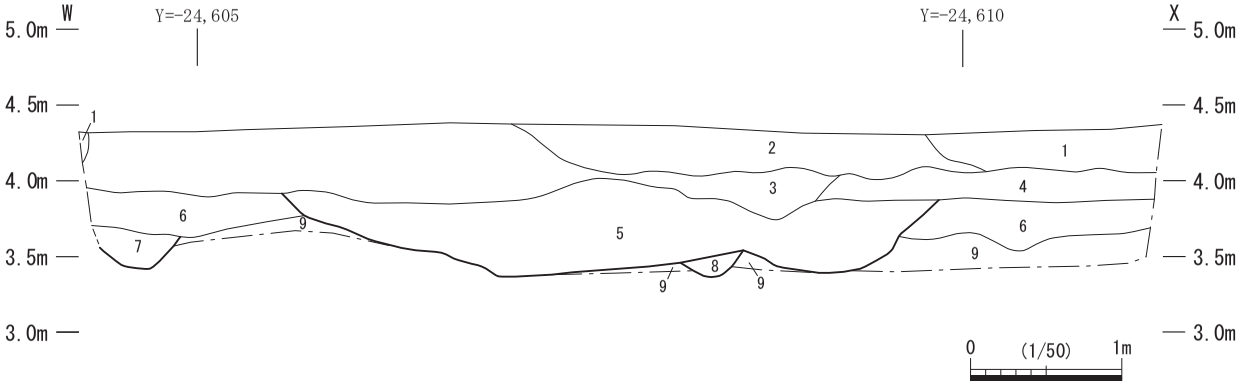
1 表土［盛土または作土・床土］
2 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SD5埋土］
3 10YR2/2黒褐色中粒砂(10YR4/4褐色中粒砂を少量含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
4 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB15］
5 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR3/3暗褐色中粒砂を少量含む)［SB15掘方］
6 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SB16］
7 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 49 図　東畑遺跡２地点南壁（K-L）土層断面図（1/50）



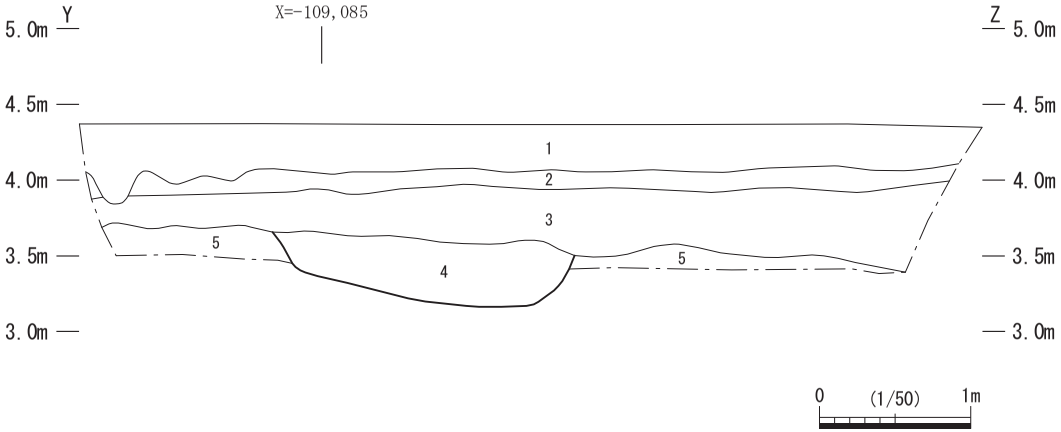
1・2 表土[盛土または作土・床土]
3 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
4 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SB14］
5 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/2黒褐色中粒砂の互層［基盤層］

第 50 図　東畑遺跡２地点西壁（S-T）土層断面図（1/50）



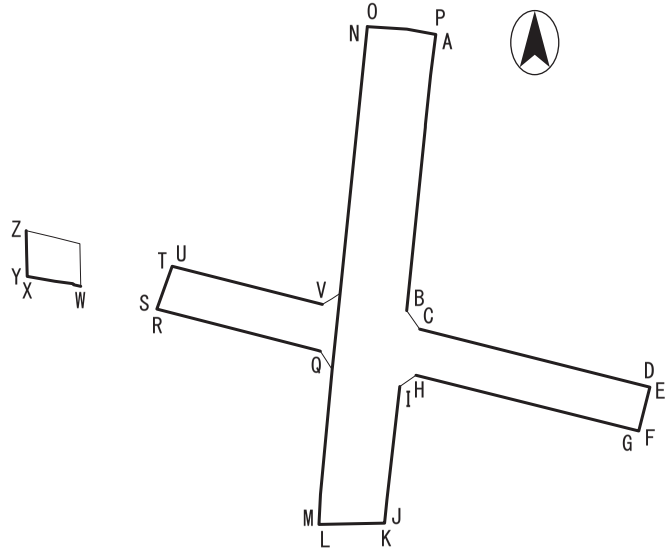
1～4 表土［盛土または作土・床土］
5 7.5YR4/3褐色中粒砂(径5～20mm程の礫を多量に含む)［SD8埋土］
6 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
7 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む)［SP190埋土］
8 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(地山ブロックを含む)［SD9埋土］
9 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［基盤層］

第 51 図　東畑遺跡２地点南壁（W-X）土層断面図（1/50）



1・2 表土［盛土または作土・床土］
3 10YR3/4暗褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
4 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SK61埋土］
5 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［基盤層］

第 52 図　東畑遺跡２地点西壁（Y-Z）土層断面図（1/50）



第 53 図　東畑遺跡２地点土層断面図の位置（1/1,000）
（A ～ Z は第 34 ～第 52 図の土層断面図と対応する）

第２節　遺　　構（第54～90図，図版第32～42）

A 弥生・古墳時代

竪穴建物

SB1（第54図，図版第32・33・39）

２地点の北側Ⅰ E14g･14h･15g･15h区に位置する。隅丸方形の平面プランを呈する竪穴建物である。SK18、SP56・69～72・80・81、SE2に切られる。長軸長約505cm、短軸長約480cm、遺構検出面からの掘方の深さ約20cmである。SP77、SK21・23、SD6が伴う。SP94は検出面が定かではないが、SP77、SK21・23を含めたこの４つの遺構は柱痕跡が確認されていないものの並びがよく、比較的深さもある。主柱穴を構成していた可能性がある。また、SB2の壁際の溝状の窪みであるSD6は掘方の可能性がある。土層断面の観察や遺物の出土位置から、SB1断面図の３・４層下が床面であったと思われる。土層断面では壁際に僅かな落ち込みが確認されており、周壁溝になることも想定される。

床面から松河戸Ⅱ式の小型壺（29）が出土している。他に廻間式や宇田式の土器の出土もみられるが、床面から出土した土器は松河戸式が主体である。よって遺構は古墳時代前期から中期にあたる松河戸Ⅱ式期に位置付けられる。

SB2（第55図）

２地点の北側Ⅰ E13h・13i・14h・14i区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の東半分は調査区外で、南側はSK18、SE1に切られる。また、中世の柱穴であるSP35・38～43・48・49・52・53・82に切られる。長軸長約464cm、短軸長約205m、遺構検出面からの掘方の深さ約25cmである。主柱穴・周壁溝は確認されていない。遺物は高蔵式の細頸壺の胴部片が出土している。

SB3（第56図，図版第33・39）

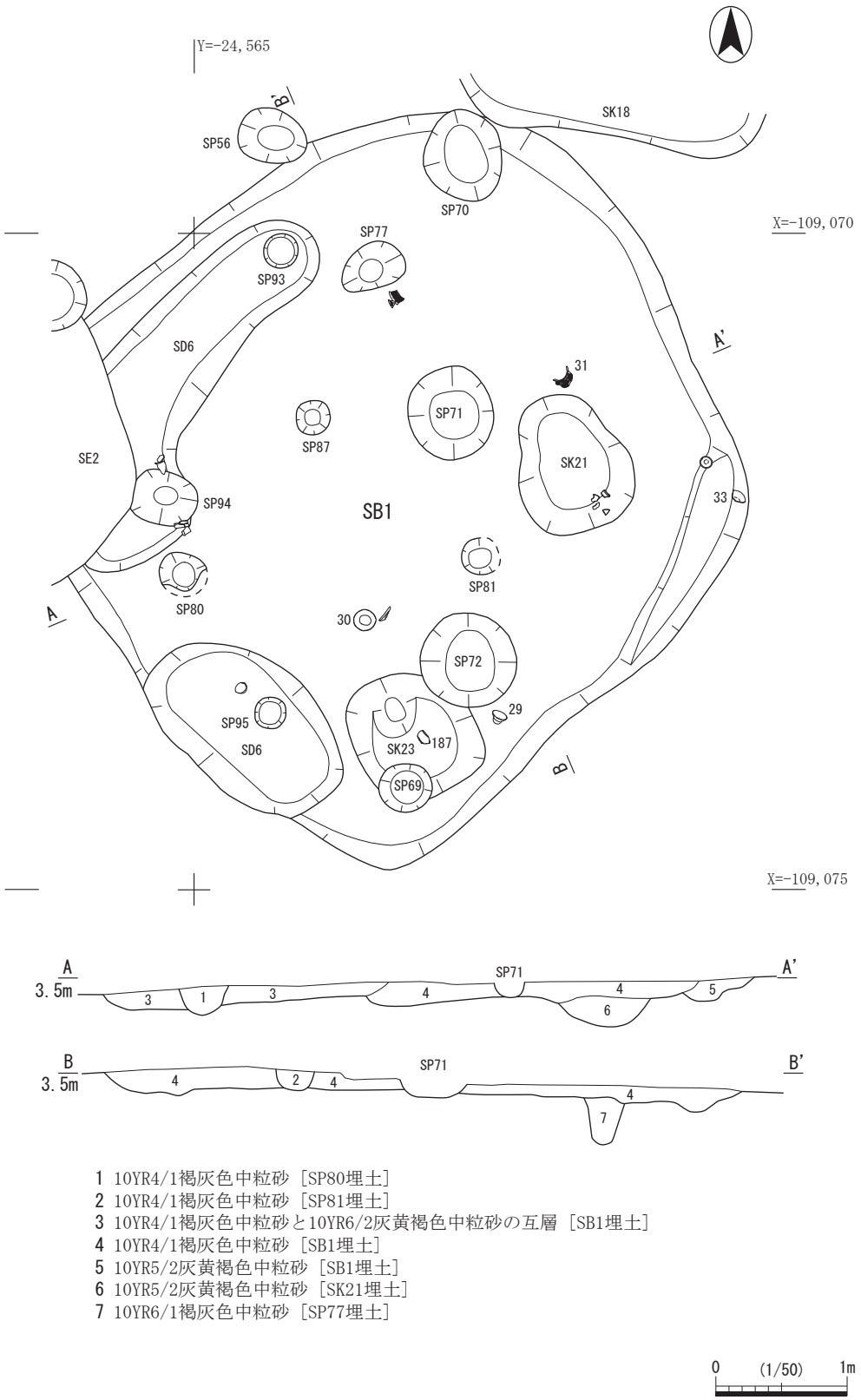
２地点の中央北側Ⅰ E16g・17g区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の西側は調査区外へと続く。SK24、SP210、SD3に切られる。長軸長約510cm、短軸長約330cm、遺構検出面からの掘方の深さ約45cmである。土層断面の観察から貼床を行っていない可能性がある。主柱穴・周壁溝は確認されていない。

遺物はＳ字状口縁台付甕（B類）や小型器台などが出土している。遺構は古墳時代早期にあたる廻間Ⅱ式期のものであろう。

SB4（第57図，図版第33・34・39）

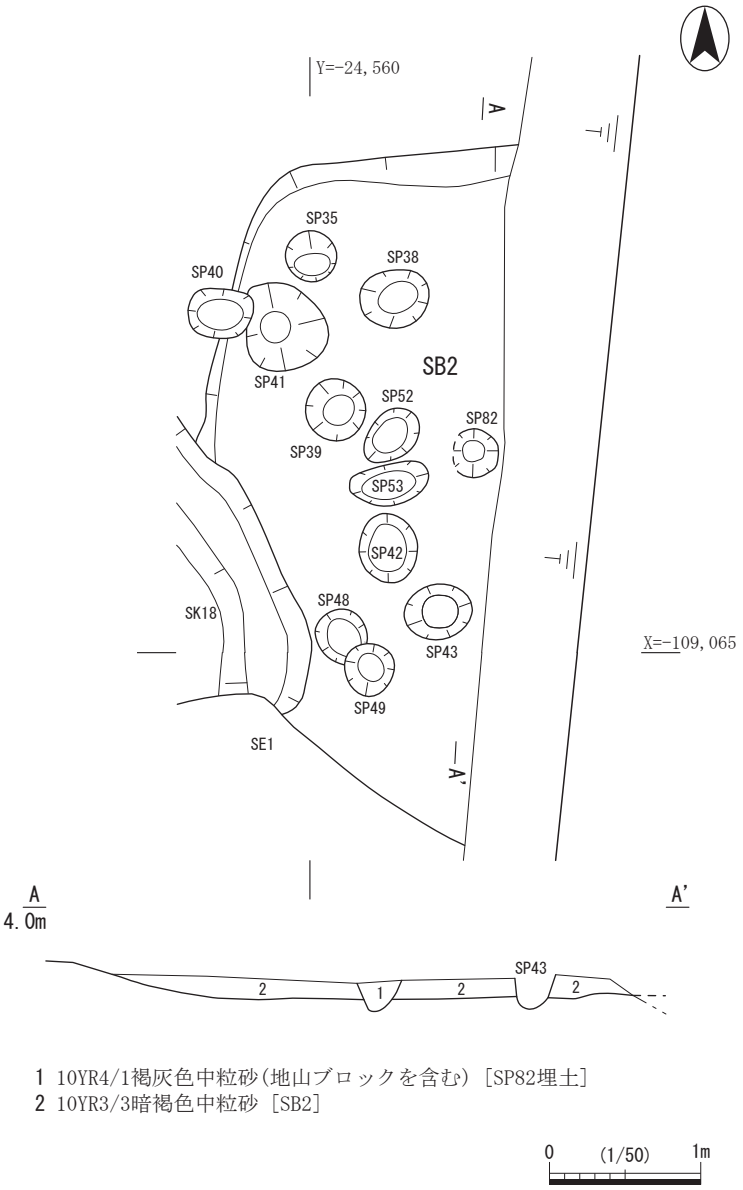
２地点の中央Ⅰ E18g・Ⅰ E18h・Ⅰ E19g・Ⅰ E19h区に位置する。長方形の平面プランを呈する竪穴建物である。SK27・29、SD3に切られる。SK34はこの竪穴建物に伴う土坑と思われる。長軸長約500cm、短軸長約378cm、遺構検出面からの掘方の深さ約28cmである。遺物の出土位置と土層断面の観察から、SB4断面図の８・９層は掘方埋土であると考えられる。また、５・６層は竪穴建物の床面より上の埋土であるか掘方埋土であるか判断が難しい。仮に掘方埋土とするならば、SP112・113は床面に伴う柱穴となる可能性がある。残りのよい遺物はすべて標高3.5m程から出土している。西・南壁沿いに周壁溝が巡ることが確認されている。

南西隅床面で布留系の甕（39）を含む土師器甕が３個体並んで出土した。他に屈折脚の高杯や



1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP80埋土］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP81埋土］
3 10YR4/1褐灰色中粒砂と10YR6/2灰黄褐色中粒砂の互層［SB1埋土］
4 10YR4/1褐灰色中粒砂［SB1埋土］
5 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SB1埋土］
6 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SK21埋土］
7 10YR6/1褐灰色中粒砂［SP77埋土］

第 54 図　東畑遺跡２地点 SB1 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 55 図　東畑遺跡 2 地点 SB2 平面図・断面図（1/50）

小型の有段口縁壺（43）が出土している。遺構は古墳時代前期から中期にあたる松河戸Ⅱ式期に位置付けられる。

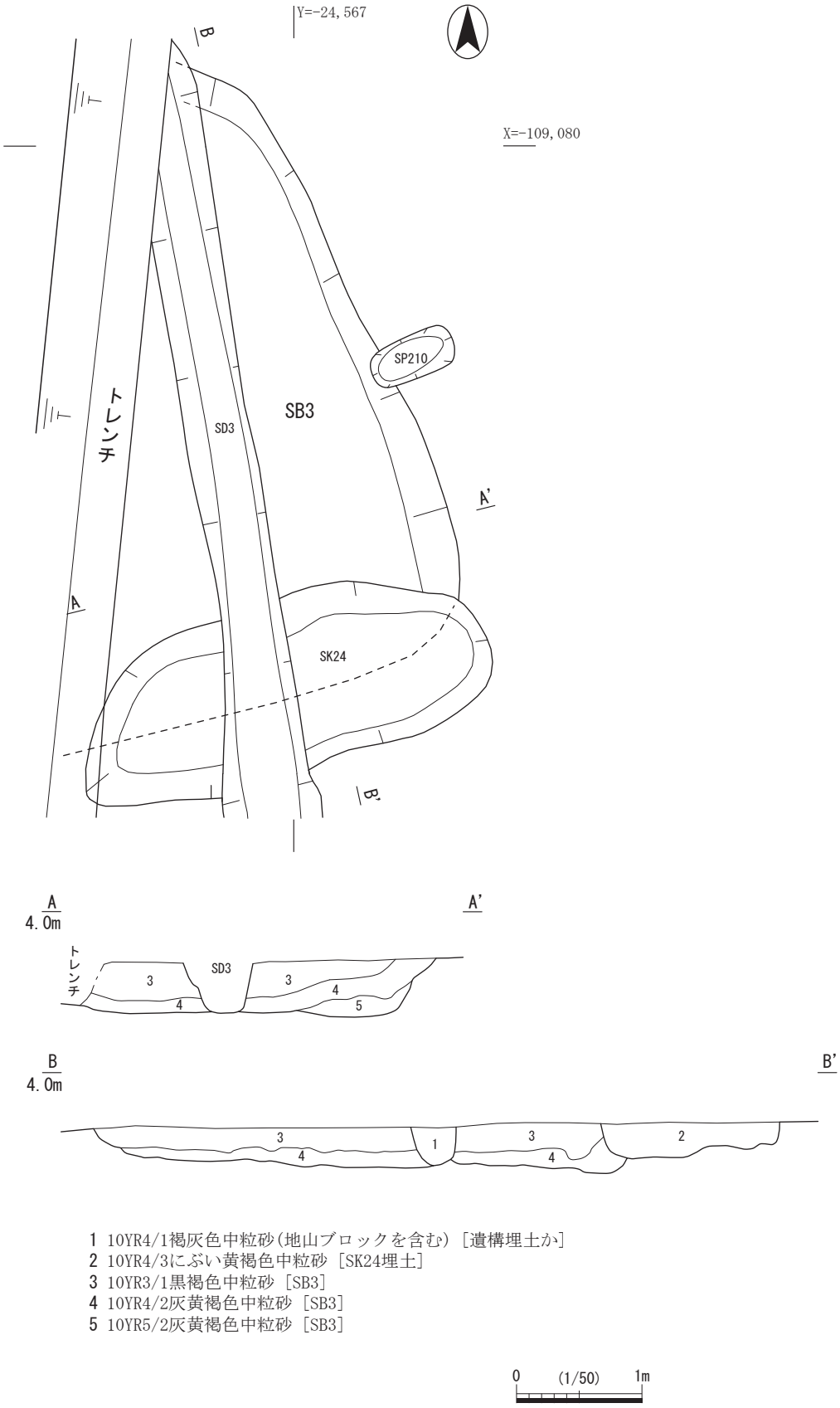
SB5（第 58 図，図版第 34）

2 地点の南側Ⅱ E2h ・3h 区に位置する竪穴建物である。遺構の大半は調査区外で、北壁の一部を検出したのみである。SK30 を切り、SD5 に切られる。長軸長約 358cm、短軸長約 83cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 50cm である。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

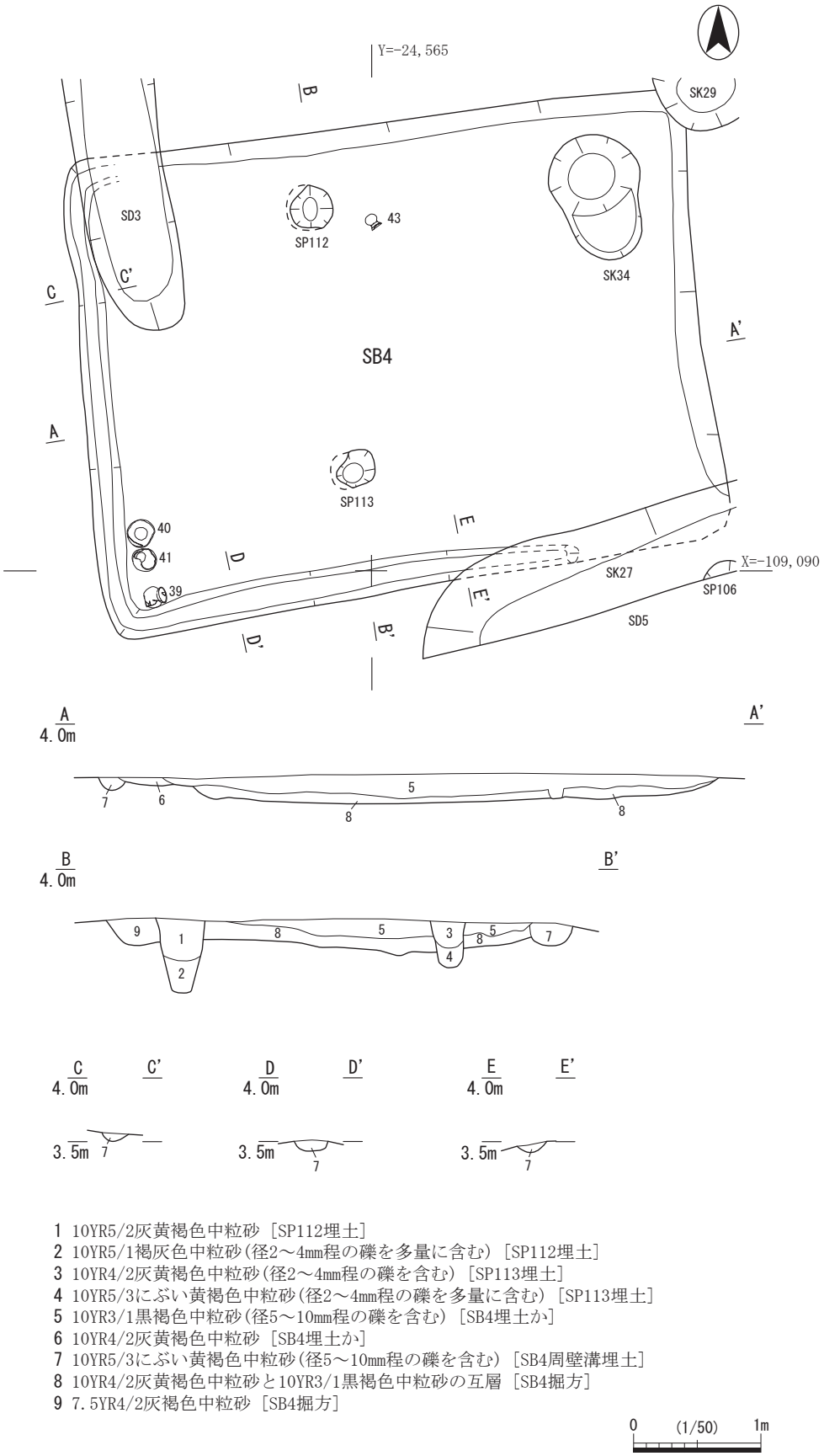
北壁近くで東海系器台（44）が出土している。遺構は古墳時代前期の廻間Ⅲ式期のものと思われるが、出土遺物が少なく、判断材料に乏しい。

SB6（第 59・60 図，図版第 34）

2 地点の南端Ⅱ E3f・3g・4f ・4g 区に位置する。隅丸方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の西側は調査区外へと続く。SK31 を切り、撹乱に切られる。長軸長約 548cm、短軸長約 378cm、



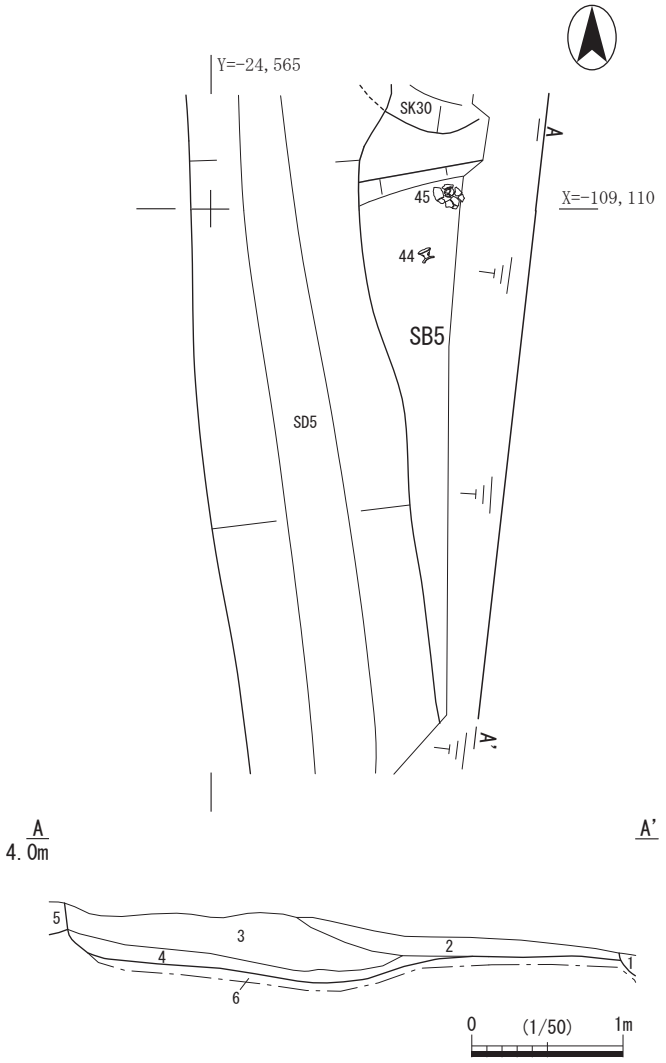
第 56 図　東畑遺跡２地点 SB3 平面図・断面図（1/50）



1 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SP112埋土］
2 10YR5/1褐灰色中粒砂(径2～4mm程の礫を多量に含む)［SP112埋土］
3 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(径2～4mm程の礫を含む)［SP113埋土］
4 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(径2～4mm程の礫を多量に含む)［SP113埋土］
5 10YR3/1黒褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む)［SB4埋土か］
6 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SB4埋土か］
7 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む)［SB4周壁溝埋土］
8 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と10YR3/1黒褐色中粒砂の互層［SB4掘方］
9 7.5YR4/2灰褐色中粒砂［SB4掘方］

0　(1/50)　1m

第 57 図　東畑遺跡 2 地点 SB4 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



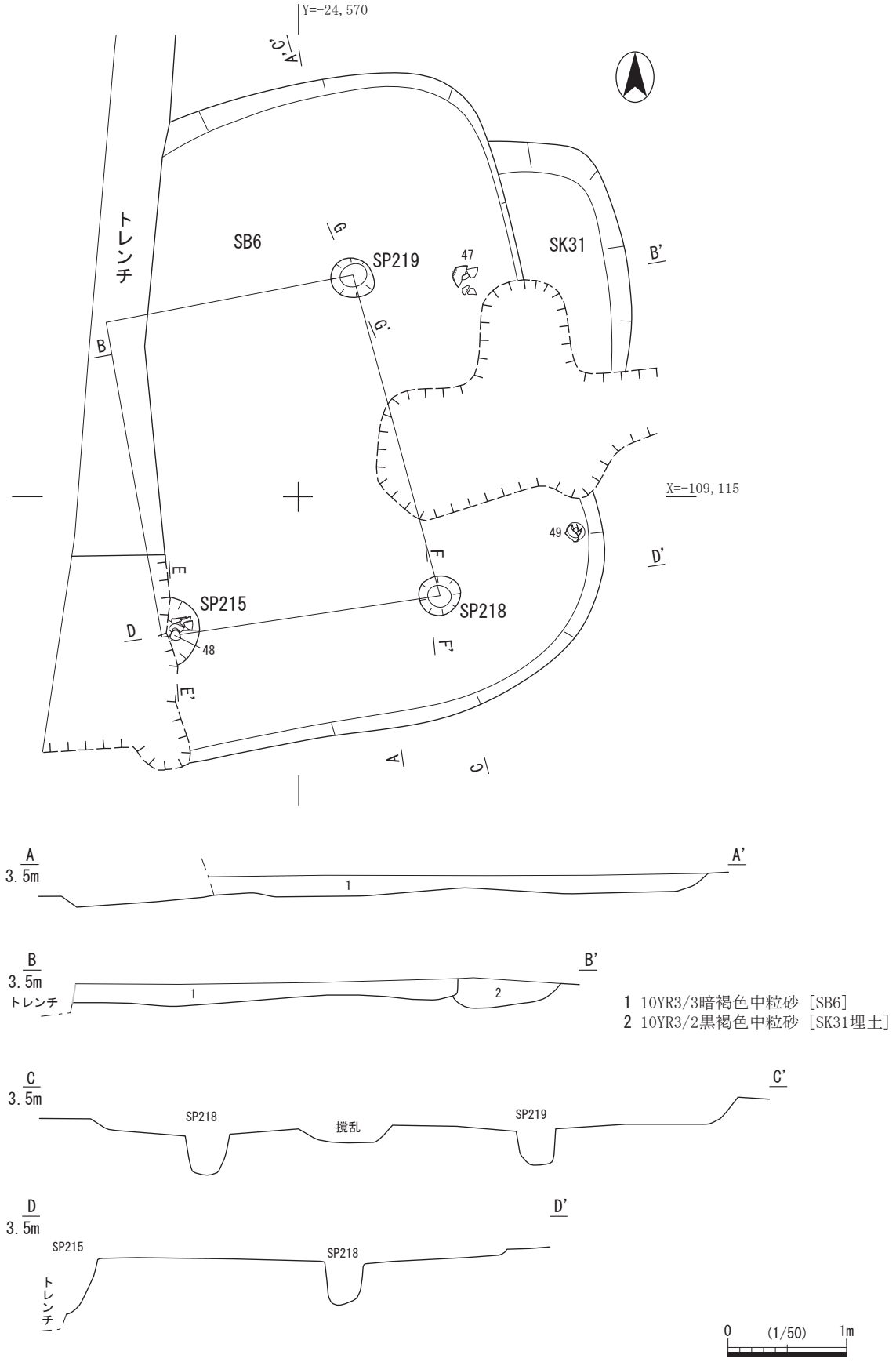
第 58 図　東畑遺跡 2 地点 SB5 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

遺構検出面からの掘方の深さ約 20cm である。遺物の出土位置から SB6 断面図の 1 層は掘方埋土である可能性がある。また、主柱穴を 3 基（SP215・218・219）検出した。周壁溝は確認されていない。

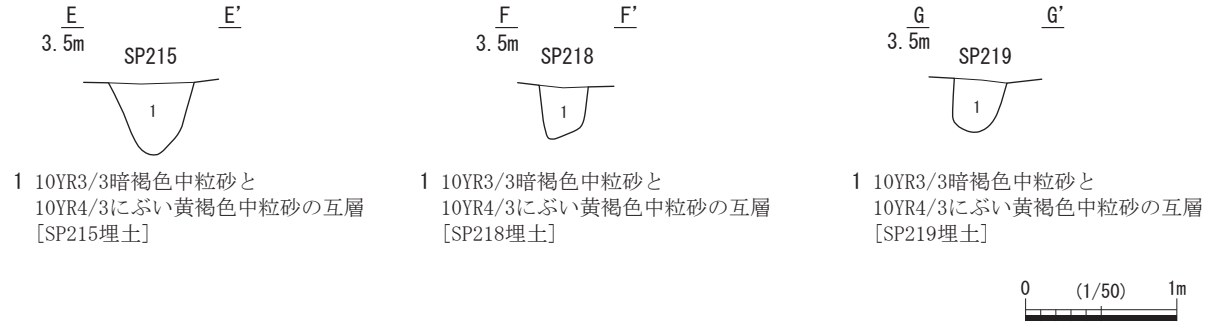
遺物は廻間Ⅱ～Ⅲ式のものが主体である。SP215 上部では有段高杯が一個体（48）出土している。他に床面と想定される高さから土師器の有稜高杯や鉢（49）が出土している。また、敲石も出土している。

SB7（第 61 図，図版第 34・39）

2 地点の中央Ⅰ E19g 19h・20g ・20h 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。



第 59 図　東畑遺跡 2 地点 SB6 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 60 図　東畑遺跡２地点 SB6 主柱穴断面図（1/50）

SK27 と SD5 に切られる。西壁は包含層掘削時に掘り下げていて、明確な立ち上がりは確認できなかった。長軸長約 570cm、短軸長約 485cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 35cm である。遺物は主として標高 3.35m 前後から出土している。この高さは、ほぼ SB7 断面図の１層と 2･3 層の間に一致する。このような遺物の出土状況や土層断面の観察から２・３層は掘方埋土であると考える。また、竪穴建物西側の床面直上から粘土塊が出土した。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

遺物はほぼ廻間式期のものに限られる。その中でも確実に遺構に伴うものは、広口壺（51）や有段高杯（55）など廻間Ⅰ式期のものが中心である。遺構は弥生時代終末期にあたる廻間Ⅰ式期に位置付けられる。

SB8（第 62 図，図版第 34・39）

２地点の中央南側Ⅰ E20g･20h、Ⅱ E1g･1h 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。SK43 を切り、SK36、SD5 に切られる。長軸長約 550cm、短軸長約 523cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 34cm である。西側は検出時にほぼ床面が露出しており、僅かな埋土を確認したのみである。掘方は西・南壁際を若干深く掘り込み、幅広の溝状となる。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

遺物は床面から山中Ⅱ式の高杯や甕が出土しているが、廻間式期の土器も混入する。遺構は弥生時代後期にあたる山中Ⅱ式期のものであると考えたい。

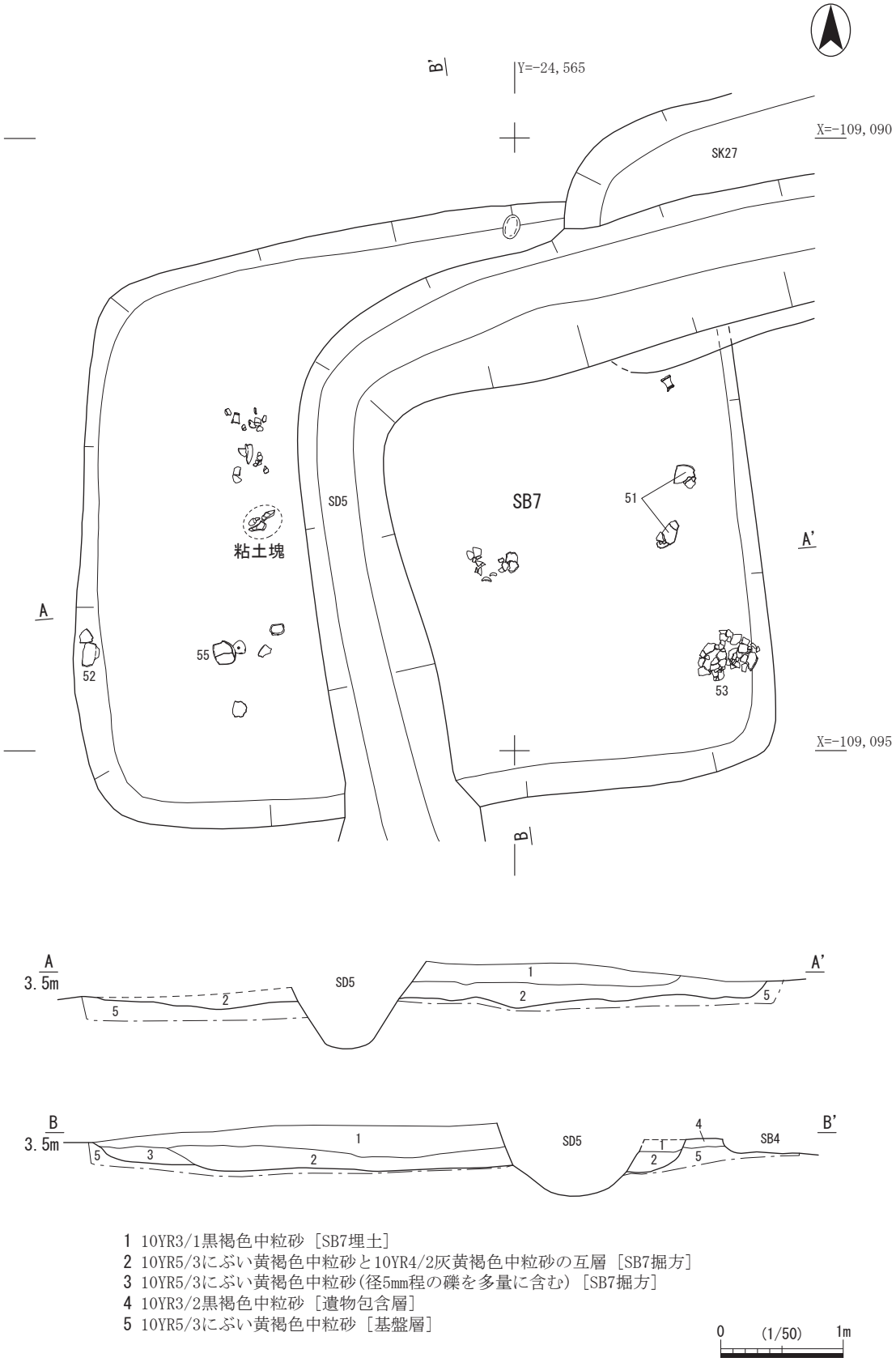
SB9（第 63 図，図版第 34）

２地点の東側Ⅰ E19i・20i・20j 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の北半分は調査区外へと続く。SX3 や南側に隣接する SB10 を切り、SP129･137･138･147･148、柵（SA2）を構成する SP143・144 に切られる。長軸長約 535cm、短軸長約 432cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 10cm である。南壁際中央に位置する SK54 は SB9 に伴うと思われる。遺物の出土位置や調査区北壁の土層観察から、SB9 断面図の１層は掘方埋土である可能性がある。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

遺物は SK54 から出土した器台（61）など山中Ⅱ式のものが主体である。SB9 は弥生時代後期に位置付けられる。

SB10（第 64 図，図版第 34）

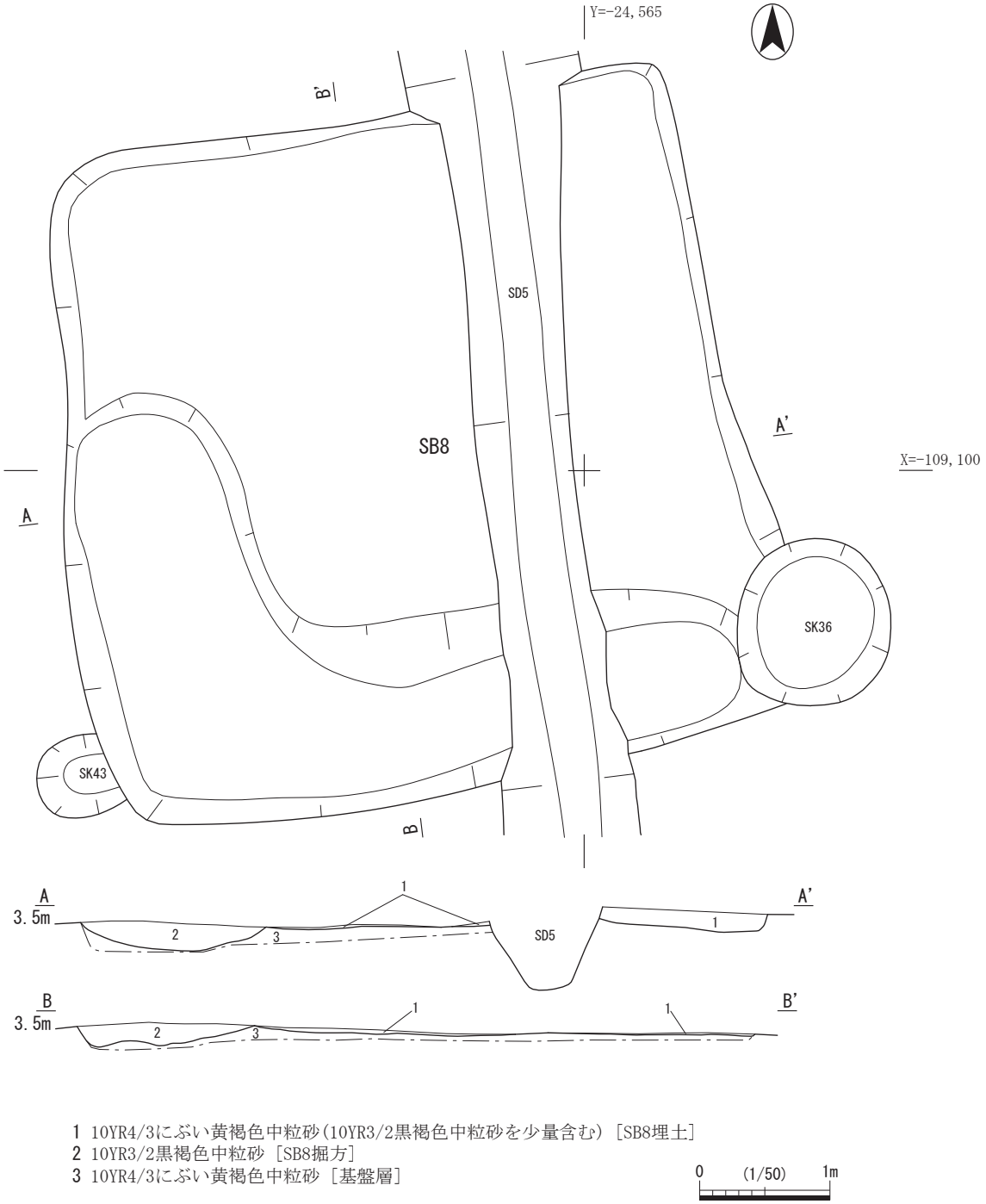
２地点の東側Ⅰ E20i・20j・Ⅱ E1i・1j 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の南半分は調査区外へと続く。SK57 や SP129･139･174、SX4、北側に隣接する SB9 に切られる。



1 10YR3/1黒褐色中粒砂［SB7埋土］
2 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の互層［SB7掘方］
3 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(径5mm程の礫を多量に含む)［SB7掘方］
4 10YR3/2黒褐色中粒砂［遺物包含層］
5 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［基盤層］

0　(1/50)　1m

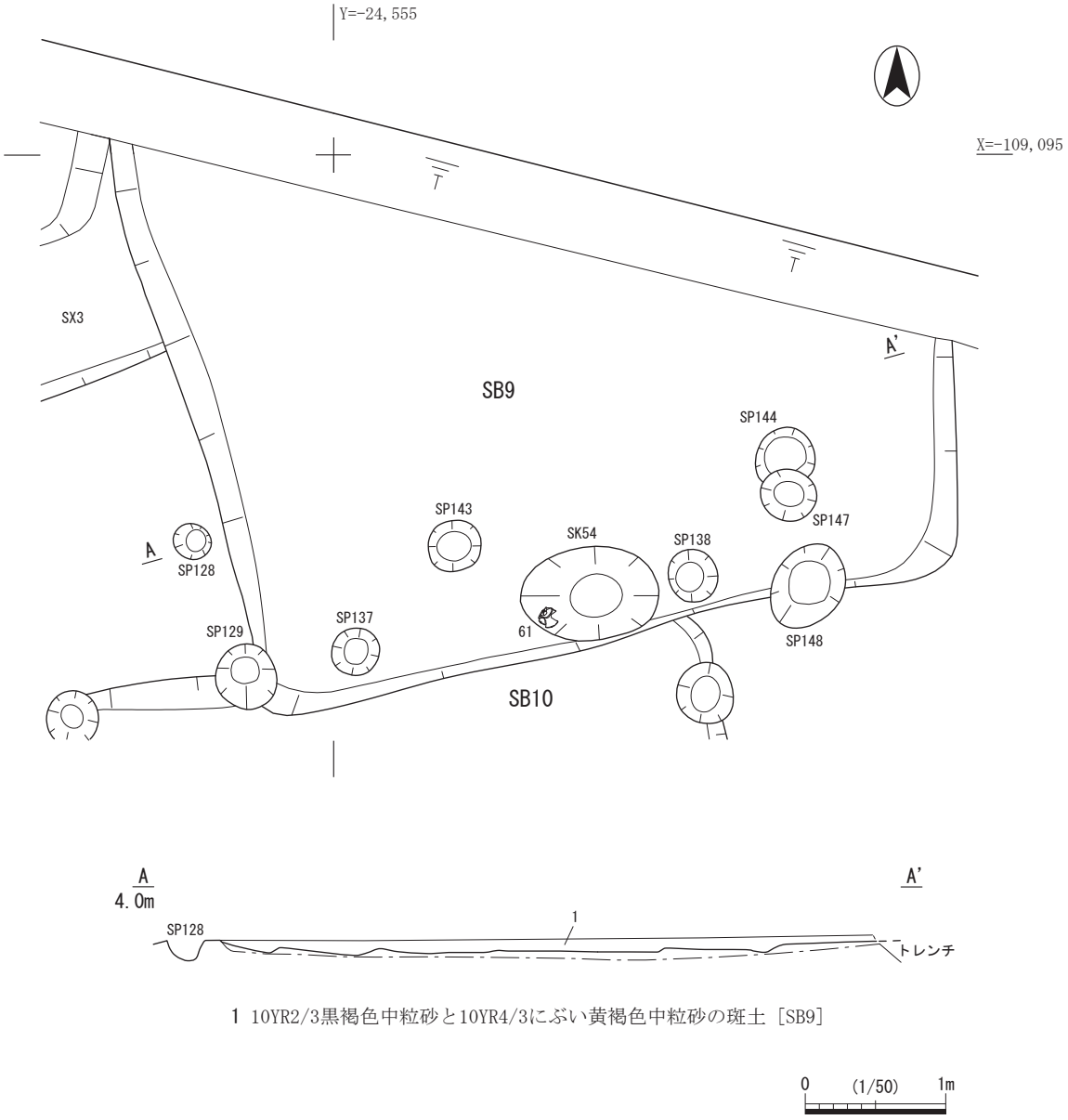
第 61 図　東畑遺跡 2 地点 SB7 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 62 図　東畑遺跡２地点 SB8 平面図・断面図（1/50）

長軸長約 530cm、短軸長約 295cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 18cm である。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

遺物は縄文時代晩期の元刈谷式土器や弥生中期の土器が大半を占める。SB10 が縄文時代晩期前葉の遺構を切る可能性が考えられるが、確証はない。弥生土器として貝田町式、高蔵式（63）の壺や砥石（188）がみられる。遺構はおそらく弥生時代中期のものであろう。



第 63 図　東畑遺跡 2 地点 SB9 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

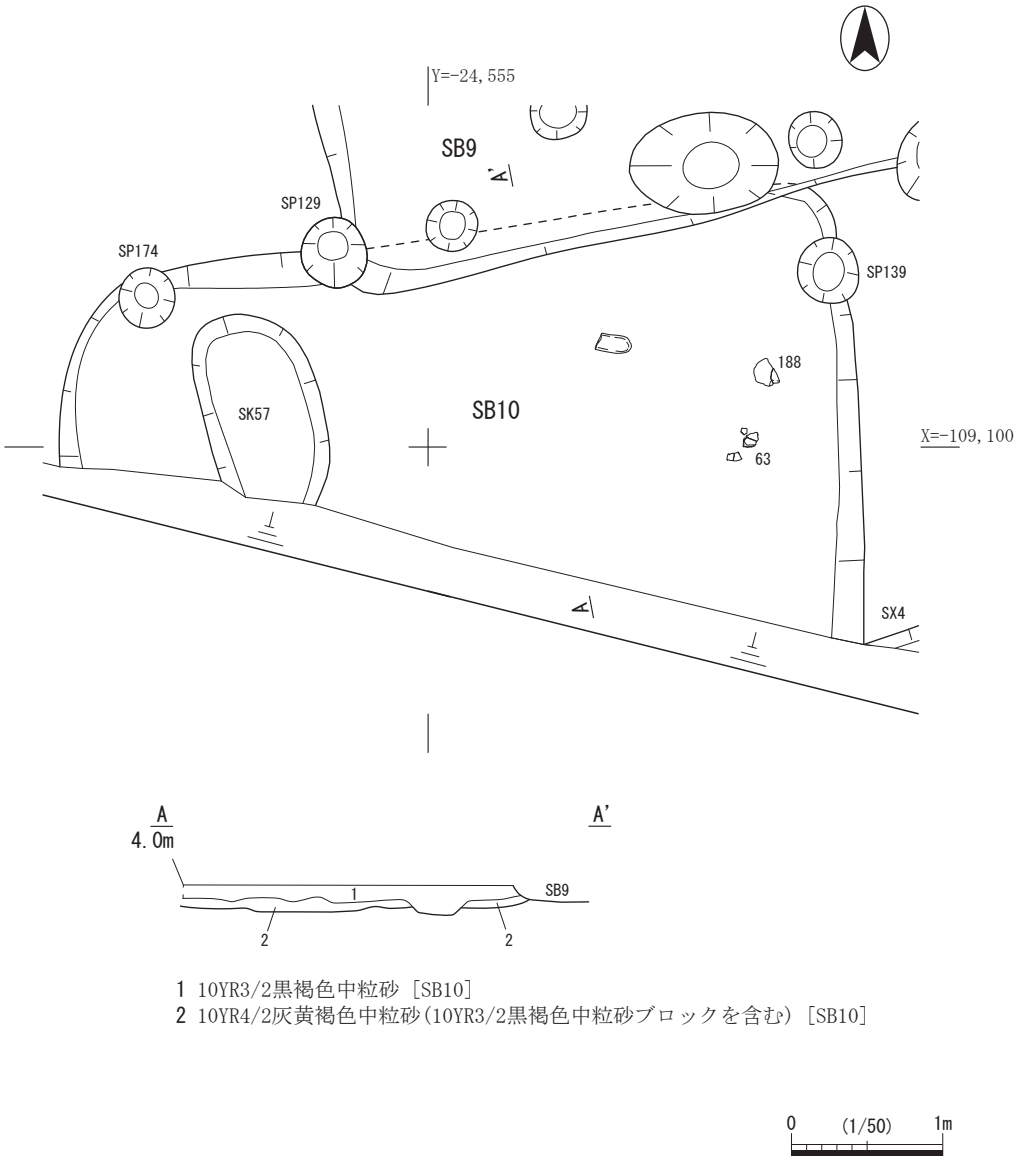
SB11（第 65 図，図版第 35）

2 地点の東側Ⅰ E20k・201・Ⅱ E1k・11 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の北側は調査区外へと続く。SB12 を切り、SK51、SP150・151・158・175・188・189・205 に切られる。長軸長約 643cm、短軸長約 480cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 32cm である。遺物は標高 3.6 ～ 3.8m 付近でまとまって出土している。SB11 断面図の 5 ～ 8 層は掘方埋土、9 層は竪穴壁の抜き取り痕の可能性がある。主柱穴は確認されていない。

遺物は廻間式期のものが主体を占める。遺構は、S 字状口縁台付甕（C 類）や器台、高杯の器形から古墳時代前期にあたる廻間Ⅲ式期のものであろう。

SB12（第 65 図，図版第 35）

2 地点の東側Ⅰ E20k・201・Ⅱ E1k・11 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物であ



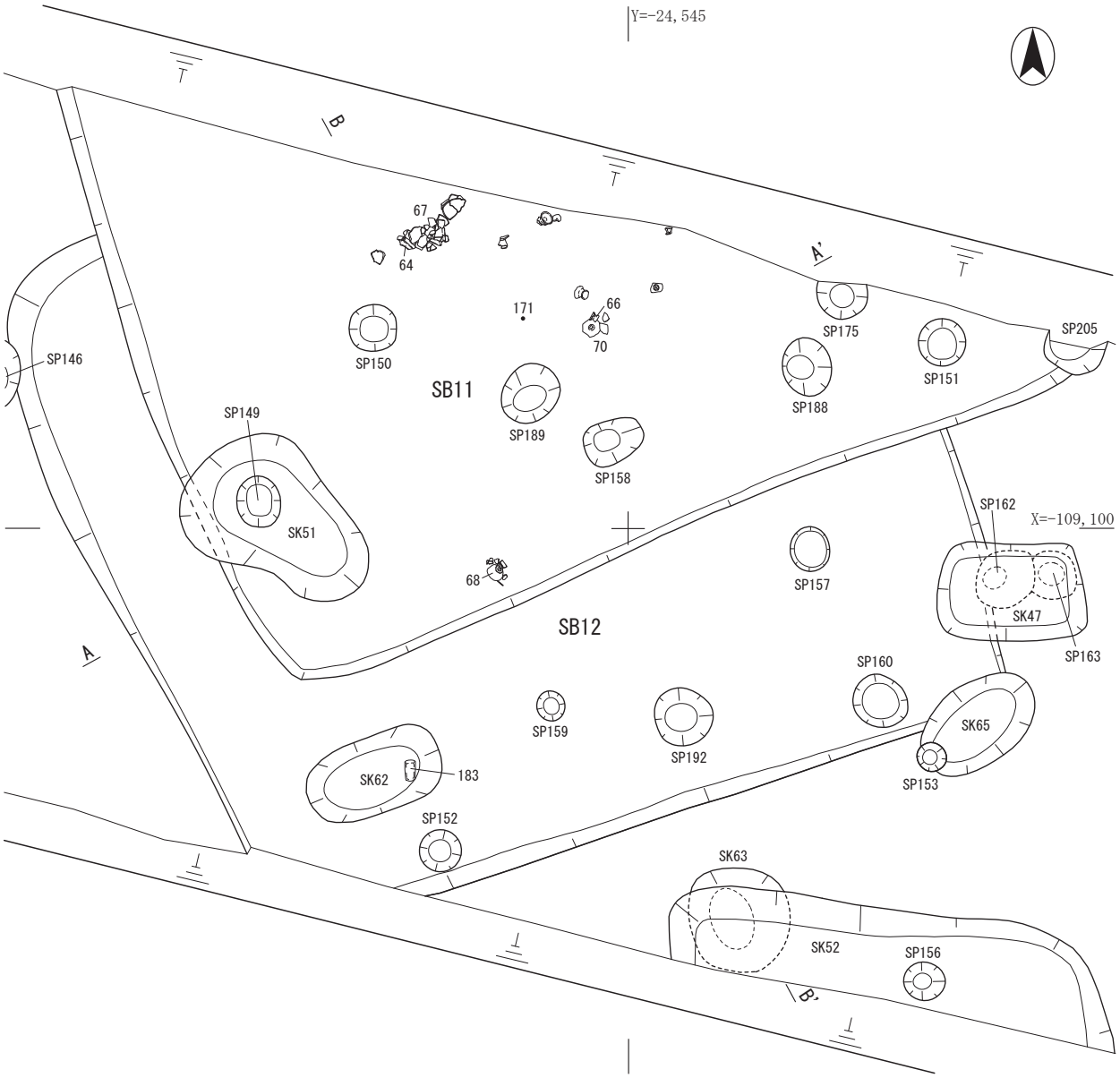
第 64 図　東畑遺跡２地点 SB10 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

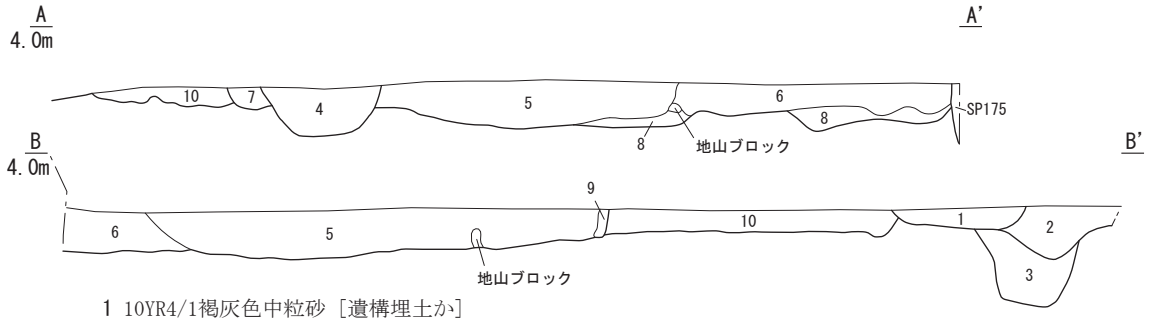
る。遺構の南西端は調査区外へと続く。SB11、SK47・51・65、SP146・152・157・159・160・162・192 に切られる。長軸長約 610cm、短軸長約 545cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 18cm である。南西端で SK62 を検出した。SK62 からは磨製石斧（183）が出土している。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

出土遺物が少なく時期判別は難しい。「瓜郷系」壺が出土しており、磨製石斧の出土も考慮すると、概ね弥生時代中期である貝田町式期の遺構と考えたい。

SB13（第 66 図，図版第 36）

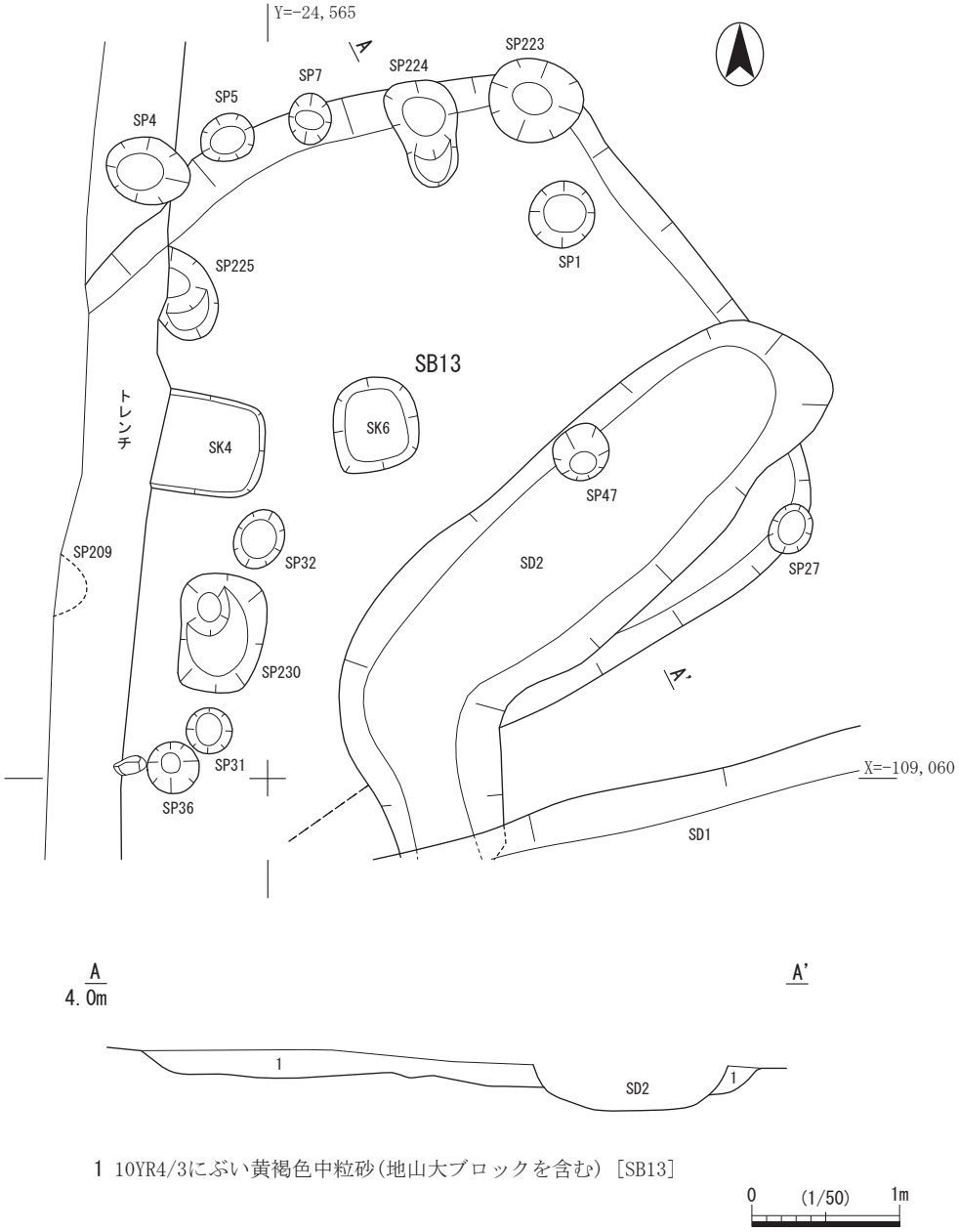
２地点北端Ⅰ E12g・12h・13h 区に位置する。隅丸方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の西側は調査区外へと続く。南西部は遺構の立ち上がりが不明瞭で検出できなかった。SP1・4・5・7・27・31・32・36・223・224・225・230、SK4・6、SD2 に切られる。長軸長約 515cm、短軸長約 438cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 20cm である。主柱穴や周壁溝は確認されていない。





1 10YR4/1褐灰色中粒砂［遺構埋土か］
2 10YR2/2黒褐色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SK52埋土］
3 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と地山ブロックの斑土［SK63埋土］
4 5YR4/2灰褐色中粒砂(下部に地山ブロックと径10mm程の礫を含む)［SK51埋土］
5 10YR2/2黒褐色中粒砂［SB11］
6 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［SB11］
7 7.5YR4/2灰褐色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SB11］
8 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SB11］
9 10YR2/2黒褐色中粒砂と地山ブロックの斑土［SB11］
10 7.5YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SB12］

第 65 図　東畑遺跡２地点 SB11・12 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



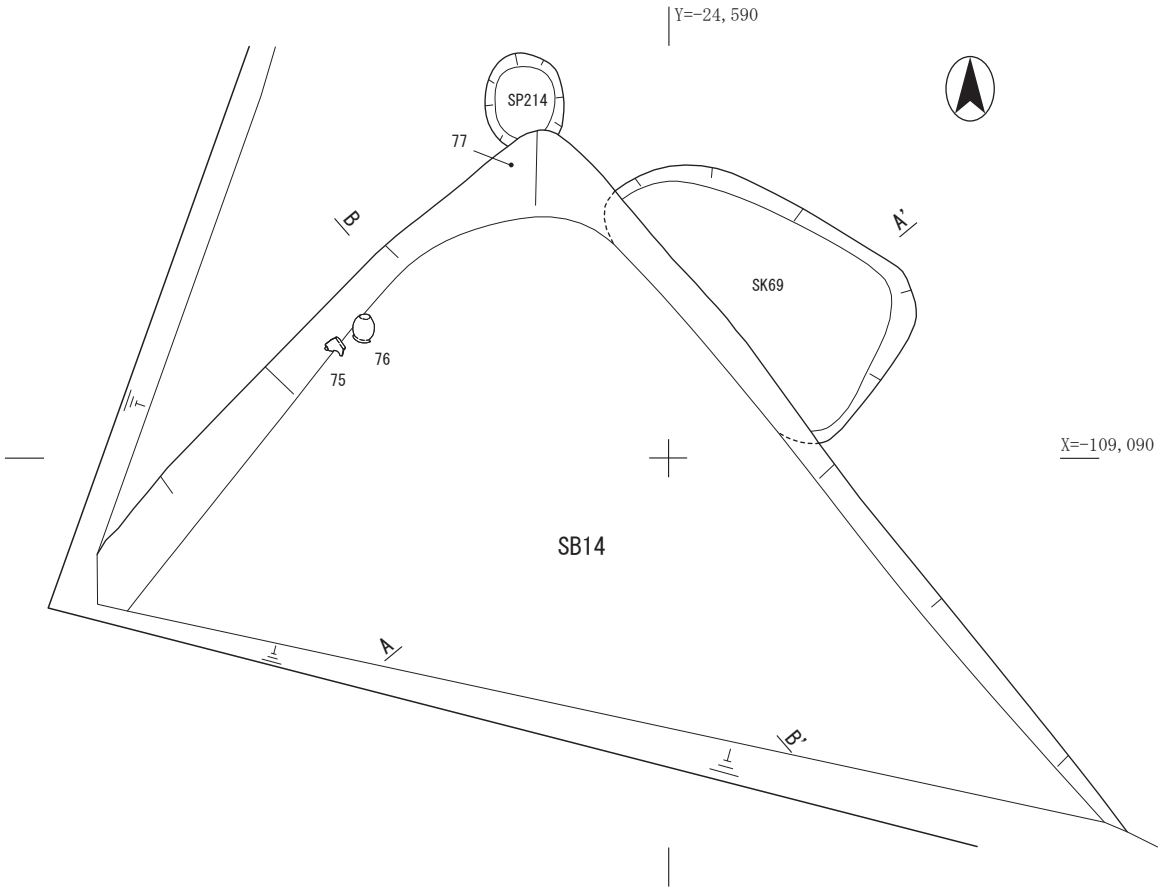
第 66 図　東畑遺跡 2 地点 SB13 平面図・断面図（1/50）

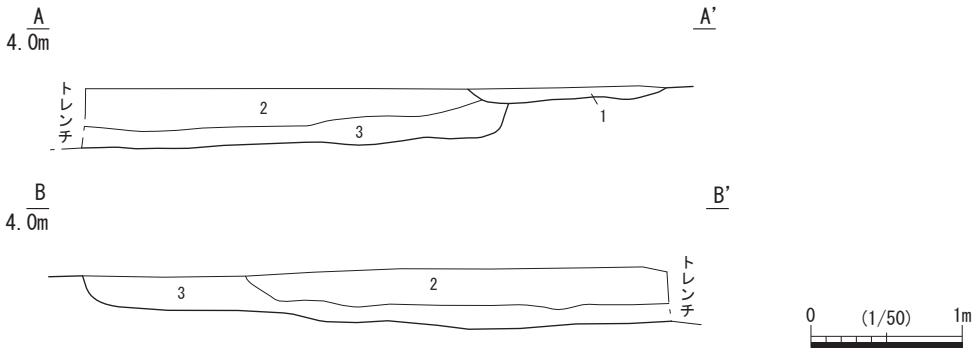
遺物は高蔵式の凹線文系の細頸壺が出土している。遺構の時期は弥生時代中期末であろう。

SB14（第 67 図，図版第 36）

2 地点西側 I E18b・18c・19b・19c 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の南側は調査区外へと続く。SP214 を切り、SK69 に切られる。長軸長約 607cm、短軸長約 438cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 40cm である。残りのよい遺物は標高 3.6m 前後から出土しているが、SB14 断面図の 2・3 層が床面より上の埋土になるのか掘方埋土になるのかは判断できない。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

遺物は屈折脚の高杯や小型平底甕（76）などが出土している。遺構は古墳時代前期から中期にあたる松河戸Ⅱ式期に位置付けられる。



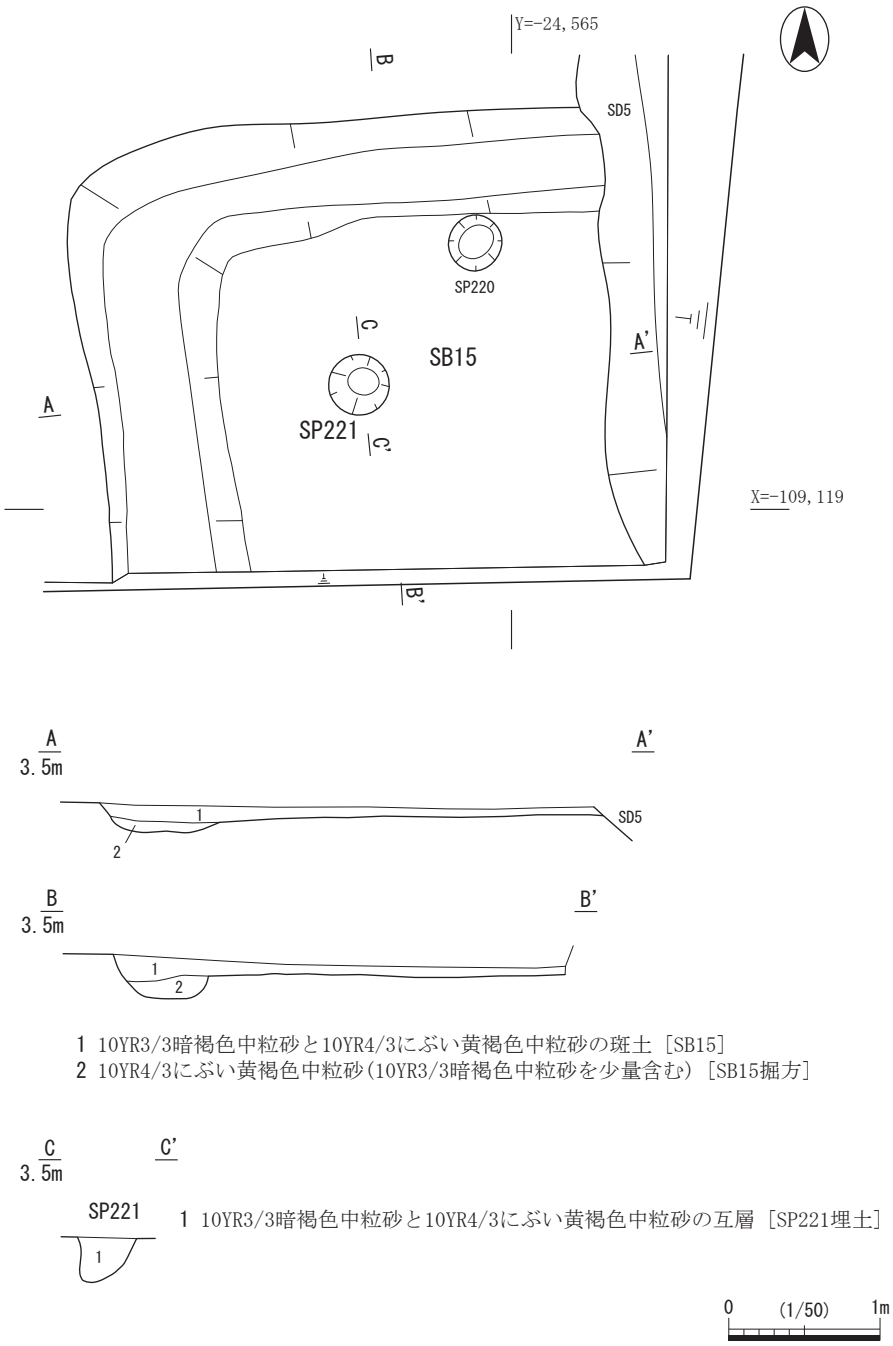


1 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む)［SK69］
2 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層(径5～10mm程の礫を含む)［SB14］
3 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SB14］

第 67 図　東畑遺跡 2 地点 SB14 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

SB15（第 68 図，図版第 36）

2 地点南端Ⅱ E4g・4h 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の大半は調査区外で、北西隅を検出したのみである。長軸長約 355cm、短軸長約 310cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 30cm である。底面より SP220・221 を検出した。位置から SP221 は主柱穴となると思われる。また、掘方は壁際を若干深く掘り込み、幅広の周溝状となる。SB15 断面図の 1 層は自然堆積の様相はなく、貼床土となる可能性がある。しかし、出土遺物が少なく、主柱穴と考える



第 68 図　東畑遺跡 2 地点 SB15 平面図・断面図（1/50）

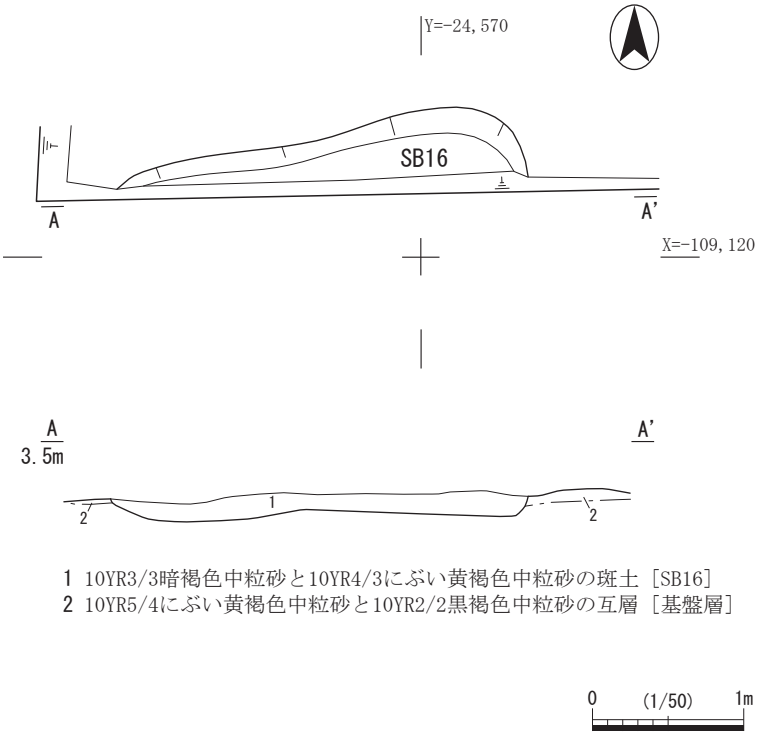
SP221 の正確な掘り込み面が定かでないことなど、他の判断材料に乏しい。遺物は少なく、時期比定可能なものは出土していない。

SB16（第 69 図，図版第 36）

2 地点南端Ⅱ E4f・4g 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物と思われるが、遺構の大半は調査区外で、北東隅を検出したのみである。そのため、他の性格の遺構である可能性もある。長軸長約 264cm、短軸長約 49cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 15cm である。主柱穴や周壁溝は確認されていない。出土遺物はない。

SB17（第 70 図，図版第 36）

２地点の西側Ⅰ E18c・18d・19c・19d 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の北・南側は調査区外へと続く。北壁の一部と西壁を検出した。北壁の平面形はいびつであり、原形をとどめていない可能性が高い。東壁の立ち上がりは SB17 断面図では確認できたので部分的に残存していた可能性があるが、平面的な検出はできなかった。SD10 ～ 12 と撹乱に切られる。長軸長約 680cm、短軸長約 510cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 43cm である。断面図の４・５層が床面より上の埋土になるのか掘方埋土になるのかは不明である。主柱穴や周壁溝は確認されていない。



第 69 図　東畑遺跡２地点 SB16 平面図・断面図（1/50）

遺物は小型丸底壺や屈折脚の高杯などが出土している。松河戸Ⅱ式期の土器が主体である。遺構は古墳時代前期から中期にあたる松河戸Ⅱ式に位置付けられる。

SB18（第 71 図，図版第 36・37）

２地点の中央西側Ⅰ E19e･19f･20e･20f 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の南側は調査区外へと続く。SD13 と SD16 に切られる。長軸長約 508cm、短軸長約 478cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 32cm である。標高 3.5m 以上に遺物のまとまった出土がみられるため、SB18 断面図の１層は掘方埋土であると考える。主柱穴や周壁溝は確認されていない。

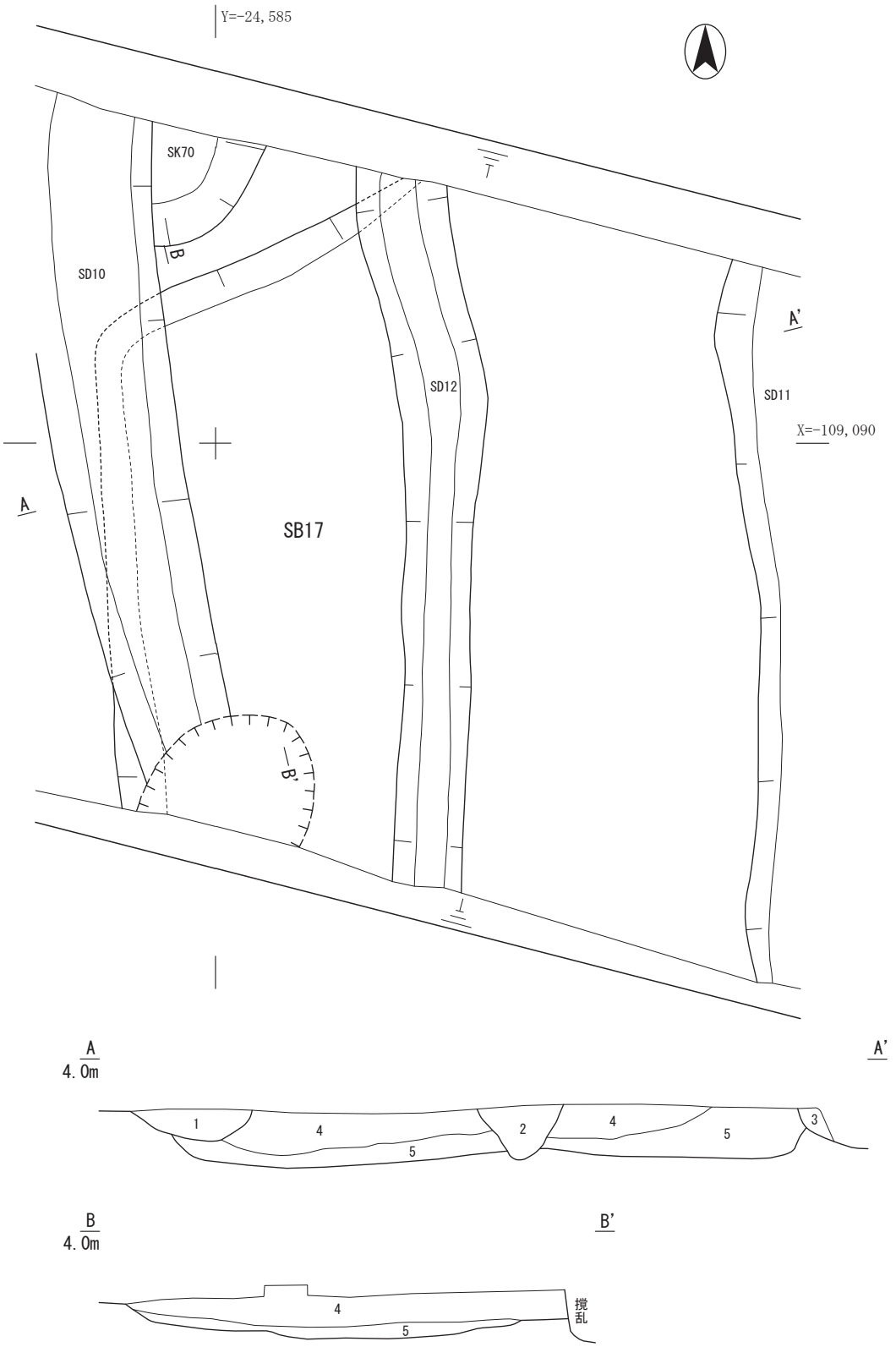
遺物は赤彩のヒサゴ壺（84）やＳ字状口縁台付甕（A 類）（86）、細かいハケ調整の甕、敲石（185・186）などが出土している。弥生時代終末期にあたる廻間Ⅰ式期の遺構である。

カマド

SL1（第 72 図，図版第 37）

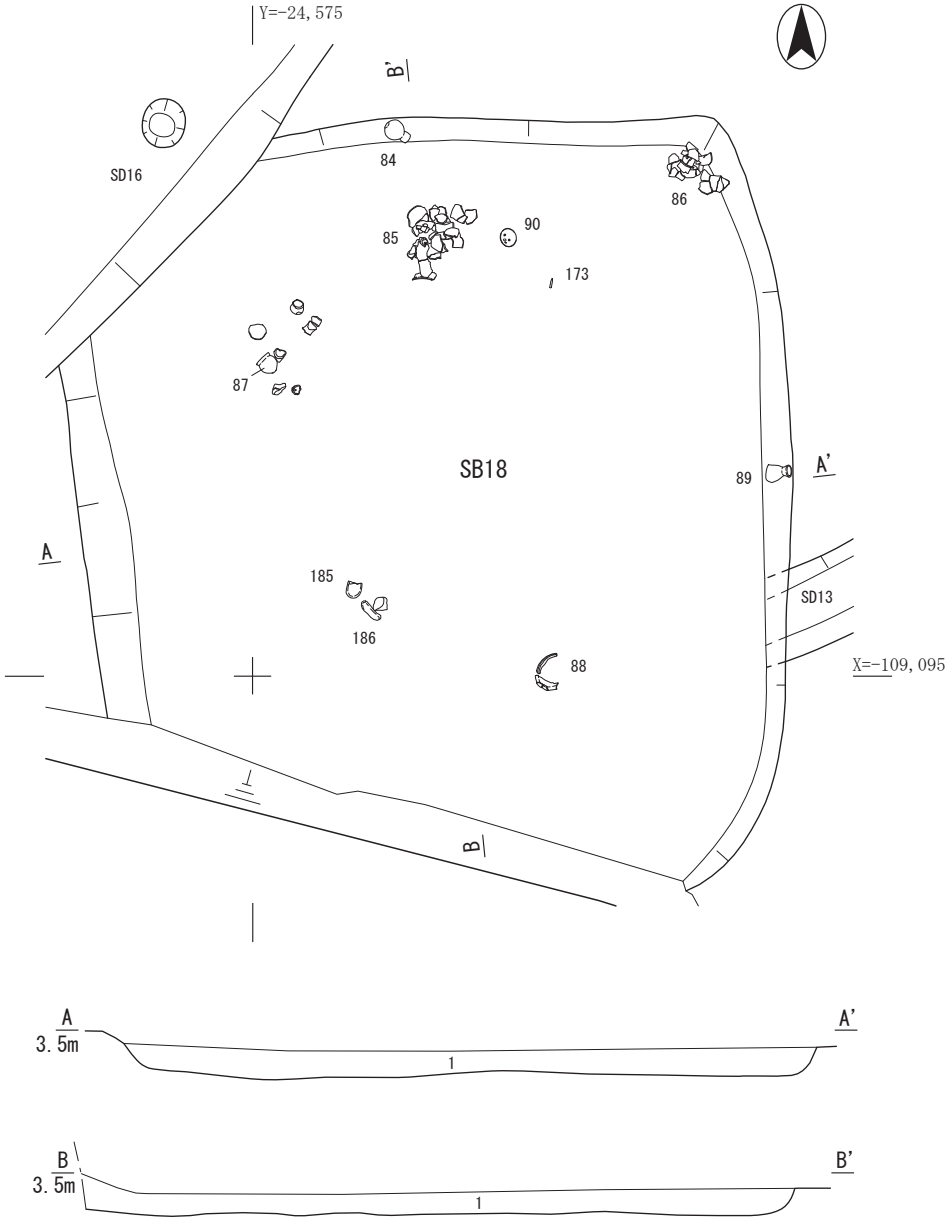
２地点の東側Ⅱ E1m 区で焼土、粘土ブロックを含む範囲を検出した。竪穴建物のカマドの可能性が高いので SL1 とする。焼土範囲からは 10 ～ 20cm 程の焼石２点と土器片が出土した。焼石は原位置を保っているか判断できないが、支柱として使用された可能性がある。

遺物は宇田型台付甕（２類）（91）が出土している。遺構は古墳時代中期にあたる宇田Ⅰ式期に位置付けられる。



1 10YR3/4暗褐色中粒砂［SD10埋土］
2 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD12埋土］
3 10YR3/3暗褐色中粒砂［SD11埋土］
4 7.5YR4/1褐灰色中粒砂［SB17］
5 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層（径5～10mm程の礫を多量に含む）［SB17］

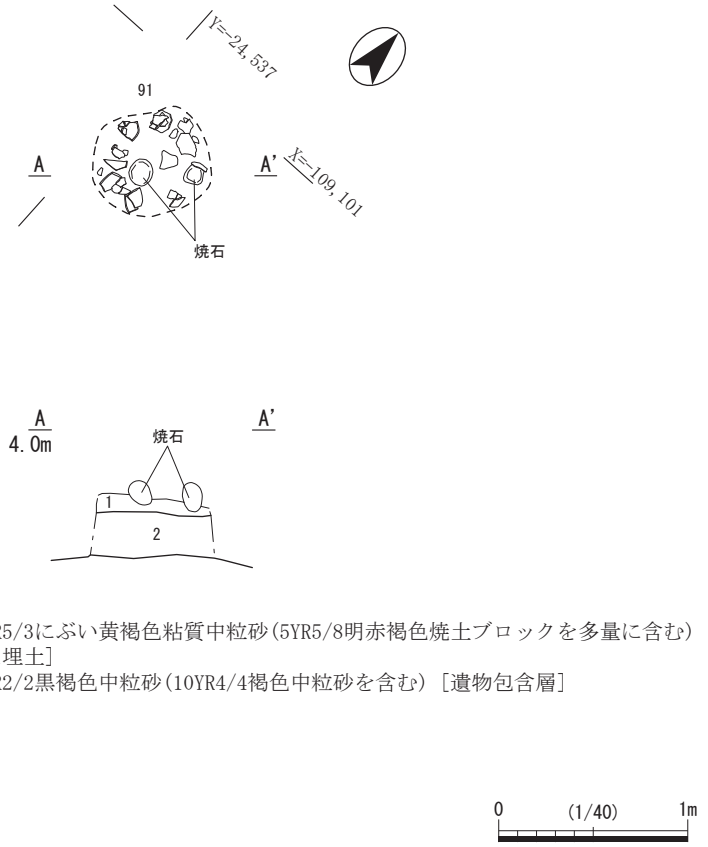
第 70 図　東畑遺跡２地点 SB17 平面図・断面図（1/50）



1 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の互層［SB18掘方］

0　(1/50)　1m

第 71 図　東畑遺跡 2 地点 SB18 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 72 図　東畑遺跡２地点 SL1 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

土坑

SK20（第 73 図，図版第 37）

２地点の北側Ⅰ E15 g・15h・16g・16h 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SP98 に切られる。長軸長約 120cm、短軸長約 103cm、遺構検出面からの深さ約 20cm である。断面形はＵ字状を呈する。遺物は標高 3.5m 程からまとまって出土しており、実際の遺構面はそれより高かったと推定される。

遺物は高蔵式の甕（92）や廻間Ⅰ式の広口壺（93）、く字状口縁台付甕（94）が出土している。遺構の帰属時期は弥生時代終末期にあたる廻間Ⅰ式期と考えられる。

SK37

２地点の南側Ⅱ E1h 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる土坑である。SB8、SK36、SD5 に切られる。長軸長約 260cm、短軸長約 178cm、遺構検出面からの深さ約 15cm である。断面形は皿状を呈する。平面形状と大きさから竪穴建物となる可能性がある。

遺物は古井～長床式（高蔵式）の太頸壺が出土している。遺構は弥生時代中期末のものと考えられる。

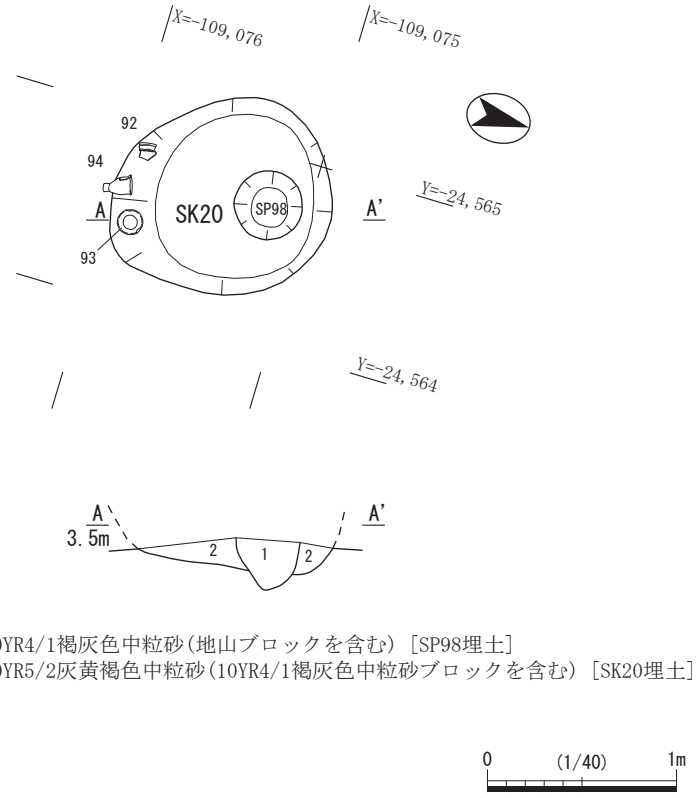
溝

SD2（第 86 図）

２地点の北側Ⅰ E12h・Ⅰ E13h 区に位置する。コの字状に屈曲する溝状の遺構である。高蔵式期の竪穴建物 SB13 を切り、SK17、SP47、SD1 に切られる。長さ約 770cm、幅約 128cm、遺構検出面からの深さ約 18cm である。底面にやや高低差があるが、一定の勾配があるわけではない。この地点の北側には 2008 年度の調査区があり、３基の方形周溝墓が確認されている。この溝状遺構も方形周溝墓に伴う周溝である可能性がある。弥生時代中期末にあたる高蔵式期の凹線文系の土器が出土しているが、中世の遺物も多く含むため、遺構の時期や性格の判断ができない。

SD16（第 74 図，図版第 37）

２地点の西側Ⅰ E18e・19e・19f 区に位置する。北東－南西の方向にやや湾曲しながら延びる溝状の遺構である。遺構の北側は調査区外に続く。南側は SD11 や撹乱に切られ、詳細は不明である。



第 73 図　東畑遺跡 2 地点 SK20 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

SB18 を切り、SK71 に切られる。SP222 との重複関係は不明である。長さ約 558cm、幅約 395cm、遺構検出面からの深さ約 24cm である。底面は南に向かってやや低くなる。断面形は皿状を呈する。

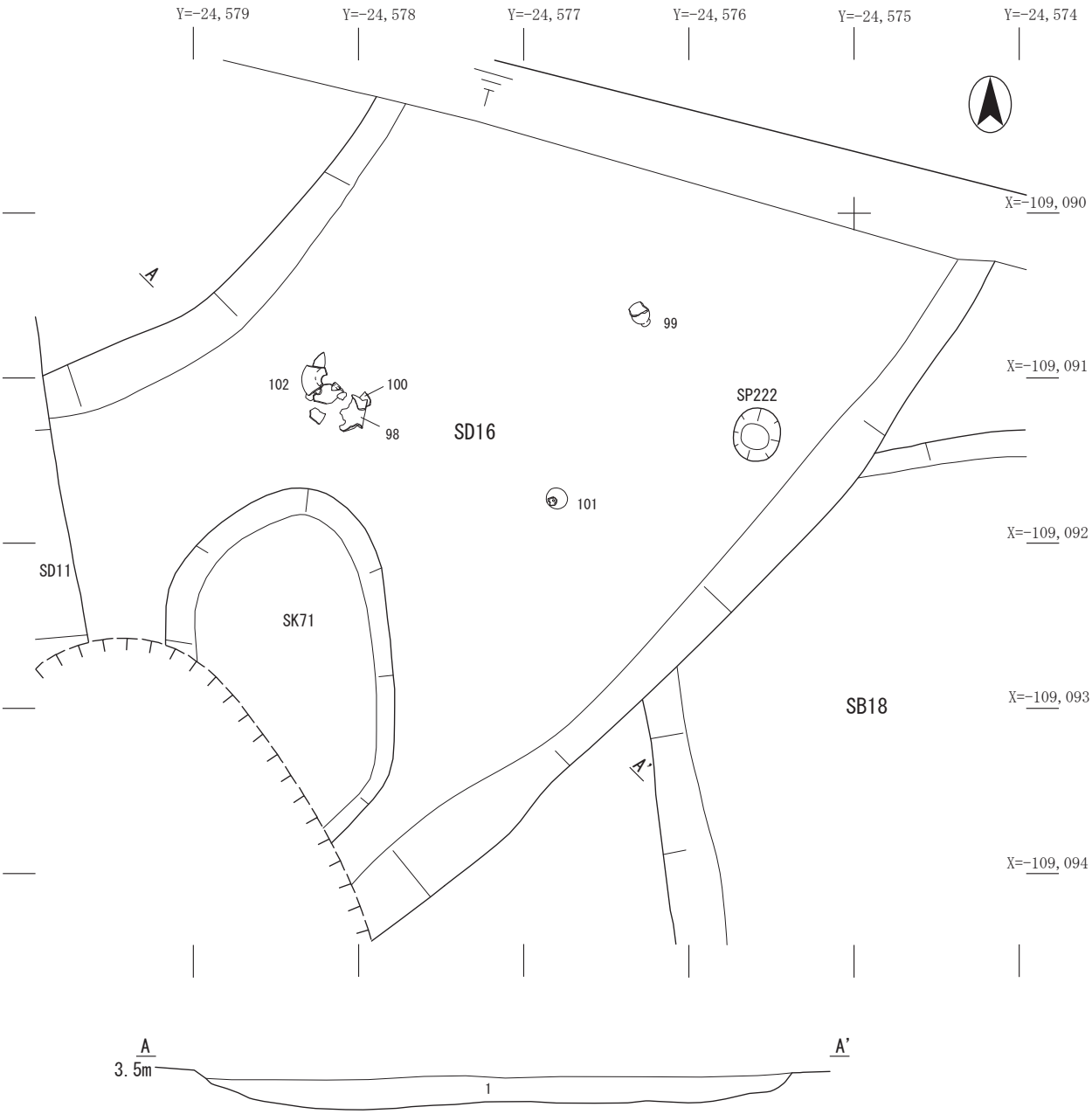
底面から一括して遺物が出土した。く字状口縁台付甕（98･99）や椀形高杯（101）、有段高杯（102）など廻間Ⅰ式からⅡ式にかけての土器がみられる。遺構は弥生時代終末期から古墳時代早期のものと考えられる。

土器集積遺構

SX2（第 75 図，図版第 38）

2 地点の北側Ⅰ E16g・16h・17g・17h 区に位置する不整形な平面プランを呈する遺構である。遺構の西側は調査区外へと続く。SK39 ～ 41、SP83・84・109・111 に切られる。SK35 との重複関係は不明である。長軸長約 776cm、短軸長約 335cm、遺構検出面からの深さ約 15cm である。遺構の東端は土器溜のように土器が集中して出土している。遺構の詳細な性格は不明である。

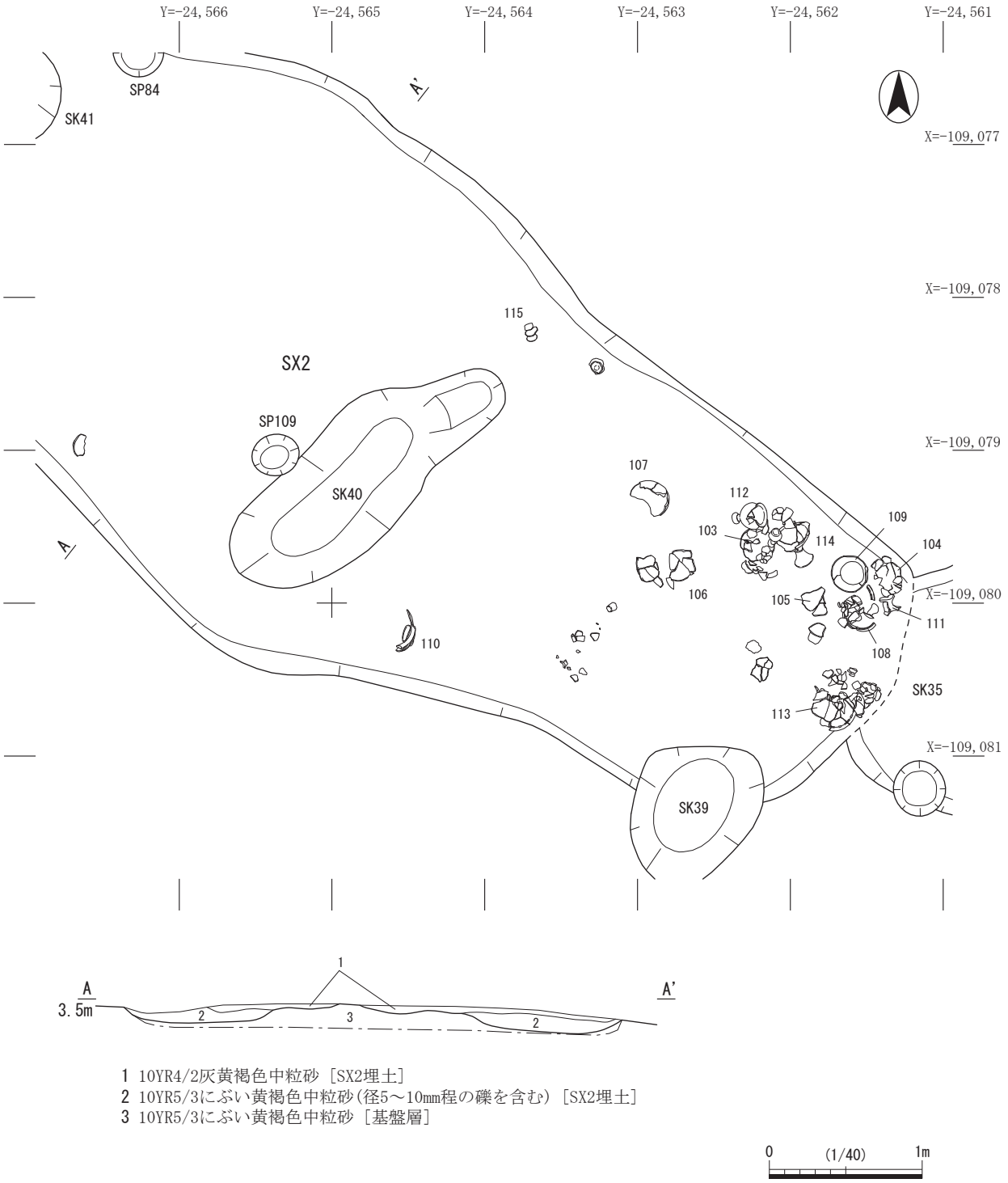
遺構の西側からは山中Ⅰ式や廻間Ⅰ式の土器もみられるが、東側から出土した土器は高蔵式のもので一括性が高い。凹線文系の壺や高杯、タタキ痕のみられる甕が出土している。遺構は弥生時代中期末にあたる高蔵式期に位置付けられる。



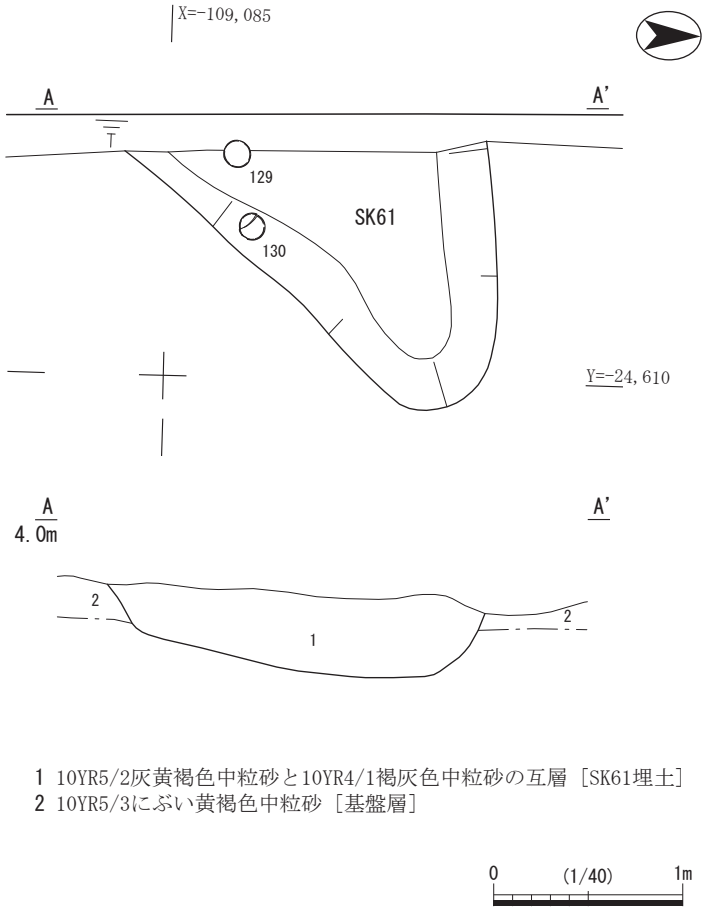
1 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SD16埋土］

0 (1/40) 1m

第 74 図　東畑遺跡２地点 SD16 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）



第 75 図　東畑遺跡 2 地点 SX2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）



第 76 図　東畑遺跡 2 地点 SK61 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

B　古代

土坑

SK61（第 76 図，図版第 39）

2 地点の西端Ⅰ D17r・17s・18r 区に位置する土坑である。西側は調査区外へと続く。長軸長約 190cm、短軸長約 137cm である。調査区西壁から判断できる深さ約 50cm である。断面形は皿状を呈する。

遺構の中層から高蔵寺 2 号窯式(129)と岩崎 25 号窯式(130)の須恵器のつまみ蓋が出土している。遺構は古代、8 世紀前半のものと考えられる。

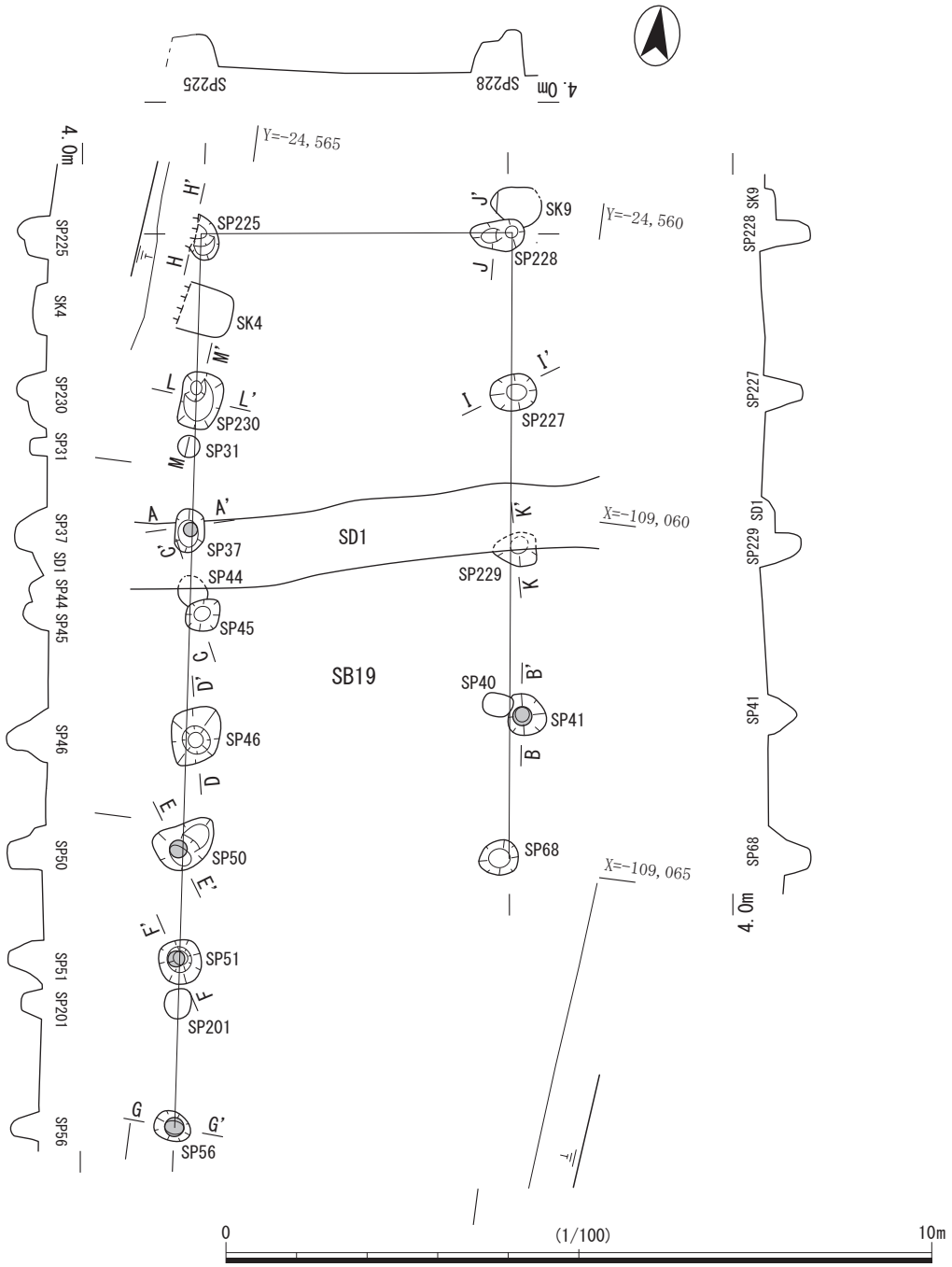
C　中世

掘立柱建物

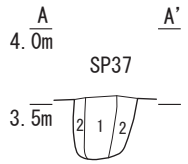
SB19（第 77・78 図，図版第 39・40）

2 地点の北側Ⅰ E12g･12h･13g･13h･14h 区に位置する掘立柱建物である。SB1･2･13、SK67 を切り、SK18、SD1 に切られる。桁行 6 間（12.66m）、梁行 1 間（4.40m）の規模をもつ。棟方向は N-7°-W である。東側柱が 2.2m でほぼ等間隔に並ぶのに対して、西側柱は SP37 よりも南側で不等間隔に並

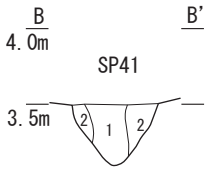
ぶ。柱穴は不整円形または楕円形を呈し、長径約 53 ～ 91cm、柱穴掘方底面の高さ 2.82 ～ 3.14m である。形状や深さは一定ではない。造営時の地表面は、調査区壁断面の観察から標高 4.0m 前後であると考えられる。よって、造営時には柱掘方は深いもので 1m 以上であったと思われる。SP37・41・50・51・56 には、それぞれのほぼ中心の位置に柱痕跡がみられる。柱痕跡底面の高さは柱掘方底面の高さに一致する。他の柱穴には柱痕跡が確認できず、柱抜取穴や柱切取穴については不明なものが多い。SP227 の土層断面図の 1 層は柱抜取穴の埋土か他の遺構の重複によるものなのか判断でき



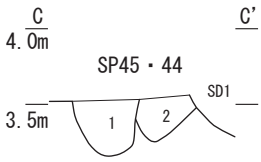
第 77 図　東畑遺跡 2 地点 SB19 平面図・エレベーション図（1/100）



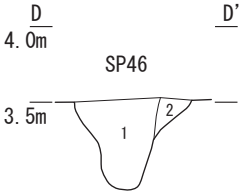
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP37柱痕跡］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂
（地山ブロックを含む）［SP37柱掘方］



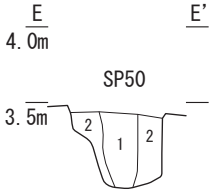
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP41柱痕跡］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂
（地山ブロックを含む）［SP41柱掘方］



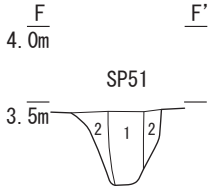
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP45埋土］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂
（礫を多量に含む 地山ブロックを含む）
［SP44埋土］



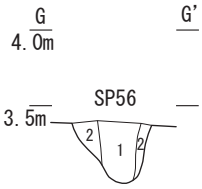
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP46埋土］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを
多量に含む)［SP46埋土］



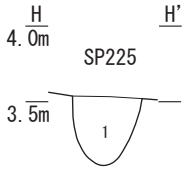
1 10YR3/1黒褐色中粒砂
（炭化物を含む）［SP50柱痕跡］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂
（地山ブロックを含む）［SP50柱掘方］



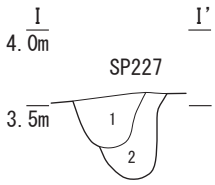
1 10YR3/1黒褐色中粒砂［SP51柱痕跡］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(地山ブロックを
多量に含む)［SP51柱掘方］



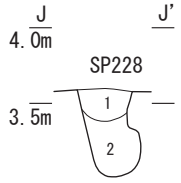
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP56柱痕跡］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂と
10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土
［SP56柱掘方］



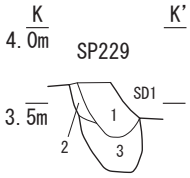
1 10YR3/1黒褐色中粒砂(礫を含む)
［SP225埋土］



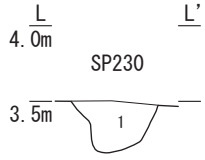
1 10YR4/1褐灰色中粒砂
［SP227柱抜取穴埋土か］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(礫を含む)
［SP227埋土］

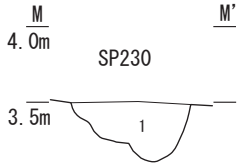


1 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP228埋土］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂と
10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土
［SP228埋土］

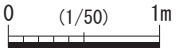


1 10YR4/1褐灰色中粒砂
（黄色粘土ブロックを含む）［SP229柱抜取穴埋土か］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂
（地山ブロックを含む）［SP229埋土］
3 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP229埋土］





1 10YR4/1褐灰色中粒砂
（黄色粘土ブロックを含む。下部に地山ブロックを含む）
［SP230埋土］



第 78 図　東畑遺跡 2 地点 SB19 柱穴断面図（1/50）

ない。SP46・50・225・228・230 は柱位置を段状に掘り下げている。柱根は遺存していないが、柱痕跡から径 20 ～ 25cm 程と推定される。

遺物は SP51・225・229 から尾張型第５～６型式の山茶碗の碗が出土している。SB19 は中世、12 世紀後葉から 13 世紀前葉のものと考えられる。

SB20（第 79・80 図，図版第 40）

２地点の北側Ⅰ E12g・12h・13h・13i・14i 区に位置する掘立柱建物である。SB2・13、SK67 を切り SD1 に切られる。桁行５間（10.02m）以上、梁行３間（5.18m）以上の規模をもつ。棟方向は N-9°-W である。側柱は桁行・梁行ともに不等間隔に並ぶ。柱間寸法は桁行で約 1.50 ～ 2.45m、梁行で約 1.53 ～ 1.94m ある。柱穴は円形または楕円形を呈し、長径約 31 ～ 75cm、柱穴掘方底面の高さ 3.08 ～ 3.44m である。形状や深さは一定ではない。造営時の地表面は、調査区壁断面の観察から標高 4.0m 前後であると考えられる。よって、造営時には柱掘方は深いもので 1m 近くであったと思われる。SP48 には、ほぼ中心の位置に柱痕跡がみられる。柱痕跡底面の高さは柱掘方底面の高さに一致する。他の柱穴には柱痕跡が確認できず、柱抜取穴や柱切取穴も不明なものが多い。SP224・226 は柱位置を段状に掘り下げている。柱根は遺存していないが、柱痕跡から径 20cm 以上と推定される。

遺物は SP17 から伊勢型鍋、SP223 から山茶碗の小皿や常滑の片口鉢が出土している。これらは、山茶碗の編年で概ね尾張型第６型式の時期のものである。SB20 は中世、13 世紀前半のものと考えられる。SB20 は SB19 の建て替えである可能性がある。

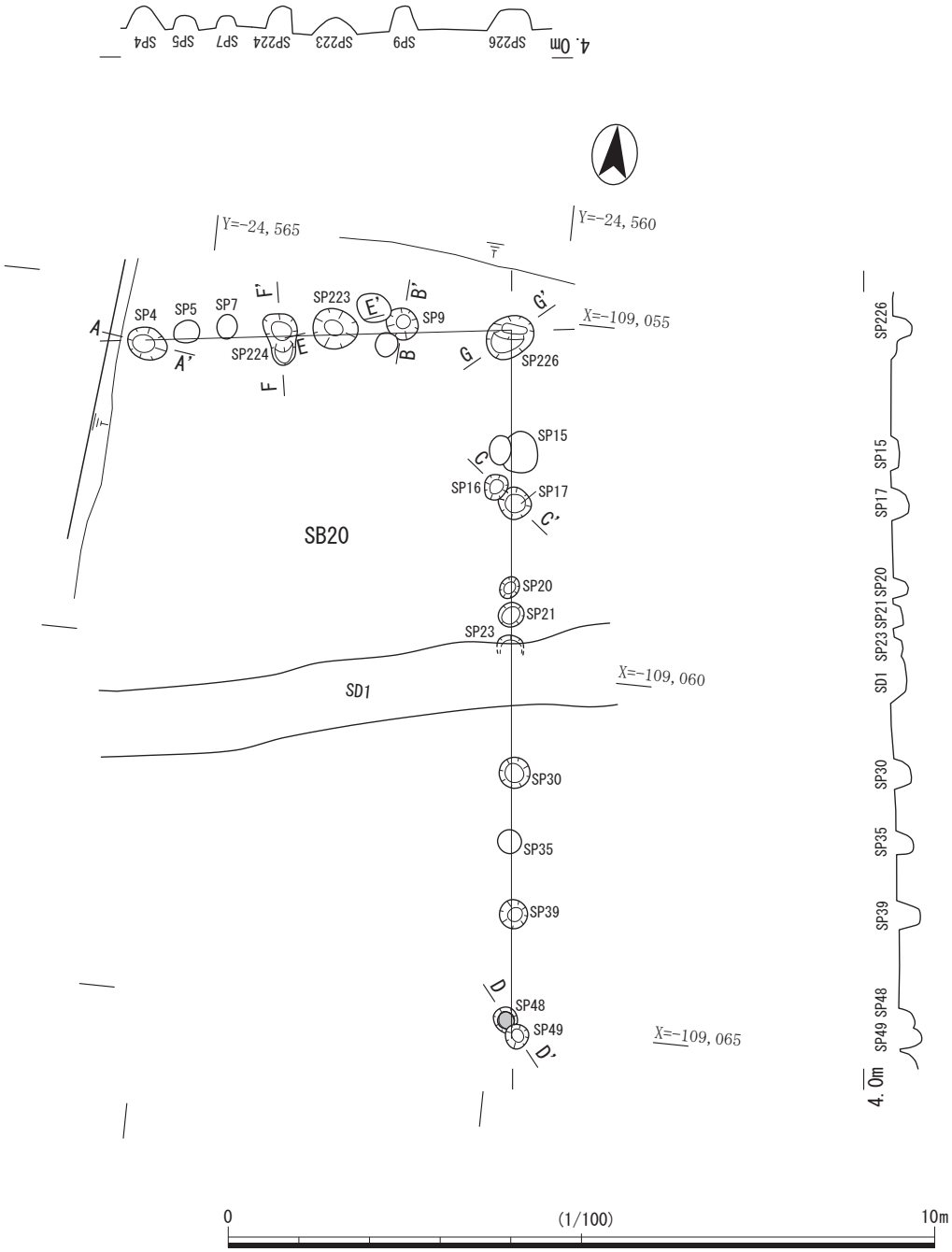
SB21（第 81 図，図版第 40）

２地点の北側Ⅰ E12h・12i・13h・13i・14h 区に位置する掘立柱建物である。SB2、SK17・67 を切り SK18 に切られる。桁行３間（5.64m）、梁行１間（1.97m）以上の規模をもつ。棟方向は N-8°-W である。側柱は桁行で等間隔に並ぶ。柱間寸法は桁行で約 1.88m、梁行で約 1.83 ～ 1.97m ある。柱穴は円形または楕円形を呈し、長径約 35 ～ 53cm、柱穴掘方底面の高さ 2.81 ～ 3.48m である。形状や深さは一定ではない。造営時の地表面は、調査区壁断面の観察から標高 4.0m 前後であると考えられる。よって、造営時には柱掘方は深いもので 1m 以上であったと思われる。柱根は遺存していない。柱痕跡は確認できず、柱抜取穴や柱切取穴については不明なものが多い。SP26 は柱位置を段状に掘り下げている。

遺物は SP28・59 から尾張型第７～８型式の山茶碗の碗が出土している。SB21 は中世、13 世紀中葉から 14 世紀前葉のものと考えられる。

SB22（第 82 図，図版第 39）

２地点の北側Ⅰ E15h・16g・16h・17g・17h 区に位置する掘立柱建物である。SK40、SX2 を切る。桁行２間（5.48m）以上、梁行２間（5.20m）の規模をもつ。棟方向は N-73°-E である。側柱は桁行でほぼ等間隔に並ぶ。柱間寸法は桁行で約 2.74 ～ 2.80m、梁行で約 2.38 ～ 2.82m ある。柱穴は円形または楕円形を呈し、長径約 30 ～ 47cm、柱穴掘方底面の高さ 3.10 ～ 3.37m である。深さは一定ではない。造営時の地表面は、調査区壁断面の観察から標高 4.0m 前後であると考えられる。よって、造営時には柱掘方は深いもので 1m 近くであったと思われる。SP84・90・111 には、ほぼ中心の位置に柱痕跡が見られる。柱痕跡底面の高さは柱掘方底面の高さに一致する。他の柱穴には柱痕跡が確認できず、柱抜取穴や柱切取穴については不明なものが多い。柱根は遺存していないが、



第 79 図　東畑遺跡 2 地点 SB20 平面図・エレベーション図（1/100）

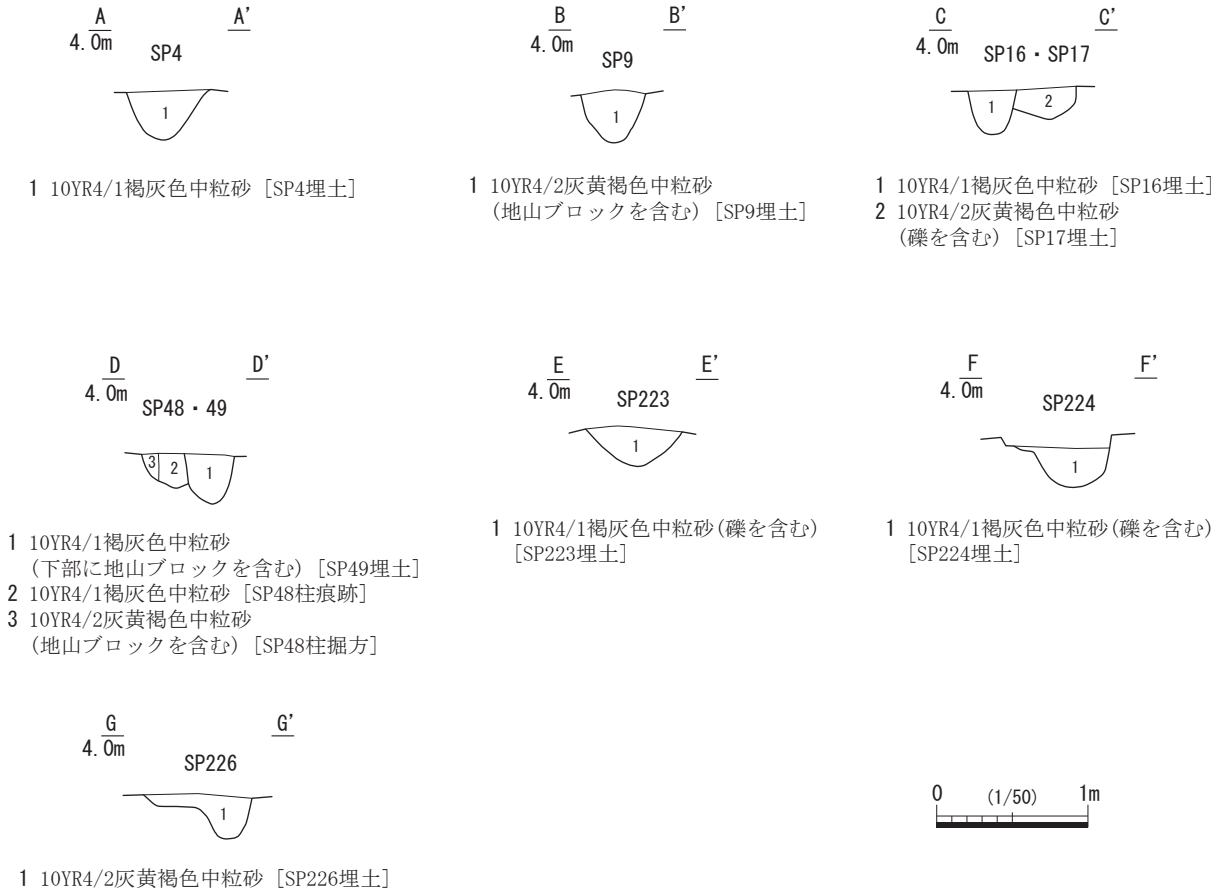
柱痕跡から径 15 ～ 20cm 程と推定される。

SP111 から尾張型第 5 型式の山茶碗の碗が出土している。SB22 は中世、12 世紀後葉から 13 世紀初頭のものであろうか。

柵

SA1（第 83 図）

2 地点の北側 I E14h・15h・16h 区に位置する 3 間からなる柵である。SB1 を切る。長軸長 5.61m、柱間寸法は約 1.87m で、等間隔に柱が並ぶ。主軸方向は N-1°-W である。柱穴は円形または楕円形を呈し、長径約 69 ～ 90cm、柱穴掘方底面の高さ 3.09 ～ 3.29m である。深さは一定で



第 80 図　東畑遺跡 2 地点 SB20 柱穴断面図（1/50）

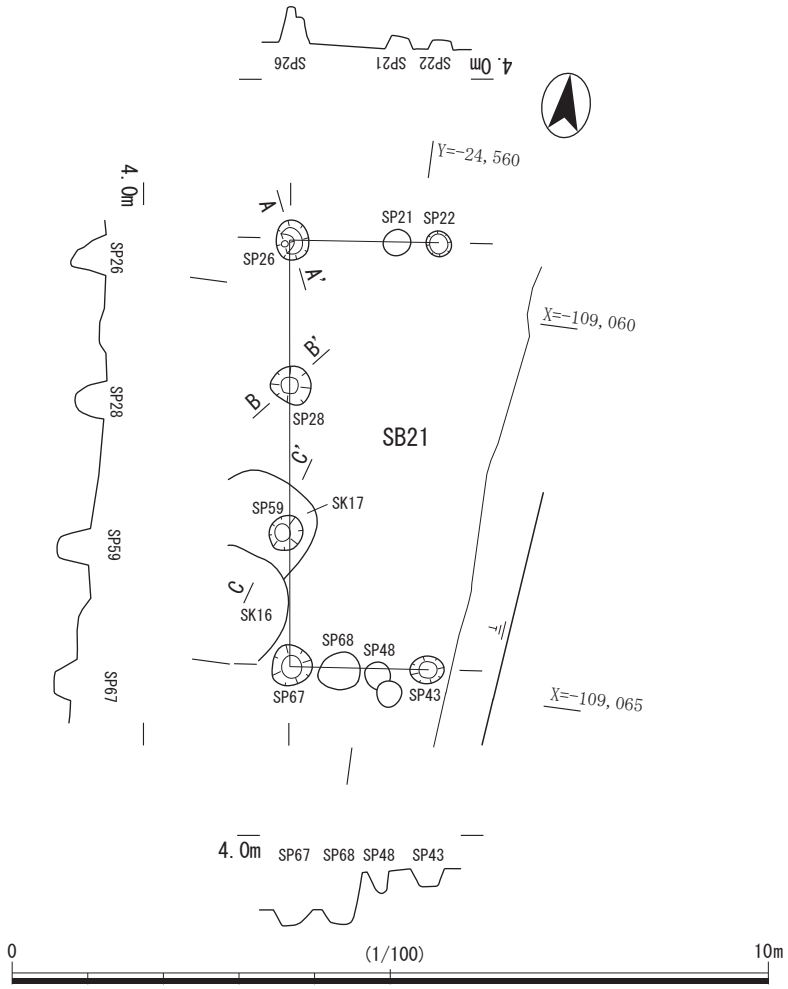
はない。SP71・72 には、ほぼ中心の位置に柱痕跡が見られる。柱痕跡底面の高さは SP71 では柱掘方底面の高さに一致するが、SP72 では柱掘方底面よりやや高い。他の柱穴には柱痕跡が確認できず、柱抜取穴や柱切取穴も不明である。柱根は遺存していないが、柱痕跡から径 30cm 程と推定される。

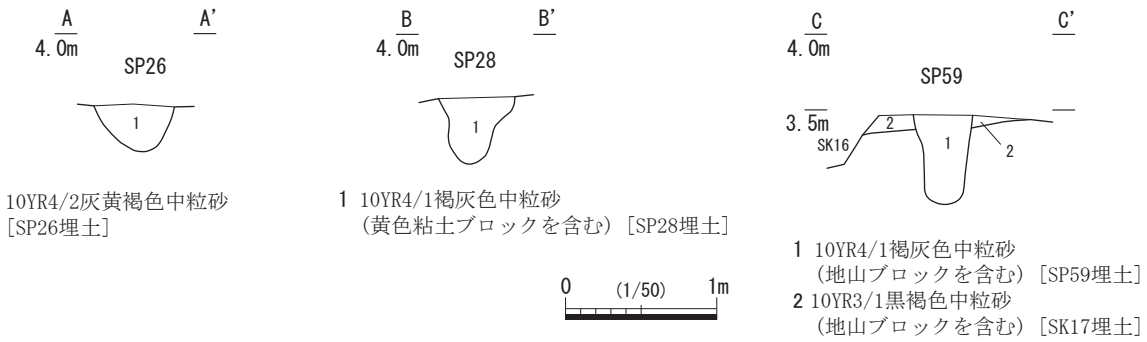
SA1 からは弥生時代から中世までの遺物が出土している。SP73 から須恵器の無台杯が出土しているが、時期決定の根拠にはならない。SA1 は出土遺物全体の傾向から判断して、中世の遺構の可能性を指摘しておく。

SA2（第 84 図，図版第 40）

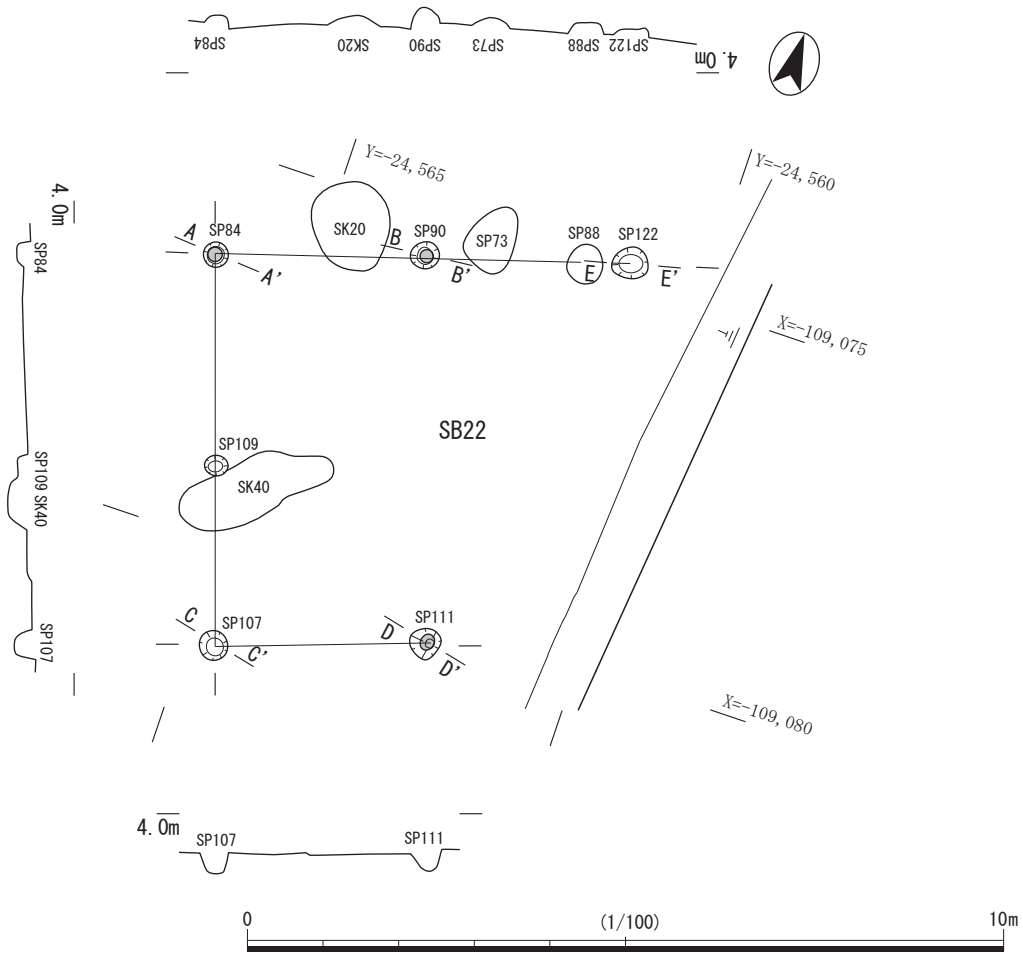
2 地点の東側Ⅰ E20h・20i・20j・20k 区に位置する 5 間以上からなる柵である。SB9 を切る。長軸長 11.26m、柱間寸法は約 1.68 ～ 2.56m である。主軸方向は N-76°-E である。柱穴は円形または楕円形を呈し、長径約 40 ～ 49cm、柱穴掘方底面の高さ 3.20 ～ 3.28m である。SP143 ～ 145 には、ほぼ中心の位置に柱痕跡が見られる。柱痕跡底面の高さは SP143・145 では柱掘方底面の高さに一致するが、SP144 では柱掘方底面より高い。他の柱穴には柱痕跡が確認できず、柱抜取穴や柱切取穴については不明である。柱根は遺存していないが、柱痕跡から径 20cm 程と推定される。

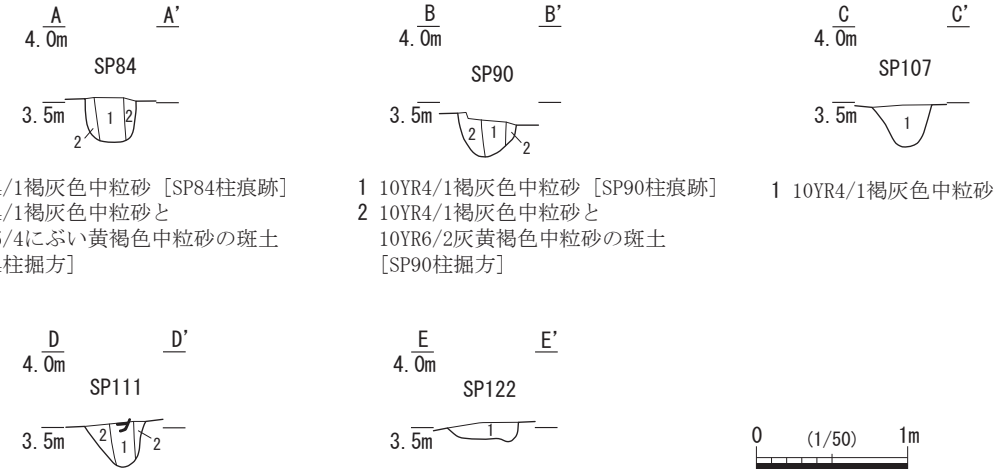
遺物は弥生時代から古墳時代にかけての土器が多い。SA2 の主軸は SB22 の棟とほぼ同一方向である。中世の遺構と考えたいが、根拠に乏しい。





第 81 図　東畑遺跡 2 地点 SB21 平面図・断面図・エレベーション図
（平面図・エレベーション図 1/100, 断面図 1/50）





1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP84柱痕跡］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂と
10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂の斑土
［SP84柱掘方］

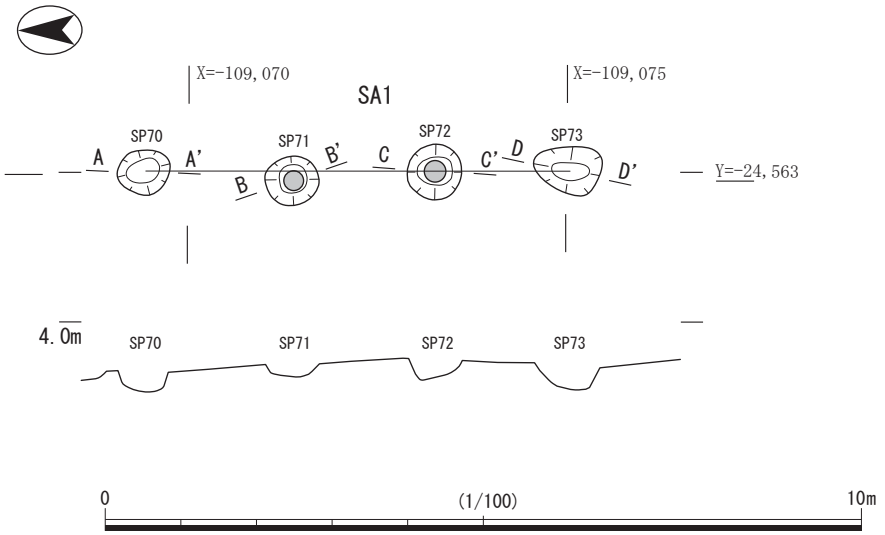
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP90柱痕跡］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂と
10YR6/2灰黄褐色中粒砂の斑土
［SP90柱掘方］

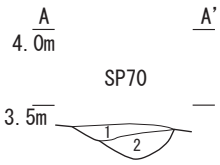
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP107埋土］

1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP111柱痕跡］
2 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SP111柱掘方］

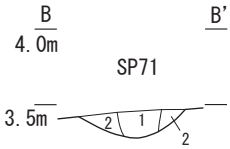
1 10YR5/1褐灰色中粒砂［SP122埋土］

第 82 図　東畑遺跡 2 地点 SB22 平面図・断面図・エレベーション図
（平面図・エレベーション図 1/100，断面図 1/50）

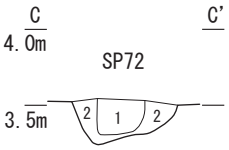




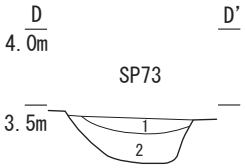
1 10YR3/1黒褐色中粒砂［SP70埋土］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP70埋土］

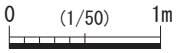


1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP71柱痕跡］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP71柱掘方］



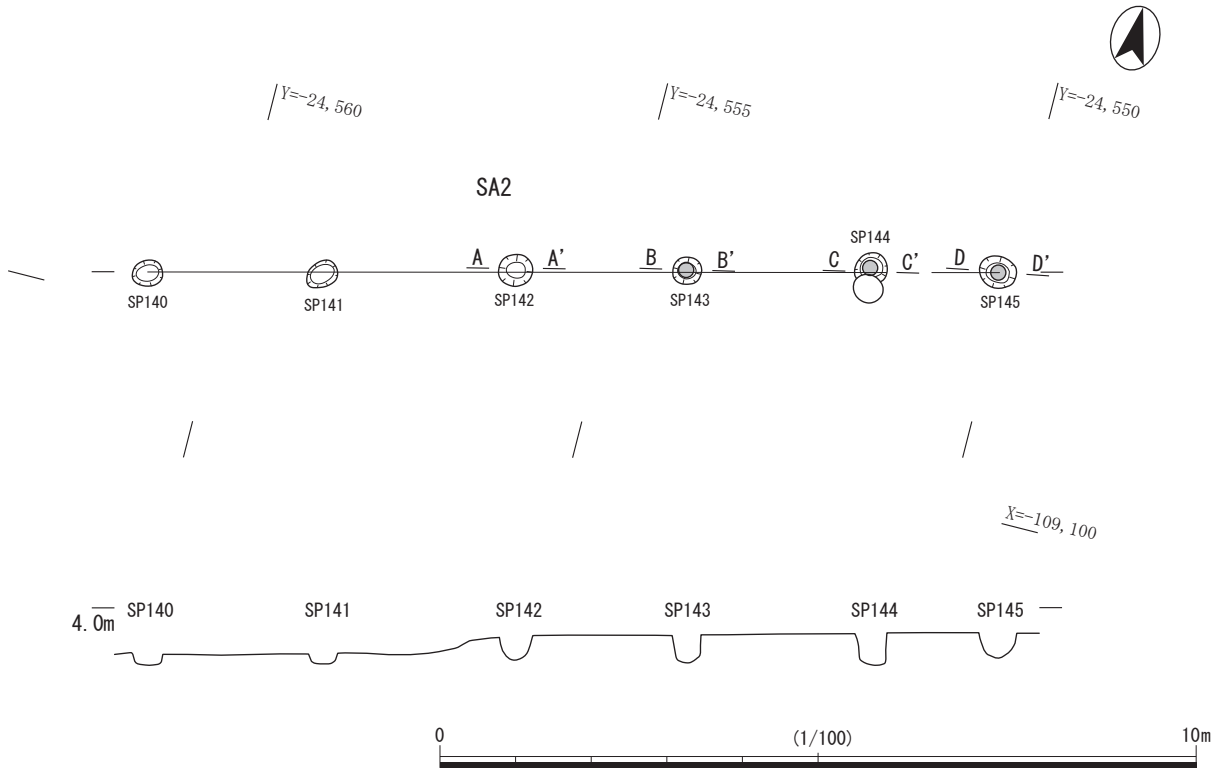
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP72柱痕跡］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP72柱掘方］

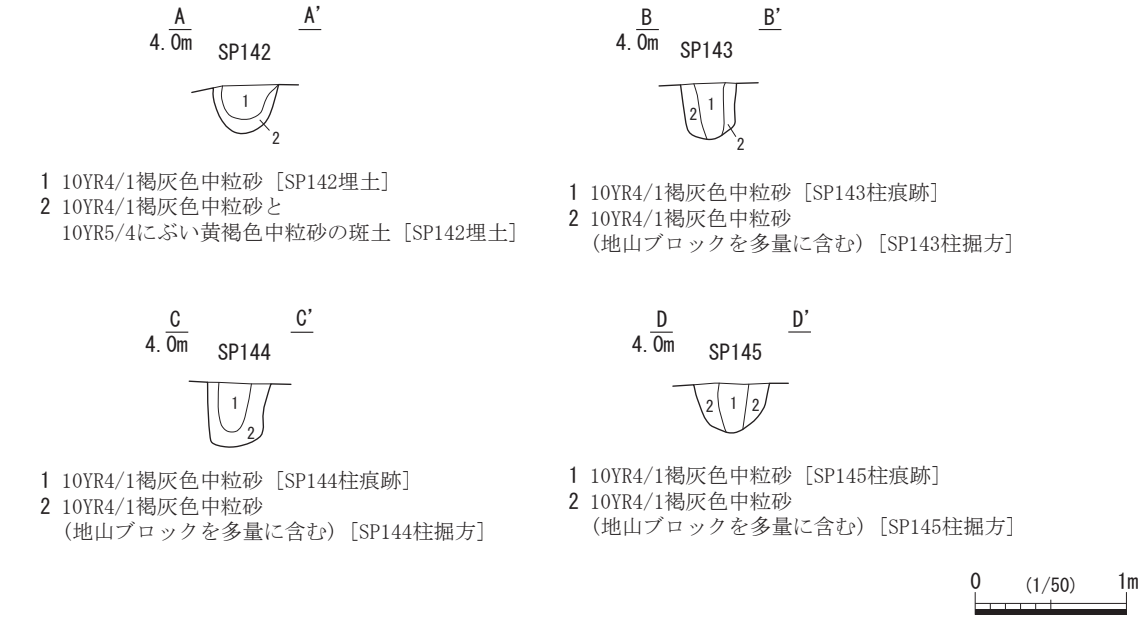




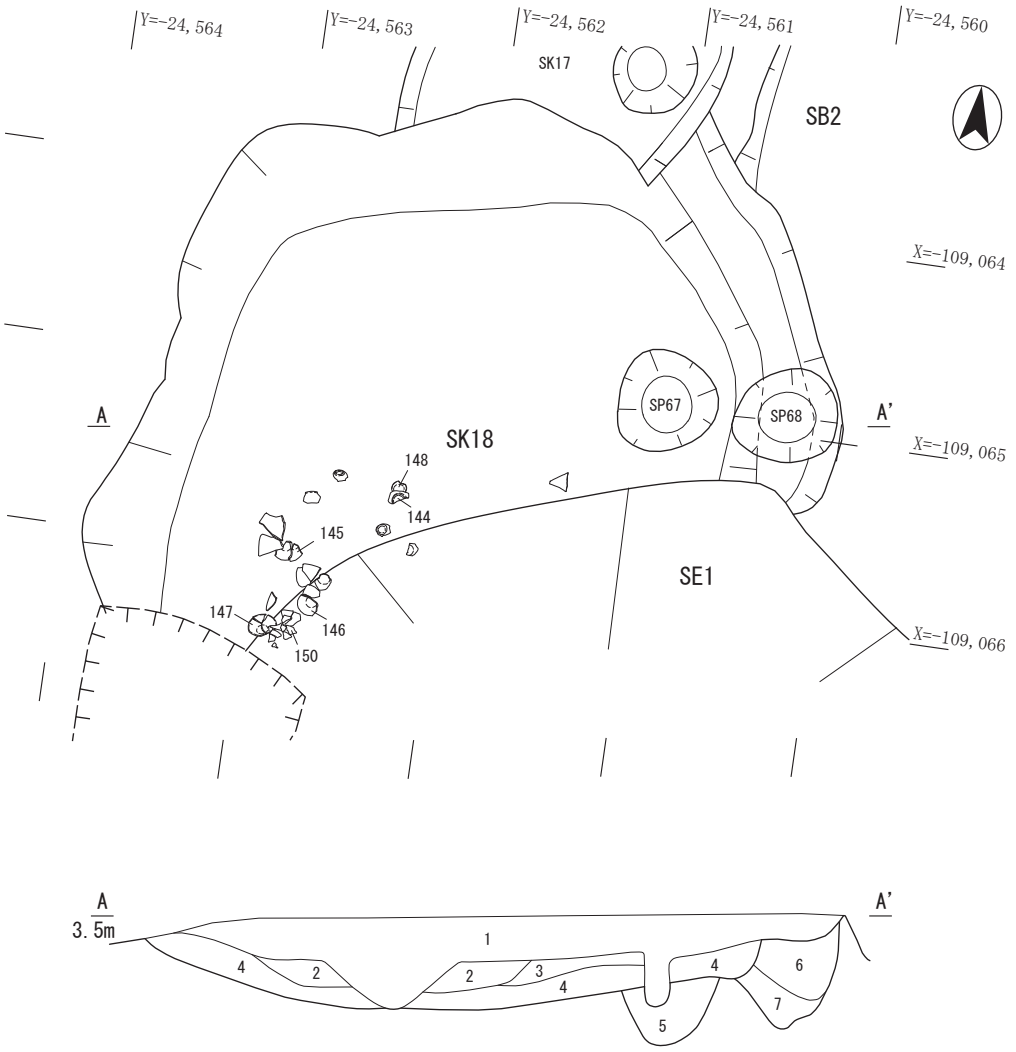
1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP73埋土］
2 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と
10YR4/1褐灰色中粒砂の互層［SP73埋土］

第 83 図　東畑遺跡 2 地点 SA1 平面図・断面図・エレベーション図
（平面図・エレベーション図 1/100，断面図 1/50）





第 84 図　東畑遺跡 2 地点 SA2 平面図・断面図・エレベーション図
（平面図・エレベーション図 1/100, 断面図 1/50）



1 10YR3/1黒褐色中粒砂(礫を含む) [SK18埋土]
2 10YR3/1黒褐色中粒砂(地山大ブロックを多量に含む) [SK18埋土]
3 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(10YR4/1褐灰色中粒砂ブロックを含む) [SK18埋土]
4 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを含む) [SK18埋土]
5 10YR6/2灰黄褐色中粒砂と10YR4/1褐灰色中粒砂の斑土　[SP67埋土]
6 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む) [SP68埋土]
7 10YR3/1黒褐色中粒砂(地山ブロックを含む) [SP68埋土]

0　(1/40)　1m

第 85 図　東畑遺跡 2 地点 SK18 平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/40)

土坑

SK18（第 85 図，図版第 41）

２地点の北側Ⅰ E13h・14h 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SB1・2、SP67・68 を切り、SK16・17、SP62 に切られる。長軸長約 605cm、短軸長約 350cm、遺構検出面からの深さ約 50cm である。西側は壁面の立ち上がりが緩やかであるが、東側はテラス状になる段差がある。また、土層断面の観察から遺構の重複がある可能性も考えられる。

遺物は山茶碗の碗や小皿、常滑の盤、伊勢型鍋などが出土している。出土した山茶碗の主体が尾張型７～８型式であることから、遺構は概ね 13 世紀中葉から 14 世紀前葉に位置付けられる。SK18 は SE1 に隣接し、出土遺物の年代が SE1 出土の遺物より古い傾向にあることから、SE1 の掘方である可能性がある。

溝

SD1（第 86 図）

２地点の北側Ⅰ E12h・12i・13g・13h・13i 区に位置する。ほぼ西南西 - 東北東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の西側と東側は調査区外に続く。SD2、SK67、SP23・29・37・44・206・207・229 を切る。長さ約 792cm、幅約 116cm、遺構検出面からの深さ約 50cm である。底面に高低差はない。断面形は東側ではやや V 字形を呈し、西側では U 字形を呈する。弥生時代から中世の包含層上で検出された。

出土遺物は尾張型第４～６型式の山茶碗が主体だが、大窯の天目茶碗が１点（153）出土している。大窯第１段階、15 世紀末から 16 世紀初頭の遺構である可能性がある。

SD5（第 87・88 図，図版第 41・42）

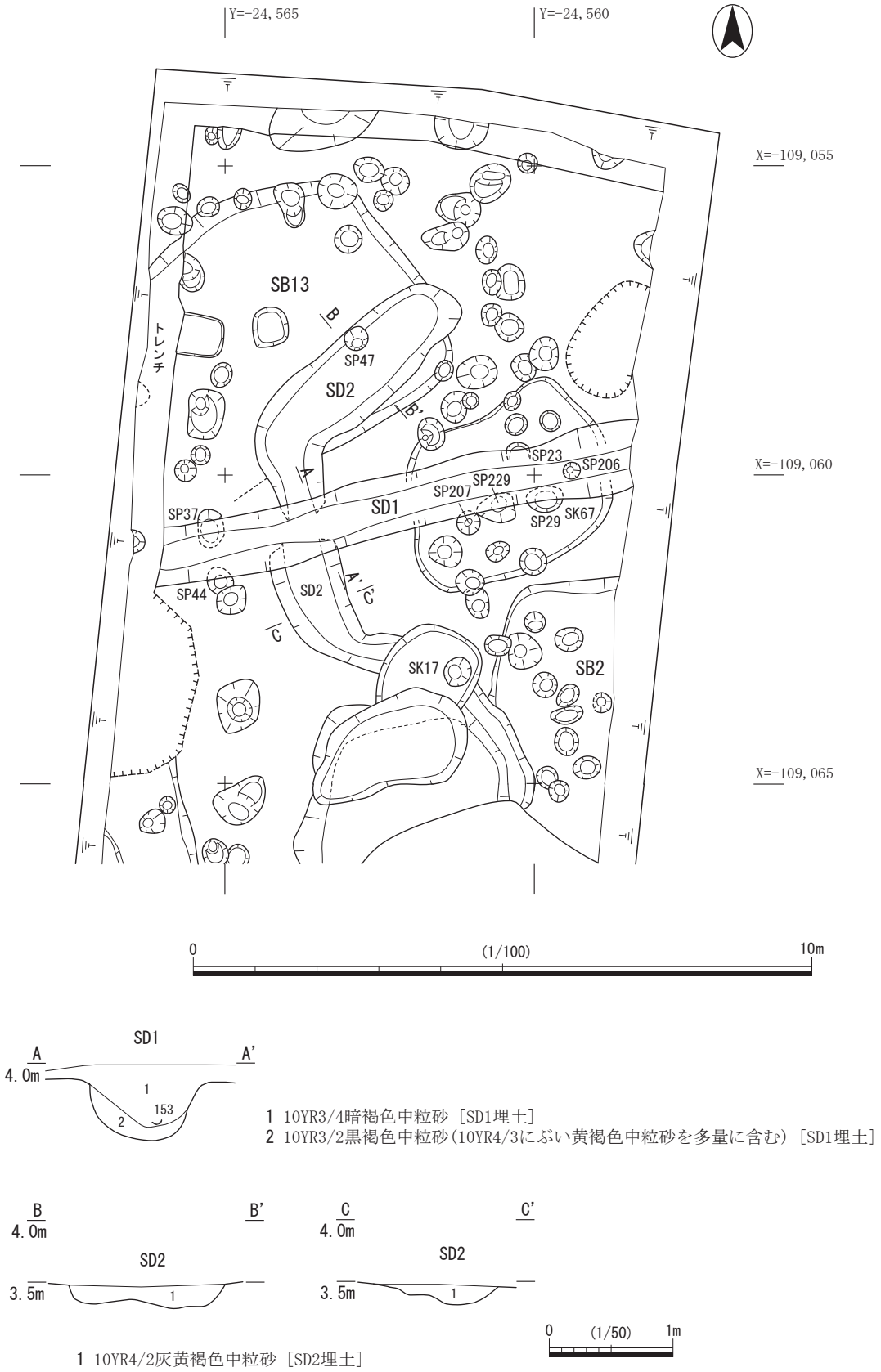
２地点の中央から南側にあたるⅠ E18h・19g・19h・20g・20h、Ⅱ E1g・1h・2g・2h・3g・3h・4h 区に位置する。L の字型に屈曲する溝状の遺構である。遺構の北側と南側は調査区外に続く。SB5･7･8･15、SK27･30･32･37、SP106･136 を切る。長さ約 32.75m、幅約 1.38m、遺構検出面からの深さ約 0.87m である。北側と南側で底面に 40cm 程の高低差があり、南側が低い。断面形は V 字形を呈する。調査区東壁の土層断面の観察からは中世の包含層から掘り込まれていることが分かり、SD1・3 よりも新しい溝であると思われる。

埋土には弥生時代から中世の遺物が含まれるが、層位的には中世以降の遺構と思われる。古瀬戸後期の瀬戸美濃の卸皿が出土している。底部から亀の甲羅が出土している。SD1 と 3 は軸方向が直交しており､SD5 の南南東から北北西に延びる軸は SD3 と同方向である。時期に若干のずれがあるが、これらは同じ性格を有するものと思われる。居住域を区画する溝もしくは耕作関連の溝であろう。

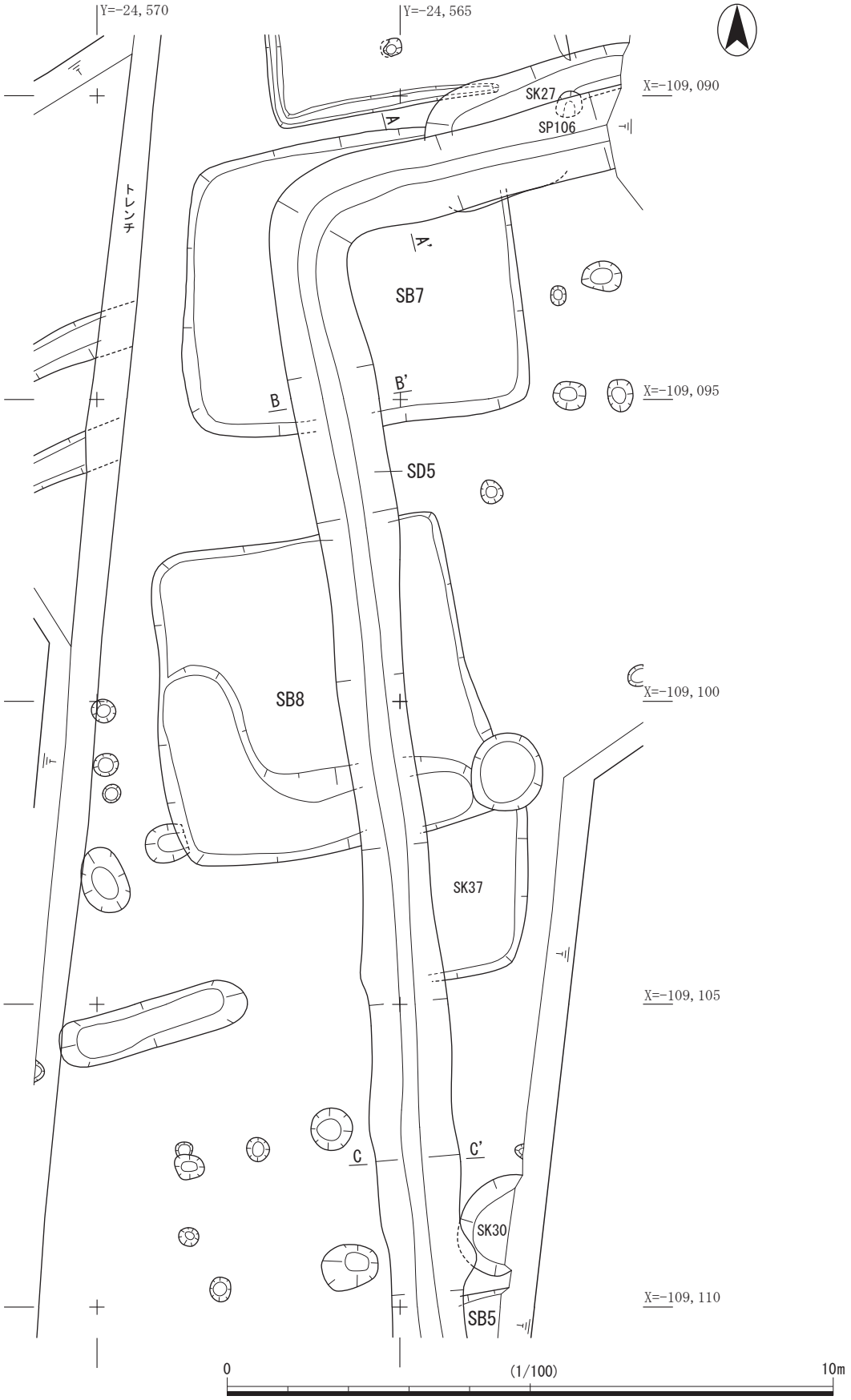
井戸

SE1（第 89・90 図，図版第 42）

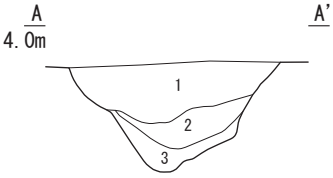
２地点の北側Ⅰ E14h・14i 区に位置する。常滑の甕を井戸枠として利用した井戸である。東側は調査区外へと続く。SB2、SK18、SP62 を切り、撹乱に切られる。長軸長約 445cm、短軸長約 371cm である。検出面は楕円形に近い掘方で、そこから下へ約 70 cm の高さで段をもつ。更に南側では検出面から下へ約 110cm、135cm の高さでも段をもつ。以下は平面楕円形の掘方と思われ、下部になるに従ってすぼまる。掘方の断面形は三角形を呈すると思われる。遺構検出面からの深さは推定で約 225cm であることから、標高 1.5m 前後で湧水層に達したと思われる。枠として確認できたのは３段



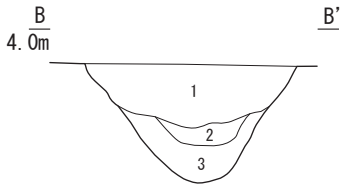
第 86 図　東畑遺跡２地点 SD1・2 平面図・断面図（平面図 1/100, 断面図 1/50）



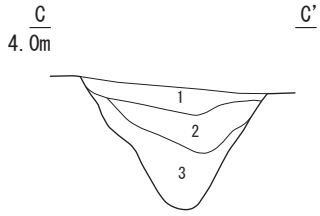
第 87 図　東畑遺跡 2 地点 SD5 平面図（1/100）



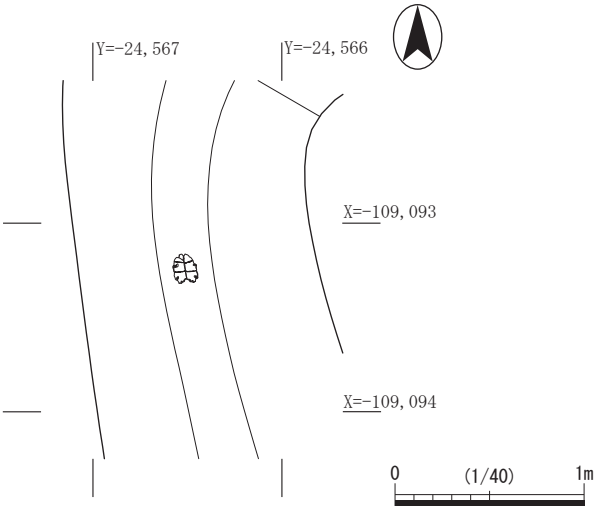
1 10YR3/4暗褐色中粒砂［SD5埋土］
2 10YR3/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色ブロックを少量含む)［SD5埋土］
3 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SD5埋土］



1 10YR3/4暗褐色中粒砂［SD5埋土］
2 10YR3/2黒褐色粗粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SD5埋土］
3 10YR3/2黒褐色中粒砂(10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SD5埋土］

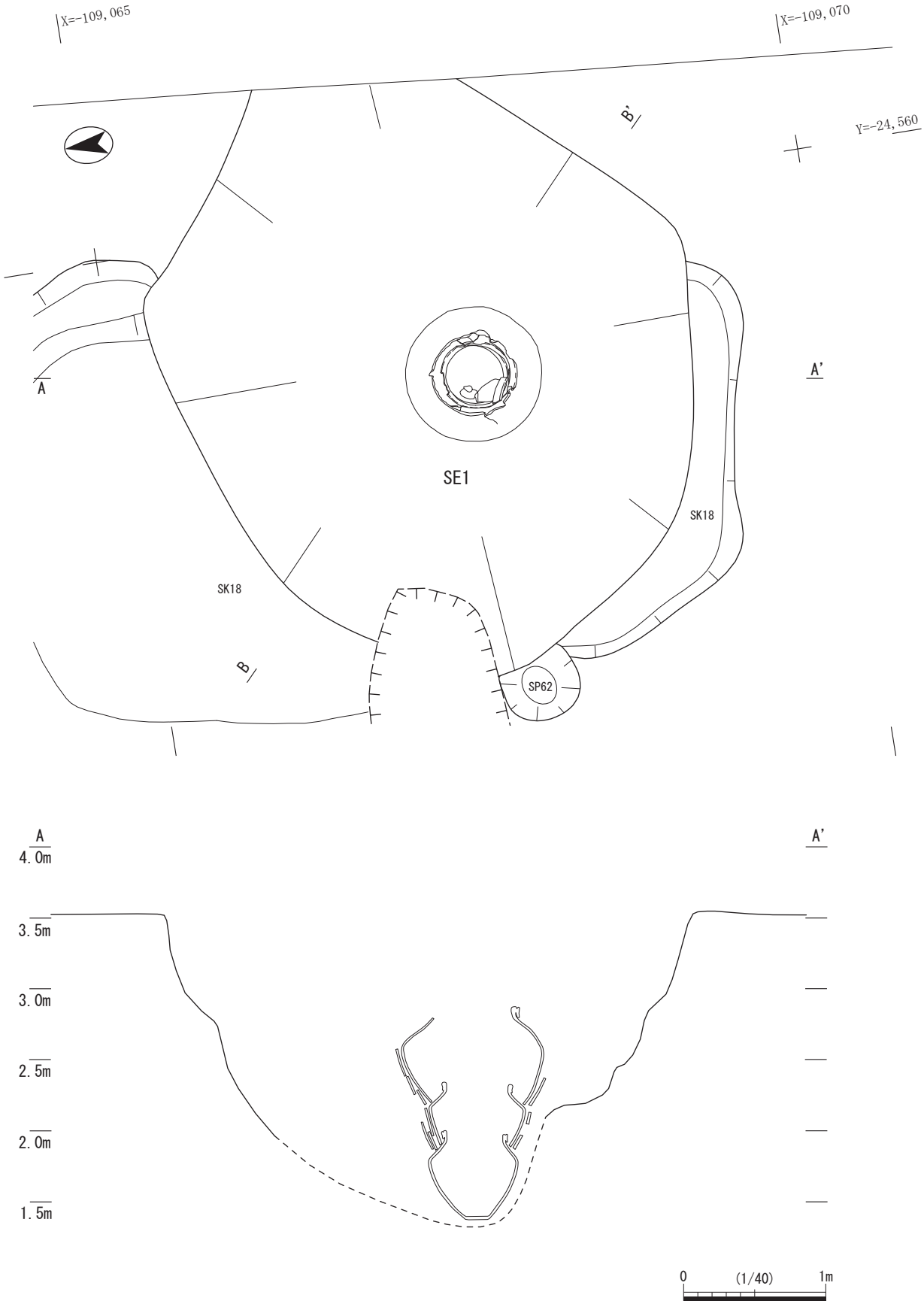


1 10YR3/4暗褐色中粒砂［SD5埋土］
2 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR3/2黒褐色中粒砂を少量含む)［SD5埋土］
3 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土　［SD5埋土］

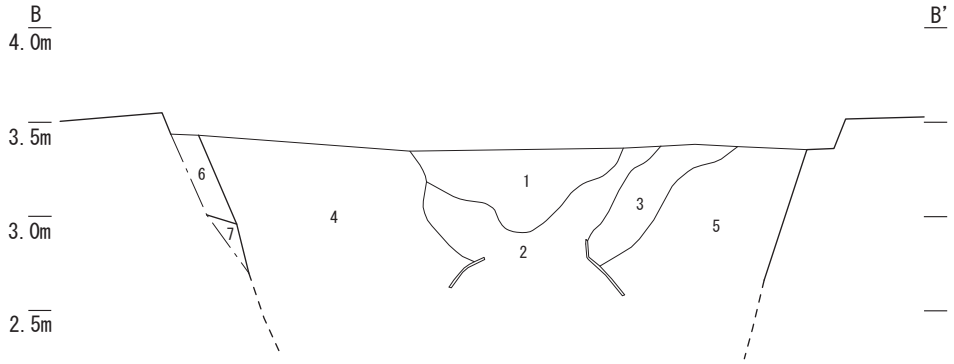


SD5 亀甲出土状況図

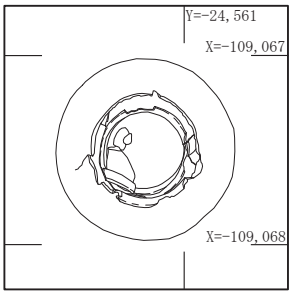
第 88 図　東畑遺跡 2 地点 SD5 断面図・亀甲出土状況図
（断面図 1/50，亀甲出土状況図 1/40）



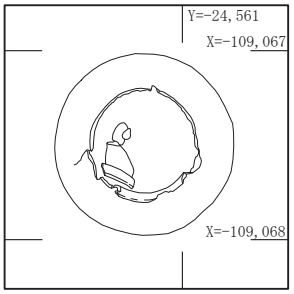
第 89 図　東畑遺跡 2 地点 SE1 平面図・断面図・井戸枠出土状況図（1/40）



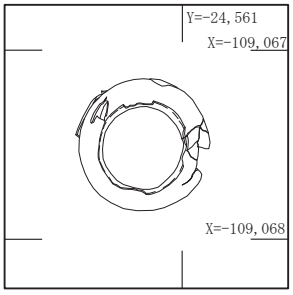
1 10YR3/2黒褐色中粒砂［SE1埋土］
2 2.5Y3/2黒褐色中粒砂［SE1埋土］
3 5Y3/2オリーブ黒色中粒砂［SE1埋土］
4 2.5Y3/3暗オリーブ褐色中粒砂［SE1掘方］
5 2.5Y3/2黒褐色中粒砂［SE1掘方］
6 10YR2/2黒褐色中粒砂［SK18埋土］
7 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［基盤層］



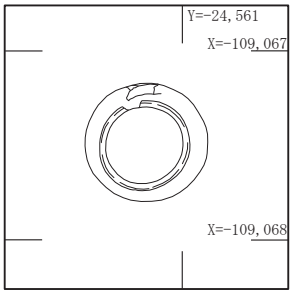
SE1 井戸枠出土状況図①



SE1 井戸枠出土状況図②(1 段目)



SE1 井戸枠出土状況図③(2 段目)



SE1 井戸枠出土状況図④(3 段目)

第 90 図　東畑遺跡２地点 SE1 断面図・井戸枠出土状況図（1/40）

であるが、本来は更に積み上げられていたと考えられる。上段の井戸枠は転用された可能性もあり、そのように考えるならば、SE1 断面図の１～３層は抜き取り後に堆積したものである。最下段に使用されていた甕の底部付近には２ヶ所の穿孔が見られ、井戸枠内部に地下の湧水層からの地下水が入るような構造になっていた。また、最下段の甕の内側底部には拳～人頭大の河原石 15 個程が

詰め込まれていた。最上段の甕は他の甕よりも大型の甕が据えられていた。各甕の連結部には砂の侵入を防ぐために、甕の破片を使用した裏込めが施されていた。なお、調査区東壁土層断面では標高約 3.9m からの掘り込みが確認できる。

SE1 は中世の井戸で、井戸枠に利用された常滑甕は知多窯８～９型式にあたり、14 世紀後半から 15 世紀前半のものである。SE1 から出土した井戸枠以外の遺物には山茶碗の碗、小皿、中世土師器の皿、常滑の片口鉢、古瀬戸の柄付片口がある。13 世紀前葉から 15 世紀後葉のものであり、時期幅がある。その他に鉄滓がある。出土地点が不明なものが多い。

SE2

２地点の北側Ⅰ E14g・15g 区に位置する井戸である。遺構の西半分は調査区外へと続く。SB1、SP94・203、SD6 を切り、SP64 に切られる。長軸長約 297cm、短軸長約 219cm である。調査区西側壁面で深さ 100cm まで確認できた段階で崩落の危険があったため、掘削を中止した。掘削を行なった箇所が井戸の中心からずれていた可能性も考えられるが、井戸枠は確認できなかった。素掘り井戸と思われる。遺物は尾張型第７～８型式の山茶碗の小皿が出土しているが、SE1 との時期的な前後関係は分からない。

第３節　出土遺物（図版第２～14，図版第 61 ～ 68・74 ～ 85，第２・３・５～７表）

A 弥生土器・土師器

SB1 出土土器

土師器の壺（29・30）、甕（31）、高杯（32・33）がある。

29 は小型壺である。胴部径を大きく上回る口径となる。口縁部は直線的で、端部周辺のみヨコナデ調整を施す。胴部は扁平で箱型に近く、底部は平底となる。頸部の継ぎ目の調整は粗雑で、部分的に強いヨコナデ調整がみられる。30 は広口壺である。口縁部は大きく外反し、端部に面をもつ。全体的に作りは粗雑で、歪みが大きい。31 はく字状口縁台付甕である。やや肩が張り、胴部上半が最大径となる。器面には粗いハケおよび板ナデ調整を施す。下部からタテハケ、肩部ヨコハケ、頸部タテハケの順で調整が行われているが、所々不規則なハケ目が入る。口縁部は短く外反し、上半部に強いナデ調整が施されている。32 は有段高杯である。杯部には僅かに内弯傾向がみられ、口縁端部に内傾面をもつ。ミガキ調整は単位が短く、螺旋状に施されている。33 は椀形高杯である。杯部は全体的に内弯し、口縁端部の外反はみられない。外面には板ナデに見えるほどの幅広い粗いミガキが施され、口縁部周辺にはヨコナデ調整がみられる。

これらの土器は、廻間式と松河戸式および宇田式に分けられる。器形や製作技法・調整から 32 は廻間Ⅱ式に、29 ～ 31 は松河戸Ⅱ式に、33 は宇田Ⅰ式に位置付けられる。

SB2 出土土器

弥生土器の壺（34・35）がある。

34 は細頸壺の胴部片である。外面はハケ調整の後、２本１組（半截竹管か）の多条直線文が施されている。施文は 10 条を同時に行っていると思われる。35 は細頸壺の胴部片である。沈線で区画されたヘラミガキ帯とヘラ描斜格子文がみられる。斜格子文は粘土の乾燥が不十分な段階に施された為、右下がりの施文が潰れて刺突状にみえる。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から高蔵式に位置付けられる。

SB3 出土土器

土師器の甕（36）、器台（37）、ミニチュア土器（38）がある。

36 はＳ字状口縁台付甕(B 類)である。口縁部は外側に伸びる傾向にあるが、明瞭な屈曲がみられる。端部内面に平坦面をもち、頸部内面にはハケ調整が残る。37 は小型器台である。受部は浅く、全体的に内弯し、端部は外側にやや突出する。器面には細かいミガキ調整が施され、口縁端部にまで至っている。東海系器台である。38 はミニチュア土器の底部と思われる。底部外面周辺に横方向の板ナデ、上方に縦方向の板ナデが施されている。横方向の板ナデは全周していなく、やや粗雑な調整となっている。内面には板の先端で粗雑に整形した痕跡がみられる。

36・37 は、器形や製作技法・調整から廻間Ⅱ式に位置付けられる。

SB4 出土土器

土師器の甕（39 ～ 41）、高杯（42）、壺（43）がある。

39 は布留系の甕である。口縁部は上方に立ち上がり、端部は肥厚する。胴部は球胴形であり、肩部外面に横方向を意識した羽状のハケ調整が施されている。内面下半に指オサエ、上半に板ケズリ調整がみられるが、ケズリ調整は頸部まで至っていない。40 は平底甕である。口縁部には僅かな外反がみられるが、全体的には直線的に立ち上がる。胴部最大径は上半に位置し、平底甕の出現する宇田Ⅰ式よりも古い様相がみられる。外面上半には板ナデ、下半には板ケズリが施されている。胴部下半には煤の付着がみられる。41 は甕であるが底部が残存しないため、形態は分類できない。同一個体片には脚台部の破片が見られないため、丸底甕もしくは平底甕の可能性が高い。口縁部は僅かに外反して立ち上がり、端部を丸く収める。胴部にはやや長胴の傾向がみられ、最大径は上半に位置する。器面には主に板ナデ・指ナデ調整が施されている。42 は高杯である。杯部上半が外反し、下半に明瞭な稜をもつ。脚部は緩やかに外側に開き、下部は肥厚する。器面にはやや幅広のミガキ調整が施され、杯部外面には板ケズリに近い痕跡がみられる。43 は有段状の口縁部をもつ小型壺である。底部から胴部下半までは指ナデ、胴部上半から口縁端部までは強いヨコナデ調整が施されている。頸部に粘土継ぎの痕跡がみられないことや器壁の厚みなどからロクロを使用した水挽きが行われた可能性もある。

これらの土器は、松河戸式と考えられる。更に器形や製作技法・調整から 40 ～ 42 は松河戸Ⅱ式に位置付けられる。

SB5 出土土器

土師器の器台（44）、壺（45）がある。

44 は東海系器台である。受部は浅く、やや直線的に立ち上がる。口縁端部は外面が丸く、内面が直線的に整形されており、上端が尖るような形状となる。脚部は内弯や屈曲がみられず、外反しながら広がる。45 は壺の底部である。突出底で、1 段階目（底部周辺）の調整と粘土継ぎ以降の調整の変化が顕著にみられる。

44 は器形や製作技法・調整から廻間Ⅲ式と考えられる。

SB6 出土土器

土師器の高杯（46 ～ 48）、鉢（49）がある。

46 は有稜高杯である。口縁部外面に直線文・波状文を施している。杯部上半に内弯傾向がみられ、

口縁端部に内傾面をもつ。47 は有段高杯である。杯部は大きく外に開き、口径に対して稜径は 1/3 程度である。ミガキ調整は段階的に分かれる。48 は有段高杯である。杯部は外傾しながら直線的に伸び、杯部高は浅い。口縁端部に面はみられず、丸く収められている。杯部下半には僅かな段が認められる。脚部は円錐状に広がり、端部に若干の内弯傾向がみられる。杯部の稜径と脚部の底径はほぼ同じ大きさである。49 は鉢である。口縁部は短く直線的で、大きく外側に開く。胴部上半は丸みを帯び、下半はやや直線的となる。口径は胴部径よりも若干小さい。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から 46 ～ 48 は廻間Ⅱ式に、49 は廻間Ⅱ～Ⅲ式に位置付けられる。

SB7 出土土器

土師器の壺（50・51）、鉢（52）、甕（53・54）、高杯（55）がある。

50 はヒサゴ壺である。短頸で内弯傾向の強い口縁部であるが、端部は僅かに外反する。口頸部および胴部上半に二枚貝による連弧文・直線文が施されている。ミガキ調整が縦方向を基本としているため、やや古い様相を感じる。51 は口縁部の形状は不明だが、球状の胴部や調整から広口壺と思われる。管状のものを 8 本束ねた工具を用いて刺突文・波状文・直線文が施されている。52 は鉢である。口縁部は大きく外傾し、端部下端にキザミが施されている。これにより口縁部は僅かにヒダ状を呈する。口径は胴部径より大きい。53 はく字状口縁甕に類するものであるが、時期的に不明な点が多い。口縁部は大きく外傾し、端部をやや丸く収める。端部には板状工具による刺突が施されている。器面の調整は内外面とも板ナデを主体としている。54 は受口状口縁台付甕である。口縁部の屈曲が端部に近い上半部から始まり、端部には明瞭な面をもつ。内外面とも粗いハケ調整が施され、口縁部の屈曲部付近に刺突列を有する。肩部の直線文や刺突列は省略されており、受口甕の最終段階とも考えられる。55 は有段高杯である。杯部と脚部の器高がほぼ同じである。端部周辺にはヨコナデ、ヨコミガキ調整が施されているが、タテミガキ調整によって部分的に消えている。脚部内面はナデによりハケ調整が消され、端部周辺には強いヨコナデ調整が施されている。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から 51・54・55 は廻間Ⅰ式に、50 は廻間Ⅱ式に、52 は廻間式に位置付けられる。

SB8 出土土器

弥生土器の高杯（56）、甕（57）がある。

56 は高杯の脚部である。杯部と脚部の接合部分から外反が始まり、柱状部がみられない。57 はく字状口縁台付甕である。口縁部は短く外反して立ち上がり、端部を丸く収める。外面と頸部内面に粗いハケ調整が施されているが、内面は板ナデ調整が主体である。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から山中Ⅱ式と考えられる。

SB9 出土土器

弥生土器の鉢（58）、甕（59・60）、器台（61）がある。

58 は有段口縁鉢である。受口状の口縁部は内傾気味である。端部の面も内傾する。59 は台付甕である。脚台部は幅が広く、器高が低い特徴をもつ。若干の内弯傾向がみられ、端部には面が形成されている。60 は台付甕である。脚台部は外反し、端部に明瞭な面をもつ。器面はナデ調整によりハケ目が消されている。61 は器台である。口縁部は直線的に広がり、端部 5 ヶ所に 3 本 1 組の棒状浮文を貼り付ける。脚部は外反気味に広がり、端部付近で外反が大きくなる。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から山中Ⅱ式に位置付けられる。

SB10 出土土器

弥生土器の壺（62・63）がある。

62 は付加沈線研磨技法がみられる太頸壺である。口縁部には貝刺突と 3 個 1 対のボタン状浮文、頸～肩部にかけては貝刺突と磨消帯、縄文帯が施されている。63 は細頸壺である。線刻が少なくとも 7 条ほど施されている。それらは平行ではなく、螺旋状に巡る可能性がある。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から 62 は貝田町式、63 は高蔵式と考えられる。

SB11 出土土器

土師器の壺（64）、甕（65・67）、鉢（66・68）、器台（69）、高杯（70）がある。

64 はパレススタイル壺である。口縁部に垂下拡張部をもつ。器面の摩耗が著しい状態ではあるが、内面に施文の痕跡はみられず、垂下拡張部に棒状浮文と僅かに擬凹線が確認できるのみである。65 はＳ字状口縁台付甕（C 類）である。口縁部の屈折が外側へ伸びる形態であり、頸部に沈線（頸部調整技法）がみられる。肩部の直線文が頸部に近い位置にあり、古い様相がみられる。66 は器面にミガキ調整がみられることから、精製の小型鉢であると考えられる。脚台部は内弯し、内面は指ナデにより調整されている。67 はく字状口縁台付甕である。口縁部は外反して立ち上がり、端部に面をもつ。胴部は下半が最大径となる。やや下膨れの形態である。脚台部の器壁は、胴部に比べ半分程度の厚さである。ハケ目などが粘土の継ぎ目を境として単位が変化するため、胴部は段階的に成形されていると考えられる。脚台部も別作りである。68 は鉢である。口縁部は比較的に直線的に立ち上がる。底部は平底状であるが、中央が明瞭にくぼみ、高台にみえる形状である。69 は器台である。内弯する受部をもち、口縁部は丸く収める。脚内面の開きから判断すると、脚部は大きく外反すると考えられる。70 は有段高杯である。杯部の稜径は小さく、段も曖昧である。外傾が強く、直線的に立ち上がり、端部を丸く収める。脚部の形状は不明だが、僅かに外反の傾向が認められる。

これらの土器は、廻間式（64 ～ 66･68 ～ 70）と松河戸式（67）に分けられる。更に器形や製作技法・調整から 64 は廻間Ⅱ～Ⅲ式、65・66・69・70 は廻間Ⅲ式に位置付けられる。

SB12 出土土器

弥生土器の壺（71・72）がある。71 は SB11 と SB12 の境界で出土し、帰属は不明であるが、土器の属性から SB12 出土遺物として扱う。

71 は「瓜郷式」系壺の肩部である。直線文帯の幅は広く、縦方向の直線文がみられる。72 は「瓜郷式」系壺の頸部である。付加沈線研磨技法がみられる。文様帯にはヘラ状工具により斜位直線文が施されている。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から貝田町式（瓜郷式）に位置付けられる。

SB13 出土土器

弥生土器の壺（73・74）がある。

73 は凹線文系の細頸壺である。口縁部に凹線文をもつ。受口状に近い形状であり、端部の立ち上がりも低い。74 は壺の胴部片である。半截竹管状工具による波状文が腰部に 2 条巡る。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から高蔵式に位置付けられる。

SB14 出土土器

土師器の甕（75・76）、壺（77）、高杯（78）がある。

75 は薄手の作りであり、形態的に 76 と同様に小型平底甕であると考えられる。口縁部は強く外傾し、肩が僅かに張る。器面調整は粗いハケと板ナデ、指オサエである。76 は小型平底甕である。口縁部はく字状に外反する。長胴形であり、胴部下半に僅かに稜がみられる。薄手作りである。77 は壺の底部である。薄手作りで突出底をもつ。器面に僅かにミガキ調整の痕跡があるため、壺と判断した。78 は高杯である。杯部上半はやや直線的で、下半に僅かな弯曲がみられる。全体的な形状は椀形に近いが、稜が認められることから有段高杯に含まれると考えられる。

器形や製作技法・調整から 75・76・78 は松河戸Ⅱ式に位置付けられる。

SB17 出土土器

土師器の甕（79）、壺（80・81）、高杯（82・83）がある。

79 はく字状口縁台付甕である。口縁部は短く内弯し、端部は上方に面をもつ。胴部は球胴形で、主としてハケ調整が施されている。80 は小型壺である。口径と胴部径がほぼ等しい。口縁部は直線的で大きく外傾する。胴部高に比べて口縁部高は半分以下となる。81 は直口壺である。底部がややすぼまるものの、ほぼ球形となる丸底壺である。口縁部は外側に開き、端部で僅かに内弯する。82 は大型高杯である。杯部に突帯をもつ。杯部底面は擂鉢状になる。杯部上半は外反して立ち上がり、口縁端部で内弯する。83 は高杯の脚部である。脚柱部は僅かな膨らみをもつ。脚部下半は屈曲し大きく開き、やや上方に反るような形状となる。焼成時のものと思われる亀裂がみられる。

これらの土器は、廻間式と松河戸式に分けられる。更に器形や製作技法・調整から 79 は廻間Ⅱ式、80 ～ 83 は松河戸Ⅱ式に位置付けられる。

SB18 出土土器

土師器の壺（84・85）、甕（86・88・89）、鉢（87）、高杯（90）がある。

84 は口頸部が短いヒサゴ壺である。胴部最大径が下半にあり、やや下膨れ状となる。底部は平底で、中央は窪まない。85 は広口壺である。胴部最大径が下半にくるやや下膨れ状の壺となる。外面はハケ調整が主体であり、文様帯はみられない。頸部から胴部上半にかけて丸窓を想起させる欠損がある。86 は S 字状口縁台付甕（A 類）である。口縁部の折り返しはほぼ垂直に立ち上がり、外面には押引刺突文が施される。肩部の直線文（ヨコハケ）は頸部直下に施されており、典型的な S 字甕 A 類の特徴がみられる。87 は口径と胴部径がほぼ同じ大きさとなる中型の鉢である。口縁部は直線的に短く外傾し、胴部は球胴状となる。88 は口径が胴部径よりも大きくなるナデ甕である。器面調整は板ナデが主体である。時期の詳細は不明である。89 は台付甕である。胴部下半が鋭角に立ち上がることから、長胴化していると考えられる。脚台部の底部径がそれほど大きくならないことから、く字状口縁台付甕を想定する。胴部と脚台部の接合部分には粘土の充填はみられない。90 は有段高杯の脚部である。脚部の内弯が弱く、円錐形に近い形状である。端部のヨコミガキ調整は施されていない。脚部高はやや低い傾向がみられる。

器形や製作技法・調整から 84・86・87・89・90 は廻間Ⅰ式に、85 は廻間式に位置付けられる。

SL1 出土土器

土師器の甕（91）がある。宇田型台付甕（2 類）で、口縁部の厚みが均一であり、内面が僅かにくぼむ。胴部外面に粗いハケ調整が施され、口縁部から頸部のやや下側まで強いヨコナデ調整がみられる。器形や製作技法・調整から宇田Ⅰ式に位置付けられる。

SK20 出土土器

弥生土器の甕（92）、土師器の壺（93）、甕（94）がある。

92 は頸部のしまりがやや強く、直線的に外傾する口縁部をもつ甕である。口縁端部に明瞭な面があり、刺突が施されている。93 は短頸の広口壺である。口縁端部はやや丸みを帯びる。94 はく字状口縁台付甕である。口縁部はやや内弯し、端部は丸く収められている。胴部には長胴化の傾向がみられ、頸部に接合痕が顕著に残る。内面の調整は板ナデが主体であり、ケズリの痕跡はみられない。

これらの土器は、高蔵式と廻間式に分けられる。器形や製作技法・調整から 92 は高蔵式、93・94 は廻間Ⅰ式に位置付けられる。

SK37 出土土器

弥生土器の壺（95）がある。太頸壺で、クシ状工具により直線文と波状文を交互に施している。文様帯を区画する沈線は無く、縦方向の施文もみられない。器形や製作技法・調整から古井～長床式（高蔵式）に位置付けられる。

SD15 出土土器

土師器の甕（96）、鉢（97）がある。

96 はく字状口縁台付甕である。口縁部はやや外反・外傾しながら上方に立ち上がる。胴部には長胴化の傾向がみられる。97 は鉢である。底部から胴部上半までは直線的に立ち上がる。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から廻間Ⅰ式に位置付けられる。

SD16 出土土器

土師器の甕（98・99）、鉢（100）、高杯（101・102）がある。

98 はく字状口縁台付甕である。口縁部は直線的に外傾し、胴部は球胴状を呈する。口縁端部には刺突文が施される。99 はく字状口縁台付甕である。小型の台付甕で、ハケ調整がやや粗雑な印象を受ける。100 は受口状の口縁部をもつ鉢である。口縁部下端に刺突文、頸部に直線文がみられるが、やや不明瞭である。101 は椀形高杯である。杯部高はやや深い。ミガキは縦方向が主体であるが、隙間にハケ目がみられる。やや粗雑に調整が施されている。102 は有段高杯である。杯部高は浅く、稜径は縮小している。杯部は僅かに内弯傾向を示しており、口縁端部に明瞭な内傾面をもつ。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から 98 ～ 100 は廻間Ⅰ式、101・102 は廻間Ⅱ式に位置付けられる。

SX2 出土土器

弥生土器の壺（103 ～ 107）、甕（108 ～ 112）、高杯（113 ～ 115）、土師器の壺（116）がある。

103 は凹線文系の太頸壺である。口縁部に 5 条の凹線、頸部に簾状文が施されている。104 は壺の底部である。突出気味の平底であり、高蔵式ではやや古い様相を残す。105 は細頸壺である。最大径は胴部下方にあり、フラスコ形を呈する。胴部上半に多条直線文、頸部に簾状文が施されている。106 は小型の細頸壺である。胴部最大径が中央やや下方に位置する。クシ状工具による多条直線文と波状文を施す。107 は平底の壺である。胴部最大径の位置に波状文が施されている。108 は凹線文系の甕である。胴部外面にタタキを行なった後にハケ調整を施す。口縁端部にハケ目が残る。内面は板ナデ調整である。109 は凹線文系の甕である。外面にハケ調整が施され、タタキの痕跡はみられない。内面はハケ調整の後に胴部やや上方まで縦方向のケズリが施されている。口縁部内面や端部にもハケ調整がみられる。110 は凹線文系の甕である。胴部上半に水平方向のタタキ、下半に斜

め方向のタタキがみられる。いずれもタタキ後ハケの順で調整が施されている。内面は下半に縦方向のケズリがみられる。口縁部にはヨコナデ調整が施され、端部に凹面が形成されている。111 は大型の脚台部をもつ甕である。脚端部に明瞭な面を有する。底部は脚台部側（下側）から充填されている。112 は三河系のナデ調整を主体とする台付甕である。柱状の脚台部をもち、胴部は強く張り出す。頸部内面が強く屈曲し、口縁は大きく外傾する。肩部に 1 ヶ所、8㎜ 程度の孔がみられる。113 は鍔状口縁をもつ高杯である。口縁端部が垂下し、凹線文が施されている。器面調整は板ナデが主体である。内面にはクシ状工具による 2 条の沈線のような痕跡がみられる。114 は鍔状口縁をもつ高杯である。口縁端部に凹線文が施されている。杯部と脚部を一体で製作し、後から底部を充填している。杯部内面には 1 条の沈線が巡る。115 は小型の高杯である。台付鉢にも似た形状を呈する。杯部は椀形で、口径が底径を大きく上回る。116 はパレススタイル壺である。口縁部は内弯傾向が強く、垂下する拡張口縁端部には擬凹線文と 4 条 1 対の棒状浮文が巡る。また、口縁部内面には羽状刺突文が巡る。胴部には直線文と山形文が交互に施されている。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から 103 ～ 114 は高蔵式、115 は山中Ⅰ式、116 は廻間Ⅰ式に位置付けられる。

遺物包含層出土土器

117 は太頸壺である。「瓜郷式」系壺で受口状口縁をもつ。口縁部外面に縦方向の直線文、端部に刺突文が施されている。118 は壺の胴部とも考えられるが、詳細は分からない。屈曲部は最大厚が 1.7cm あり、計測箇所によって 1cm 近い差が生じる。外面にはヘラ状工具で楕円状に区画し、その内側に同じくヘラ状工具で細かい刻みを施した文様が少なくとも 3 ヶ所ほど確認できる。119 は鉢である半球状を呈し、内弯する口縁部をもつ。口縁部には幅の広い片口部がある。器面はハケおよびケズリにより整形され、粗く横方向のミガキ調整が施されている。時期の詳細は不明である。120 は高杯である。脚部はやや外反しながら開く。穿孔は上下 2 段、3 方向ずつの計 6 ヶ所ほど施されている。121 は蓋である。器高が低く、扁平である。122 は鉢である。底部から口縁部まで直線的に立ち上がる。器壁の調整はやや粗雑な印象を受ける。123 はミニチュア土器である。台付甕を模倣したもので、胴部中央に欠損か否か判断が難しい孔がみられる。124 は東海系器台である。受部は全体的に厚みがあり、高縁部はつまみ上げるように上方に立ち上がる。脚部は直線的に開き、透孔は上方に位置している。125 は高杯である。脚部は大きく外反し、屈曲部には刺突が施された突帯状の稜を有する。透孔は上下 2 段 1 対の 3 方向にみられる。

器形や製作技法・調整から 117 は瓜郷式（貝田町式）、120・121 は山中式、122・125 は廻間式、124 は廻間Ⅱ～Ⅲ式に位置付けられる。

B　須恵器・灰釉陶器・白磁

SK61 出土須恵器

須恵器の蓋（129・130）がある。

129・130 はつまみ蓋である。129 の形状は笠形であり、端部は折り返した形状である。8 世紀前半の高蔵寺 2 号窯式である。130 は端部付近で屈曲がみられるが、外側へは伸びない。8 世紀前半の岩崎 25 号窯式である。

SP73（SA1）出土須恵器

須恵器の無台杯（131）がある。8 世紀前半の岩崎 25 号窯式と考えられる。

遺物包含層出土須恵器・灰釉陶器・白磁

126 は須恵器の杯身である。最大径は 12.6cm で、底部外面の回転ヘラケズリ範囲は 9 割におよぶ。口縁端部の挽き出しはみられない。5 世紀後葉から 6 世紀前葉の下原窯式に位置付けられる。127 は杯身である。最大径は 14.4cm で、底部外面の回転ヘラケズリ範囲は 7 割程である。6 世紀中頃の東山 61 号窯式に位置付けられる。128 は須恵器の高杯である。焼成時に脚部が沈下し、脚端部が扁平化している。脚端部の外面には沈線が施されている。6 世紀中頃の東山 61 号窯式と考えられる。132 は灰釉陶器の浄瓶である。細長い頸部には鍔状の環台が付き、さらに上に細い尖台をもつ。頸部に 2 条の沈線がみられる。9 世紀前半の黒笹 14 号窯式である。133 は灰釉陶器の三足盤である。灰釉は内面のみに施されている。底部内外面にはトチン痕がみられる。9 世紀前半の黒笹 14 号窯式である。134 は白磁玉縁碗である。白磁碗ＸⅠ類で、時期は 10 世紀後半から 11 世紀中頃のものである。

C　中世の土器・陶磁器

SB19 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（135 ～ 137）がある。

135 は SP51 から出土した山茶碗の碗である。全体的に歪みが著しい。胎土に長石を多く含むため、産地は猿投から瀬戸周辺と考えられる。136 は SP225 から出土した山茶碗の碗である。137 は SP229 から出土した山茶碗の碗で、内面に煤または墨痕がみられる。135・136 は尾張型第 6 型式、137 は尾張型第 5 型式に位置付けられる。

これらの遺物は、実年代で 12 世紀後葉から 13 世紀前葉のものである。

SB20 出土土器・陶磁器

山茶碗の小皿（138）、常滑の片口鉢（139）、土師器の伊勢型鍋（140）がある。

138 は SP223 から出土した山茶碗の皿で、尾張型第 6 型式である。139 は SP223 から出土した常滑の片口鉢で、知多窯 4 ～ 5 型式である。140 は SP17 から出土した土師器の伊勢型鍋で、北村編年（北村 1996）の A4a 類に位置付けられる。

これらの遺物は、実年代で 13 世紀前半のものである。

SB21 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（141・142）がある。

141 は SP28 から出土した山茶碗の碗である。胎土に長石を多く含むため、産地は猿投から瀬戸周辺と考えられる。142 は SP59 から出土した山茶碗の碗である。内面下半に煤の付着がみられる。

これらの遺物は、尾張型第 7 ～ 8 型式に位置付けられ、実年代で 13 世紀中葉から 14 世紀前葉のものである。

SB22 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（143）がある。143 は SP111 から出土した山茶碗の碗である。尾張型第 5 型式に位置付けられ、実年代で 12 世紀後葉から 13 世紀初頭のものである。

SK18 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（144 ～ 147）、小皿（148）、常滑の盤（149）、土師器の伊勢型鍋（150）がある。

144 は山茶碗の碗で、内面と一部破断面に煤が付着している。二次利用の可能性がある。尾張型第 4 ～ 5 型式に位置付けられる。145 は山茶碗の碗で、内面下部に煤または炭によるシミがある。また､外面の一部にも同様のシミと被熱による赤色化がみられる。尾張型第 7 型式に位置付けられる。146 は山茶碗の碗で、内面全体に煤が付着し、外面も底部を中心に煤の痕跡がみられる。尾張型第 7 型式に位置付けられる。147 は胎土に長石を多く含む山茶碗の碗である。外面底部を中心に煤が付着している。尾張型第 8 型式に位置付けられる。148 は胎土に長石を多く含む山茶碗の小皿である。尾張型第 7 型式に位置付けられる。149 は常滑の盤である。器高が低く、箱型を呈する。口縁部に一部歪んだ箇所がみられるが、片口にまで至っていない。内面に煤が付着している。火鉢として利用された可能性がある。150 は土師器の伊勢型鍋で､北村編年（北村 1996）の A4 類に位置付けられる。

これらの遺物は、144 を除き実年代で概ね 13 世紀中葉から 14 世紀前葉のものである。

SD1 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（151）、小皿（152）、瀬戸美濃の天目茶碗（153）がある。

151 は山茶碗の碗で尾張型第 5 型式に位置付けられる。152 は山茶碗の小皿で尾張型第 6 型式に位置付けられる。153 は天目茶碗で大窯第 1 段階に位置付けられる。

出土した遺物は、12 世紀後葉から 13 世紀前葉の山茶碗と 15 世紀末から 16 世紀前葉にかけての天目茶碗であり、大幅な時期差がある。

SD5 出土土器・陶磁器

瀬戸美濃の卸皿（154）がある。古瀬戸後期で、実年代で 14 世紀後葉から 15 世紀にかけてのものであろう。

SE1 出土土器・陶磁器

SE1 井戸枠内や掘方から山茶碗の碗（155・156）、小皿（157 ～ 159）、中世土師器の皿（160）、常滑の片口鉢（161）、古瀬戸の柄付片口（162）が出土している。

155 は胎土に長石を多く含む山茶碗の碗である。猿投・瀬戸産と考えられ、尾張型第 10 型式に位置付けられる。156 は山茶碗の碗で､内面に煤の付着がみられる。尾張型第 11 型式に位置付けられる。157 は山茶碗の小皿で、尾張型第 6 型式に位置付けられる。158 は胎土に長石を多く含む山茶碗の小皿である。猿投・瀬戸産と考えられ、尾張型第 7 型式に位置付けられる。159 は尾張型第 7 型式の山茶碗の小皿である。160 は中世土師器のロクロ調整皿であるが、山茶碗の小皿の焼成不良品とも考えられる。山茶碗の型式分類では、尾張型第 7 型式に位置付けられる。161 は高台を省略した常滑の片口鉢Ⅱ類である。知多窯 8 型式に位置付けられる。162 は古瀬戸の柄付片口で、古瀬戸中期Ⅱ～Ⅲ期に位置付けられる。

SE1 の井戸枠には常滑の甕（163 ～ 166）が利用されている。

163 は井戸枠の 1 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 9 型式に位置付けられる。164 は井戸枠の 2 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 8 型式に位置付けられる。165 は井戸枠の 3 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 8 型式に位置付けられる。肩部には 4 方向に押印文が施され、底部付近には穿孔が 2 ヶ所ほど確認できる。166 は 1 段目の甕内で出土した常滑の甕で、知多窯 9 型式に位置付けられる。井戸枠本体か裏込めに利用されたかは不明である。肩部と上胴部に高さと間隔がランダ

ムな押印文が巡る。

井戸枠に利用された常滑甕は知多窯 8 ～ 9 型式にあたり、実年代で 14 世紀後半から 15 世紀前半のものである。SE1 から出土した井戸枠以外の遺物は、その出土地点が明確なものが少ない。井戸枠の常滑甕の帰属時期よりも明らかに新しいものはない。一方、2 段目の裏込めに利用された 161 の常滑の片口鉢は型式的に井戸枠の年代に一致する。

SE2 出土土器・陶磁器

山茶碗の小皿（167・168）がある。

167 は山茶碗の小皿で、尾張型第 8 型式である。168 は山茶碗の小皿で、尾張型第 7 型式である。いずれも胎土に長石を含む。これらの遺物は、実年代で 13 世紀中葉から 14 世紀前葉のものである。

遺物包含層出土土器・陶磁器

169・170 は北部系山茶碗である。169 は山茶碗の小皿で、東濃型第 10 型式である。170 は山茶碗の碗で、東濃型第 5 型式である。

D　土製品

171 は球形の土錘である。やや中心を外れた穿孔がみられる。SB11 からの出土である。

E　瓦塔

172 は須恵製の瓦塔屋蓋部の破片である。半截竹管状の工具の押し引きにより丸瓦を表現している。屋根瓦の表現は丸瓦列のみである。丸瓦列に節はみられない。瓦屋根の上端部であるため、裏面の垂木表現は省略されていると考えられる。Ⅰ E19d グリッドの包含層から出土した。

F　石器

173 ～ 177 は石鏃である。173 ～ 176 は有茎石鏃で、173 のように長身のものもみられる。175 は平面形態がやや五角形状を呈する。173･175 は下呂石製、174 は頁岩製、176 はチャート製である。177 は下呂石製の凹基式無茎石鏃である。178 ～ 183 は磨製石斧（両刃石斧）である。178 は基部、179 と 180 は刃部のみである。全形が分かるのは 182 と 183 である。182 は身部の断面形が扁平であるのに対し、183 は楕円形である。183 の刃部には使用による摩滅がみられる。178 ～ 181 は緑泥片岩製、182 は泥岩製、183 はハイアロクラスタイト製である。184・187・188 は砥石である。平面と側面に磨り痕がある。また、187 には平面中心部に凹みがみられ、敲打的使用がされた可能性がある。184 は泥岩製、187・188 は砂岩製である。185・186 は敲石で、側面には敲打痕がみられる。186 には被熱による赤色化がみられる。185 は安山岩製、186 は砂岩製である。

187 は SK23（SB1）、178・182 は SB7、188 は SB10、184 は SB12、183 は SK62（SB12）、173・179・185・186 は SB18、175 は SP73（SA1）から出土している。多くは確実に遺構に伴うか判断が難しいが、SB12 から出土した磨製石斧（183）は竪穴建物に伴う可能性がある。174・176・177・180・181 は包含層から出土している。

G　金属製品

189 は SE1 から出土した椀型鉄滓である。SE1 と同時期のものと考えたい。

第 5 章　東畑遺跡 3・4 地点の調査

第 1 節　概要と基本層序（第 91 ～ 107 図，図版第 43・48）

東畑遺跡 3・4 地点は、海岸から内陸に向かって数えて最も東側の第 1 砂堆上に位置する。また、東畑遺跡 1・2 地点と同様に第 1 砂堆南方の南縁にあたる。調査区の南側には一段低い面が広がる。北東側には東畑遺跡 2 地点がある。4 地点については、調査区の南側半分で地形の落ち込みがみられ、調査区全体をみても、遺物包含層及び遺構は希薄であった。第 5 章では東畑遺跡 3 地点を中心に報告を行う。基本層序は以下のとおりである（第 97 ～ 107 図）。

Ⅰ層：表土層。近現代の盛土または作土・床土である。
Ⅱ層：遺物包含層。10YR4/2 灰黄褐色中粒砂層以下の砂層がこれにあたる。主として弥生時代から中世の遺物の出土がみられる。
Ⅲ層：基盤層。北壁の 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂層（径 10mm 程の礫を多量に含む）以下、南・西壁の 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂層（10YR3/3 暗褐色中粒砂を少量含む）以下がこれにあたる。地山層である。

東畑遺跡は第 1 砂堆の南側に位置し、その中でも東畑遺跡 3 地点は、弥生時代から古墳時代にかけての居住域と考えられている。東西に細長い調査区で、幅は概ね 6m 程である。計 8 棟の竪穴建物が確認されているが、その全容を把握することは難しい。また、砂堆に立地するため、高潮・洪水等多くの地形改変を被ったとみられ、遺構の残存状態はよくない。

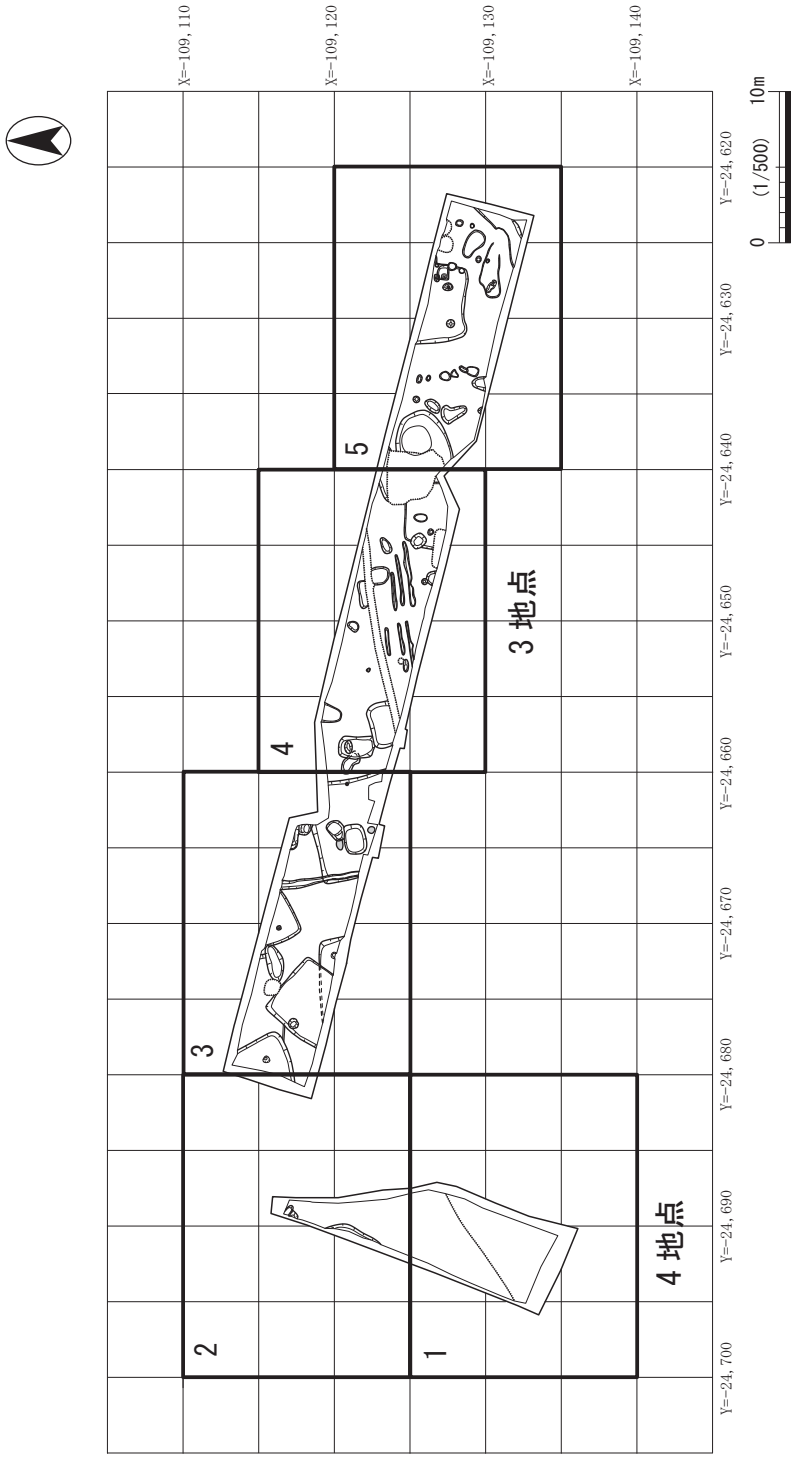
竪穴建物の時期は、弥生時代後期にあたる山中Ⅱ式期から古墳時代後期までである。SB2 ではカマドが検出されている。その他に弥生時代から古墳時代の遺構として SK15・16 がある。SK16 からは骨片が出土しているが、細片のため同定に至っていない。

調査区中央西側に位置する SK4 からは古代の須恵器や灰釉陶器、平瓦が出土しているが、東畑遺跡 2 地点と同様、古代の遺構は希薄である。

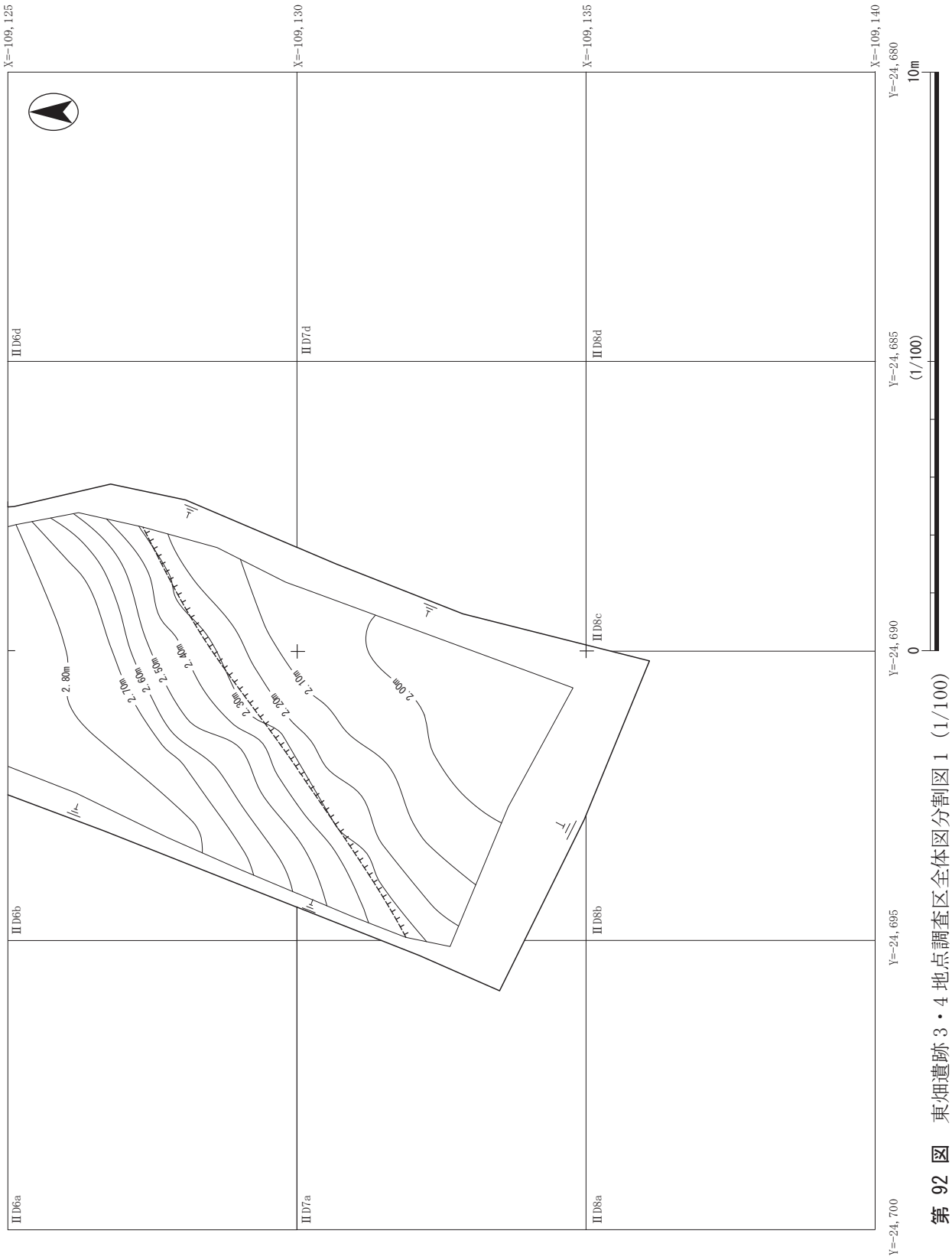
中世の遺構には ST1、SE1 が挙げられる。ST1 は土坑墓で、人骨が検出されている。SE1 では常滑の甕が井戸枠として利用されている。7 段の甕が確認されており、他の地点の井戸枠と比較しても残りがよい。他に SD1 からは尾張型第 4 ～ 5 型式の山茶碗が出土している。調査区中央にある平行する数条の溝状の遺構は、畑の畝間溝と考えられる。SN1 とした。

出土遺物は、竪穴建物の時期に該当する弥生土器や土師器、中世の山茶碗が大半を占める。一方、遺物包含層や遺構埋土からは、少量であるが条痕文土器、知多式製塩土器の混入もみられる。

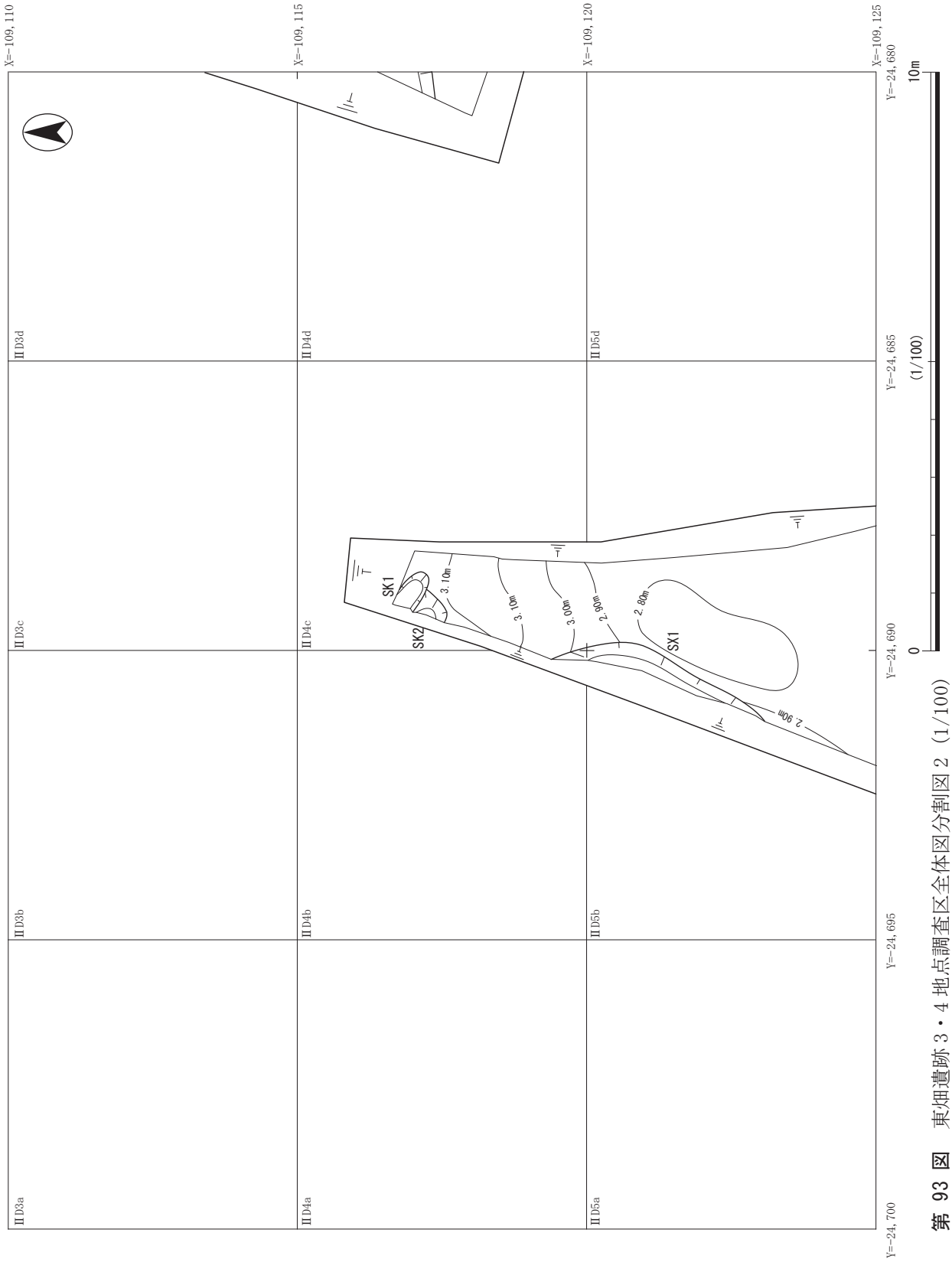
第 5 章では、主要遺構とそれに伴う遺物を中心に報告を行う。製塩土器については、第 9 章で扱う。条痕文土器については、機会を改めて報告する。



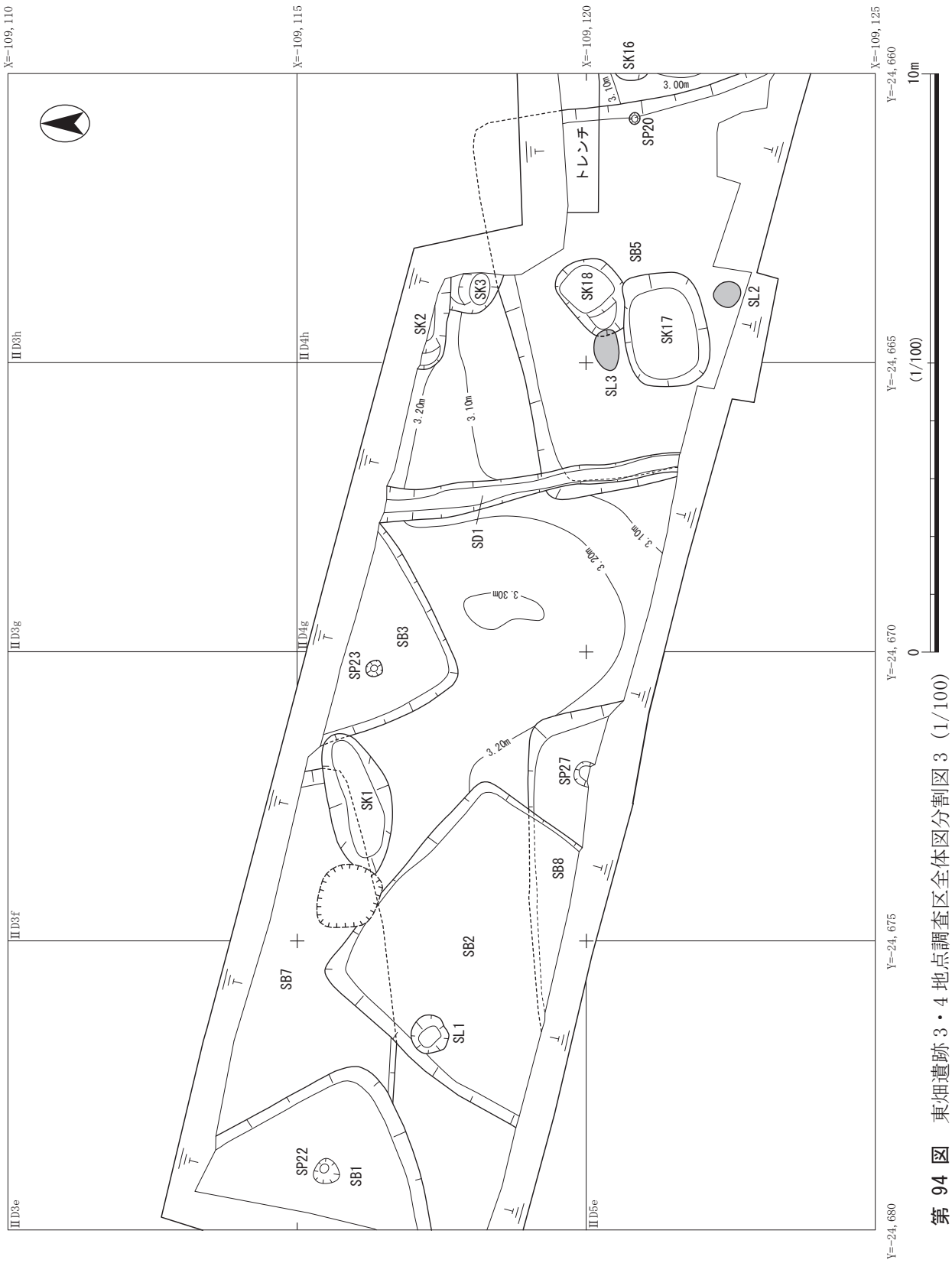
第 91 図　東畑遺跡３・４地点調査区全体図（1/500）



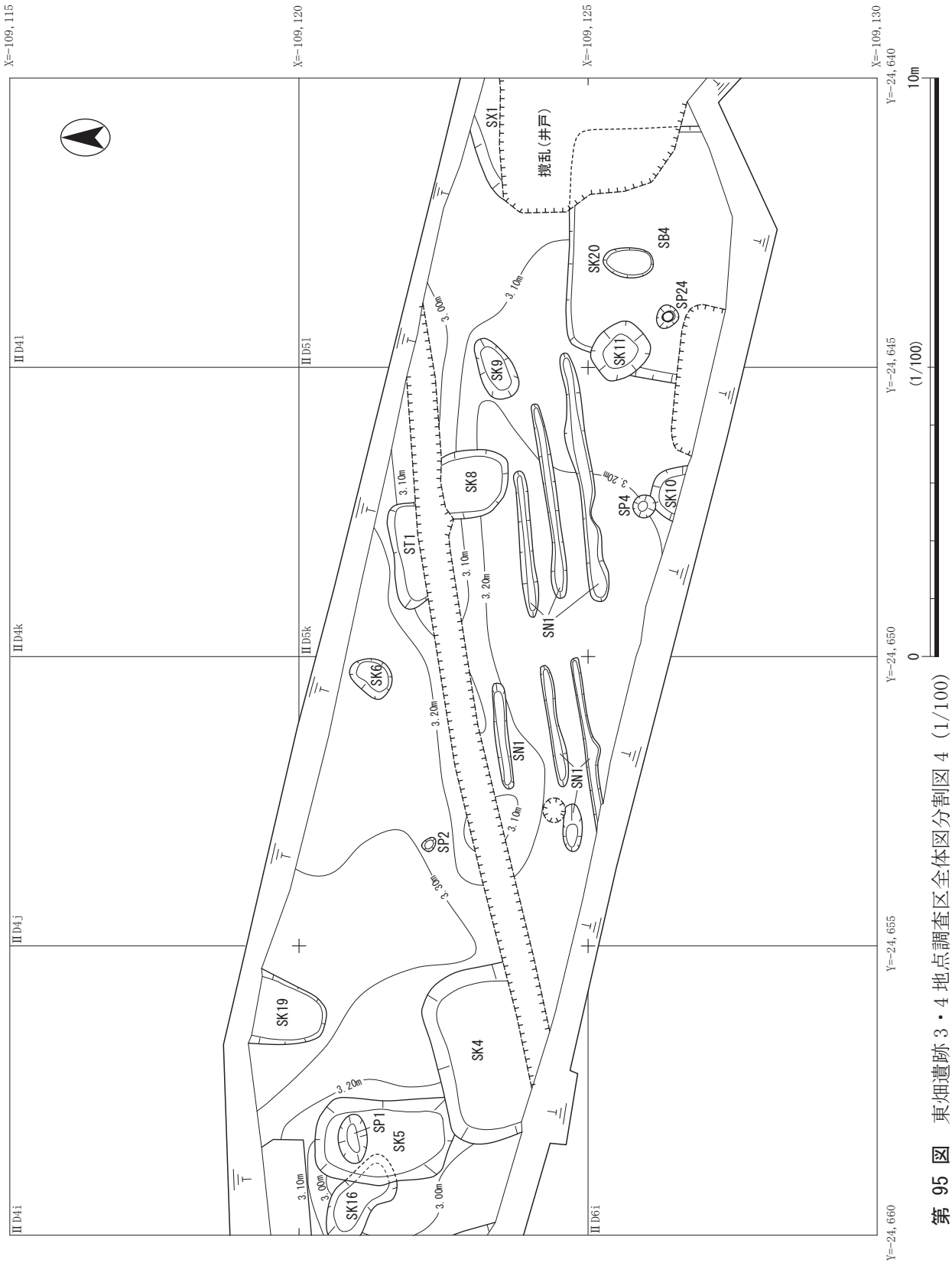
第 92 図　東畑遺跡３・４地点調査区全体図分割図１（1/100）



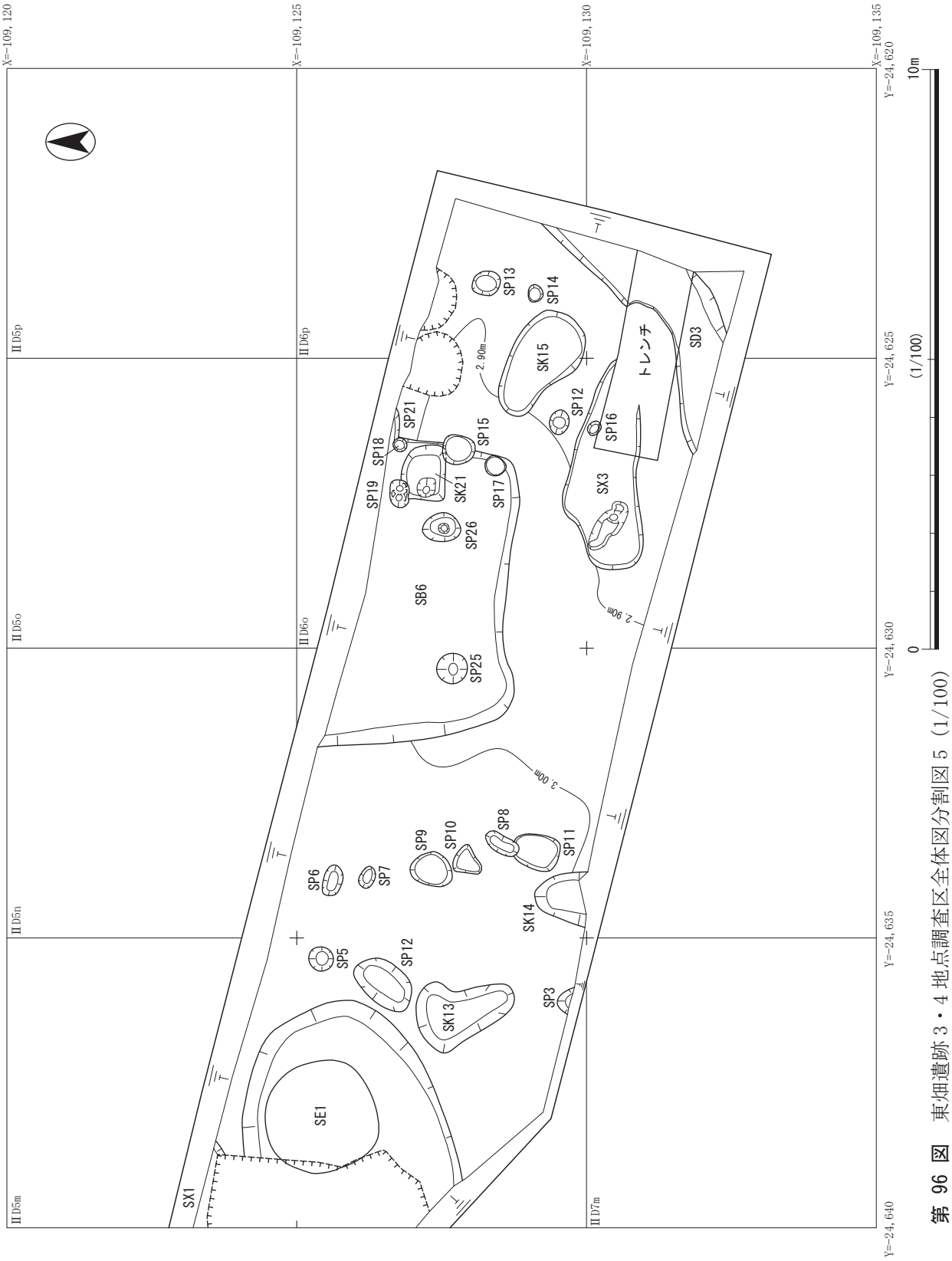
第 93 図　東畑遺跡３・４地点調査区全体図分割図２（1/100）



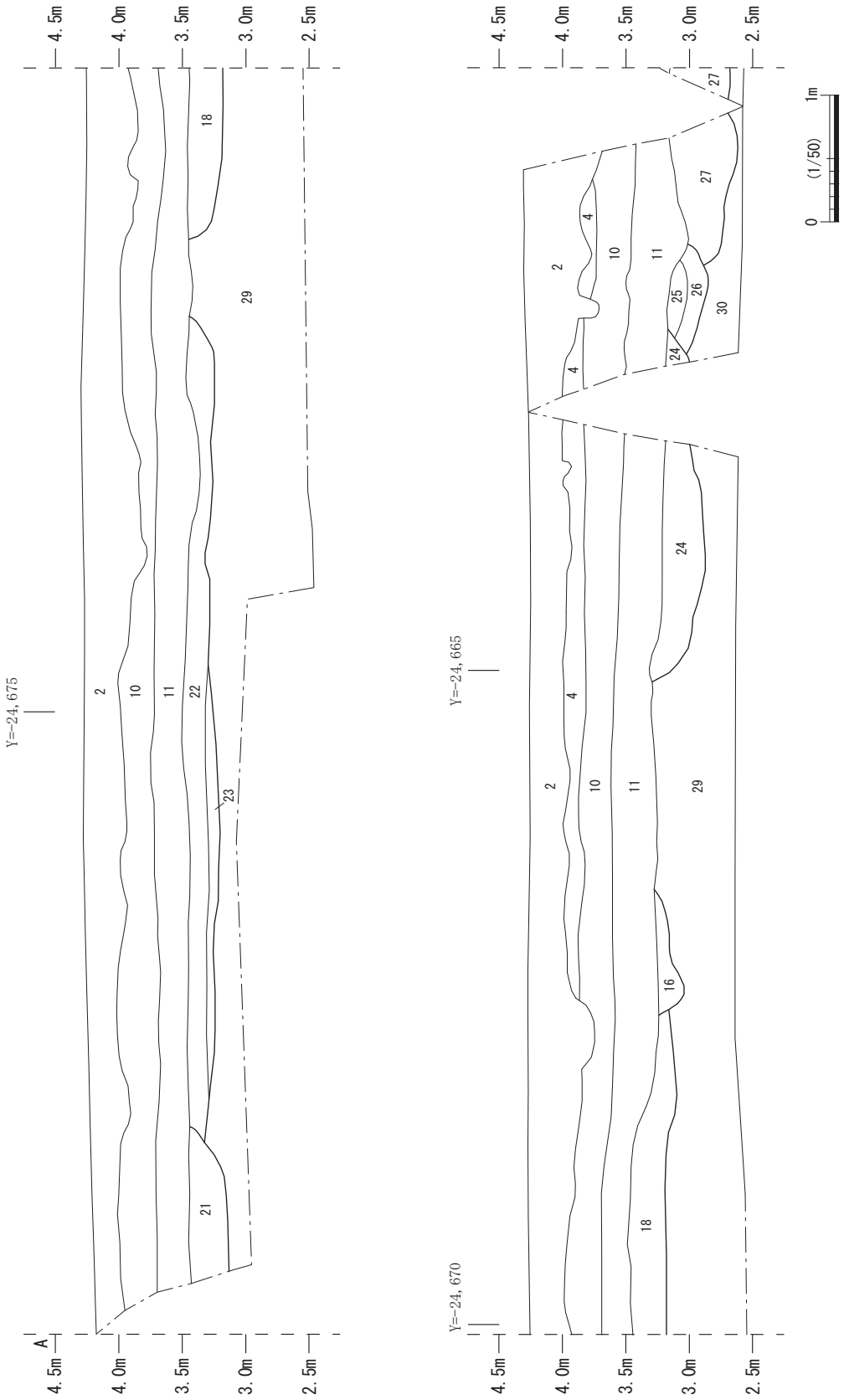
第 94 図　東畑遺跡３・４地点調査区全体図分割図３（1/100）



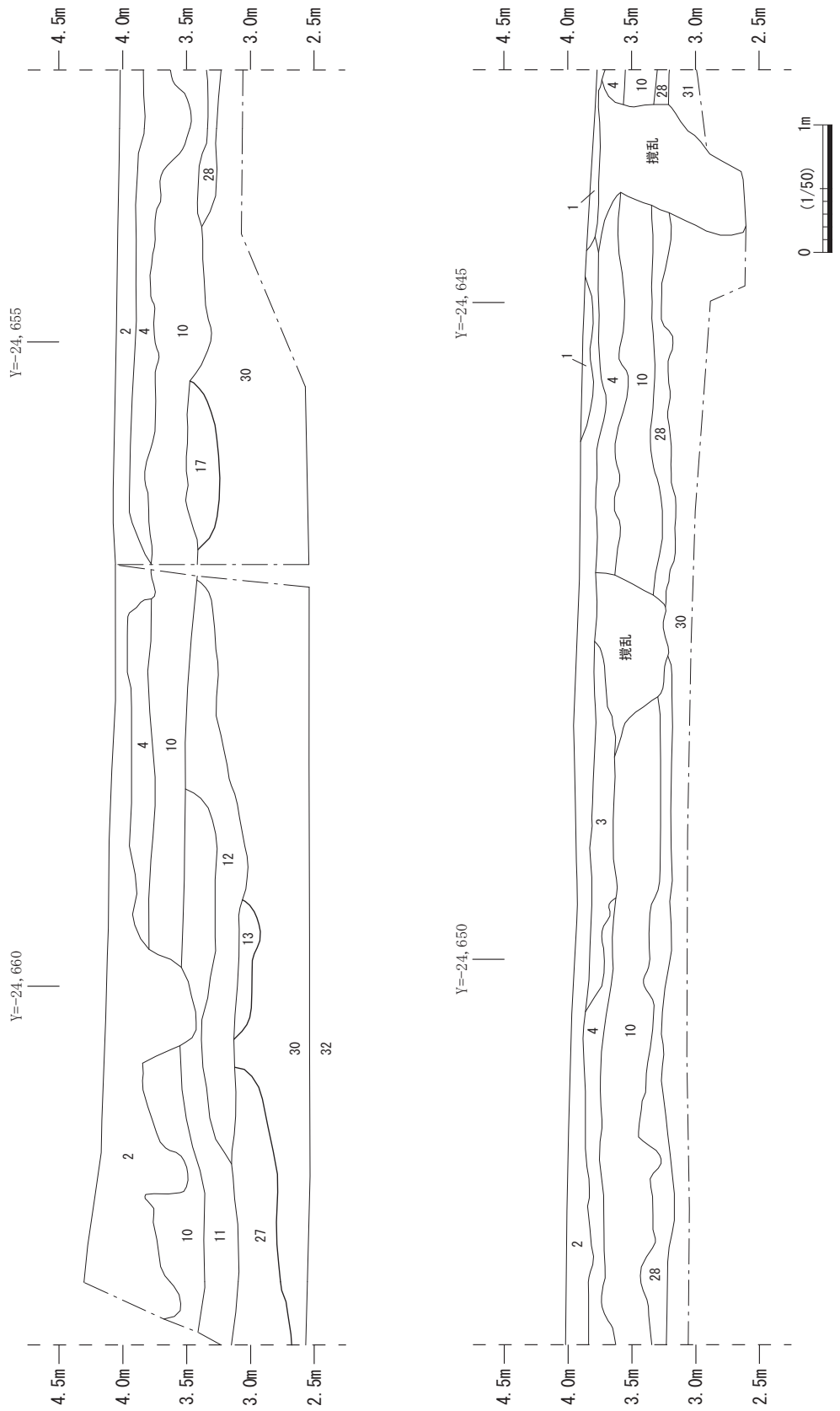
第 95 図　東畑遺跡３・４地点調査区全体図分割図４（1/100）



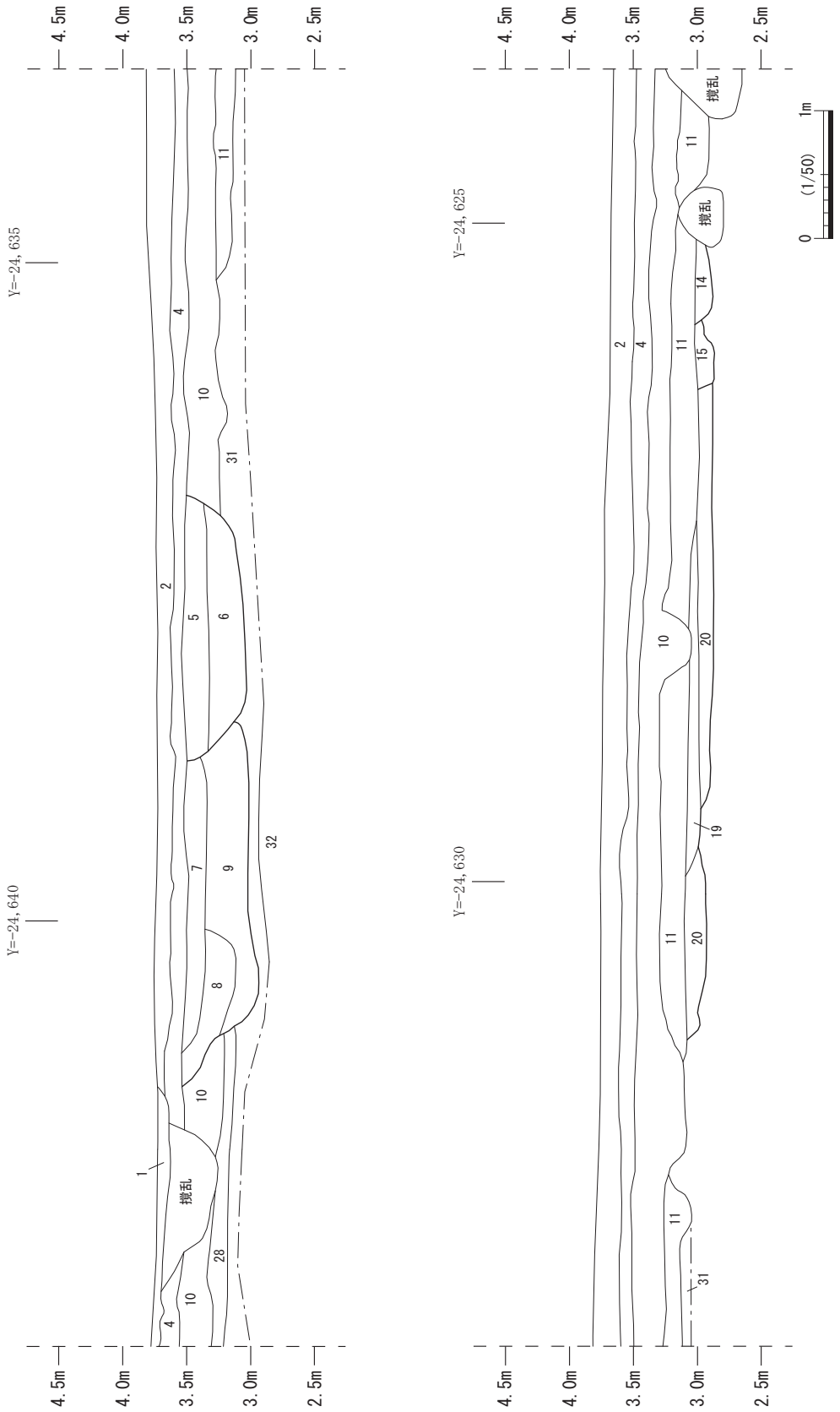
第 96 図　東畑遺跡３・４地点調査区全体図分割図５（1/100）



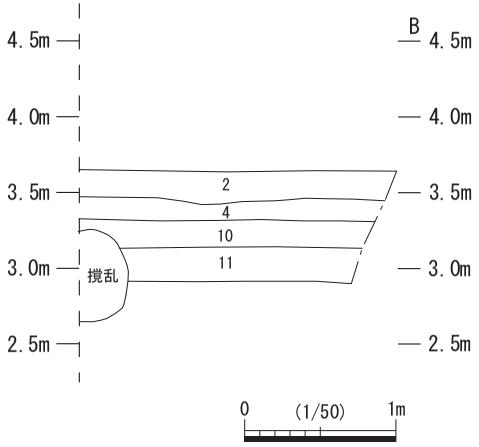
第 97 図　東畑遺跡３地点北壁（A-B）土層断面図１（1/50）



第 98 図　東畑遺跡３地点北壁（A-B）土層断面図２（1/50）

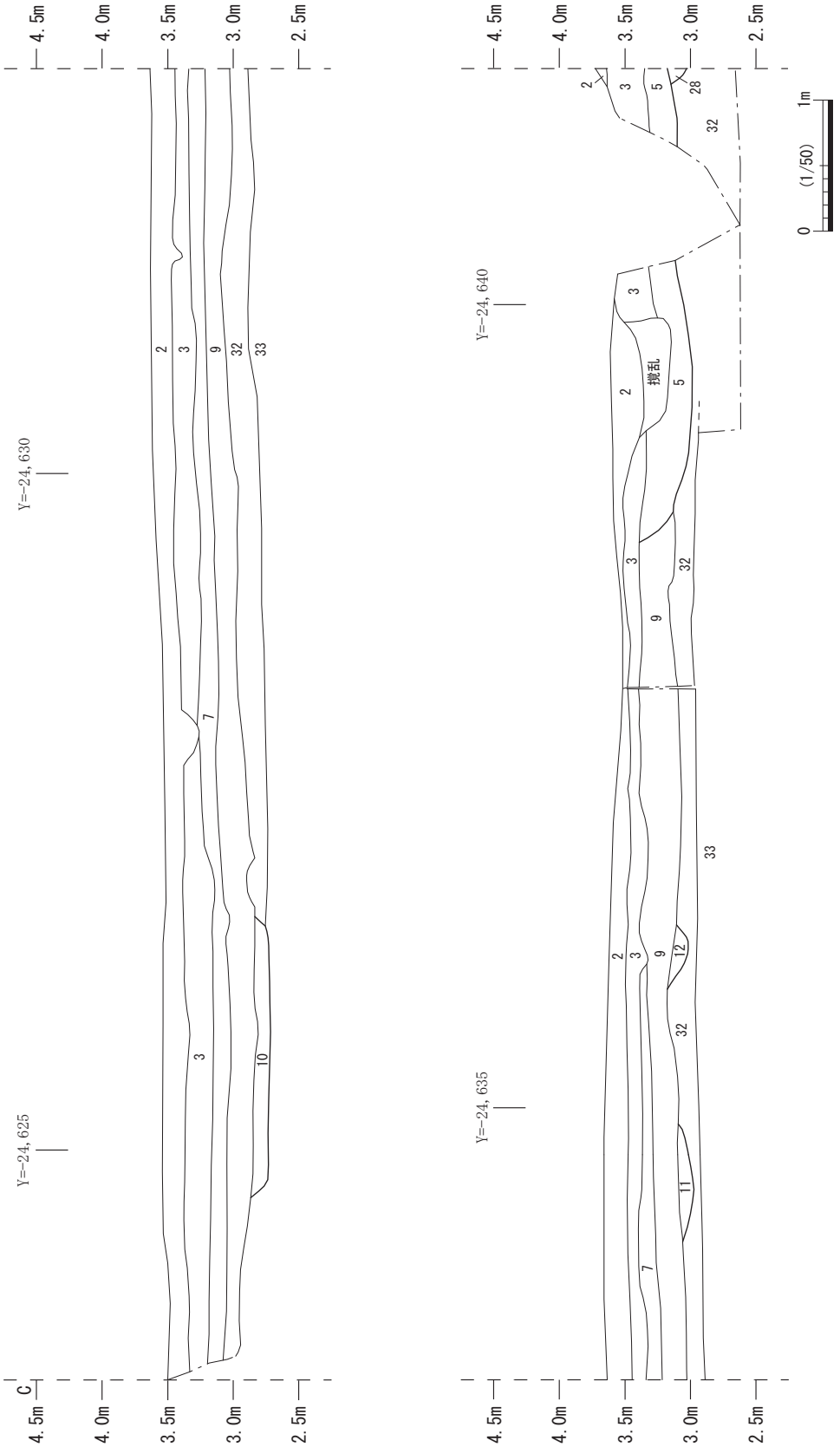


第 99 図　東畑遺跡３地点北壁（A-B）土層断面図３（1/50）

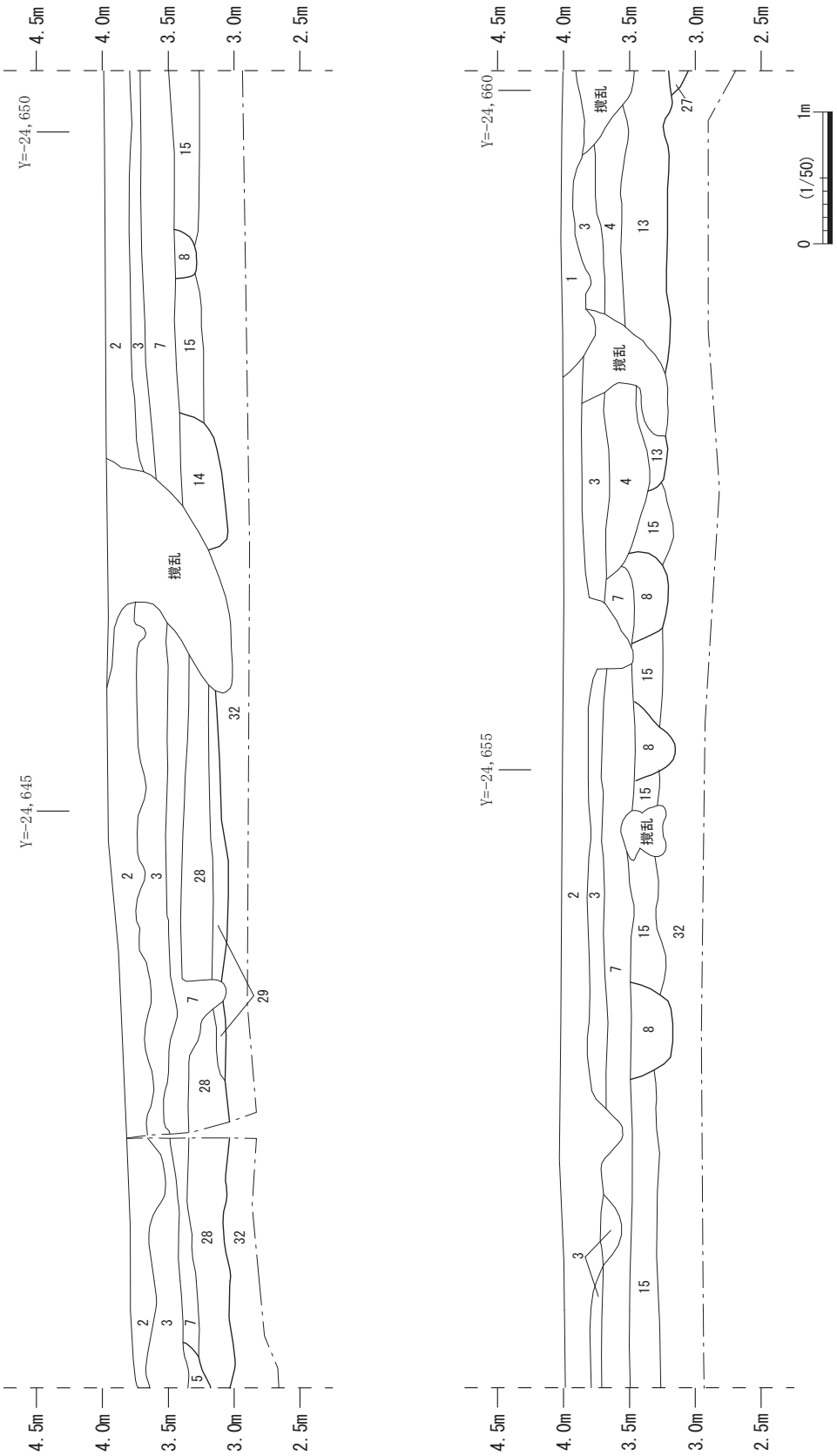


1～4　表土［盛土または作土・床土］
5　10YR4/2灰黄褐色中粒砂(径5～20mm程の礫を多量に含む)［SE1掘方］
6　10YR3/3暗褐色中粒砂［SE1掘方］
7　10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(径5mm程の礫を多量に含む)［SX1埋土］
8　10YR4/1褐灰色中粒砂(径5mm程の礫を含む)［SX1埋土］
9　10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SX1埋土］
10　10YR4/2灰黄褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
11　10YR4/1褐灰色中粒砂［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
12　10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂(径10mm程の礫を多量に含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
13　10YR4/1褐灰色中粒砂(10YR7/1灰白色中粒砂を含む)［遺構埋土］
14　10YR5/2灰黄褐色中粒砂［遺構埋土］
15　10YR4/1褐灰色中粒砂［SP21埋土］
16　10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SD1埋土］
17　10YR4/1褐灰色中粒砂(10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂を多量に含む)［SK19埋土］
18　10YR3/1黒褐色中粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を少量含む)［SB3埋土］
19　10YR3/1黒褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む。10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロックを含む)［SB6］
20　10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SB6］
21　10YR3/1黒褐色中粒砂［SB1］
22　10YR3/1黒褐色中粒砂(径5mm程の礫を少量含む)［SB7］
23　10YR4/2灰黄褐色中粒砂(径3～10mm程の礫を含む)［SB7］
24　10YR3/3暗褐色中粒砂(径5mm程の礫を多量に含む)［SK2埋土］
25　10YR3/4暗褐色中粒砂［SK3埋土］
26　10YR3/4暗褐色中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土［SK3埋土］
27　10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR4/1褐灰色細粒砂の互層(径5～10mm程の礫を少量含む)［SB5掘方］
28　10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(径10mm程の礫を多量に含む)［基盤層］
29　10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(下部に径5～10mm程の礫を多量に含む)［基盤層］
30　10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR7/1灰白色中粒砂の斑土［基盤層］
31　10YR6/2灰黄褐色中粒砂［基盤層］
32　10YR7/6明黄褐色シルト［基盤層］

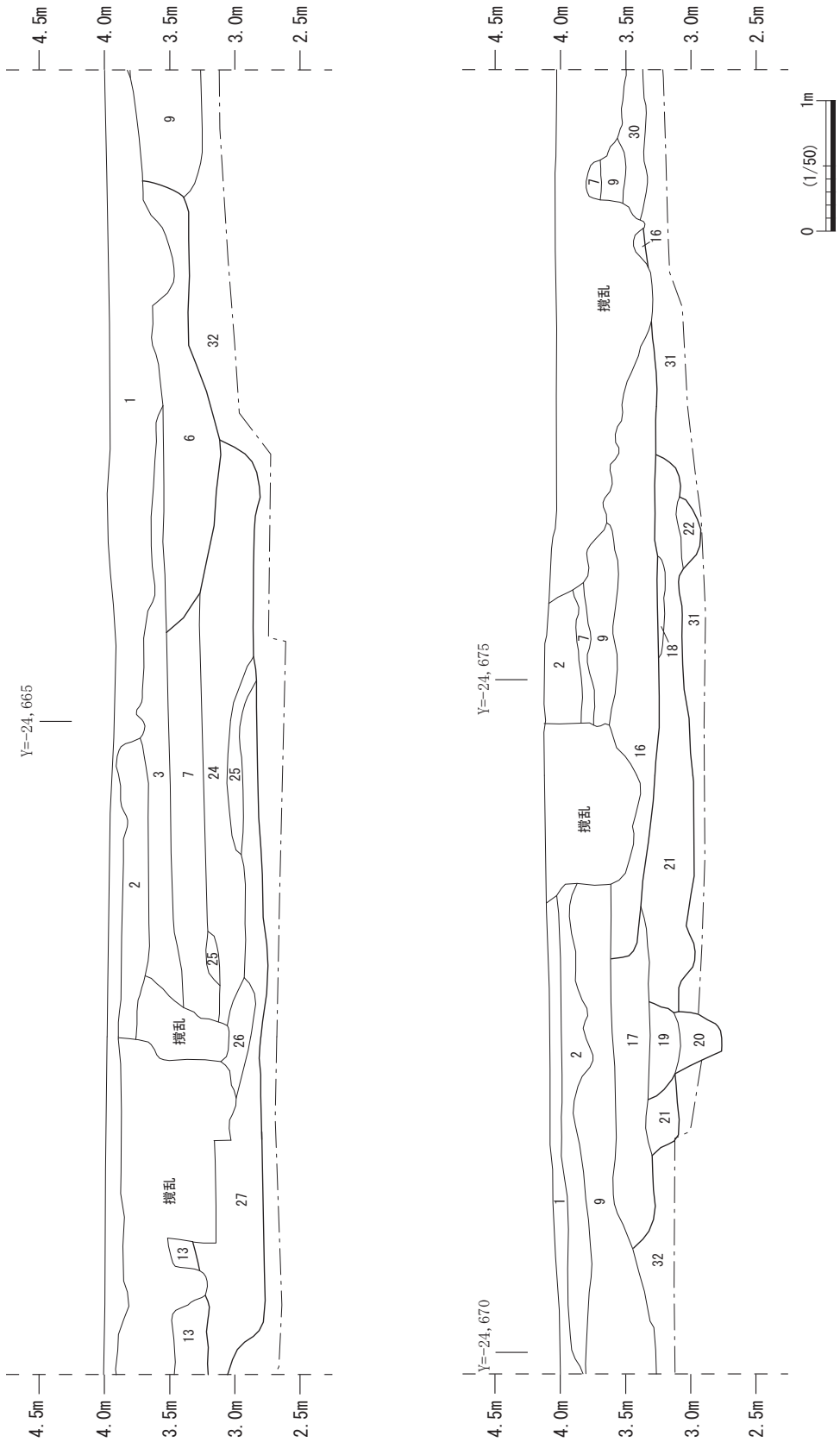
第 100 図　東畑遺跡３地点北壁（A-B）土層断面図４（1/50）



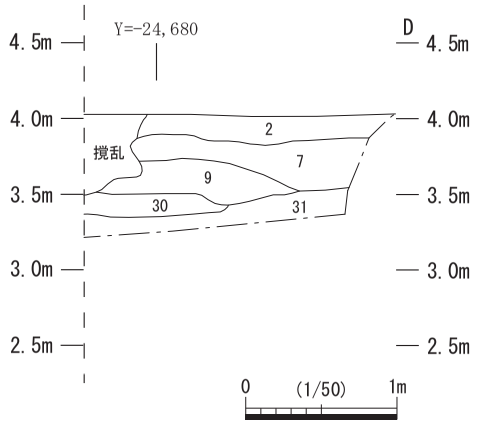
第 101 図　東畑遺跡３地点南壁（C-D）土層断面図１（1/50）



第 102 図　東畑遺跡３地点南壁（C-D）土層断面図２（1/50）

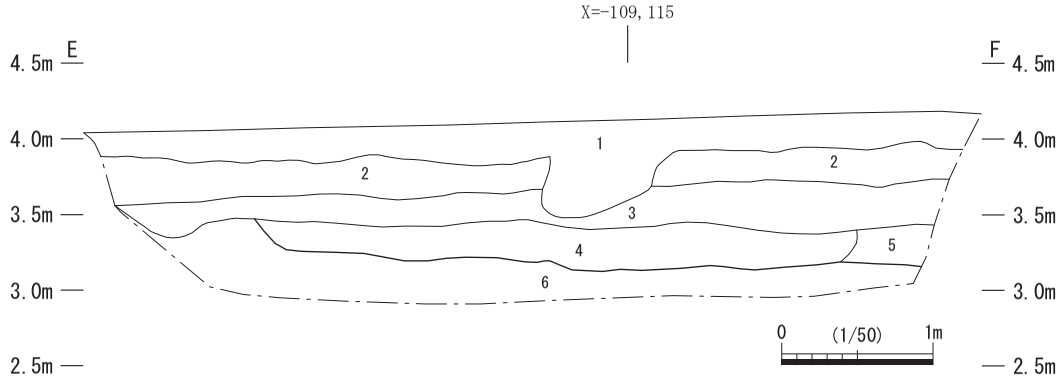


第 103 図　東畑遺跡３地点南壁（C-D）土層断面図３（1/50）



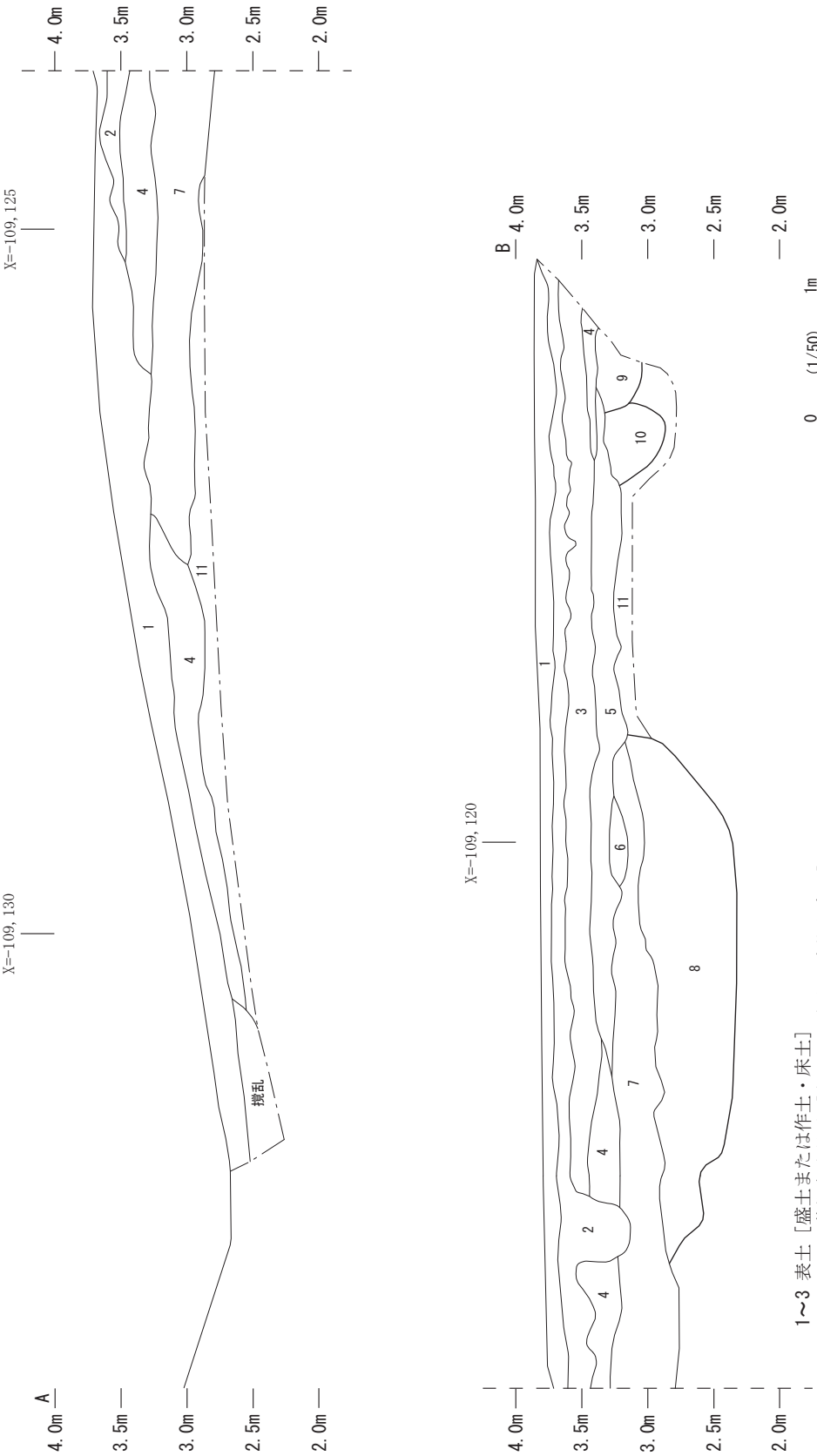
第 104 図　東畑遺跡 3 地点南壁（C-D）土層断面図 4（1/50）

1～3 表土［盛土または作土・床土］
4 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(径3～10mm程の礫を多量に含む)
5 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SE1掘方］
6 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SD1埋土］
7 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
8 10YR4/1褐灰色中粒砂［SN1埋土］
9 10YR4/1褐灰色中粒砂［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
10 10YR4/1褐灰色中粒砂［SD3埋土］
11 10YR4/1褐灰色中粒砂［SK14埋土］
12 10YR4/1褐灰色中粒砂［SP3埋土］
13 10YR3/3暗褐色中粒砂(径10mm程の礫を含む)［SK4埋土］
14 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SK10埋土］
15 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(径10mm程の礫を含む)［主として弥生時代から古墳時代の遺物を含む］
16 10YR3/4暗褐色中粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を含む)［SB2掘方］
17 10YR4/1褐灰色細粒砂(径10mm程の礫を多量に含む)［SB8埋土］
18 10YR5/2灰黄褐色細粒砂(10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂ブロックを含む)［SB8貼床土］
19 10YR5/1褐灰色中粒砂(径10mm程の礫を含む)［SP27柱掘方］
20 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［SP27柱掘方］
21 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(地山ブロックを少量含む)［SB8掘方］
22 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［SB8掘方］
23 10YR4/1褐灰色中粒砂［SB5埋土］
24 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR4/1褐灰色細粒砂の互層(径10mm程の礫を多量に含む)［SB5埋土］
25 10YR4/1褐灰色細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と2.5Y8/6黄色粘質シルトブロックを含む)［SB5貼床土］
26 2.5Y5/3黄褐色中粒砂［SB5掘方］
27 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の互層(径10mm程の礫を少量含む)［SB5掘方］
28 10YR3/2黒褐色中粒砂［SB4］
29 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SB4］
30 10YR7/4にぶい黄橙色中粒砂(径10mm程の礫を多量に含む)
31 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR3/3暗褐色中粒砂を少量含む)［基盤層］
32 10YR6/2灰黄褐色中粒砂［基盤層］
33 10YR7/6明黄褐色シルト［基盤層］

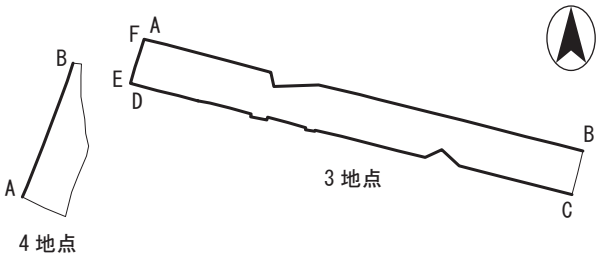


1 表土［盛土または作土・床土］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
3 10YR4/1褐灰色中粒砂［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
4 10YR3/3暗褐色中粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を含む)［SB1］
5 10YR3/1黒褐色中粒砂［SB1］
6 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR3/3暗褐色中粒砂を少量含む)［基盤層］

第 105 図　東畑遺跡 3 地点西壁（E-F）土層断面図（1/50）



第 106 図　東畑遺跡４地点西壁（A-B）土層断面図（1/50）



第 107 図　東畑遺跡３・４地点土層断面図の位置（1/1,000）
（A ～ F は第 97 ～第 106 図の土層断面図と対応する）

第２節　遺　　構（第 108 ～ 121・177 図，図版第 43 ～ 47）

A　弥生・古墳時代

竪穴建物

SB1（第 108 図，図版第 43）

３地点の西端Ⅱ D3e･4d･4e 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の大半は調査区外で、南東隅を検出したのみである。SB7 を切り、底面の高さは SB7 より 10cm ほど低い。長軸長約 380cm、　短軸長約 360cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 28cm である。主柱穴 SP22 を検出した。柱痕跡を確認したが、湧水の為、柱掘方底面まで掘削することができなかった。周壁溝は確認されていない。

遺物は松河戸Ⅰ式の土器に混じって、廻間式の土器もみられる。遺構は古墳時代前期にあたる松河戸Ⅰ式期のものであろう。

SB2（第 109 図，図版第 43・44）

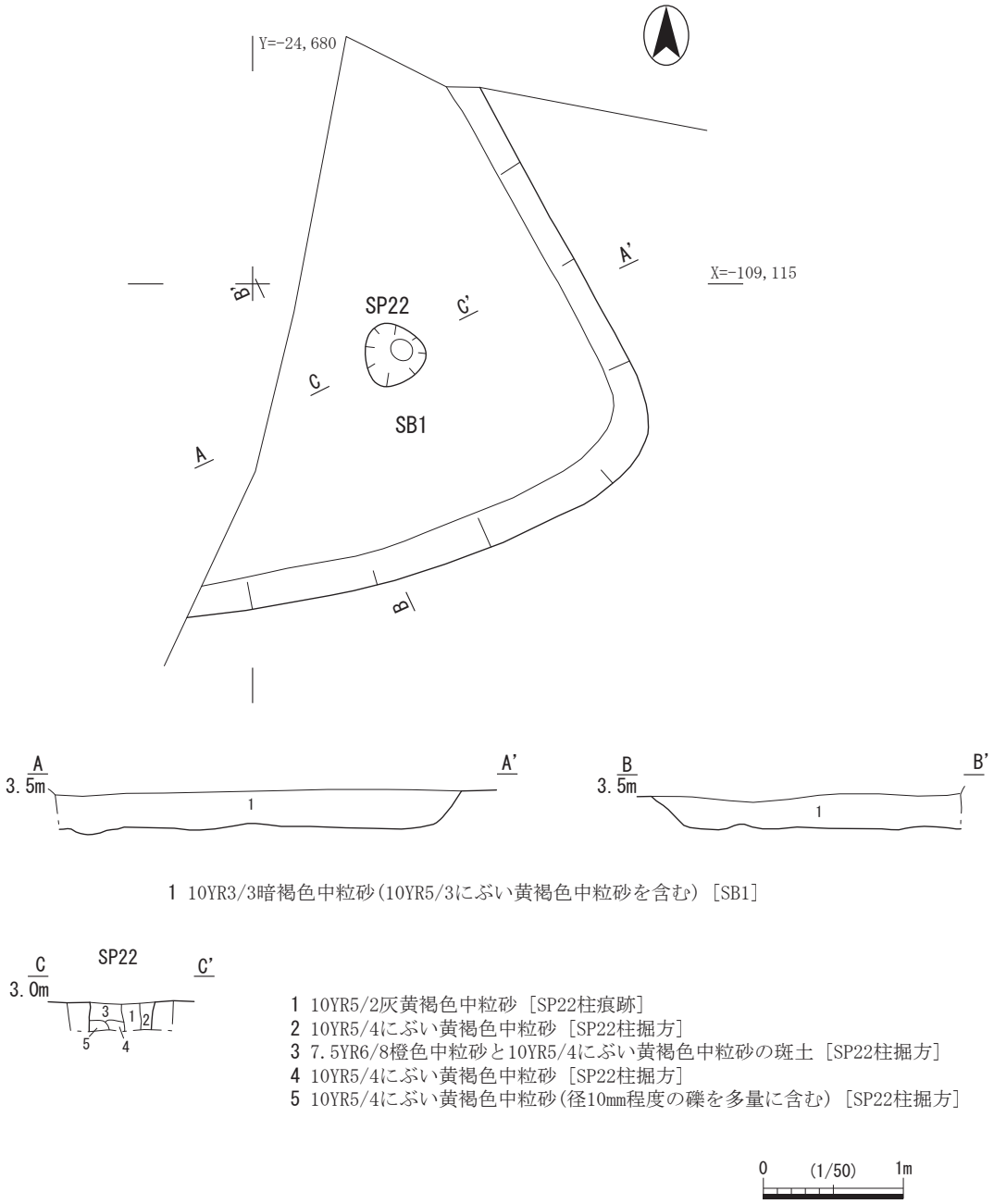
３地点の西側Ⅱ D4e・4f 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の南側は調査区外へと続く。SB7 と SB8 を切る。長軸長約 468cm、短軸長約 430cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 23cm である。北西壁中央ではカマドと思われる SL1 を検出した。遺物の出土位置と SL1 を含む土層断面の観察から、SB2 断面図の２層は掘方埋土であると考えられる。主柱穴・周壁溝は確認されていない。

遺物は須恵器片や長胴甕の胴部片が出土している。遺構の時期は古墳時代後期と考えられる。

SB3（第 110 図，図版第 43・44）

３地点の西側Ⅱ D4f・4g 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の大半は調査区外で、南西隅を検出したのみである。SK1 と SD1 に切られる。長軸長約 310cm、短軸長約 278cm、遺構検出面からの床面の深さ約 25cm、貼床土の厚さ約 10cm である。主柱穴 SP23 を検出した。SB3 断面図の２層は周壁溝埋土であると考えられる。

遺構埋土から柳ヶ坪型壺（193）や小型丸底壺が出土した。遺構は古墳時代前期にあたる松河戸Ⅰ式期に位置付けられる。

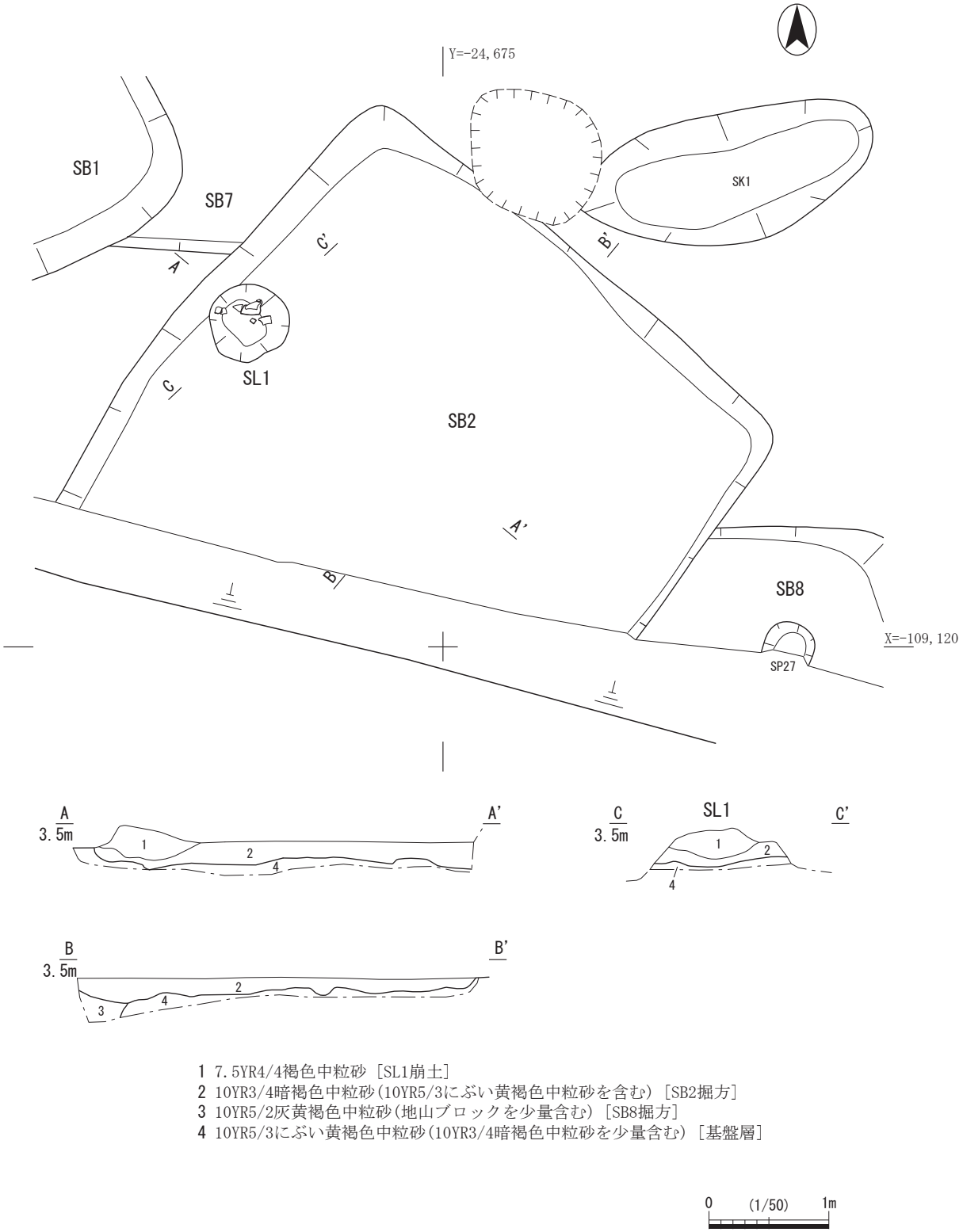


第 108 図　東畑遺跡３地点 SB1 平面図・断面図（1/50）

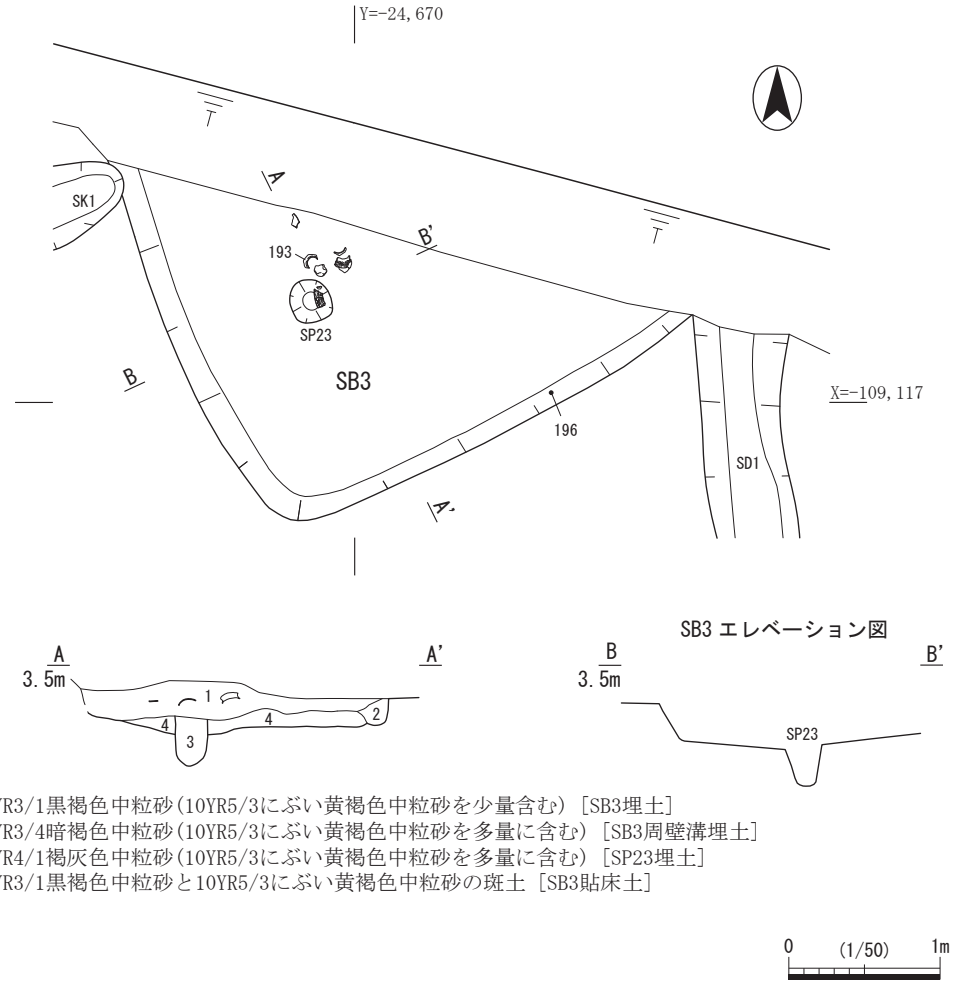
SB4（第 111 図，図版第 44）

３地点の東側Ⅱ D51･6k･61 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物である。遺構の南半分は調査区外へと続く。SK11 や撹乱に切られる。長軸長約 445cm、短軸長約 282cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 27cm である。底面で SK20 と SP24 を検出した。SP24 では柱痕跡を確認した。主柱穴と思われる。

遺構底面で山中式の甕（199）が出土した。また、山中Ⅱ式の高杯もみられる。遺構は弥生時代後期にあたる山中Ⅱ式期のものである可能性がある。



第 109 図　東畑遺跡３地点 SB2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 110 図　東畑遺跡 3 地点 SB3 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

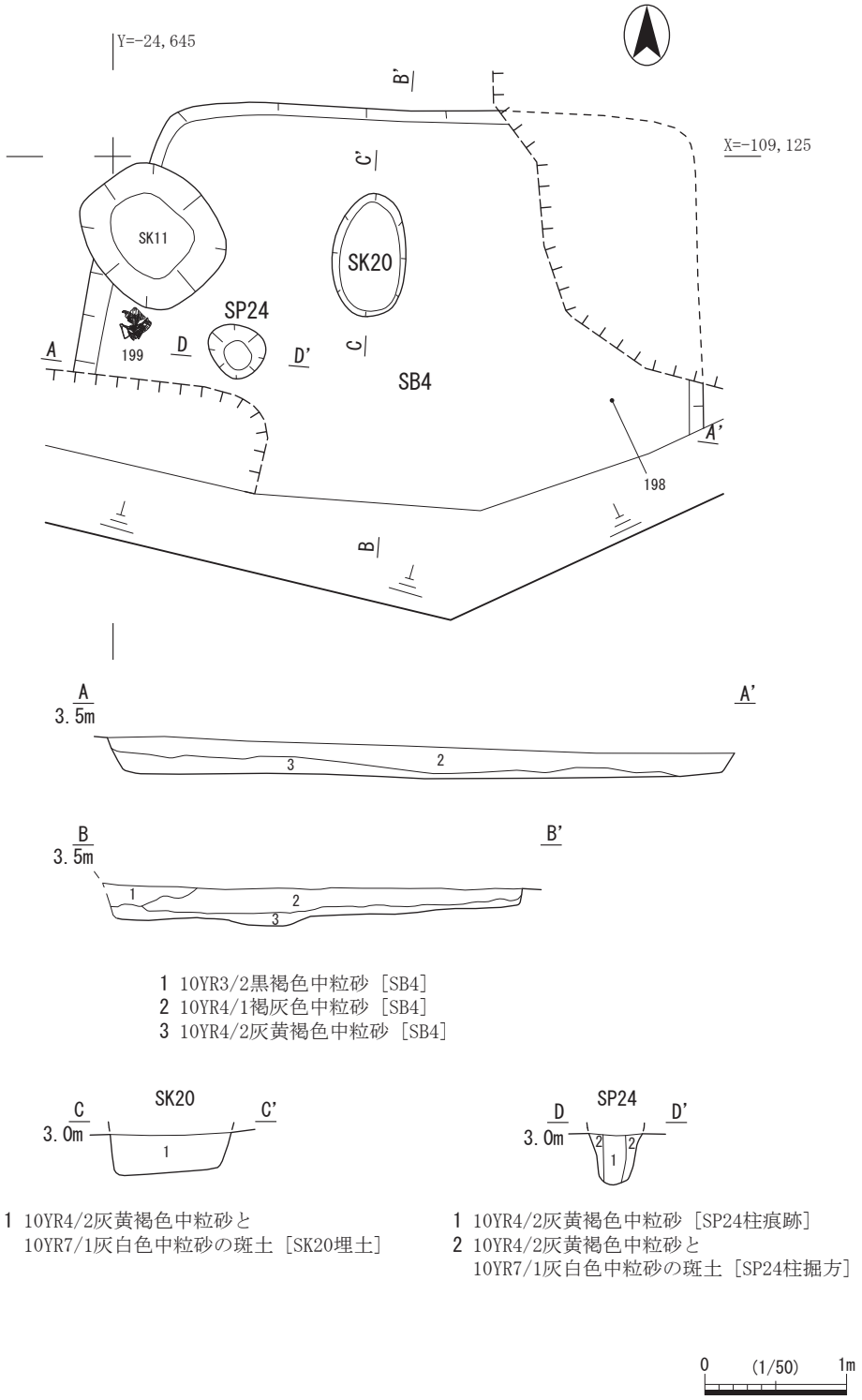
SB5（第 112・113 図，図版第 45・46）

3 地点の西側Ⅱ D4g・4h・5g・5h・5i 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の南半分は調査区外へと続く。SK17・18 を切り、SD1 と SK3、SP20 に切られる。長軸長約 665cm、短軸長約 428cm、遺構検出面からの床面の深さ約 11cm、貼床土の厚さ約 12cm である。SB5 南北方向の断面で周壁溝と思われる窪みを確認した。主柱穴は確認されていない。床面中央部に貼床と思われる硬くしまった 2.5Y8/6 黄色粘質シルトブロックを含む層を検出した。SB5 断面図の 4 層と 5 層がこれに該当する。また、床面で焼土を 2 箇所（SL2・3）確認した。炉跡と思われる。

床面上からは多量の遺物が出土した。く字状口縁台付甕や S 字状口縁台付甕（B 類・C 類）、短頸ヒサゴ壺、脚部上端に横線文を施す高杯、東海系器台などがみられる。弥生時代終末期から古墳時代前期にあたる廻間式期の遺物である。その中でも廻間Ⅱ式の土器が多くを占める。

SB6（第 114 図，図版第 46）

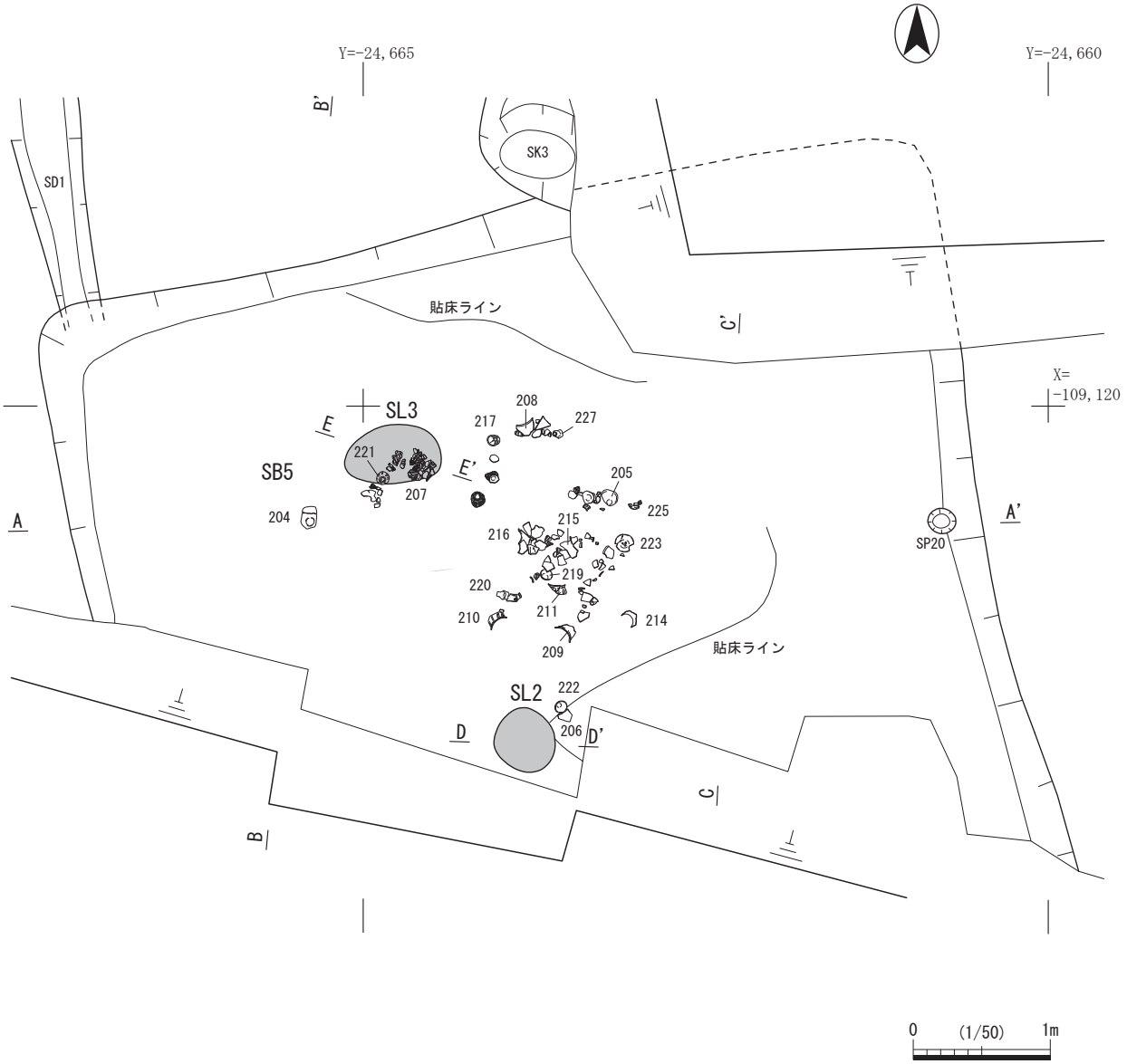
3 地点の東側Ⅱ D6n・6o 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の北半分は調査区外へと続く。SP15・21 に切られる。SP17・18・19 との重複の前後関係は不明である。長軸長約 530cm、短軸長約 340cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 17cm である。主柱穴 SP25 と SP26 を検出した。それらには柱痕跡も見られる。SP25 の柱痕跡の上層は SB6 と同じ土層である 10YR4/2



第 111 図　東畑遺跡３地点 SB4 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

灰黄褐色中粒砂で充填されている。このことから SB6 の掘方底面は床面であることも考えられるが、その場合主柱穴が浅くなり、可能性は低い。また、底面で検出された SK21 は貯蔵穴の可能性があるが、まとまった遺物の出土はない。周壁溝は確認されていない。

遺物は廻間Ⅰ式のく字状口縁台付甕（230）や松河戸Ⅰ式の広口壺、く字状口縁台付甕（229）、



第 112 図　東畑遺跡 3 地点 SB5 平面図・遺物出土状況図（1/50）

SK21 からは砥石が出土している。古墳時代前期にあたる松河戸Ⅰ式期の遺構と考えたい。

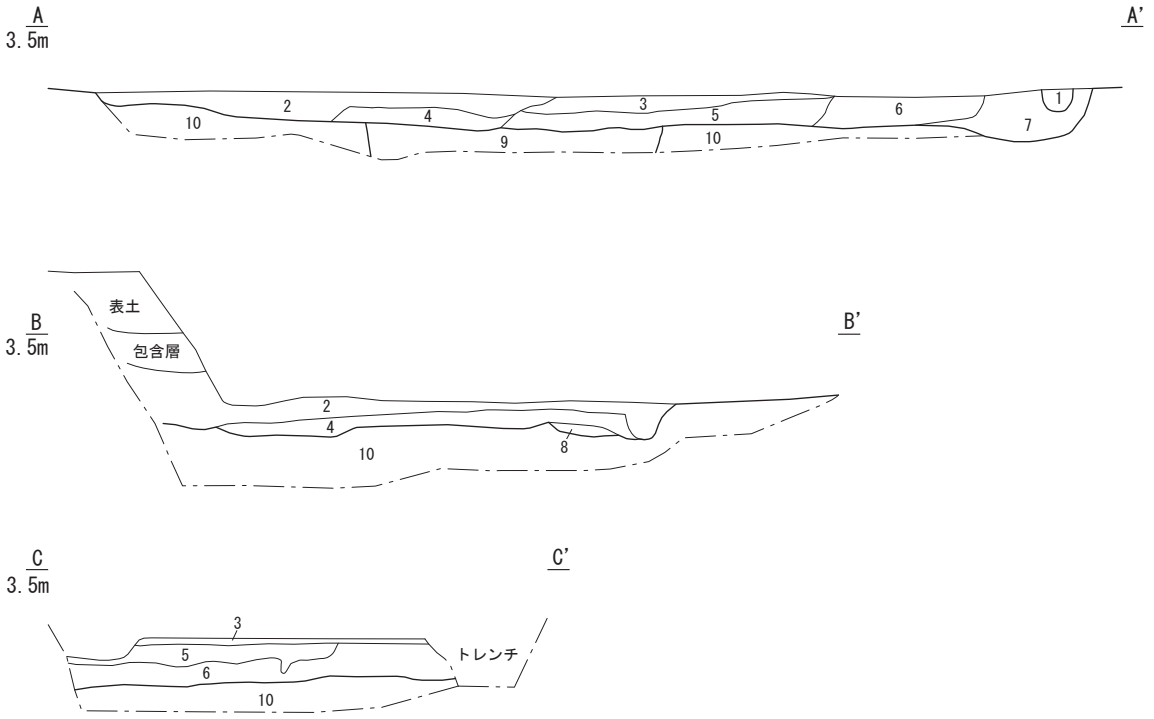
SB7（第 115 図，図版第 43）

3 地点の西側Ⅱ D3e・3f・4e・4f 区に位置する。SB1・2 や SK1 に切られ、遺構の北側は調査区外へと続く。南壁と東壁の一部を確認したのみであるが、おそらく方形の平面プランを呈する竪穴建物であると思われる。長軸長約 595cm、短軸長約 312cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 20cm である。主柱穴・周壁溝は確認されていない。

出土遺物は小破片資料のみである。短頸の壺や S 字状口縁台付甕（C 類）といった廻間Ⅲ式の土器がみられる。

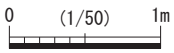
SB8（第 116 図，図版第 43）

3 地点の西側Ⅱ D4e・4f・5f 区に位置する。方形の平面プランを呈すると考えられる竪穴建物で



1 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP20埋土］
2 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR4/1褐灰色細粒砂の互層(径10mm程の礫を多量に含む)［SB5埋土］
3 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR4/2灰黄褐色細粒砂の互層(径10mm程の礫を含む)［SB5埋土］
4 10YR4/1褐灰色細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と2.5Y8/6黄色粘質シルトブロックを含む)［SB5貼床土］
5 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(2.5Y8/6黄色粘質シルトブロックを含む。硬くしまる)［SB5貼床土］
6 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR4/1褐灰色細粒砂の互層(径5～10mm程の礫を少量含む)［SB5掘方］
7 10YR3/3暗褐色中粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の互層［SB5掘方］
8 10YR5/2灰黄褐色細粒砂と10YR4/1褐灰色細粒砂の互層［SB5掘方］
9 10YR4/1褐灰色中粒砂と10YR5/4にぶい黄褐灰色中粒砂の互層［SK17埋土］
10 10YR6/2灰黄褐色中粒砂［基盤層］

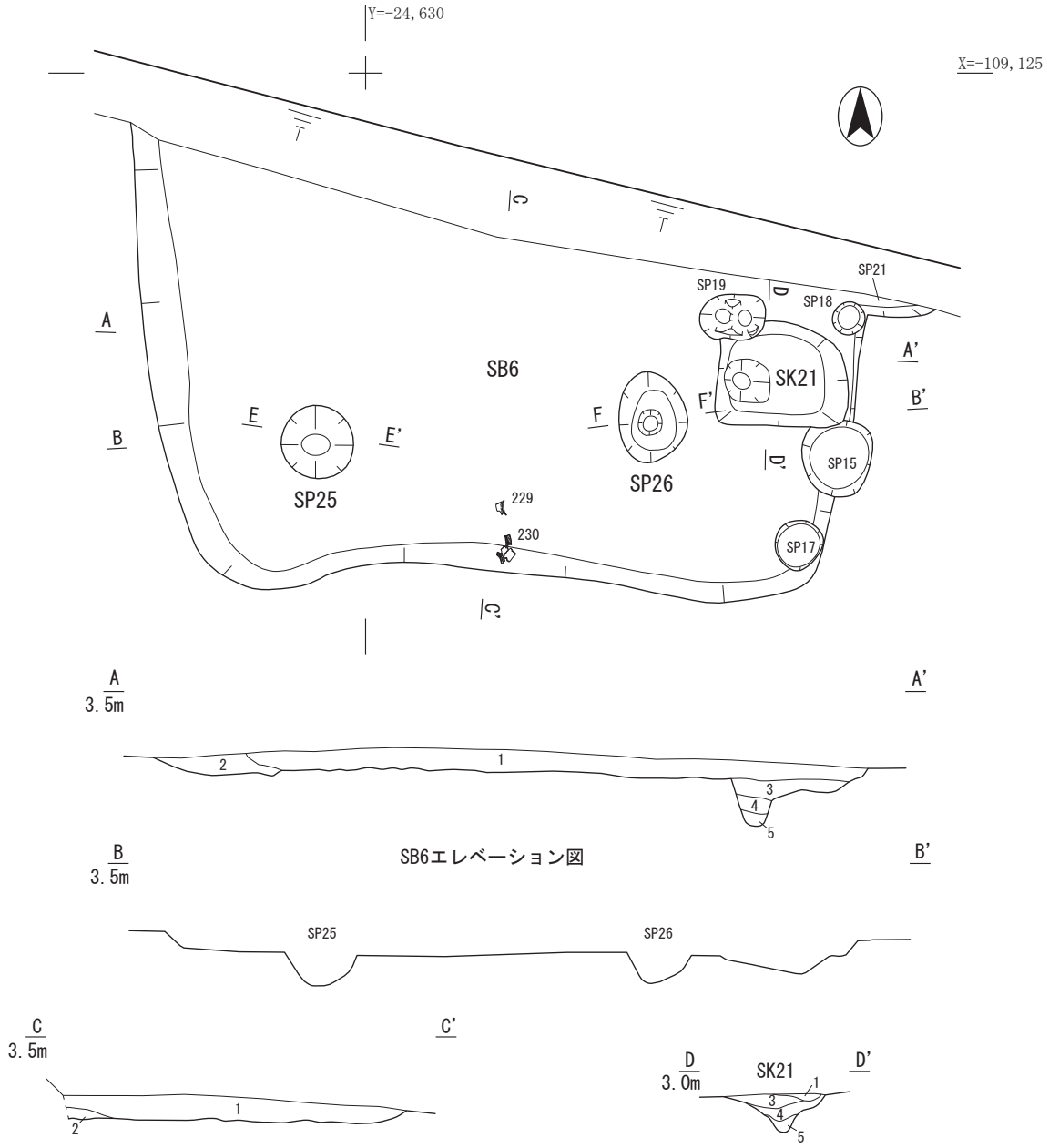
1 5YR4/3にぶい赤褐色中粒砂(2.5YR5/4にぶい赤褐色中粒砂ブロックを含む。
被熱の為赤色化。部分的に硬化)［SL2・SL3］



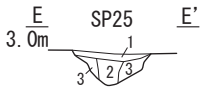
第 113 図　東畑遺跡３地点 SB5 断面図（1/50）

ある。遺構の北壁と北東隅が確認されたのみで南側は調査区外へと続く。SB2 に切られる。長軸長約 535cm、短軸長約 165cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 20cm である。柱痕跡がある主柱穴 SP27 を検出した。周壁溝は確認されていない。調査区南壁の土層観察で SB8 断面図の１層に該当する層の上で貼床土となる層を確認した。

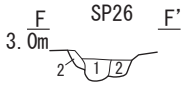
古墳時代後期と考えられる SB2 に先行する建物ではあるが、出土遺物が少量のため、遺構の詳細な時期の決定は困難である。



1 10YR3/1黒褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む。10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロックを含む)［SB6］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SB6］
3 10YR5/3にぶい黄褐色粗粒砂［SK21埋土］
4 10YR5/1褐灰色中粒砂［SK21埋土］
5 10YR7/6明黄褐色シルトと10YR7/1灰白色中粒砂の斑土［SK21埋土］



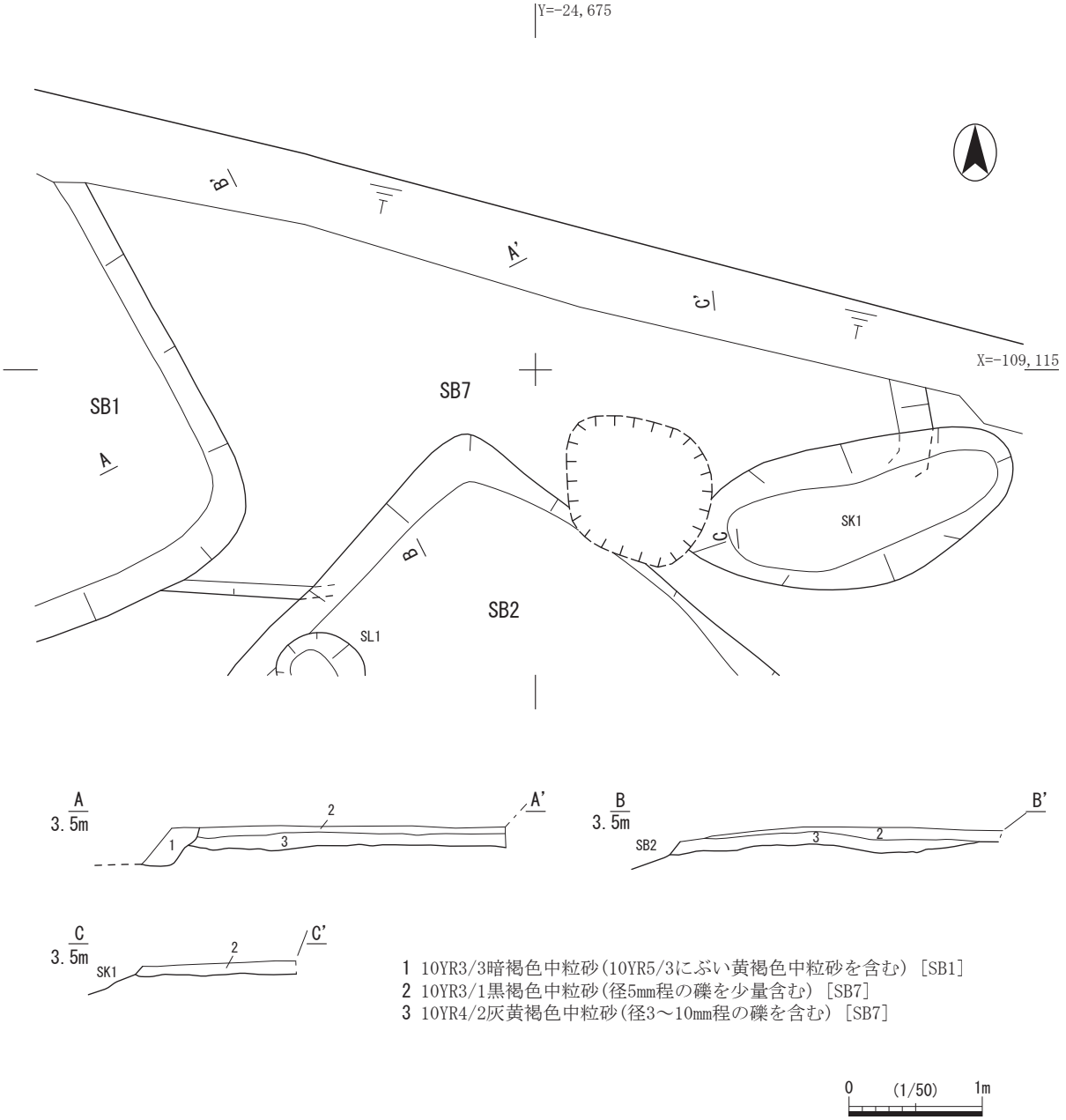
1 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP25埋土］
2 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを含む)［SP25柱痕跡］
3 10YR4/1褐灰色中粒砂と10YR7/4にぶい黄橙色シルトの斑土［SP25柱掘方］



1 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(地山ブロックを含む)［SP26柱痕跡］
2 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP26柱掘方］

0 (1/50) 1m

第 114 図　東畑遺跡３地点 SB6 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）



第 115 図　東畑遺跡３地点 SB7 平面図・断面図（1/50）

土坑

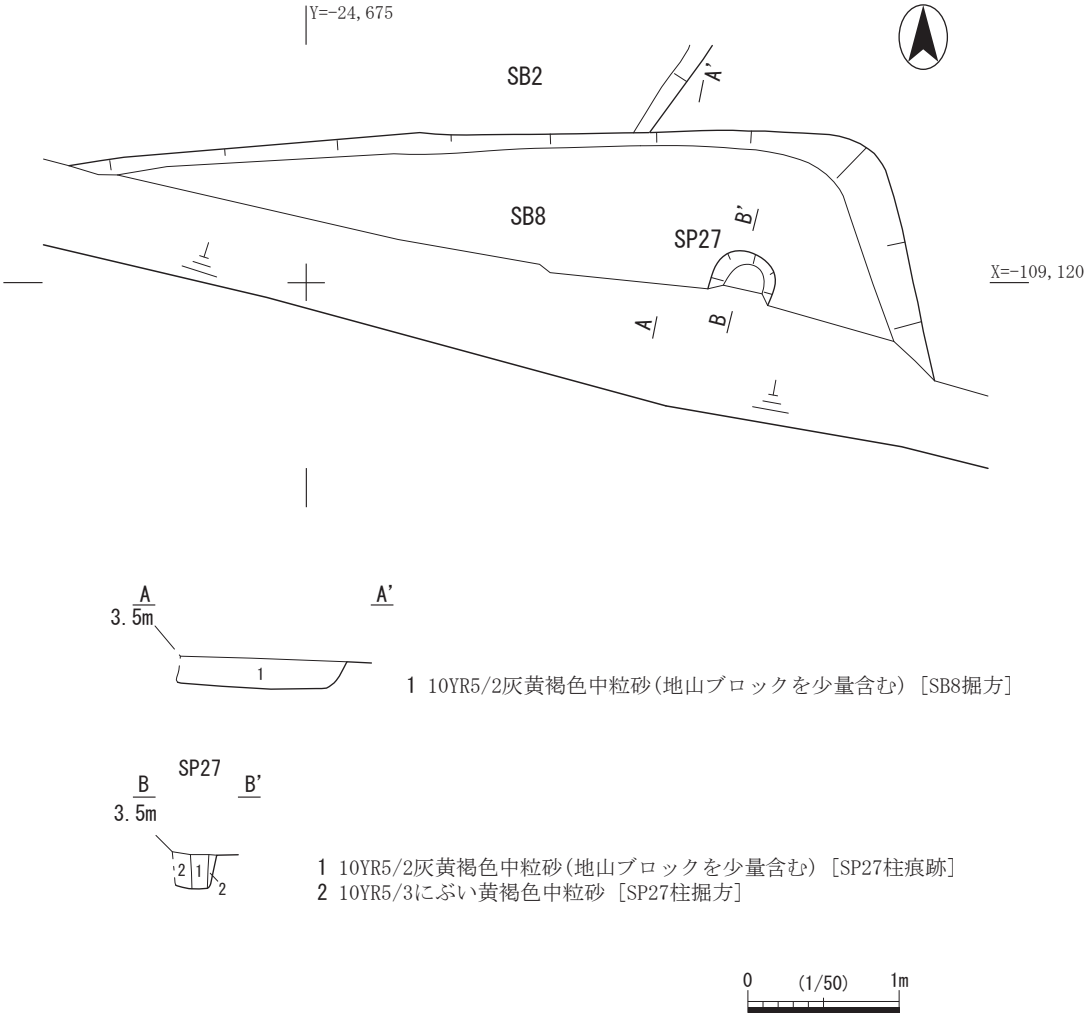
SK15（第 117 図，図版第 47）

３地点の東側Ⅱ D6o・6p 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。長軸長約 198cm、短軸長約 115cm、遺構検出面からの深さ約 10cm である。遺物の出土位置から本来は更に上面から掘り込まれていたと考えられる。主軸方向は N-56°　-W である。

上層から遺物がまとまって出土している。廻間Ⅰ式のく字状口縁台付甕（234）や有段高杯（236・237）などがある。弥生時代終末期の遺構である。

SK16（第 118 図，図版第 47）

３地点の中央西側Ⅱ D5h・5i 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。東隅を SK5



第 116 図　東畑遺跡 3 地点 SB8 平面図・断面図（1/50）

に切られる。長軸長約 158cm、短軸長約 80cm、遺構検出面からの深さ約 28cm である。主軸方向は N-44°-W である。上層から骨片が出土しているが、細片のため同定はできていない。

北西端で高杯の脚部（238）が出土している。また、S 字状口縁台付甕（B 類）や松河戸Ⅰ式の広口壺が出土している。廻間Ⅱ式から松河戸Ⅰ式までの土器がみられる。古墳時代早期から前期にかけて埋没した遺構であろうか。

B　古代

土坑

SK4（第 119 図）

3 地点の中央西側Ⅱ D5i 区に位置する。隅丸方形の平面プランを呈する土坑である。SK5 を切り、撹乱に切られる。長軸長約 300cm、短軸長約 153cm、遺構検出面からの深さ約 23cm である。壁面の立ち上がりは緩やかで、断面形は皿状を呈する。

3 地点では唯一、まとまって古代の遺物が確認された。7 世紀末から 8 世紀初頭にかけての岩崎 41 号窯式に位置付けられる須恵器の平頂蓋が出土している。一方、9 世紀後半から 10 世紀初頭にか

けての黒笹 90 号窯式に位置付けられる灰釉陶器の皿も出土しており、出土遺物には明確な時期差がある。また、布目痕・縄タタキ痕の残る平瓦もみられる。

C　中世

墓

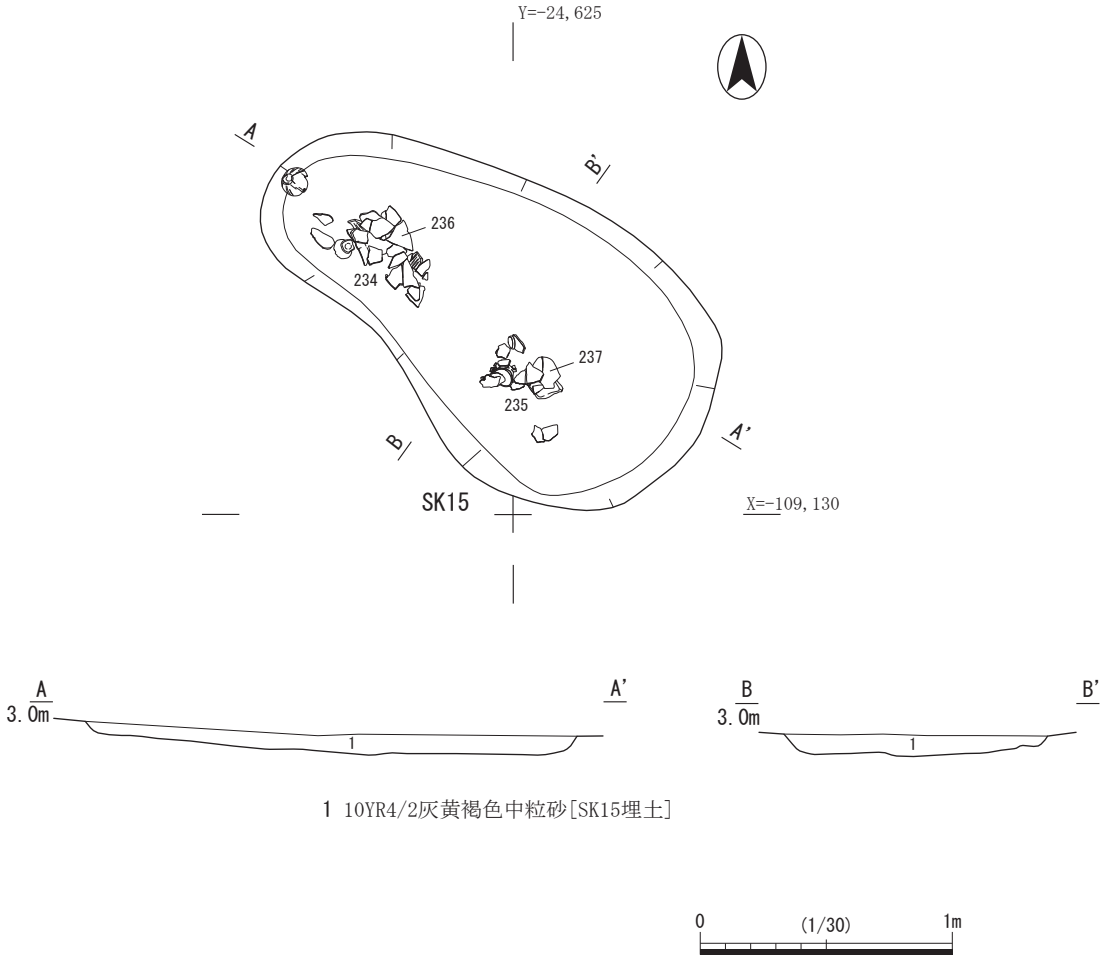
ST1（第 177 図，図版第 46）

3 地点の中央東側Ⅱ D5k 区に位置する。隅丸方形の平面プランを呈する土坑墓である。南半分は撹乱に切られる。長軸長約 182cm、短軸長約 52cm、遺構検出面からの深さ約 14cm である。主軸方向は N-83°-E である。底面から人の大腿骨、脛骨と歯が出土した。また、頭部側で完形に近い尾張型第 5 型式の山茶碗の椀が 1 点（244）、正位で出土した。枕として転用された可能性がある。中世にあたる 12 世紀後葉から 13 世紀初頭に位置付けられる。同定結果は、第 8 章で述べる。

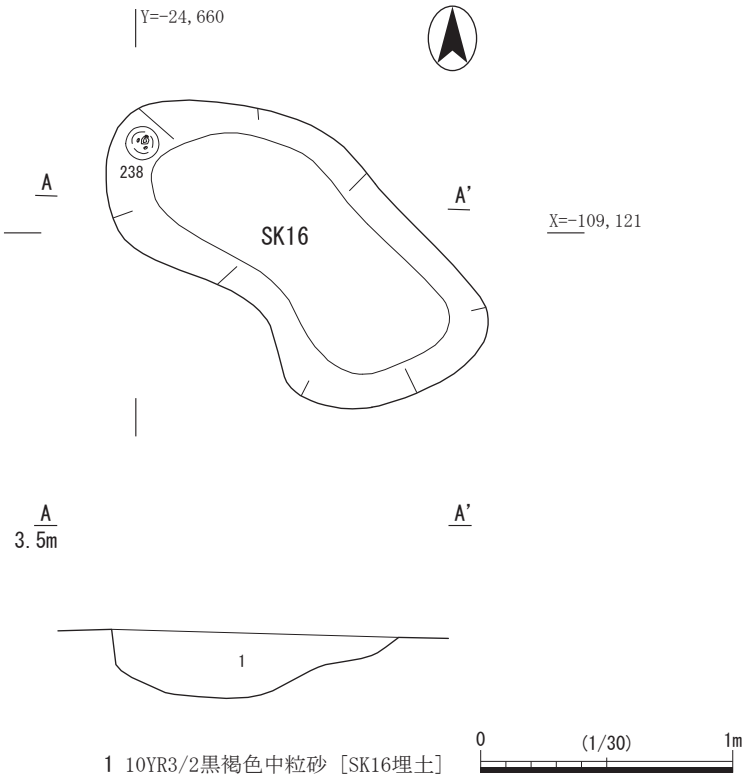
井戸

SE1（第 120・121 図，図版第 47）

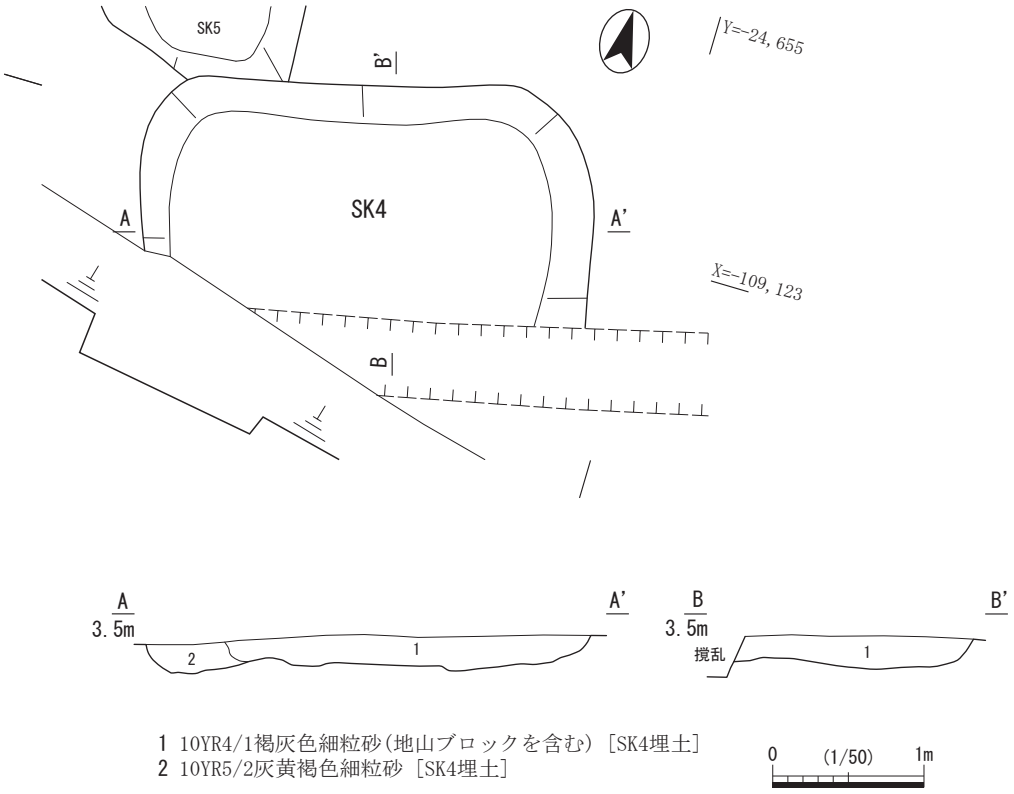
3 地点の東側Ⅱ D5l・5m・6l・6m 区に位置する。常滑の甕を井戸枠として利用した井戸である。東側は調査区北壁の土層観察から調査区外へと続くことが分かる。また、調査区南壁の土層観察か



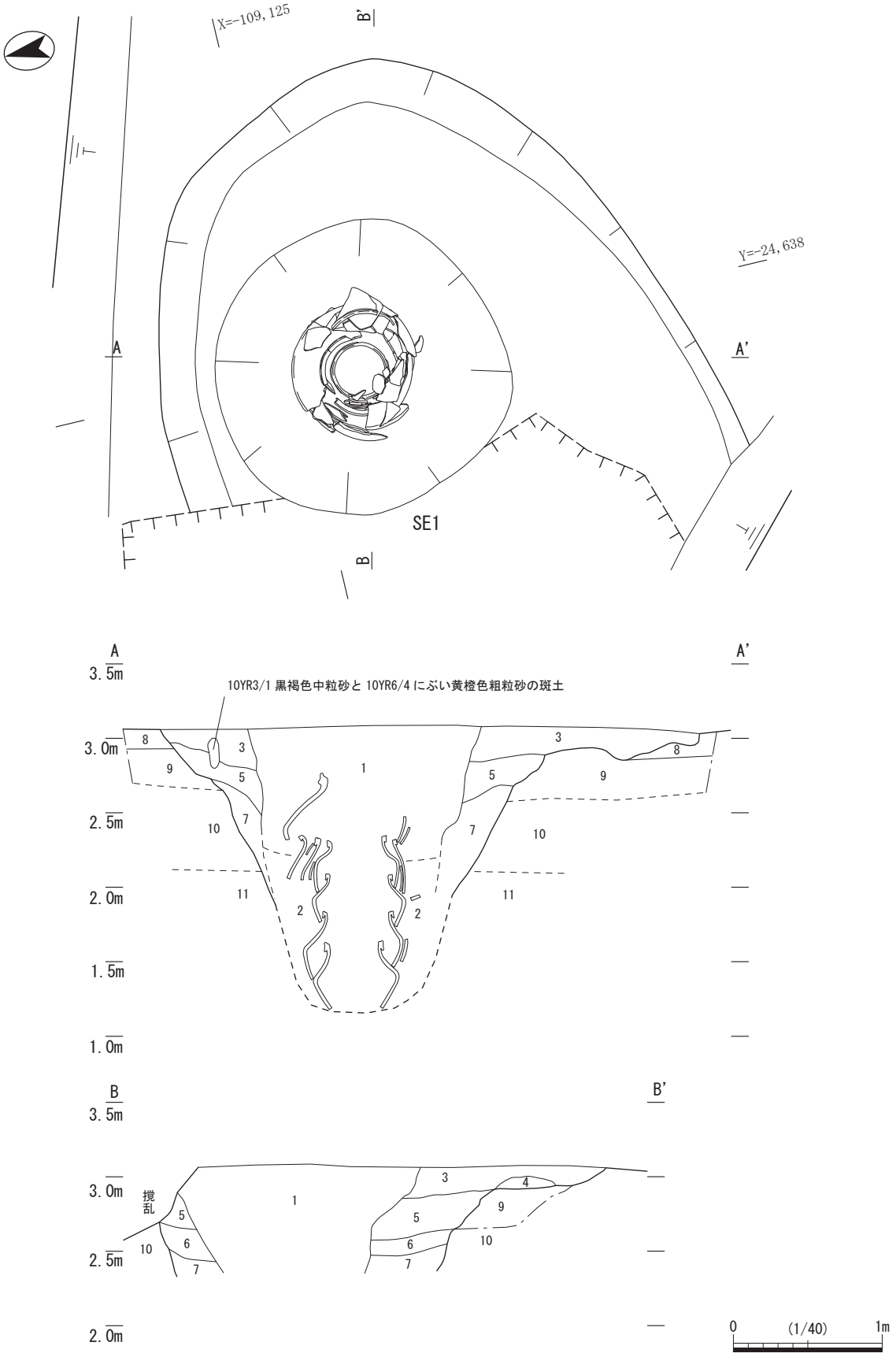
第 117 図　東畑遺跡 3 地点 SK15 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/30）



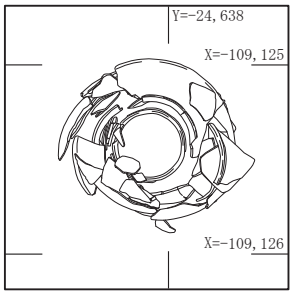
第 118 図　東畑遺跡３地点 SK16 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/30）



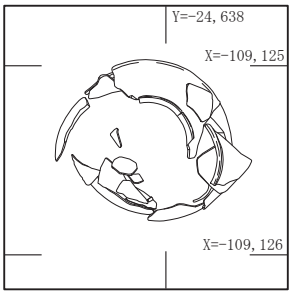
第 119 図　東畑遺跡３地点 SK4 平面図・断面図（1/50）



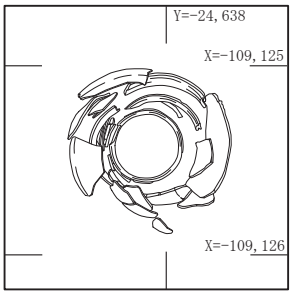
第 120 図　東畑遺跡３地点 SE1 平面図・断面図・井戸枠出土状況図（1/40）



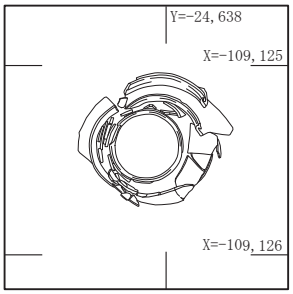
SE1 井戸枠出土状況図①



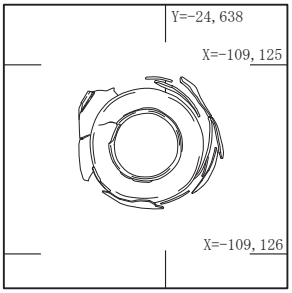
SE1 井戸枠出土状況図②(1 ～ 3 段目)



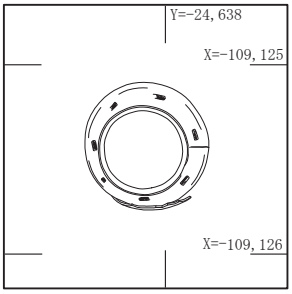
SE1 井戸枠出土状況図③(2 ～ 5 段目)



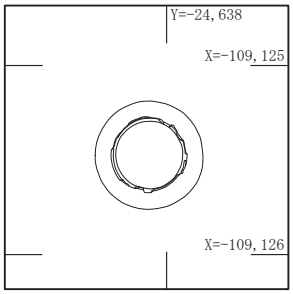
SE1 井戸枠出土状況図④(2 ～ 5 段目)



SE1 井戸枠出土状況図⑤(2 ～ 5 段目)

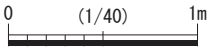


SE1 井戸枠出土状況図⑥(6 段目)



SE1 井戸枠出土状況図⑦(7 段目)

1 10YR3/1黒褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む) [SE1埋土]
2 N5/灰色中粒砂(10YR7/6明黄褐色粘質シルトブロックを多量に含む) [SE1埋土]
3 10YR3/1黒褐色中粒砂(10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂ブロックを含む) [SE1掘方]
4 10YR6/2灰黄褐色中粒砂と10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂の斑土 [SE1掘方]
5 10YR4/1褐灰色中粒砂(10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂ブロックと
10YR7/6明黄褐色粘質シルトブロックを含む) [SE1掘方]
6 10YR3/1黒褐色中粒砂 [SE1掘方]
7 10YR5/2灰黄褐色細粒砂(10YR7/6明黄褐色粘質シルトブロックを多量に含む)
[SE1掘方]
8 10YR6/2灰黄褐色中粒砂 [基盤層]
9 10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂 [基盤層]
10 10YR7/6明黄褐色粘質シルト [基盤層]
11 10YR6/3にぶい黄橙色粗粒砂 [基盤層]



第 121 図　東畑遺跡 3 地点 SE1 井戸枠出土状況図 (1/40)

ら西側に隣接する SB4 と SX1 を切ることが確認されている。撹乱に切られる。長軸長約 380cm、短軸長約 352cm である。検出面から 40cm 下までは平面楕円形の掘方をもち、そこで一旦段をつける。以下は径 100cm 程の平面円形の掘方で、下部になるに従ってすぼまる。掘方の断面形は三角形を呈する。遺構検出面からの深さは推定で約 193cm であることから、標高 1.0m 強で湧水層に達したと思われる。井戸底の水溜め部の構造は確認できなかった。SE1 断面図の 1 層は埋土で、井戸廃絶後に井戸枠が落ち、掘方が崩れたことが分かる。井戸枠は 7 段まで確認したが、上部は大きく割れている個体が多い。7 段の井戸枠の高さは推定で遺構検出面まであったと考えられる。

井戸枠に利用された常滑甕は知多窯 6a ～ 7 型式にあたる。下部に利用された甕ほど古い様相を示している。可能性としては、「①構築時期に差がある。②上層の甕が破損等により組み替えられた。③偶然の結果である。」ということが考えられる。また、SE1 から出土した井戸枠以外の遺物には、山茶碗の碗、小皿、花瓶、土師器の皿、白磁の皿、土師器の伊勢型鍋、羽付釜、常滑の片口鉢、盤、土錘がある。井戸枠に利用された常滑甕同様、概ね 13 世紀後半から 14 世紀前半にかけてのものである。掘方出土遺物と井戸枠内出土遺物では明瞭な時期差は確認できない。

第 3 節　出土遺物（3 地点）（図版第 14 ～ 19, 図版第 61・68 ～ 70・85 ～ 92, 第 2・3・5・6 表）

A　弥生土器・土師器

SB1 出土土器

土師器の高杯（190）、壺（191）、甕（192）がある。

190 は有稜高杯である。杯部上半が僅かに内弯しながら、大きく外傾する中型の高杯である。191 は広口壺である。頸部がほぼ垂直に立ち上がり、口縁部は外に開く。強いヨコナデにより、口縁端部に凹面が形成されている。192 は台付甕である。脚台部は外に大きく開き、端部周辺は肥厚するが、折り返しはみられない。粘土帯の接合面から判断すると、脚台部を先に製作（倒立技法）していると考えられる。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から 190 は廻間Ⅲ式、191 と 192 は松河戸Ⅰ式と考えられる。

SB3 出土土器

土師器の壺（193・195）、甕（194）、高杯（196）、鉢（197）がある。

193 は柳ヶ坪型壺である。口縁部が有段状を呈し、口縁部内外面に羽状刺突文が施されている。有段部外面の垂下はみられない。194 はく字状口縁台付甕である。口縁部が直線的に上方に立ち上がる。端部に向かうほど器壁は薄くなる。195 は小型丸底壺である。口径が胴部径を大きく上回る。口縁部から頸部にかけてわずかに内弯がみられる。196 は有段高杯の脚部である。脚部上半は柱状で、下半は複雑な弯曲をしながら外へ開く。内弯気味に広がった後、端部は外反する。外面の調整には主としてタテミガキが施され、内面については板ケズリで整形されている。197 は小型台付鉢の脚台部と思われる。高杯とも考えられるが、内面の見込み部に板ナデの痕跡がみられるため鉢の可能性が高い。脚台部のタテミガキ調整は端部まで施されず中段で止まっている。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から松河戸Ⅰ式に位置付けられる。

SB4 出土土器

弥生土器の甕（198・199）、高杯（200・201）がある。

198 はく字状口縁台付甕である。器面はケズリないし板ナデにより調整されている。口縁部は短く直線的に外傾する。199 はく字状口縁台付甕である。内外面ともに粗いハケ調整が施される。口頸部は粘土を継いだ後、外面にタテハケ調整を施す。口縁部周辺にハケ目を消すようなヨコナデ調整の痕跡がみられない。200 は高杯の脚部である。短脚で幅広の印象がある。外反して大きく開く形状であり、上半には直線文とクシ状工具による刺突列が施されている。201 は杯部が椀型もしく

はワイングラス形になると考えられる高杯である。杯部下半が丸味を帯びて立ち上がる。脚部は接合部から外反が始まっていて、中段辺りでより大きく開く。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から山中式に位置付けられる。更に 200・201 は山中Ⅱ式に位置付けられる。

SB5 出土土器

土師器の壺（202 ～ 206）、甕（207 ～ 222）、高杯（223 ～ 225）、器台（226・227）がある。

202 は短頸ヒサゴ壺である。口縁部は内弯しながら上方に立ち上がり、端部で僅かに外反がみられる。内外面ともに所々にヨコミガキ調整が施される。203 は二重口縁壺である。口縁端部がつまみ上げられたように薄くなり、外面に幅の広い面が形成されている。主として外面にはヨコミガキ調整が施されている。204 と 205 は内弯口頸壺と思われる。204 の外面には主としてタテミガキ調整、205 の外面には主としてヨコミガキ調整が施されている。206 は突出底をもつ壺である。底部内面に螺旋状のハケ調整が施されている。207 ～ 212 はく字状口縁台付甕である。207 の口縁部は外反し、端部は丸く収められる。胴部外面および口頸部内面にハケ調整、胴部内面に板ナデ調整が施される。口縁部から頸部上方外面にはヨコナデ調整がみられる。208 は外反する口縁部をもち、調整の手法も 207 と似た特徴を有する。209 の口縁部は直線的に外傾し、端部は丸く収められる。内外面ともハケ調整が施され、口縁部から頸部上方外面まで強いヨコナデ調整がみられる。210 は外反する形状の口縁部をもち、また胴部と比べて頸部上方の器壁が厚くなる特徴がみられる。頸部内外面に強いナデ調整が施される。211 の口縁部は僅かに内弯し、上端部に面をもつ。口縁部から肩部外面にかけて広い範囲にヨコナデ調整が施される。212 は短く直線的に上方へ立ち上がる口縁部をもち、端部には面をもつ。内外面ともに頸部上方まで強いヨコナデが施されている。213 と 214 は S 字状口縁台付甕（B 類）である。213 は口縁部を上方に引き上げる傾向にあり、端部に面をもつ。ヨコハケ（直線文）は頸部直下から施され、頸部外面に沈線が入る。214 は口縁端部に明瞭な面をもつ。頸部に沈線、頸部からやや下がった位置にヨコハケ（直線文）がみられる。内面は指ナデ調整が主体である。215・216 は S 字状口縁台付甕（C 類）である。215 は口縁部の屈曲が強く、外へ開いて立ち上がる。頸部には弱いナデ状の沈線がみられ、ヨコハケ（直線文）は肩付近まで下がる。胴部外面の調整に羽状ハケを施す。内面調整は指ナデを基本とする。216 は口縁部の屈曲が弱く、外側に伸びる。頸部沈線は不明瞭で、頸部下側までナデ調整の痕跡がみられる。ヨコハケ（直線文）は肩部に確認できるが不明瞭である。内面調整は指ナデが主体である。217 ～ 222 は台付甕の脚台部である。217 は脚台部に僅かに内弯傾向がみられ、端部に面をもつ。器面には主としてナデ調整が施される。218 は S 字状口縁台付甕の脚台部である。端部は折り返され、やや丸く収められる。219 は内弯気味に広がる脚台部で、端部を丸く収める。脚台部下半にはヨコナデ調整が施される。220 は内弯する脚台部で、端部に向かうほど器壁は薄く成形されている。221 はやや直線的に開く脚台部で、端部は面をもつ。外面はハケ調整の後、強いヨコナデが施されている。222 は内弯傾向が強い脚台部である。223 ～ 225 は高杯の脚部である。223 は外反する脚部であるが、端部周辺に内弯調整がみられる。脚部上端には不明瞭ではあるが、横線文が施される。224 は器高が比較的低くなる内弯脚であり、端部は丸く収められている。脚部上端には横線文が施される。225 は 2 段に屈折して裾が広がる形状であり、柱状脚になると考えられる。外面の突出部分には刺突が施される。226 は東海系器台である。受部は内弯し、口縁端部には面をもたない。受部と脚部は貫通していない。

227 は大きく外反する脚部をもつ器台であり、内弯傾向はほぼみられない。高杯と同様の横線文が施されている。

これらの土器は、器形や製作技法・調整から廻間式の範疇に入ると考えられる。更に 204・223・224・227 は廻間Ⅰ式、202・203・205・207 ～ 214・226 は廻間Ⅱ式、215・216 は廻間Ⅲ式に位置付けられる。

SB6 出土土器

土師器の壺（228）、甕（229・230）がある。228 は広口壺である。大きく外反する口縁部であり、端部は丸く収められている。口縁部上方外面と頸部には強いヨコナデが施されている。229・230 はく字状口縁台付甕である。229 は頸部の屈曲が強い。口縁部は胴部のハケ調整の後に粘土を継いで成形している。230 は口径が胴部最大径を上回る。器面は粗いハケおよび板ナデで調整されている。

器形や製作技法・調整から 230 は廻間Ⅰ式、228・229 は松河戸Ⅰ式と考えられる。

SB7 出土土器

土師器の壺（231）、甕（232）、鉢（233）がある。

231 は短頸の壺である。直線的な口縁部が大きく外傾して立ち上がる。端部は僅かに内弯する。232 はＳ字状口縁台付甕（C 類）である。口縁部の屈曲は外へ開く。部分的であるが、頸部沈線も確認できる。233 は鉢で、口径が僅かに胴部径を上回る。口縁部には若干ではあるが、受口状の形状を残す。

これらの土器は、廻間Ⅲ式に位置付けられる。

SK15 出土土器

土師器の甕（234・235）、高杯（236・237）がある。

234 は、く字状口縁台付甕である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部に明瞭な面をもつ。体部の大きさからすると小型化した脚台部がつく。内面には主としてケズリ調整が施されている。235 は台付甕の脚台部である。内弯傾向がみられ、脚端部に面をもつ。外面にヨコナデ調整はみられない。236・237 は有段高杯である。236 は杯部が比較的深く、口径に対して稜径が著しく小さくなると考えられる。口縁端部に面はなく、やや丸く収められている。237 は口径に対し杯部高が深い高杯である。口縁部周辺に細部内弯がみられ、口縁端部には内傾面をもつ。

これらの土器は、廻間式に位置付けられる。更に器形や製作技法・調整から 234・236・237 は廻間Ⅰ式に位置付けられる。

SK16 出土土器

土師器の高杯（238）、甕（239）、壺（240）がある。

238 は高杯の脚部である。円錐状に外反し、上方に横線が施されている。内弯傾向はみられない。239 はＳ字状口縁台付甕（B 類）である。口縁端部内面に面をもつ。器壁は非常に薄く成形され、小・中型の甕と考えられる。外面のハケ調整の後に頸部に沈線が施されている。240 は広口壺である。外反・外傾する口縁部であり、端部は丸く収められる。肩部内面は鋭角に屈曲する。口縁端部および頸部に強いヨコナデが施されている。

器形や製作技法・調整から 238 は廻間Ⅱ式、239 は廻間Ⅲ式、240 は松河戸Ⅰ式と考えられる。

B　須恵器・灰釉陶器

SK4 出土須恵器・灰釉陶器

須恵器の蓋（241）、甑（243）、灰釉陶器の皿（242）が出土している。

241 は平頂蓋である。7 世紀末から 8 世紀初頭にかけての岩崎 41 号窯式である。242 は灰釉陶器の皿で 9 世紀後半から 10 世紀初頭にかけての黒笹 90 号窯式である。243 は甑で底部に 1 ヶ所穿孔が確認できるが、全体の形状は不明である。

C　中世の土器・陶磁器

ST1 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗(244)がある。尾張型第 5 型式で、実年代で 12 世紀後葉から 13 世紀初頭のものである。

SE1 出土土器・陶磁器

SE1 井戸枠内や掘方から山茶碗の碗（245 ～ 247）、小皿（248 ～ 253）、花瓶（262）、土師器の皿（254・255）、白磁の皿（256）、土師器の伊勢型鍋（257・258）、羽付釜（259）、常滑の片口鉢（260）、盤（261）が出土している。

245 ～ 247 は山茶碗の碗で、245・246 が尾張型第 7 型式、247 が尾張型第 9 型式である。247 は胎土に長石を多く含む。248 ～ 253 は山茶碗の小皿で、248 が尾張型第 6 型式、249・250 が尾張型第 7 型式、251 ～ 253 が尾張型第 8 型式である。248 の底部外面には墨書がみられる。253 は器形から渥美窯産の可能性がある。254 と 255 は中世土師器のロクロ調整皿である。山茶碗の焼成失敗品の可能性もある。山茶碗の型式分類では、尾張型第 6 型式にあたる。256 は白磁皿Ⅸ類で、時期は概ね 13 世紀後半のものである。257 と 258 は伊勢型鍋で、北村編年（北村 1996）の A5 類に位置付けられる。259 は羽付釜で、北村編年（北村 1996）の A3 類に位置付けられる。257 ～ 259 は実年代で 13 世紀後半のものである。260 は常滑の片口鉢で、片口鉢Ⅱ類、知多窯 6b 型式に位置付けられる。261 は常滑の盤で知多窯 6a 型式である。262 は山茶碗の花瓶の胴部下半から脚部である。

これらの遺物の年代は、大半が山茶碗の編年で尾張型第 7 型式から第 8 型式の時期、すなわち、実年代での 13 世紀中葉から 14 世紀前葉に該当する。

SE1 の井戸枠には常滑の甕（263 ～ 269）が利用されている。

263 は井戸枠の 1 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 7 型式に位置付けられる。264 は井戸枠の 2 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 7 型式に位置付けられる。肩部に連続した押印文が巡る。265 は井戸枠の 3 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 7 型式に位置付けられる。266 は井戸枠の 4 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 7 型式に位置付けられる。267 は井戸枠の 5 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 6b 型式に位置付けられる。肩部と上胴部には押印文がみられる。268 は井戸枠の 6 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 6b 型式に位置付けられる。肩部に高さと間隔がランダムな押印文が巡る。269 は井戸枠の 7 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 6a 型式に位置付けられる。井戸枠か裏込めに利用されたかは不明であるが、他に常滑の甕 3 点（270 ～ 272）が確認されている。271 は肩部に高さと間隔がランダムな押印文が巡る。知多窯 6b 型式に位置付けられる。271 は肩部と上胴部に押印文が巡る。知多窯 7 型式に位置付けられる。272 は口縁部から胴部にかけて自然釉が掛かる。知多窯 6b 型式に位置付けられる。

井戸枠に利用された常滑甕は知多窯 6a 型式から 7 型式にあたり、実年代で 13 世紀後半から 14

世紀前半のものである。上段の甕ほど新しい様相を呈している。また、他の SE1 から出土した遺物も概ねこの年代に収まる。

D　土製品

273 と 274 は SE1 から出土した土錘である。いずれも管状である。刺し網に使用されたと考えられる。

E　瓦

275 と 276 は SK4 から出土した平瓦である。いずれも凹面にはコビキによる筋と布目痕、凸面には縄タタキ痕が明瞭に残る。胎土には砂粒多く含まれ、全体的にやや赤く焼きあがっている。時期の特定は難しい。SK4 からは黒笹 90 号窯式の灰釉陶器の皿が出土しており、その時期まで遡る可能性はある。

F　石器

277 は泥岩製の敲石である。側面に敲打痕がみられる。SB5 からの出土である。278 は軽石製の砥石で、使用により 1 面のみ著しく窪む。SB6 内の SK21 から出土した。

第 6 章　畑間遺跡 5 地点の調査

第 1 節　概要と基本層序（第 122・125 ～ 136 図，図版第 48 ～ 50）

畑間遺跡 5 地点は、海岸から内陸に向かって数えて最も東側の第 1 砂堆上に位置する。第 1 砂堆は河川の変化、侵食・堆積作用により平面形が佐渡島のような形状を呈している。5 地点は括れた部分にあり、第 1 砂堆のほぼ中央にあたる。東側には平成 20 年度の調査地点がある。また、西側には今回報告する郷中遺跡6B地点が隣接する。基本層序は以下のとおりである（第131～136図）。

Ⅰ層：表土層。近現代の盛土または作土・床土である。

Ⅱ層：遺物包含層。10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂層（2.5Y7/3 浅黄色粘質シルトブロック、径 10㎜ 程の礫を多量に含む）以下の砂層がこれにあたる。主として中世から近世の遺物の出土がみられる。

Ⅲ層：基盤層。10YR7/6 明黄褐色細粒砂層以下がこれにあたる。地山層である。

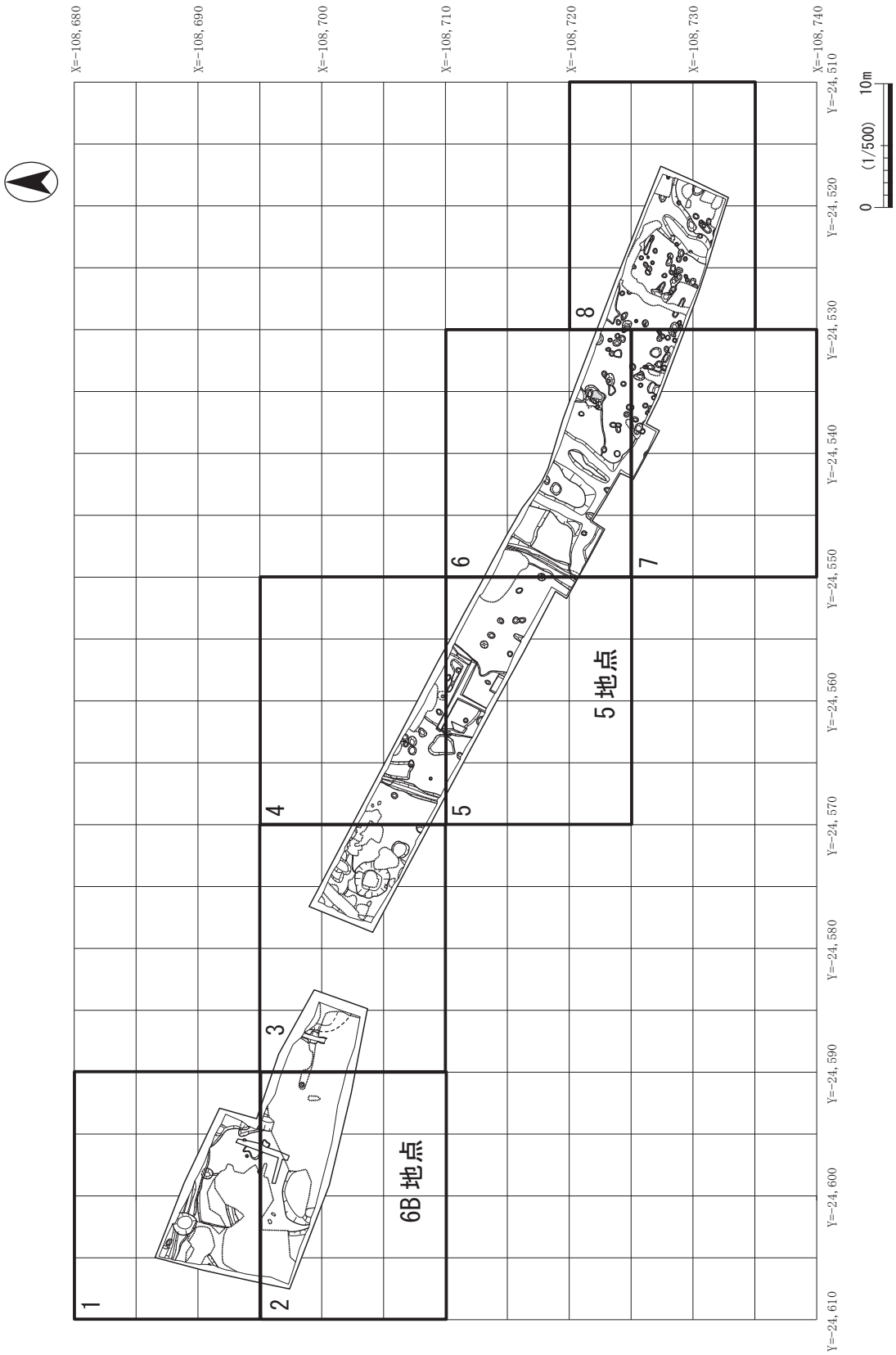
畑間遺跡はこれまでの調査の結果、古代から中世を中心とした集落跡とされてきた。今回の調査でも主として古代から中世にかけての遺構や遺物が確認された。東西に細長い調査区で、幅は概ね 6m 程である。また、砂堆に立地するため、高潮・洪水等多くの地形改変を被ったとみられ、遺構の残存状態はよくない。

調査区の西側と中央で古墳時代終末期と古代の竪穴建物が 2 棟確認されている。現地調査の段階では SX（不明遺構）としていたが、その形状や遺物の出土状況から竪穴建物とした。いずれも遺構の北側は調査区外へと続いている。SB2 の周辺にある SD2 ～ 6 の埋土には、多くの須恵器や灰釉陶器が混入しており、当該期の遺構が他にも存在した可能性が高い。調査区東側の SX4 からは、古代の須恵器と土師器が出土しており、粘土や焼土の広がりが確認できた。何らかの生産に関連する遺構であると思われる。SX4 に近い SX3・5 からも粘土の堆積が確認できたが、遺構の時期は不明である。一方、遺物包含層を中心に知多式製塩土器の出土がみられる。今回報告する 6 箇所の調査地点の中では最も出土量が多い。

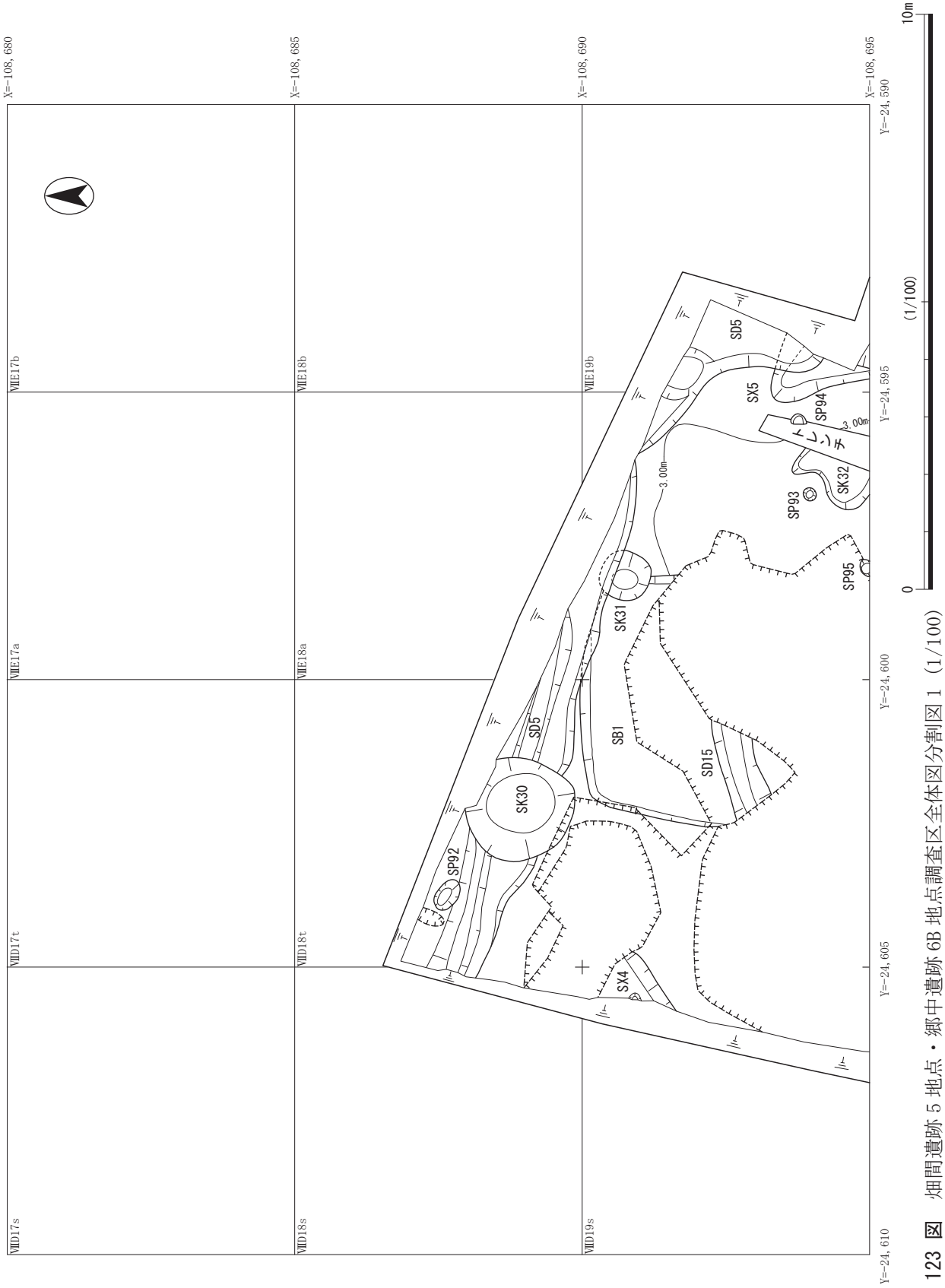
中世の遺構には土坑、溝が挙げられる。Ⅷ E6o・6p グリッドにある SK 群からは、尾張型第 6 ～ 8 型式にあたる完形の山茶碗の碗や小皿の出土がみられる。調査区中央から東側にかけては、一連の溝と考えられる SD2 ～ 6 がある。特に、SD2 からは列状に尾張型第 5 ～ 6 型式の山茶碗の碗、小皿等が出土しており、一括性が高い。

出土遺物は、古代の須恵器や土師器、灰釉陶器、製塩土器、中世の山茶碗、常滑焼、土師器が大半を占める。

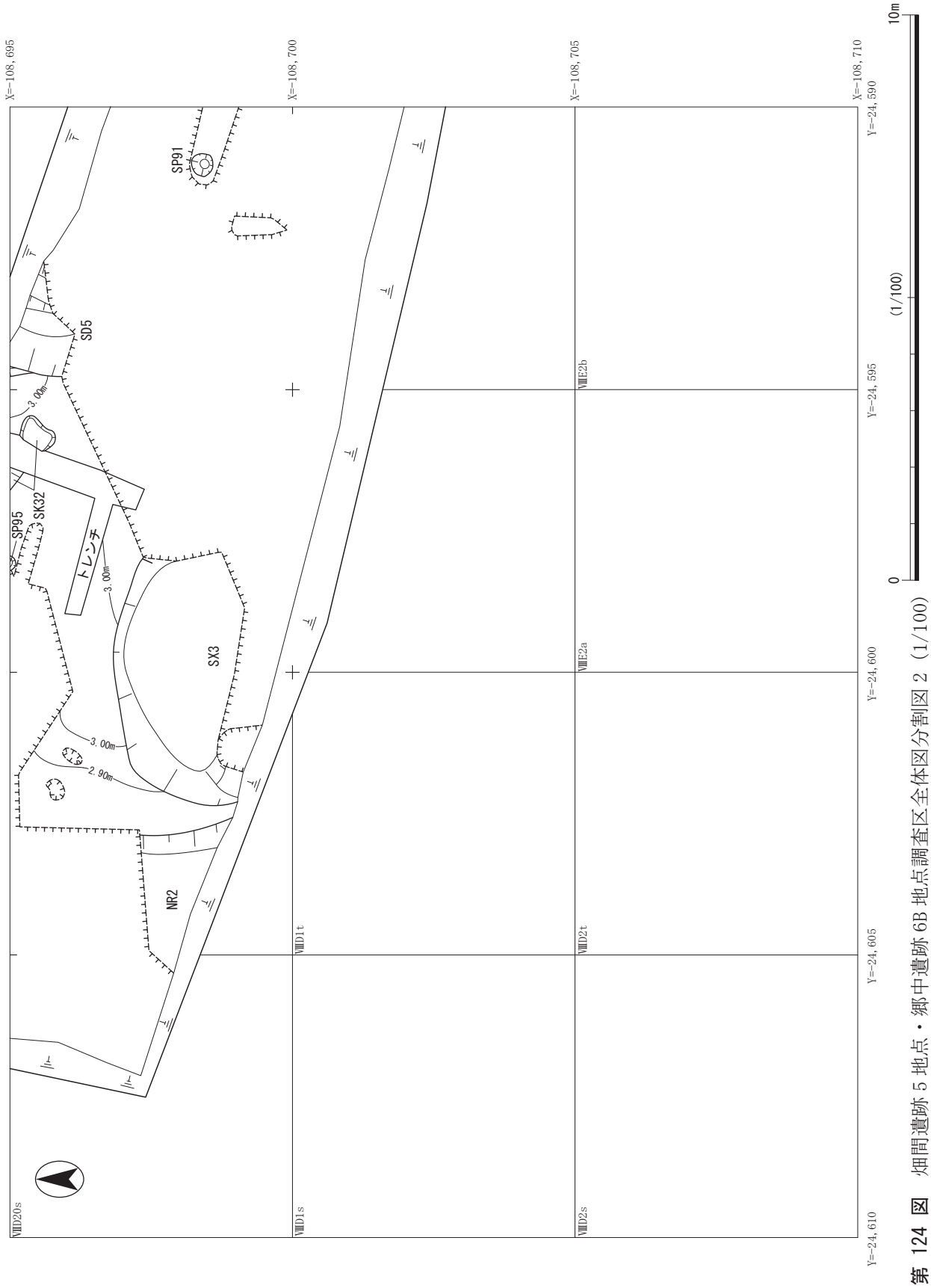
第 6 章では、主要遺構とそれに伴う遺物を中心に報告を行う。製塩土器については、第 9 章で扱う。



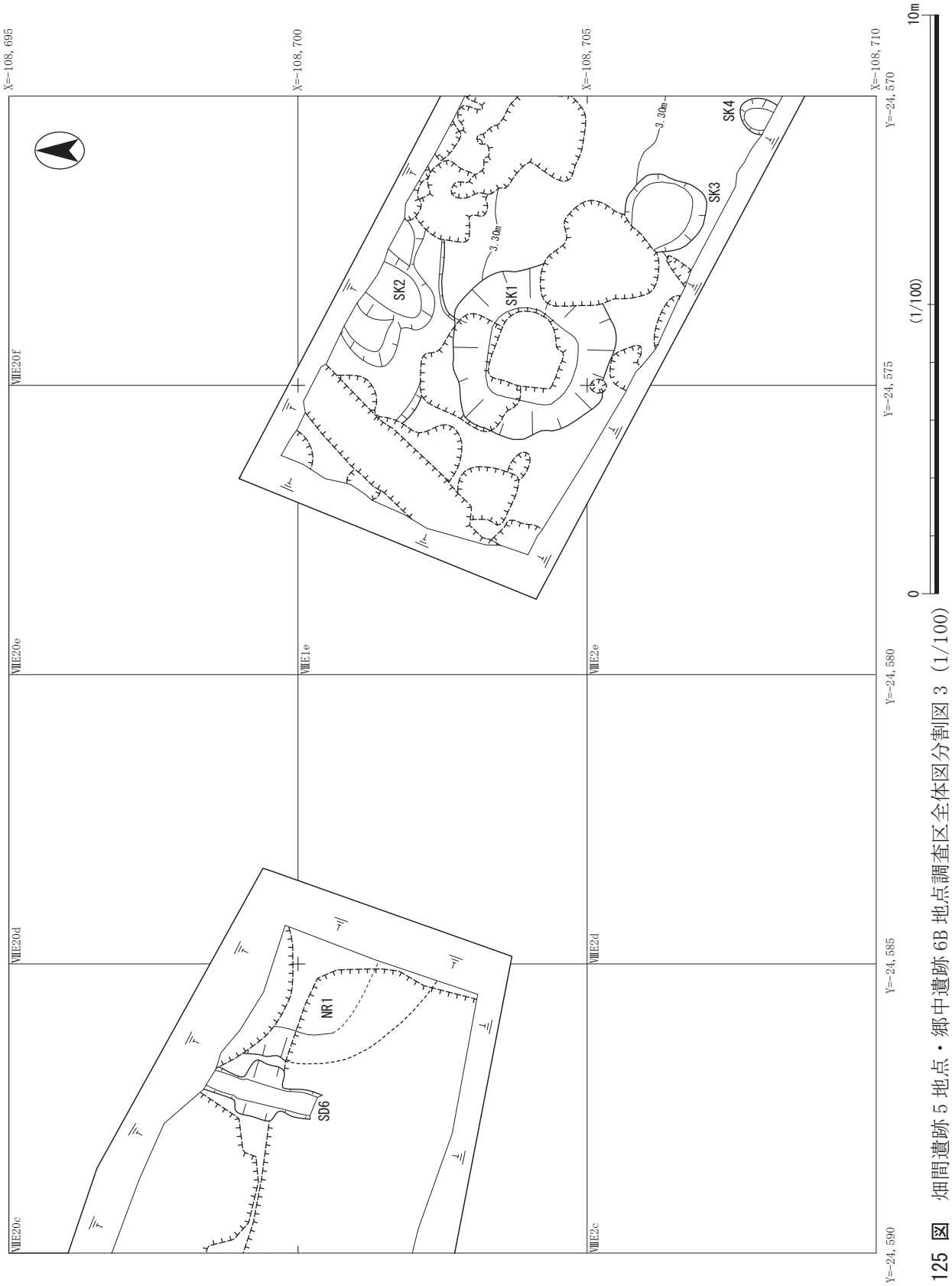
第 122 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図（1/500）



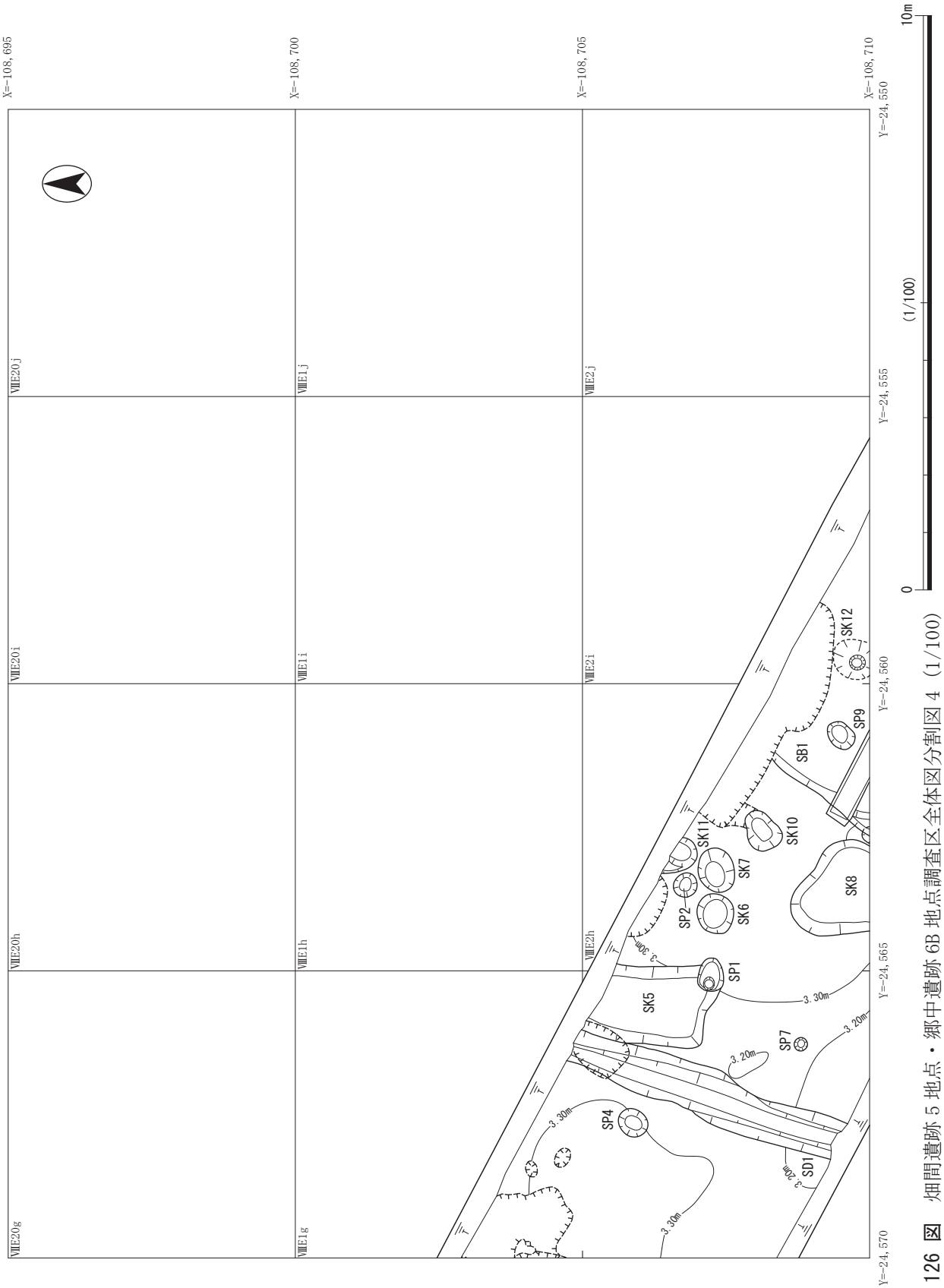
第 123 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図１（1/100）



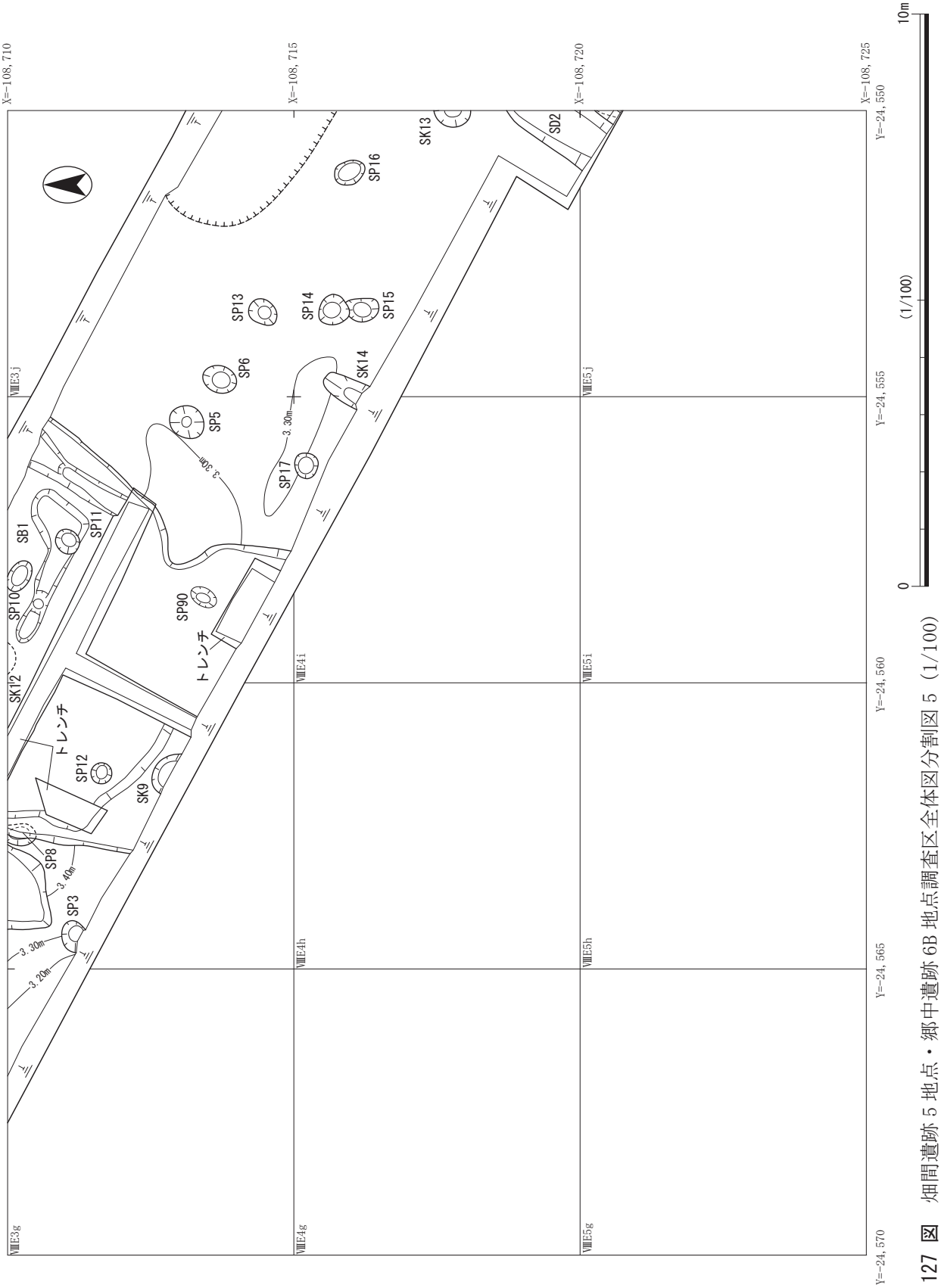
第 124 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図２（1/100）



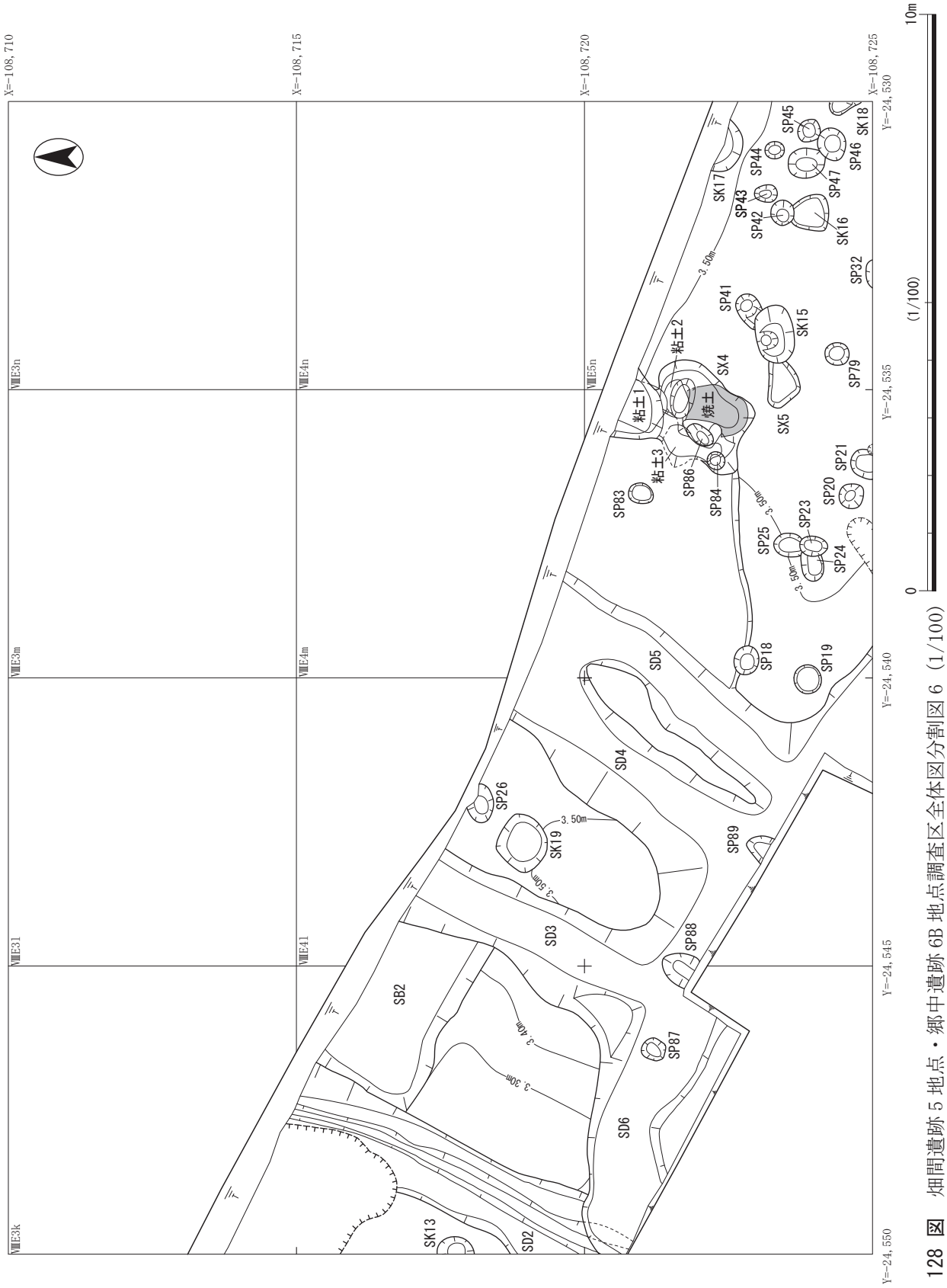
第 125 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図３（1/100）



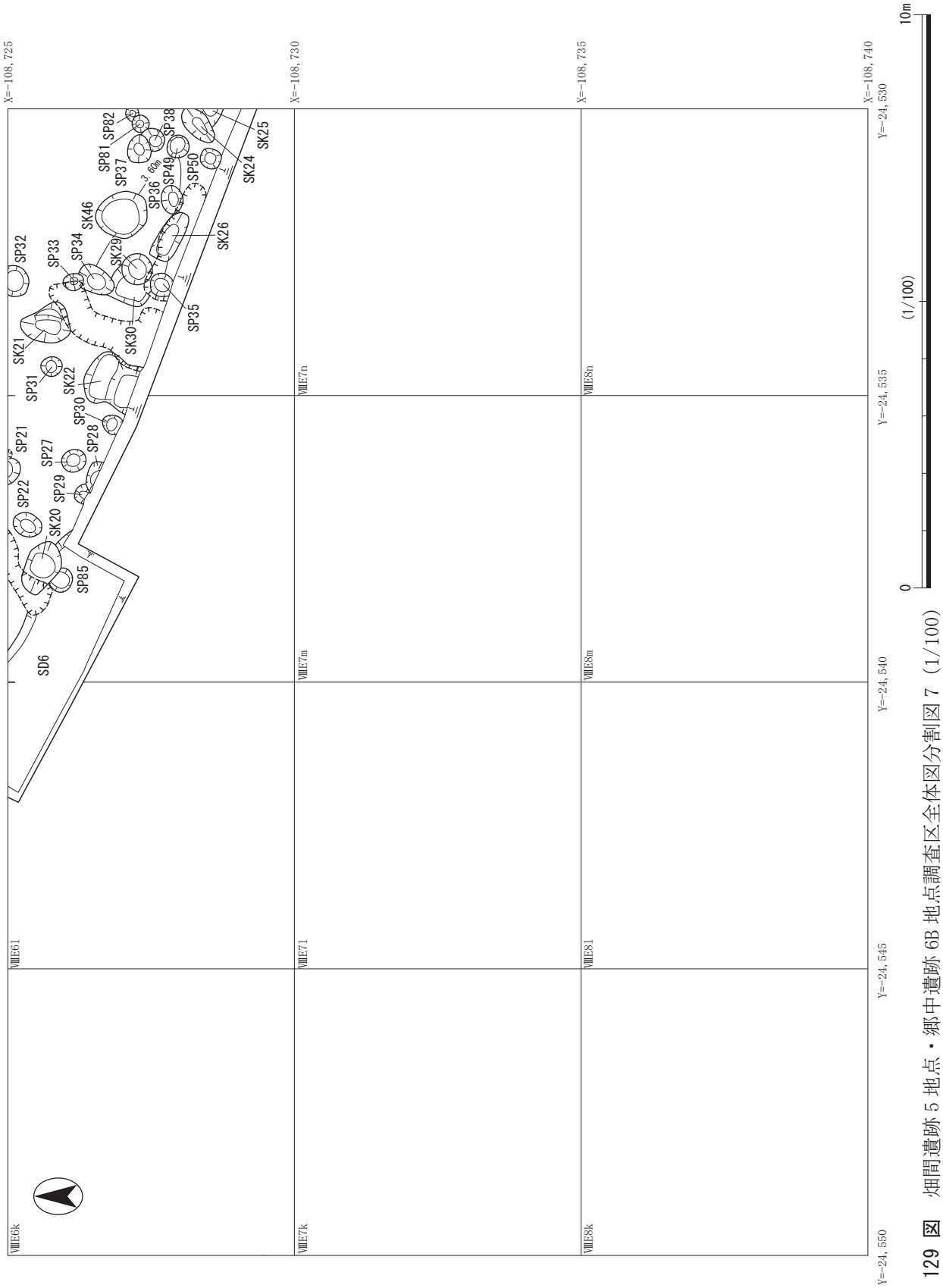
第 126 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図４（1/100）



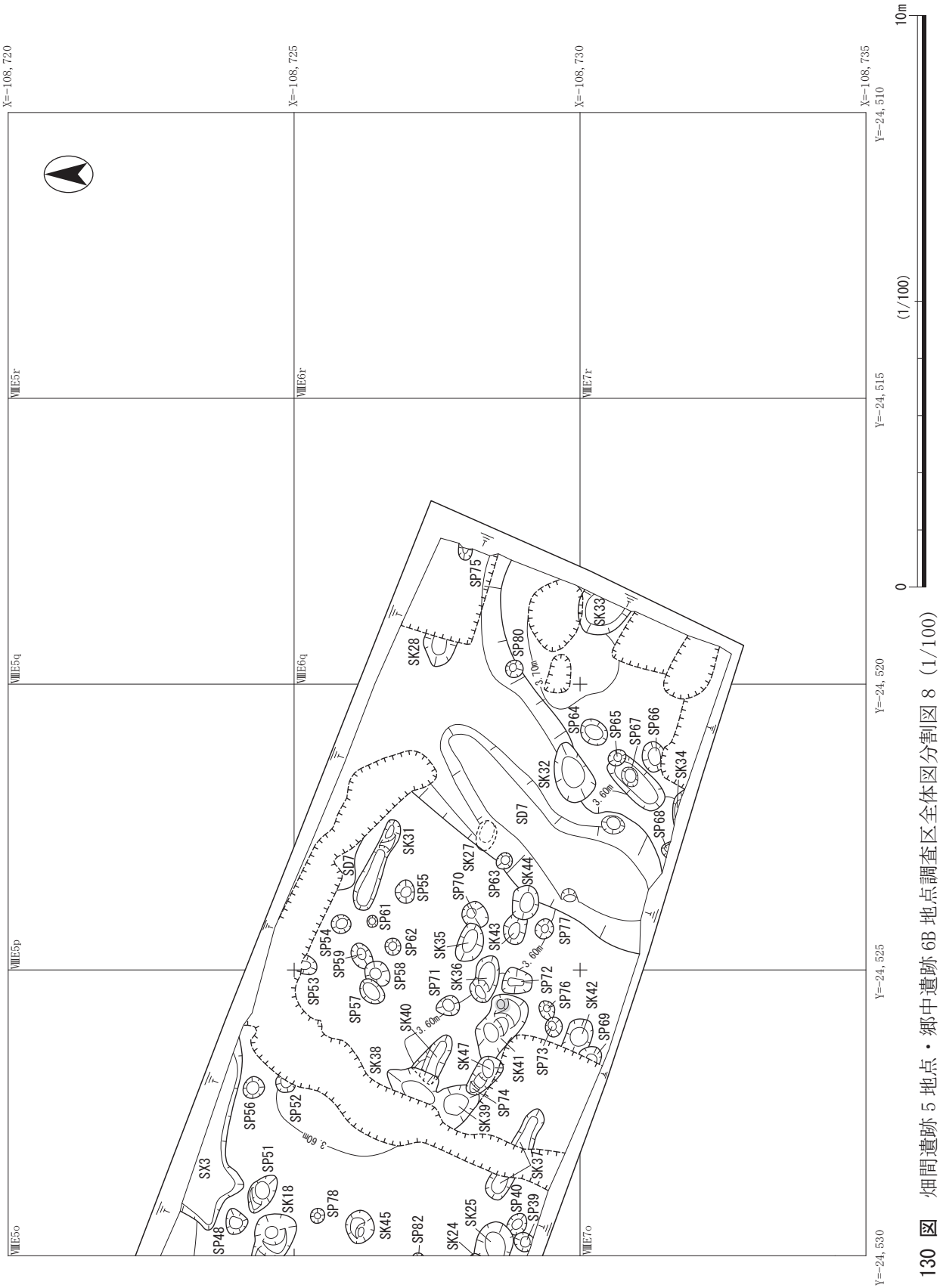
第 127 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図５（1/100）



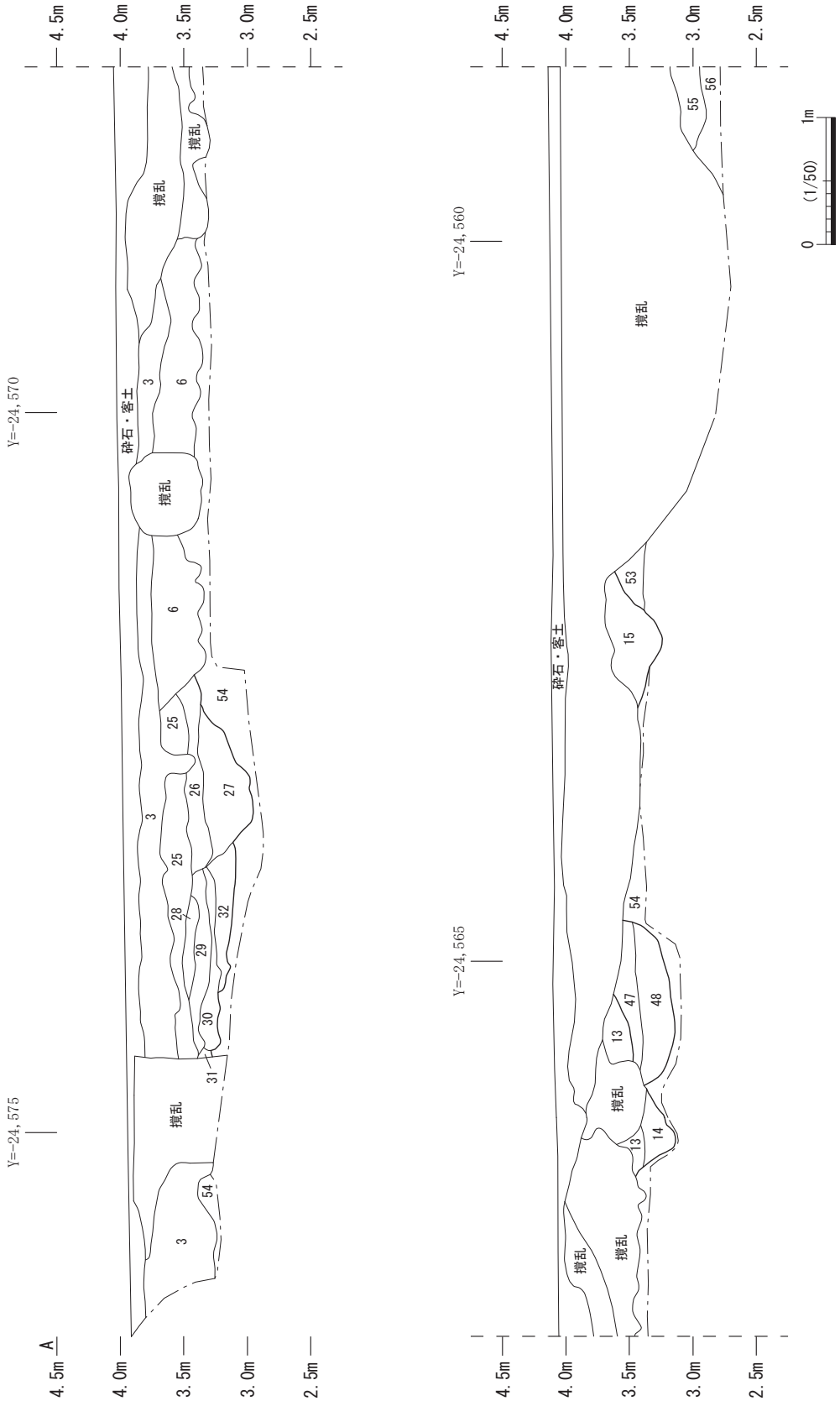
第 128 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図６（1/100）



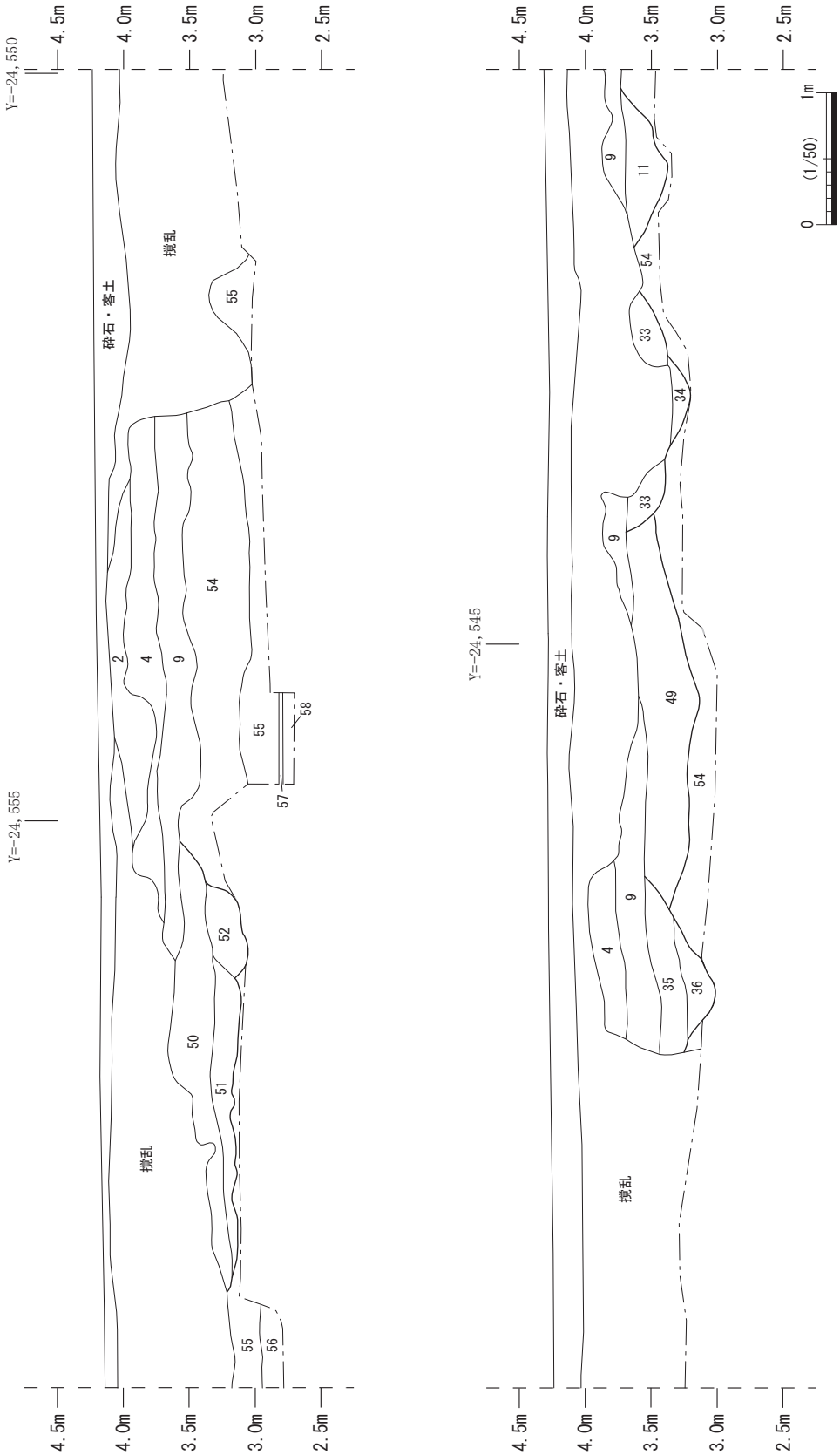
第 129 図　畑間遺跡 5 地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図 7（1/100）



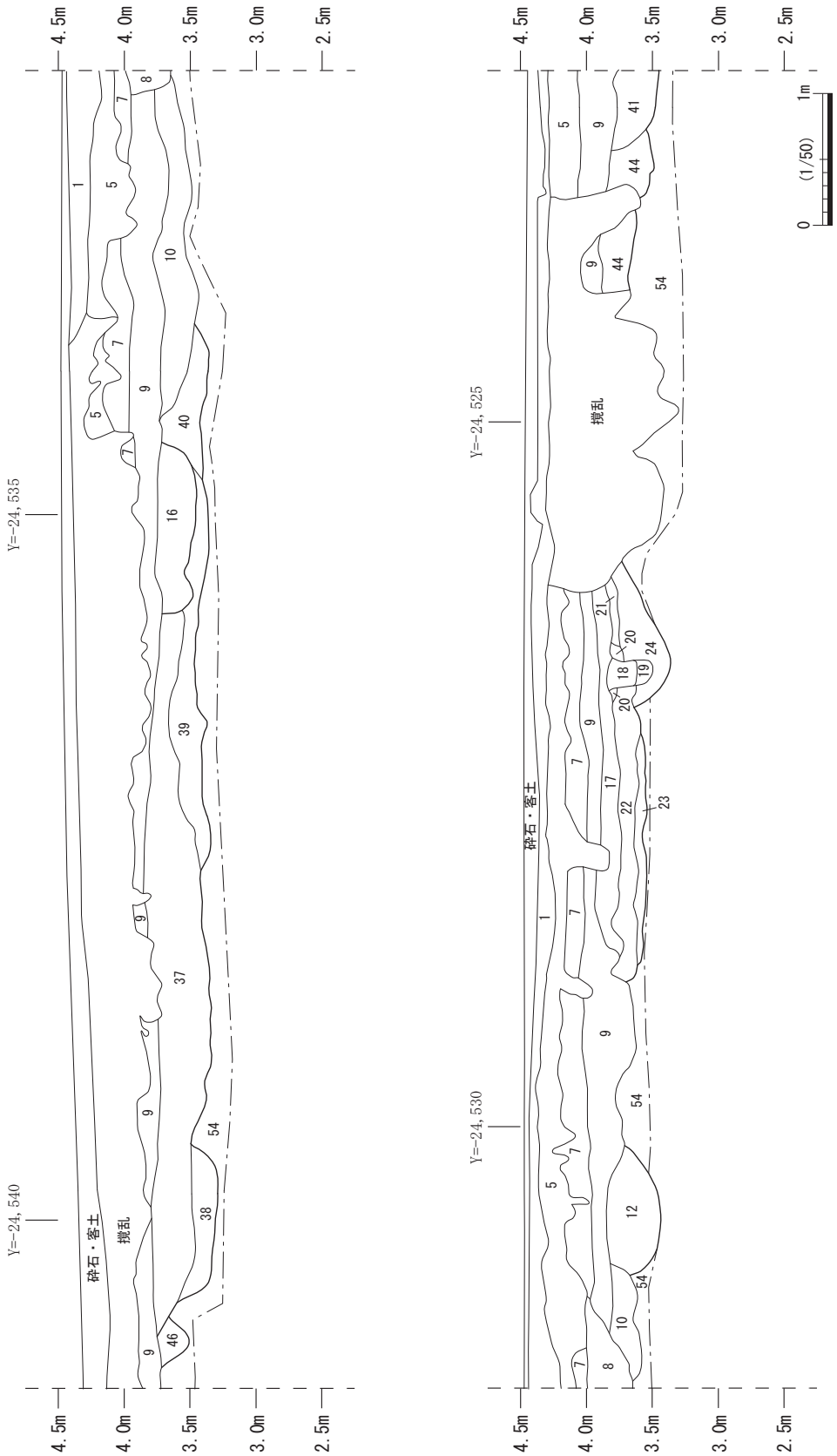
第 130 図　畑間遺跡５地点・郷中遺跡 6B 地点調査区全体図分割図８（1/100）



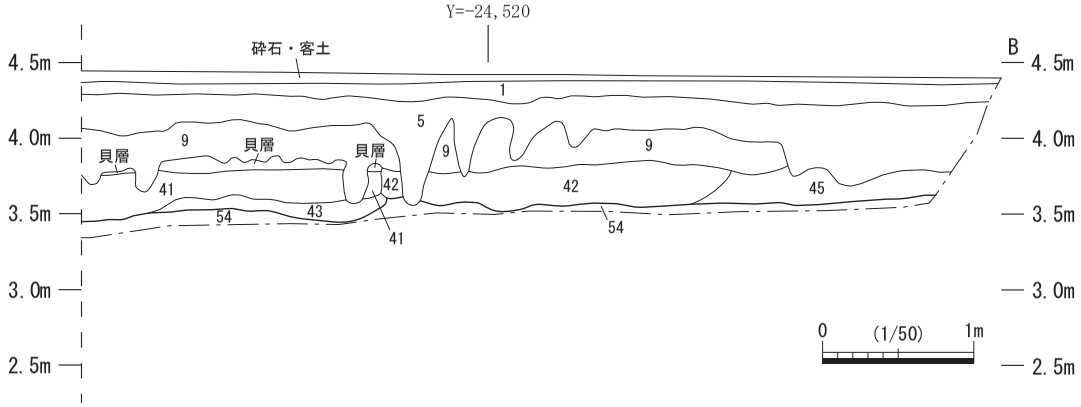
第 131 図　畑間遺跡５地点北壁（A-B）土層断面図１（1/50）



第 132 図　畑間遺跡５地点北壁（A−B）土層断面図２（1/50）

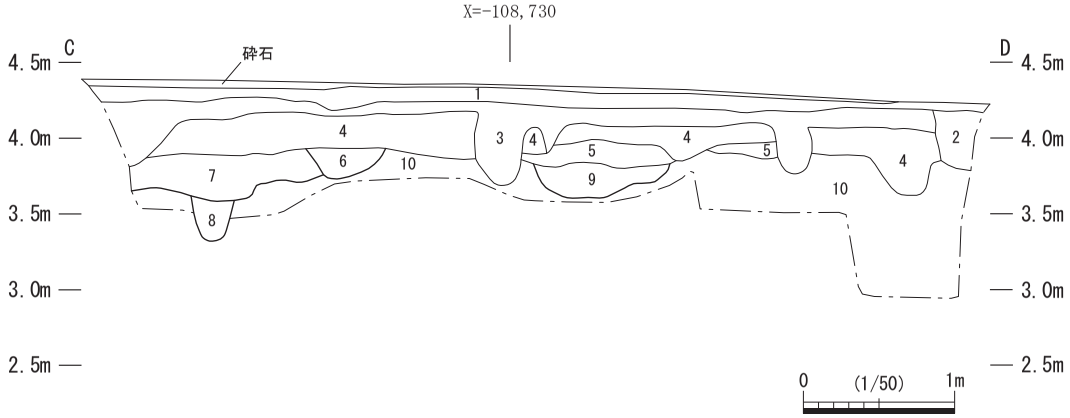


第 133 図　畑間遺跡５地点北壁（A-B）土層断面図３（1/50）



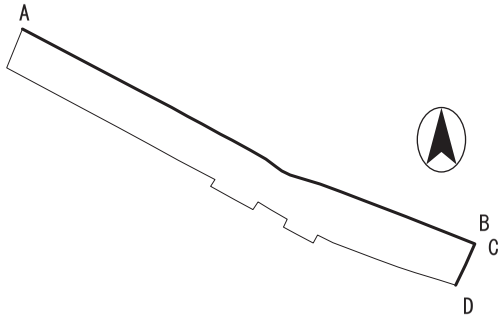
1 表土
2 10YR6/4にぶい黄橙色中粒砂(径5～10mm程の礫を多量に含む)
3 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(2.5Y7/3浅黄色粘質シルトブロック、径10mm程の礫を多量に含む)［主として近世の遺物を含む］
4 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(径5mm程の礫を多量に含む)［主として近世の遺物を含む］
5 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(10YR7/1灰白色粘土ブロック、炭化物を含む)［主として近世の遺物を含む］
6 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR6/4にぶい黄橙色細粒砂を多量に含む。径5mm程の礫を含む)［主として近世の遺物を含む］
7 7.5YR4/2灰褐色中粒砂(径5mm程の礫を多量に含む)［主として近世の遺物を含む］
8 10YR6/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを含む)
9 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
10 10YR6/2灰黄褐色細粒砂と10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂の斑土
11 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SP26埋土］
12 10YR3/1黒褐色中粒砂(下部に地山ブロックを含む)［SK17埋土］
13 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR6/2灰黄褐色中粒砂、炭化物を含む)［SD1埋土］
14 10YR5/1褐灰色中粒砂［SD1埋土］
15 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂［SK11埋土］
16 10YR4/2灰黄褐色粘土(焼土ブロックを多量に含む)［SX4埋土］
17 10YR4/1褐灰色中粒砂(2.5Y7/3浅黄色粘土ブロックを含む)［SX3埋土］
18 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(2.5Y7/3浅黄色粘土ブロックを多量に含む)［SX3埋土］
19 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロックを含む)［SX3埋土］
20 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(2.5Y7/3浅黄色粘土ブロックを少量含む)［SX3埋土］
21 10YR5/1褐灰色中粒砂(2.5Y7/3浅黄色粘土ブロックを含む)［SX3埋土］
22 2.5Y7/3浅黄色粘土(10YR4/1褐灰色中粒砂ブロック、焼土ブロックを少量含む)［SX3埋土］
23 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と10YR7/6明黄褐色細粒砂の斑土［SX3埋土］
24 2.5Y7/3浅黄色粘土と10YR5/2灰黄褐色中粒砂の斑土［SX3埋土］
25 10YR5/1褐灰色中粒砂(炭化物を含む)［SK2埋土］
26 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(10YR8/1灰白色中粒砂を含む)［SK2埋土］
27 10YR7/1灰白色中粒砂(炭化物を多量に含む)［SK2埋土］
28 10YR7/1灰白色中粒砂(2.5Y7/2灰黄色粘土ブロックを多量に含む)［SK2埋土］
29 10YR6/1褐灰色中粒砂［SK2埋土］
30 5Y8/2灰白色粘土［SK2埋土］
31 10YR5/1褐灰色中粒砂(マンガン斑紋を含む)［SK2埋土］
32 2.5Y6/2灰黄色中粒砂(10YR8/1灰白色細粒砂を多量に含む。炭化物を多量に含む。被熱の為硬化)［SK2埋土］
33 10YR4/1褐灰色中粒砂［SD3埋土］
34 10YR5/1褐灰色中粒砂と10YR7/1灰白色中粒砂の斑土［SD3埋土］
35 10YR7/2にぶい黄橙色細粒砂と10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土［SD2埋土］
36 10YR5/1褐灰色細粒砂(10YR6/3にぶい黄橙色細粒砂を含む)［SD2埋土］
37 10YR4/1褐灰色中粒砂［SD4･5埋土］
38 10YR5/1褐灰色細粒砂と10YR6/3にぶい黄橙色細粒砂の斑土［SD4埋土］
39 10YR4/1褐灰色細粒砂と10YR6/2灰黄褐色細粒砂の互層［SD5埋土］
40 10YR6/2灰黄褐色細粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SD5埋土］
41 10YR3/1黒褐色中粒砂［SD7埋土］
42 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(10YR5/1褐灰色中粒砂、地山ブロックを含む)［SD7埋土］
43 10YR4/1褐灰色中粒砂と10YR7/6明黄褐色細粒砂の斑土［SD7埋土］
44 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［SD7埋土］
45 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(10YR5/1褐灰色中粒砂を多量に含む)［SD7埋土］
46 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［遺構埋土］
47 10YR5/2灰黄褐色細粒砂［SK5埋土］
48 10YR6/2灰黄褐色細粒砂と10YR7/1灰白色中粒砂の斑土［SK5埋土］
49 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR6/2灰黄褐色中粒砂を含む)［SB2］
50 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂と10YR6/2灰黄褐色細粒砂の互層［SB1］
51 10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂(10YR6/2灰黄褐色細粒砂を多量に含む)［SB1］
52 10YR6/1褐灰色細粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂の互層〔SB1周壁溝埋土〕
53 10YR5/2灰黄褐色中粒砂と10YR7/2にぶい黄橙色細粒砂の斑土
54 10YR7/6明黄褐色細粒砂［基盤層］
55 10YR6/4にぶい黄橙色中粒砂と10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂の斑土(酸化鉄分を含む)［基盤層］
56 10YR7/1灰白色中粒砂［基盤層］
57 7.5YR5/1褐灰色中粒砂［基盤層］
58 10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂［基盤層］

第 134 図　畑間遺跡5地点北壁(A-B)土層断面図4(1/50)



1 表土(上部に砕石を含む)
2 10YR6/1褐灰色中粒砂
3 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(10YR7/1灰白色粘土ブロック、炭化物を含む)［主として近世の遺物を含む］
4 7.5YR5/2灰褐色中粒砂(径5mm程の礫を多量に含む。地山ブロック、炭化物を含む)［主として中世の遺物を含む］
5 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
6 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂［遺構埋土］
7 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(10YR5/1褐灰色中粒砂を多量に含む)［SD7埋土］
8 10YR6/2灰黄褐色中粒砂と10YR7/6明黄褐色細粒砂の斑土［SP75埋土］
9 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［SK33埋土］
10 10YR7/6明黄褐色細粒砂［基盤層］

第 135 図　畑間遺跡５地点東壁（C-D）土層断面図（1/50）



第 136 図　畑間遺跡５地点土層断面図の位置（1/1,000）
（A ～ D は第 131 ～第 135 図の土層断面図と対応する）

第 2 節　遺　　構（第 137 ～ 147 図，図版第 50 ～ 53）

A　古墳時代・古代

竪穴建物

SB1（第 137 図，図版第 50）

5 地点の西側Ⅷ E2h・2i・3h・3i 区に位置する。竪穴建物の可能性のある遺構である。遺構の北側は調査区外へと続く。SP8 を切り、SK9・12 と撹乱に切られる。SP9 ～ 12・90 は SB1 掘削中に検出され、SB1 に伴うかは不明である。SB1 から調査区南へ続く浅い落ち込みは SB1 に伴う可能性は低く、別遺構となることも考えられる。長軸長約 630cm、短軸長約 440cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 43cm である。SB1 断面図の 2 ～ 4 層は別の遺構、または撹乱の可能性があり、南西側の立ち上がりは明確でない。2・3 層には炭化物が含まれている。東側の壁際に溝状の遺構が確認されており、周壁溝となることが想定される。遺物は主として SB1 断面図の 5 層底部から出土していることと、周壁溝検出面の高さを考慮すると、6 層は掘方埋土である可能性が考えられる。また、6 層にはブロック状に 10YR5/2 灰黄褐色中粒砂が混入し、人為的埋没の可能性が高い。

遺物は東山 50 号窯式の須恵器や鉄鏃（342）が出土している。遺構は古墳時代終末期にあたる 7 世紀前葉から中葉に位置付けられる。

SB2（第 138 図）

5 地点の中央Ⅷ E4k・4l 区に位置する。竪穴建物の可能性のある遺構である。遺構の北側は調査区外へと続く。西端と東端をそれぞれ SD2 と SD3 に切られるが、残存部から方形のプランを呈すると考えられる。長軸長約 325cm、短軸長約 182cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 25cm である。掘方底面から 23 ～ 38cm ほど高い地点から完形の須恵器の無台杯が 2 点（288・289）出土している。土層観察からは掘方底面が遺構床面になるか不明である。

出土した須恵器は高蔵寺 2 号窯式である。また、口縁部に穿孔を有する土師器の壺もみられる。古代にあたる 8 世紀前葉の遺構と考えられる。

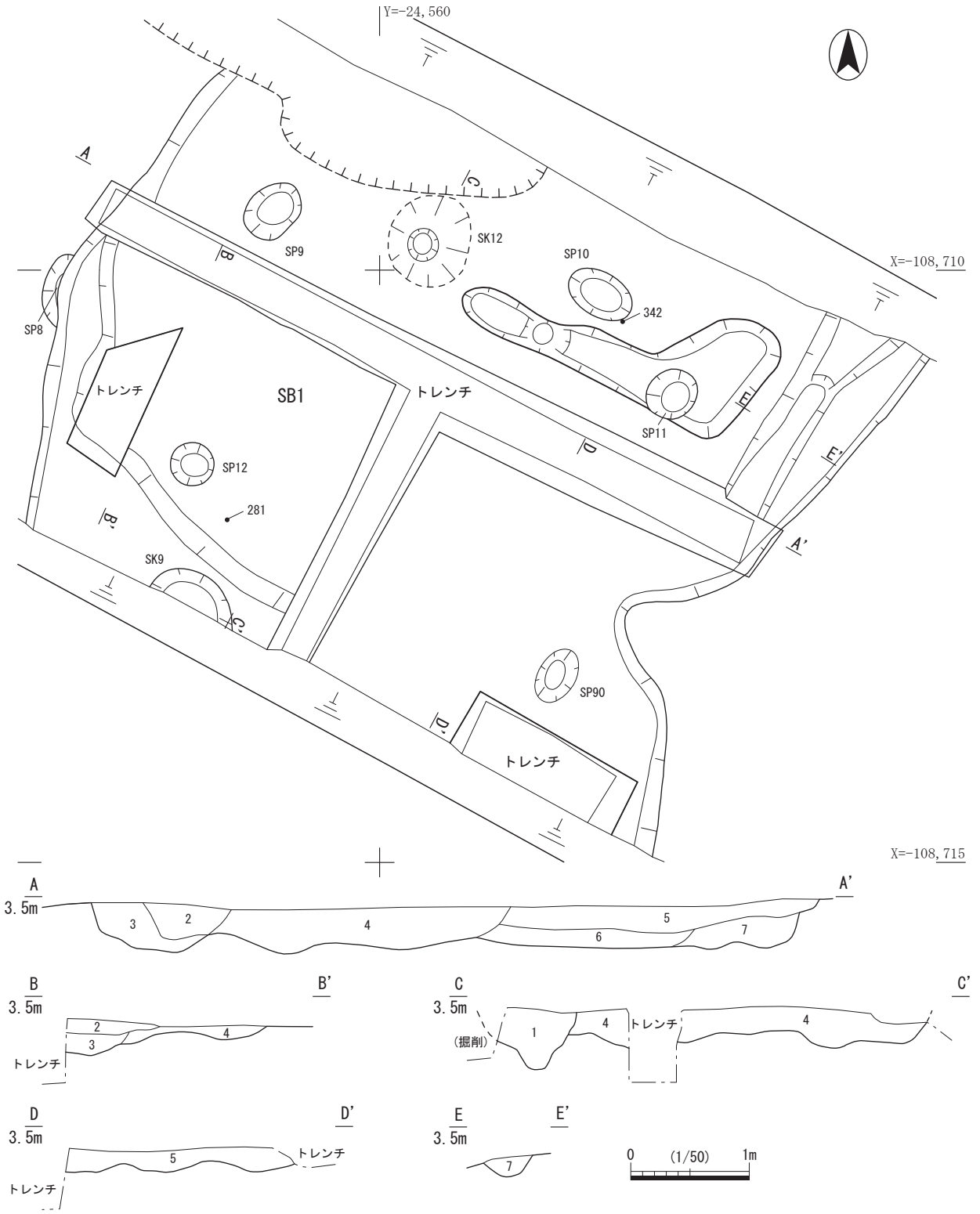
B　中世

土坑

SK2（第 139 図，図版第 50）

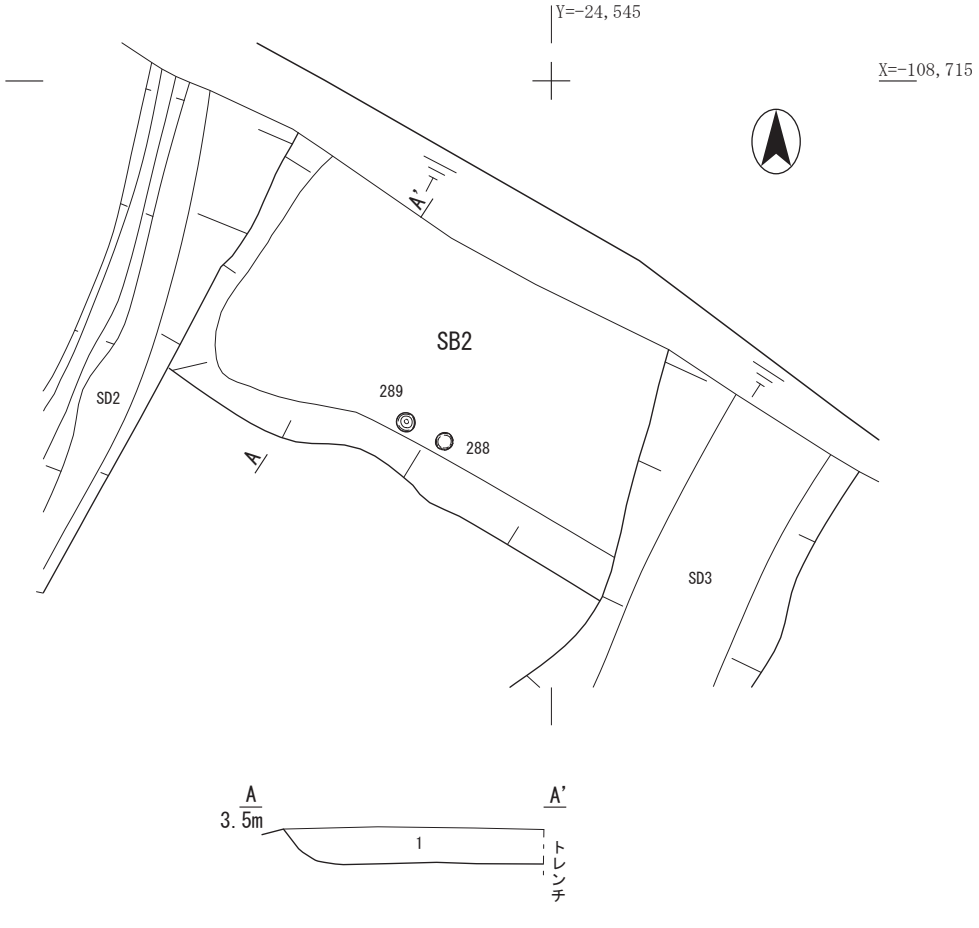
5 地点の西端Ⅷ E1e・1f 区に位置する。不整形の平面プランを呈する土坑である。SK1 や撹乱に切られる。北側は調査区外へ続く。長軸長約 300cm、短軸長約 180cm、遺構検出面からの深さ約 55cm である。断面形は擂鉢状を呈する。埋土の中層と下層で被熱の為硬化し、炭化物を多量に含む層が確認されている。また、SK1 断面図の 1 層は多量の地山ブロックが混入しており、人為的に埋め戻した可能性が考えられる。不整形な平面形と土層観察から複数の遺構が切り合っていることも否定できない。

遺物は尾張型 7・8 型式の山茶碗が出土している。内面に煤が付着するなどの二次的利用の痕跡がみられるものが目立つ。また、廻間式の広口壺（280）が混入している。遺構は中世にあたる 13 世紀中葉から 14 世紀前葉に位置付けられる。



1 10YR6/1褐灰色中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色細粒砂の斑土［SK12埋土］
2 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(炭化物を多量に含む)［SB1］
3 10YR5/4にぶい黄褐色中粒砂(炭化物を少量含む)［SB1］
4 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR6/1褐灰色中粒砂の斑土［SB1］
5 10YR6/2灰黄褐色中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土(炭化物を微量に含む)［SB1］
6 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(10YR5/2灰黄褐色中粒砂ブロックを含む)［SB1］
7 10YR6/1褐灰色中粒砂(10YR6/2灰黄褐色中粒砂を少量含む)［周壁溝埋土］

第 137 図　畑間遺跡 5 地点 SB1 平面図・断面図（1/50）



第 138 図　畑間遺跡 5 地点 SB2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/50）

SK35（第 140 図，図版第 51）

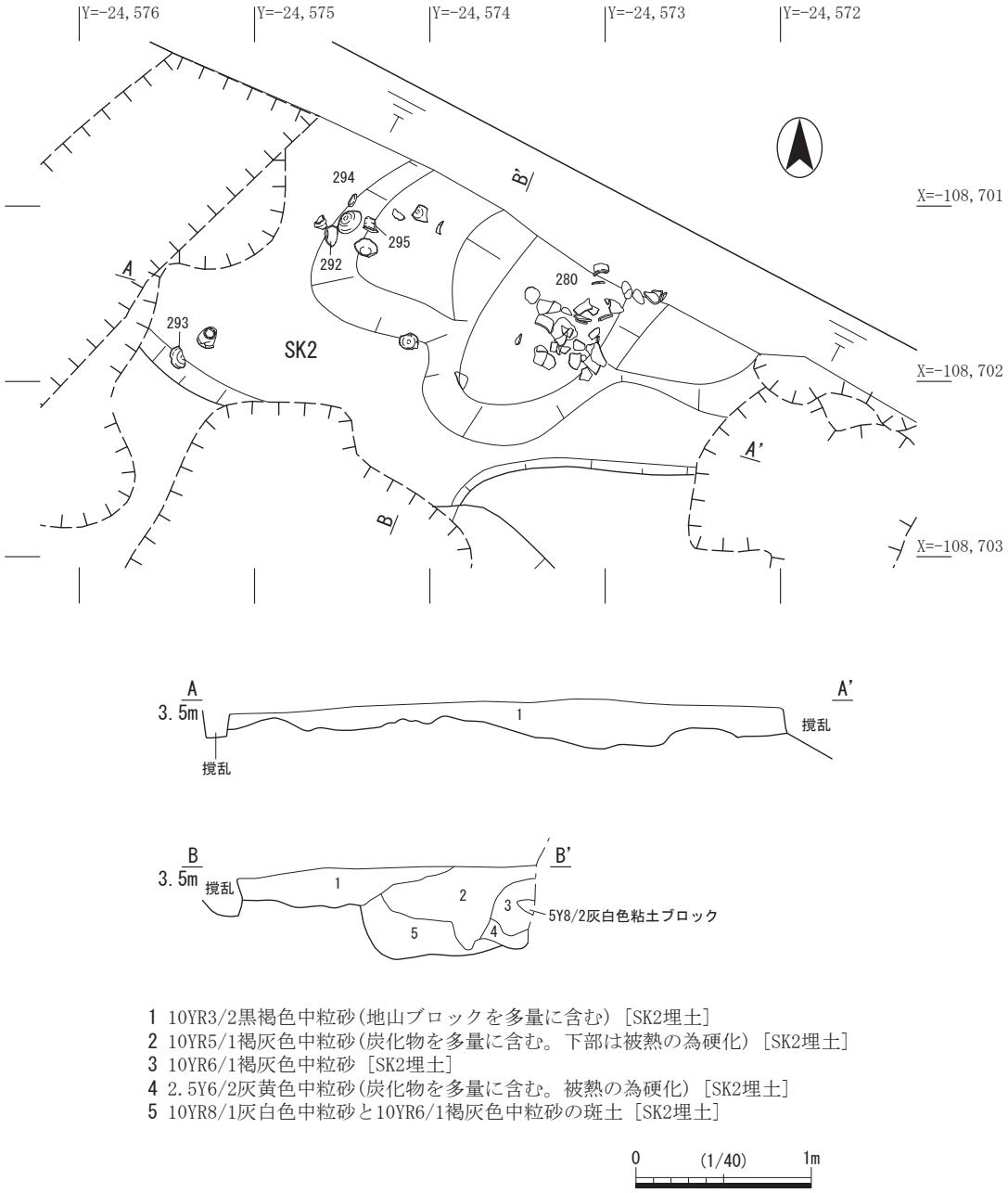
5 地点の東側Ⅷ E6p 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SP70 を切る。長軸長約 70cm、短軸長約 42cm、遺構検出面からの深さ約 25cm である。断面形は U 字状を呈する。上部で完形の山茶碗の小皿（296）が逆位で出土した。尾張型第 6 型式である。

SK36（第 140 図，図版第 51）

5 地点の東側Ⅷ E6o・E6p 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。長軸長約 85cm、短軸長約 45cm、遺構検出面からの深さ約 20cm である。底面で完形に近い山茶碗の小皿が 1 点（297）逆位で出土した。尾張型第 7 型式である。

SK39（第 140 図，図版第 51）

5 地点の東側Ⅷ E6o 区に位置する。楕円形の平面プランを呈すると考えられる土坑である。SP74 と撹乱に切られる。北側に隣接する SK38 との前後関係は不明である。長軸長約 78cm、短軸長約 67cm、遺構検出面からの深さ約 40cm である。断面形は U 字状を呈する。底面で完形や完形に近い山茶碗の小皿（298 ～ 300）が出土した。尾張型第 7 ～ 8 型式である。



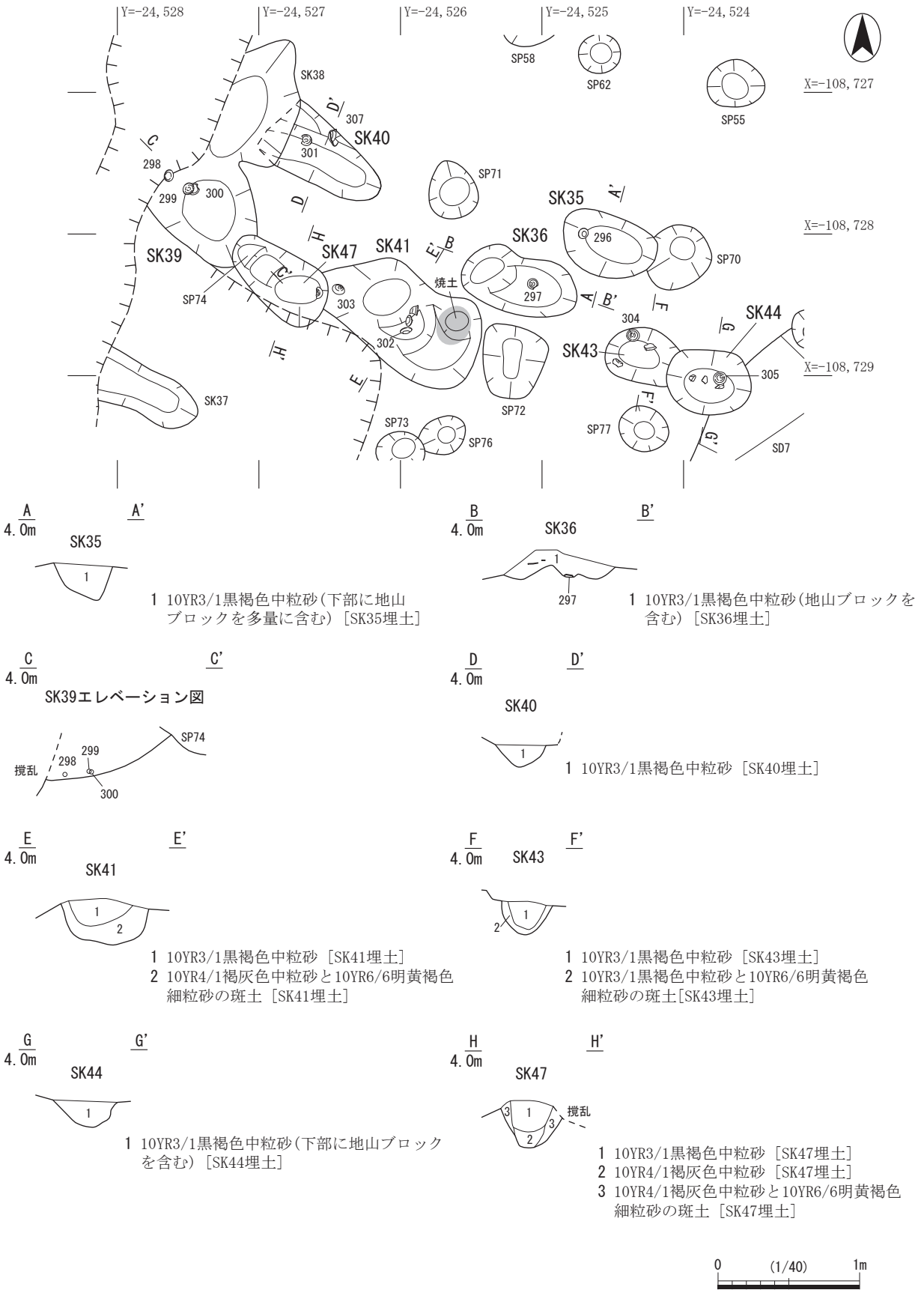
第 139 図　畑間遺跡 5 地点 SK2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

SK40（第 140 図，図版第 51）

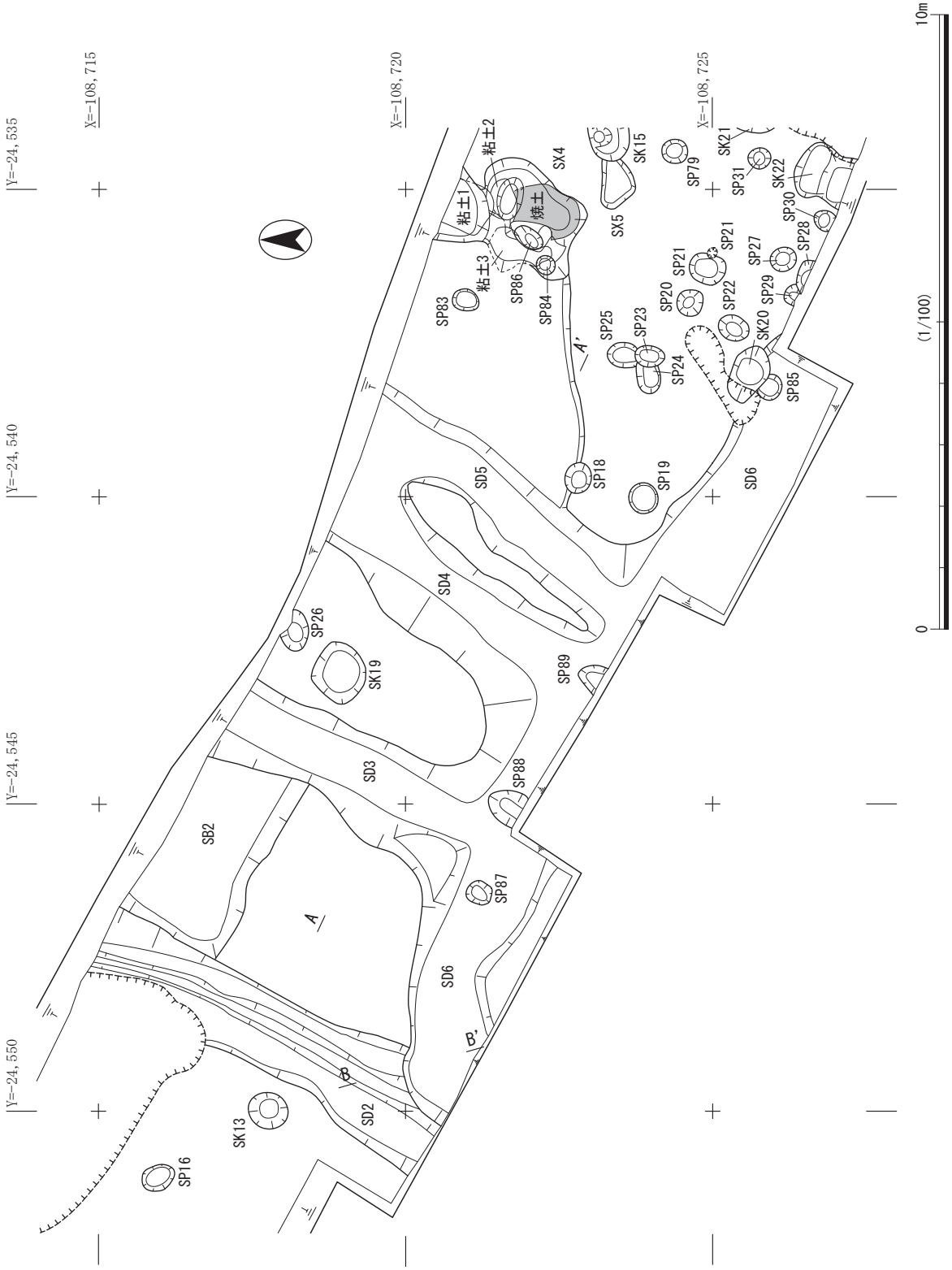
5 地点の東側Ⅷ E6o 区に位置する。楕円形の平面プランを呈すると考えられる土坑である。SK38 に切られる。長軸長約 92cm、短軸長約 50cm、遺構検出面からの深さ約 36cm である。断面形は U 字状を呈する。底面から完形に近い山茶碗の小皿（301）が、上部から山茶碗の碗（307）が出土した。これらは尾張型第 7 ～ 8 型式である。

SK41（第 140 図，図版第 51）

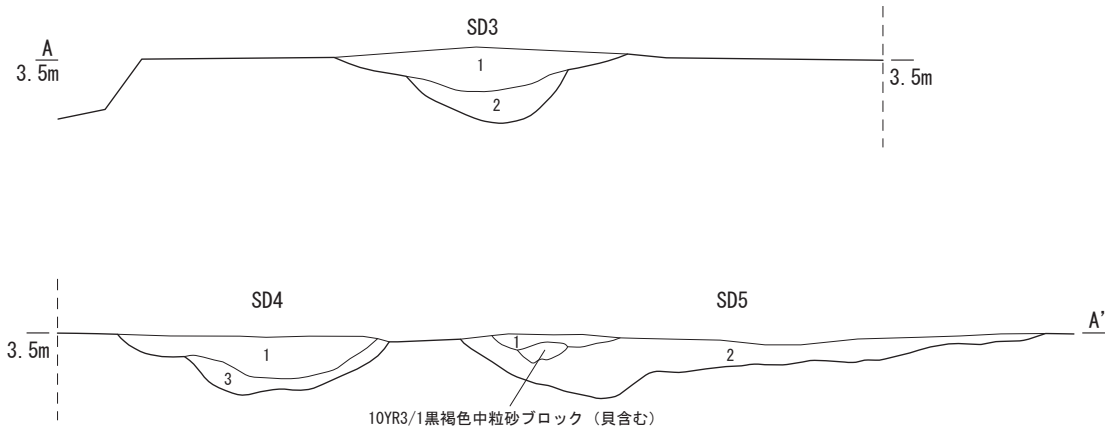
5 地点の東側Ⅷ E6o 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SK47 と撹乱に切られる。長軸長約 125cm、短軸長約 69cm、遺構検出面からの深さ約 46cm である。断面形は U 字状を呈する。複数の遺構が切り合っている可能性がある。また、東隅で焼土を検出した。テラス状の箇所



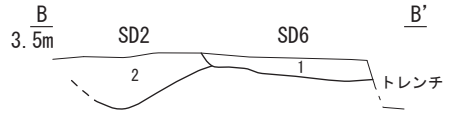
第 140 図　畑間遺跡 5 地点 SK 群 (SK35・36・39・40・41・43・44・47)
平面図・断面図・遺物出土状況図 (1/40)



第 141 図　畑間遺跡５地点 SD2・3・4・5・6 平面図（1/100）



1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SD3・4・5埋土］
2 10YR5/1褐灰色中粒砂と10YR7/1灰白色中粒砂の斑土［SD3・4・5埋土］
3 10YR5/1褐灰色中粒砂と10YR7/1灰白色中粒砂の斑土(地山ブロックを多量に含む)［SD4埋土］



1 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR7/1灰白色中粒砂を多量に含む)［SD6埋土］
2 10YR7/1灰白色細粒砂［SD2埋土］

第 142 図　畑間遺跡 5 地点 SD2・3・4・5・6 断面図（1/40）

の底面から完形の山茶碗の小皿（302）が、西側上層から完形の山茶碗の小皿（303）が出土している。これらは尾張型第 7 ～ 8 型式である。

SK43（第 140 図，図版第 51）

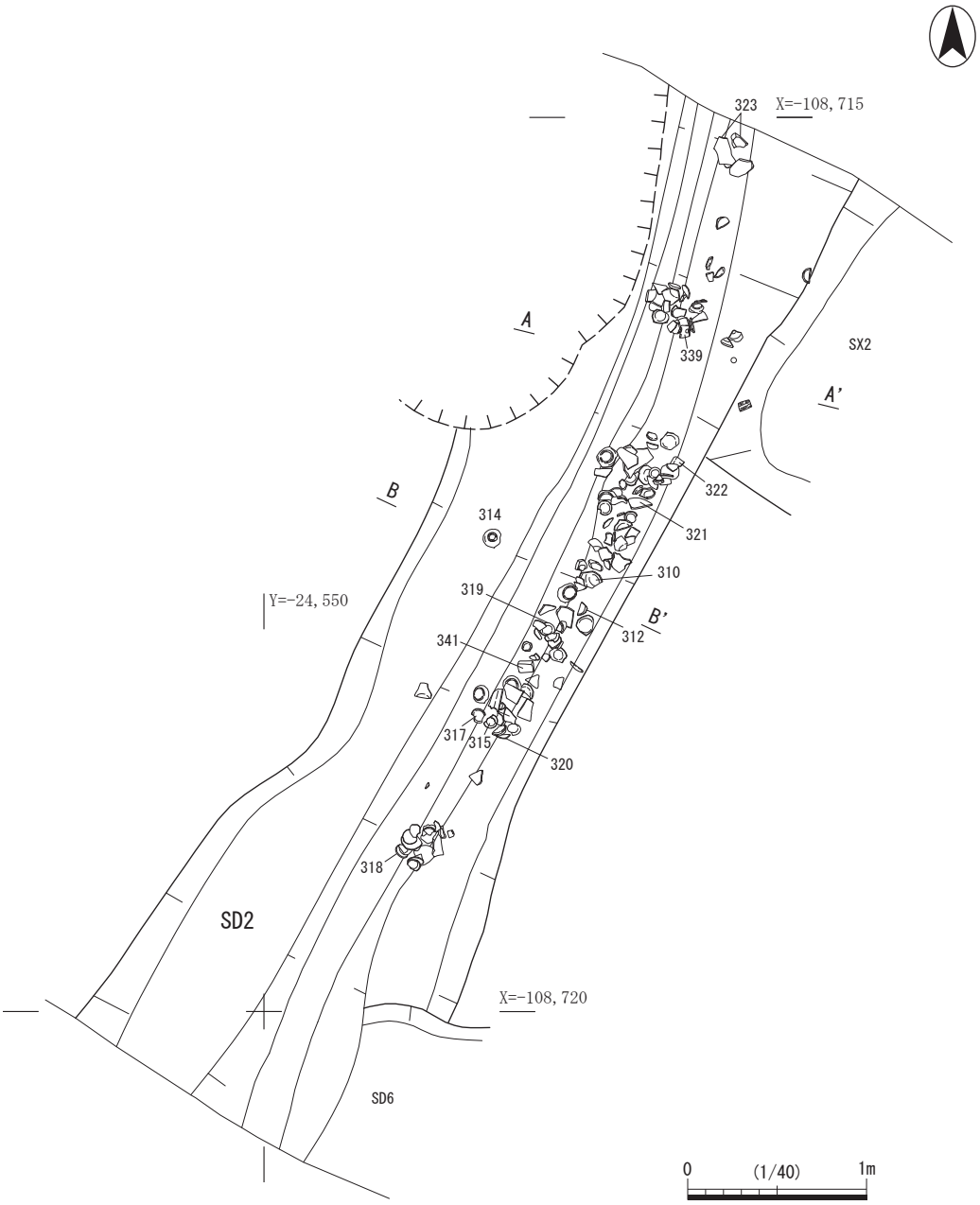
5 地点の東側Ⅷ E6p 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SK44 に切られる。長軸長約 46cm、短軸長約 38cm、遺構検出面からの深さ約 32cm である。断面形は U 字状を呈する。上部で完形の山茶碗（304）の小皿が逆位で出土した。尾張型第 7 型式である。

SK44（第 140 図，図版第 51）

5 地点の東側Ⅷ E6p 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SK43 と SD7 を切る。長軸長約 60cm、短軸長約 45cm、遺構検出面からの深さ約 23cm である。断面形は U 字状を呈する。上部で完形の山茶碗の小皿（305）が逆位で出土した。尾張型第 7 型式である。

SK47（第 140 図，図版第 51）

5 地点の東側Ⅷ E6o 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SK41 を切り、撹乱

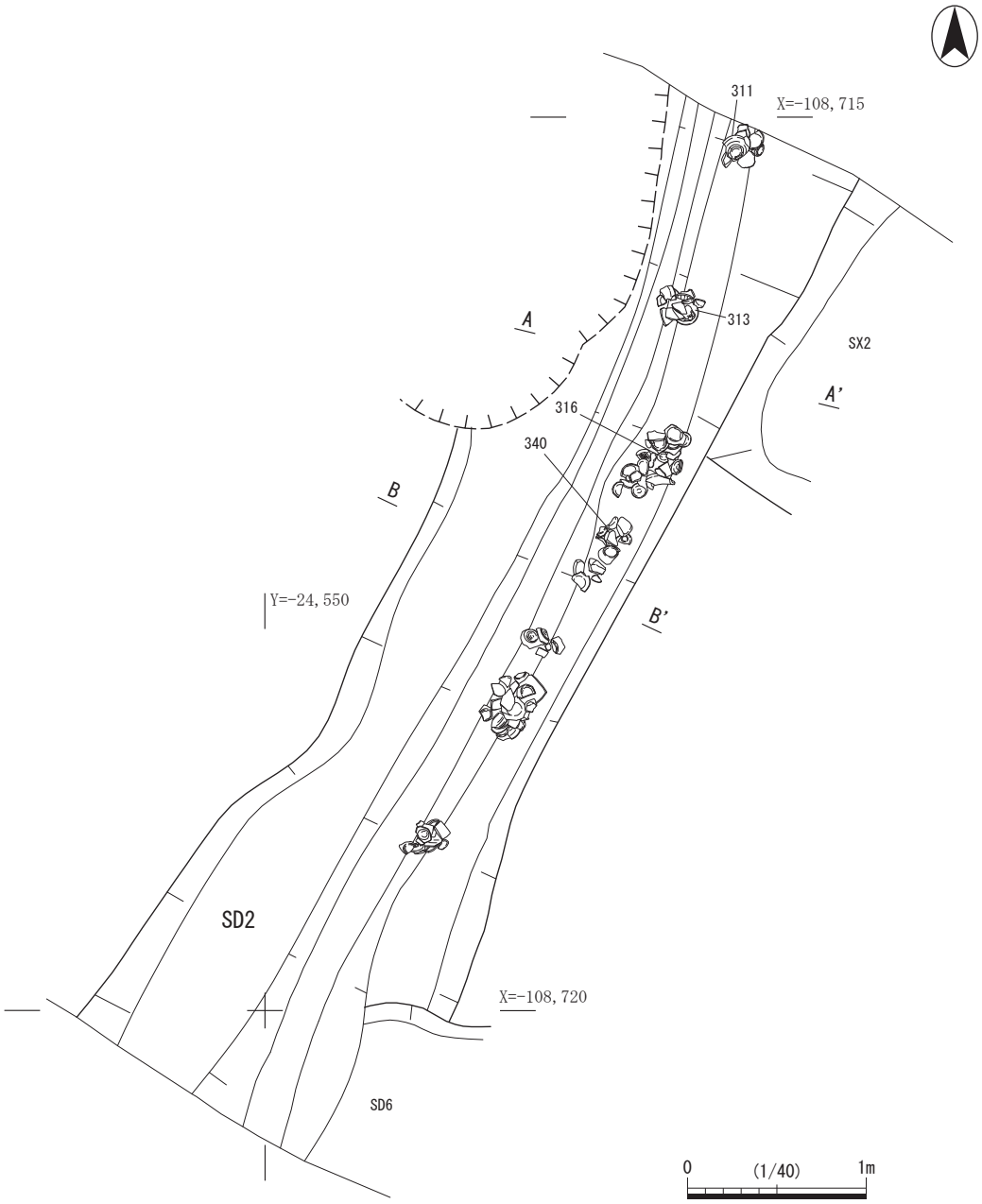


第 1 面

第 143 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 遺物出土状況図①（1/40）

に切られる。西側に隣接する SP74 との前後関係は不明である。長軸長約 62cm、短軸長約 45cm、遺構検出面からの深さ約 35cm である。断面形はＵ字状を呈する。上部で山茶碗の小皿が出土している。尾張型第 8 型式である。

5 地点の東側Ⅷ E6o・6p 区で SK35・36・39・40・41・43・44・47 といった土坑で完形の山茶碗が多く出土している。ここでは SK 群と総称する。尾張型第 6 ～ 8 型式の山茶碗が出土している。中でも完形の小皿が多い。上部から出土したものもあれば、底面から出土したものもある。土坑として扱っているが、柱穴を構成した可能性がある。その場合、山茶碗は地鎮に利用されたものであろう。



第 2 面

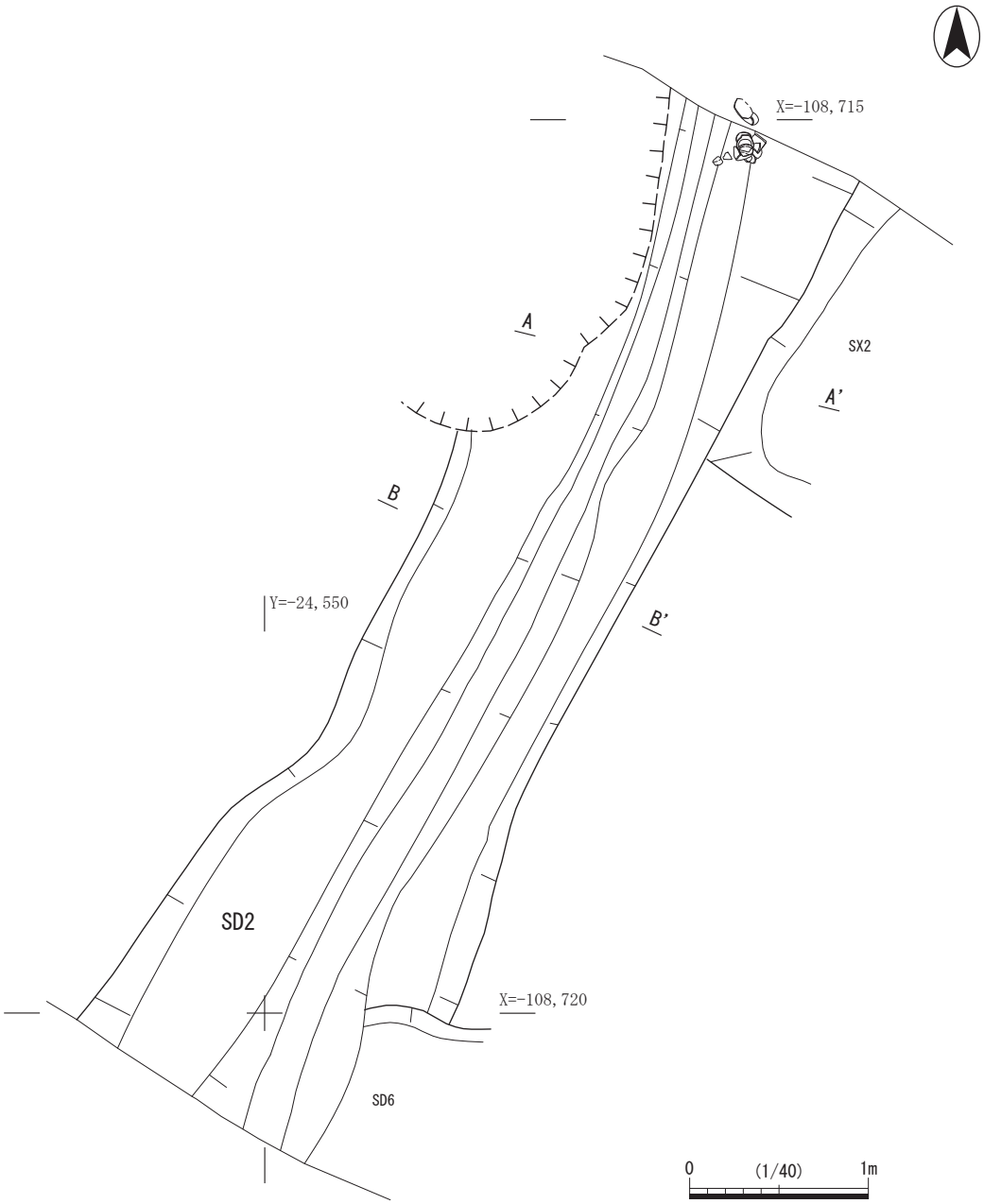
第 144 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 遺物出土状況図②（1/40）

中世にあたる 13 世紀前葉から 14 世紀前葉にかけての遺構であろう。

溝

SD2（第 141 ～ 146 図，図版第 51･52）

5 地点の中央Ⅷ E3k・E4j・E4k・E5j・E5k 区に位置する。ほぼ南南西 - 北北東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。北側調査区境でやや北に方向を変える。遺構の北側と南側は調査区外に続く。古代の竪穴建物の可能性のある SB2 を切り、SD6 と撹乱に切られる。長さ約 628cm、幅約 172cm、遺構検出面からの深さ約 42cm である。底面に高低差はない。断面形は U 字形を呈すると考



第 3 面

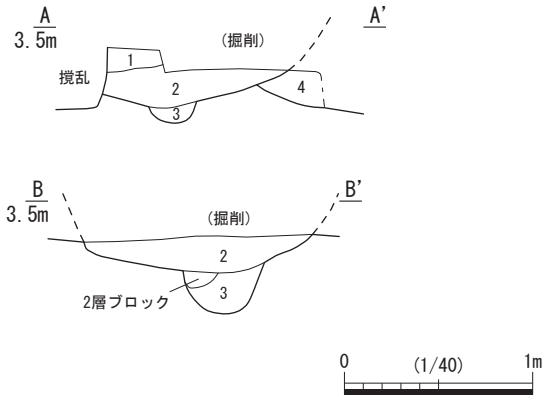
第 145 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 遺物出土状況図③（1/40）

えられる。底面中央が窪む。

上層で山茶碗を中心とした中世の遺物が列状に出土した。遺物出土状況図では第 1 面から第 3 面まで遺物を分けて示したが、遺物の大半は SD2 断面図の 1 層からの出土である。一括性が高く、第 1 面から第 3 面までの遺物の時期差はない。山茶碗の碗、小皿、片口鉢、中世土師器の皿、常滑の短頸壷、甕、丸瓦、平瓦などが出土している。山茶碗は尾張型 5 ～ 6 型式、常滑は知多窯 4 ～ 5 型式に位置付けられる。遺構は中世にあたる 12 世紀後葉から 13 世紀前半のものである。

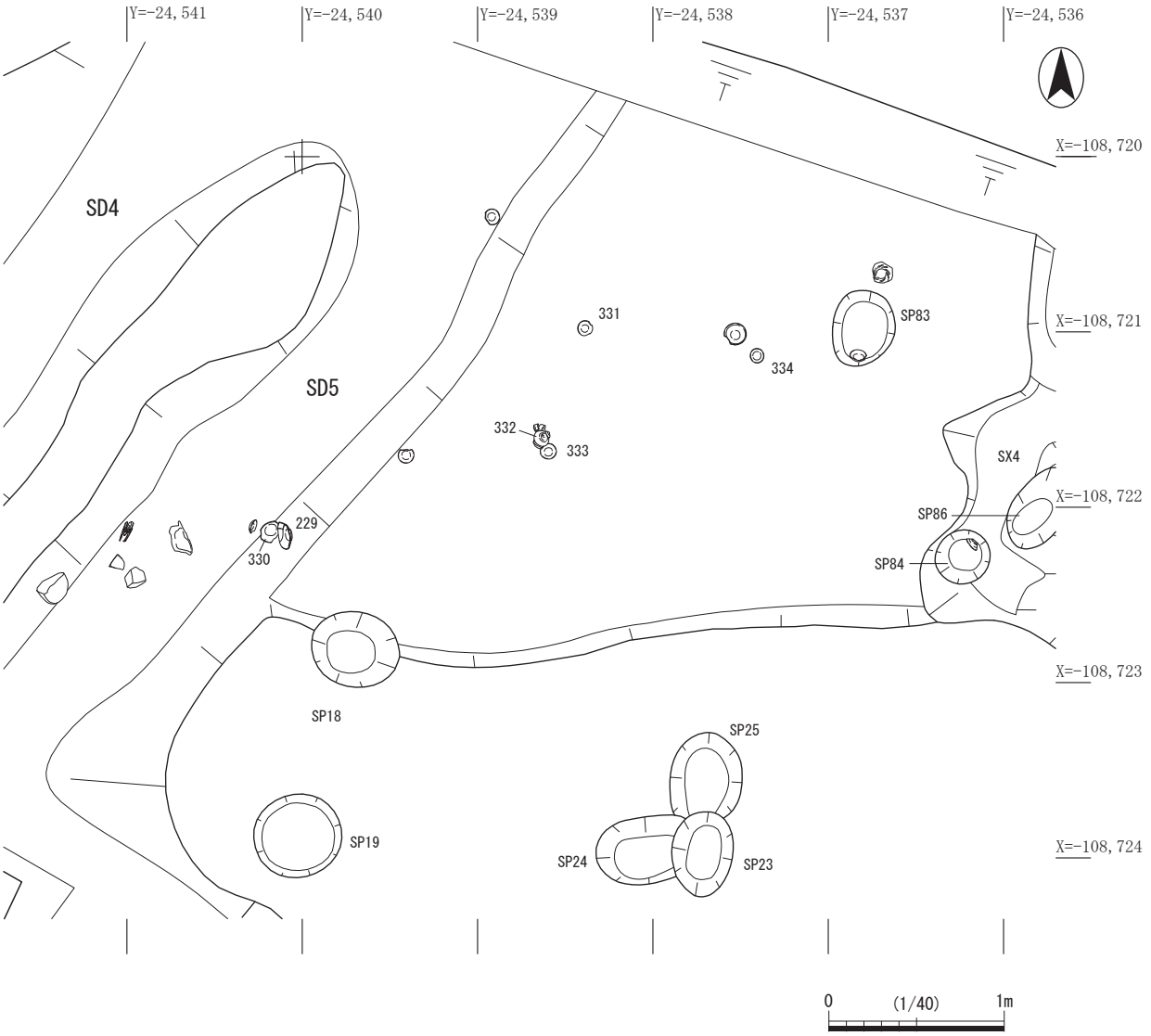
SD3（第 141･142 図，図版第 52･53）

5 地点の中央東側Ⅷ E4k・41・5k・51 区に位置する。南南西 - 北北東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の北側は調査区外に続き、南側には SD6 がある。古代の竪穴建物の可能性のある SB2 を切る。長さ約 418cm、幅約 162cm、遺構検出面からの深さ約 35cm である。遺構北側よりも南側の幅が広い。底面に高低差はない。断面形は U 字形を呈する。SD6 との切り合い関係は埋土からは不明であるが、出土遺物から考えると併存した



1 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［SD2埋土］
2 10YR6/2灰黄褐色中粒砂と10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂の斑土［SD2埋土］
3 10YR6/1褐灰色中粒砂［SD2埋土］
4 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR6/2灰黄褐色中粒砂を含む)［SX2埋土］

第 146 図　畑間遺跡 5 地点 SD2 断面図（1/40）



第 147 図　畑間遺跡 5 地点 SD5 遺物出土状況図（1/40）

可能性が高い。主軸方向が同じである SD4・5 と共に一連の溝状遺構であると思われる。尾張型第 6 型式の山茶碗の碗、小皿が出土している。

SD4（第 141･142 図，図版第 52･53）

5 地点の中央東側Ⅷ E41・4m・51 区に位置する。南西 - 北東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の北側は SD5 と合流し、調査区外に続く。南側には SD6 がある。長さ約 430cm、幅約 158cm、遺構検出面からの深さ約 31cm である。底面に高低差はない。断面形は U 字形を呈する。出土遺物や遺構の主軸方向から、SD3・5・6 と一連の溝状遺構であると考えられる。尾張型第 4・6 型式の山茶碗の小碗、小皿が出土している。

SD5（第 141･142･147 図，図版第 52･53）

5 地点の中央東側Ⅷ E4m・E51・E5m 区に位置する。南西 - 北東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の北側は SD4 と合流し、調査区外に続く。南側には SD6 がある。長さ約 500cm、幅約 122cm、遺構検出面からの深さ約 35cm である。底面に高低差はない。断面形は U 字形を呈する。東側はテラス状に浅くなり、ここから山茶碗の小皿等が多く出土した。このテラス状の窪みは土層観察から SD5 に付随するものと考えられるが、人為的なものではなく、SD5 が機能する過程で形成されたものであろう。テラス部は SP83 を切り、SP18 と SX4 に切られる。出土遺物や遺構の主軸方向から、SD5 は SD3・4・6 と一連の溝状遺構であると考えられる。尾張型第 5 型式の山茶碗の碗や小皿、伊勢型鍋が出土している。

SD6（第 141･142 図，図版第 52･53）

5 地点の中央東側Ⅷ E4k・Ⅷ E5j・Ⅷ E5k・Ⅷ E51・Ⅷ E5m・Ⅷ E61・Ⅷ E6m 区に位置する。西北西 - 東南東の方向に延びる溝状の遺構である。西側で南南西方向に L 字状に屈曲すると考えられるが、調査区外へと続くため詳細は不明である。遺構の東側も調査区外へと続く。SD2 と SP85・87 ～ 89 を切り、SK20 と撹乱に切られる。SD3 ～ 5 とはほぼ直角に交わる。長さ約 14.0m、幅約 2.0m、遺構検出面からの深さ約 40cm である。底面は東側に比べ西側が 30 cm程度低い。断面形は U 字形を呈する。出土遺物や遺構の主軸方向から、SD3 ～ 5 と一連の溝状遺構であると考えられる。尾張型第 6 型式の山茶碗の碗や小皿、北宋銭の元豊通宝が出土している。

SD3 ～ 6 は出土遺物から 12 世紀から 13 世紀前葉にかけてのある時期に並存していた可能性がある。また埋土に古代の須恵器や灰釉陶器が混入していることから、この付近に SB2 と同時期の遺構が存在したことが考えられる。

第 3 節　出土遺物（図版第 20 ～ 22・図版第 70･93 ～ 99，第 2･5･7 表）

A　弥生土器・土師器

279 は遠賀川系の削出突帯を有する甕である。突帯部は下側が削り出された形状で、3 条の沈線が巡る。西志賀式である。Ⅷ E6n 包含層から出土した。280 は SK2 出土の廻間式の広口壺である。平底でやや長胴である。外面肩部付近には文様帯がみられ、直線文、波状文、円形文がクシ状工具で施されている。

B　須恵器、古墳時代・古代の土器

SB1 出土土器

須恵器の杯蓋（281・282）、杯身（283）、杯（284）、高杯（285）、土師器の甕（286）がある。

281 と 282 は須恵器の杯蓋で、外面の稜は形骸化している。283 は須恵器の杯身で、立ち上がりはやや内傾して内上方に伸び、受部は短く上外方に立ち上がる。284 は須恵器の杯で、口縁部は上外方に伸び、端部は丸い。285 は須恵器の高杯の脚で、やや外反気味に開く。281 ～ 284 は東山 50 号窯式に位置付けられる。286 は三河系のナデ甕で、7 世紀後半から 8 世紀初頭のものである。

SB2 出土土器

須恵器の無台杯（288・289）と土師器の壺（290）がある。

288・289 は須恵器の無台杯でそれぞれに回転糸切り痕とヘラオコシ痕がみられる。いずれも高蔵寺 2 号窯式である。290 は土師器の壺の口縁部片と思われる。穿孔が 1 ヶ所確認できる。口縁端部はやや波状になっている。

SK3 出土土器

291 は指ナデ、指オサエ主体で成形された土師器の甕である。粘土継ぎ痕が外面に目立つ。調整によって消されていない。製作技法などに製塩土器との共通点が多くみられる。

遺物包含層出土土器

287 は須恵器の杯身で、立ち上がりは外反気味に内傾し、受部は短く上外方に立ち上がる。岩崎 17 号窯式に位置付けられる。

C　中世の土器・陶磁器

SK2 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（292・293）、小皿（294）、片口鉢（295）がある。

292 と 293 は山茶碗の碗で、いずれも尾張型第 8 型式である。292 は底部内外面にシミ状の痕跡がみられる。293 はやや幅広の鉢形を呈する。内面の見込み部分が未調整で、粘土紐を積み上げてロクロ成形をしているように思われる。形状や製作技法などに知多・渥美窯系の影響が多くみられる。内面全体に煤または墨の沈着がみられる。294 は尾張型第 8 型式の山茶碗の小皿である。295 は尾張型第 7 型式の山茶碗の片口鉢である。

SK35・36・39・40・41・43・44・47 出土土器・陶磁器

SK35 から山茶碗の小皿（296）、SK36 から山茶碗の小皿（297）、SK39 から山茶碗の小皿（298 ～ 300）、SK40 から山茶碗の小皿（301）と碗（307）、SK41 から山茶碗の小皿（302・303）、SK43 から山茶碗の小皿（304）、SK44 から山茶碗の小皿（305）、SK47 から山茶碗の小皿（306）が出土している。296 は尾張型第 6 型式、297・298・302・304・305・307 は尾張型第 7 型式、299 ～ 301・303・306 は尾張型第 8 型式に位置付けられる。

SD1 出土土器・陶磁器

308 は尾張型内耳鍋 B 類である。16 世紀代のものである。

SD2 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（309 ～ 314）、小皿（315 ～ 319）、片口鉢（321）、中世土師器の皿（320）、常滑の短頸壺（322）、常滑の甕（323）がある。山茶碗については 309 ～ 312・315・316 が尾張型第 5 型式、

313・314・317 ～ 319・321 が尾張型第 6 型式に位置付けられる。常滑焼については 323 が知多窯 4 型式、322 が知多窯 5 型式に位置付けられる。これらの遺物は、実年代で 12 世紀後葉から 13 世紀前半のものである。

SD3 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（324・325）、小皿（326）がある。いずれも尾張型第 6 型式に位置付けられる。

SD4 出土土器・陶磁器

山茶碗の小碗（327）、小皿（328）がある。327 は尾張型第 4 型式、328 は尾張型第 6 型式である。

SD5 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（329・330）、小皿（331 ～ 334）、土師器の伊勢型鍋（335）がある。

329 ～ 334 は尾張型第 5 型式である。335 は北村編年（北村 1996）の A2 類に位置付けられる。これらの遺物は、355 を除き実年代で 12 世紀後葉から 13 世紀初頭のものである。

SD6 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（336）、小皿（337）がある。いずれも尾張型第 6 型式に位置付けられる。

遺物包含層出土土器・陶磁器

338 は山茶碗の小碗で、尾張型第 4 型式である。

D　瓦

SD2 から丸瓦（339･340）と平瓦（341）が出土している。339 は行基葺きの丸瓦の挟端部片である。釘穴がみられる。凹面にはコビキによる筋と布目痕がみられる。340 は丸瓦の胴部片で、凹面には布目痕が残る。いずれも凸面は丁寧な指ナデ調整により縄タタキ痕が消され、硬質緻密に焼きあがっている。341 は平瓦で、凸面には縄タタキ痕が残るが、凹面には布目痕は残らない。339 や 340 に比べ、胎土に砂粒が多く混じる。SD2 からは 12 世紀後葉から 13 世紀前半の遺物が出土しており、おそらく瓦もこの時期のものであろう。

E　金属製品

342 は鉄鏃である。有茎鏃で、平面形は三角形を呈する。断面形態の詳細は不明である。SB1 から出土した。

F　銭貨

343 は元豊通宝である。北宋銭で初鋳は北宋 6 代・神宗の元豊元年（1078 年）である。SD6 から出土した。

第 7 章　郷中遺跡 6 地点の調査

第 1 節　概要と基本層序（第 122 ～ 125・148 ～ 167 図，図版第 53 ～ 57）

郷中遺跡 6 地点は、海岸から内陸に向かって数えて最も東側の第 1 砂堆上に位置する。佐渡島のような平面形状をした第 1 砂堆の括れた部分にある。第 1 砂堆のほぼ中央にあたる。東側には今回報告する畑間遺跡 5 地点が隣接する。また、西側には平成 17 年度の調査地点がある。基本層序は以下のとおりである（第 157 ～ 167 図）。

Ⅰ層：表土層。近現代の盛土または作土・床土である。

Ⅱ層：遺物包含層。10YR5/2 灰黄褐色中粒砂層や 10YR4/3 にぶい黄褐色中粒砂層以下の砂層がこれにあたる。主として弥生時代から近世の遺物の出土がみられる。

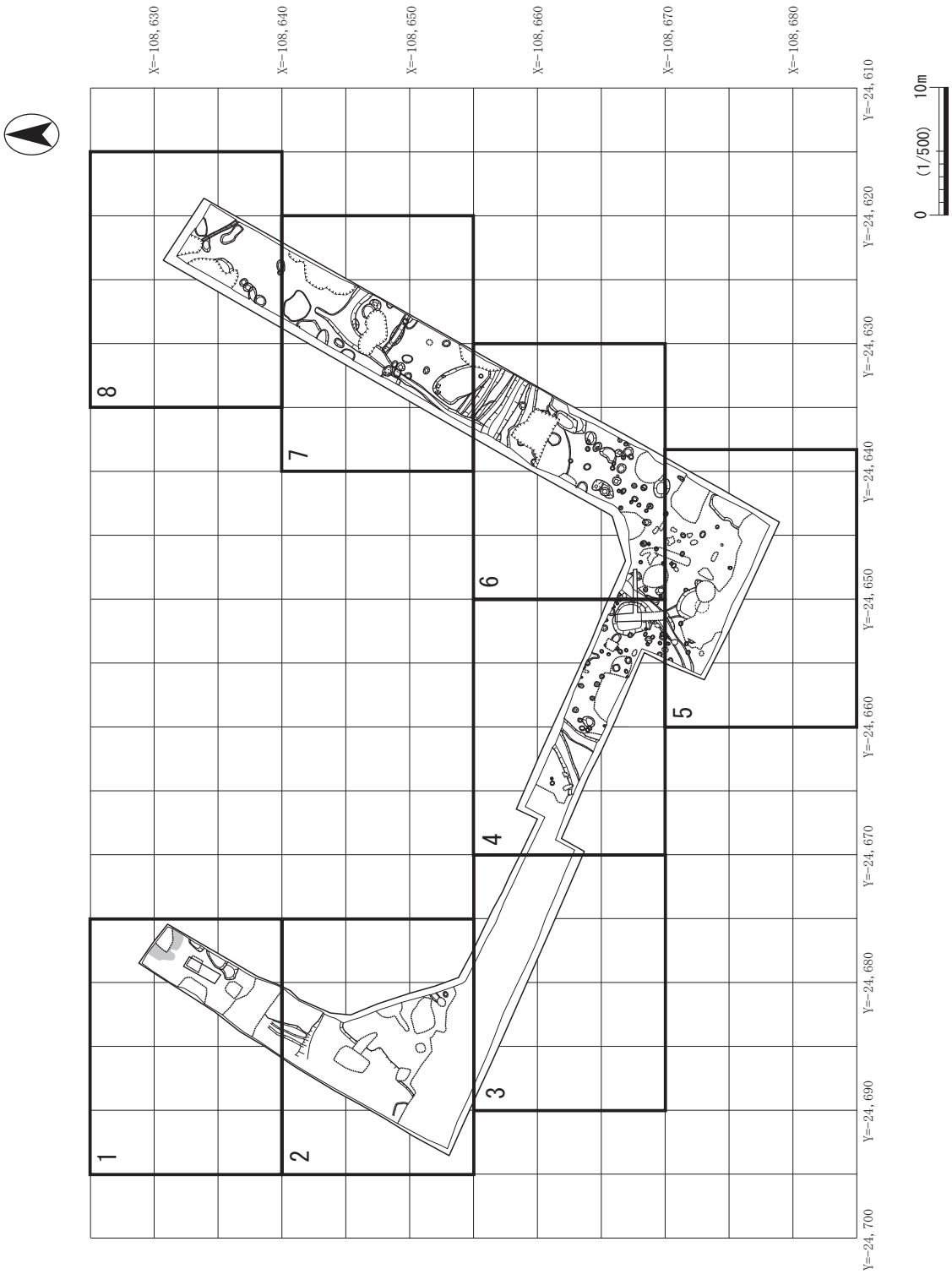
Ⅲ層：基盤層。6A 地点では西壁の 10YR5/1 褐灰色中粒砂層（上部にマンガン斑紋を含む）以下、北壁の 10YR5/6 黄褐色中粒砂層、東壁の 2.5Y5/1 黄灰色細粒砂層以下がこれにあたる。6B 地点では 10YR7/4 にぶい黄橙色細粒砂層以下が該当する。地山層である。

これまでの郷中遺跡の調査では、中世から近世を中心とした遺構や遺物が出土してきた。今回の調査でも、これまでの調査と同様に、主として中世から近世にかけての遺構や遺物が確認された。調査区は 6A 地点と 6B 地点に分かれ、6B 地点の東側には畑間遺跡 5 地点が隣接する。以下に、6A 地点と 6B 地点で分けて概要を述べる。

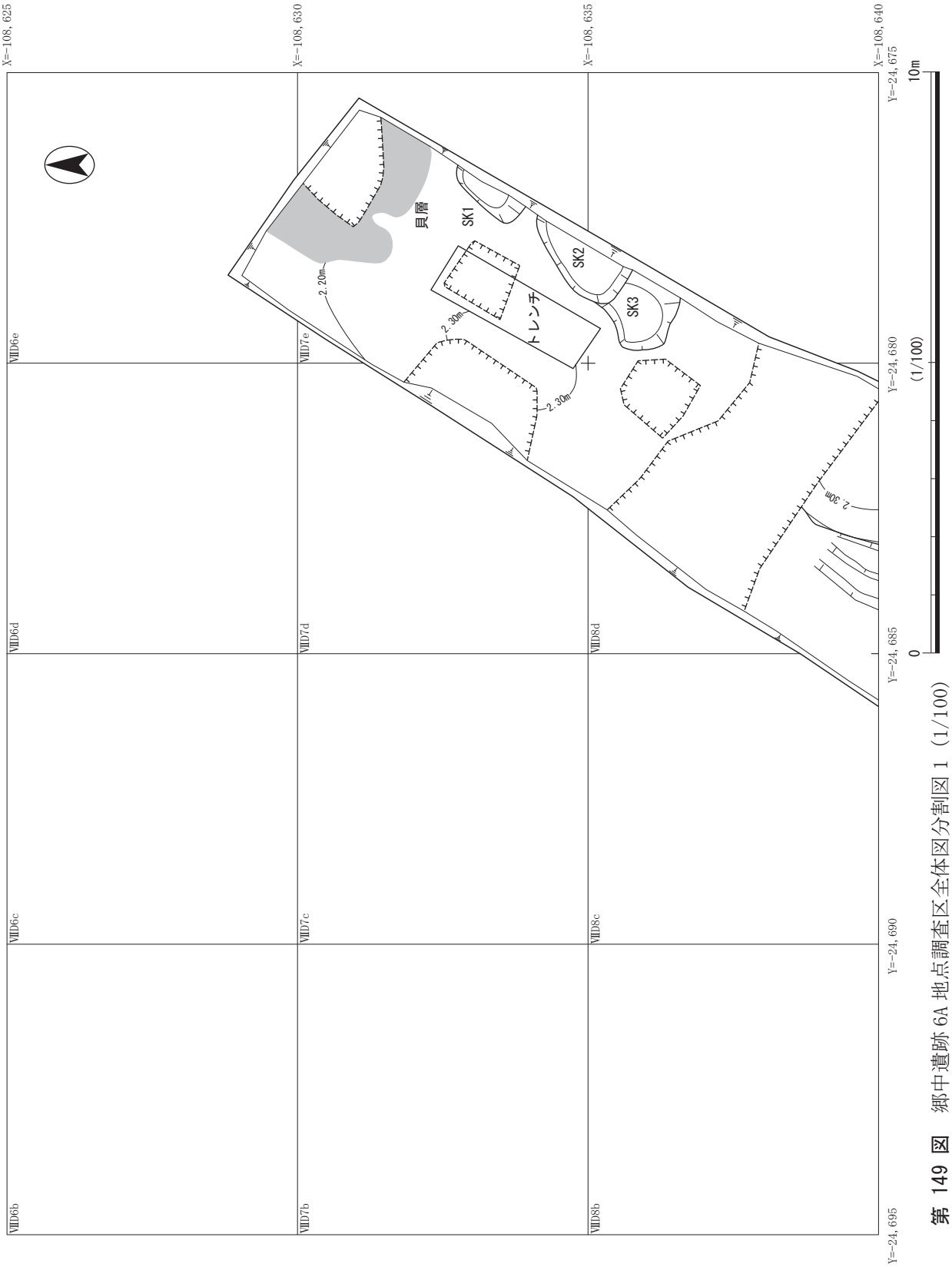
6A 地点はコの字状の平面形をした調査区で、幅は 4 ～ 10m 程である。調査区の至るところで近現代の撹乱がみられ、西側では近世から近現代の自然流路である NR3 が検出された。また、砂堆に立地するため、高潮・洪水等多くの地形改変を被ったとみられ、遺構の残存状態はよくない。主な遺構として中世の柱穴、土坑、墓、溝、井戸、近世以降の溝、自然流路が挙げられる。当該期の遺物の他に、弥生時代から古代にかけての土器を遺物包含層で確認できる。また、遺構埋土にも混入する。

6B 地点は、調査区の大半に近現代の撹乱がみられる。また、砂堆に立地するため、高潮・洪水等多くの地形改変を被ったとみられ、遺構の残存状態は非常に悪い。遺構は、弥生時代後期にあたる山中式期の竪穴建物、中世の土坑、溝、近世の土坑等が確認できた。また、6A 地点と同様に古代の須恵器や長胴甕片等も散見された。

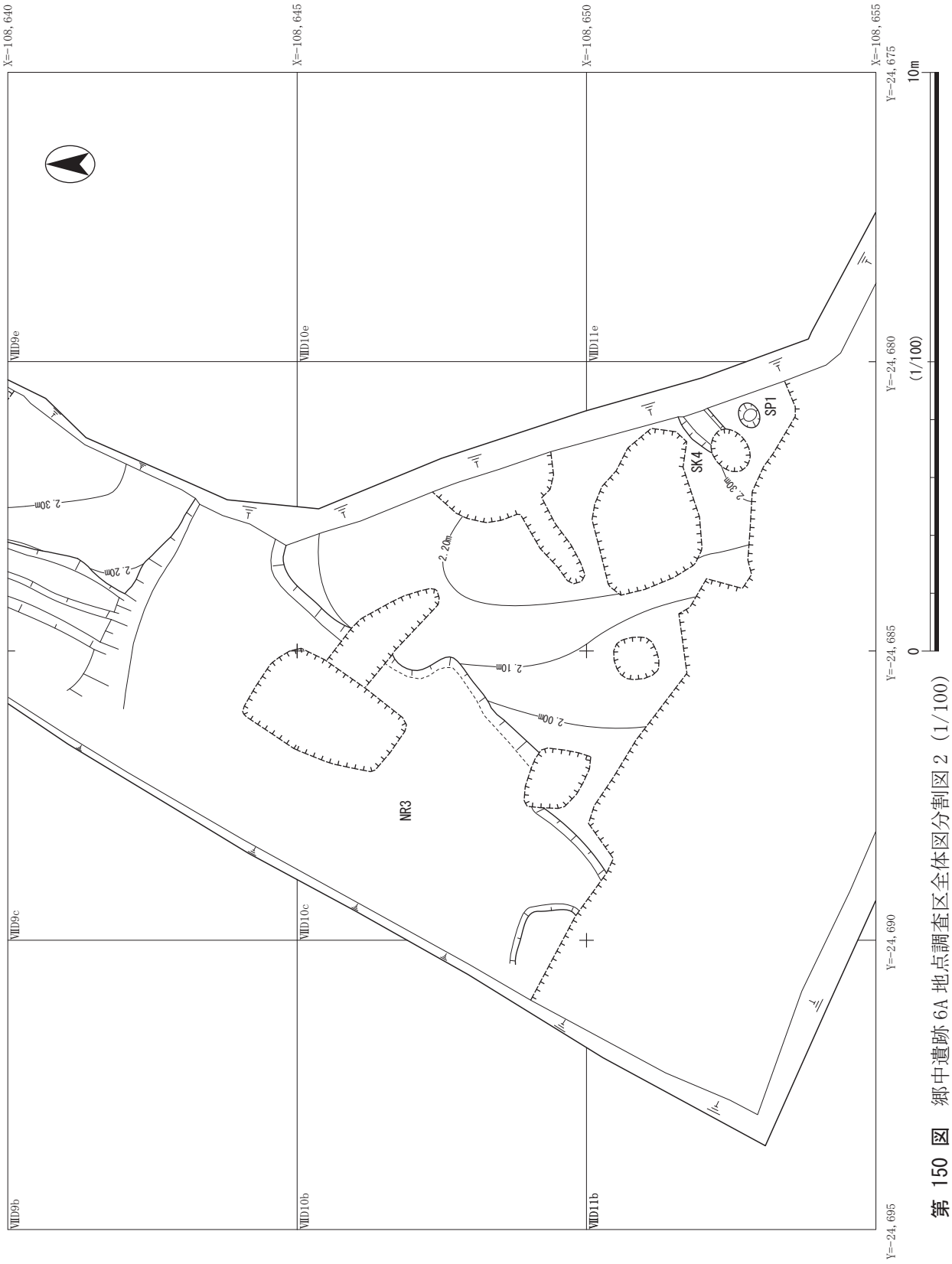
第 7 章では、主要遺構とそれに伴う遺物を中心に報告を行う。製塩土器については、第 9 章で扱う。



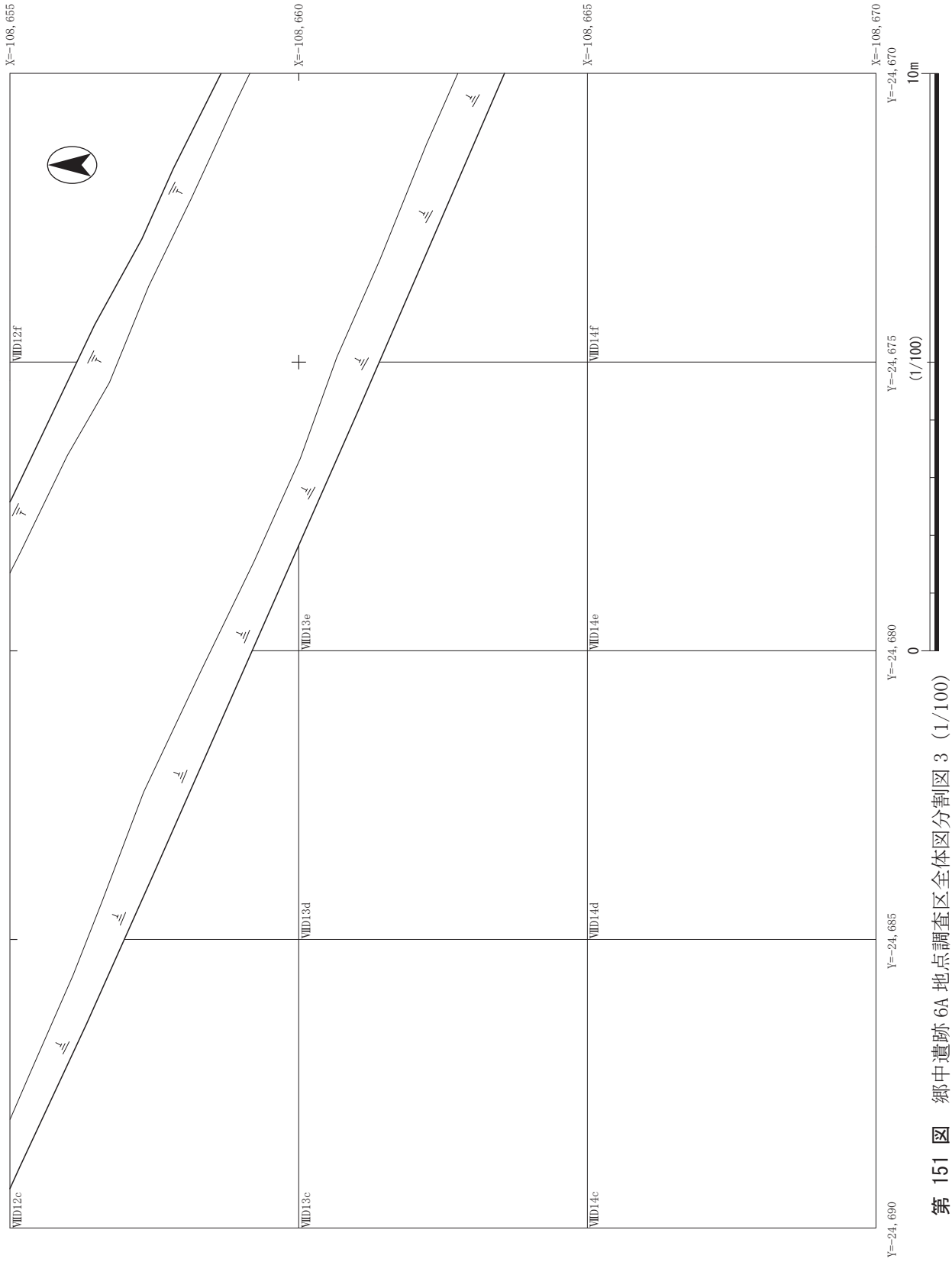
第 148 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図（1/500）



第 149 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図１（1/100）

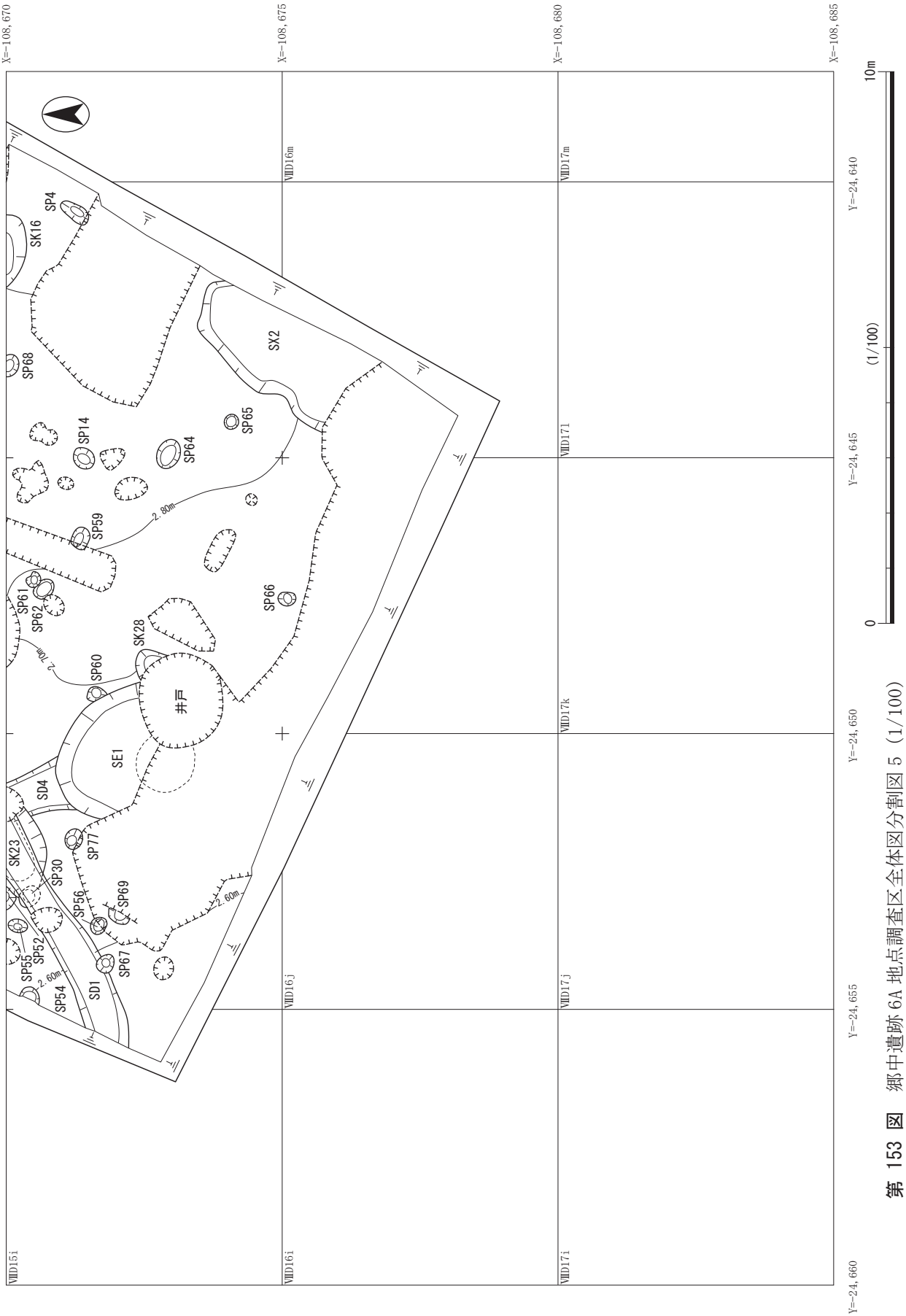


第 150 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図２（1/100）

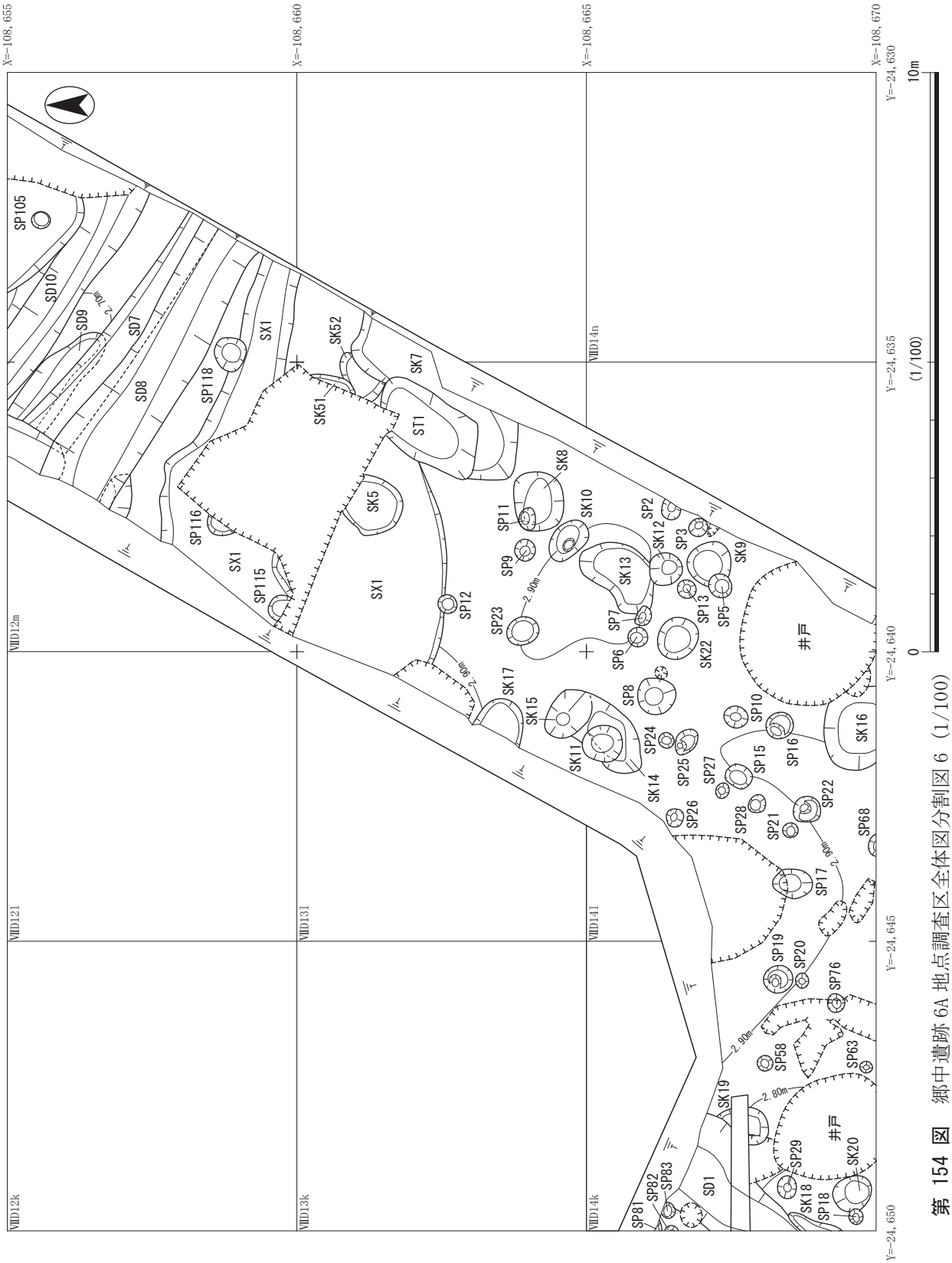


第 151 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図３（1/100）

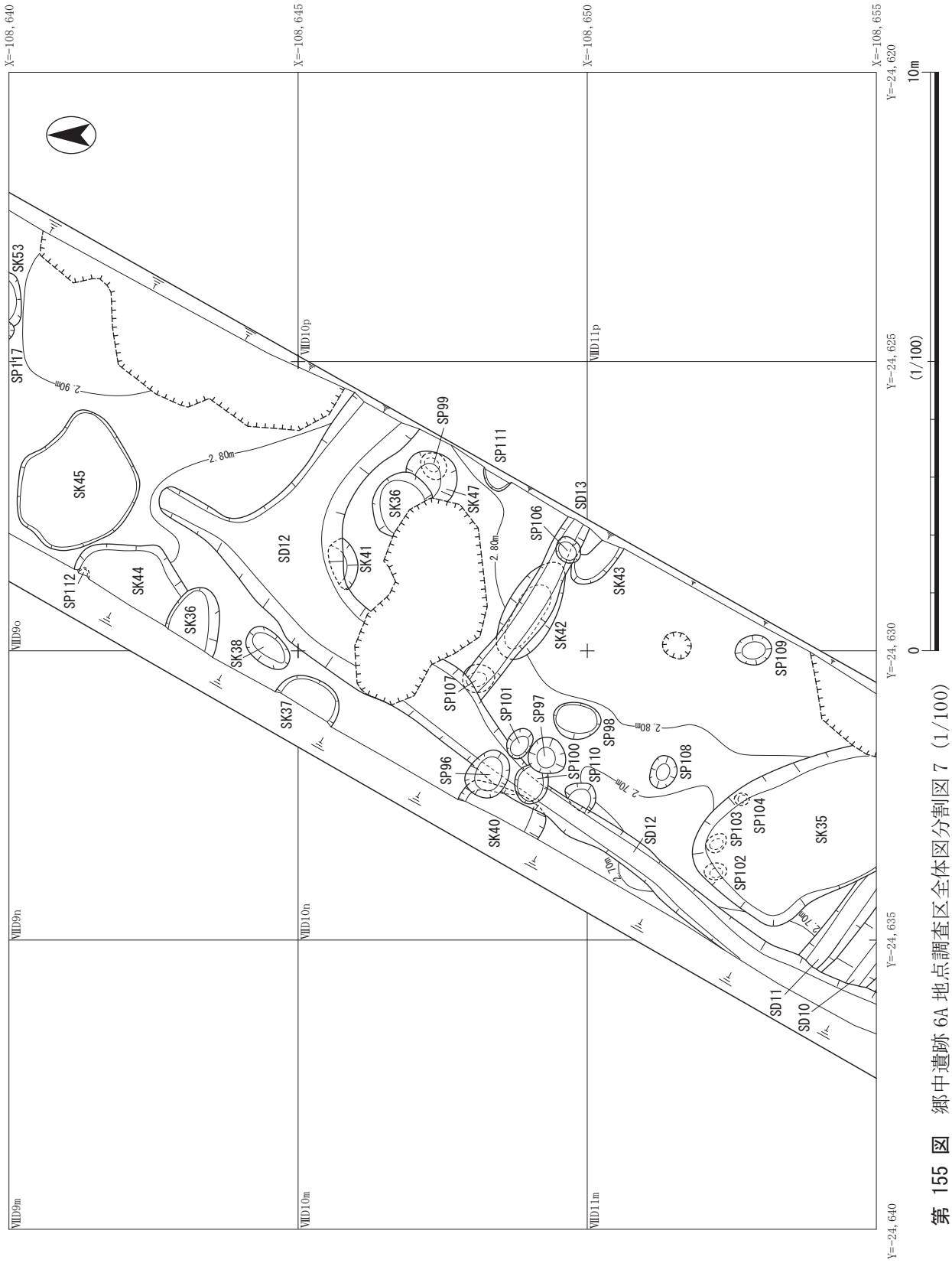
第 152 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図４（1/100）



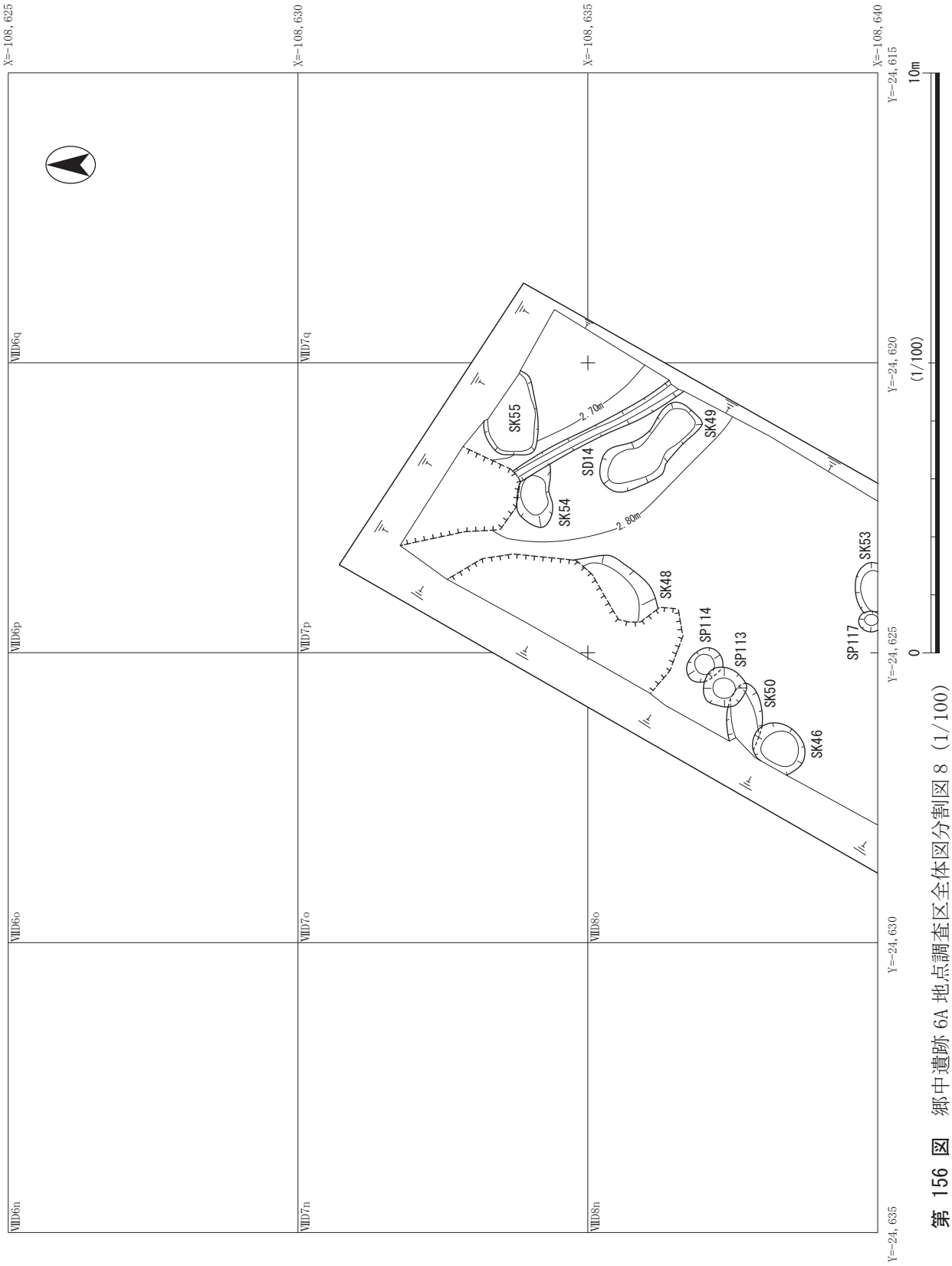
第 153 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 5（1/100）



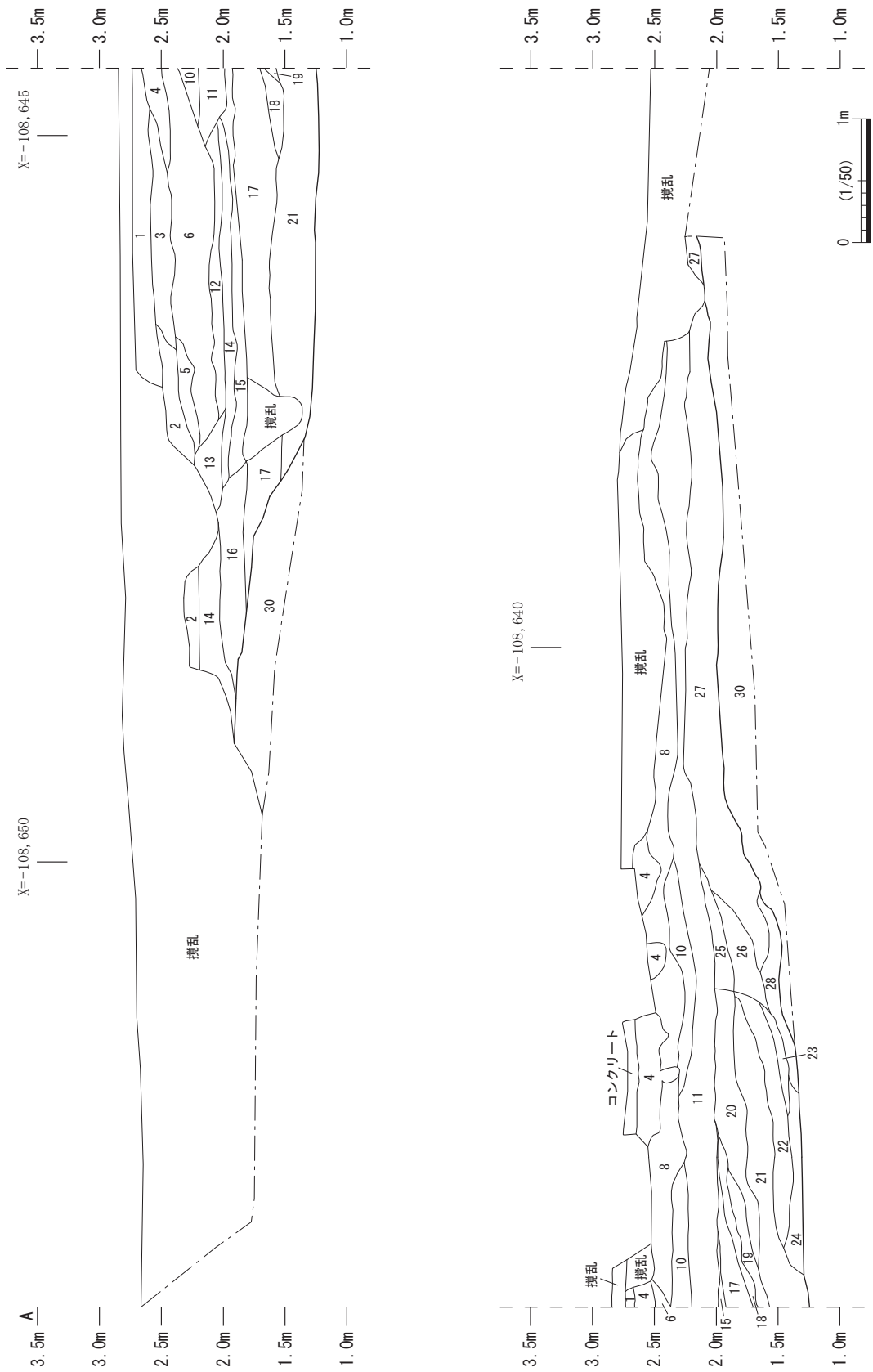
第 154 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図 6（1/100）



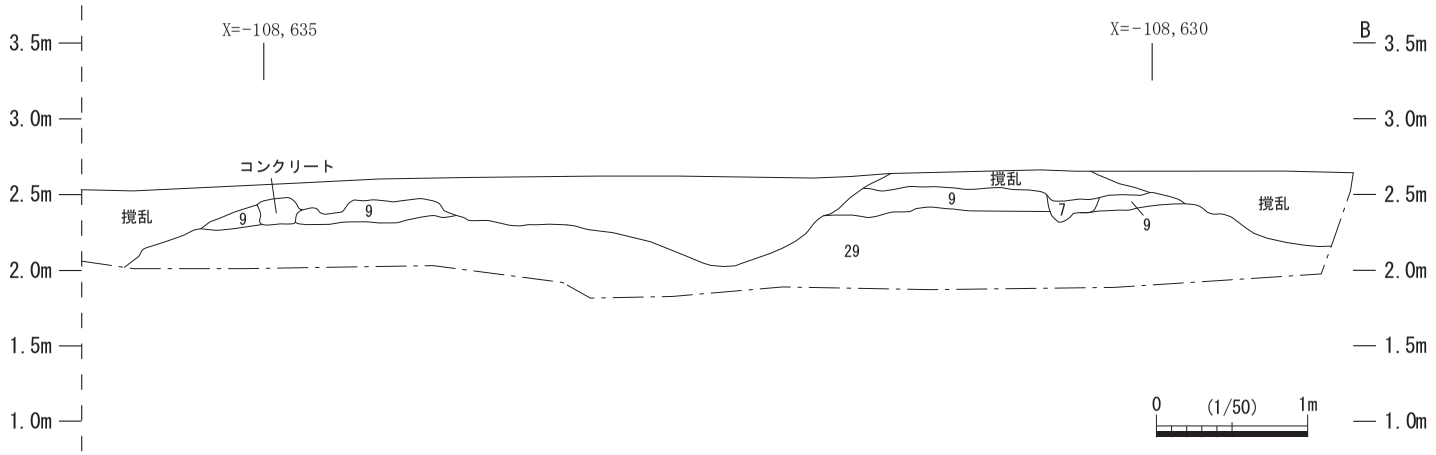
第 155 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図７（1/100）



第 156 図　郷中遺跡 6A 地点調査区全体図分割図８（1/100）

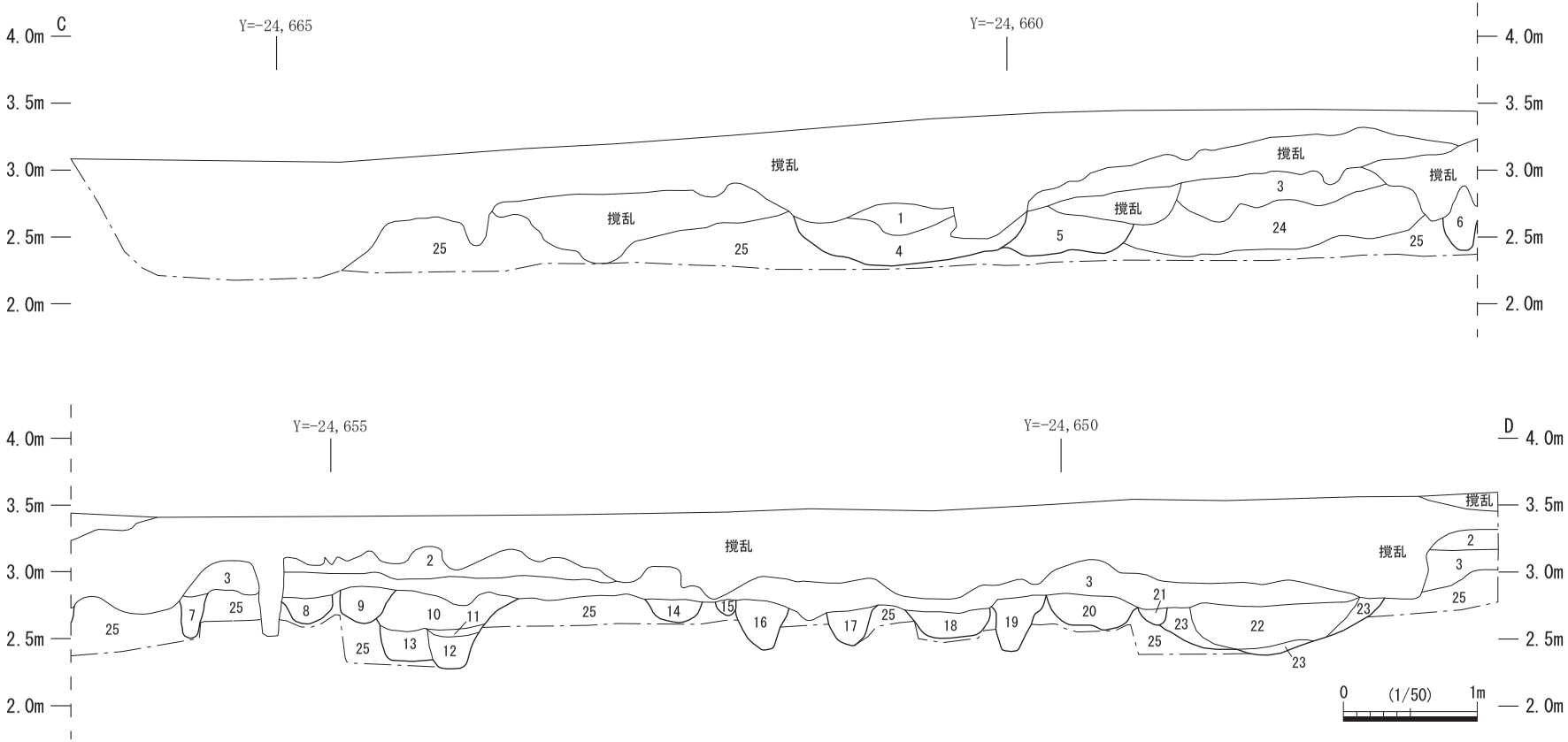


第 157 図　郷中遺跡 6A 地点西壁（A-B）土層断面図１（1/50）



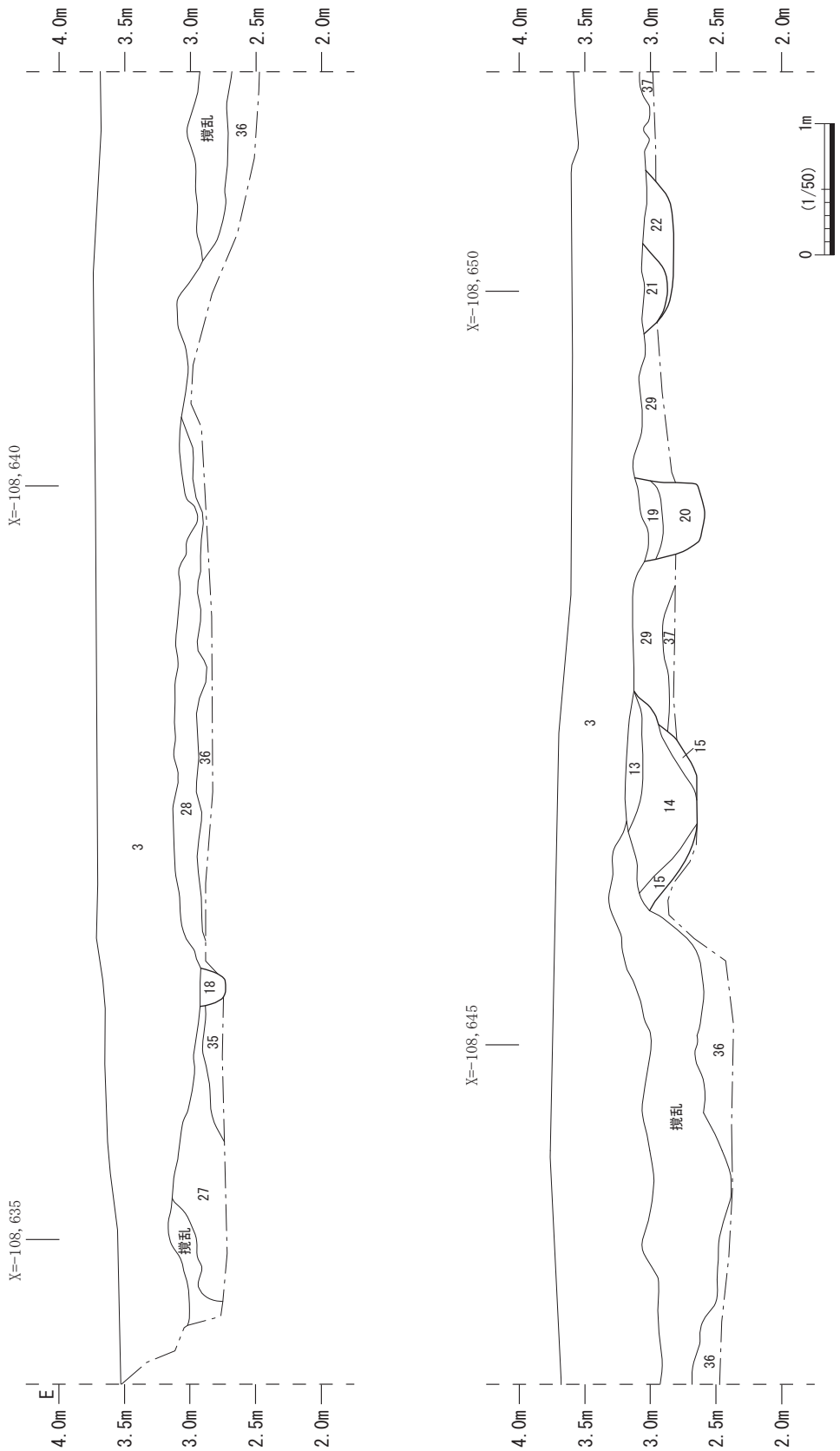
1 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(10YR7/4にぶい黄橙色粘土ブロックを含む)
2 10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂
3 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂
4 10YR5/1褐灰色中粒砂
5 10YR4/1褐灰色中粒砂
6 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂と10YR2/1黒色中粒砂の斑土
7 10YR4/1褐灰色中粒砂
8 10YR4/2灰黄褐色中粒砂(10YR6/4にぶい黄橙色細粒砂を含む。酸化鉄分を含む)
9 10YR4/1褐灰色中粒砂(貝殻を含む)
10 10YR5/2灰黄褐色中粒砂(マンガン斑紋を含む)［NR3埋土］
11 10YR5/1褐灰色中粒砂(マンガン斑紋を含む)［NR3埋土］
12 10YR6/1褐灰色中粒砂(マンガン斑紋を含む)［NR3埋土］
13 10YR5/1褐灰色中粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の斑土［NR3埋土］
14 N7/灰白色粘土［NR3埋土］
15 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂(酸化鉄分を含む)［NR3埋土］
16 10YR5/1褐灰色細粒砂［NR3埋土］
17 5B6/1青灰色細粒砂(10YR7/1灰白色細粒砂を多量に含む)［NR3埋土］
18 10YR5/1褐灰色細粒砂(貝殻を含む)［NR3埋土］
19 10YR4/1褐灰色粘土(2.5Y7/2灰黄色細粒砂を含む)［NR3埋土］
20 10YR5/1褐灰色粘土(2.5Y7/2灰黄色細粒砂を含む)［NR3埋土］
21 N4/灰色粘土(腐植物質を含む)［NR3埋土］
22 5B6/1青灰色粘土と10YR4/1褐灰色粘土の互層［NR3埋土］
23 10YR4/1褐灰色粘土(腐植物質を含む)［NR3埋土］
24 N5/灰色細粒砂［NR3埋土］
25 10YR6/2灰黄褐色細粒砂［NR3埋土］
26 10YR5/1褐灰色細粒砂(10YR6/2灰黄褐色細粒砂を含む)［NR3埋土］
27 N5/灰色細粒砂［NR3埋土］
28 10YR6/3にぶい黄橙色細粒砂(N5/灰色細粒砂を含む)［NR3埋土］
29 10YR5/1褐灰色中粒砂(上部にマンガン斑紋を含む)［基盤層］
30 10YR6/4にぶい黄橙色粗粒砂［基盤層］

第 158 図　郷中遺跡 6A 地点西壁 (A-B) 土層断面図 2 (1/50)

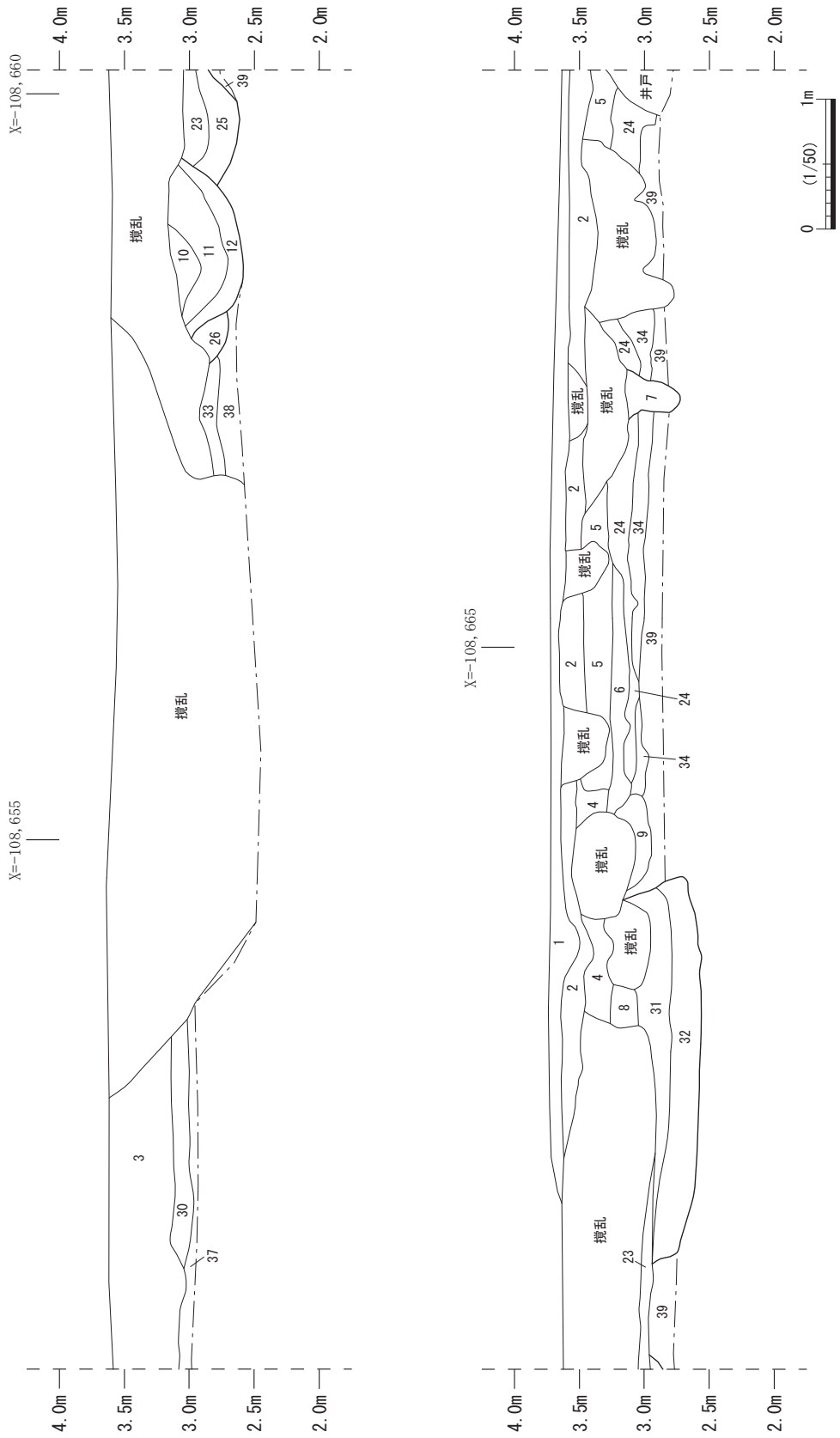


1 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂(炭化物を含む)
2 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［主として近世の遺物を含む］
3 10YR4/1褐灰色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
4 10YR3/1黒褐色中粒砂(10YR4/2灰黄褐色中粒砂ブロックを含む)［SD3埋土］
5 10YR4/1褐灰色中粒砂(下部に10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を含む)［SD2埋土］
6 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［遺構埋土］
7 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP88埋土］
8 10YR3/1黒褐色中粒砂(地山ブロックを含む)［SP89埋土］
9 10YR3/1黒褐色中粒砂(下部に地山ブロックを含む)［SP73埋土］
10 10YR4/1褐灰色中粒砂［SK29埋土］
11 10YR5/1褐灰色中粒砂［SK29埋土］
12 N5/灰色中粒砂［SK29埋土］
13 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂(10YR4/1褐灰色中粒砂を含む)［SK29埋土］
14 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［遺構埋土］
15 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［遺構埋土］
16 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP51埋土］
17 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP90埋土］
18 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP78埋土］
19 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP79埋土］
20 10YR3/1黒褐色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP81埋土］
21 10YR4/1褐灰色中粒砂(地山ブロックを多量に含む)［SP83埋土］
22 10YR3/1黒褐色中粒砂(地山ブロックを含む)［SD1埋土］
23 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SD1埋土］
24 10YR4/3にぶい黄褐色粗粒砂
25 10YR5/6黄褐色中粒砂［基盤層］

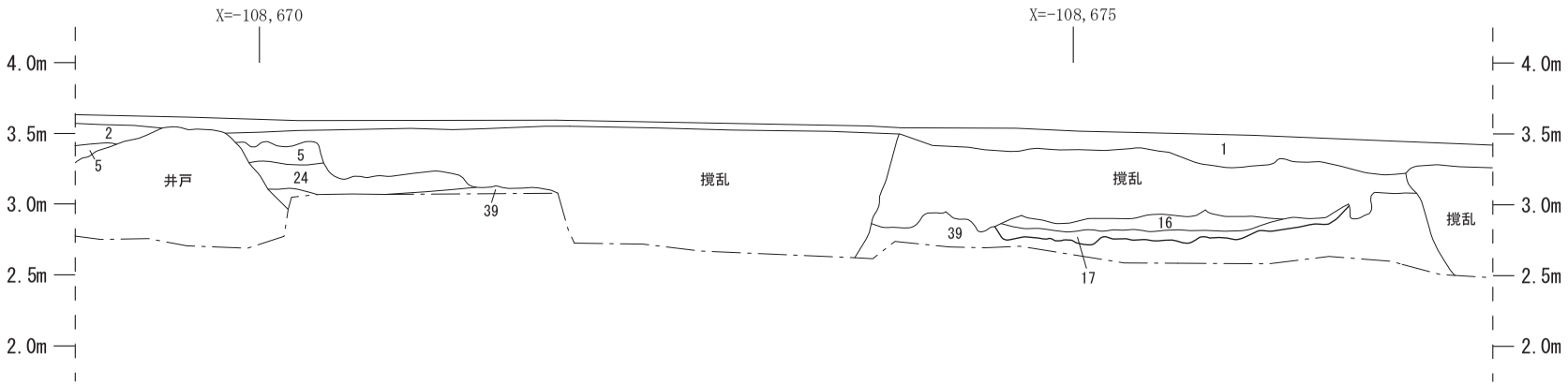
第 159 図　郷中遺跡 6A 地点北壁 (C-D) 土層断面図 (1/50)

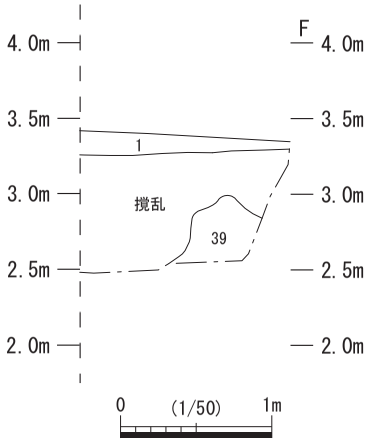


第 160 図　郷中遺跡 6A 地点東壁（E-F）土層断面図１（1/50）



第 161 図　郷中遺跡 6A 地点東壁（E-F）土層断面図２（1/50）

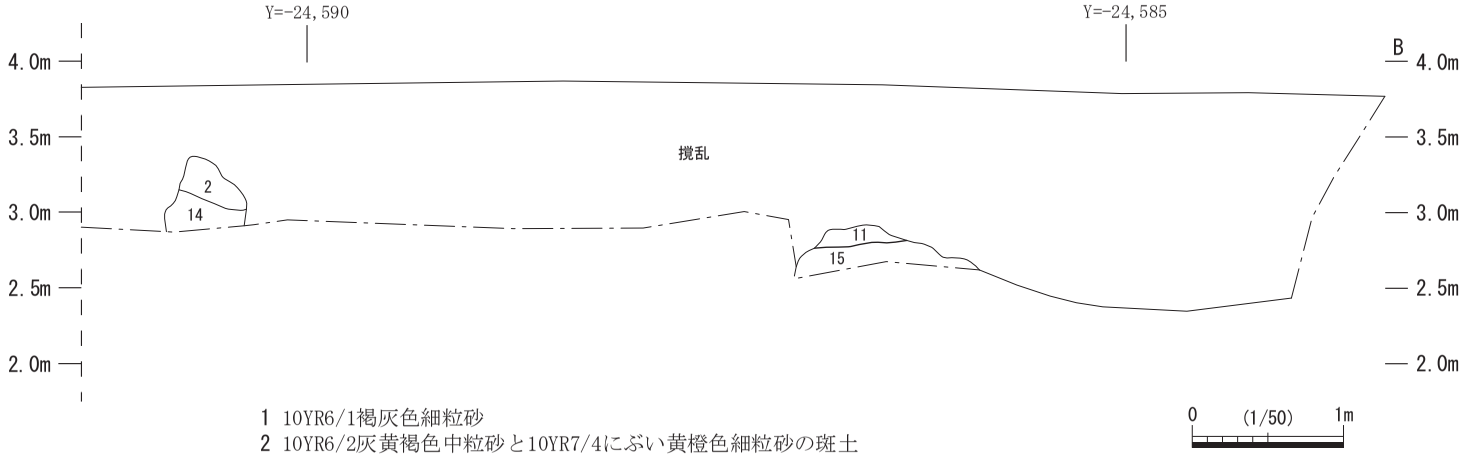




1～3 表土[盛土または旧表土]
4 10YR5/2灰黄褐色シルト(炭化物を少量含む)
5 10YR4/3にぶい黄褐色中粒砂［主として近世の遺物を含む］
6 10YR4/1褐灰色細粒砂（2.5Y7/4浅黄色粘質シルトブロックを多量に含む)
7 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SP2埋土］
8 10YR4/2灰黄褐色細粒砂
9 10YR4/2灰黄褐色細粒砂(10YR7/1灰白色細粒砂を多量に含む)
10 10YR7/6明黄褐色シルト(10YR3/3暗褐色細粒砂ブロックを少量含む)［SD8埋土］
11 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト(酸化鉄分を含む)［SD8埋土］
12 10YR4/2灰黄褐色シルト質細粒砂(酸化鉄分を含む)［SD8埋土］
13 10YR4/2灰黄褐色細粒砂［SD12埋土］
14 10YR3/2黒褐色細粒砂(10YR3/4暗褐色細粒砂ブロックを含む)［SD12埋土］
15 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂(10YR3/4暗褐色細粒砂ブロックを含む)［SD12埋土］
16 10YR5/1褐灰色中粒砂［SX2埋土］
17 N6/灰色細粒砂(2.5Y7/1灰白色粘土ブロックを多量に含む。下部に酸化鉄分を含む)［SX2埋土］
18 2.5Y4/1黄灰色砂質シルト(炭化物を含む)［SD14埋土］
19 10YR4/4褐色細粒砂［SP111埋土］
20 10YR4/2灰黄褐色細粒砂［SP111埋土］
21 10YR4/2灰黄褐色細粒砂［SD13埋土］
22 2.5Y4/3オリーブ褐色細粒砂［SK43埋土］
23 10YR3/3暗褐色細粒砂［主として中世の遺物を含む］
24 10YR4/1褐灰色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
25 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR6/2灰黄褐色細粒砂の斑土［SX1埋土］
26 10YR3/2黒褐色細粒砂(酸化鉄分を多量に含む)［SD7埋土］
27 2.5Y3/2黒褐色細粒砂と2.5Y5/1黄灰色細粒砂の斑土［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
28 10YR3/3暗褐色細粒砂(10YR5/1褐灰色細粒砂ブロックと酸化鉄分を多量に含む)［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
29 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
30 10YR3/4暗褐色細粒砂［主として弥生時代から中世の遺物を含む］
31 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SK7埋土］
32 10YR3/1黒褐色中粒砂［SK7埋土］
33 10YR4/2灰黄褐色細粒砂(酸化鉄分を多量に含む)
34 10YR5/2灰黄褐色細粒砂［主として古代の遺物を含む］
35 2.5Y5/1黄灰色細粒砂［基盤層］
36 10YR5/1褐灰色細粒砂(酸化鉄分を含む)［基盤層］
37 10YR5/4にぶい黄褐色細粒砂［基盤層］
38 10YR6/3にぶい黄橙色細粒砂［基盤層］
39 10YR6/2灰黄褐色細粒砂［基盤層］

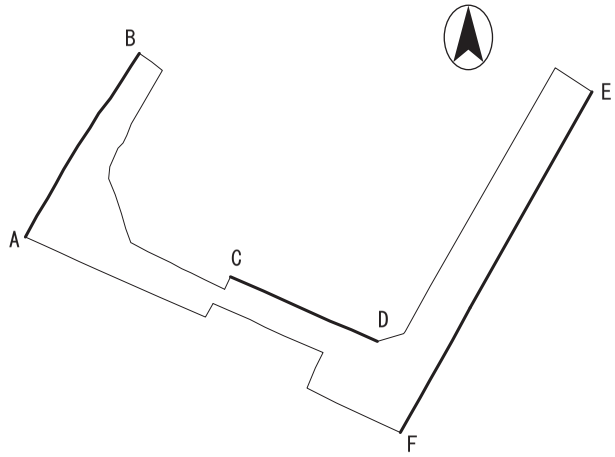
第 162 図　郷中遺跡 6A 地点東壁（E-F）土層断面図 3（1/50）

第 163 図　郷中遺跡 6B 地点北壁（A-B）土層断面図１（1/50）

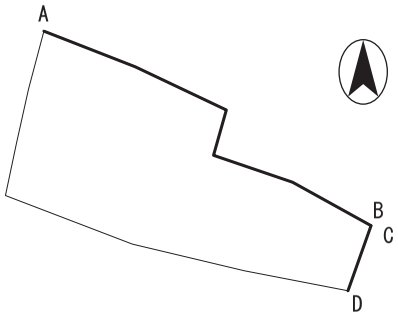


1 10YR6/1褐灰色細粒砂
2 10YR6/2灰黄褐色中粒砂と10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂の斑土
3 7.5YR5/1褐灰色中粒砂(粉砕された貝殻を多量に含む)
4 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［主として中世の遺物を含む］
5 10YR4/1褐灰色中粒砂［SK30埋土］
6 10YR4/2灰黄褐色中粒砂［SK30埋土］
7 10YR5/1褐灰色細粒砂［SD5埋土］
8 10YR4/2灰黄褐色細粒砂(地山ブロックとマンガン斑紋を含む)［SD5埋土］
9 10YR5/1褐灰色細粒砂と10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂の互層［SD5埋土］
10 10YR5/2灰黄褐色細粒砂(酸化鉄分を含む)［SD5埋土］
11 10YR5/2灰黄褐色中粒砂［SD6埋土］
12 10YR3/1黒褐色細粒砂［SX5埋土］
13 10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂［基盤層］
14 10YR7/2にぶい黄橙色中粒砂［基盤層］
15 10YR6/1褐灰色砂礫［基盤層］

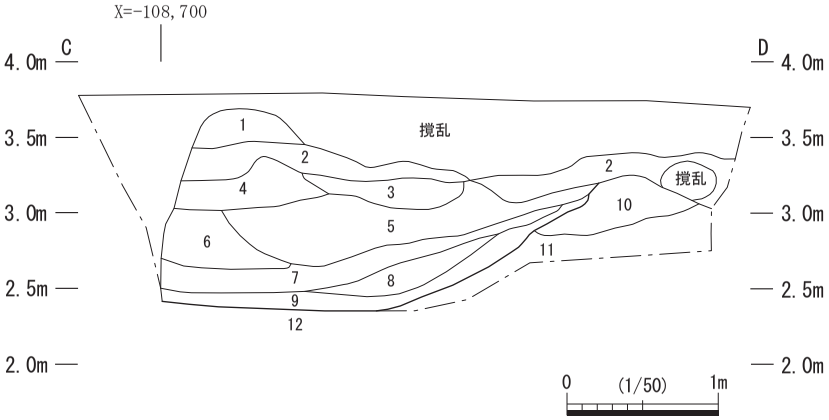
第 164 図　郷中遺跡 6B 地点北壁（A-B）土層断面図２（1/50）



第 166 図　郷中遺跡 6A 地点土層断面図の位置（1/1,000）
（A ～ F は第 157 ～第 162 図の土層断面図と対応する）



第 167 図　郷中遺跡 6B 地点土層断面図の位置（1/500）
（A ～ D は第 163 ～第 165 図の土層断面図と対応する）



1 10YR5/2灰黄褐色細粒砂
2 10YR5/1褐灰色細粒砂(2.5Y7/4浅黄色シルトブロックを含む)
3 10YR4/3にぶい黄褐色細粒砂(マンガン斑紋を含む)
4 10YR5/2灰黄褐色細粒砂
5 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂(径5mm程の礫を含む) [NR1埋土]
6 10YR6/2灰黄褐色中粒砂(下部に10YR5/1褐灰色中粒砂が薄く堆積) [NR1埋土]
7 10YR7/3にぶい黄橙色中粒砂(径5mm程の礫を含む) [NR1埋土]
8 10YR6/3にぶい黄橙色中粒砂 [NR1埋土]
9 10YR5/1褐灰色細粒砂(10YR6/4にぶい黄橙色細粒砂を含む) [NR1埋土]
10 10YR5/1褐灰色細粒砂
11 10YR7/4にぶい黄橙色細粒砂 [基盤層]
12 10YR6/1褐灰色砂礫 [基盤層]

第 165 図　郷中遺跡 6B 地点東壁（C-D）土層断面図（1/50）

第２節　遺　　構（第 168 ～ 175 図，図版第 57 ～ 59）

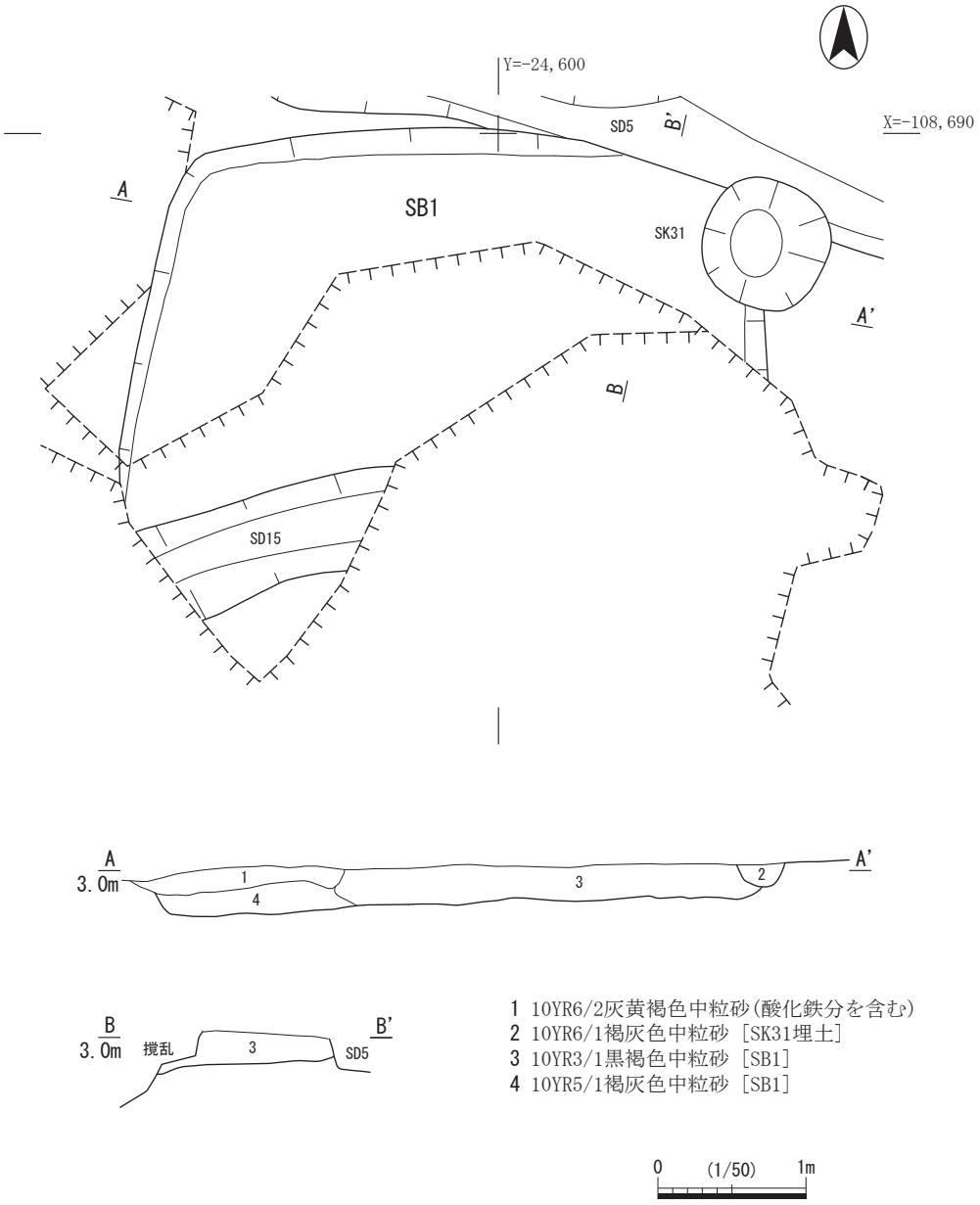
A　弥生時代

竪穴建物

SB1（第 168 図，図版第 57）

6B 地点の西側Ⅶ D18t・19t、Ⅶ E18a・19a 区に位置する。方形の平面プランを呈する竪穴建物である。遺構の大部分は撹乱に切られ、全容は不明である。また、北側は SD5 と SK31 に切られる。SD15 は SB1 に伴うか不明である。長軸長約 430cm、短軸長約 365cm、遺構検出面からの掘方の深さ約 28cm である。主柱穴・周壁溝は確認されていない。

遺物はワイングラス形高杯と無頸壺が出土している。弥生時代後期にあたる山中式期の遺構で



第 168 図　郷中遺跡 6B 地点 SB1 平面図・断面図（1/50）

あると考えられる。

B　中世

柱穴

SP60（第 169 図，図版第 57）

6A 地点の南東側Ⅶ D15k 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する柱穴である。SE1 に切られる。長軸長約 36 cm、短軸長約 26cm、遺構検出面からの深さ約 28cm である。断面形はＵ字状を呈する。

上部で尾張型第６型式の山茶碗の碗が１点（350）、横位で出土している。中世にあたる 13 世紀前葉の遺構である。

土坑

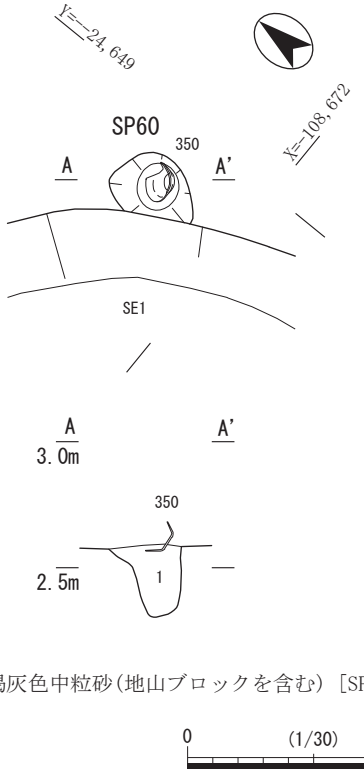
SK15（第 170 図，図版第 57）

6A 地点の東側Ⅶ D131・141 区に位置する。楕円形の平面プランを呈する土坑である。SK14 を切る。長軸長約 96cm、短軸長約 68cm、遺構検出面からの深さ約 43cm である。断面形はＵ字状を呈する。

底面で完形の山茶碗の小皿が１点（352）、逆位で出土した。また、その 15 cm ほど上で完形の山茶碗の碗（351）が正位で出土した。いずれも尾張型第６型式である。中世にあたる 13 世紀前葉の遺構である。

SK30（第 171 図，図版第 58）

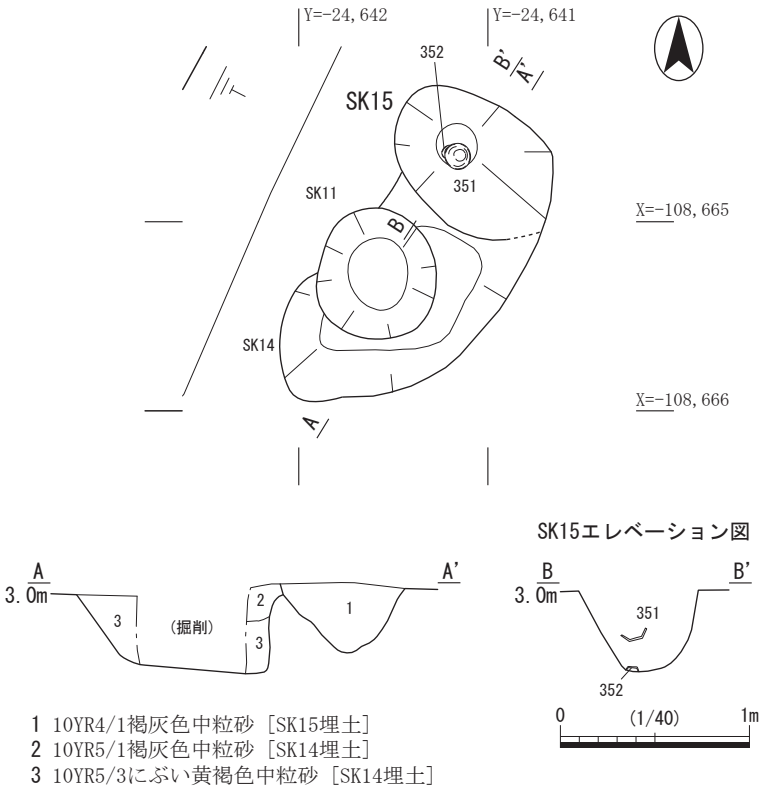
6B 地点の北西側Ⅶ D18t 区に位置する。円形の平面プランを呈する土坑である。遺構の北側は調査区外へと続く。SD5 を切り、撹乱に切られる。長軸長約 192cm、短軸長約 182cm、遺構検出面からの深さ約 65cm である。断面形はＵ字



1 10YR4/1褐灰色中粒砂（地山ブロックを含む）［SP60埋土］

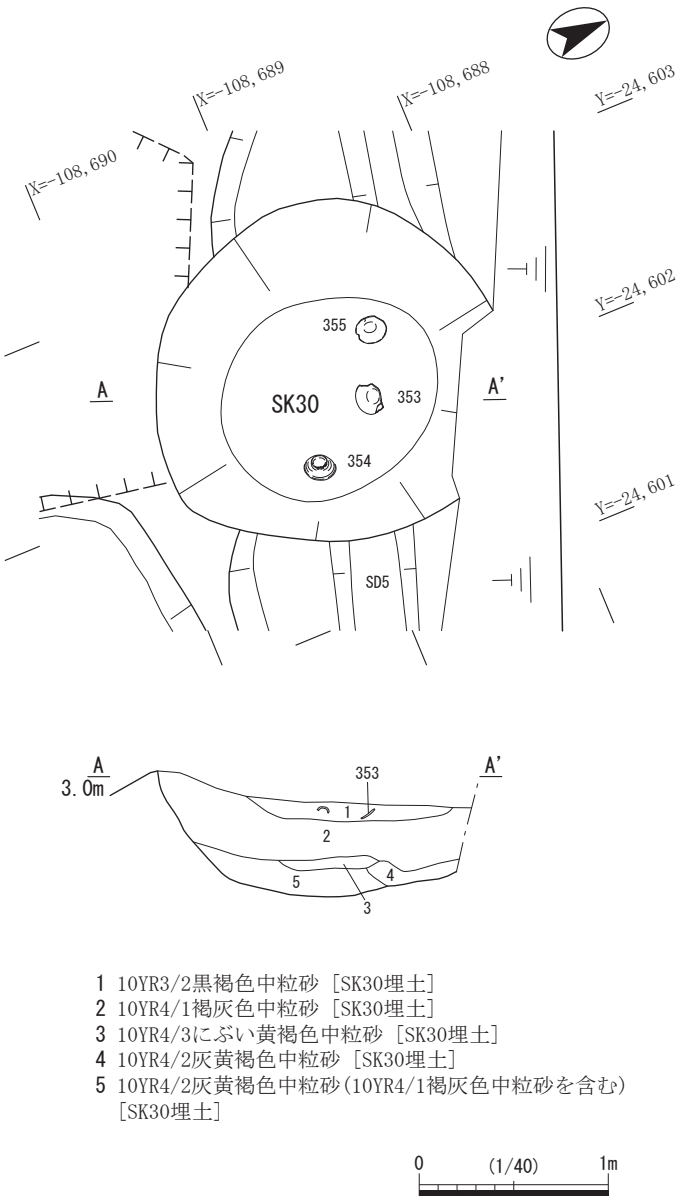
0　(1/30)　1m

第 169 図　郷中遺跡 6A 地点 SP60 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/30）



1 10YR4/1褐灰色中粒砂［SK15埋土］
2 10YR5/1褐灰色中粒砂［SK14埋土］
3 10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂［SK14埋土］

第 170 図　郷中遺跡 6A 地点 SK15 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）



第 171 図　郷中遺跡 6B 地点 SK30 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

状を呈する。

底面でほぼ完形の山茶碗の碗が２点(354・355)、逆位と正位で出土した。355 は輪花碗である。いずれも尾張型第４型式である。遺構は 12 世紀前葉から中葉に位置付けられる。

墓

ST1（第 172 図，図版第 58）

6A 地点の東側Ⅶ D13m 区に位置する。隅丸方形の平面プランを呈する土坑である。SK7・52 を切り、SX1 と撹乱に切られる。長軸長約 185cm、短軸長約 115cm、遺構検出面からの深さ約 45cm である。断面形は逆台形状を呈する。主軸方向は N-28°－E である。

底面で完形の山茶碗の碗が１点(356)、正位で出土した。また、刀子が出土しており、土坑墓と考えられる。山茶碗は尾張型第７型式である。遺構は 13 世紀中葉に位置付けられる。

溝

SD2（第 173 図，図版第 58）

6A 地点の中央Ⅶ D13h・13i 区に位置する。南南西－北北東の方向に延びる溝状の遺構である。遺構の北側・南側は調査区外に続く。SD3 と撹乱に切られる。遺構の西側の肩は撹乱により削平を受けており、検出が困難であった。長さ約 315cm、幅約 98cm、遺構検出面からの深さ約 30cm である。底面に高低差はない。断面形はＵ字形を呈する。

12 世紀後半の巴文の軒丸瓦（397）や大窯第３段階の小天目が出土している。その他に弥生時代から近世に至るまでの遺物が混在しているため、遺構の時期の確定は困難である。一方、SD2 近くの包含層から 397 と同時期の軒丸瓦の瓦当部分が出土しているが、同一個体ではない。

SD5（図版第 58）

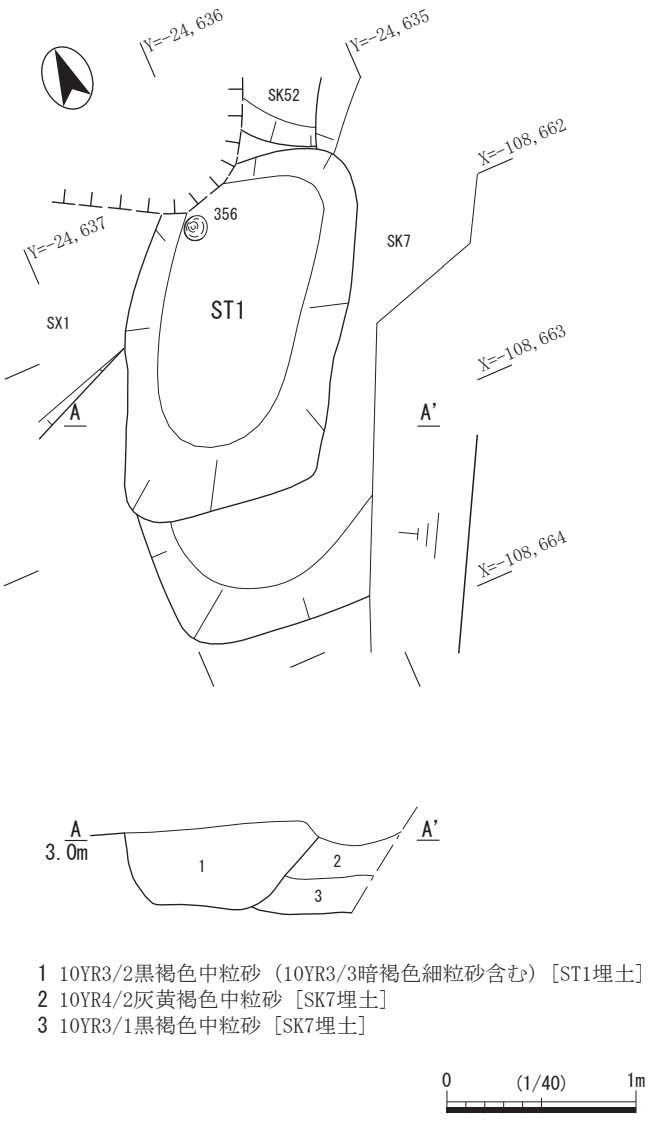
6B 地点の北西側Ⅶ D18s・18t、Ⅶ E18a・19a・19b・20b 区に位置する溝状の遺構である。調査区北西端から東南東の方向に延び、Ⅶ E19b 区でＬ字状に屈曲する。SB1、SK31、SX5 を切り、SK30、SP92、撹乱に切られる。遺構の大部分が調査区外へと続くため、全容は不明である。断面形は２段落ちのＵ字形を呈する。尾張型第４～６型式の山茶碗の碗や小皿、東濃型第 11 型式の北部系山

茶碗の碗がみられる。切り合い関係から、SK30 よりも古い遺構であると思われる。

SD7（第 174 図，図版第 58）

6A 地点の東側Ⅶ D11m・12m・12n 区に位置する。北西 - 南東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の西側・東側は調査区外に続く。SD9 を切り、SD8・12 に切られる。長さ約 510cm、幅約 72cm、遺構検出面からの深さ約 30cm である。遺構底面は西側が東側より低い。断面形はＵ字形を呈する。

遺構からは、山茶碗の碗、片口鉢、壺、常滑の甕、丸瓦など中世の遺物がまとまって出土した。山茶碗は尾張型第５～６型式、常滑の甕は知多窯５型式である。遺構は 12 世紀後葉から 13 世紀前半に位置付けられる。



第 172 図　郷中遺跡 6A 地点 ST1 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

SD9（第 174 図）

6A 地点の東側Ⅶ D11m・12m・12n 区に位置する。北西 - 南東の方向に延びる溝状の遺構である。遺構の西側は調査区外に続く。SD7・10・12 に切られる。長さ約 272cm、幅約 76cm、遺構検出面からの深さ約 30cm である。遺構底面は SD7・8 と同じく西側が東側より低い。断面形はＵ字形を呈する。

出土遺物は確認されなかった。中世の溝である SD7・10 よりも古い遺構であるということしか分からない。

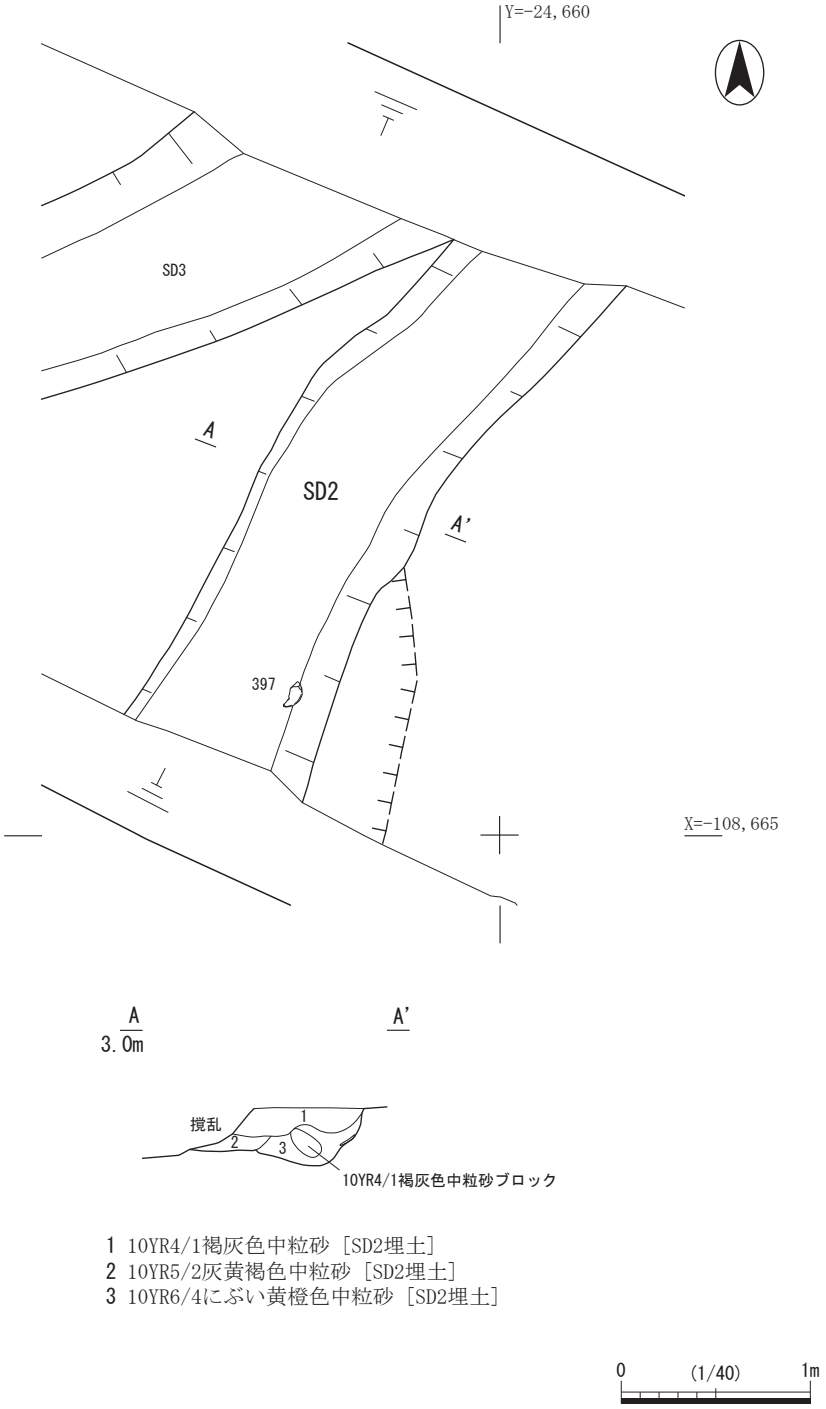
SD10（第 174 図）

6A 地点の東側Ⅶ D11m・11n・12m・12n 区に位置する。北西 - 南東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の西側・東側は調査区外に続く。SD9・11 を切り、SD12 と撹乱に切られる。長さ約 523cm、幅約 80cm、遺構検出面からの深さ約 15cm である。底面に明確な高低差はみられない。断面形は皿状を呈する。

古代から中世にかけての遺物が出土しているが、遺構の詳細な時期は不明である。

SD11（第 174 図）

6A 地点の東側Ⅶ D11m・D11n・D12n 区に位置する。北西 - 南東の方向に延びる溝状の遺構である。遺構の西側は調査区外に続く。SD10・12 と SK35 に切られる。長さ約 367cm、幅約 55cm、遺構検出面からの深さ約 20cm である。底面に明確な高低差はみられない。



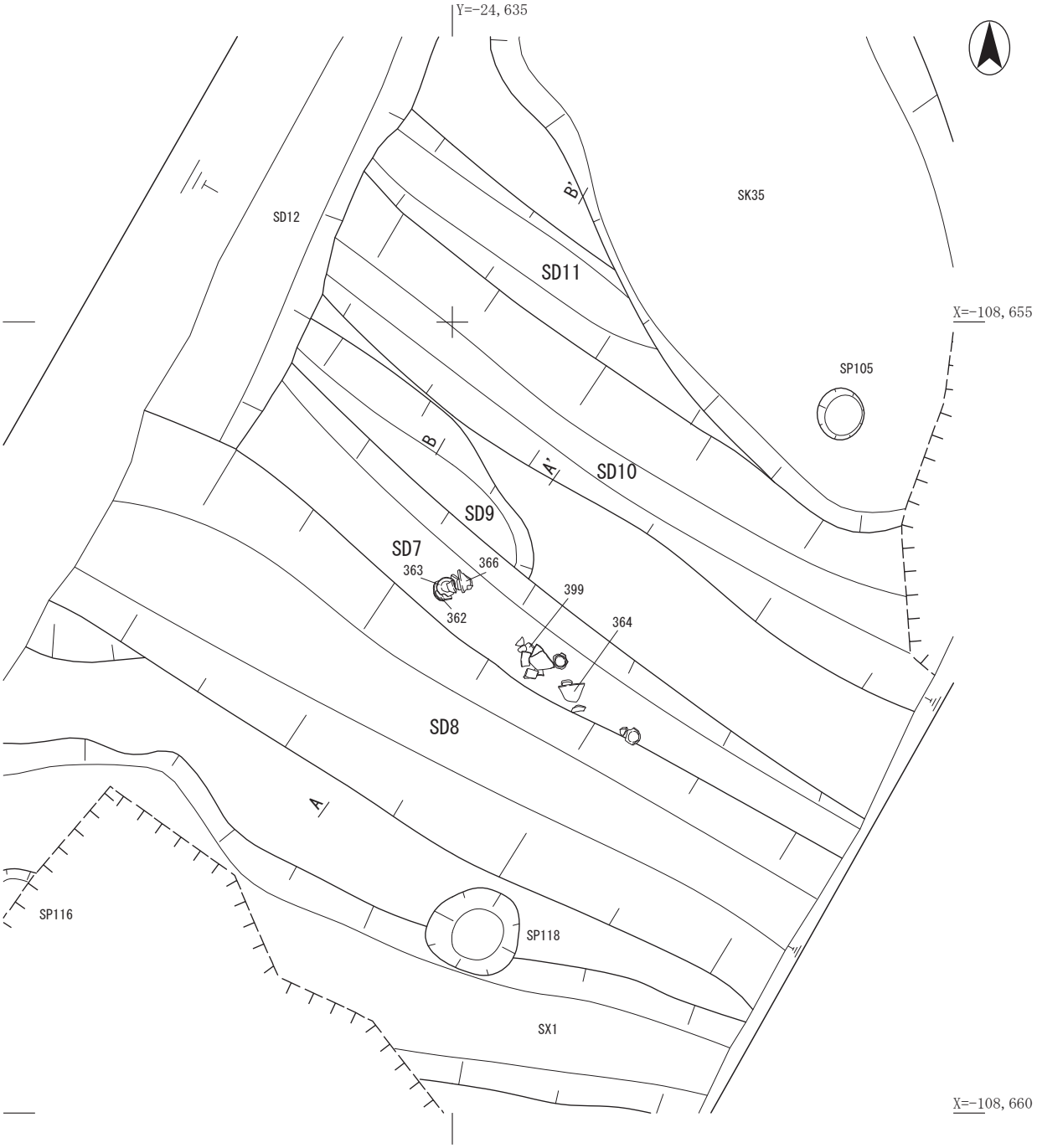
第 173 図　郷中遺跡 6A 地点 SD2 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）

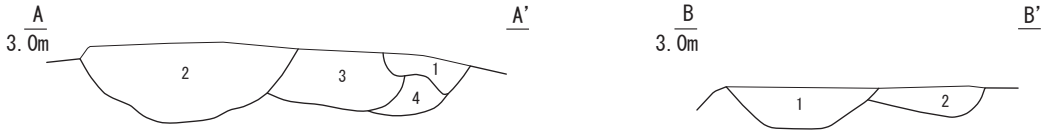
断面形は皿状を呈する。SD10 と同じく古代から中世にかけての遺物が出土している。遺構の詳細な時期は不明である。

井戸

SE1（第 175 図，図版第 59）

6A 地点の南東側Ⅶ D15j･15k 区に位置する。常滑の甕を井戸枠として利用した中世の井戸である。SD4 と SP60 を切る。また、南側は撹乱に切られ、井戸上部の大部分が削平されている。長軸長約



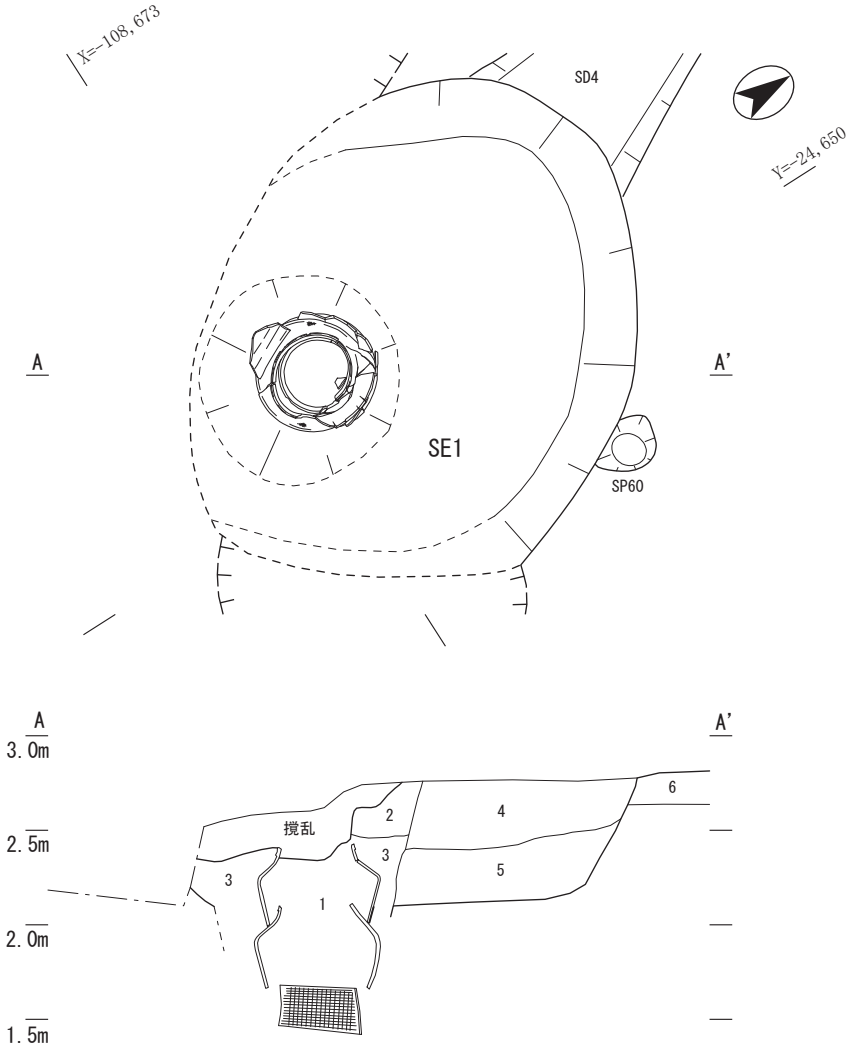


1 10YR3/2黒褐色細粒砂と10YR4/4褐色細粒砂の斑土［撹乱］
2 10YR4/2灰黄褐色シルト［SD8埋土］
3 10YR3/2黒褐色細粒砂(10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂を多量に含む)［SD7埋土］
4 10YR2/2黒褐色中粒砂［SD9埋土］

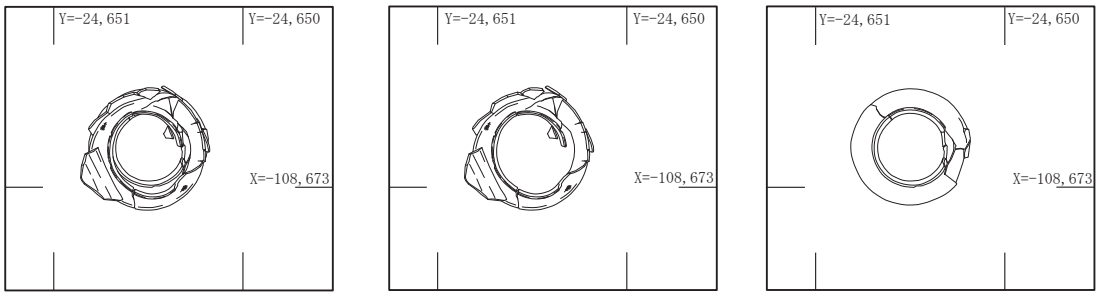
1 10YR4/2灰黄褐色細粒砂と10YR3/2黒褐色細粒砂の斑土［SD10埋土］
2 10YR3/2黒褐色細粒砂(酸化鉄分を多量に含む)［SD11埋土］

0　(1/40)　1m

第 174 図　郷中遺跡 6A 地点 SD7・8・9・10・11 平面図・断面図・遺物出土状況図（1/40）



1 10YR3/1黒褐色中粒砂(地山ブロックを多量に含む) [SE1埋土]
2 10YR3/1黒褐色中粒砂 [SE1堀方]
3 10YR3/1黒褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む) [SE1堀方]
4 10YR3/2黒褐色中粒砂(径5～10mm程の礫を含む) [SE1堀方]
5 10YR3/2黒褐色中粒砂と10YR4/2灰黄褐色中粒砂の斑土
(径5～10mm程の礫を多量に含む) [SE1堀方]
6 10YR4/1褐灰色中粒砂と10YR5/3にぶい黄褐色中粒砂の斑土



SE1井戸枠出土状況図①　　SE1井戸枠出土状況図②(1・2段目)　　SE1井戸枠出土状況図③(3段目)

0　(1/40)　1m

第 175 図　郷中遺跡 6A 地点 SE1 平面図・断面図・井戸枠出土状況図 (1/40)

262cm、短軸長約 235cm である。検出面から 65cm までは平面楕円形の掘方を持ち、そこで一旦段をつける。以下は径 110cm 程の平面円形の掘方で、下部になるに従ってすぼまると思われる。3 段積の甕と最下層に曲物が設置されていた。井戸の深さは湧水のため確認できなかった。曲物が確認された高さが井戸底（水溜め部）であると考えるならば、標高 1.5m 前後に湧水層があったと推測できる。

井戸枠には知多窯 6a・6b 型式の常滑の甕が利用されている。1 段目が 2・3 段目よりも若干新しい型式である。本来は上部に更に甕が積まれていたと思われる。常滑の甕以外の遺物では、掘方と井戸枠内出土のもので明確な時期差が生じている。掘方出土の山茶碗は尾張型第 5 ～ 6 型式であるのに対し、井戸枠内出土の山茶碗は尾張型第 7 ～ 8 型式である。井戸枠の常滑の甕は後者の時期に一致する。SE1 は 13 世紀後半を中心に機能していたと考えられる。

C　近世以降

溝

SD8（第 174 図，図版第 58）

6A 地点の東側Ⅶ D12m・Ⅶ D12n 区に位置する。北西-南東の方向に延びる直線的な溝状の遺構である。遺構の西側・東側は調査区外に続く。SX1、SD7・12 を切る。長さ約 510cm、幅約 130cm、遺構検出面からの深さ約 40cm である。遺構底面は SD7 と同じく西側が東側より低い。断面形は U 字形を呈する。

遺構からは近世を中心とした遺物が多量に出土した。概ね 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけての陶磁器や土師質の焙烙鍋である。遺構は近世後半のものであろう。

SD12

6A 地点の東側Ⅶ D9o・10n・10o・11m・11n・12m 区に位置する溝状の遺構である。調査区西壁に平行して南西 - 北東の方向に延び、Ⅶ D10o 区で南東に分岐する。北東方向に延びる溝は浅くなり途中で消滅し、南東方向に延びる溝は調査区外に続く。また、南西端は北西方向に屈曲し調査区外に続く。SD7・9・10・11・13 と SP110 を切り、SD8 と SP96・100・101 に切られる。長さ約 17.78m、幅約 0.53 ～ 1.30m、遺構検出面からの深さ約 54cm である。北東から南西に向かい緩やかに傾斜する。断面形は U 字形を呈する。

灰釉陶器や青磁、天目茶碗、染付碗など古代から近世までの遺物が出土している。少量のため、遺物から遺構の帰属時期を判断することは困難である。中世の溝である SD7 を切ることから、中世以降の溝であることが分かる。また、近世後半の溝 SD8 に切られることから、これより古い溝であると判断できる。

自然流路

NR3（図版第 58）

6A 地点の西側Ⅶ D8c・8d・9c・9d・10b・10c・10d・11c 区に位置する自然流路である。遺構の西側・東側は調査区外に続く。長さ約 13.3m、幅約 1.8 ～ 4.5m、遺構検出面からの深さ約 20 ～ 80cm である。流路の下層には泥質の堆積土や腐植物質が溜まっており、一時期滞水状態であったことが分かる。また、上層には雨水等の流れ込みによる砂層が形成されている。18 世紀以降、近世から近現代にかけての陶磁器、常滑の赤物、フイゴ羽口、杓文字などが出土している。

第 3 節　出土遺物（図版第 22 ～ 26・図版第 70・71・99 ～ 103、第 2 ～ 5・7 表）

A　弥生土器・土師器

SB1 出土土器

弥生土器の壺（344）と高杯（345）がある。

344 は無頸壺である。長胴化した体部で、口縁部周辺の器壁が著しく厚みを増す。外面はハケ、内面は板状工具によるナデ・ケズリで調整されている。口縁部に穿孔がみられる。245 はワイングラス形高杯である。杯部は球形に近く、口縁部および端部の外反はあまりみられない。三河地方で多くみられる器形である。344 は山中式と考えられ、345 は山中 I 式に位置付けられる。

B　須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器

346 は須恵器の皿、347 は緑釉陶器片、348 は内面に陰刻花文の施された灰釉陶器片である。いずれも黒笹 90 号窯式に位置付けられる。349 は黒笹 14 号窯式の灰釉陶器の碗である。これらは包含層や撹乱からの出土で、遺構に伴わない。

C　中世の土器・陶磁器

SP60 出土土器・陶磁器

350 は山茶碗の碗である。尾張型第 6 型式に位置付けられる。

SK15 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（351）、小皿（352）がある。いずれも尾張型第 6 型式に位置付けられる。

SK30 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（353・354）、輪花碗（355）がある。いずれも尾張型第 4 型式に位置付けられる。

ST1 出土土器・陶磁器

356 は尾張型第 7 型式の山茶碗の碗である。

SD2 出土土器・陶磁器

357 は大窯第 3 段階と考えられる小天目である。内外面に灰釉を施す。

SD5 出土土器・陶磁器

山茶碗の小碗（358）、碗（359・360）、小皿（361）がある。

358 は尾張型第 4 型式、359 は尾張型第 5 型式、361 は尾張型第 6 型式に位置付けられる。また、360 は北部系山茶碗で器壁が薄く、粒子が緻密で均一である。東濃型第 11 型式に位置付けられる。

SD7 出土土器・陶磁器

山茶碗の碗（362・363）、片口鉢（364）、壺（365）、常滑の甕（366）がある。

362 は尾張型第 5 型式、363・364 は尾張型第 6 型式に位置付けられる。366 は知多窯 5 型式に位置付けられる。これらの遺物は、実年代で概ね 12 世紀後葉から 13 世紀前半のものと考えられる。

SE1 出土土器・陶磁器

SE1 井戸枠内や掘方から山茶碗の碗（367 ～ 371）、小皿（372・373）が出土している。

367・368・372 は尾張型第 5 型式、369 は尾張型第 6 型式でいずれも掘方からの出土である。370・373 は尾張型第 7 型式、371 は尾張型第 8 型式に位置付けられ、いずれも井戸枠内から出土している。

井戸枠内の遺物よりも、掘方から出土した遺物の方が型式的に古い傾向にある。

SE1 の井戸枠には常滑の甕（374 ～ 376）が利用されている。374 は井戸枠の 1 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 6b 型式に位置付けられる。上胴部に 2 列の押印文が巡る。375 は井戸枠の 2 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 6a 型式に位置付けられる。肩部に押印文が巡る。376 は井戸枠の 3 段目に利用された常滑の甕で、知多窯 6a 型式に位置付けられる。肩部に押印文とヘラ描き文がみられる。377 と 378 は井戸枠内から出土した常滑の甕である。井戸枠本体か裏込めに利用されたかは不明である。377 は知多窯 6b 型式に位置付けられる。378 は知多窯 6a 型式で、肩部に高さと間隔がランダムな押印文が巡る。374 ～ 378 は知多窯 6a 型式から 6b 型式のものであり、実年代で 13 世紀後半にあたる。

D　近世以降の土器・陶磁器

SD8 出土土器・陶磁器

近世を中心とした遺物（379 ～ 385）が出土している。

379 は 18 世紀後半の肥前磁器の蓋である。380 は 18 世紀後半以降の肥前磁器の広東碗である。381 は 19 世紀前半の瀬戸美濃の梅文皿である。382 は 19 世紀前半の瀬戸美濃の丸碗である。383 は 19 世紀の瀬戸美濃の合子蓋である。384 は土師質の焙烙鍋で、金子編年（金子 1996）の L 類にあたる。19 世紀前半のものである。385 は 19 世紀の瀬戸美濃の徳利である。

NR3 出土土器・陶磁器

近世から近現代にかけての遺物（386 ～ 394）が出土している。

386 は瀬戸美濃の丸碗である。387 は瀬戸美濃の丸皿である。底部に墨書がみられる。388 は瀬戸美濃の輪禿皿である。386 ～ 388 は 19 世紀後半以降のものである。389 は 19 世紀の瀬戸美濃の中皿である。390 は 19 世紀以降の瀬戸美濃の擂鉢である。391 は 19 世紀後半以降の瀬戸美濃の水滴である。392 は常滑の壺である。393 は 19 世紀の常滑の火鉢である。394 は 18 世紀のものと思われる常滑のくどである。外面全体に煤が付着している。

E　土製品

395 と 396 は NR3 から出土したフイゴ羽口である。396 の先端部には鉄滓が付着している。

F　瓦

397 と 398 は軒丸瓦の瓦当部分の破片である。397 は SD2 出土の右巻きの三巴文で、珠文を巴の周囲に配する。珠文は 11 個ほど残存する。瓦当面の一部に自然釉が掛かる。398 は左巻きの三巴文で、珠文は 6 個ほど残存する。398 は SD2 近くの包含層からの出土であるが、同一個体ではない。12 世紀後半の知多窯産の瓦であろうか。399 は SD7 から出土した丸瓦である。凹面の布目痕、凸面の縄タタキ痕は明瞭に残る。全体的にやや赤く焼きあがっている。

G　金属製品

400 は刀子である。破断面から刀身中程の最大幅 2.5cm、最大厚 0.3cm 程と考えられる。外面に人の指骨の可能性のある骨片が付着している。

第 8 章　自然科学分析

東畑遺跡 3 地点出土人骨の鑑定

金井　慎司（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

今回の分析調査では、東畑遺跡 3 地点の 12 世紀後葉から 13 世紀初頭の隅丸方形土坑から出土した人骨について解剖学的な鑑定を行い、出土部位、性別、年齢等の埋葬者に関する情報を得る。

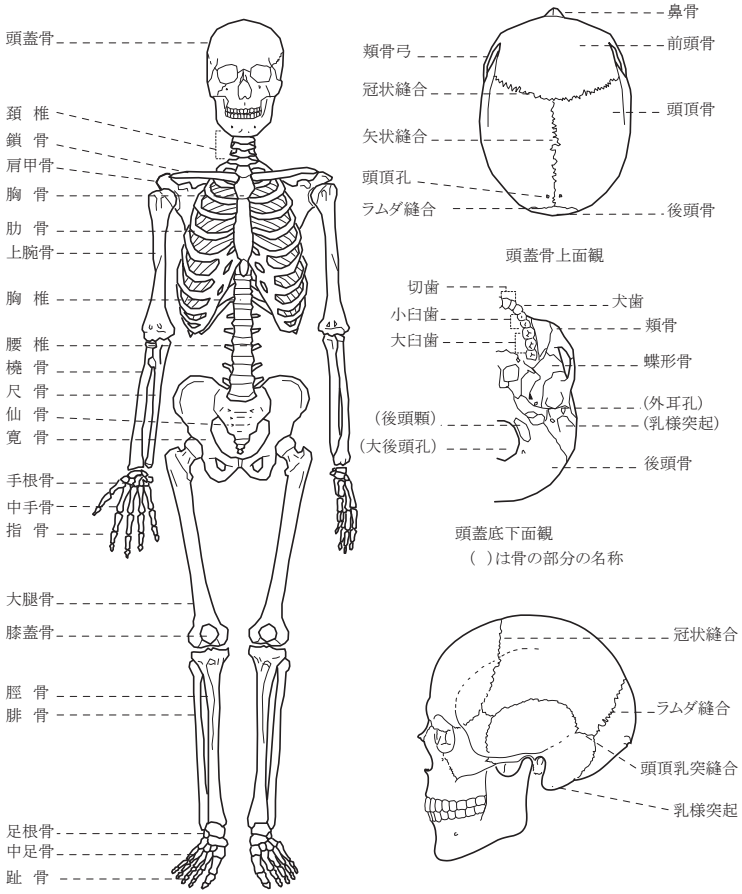
1．資料

人骨が出土した ST1 は隅丸方形土坑であり、出土した山茶碗（244）から 12 世紀後葉から 13 世紀初頭の土坑墓と考えられている。

骨は、部位ごとに取り上げられ、番号が付されている。今回、同定を行った資料は、12 資料であり、内 1 点のみ出土位置が不明である（図版第 109）。

2．分析方法

資料を肉眼で観察し、形態的特長から種類・部位を明らかにする。歯牙に関しては、竹串および乾いたブラシでクリーニングを行い、デジタルノギスを用いて藤田（1949）に従い大きさを計測した。



第 176 図　人体骨格各部の名称

なお、人体骨格各部の名称については第 176 図に示す。

3．結果および考察

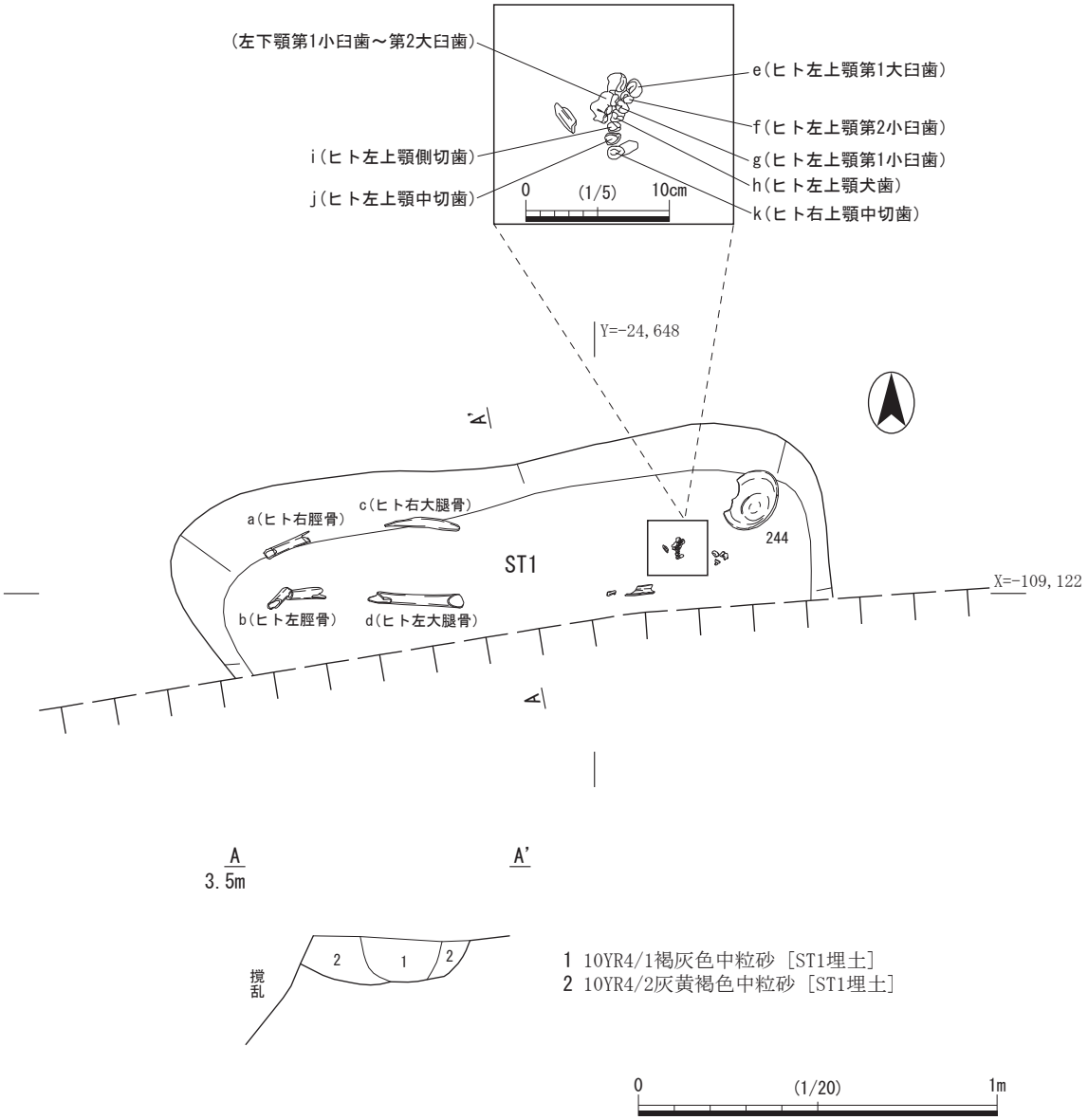
同定結果を第 1 表に示す。出土骨の部位は、上顎歯牙と下肢骨に同定された。

上顎歯牙は、左上顎中切歯～第 1 大臼歯、右上顎中切歯、右上顎犬歯が確認される。いずれも歯冠部のみが残存する。切歯はシャベル型を示す。なお、発掘調査時の記録写真をみると、左上顎犬歯～第 1 大臼歯に咬み合わさる歯牙 4 本がみられる。これらは写真判読であるが、左下顎第 1 小臼歯～第 2 大臼歯の可能性がある。

下肢骨は、左右の大腿骨、左右の脛骨からなる。大腿骨および脛骨は、両端が欠損した骨体部の破片であるが、左大腿骨と右脛骨は

第１表　出土骨同定結果

調査区	グリッド	遺構	記号	種類	部位・位置			数量	計測値		備考
					部位	部分	位置		歯冠幅	歯冠厚	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	a	ヒト	脛骨	－	右	1	－	－	－
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	b	ヒト	脛骨	－	左	1	－	－	破片１
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	c	ヒト	大腿骨	－	右	1	－	－	破片 12
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	d	ヒト	大腿骨	－	左	1	－	－	破片 7+
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	e	ヒト	上顎歯牙	第１大臼歯	左	1	11.81	12.59	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	f	ヒト	上顎歯牙	第２小臼歯	左	1	7.46	10.09	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	g	ヒト	上顎歯牙	第１小臼歯	左	1	8.07	10.56	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	h	ヒト	上顎歯牙	犬歯	左	1	8.54	9.49	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	i	ヒト	上顎歯牙	側切歯	左	1	8.41	7.44	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	j	ヒト	上顎歯牙	中切歯	左	1	9.66	8.17	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	k	ヒト	上顎歯牙	中切歯	右	1	9.50	8.20	
東畑遺跡３地点	ⅡD5k	ST1	l	ヒト	上顎歯牙	犬歯	右	1	8.32	9.56	



第 177 図　東畑遺跡３地点 ST1 平面図・断面図・人骨出土状況図（1/20, 1/5）

比較的長い破片からなる。

以上、出土骨は少ないが、土坑内での各部位の分布状況をみると、解剖学的位置を保っているようにみえる（第 177 図）。すなわち、歯牙および下肢の出土位置から、頭部を東側にし、顔面を南側に向け、足を伸ばした状態で埋葬されている可能性がある。そうだとすると仰臥伸展葬（仰向けで体全体を伸ばした状態で埋葬）であったことになる。

埋葬者の年齢・性別については、残存部位が少なく正確な情報を得ることが難しいが、出土歯牙の計測値と咬耗状況から次の可能性が指摘される。今回の歯牙は、その計測値と現代人の計測値（權田 1959）との比較から、男性的である。また、第 1 大臼歯の咬耗状況と、Brothwell(1981) の咬耗状況の調査例との比較から、年齢的には少なくとも壮年（20 ～ 39 歳程度）に達していた可能性が高い。

体躯については、大腿骨、脛骨ともに両端が破損しているため、全長を推定することは不可能であるが、土坑下端の長軸長が約 150cm 程度であり、上記したように伸展葬であった可能性が高いことから、それよりも小さい体躯であった可能性がある。

引用文献

Brothwell, D. R. , 1981, “Digging up Bones ” Cornell University Press.

藤田恒太郎 1949「歯の計測基準について」『人類学雑誌』61,27-32　日本人類学会。

權田和良 1959「歯の大きさの性差について」『人類学雑誌』67,151-163　日本人類学会。

第９章　総　括

１　遺構について

(1) 東畑遺跡の竪穴建物について

今回の調査で、東畑遺跡では計 33 棟の竪穴建物が確認された。砂堆上に立地するため、遺構検出が難しく、高潮・洪水等による侵食・運搬・堆積作用の影響で、多くの竪穴建物はその下層部分が残存するのみであった。その中でも、断面観察や遺物の出土状況等から貼床土や床面を確認できた遺構もあった。

まず、竪穴建物の時期について述べる。東畑遺跡１地点では、弥生時代中期末の高蔵式期から８世紀前半の竪穴建物が計７棟確認された。そのうち弥生時代終末期にあたる廻間Ⅰ式期の竪穴建物が３棟みられる。東畑遺跡２地点では、弥生時代中期の貝田町式期から古墳時代前～中期の松河戸Ⅱ式期までの竪穴建物が計 18 棟確認された。また、SK37 と SX3 は、弥生時代中期の竪穴建物の一部である可能性がある。更に、調査区東側で検出した SL1 は、宇田Ⅰ式期の竪穴建物のカマドと考えられる。東畑遺跡３地点では、弥生時代後期にあたる山中Ⅱ式期から古墳時代後期までの竪穴建物が計８棟確認された。そのうち古墳時代前期にあたる松河戸Ⅰ式期の竪穴建物が３棟みられる。今回の調査区内でこれら以外にも竪穴建物が存在し、自然現象等により消失した可能性は否定できない。しかし、残存した竪穴建物の時期から判断すれば、想定される東畑遺跡の範囲の南側は、少なくとも弥生時代中期から古墳時代前期にかけて連綿と居住域として利用されたことが考えられる。

次に、竪穴建物の立地について考えたい。東畑遺跡は、大田の谷の砂堆列の中で最も内陸寄りにある第１砂堆の南側に位置する。また、現況地形からも今回の調査地点は、第１砂堆の南縁にあたると考えられる。東畑遺跡１～４地点の南側には一段低い地形が広がっている。東畑遺跡４地点の南側で確認した地形の落ち込みは、砂堆と低地との境界を示す可能性がある。過去の調査（永井・宮澤 2007、宮澤 2009、宮澤・桐山・坂野ほか 2009）では、東畑遺跡の範囲の北側で弥生時代中期から古墳時代前期初頭にかけての方形周溝墓が確認されており、当該期の墓域と考えられている。今回の東畑遺跡の調査では、２地点北側で方形周溝墓の周溝の可能性のある遺構を１条確認しているが、総じて東畑遺跡の南側は集落の主要な居住域であったといえる。居住域と墓域を明確に区分する構造物は確認されていない。居住域が砂堆の南縁に位置することについて、様々な要因が考えられる。そのひとつとして稲作農耕が挙げられる。現在の大田川は、第１砂堆の北側を直線的に貫通して、伊勢湾に注いでいるが、これは江戸時代の大改修によるものである。かつては、東畑遺跡の立地する第１砂堆の南側へ迂回し、現在の高横須賀町辺りで河口を開いていた。おそらく、東畑遺跡の東から南に位置する低湿地は主要な稲作農耕の場となっていたと推察される。弥生時代中期から古墳時代前期の東畑遺跡の人々は水田に近い砂堆の南縁部を居住域のひとつとして選択したのであろう。また、全体的に軸方向が同じ竪穴建物が多く、当時の等高線（自然地形）に沿って建てられた可能性がある。

周辺では弥生時代中期以降、やや内陸寄りの砂堆で遺跡が増加する。東海市の柳ヶ坪遺跡や知多市の法海寺遺跡、獅子懸遺跡、野崎遺跡などが挙げられる。また、弥生時代後期の山中式期か

ら終末期の廻間Ⅰ式期にかけて、周辺では丘陵上に立地する集落が現れる。東海市の中ノ池遺跡や知多市の大廻間遺跡、楠廻間遺跡である。特に大廻間遺跡からは、V 字形に掘られた区画溝が検出されており、高地性集落的な要素を持つ。これらの遺跡も踏まえて、この地域の集落論を再考する必要がある。

(2) 中世の井戸について

今回の調査で、近現代も含めると多くの井戸が確認されている。ここでは、特に中世の井戸について述べる。中世の井戸は東畑遺跡 2 地点で 2 基（そのうち 1 基は素掘り井戸か）、東畑遺跡 3 地点で 1 基、郷中遺跡 6A 地点で 1 基ほど検出されている。これらの井戸に特徴的なことは、井戸枠に常滑産の大甕を利用していることである。過去の東畑遺跡の調査でも、常滑産の大甕を井戸枠として利用した井戸が確認されている（永井・宮澤 2007、宮澤 2009）。

まず、井戸の構築・廃絶時期についてまとめる。東畑遺跡 2 地点の SE1 は知多窯 8 ～ 9 型式の常滑甕を利用している。14 世紀後半から 15 世紀前半のある時期に掘削・構築されたものと考えられる。廃絶時期は、他の出土遺物から 15 世紀中・後葉の可能性がある。東畑遺跡 3 地点の SE1 は知多窯 6a ～ 7 型式の常滑甕を利用している。13 世紀後半から 14 世紀前半のある時期に掘削・構築されたものと考えられる。掘方出土遺物と井戸枠内出土遺物では、明瞭な時期差を確認することは難しい。掘削・構築後に短期間で廃絶したことが考えられる。郷中遺跡 6A 地点の SE1 は知多窯 6a・6b 型式の常滑甕を利用している。13 世紀後半に掘削・構築されたものである。井戸枠内から出土した遺物から、掘削・構築後に短期間で廃絶したことが考えられる。また、すべての井戸において上段の甕が下段の甕よりも型式的に新しい傾向にあることが窺えることから、井戸枠の組み換えを行っている可能性も考えられるだろう。

次に、構造についてであるが、前述した 3 つの井戸すべてにおいて、段掘りがみられる。また、上段の甕ほど大型品を利用する傾向にある。水溜部の構造は、湧水のため詳細な記録を残すことはできなかったが、郷中遺跡 6A 地点 SE1 からは曲物を確認することができた。また、東畑遺跡 2 地点 SE1 の最下段に利用された甕の底部付近には 2 ヶ所の穿孔がみられ、内側には河原石が詰め込まれていた。これは井戸水の浄化装置である。各井戸の調査の結果、標高 1.0 ～ 1.5m 程に第 1 砂堆の湧水層があると推定できる。

土器を井戸枠として再利用する例は、すでに弥生時代からみられる。12 世紀頃になると、各地で法量の規格的な同じ器種の土器を積み上げて井戸枠を構築する例が多く認められる（鐘方 2003）。東畑遺跡や郷中遺跡で井戸枠に常滑産の大甕を用いたのは、日常的に入手しやすく、大型で比較的丈夫な素材であったからであろう。

2　遺物について

(1) 弥生・古墳時代の遺物について

東畑遺跡を中心に、弥生時代から古墳時代の遺物が確認されている。

東畑遺跡では遺構に伴わないが、広範囲で樫王式や水神平式などの条痕文土器が確認されている。また、畑間遺跡 5 地点では弥生時代前期の遠賀川系の甕が出土している。以前の調査では畑間遺跡の旧海岸線に近い場所、すなわち第 1 砂堆の南西側から条痕文土器を主体に、遠賀川系土器や浮線文系土器が確認されている（永井・宮澤 2007）。近隣では、大田の谷から続く砂堆上に立

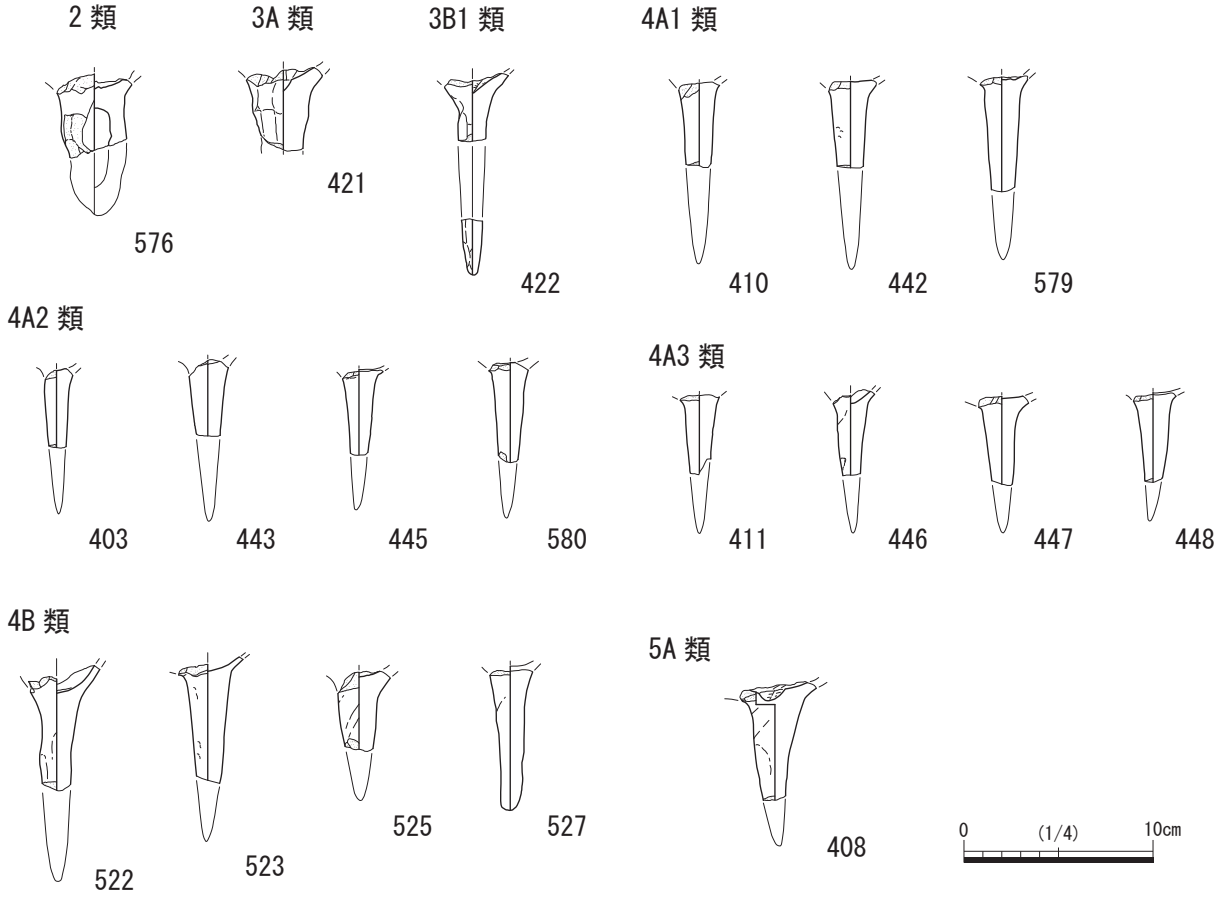
地する知多市荒古遺跡、細見遺跡、下内橋遺跡で遠賀川系土器の出土が知られている。

弥生時代中期にあたる貝田町式期や高蔵式期となると、東畑遺跡では竪穴建物などの居住環境が整備され、遺物の出土量が大幅に増える。弥生時代中期末（高蔵式期）から古墳時代前～中期（松河戸Ⅱ式期）までが集落の主要な継続期間であるが、砂堆という立地条件から遺物の残存状態はよくなく、一括性に乏しい。その中でも、東畑遺跡 2 地点 SX2 出土土器は良好な一括資料である。遺構の東側から出土した土器は凹線文系土器を主体とした高蔵式のものに限られる。

東畑遺跡や畑間遺跡は知多半島の付け根に位置するという地理的条件から、遺物に関しても尾張地方、三河地方、知多半島、更には伊勢地方などの影響を受けていると思われる。以前の調査も加えた出土遺物をもう一度精査し、系統的に整理・検討する必要がある。

(2) 製塩土器について（第 178 図、図版第 104 ～ 108 図、第 8 ～ 10 表）

各地点の遺物包含層を中心に製塩土器が出土している。その多くが脚部片で、すべて知多式製塩土器に位置付けられる。更に、杯口縁部や脚部の形状、脚部法量（付け根径・脚高）から分類を行なった。東畑遺跡では 3 類、4A 類（4A1・4A2・4A3 類）、5 類、5A 類の知多式製塩土器が確認されている。4A 類が大部分を占める。畑間遺跡では 3A 類、3B 類、3B1 類、4A 類（4A1・4A2・4A3 類）、4B 類、4C 類の知多式製塩土器が確認されている。脚部の中程や下端のみの資料は詳細な分類が難しいが、残りのよい資料から判断すると東畑遺跡と同様に 4A 類が大部分を占めると考えられる。郷



第 178 図　製塩土器分類図（1/4）

中遺跡では 1 類、2 類、3B 類、4 類、4A 類（4A1･4A2 類）、4B 類の知多式製塩土器が確認されている。他の地点と同様に 4A 類が大部分を占める。

4A 類は、容易に砂に差し込めるように、細身で端部の尖った脚部をもつ製塩土器で、7 世紀中葉から 9 世紀中葉にかけて作り出されている。今回の調査で、特に畑間遺跡 5 地点で多くの製塩土器が出土した。畑間遺跡 5 地点では 7 世紀前葉から中葉にかけての東山 50 号窯式期や 8 世紀前葉の高蔵寺 2 号窯式期の竪穴建物が確認されている。遺物包含層からも須恵器や灰釉陶器といった古代の遺物が多く出土している。また、平成 19 年度の畑間遺跡の調査では 4 棟の古代の竪穴建物が確認されている（宮澤 2009）。

最も海岸寄りに位置する第 3 砂堆上には、松崎遺跡や上浜田遺跡といった著名な土器製塩遺跡がある。第 1 砂堆に位置する畑間遺跡の面した入り江周辺でも古代の土器製塩が盛んに行われていたと推察される。

(3) 瓦塔について

東畑遺跡 2 地点では、調査区西側の遺物包含層から瓦塔や浄瓶といった古代の仏教信仰に関わる遺物が出土している。平成 20 年度の畑間遺跡の調査で、緑釉陶器火舎香炉や瓦、花瓶、三筋壺、「寺」墨書の山茶碗などの遺物が出土しており、古代末から中世にかけて周辺に寺院が存在した可能性が指摘されている（宮澤・桐山・坂野ほか 2009）。瓦塔は、古代において仏教信仰のために五重塔や七重塔を模して作られた土師・須恵製の塔で、関東・北陸地方、長野県、愛知県が主要な分布域である。愛知県では生産の場である猿投山西南麓古窯群や寺院跡での出土例が多く、近年になって集落跡からの出土も増えてきている（永井 2000）。

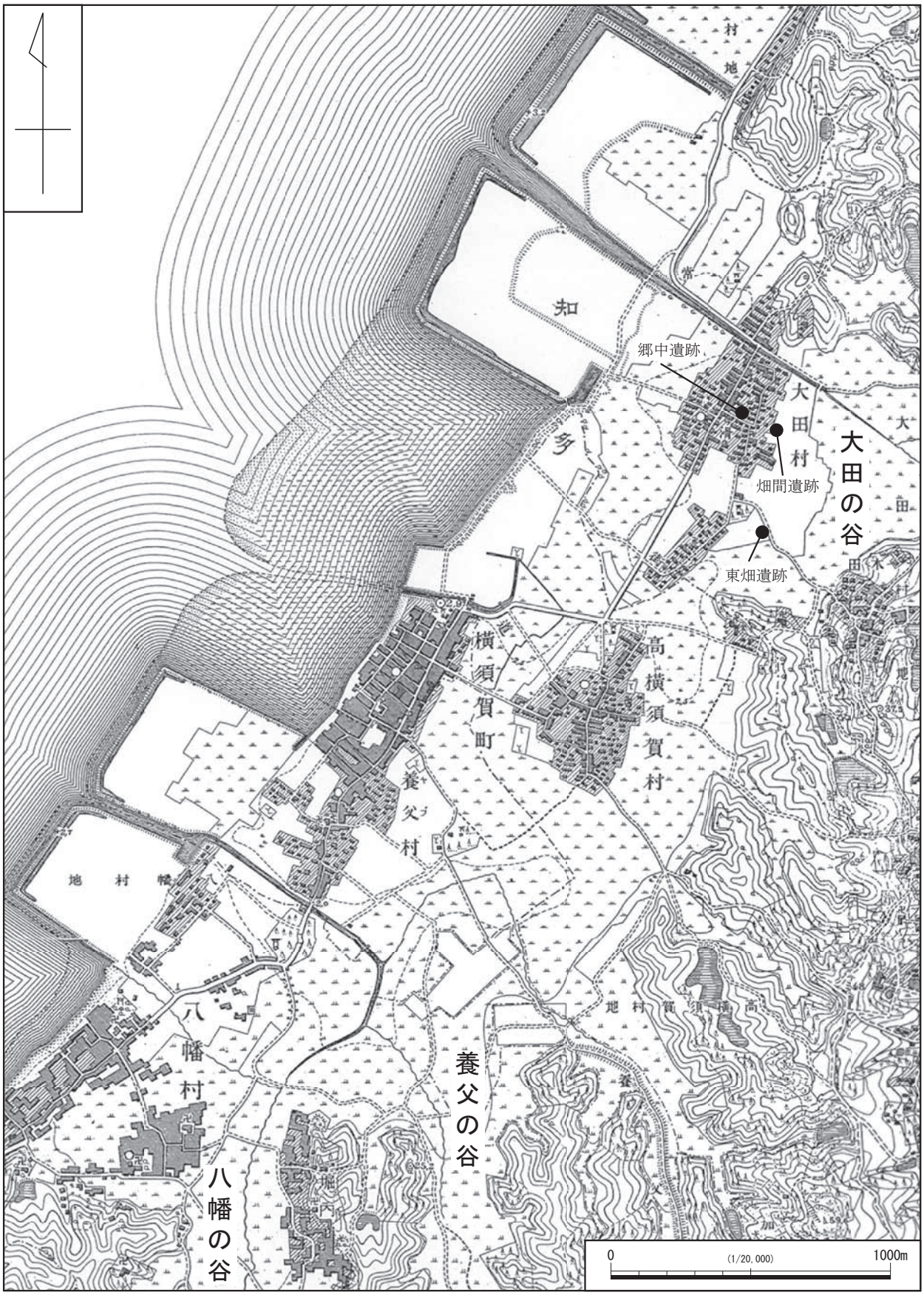
今回出土した瓦塔は須恵製で、屋蓋部の破片である。屋根瓦表現が丸瓦列のみの A タイプである（石田 1997）。猿投産石田 A タイプの瓦塔は 8 世紀後葉に登場し、節や隅降棟に省略が進んだものはやや後に位置付けられる（永井 2006）。瓦塔の詳細な時期は不明であるが、近くから 9 世紀前半の黒笹 14 号窯式の浄瓶が出土しており、これに近い年代が与えられる可能性がある。

3　まとめ（第 179 図）

最後に、遺跡の立地する砂堆の形成も含めた若干の考察を行い、結びとしたい。

今回扱っていないが、主として東畑遺跡 1 地点や東畑遺跡 2 地点東側の遺物包含層から条痕文土器とともに、縄文時代晩期前葉の元刈谷式土器が多く出土した。また、それに混じって縁帯文土器や注口土器といった縄文時代後期にまで遡る遺物も確認されている。最も海岸寄りに位置する第 3 砂堆には北から烏帽子遺跡、荒古遺跡、細見遺跡といった弥生時代前期の遺跡が分布している。これらの調査から、縄文時代晩期後半には第 3 砂堆で人々の生活が開始されたと考えられる。第 1 砂堆は第 3 砂堆よりも早く離水し、人々の活動可能な地表面が形成された可能性が高い。第 1 砂堆の形成時期を知る上でもそれらの縄文土器は重要で、今後の整理が待たれる。

東畑遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての居住域が確認された。居住域と墓域が区分されている例として、尾張平野では朝日遺跡が代表的であるが、知多半島では初めての事例である。その背景には大田の谷での稲作農耕の安定化ということが考えられるが、現段階では推測の域を出ない。また、東畑遺跡 2 地点では古代の瓦塔が出土した。通常、集落からの出土は稀で、



第 179 図　大田・養父・八幡の谷（1/20,000）

周辺に小規模なお堂など、仏教に関連した遺構が存在する可能性が考えられる。

畑間遺跡では、古墳時代終末から中世にかけての集落が確認された。多くの知多式製塩土器が出土しており、古代は土器製塩を生業とした人々が生活を営んでいたのであろう。第 3 砂堆上にある烏帽子遺跡や大木之本遺跡でも古代の竪穴建物が確認されている。特に大木之本遺跡では 8 世紀後半から 9 世紀初頭の竪穴建物や掘立柱建物が良好な状態で検出されている（立松・永井 1998）。これらの遺跡は、土器製塩を生業としていた人々の集落であったのだろう。

郷中遺跡では、主として中世から近世にかけての集落が確認された。そして、その集落は現在まで続く。

畑間遺跡、東畑遺跡および郷中遺跡は、縄文時代中期以降の海進と海退が繰り返されるなかで形成された砂堆上に立地している。知多半島の伊勢湾岸で最も広い海岸平野である大田の谷は、古くより稲作や土器製塩を行う生産地であり、砂堆には集落が形成された。現在では集落の分布から砂堆範囲を推定することは難しいが、明治時代に作成された地形図（第 179 図）では砂堆上に集落が形成されていることが分かる。

引用参考文献

石黒立人　2006「伊勢湾周辺地域における弥生時代の平野地形について」
『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第 7 号　（財）愛知県埋蔵文化財センター。

鐘方正樹　2003『井戸の考古学』（ものが語る歴史シリーズ⑧）　同成社。

杉崎章　1969「横須賀町のあらまし」『横須賀町史』　横須賀町役場。

杉崎章編　1979『法海寺遺跡』（知多市文化財報告第 15 集）　知多市教育委員会。

立松彰　1997『愛知県東海市東畑遺跡等試掘調査報告』　東海市教育委員会。

立松彰ほか　1998『知多弥勒寺遺跡発掘調査報告』　東海市教育委員会。

永井伸明･宮澤浩司　2007「伊勢湾を望む海辺の遺跡－東畑遺跡等発掘調査概報－」『研究報告とうかい』
創刊号　東海市教育委員会。

長島広・柴田直光　1999『愛知県知多半島遺跡詳細分布調査報告書』　愛知県教育委員会。

福岡猛志ほか　1981『知多市史』本文編　知多市。

牧野内猛･中山勝博　1990「東海層群 -1 伊勢湾東岸地域」『アーバンクボタ』No.29　株式会社クボタ。

松島義章　1983「小規模なおぼれ谷に残されていた縄文海進の記録」『月刊 海洋科学』Vol.15, No.1
海洋出版株式会社。

宮澤浩司　2009「伊勢湾を望む海辺の遺跡（2）－平成 19 年度畑間・東畑遺跡発掘調査の概要－」
『研究報告とうかい』第 2 号　東海市教育委員会。

宮澤浩司・桐山秀穂・坂野俊哉ほか　2009『畑間・東畑遺跡発掘調査報告』　東海市教育委員会。

遺物については、下記の参考文献に拠った。

＜弥生土器＞

永井宏幸・村木　誠　2002「尾張地域」『弥生土器の様式と編年－東海編－』　木耳社。

前田清彦・鈴木とよ江　2002「三河地域」『弥生土器の様式と編年－東海編－』 木耳社。
赤塚次郎　1992「山中式土器について」『山中遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 40 集)
(財) 愛知県埋蔵文化財センター。
＜土師器＞
赤塚次郎　1990「廻間式土器」『廻間遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 10 集)
(財) 愛知県埋蔵文化財センター。
赤塚次郎　1997「廻間Ⅰ・Ⅱ式再論」『西上免遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 73 集)
(財) 愛知県埋蔵文化財センター。
赤塚次郎　1994「付論 1　松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』(愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 48 集) (財) 愛知県埋蔵文化財センター。
赤塚次郎・早野浩二　2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第 2 号
(財) 愛知県埋蔵文化財センター。
＜須恵器＞
尾野善裕　1997「尾張･西三河 (窯跡)　猿投･尾北･その他」『古代の土器 5-1　7 世紀の土器 (近畿東部･東海編)』 古代の土器研究会。
尾野善裕　2000「猿投窯 (系) 須恵器編年の再構築」『須恵器の出現から消滅―猿投窯・湖西窯編年の再構築―』(第 1 回東海土器研究会資料)　東海土器研究会。
城ヶ谷和広　2010「総論　編年及び編年表　土師器・須恵器・施釉陶器 (緑釉・灰釉)」『愛知県史　資料編 4　考古 4　飛鳥～平安』 愛知県。
＜灰釉陶器＞
齊藤孝正　1989「灰釉陶器生産の一様相」『美濃の古陶』 美濃古窯研究会。
城ヶ谷和広　2010「総論　編年及び編年表　土師器・須恵器・施釉陶器 (緑釉・灰釉)」『愛知県史　資料編 4　考古 4　飛鳥～平安』 愛知県。
＜瓦塔＞
石田成年　1997「摂河泉の瓦塔」『河内古文化研究論集』 和泉書院。
永井邦仁　2000「古代の瓦塔」『まいぶん愛知』No. 61　(財) 愛知県埋蔵文化財センター。
永井邦仁　2006「東海地方の古代瓦塔研究ノオト」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第 7 号
(財) 愛知県埋蔵文化財センター。
＜製塩土器＞
立松彰　2010「塩生産」『愛知県史　資料編 4　考古 4　飛鳥～平安』 愛知県。
＜山茶碗＞
藤澤良祐　1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第 3 号　三重県埋蔵文化財センター。
岡本直久　2005「山茶碗編年の現状について」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集 (第 2 版)』 同シンポジウム実行委員会。

＜常滑＞
赤羽一郎・中野晴久　1994「生産地における編年について」『シンポジウム　中世常滑焼を追って』資料集　同シンポジウム実行委員会。
中野晴久　2005「常滑・渥美」『全国シンポジウム　中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～　発表要旨集（第 2 版）』 同シンポジウム実行委員会。
中野晴久　2006「生産③　常滑窯」『江戸のやきものー生産と流通ー』（記念講演会･シンポジウム資料集）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター。
＜瀬戸美濃＞
藤澤良祐　2009『中世瀬戸窯の研究』 高志書院。
藤澤良祐　2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第 10 輯　（財）瀬戸市埋蔵文化財センター。
瀬戸市埋蔵文化財センター　2001『瀬戸大窯とその時代』（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター設立 10 周年記念企画展図録）（財）瀬戸市埋蔵文化財センター。
瀬戸市埋蔵文化財センター　2002『江戸時代の瀬戸窯』（財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター企画展図録）（財）瀬戸市埋蔵文化財センター。
＜肥前＞
大橋康二　1989『考古学ライブラリー 55　肥前磁器』 ニュー・サイエンス社。
＜土師器鍋・釜＞
北村和宏　1996「尾張の伊勢型鍋」『鍋と甕　そのデザイン』（第 4 回東海考古学フォーラム資料集）東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会。
北村和宏　1996「尾張の羽釜」『鍋と甕　そのデザイン』（第 4 回東海考古学フォーラム資料集）　東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会。
金子健一　1996「尾張・三河地方のホウロク」『鍋と甕　そのデザイン』（第 4 回東海考古学フォーラム資料集）　東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会。
＜中国産磁器＞
横田賢次郎・森田　勉　1978「大宰府出土の輸入陶磁器について―型式分類と編年を中心にして―」『九州歴史資料館研究論集』4　九州歴史資料館。
森田　勉　1982「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2　貿易陶磁研究会。
山本信夫　1995「中世前期の貿易陶磁器」中世土器研究会編『概説　中世の土器・陶磁器』 真陽社。

第２表　畑間・東畑・郷中遺跡出土土器・陶磁器観察表

1. 器種・型式・その他用語については本文の遺物の記載で準拠した文献に基づく。
2. 残存率は、基本的に口縁部にて計測し、12 分のいくつかで記載した。ただし底部破片の場合は底部で計測した。
3. 括弧付きの数値について、直径・底径では復元径を、器高では残存高を示す。
4. 内面と外面の項目では調整技術・文様を記載した。
5. 胎土は、基本的に砂粒・礫を含むか含まないかを記載した。
6. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
1	HH09-1	ⅡE2q	SB1	土師器	加飾壺	2/12	(15.9)	(3.6)	－	ハケ、ヨコナデ、ヨコミガキ	ヨコナデ、タテミガキ、擬凹線	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間Ⅰ式	赤彩
2	HH09-1	ⅡE2q	SB1	土師器	広口壺	9/12	(14.8)	(4.5)	－	板ナデ、指オサエ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	5YR6/6 橙	廻間Ⅰ式	
3	HH09-1	ⅡE2q	SB1	土師器	壺	0/12	－	(5.7)	－	板ナデ、指オサエ	ミガキ	砂粒を含む	外：5YR6/6 橙 内：5Y4/1 灰		外面に線刻、赤彩
4	HH09-1	ⅡE2q	SB1	土師器	高杯	9/12	－	(5.7)	10.1	板ナデ、指ナデ	タテハケ、タテミガキ、ヨコミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間Ⅰ式	透孔3方向
5	HH09-1	ⅡE2q	SB1	土師器	鉢	3/12	(13.2)	5.3	－	ナデ	ヨコナデ、磨滅	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	
6	HH09-1	ⅡE1t	SB2	土師器	二重口縁壺	1/12	(17.9)	(4.9)	－	ナナメハケ、指ナデ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	廻間Ⅲ式	
7	HH09-1	ⅡE1t	SB2	土師器	甕	1/12	(17.0)	(4.0)	－	ヨコハケ、指オサエ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	廻間Ⅰ式	く字状口縁
8	HH09-1	ⅡE1t・ⅡF1a	SB2	土師器	甕	1/12	(10.0)	(3.0)	－	指オサエ、タテ指ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	廻間Ⅲ式	S字状口縁
9	HH09-1	ⅡE1t・ⅡF1a	SB2	土師器	甕	1/12	(15.0)	(2.2)	－	ヨコナデ、指オサエ	タテハケ、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒を含まない	10YR6/4 にぶい黄橙	廻間Ⅲ式	S字状口縁
10	HH09-1	ⅡE1t	SB2	土師器	高杯	1/12	(24.6)	(7.0)	－	ヨコミガキ、タテミガキ、ヨコナデ	ヨコミガキ、タテミガキ、ヨコナデ	砂粒を含まない	2.5Y7/2 灰黄	廻間Ⅰ式	
11	HH09-1	ⅡF1a	SB2	土師器	高杯	2/12	－	(9.1)	(15.0)	ナデ、ヨコハケ、ヨコナデ	タテハケ、ナデ、タテミガキ、横線文2条	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	透孔残存1
12	HH09-1	ⅡE1t	SB2	土師器	壺	4/12	(8.4)	(9.4)	－	指オサエ、板ナデ、指ナデ	板ナデ、指ナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	松河戸Ⅰ式	
13	HH09-1	ⅡE1t・ⅡF1a	SB2	土師器	高杯	4/12	(17.6)	(5.8)	－	ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	松河戸Ⅰ式	
14	HH09-1	ⅡE1t	SB2	土師器	高杯	－	－	(7.8)	－	板ナデ	タテミガキ、指ナデ	砂粒を含む	外：7.5YR6/6 橙 内：5YR5/6 明赤褐	松河戸Ⅰ式	
15	HH09-1	ⅡE1t	SB2	土師器	高杯	4/12	(14.7)	12.1	10.6	絞り痕、ヨコナデ、タテミガキ	タテミガキ	砂粒を含む	5YR7/6 橙	松河戸式	透孔無
16	HH09-1	ⅡE2t	SB3	土師器	広口壺	1/12	(20.0)	(2.4)	－	タテハケ、タテミガキ、羽状刺突文、扇形文	タテハケ、タテミガキ、羽状刺突文	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	
17	HH09-1	ⅡF2a	SB3	土師器	高杯	1/12	(22.0)	(5.0)	－	ナナメハケ、ヨコナデ、タテミガキ	ナナメハケ、ヨコナデ、タテミガキ	砂粒を含む	10YR8/4 浅黄橙	廻間Ⅰ式	
18	HH09-1	ⅡF2a	SB3	土師器	高杯	1/12以下	－	(9.7)	(16.0)	ナナメハケ、板ナデ、ヨコナデ	タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	透孔残存1
19	HH09-1	ⅡF1b	SB4	土師器	甕	1/12	(18.0)	(3.5)	－	ヨコハケ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ、刺突文	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅰ式	受口状口縁
20	HH09-1	ⅡF1a	SB4	土師器	甕	1/12	(19.0)	(3.0)	－	ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	く字状口縁
21	HH09-1	ⅡF1a	SB5	弥生土器	細頸壺	－	－	(3.5)	－	ナデ	ミガキ、櫛描直線文	砂粒を含む	外：5YR6/2 灰褐 内：7.5YR2/1 黒	高蔵式	
22	HH09-1	ⅡF1a	SB5	弥生土器	細頸壺	－	－	(4.8)	－	ハケ、指オサエ	細かいタテハケ、多条直線文、波状文	砂粒を含む	外：7.5YR6/6 橙 内：5Y2/1 黒	高蔵式	
23	HH09-1	ⅡF1b	SB6	弥生土器	細頸壺	－	－	(3.0)	－	ハケ、指オサエ	ナナメハケ、沈線、ヨコミガキ、縦位ハケ	砂粒を含む	2.5Y7/3 浅黄	高蔵式	
24	HH09-1	ⅡF1b	SL1 (SB7)	土師器	甕	9/12	－	(6.4)	6.0	ナデ、指オサエ	タテハケ、ケズリ	砂粒を含む	外：5YR7/6 橙 内：10YR7/6 明黄褐	濃尾系甕8c前半か	平底、葉脈痕
25	HH09-1	ⅡE2r	SP24	土師器	甑	6/12	(17.3)	27.7	(10.4)	指ナデ、板ナデ、ナナメハケ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコ板ナデ、指オサエ	砂粒、礫を含む	7.5YR6/6 橙	宇田式	底部穿孔6ヶ所
26	HH09-1	ⅡE2r	SK25	土師器	甕	9/12	14.0	(15.7)	－	指オサエ、指ナデ、板ナデ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	5YR7/8 橙	宇田Ⅰ式	く字状口縁
29	HH09-2	ⅠE15h	SB1	土師器	壺	12/12	11.4	6.8	4.7	板ナデ、ヨコハケ、ヨコナデ	板ナデ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	松河戸Ⅱ式	
30	HH09-2	ⅠE15h	SB1	土師器	広口壺	12/12	15.3	(6.4)	－	ケズリ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	松河戸Ⅱ式	
31	HH09-2	ⅠE15h	SB1	土師器	甕	10/12	15.0	(13.9)	－	板ナデ、指オサエ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	松河戸Ⅱ式	く字状口縁
32	HH09-2	ⅠE15g	SB1	土師器	高杯	1/12以下	(20.5)	(7.5)	－	ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	10YR8/6 黄橙	廻間Ⅱ式	
33	HH09-2	ⅠE15h	SB1	土師器	高杯	4/12	(15.5)	(4.8)	－	指ナデ、ヨコナデ	ナナメミガキ、ヨコナデ	砂粒を含む	5YR6/8 橙	宇田Ⅰ式	
34	HH09-2	ⅠE14i	SB2	弥生土器	細頸壺	－	－	(5.3)	－	絞り痕、ナデ	タテハケ、ナデ、多条直線文	砂粒を含む	外：7.5YR8/6 浅黄橙 内：10YR8/2 灰白	高蔵式	
35	HH09-2	ⅠE14i	SB2	弥生土器	細頸壺	－	－	(3.4)	－	ナデ	沈線、ミガキ、斜格子文	砂粒を含む	2.5YR6/2 灰赤	高蔵式	
36	HH09-2	ⅠE17g	SB3上層	土師器	甕	1/12以下	(20.0)	(1.4)	－	ヨコハケ、ヨコナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	10YR5/3 にぶい黄褐	廻間Ⅱ式	S字状口縁
37	HH09-2	ⅠE17g	SB3	土師器	器台	1/12	(8.0)	(2.3)	－	ヨコミガキ	ヨコミガキ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	廻間Ⅱ式	
38	HH09-2	ⅠE17g	SB3上層	土師器	－	12/12	－	(4.1)	4.2	板ナデ	板ナデ	砂粒、礫を含む	5YR6/6 橙		ミニチュア土器か
39	HH09-2	ⅠE19g	SB4	土師器	甕	11/12	12.0	(16.2)	－	指オサエ、板ケズリ、ヨコナデ	タテハケ、ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	布留式	
40	HH09-2	ⅠE18g	SB4	土師器	甕	1/12以下	(13.6)	23.1	3.6	板ナデ、指オサエ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナデ、ケズリ、板ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	松河戸Ⅱ式	平底
41	HH09-2	ⅠE18g	SB4	土師器	甕	12/12	13.4	(18.4)	－	板ナデ、指オサエ	板ナデ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	松河戸Ⅱ式	
42	HH09-2	ⅠE18h	SB4	土師器	高杯	6/12	(14.7)	(13.3)	(12.6)	ヨコミガキ、絞り痕、タテ指ナデ、ヨコナデ	ヨコミガキ、タテミガキ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/6 明黄褐	松河戸Ⅱ式	

遺物観察表

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
43	HH09-2	ⅠE18g	SB4	土師器	有段口縁壺	8/12	9.1	11.0	5.1	指ナデ、ヨコナデ	指ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR5/4 にぶい黄褐	松河戸式	
44	HH09-2	ⅡE3h	SB5	土師器	器台	4/12	8.0	(7.5)	－	タテミガキ、ナデ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅲ式	透孔3方向
45	HH09-2	ⅡE2h	SB5	土師器	壺	11/12	－	(4.8)	5.4	ナデ、ケズリ、ヨコミガキ	タテハケ、ケズリ、タテミガキ	砂粒を含む	5YR6/8 橙		
46	HH09-2	ⅡE3f・3g・4g	SB6ベルト	土師器	高杯	1/12	(13.4)	(4.3)	－	ヨコミガキ、ナナメミガキ	タテミガキ、直線文、波線文	砂粒、礫を含む	外：7.5YR6/2 灰褐 内：7.5YR6/4 にぶい橙	廻間Ⅱ式	
47	HH09-2	ⅡE3g	SB6	土師器	高杯	5/12	(24.5)	(7.9)	－	ヨコミガキ、タテミガキ	タテミガキ、ヨコミガキ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	
48	HH09-2	ⅡE4f	SP215(SB6)	土師器	高杯	6/12	25.4	15.5	(10.4)	板ナデ、ヨコナデ、ヨコミガキ、タテミガキ	タテハケ、ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	
49	HH09-2	ⅡE4g	SB6	土師器	鉢	1/12	(12.6)	12.9	4.0	板ナデ、ヨコナデ	ケズリ、板ナデ、ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅱ－Ⅲ式	
50	HH09-2	ⅠE19h	SB7	土師器	ヒサゴ壺	2/12	(6.1)	(17.3)	－	板ナデ、指オサエ、タテミガキ	タテミガキ、二枚貝刺突連弧文、直線文	砂粒を含む	10YR8/4 浅黄橙	廻間Ⅱ式	
51	HH09-2	ⅠE19h	SB7	土師器	広口壺	頸2/12	－	(23.1)	－	ハケ、ナデ	板ナデ、タテハケ、ヨコミガキ、直線文、波状文、刺突文	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	
52	HH09-2	ⅠE19g	SB7	土師器	鉢	2/12	(23.7)	(14.6)	－	板ナデ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ、キザミ	砂粒を含む	内：10YR7/3 にぶい黄橙 外：10YR6/6 明黄褐	廻間式	
53	HH09-2	ⅠE19h	SB7	土師器	甕	12/12	23.7	(18.9)	－	指オサエ、板ナデ、ヨコナデ	板ナデ、ヨコナデ、キザミ	砂粒を含む	7.5YR5/3 にぶい褐		二次的被熱
54	HH09-2	ⅠE19h	SB7	土師器	甕	2/12	(16.4)	(5.4)	－	ナナメハケ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコハケ、ヨコナデ、刺突文	砂粒を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	廻間Ⅰ式	受口状口縁
55	HH09-2	ⅠE19g	SB7	土師器	高杯	11/12	21.8	20.8	10.7	ケズリ、ヨコナデ、ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	5YR6/6 橙	廻間Ⅰ式	透孔3方向
56	HH09-2	ⅠE20g	SB8	弥生土器	高杯	9/12	－	(6.4)	10.9	ヨコハケ、ナデ、絞り痕	タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	山中Ⅱ式	透孔3方向
57	HH09-2	ⅠE20g	SB8	弥生土器	甕	1/12以下	(17.0)	(7.7)	－	指ナデ、板ナデ、ナナメハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	山中Ⅱ式	く字状口縁
58	HH09-2	ⅠE20j	SB9	弥生土器	鉢	1/12	(16.0)	(2.8)	－	ナデ、指オサエ	タテハケ、ヨコナデ、直線文、刺突文	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	山中Ⅱ式	
59	HH09-2	ⅠE20j	SB9	弥生土器	甕	7/12	－	(6.2)	9.4	ヨコハケ、ヨコナデ、板ナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR8/4 浅黄橙	山中Ⅱ式	
60	HH09-2	ⅠE20j	SB9	弥生土器	甕	9/12	－	(5.2)	7.1	ヨコハケ、ナデ	タテハケ、ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	山中Ⅱ式	
61	HH09-2	ⅠE20j	SK54(SB9)	弥生土器	器台	12/12	12.9	9.9	(12.1)	ナデ、ヨコナデ、ヨコミガキ、タテミガキ	タテハケ、タテミガキ、ヨコミガキ、棒状浮文	砂粒を含む	5YR7/6 橙	山中Ⅱ式	赤彩、透孔4方向、浮文3条1対5方向
62	HH09-2	ⅠE20j・ⅡE1j	SB10、SX4検出中	弥生土器	太頸壺	3/12	(15.3)	(11.7)	－	指ナデ、板ナデ	ナナメハケ、沈線、ヨコミガキ、縄文、貝殻刺突文、ヨコナデ、円形浮文	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	貝田町式	浮文3個1対
63	HH09-2	ⅡE1j	SB10	弥生土器	細頸壺	胴4/12	－	(17.1)	－	板ナデ、タテ指ナデ	ハケ、ヨコミガキ、タテミガキ、線刻	砂粒、礫を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	高蔵式	
64	HH09-2	ⅠE20k	SB11	土師器	加飾壺	2/12	(20.6)	(3.9)	－	磨滅	磨滅、擬凹線、棒状浮文	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅱ－Ⅲ式	浮文2条1対
65	HH09-2	ⅠE201	SB11	土師器	甕	3/12	(14.8)	(4.5)	－	ヨコハケ、指オサエ、ヨコナデ	タテハケ、直線文、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	廻間Ⅲ式	S字状口縁
66	HH09-2	ⅠE20k	SB11	土師器	鉢	11/12	－	(4.5)	5.1	ナデ、タテミガキ	タテハケ、ナデ、タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/8 黄橙	廻間Ⅲ式	
67	HH09-2	ⅠE20k	SB11	土師器	甕	6/12	(15.0)	21.9	8.5	板ナデ、ヨコハケ	ナナメハケ、ヨコハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	松河戸式	く字状口縁
68	HH09-2	ⅡE1k	SB11	土師器	鉢	4/12	(13.0)	6.3	5.2	タテミガキ、ヨコミガキ	ナナメハケ、ヨコミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間式か	
69	HH09-2	ⅠE20k	SB11上層	土師器	器台	3/12	(8.8)	(5.4)	－	ナデ、絞り痕、タテミガキ	タテミガキ、ヨコミガキ	砂粒を含む	5YR6/8 橙	廻間Ⅲ式	透孔3方向
70	HH09-2	ⅠE20k	SB11	土師器	高杯	5/12	(21.9)	(8.9)	－	ナデ、タテミガキ	ナナメハケ、タテミガキ、ヨコミガキ	砂粒を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	廻間Ⅲ式	透孔3方向
71	HH09-2	ⅠE20k・ⅡE1k・1	SB11・12	弥生土器	細頸壺	－	－	(8.4)	－	指オサエ、ナデ	ナナメハケ、直線文、縦位直線文	砂粒を含む	2.5Y4/1 黄灰	貝田町式(瓜郷式)	
72	HH09-2	ⅡE1k	SK62(SB12)	弥生土器	細頸壺	－	－	(5.0)	－	ナデ	ナナメハケ、付加沈線、ミガキ、斜位直線文	砂粒を含む	2.5Y4/1 黄灰	貝田町式(瓜郷式)	
73	HH09-2	ⅠE12g	SB13	弥生土器	細頸壺	2/12	(9.6)	(2.6)	－	磨滅	ヨコナデ、凹線文	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	高蔵式	
74	HH09-2	ⅠE13g	SB13	弥生土器	壺	2/12	－	(6.8)	－	ナナメハケ、ヨコハケ	ナナメハケ、ヨコハケ、波状文	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	高蔵式	
75	HH09-2	ⅠE18b	SB14	土師器	甕	3/12	(17.8)	(10.2)	－	板ナデ、指オサエ、ヨコハケ	タテハケ、指オサエ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	松河戸Ⅱ式	
76	HH09-2	ⅠE18b	SB14	土師器	甕	3/12	(15.1)	14.6	5.8	指オサエ、板ナデ、ヨコハケ	ヨコハケ、タテハケ、ナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	松河戸Ⅱ式	平底、葉脈痕
77	HH09-2	ⅠE18b	SB14	土師器	壺	12/12	－	(5.1)	5.9	磨滅	ヨコミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙		
78	HH09-2	ⅠE19b	SB14	土師器	高杯	4/12	(14.4)	(8.4)	－	ナデ、絞り痕	ナデ	砂粒を含む	5YR6/6 橙	松河戸Ⅱ式	
79	HH09-2	ⅠE19c	SB17	土師器	甕	2/12	(17.9)	(13.1)	－	ナナメハケ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	く字状口縁
80	HH09-2	ⅠE19d	SB17上層	土師器	壺	2/12	(7.4)	(5.7)	－	指オサエ、ナナメハケ、ナデ	タテハケ、ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	松河戸Ⅱ式	
81	HH09-2	ⅠE18d	SB17	土師器	直口壺	6/12	(9.8)	14.1	－	板ナデ、指ナデ	ケズリ、ナデ	砂粒を含む	5YR6/6 橙	松河戸Ⅱ式	
82	HH09-2	ⅠE18d	SB17上層	土師器	高杯	3/12	(19.0)	(7.6)	－	板ナデ	板ナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	松河戸Ⅱ式	
83	HH09-2	ⅠE18d	SB17上層	土師器	高杯	3/12	－	(8.2)	(13.4)	ケズリ、ナデ	タテハケ、タテナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	松河戸Ⅱ式	
84	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	ヒサゴ壺	11/12	6.3	17.6	4.7	板ナデ、タテミガキ、ヨコミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	廻間Ⅰ式	内外面赤彩
85	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	広口壺	12/12	－	(26.8)	6.4	板ナデ、ナデ	ヨコハケ、ナナメハケ、タテハケ	砂粒、礫を含む	7.5YR6/3 にぶい褐	廻間式	口縁及び体部上半打ち欠きか
86	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	甕	7/12	17.6	(22.5)	－	ナナメハケ、タテ指ナデ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、タテハケ、直線文、ヨコナデ、押引刺突文	砂粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	廻間Ⅰ式	S字状口縁

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
87	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	鉢	12/12	10.2	11.0	3.2	板ナデ、タテ指ナデ、ケズリ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコハケ タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅰ式	
88	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	甕	2/12	(18.2)	(12.9)	－	板ナデ、ヨコナデ	板ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	2.5Y8/3 淡黄		
89	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	甕	12/12	－	(14.4)	7.3	ナデ、指オサエ、板ナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間Ⅰ式	
90	HH09-2	ⅠE19f	SB18	土師器	高杯	12/12	－	(8.4)	11.3	絞り痕、板ナデ、タテハケ、ミガキ	タテミガキ、ヨコミガキ	砂粒を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	廻間Ⅰ式	透孔3方向
91	HH09-2	ⅡE1m	SL1	土師器	甕	4/12	(16.0)	(7.4)	－	指ナデ、指オサエ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	宇田Ⅰ式	宇田型
92	HH09-2	ⅠE16h	SK20	弥生土器	甕	1/12	(28.1)	(7.7)	－	ヨコハケ	ナナメハケ、ヨコナデ、キザミ	砂粒を含む	7.5YR6/4 にぶい橙	高蔵式	
93	HH09-2	ⅠE16h	SK20	土師器	広口壺	11/12	12.9	(4.4)	－	ヨコハケ、ヨコナデ	ヨコハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅰ式	
94	HH09-2	ⅠE16h	SK20	土師器	甕	12/12	11.4	(14.4)	－	板ナデ、ヨコハケ	板ナデ、タテハケ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	く字状口縁
95	HH09-2	ⅡE1h	SK37	弥生土器	太頸壺	4/12	－	(17.8)	－	磨滅	指ナデ、直線文、波状文	砂粒、礫を含む	10YR4/1 灰	古井～長床式(高蔵式)	
96	HH09-2	ⅠE20f	SD15	土師器	甕	3/12	(15.1)	(22.1)	－	板ナデ、指オサエ	ナナメハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	10YR3/2 黒褐	廻間Ⅰ式	く字状口縁
97	HH09-2	ⅠE20f	SD15	土師器	鉢	12/12	－	(5.0)	4.5	ヨコハケ	板ナデ	砂粒を含む	7.5YR5/4 にぶい褐	廻間Ⅰ式	
98	HH09-2	ⅠE19e	SD16	土師器	甕	11/12	16.5	(19.5)	－	板ナデ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコナデ、キザミ	砂粒を含む	10YR7/6 明黄褐	廻間Ⅰ式	く字状口縁
99	HH09-2	ⅠE19e	SD16	土師器	甕	3/12	(10.2)	12.3	5.4	タテ指ナデ、板ナデ、ヨコハケ	タテ指ナデ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	廻間Ⅰ式	く字状口縁
100	HH09-2	ⅠE19e	SD16	土師器	鉢	1/12	(15.8)	(5.1)	－	ケズリ、ナナメハケ、ヨコナデ	ヨコハケ、タテハケ、ヨコナデ、直線文、刺突文	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	廻間Ⅰ式	
101	HH09-2	ⅠE19e	SD16	土師器	高杯	12/12	12.6	(8.0)	－	ナナメハケ、タテミガキ	タテミガキ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	
102	HH09-2	ⅠE19e	SD16	土師器	高杯	8/12	24.3	(8.1)	－	ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	廻間Ⅱ式	
103	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	太頸壺	8/12	11.2	上(9.4) 下(10.0)	5.8	指オサエ、ヨコハケ、ナデ	タテハケ、ヨコナデ、簾状文、凹線文	砂粒、礫を含む	5YR6/4 にぶい橙	高蔵式	
104	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	壺	12/12	－	(11.3)	7.0	指ナデ、磨滅	板ナデ、ヨコハケ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	高蔵式	
105	HH09-2	ⅠE16h・17h	SX2	弥生土器	細頸壺	胴5/12	－	(18.5)	－	板ナデ、指オサエ、タテ指ナデ	タテハケ、ナナメハケ、多条直線文、簾状文	砂粒を含む	2.5Y5/2 暗灰黄	高蔵式	
106	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	細頸壺	胴5/12	－	(16.6)	－	ヨコハケ、ナナメハケ、指オサエ、タテ指ナデ	タテハケ、タテミガキ、ヨコミガキ、多条直線文、波状文	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	高蔵式	
107	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	壺	12/12	－	(16.0)	7.0	剥離	板ナデ、ナデ、ナナメミガキ、ヨコミガキ、波状文	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	高蔵式	
108	HH09-2	ⅠE16h・17h	SX2	弥生土器	甕	4/12	(19.5)	(4.4)	－	板ナデ、ヨコハケ	タタキ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	高蔵式	
109	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	甕	8/12	18.8	(12.7)	－	ナナメハケ、ケズリ、指オサエ、ヨコハケ	ナナメハケ、ヨコハケ、タテハケ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	高蔵式	
110	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	甕	2/12	(26.8)	(23.3)	－	ケズリ、指オサエ、指ナデ、ヨコナデ	斜位タタキ、横位タタキ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/4 にぶい橙	高蔵式	
111	HH09-2	ⅠE16h・17h	SX2	弥生土器	甕	6/12	－	(10.2)	(9.8)	タテ指ナデ、タテハケ、ヨコハケ、板ナデ	タテハケ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	高蔵式	
112	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	甕	12/12	14.1	21.0	6.6	板ナデ、指ナデ、ヨコナデ	板ナデ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	5YR7/8 橙	長床式(高蔵式)	肩部穿孔あり
113	HH09-2	ⅠE17h	SX2	弥生土器	高杯	8/12	21.4	(11.3)	－	タテ指ナデ、板ナデ(粗いミガキ)、沈線	板ナデ(粗いミガキ)、凹線文	砂粒、礫を含む	5YR7/8 橙	高蔵式	外面円形剥離
114	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	高杯	5/12	(24.8)	20.7	11.8	タテ指ナデ、ヨコナデ、タテハケ、ヨコハケ、沈線	タテハケ、ヨコハケ、ヨコナデ、凹線文	砂粒、礫を含む	7.5YR6/4 にぶい橙	高蔵式	
115	HH09-2	ⅠE16h	SX2	弥生土器	高杯	1/12	(11.7)	7.5	6.7	板ナデ、ナナメミガキ	ナナメミガキ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/4 にぶい橙	山中Ⅰ式(八王子古宮式か)	
116	HH09-2	ⅠE16g	SX2	土師器	加飾壺	4/12	(22.7)	(14.6)	－	指ナデ、板ナデ、羽状刺突文	ナナメハケ、タテハケ、ヨコナデ、直線文、山形文、擬凹線文、棒状浮文	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間Ⅰ式	内外面赤彩、浮文4条1対
117	HH09-2	ⅠE19d	包含層	弥生土器	太頸壺	1/12	(18.0)	(5.5)	－	ナデ、指オサエ	ヨコハケ、ナデ、キザミ、縦位直線文	砂粒を含む	2.5YR5/6 明赤褐	瓜郷式(貝田町式)	
118	HH09-2	ⅡE4g	包含層(黒褐色土)	弥生土器	不明	胴2/12	－	(7.8)	－	ナデ	ナデ、線刻	砂粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙		
119	HH09-2	ⅠD17t	包含層	弥生土器	鉢	3/12	(34.2)	(17.5)	－	ケズリ、ヨコミガキ	ナナメハケ、ヨコミガキ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	10YR8/6 黄橙		
120	HH09-2	ⅠE20g	包含層(黒褐色土)	弥生土器	高杯	11/12	－	(5.2)	10.8	ナデ、磨滅	タテハケ、磨滅	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	山中式	透孔上下2段3方向
121	HH09-2	ⅠE19e	包含層	弥生土器	蓋	10/12	10.3	3.9	3.6	板ナデ、磨滅	ナデ、磨滅	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	山中式	
122	HH09-2	ⅠE20l	包含層	土師器	鉢	10/12	10.4	5.8	5.0	指オサエ、ヨコハケ、指ナデ	タテハケ、ナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間式	
123	HH09-2	ⅡE2h	包含層(黒褐色土)	土師器	ミニチュア甕	1/12	(4.2)	(5.2)	－	指オサエ	指オサエ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙		胴部に2次的穿孔か
124	HH09-2	ⅡE1g	包含層(黒褐色土)	土師器	器台	12/12	7.8	7.3	(8.8)	板ナデ、ナデ、ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	5YR7/6 橙	廻間Ⅱ～Ⅲ式	透孔5方向
125	HH09-2	ⅠD17s	包含層	土師器	高杯	4/12	－	(8.6)	(17.3)	ナナメハケ、板ナデ	タテミガキ、ナナメミガキ、ヨコミガキ、刺突文	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間式	透孔上下2段1対3方向
126	HH09-2	ⅡE2n	包含層	須恵器	杯身	1/12	(10.2)	(4.2)	－	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y6/1 黄灰	下原窯式	
127	HH09-2	ⅡE1n	包含層	須恵器	杯身	1/12	(11.8)	(4.5)	－	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y6/1 黄灰	東山61号窯式	
128	HH09-2	ⅡE1n	包含層	須恵器	高杯	11/12	－	(5.6)	9.2	ロクロナデ	ロクロナデ、沈線	砂粒を含む	2.5GY6/1 オリーブ灰	東山61号窯式	
129	HH09-2	ⅠD17r	SK61	須恵器	蓋	12/12	13.8	3.4	－	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、撮み貼付	砂粒を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	高蔵寺2号窯式	
130	HH09-2	ⅠD17r	SK61	須恵器	蓋	11/12	13.4	3.3	－	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、撮み貼付	砂粒を含む	外:10YR5/4 にぶい黄褐 内:2.5Y6/1 黄灰	岩崎25号窯式	
131	HH09-2	ⅠE15・16h	SP73(SA1)	須恵器	無台杯	4/12	－	(1.4)	(9.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含まない	10YR5/2 灰黄褐	岩崎25号窯式	
132	HH09-2	ⅠE19c	包含層	灰釉陶器	浄瓶	12/12	1.5	(14.5)	－	ロクロナデ	ロクロナデ、沈線	砂粒を含む	2.5Y7/3 浅黄	黒笹14号窯式	灰釉(刷毛塗り)

遺物観察表

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
133	HH09-2	Ⅰ E16h	包含層(褐色土)	灰釉陶器	三足盤	1/12	-	(1.8)	(7.6)	ロクロナデ	ヘラケズリ、貼付脚	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	黒笹14号窯式	三足、灰釉(刷毛塗り)
134	HH09-2	Ⅰ E19g	包含層(黒褐色土)	白磁	玉縁碗	1/12	(15.0)	(3.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含まない	5Y8/2 灰白	白磁碗XI類	白磁釉
135	HH09-2	Ⅰ E14h	SP51柱痕(SB19)	山茶碗	碗	5/12	(15.0)	4.3	(7.0)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
136	HH09-2	Ⅰ E12g	SP225(SB19)	山茶碗	碗	4/12	-	(2.7)	(5.8)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
137	HH09-2	Ⅰ E13h	SP229(SB19)	山茶碗	碗	-	-	(1.7)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	内面煤か墨痕あり
138	HH09-2	Ⅰ E12h	SP223(SB20)	山茶碗	小皿	5/12	(8.2)	1.5	(5.1)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
139	HH09-2	Ⅰ E12h	SP223(SB20)	常滑	片口鉢	2/12	(28.9)	(3.9)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	知多窯4～5型式	
140	HH09-2	Ⅰ E12h	SP17(SB20)	土師器	鍋	1/12以下	-	(1.7)	-	ヨコナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	10YR8/2 灰白		伊勢型鍋
141	HH09-2	Ⅰ E13h	SP28(SB21)	山茶碗	碗	1/12	(13.4)	(4.3)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第7～8型式	
142	HH09-2	Ⅰ E13h	SP59(SB21)	山茶碗	碗	1/12	(12.9)	(4.0)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第7～8型式	内面煤付着
143	HH09-2	Ⅰ E17h	SP111(SB22)	山茶碗	碗	4/12	(14.2)	5.4	6.7	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	7.5Y6/1 灰	尾張型第5型式	籾殻痕あり
144	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	山茶碗	碗	6/12	-	(2.8)	6.6	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	5Y6/1 灰	尾張型第4～5型式	内面・破断面煤付着
145	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	山茶碗	碗	7/12	(13.2)	5.6	4.8	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	籾殻痕あり、被熱痕あり
146	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	山茶碗	碗	7/12	12.2	5.1	5.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	籾殻痕あり、内外面煤付着
147	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	山茶碗	碗	8/12	12.2	4.9	5.9	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	外面煤付着
148	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	山茶碗	小皿	12/12	7.9	1.9	4.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
149	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	常滑	盤	5/12	(20.7)	7.1	(17.1)	指ナデ、指オサエ	板ナデ、指オサエ	砂粒、礫を含む	7.5Y6/1 褐灰		内面煤付着
150	HH09-2	Ⅰ E14h	SK18	土師器	鍋	3/12	(27.7)	(5.4)	-	板ナデ、指オサエ、ヨコナデ	ナナメハケ、指オサエ、ヨコナデ	砂粒を含む	10YR8/2 灰白		伊勢型鍋
151	HH09-2	Ⅰ E13g・h	SD1	山茶碗	碗	9/12	-	(4.9)	(7.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕
152	HH09-2	Ⅰ E13g・h	SD1	山茶碗	小皿	11/12	8.0	1.7	6.2	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y8/1 灰白	尾張型第6型式	
153	HH09-2	Ⅰ E13h	SD1	瀬戸美濃	天目茶碗	1/12以下	(12.2)	6.5	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、削出高台	砂粒を含まない	2.5Y8/2 灰白	大窯第1段階	鉄釉、錆釉
154	HH09-2	Ⅱ E2g・h	SD5	瀬戸美濃	卸皿	2/12	-	(0.9)	(5.4)	ロクロナデ、卸目	ロクロナデ	砂粒を含まない	2.5Y8/2 灰白	古瀬戸後期	灰釉
155	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	山茶碗	碗	4/12	(12.4)	4.2	4.8	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第10型式	
156	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	山茶碗	碗	1/12	(13.7)	4.7	(6.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y7/3 浅黄	尾張型第11型式	内面煤付着
157	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1(3段目甕内)	山茶碗	小皿	8/12	8.6	2.0	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ、指ナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
158	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	山茶碗	小皿	12/12	8.1	1.7	4.2	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
159	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	山茶碗	小皿	11/12	7.9	1.8	5.3	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
160	HH09-2	Ⅰ E14i	SE1	土師器	ロクロ調整皿	10/12	7.7	1.3	5.4	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒を含む	5YR7/8 橙		
161	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1(2段目甕内裏込め)	常滑	片口鉢	4/12	(30.3)	9.5	(14.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	5Y5/2 灰オリーブ	知多窯8型式	内面使用による磨滅、砂粒痕
162	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1(1段目甕内)	瀬戸美濃	柄付片口	1/12	(16.3)	(8.1)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	古瀬戸中期Ⅱ～Ⅲ期	灰釉
163	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	常滑	甕	1/12	(55.6)	(67.5)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	内:5YR5/6 明赤褐 外:5YR4/4 にぶい赤褐	知多窯9型式	井戸枠(1段目)
164	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	常滑	甕	4/12	(45.2)	(46.6)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	2.5YR5/8 明赤褐	知多窯8型式	井戸枠(2段目)
165	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1	常滑	甕	12/12	44.0	57.7	18.6	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、指ナデ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	2.5YR7/8 橙	知多窯8型式	井戸枠(3段目)、穿孔2ヶ所
166	HH09-2	Ⅰ E14h	SE1(1段目甕内)	常滑	甕	1/12	(51.4)	(68.4)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	5YR4/4 にぶい赤褐	知多窯9型式	
167	HH09-2	Ⅰ E15g	SE2	山茶碗	小皿	11/12	7.8	1.7	4.9	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
168	HH09-2	Ⅰ E15g	SE2	山茶碗	小皿	11/12	8.3	2.0	4.7	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
169	HH09-2	Ⅰ E14h	包含層(黒褐色土)	山茶碗	小皿	12/12	7.9	1.1	5.0	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒を含まない	2.5Y7/2 灰黄	東濃型第10型式	
170	HH09-2	Ⅰ E13i	包含層(黒褐色土)	山茶碗	碗	2/12	(17.2)	5.0	(6.4)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含まない	10YR7/3 にぶい黄橙	東濃型第5型式	籾殻痕
190	HH09-3	Ⅱ D4d・e	SB1	土師器	高杯	4/12	(14.2)	(4.3)	-	タテミガキ	タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅲ式	
191	HH09-3	Ⅱ D3e	SB1	土師器	広口壺	2/12	(17.3)	(5.0)	-	磨滅	タテハケ、ヨコナデ、磨滅	砂粒を含まない	10YR7/4 にぶい黄橙	松河戸Ⅰ式か	
192	HH09-3	Ⅱ D4e	SB1	土師器	甕	12/12	-	(6.1)	(10.2)	指オサエ、ナデ	指ナデ、タテハケ	砂粒を多く含む	10YR6/6 明黄褐	松河戸Ⅰ式	
193	HH09-3	Ⅱ D4f	SB3	土師器	二重口縁壺	6/12	17.4	(6.2)	-	ヨコナデ、羽状刺突文	タテハケ、ヨコナデ、羽状刺突文	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	松河戸Ⅰ式	柳ヶ坪型
194	HH09-3	Ⅱ D4f	SB3	土師器	甕	6/12	14.6	(4.4)	-	指ナデ、板ナデ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	松河戸Ⅰ式	く字状口縁
195	HH09-3	Ⅱ D4f・g	SB3	土師器	壺	-	-	(5.5)	-	ナデ、タテミガキ	タテミガキ、ヨコミガキ	砂粒を含む	内:2.5Y5/2 暗灰黄 外:7.5YR8/6 浅黄橙	松河戸Ⅰ式	
196	HH09-3	Ⅱ D4g	SB3	土師器	高杯	10/12	-	(7.9)	11.7	板ケズリ、ヨコナデ	タテミガキ、ヨコナデ	砂粒を多く含む	10YR6/4 にぶい黄橙	松河戸Ⅰ式	透孔3方向
197	HH09-3	Ⅱ D4f・g	SB3	土師器	鉢	12/12	-	(4.1)	5.4	ナデ、板ナデ	タテミガキ、ナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	松河戸Ⅰ式	

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
198	HH09-3	ⅡD61	SB4	弥生土器	甕	7/12	12.4	(16.4)	-	板ナデ、ヨコナデ	ケズリ、板ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	山中式	く字状口縁
199	HH09-3	ⅡD61	SB4	弥生土器	甕	6/12	(22.2)	(19.5)	-	指オサエ、ナナメハケ、ヨコハケ	ナナメハケ、ヨコハケ、タテハケ	砂粒、礫を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	山中式	く字状口縁
200	HH09-3	ⅡD61	SB4	弥生土器	高杯	3/12	-	(6.9)	(10.2)	板ナデ、ヨコナデ、ミガキ	タテミガキ、直線文、刺突文	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	山中Ⅱ式	透孔3方向
201	HH09-3	ⅡD61	SB4	弥生土器	高杯	-	-	(7.1)	-	ナデ、絞り痕、磨滅	タテハケ、タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	山中Ⅱ式	透孔3方向
202	HH09-3	ⅡD4h	SB5	土師器	ヒサゴ壺	7/12	8.8	(4.6)	-	指ナデ、ヨコミガキ、タテミガキ	ナナメハケ、ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅱ式	
203	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	二重口縁壺	1/12	(19.4)	(3.7)	-	磨滅	ヨコミガキ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	
204	HH09-3	ⅡD5g	SB5	土師器	壺	12/12	-	(7.0)	5.4	ヨコハケ、タテハケ、板ナデ、指オサエ	タテミガキ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	
205	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	壺	12/12	-	(6.9)	3.8	ヨコハケ、ケズリ	ケズリ、ヨコミガキ、ナナメミガキ	砂粒、礫を含む	10YR6/3 にぶい黄橙	廻間Ⅱ式	
206	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	壺	2/12	-	(4.6)	10.6	ヨコハケ、タテハケ	タテハケ	砂粒、礫を含む	5YR5/6 明赤褐		底部葉脈痕あり
207	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	12/12	12.9	(7.6)	-	板ナデ、ナナメハケ、ヨコハケ	ナナメハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR6/6 橙	廻間Ⅱ式	く字状口縁
208	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	5/12	(15.4)	(10.1)	-	ナデ、ヨコハケ、磨滅	ナナメハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	内:10YR6/4 にぶい黄橙 外:5YR6/8 橙	廻間Ⅱ式	く字状口縁
209	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	5/12	(16.7)	(6.9)	-	ナデ、ヨコハケ	ナナメハケ、タテハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	廻間Ⅱ式	く字状口縁
210	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	4/12	(16.8)	(6.0)	-	ナナメハケ、頸部板ナデ、ヨコナデ	ナナメハケ、頸部板ナデ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	5YR5/6 明赤褐	廻間Ⅱ式	く字状口縁
211	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	6/12	(13.8)	(5.7)	-	板ナデ、ヨコハケ	タテハケ、ヨコ板ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	く字状口縁
212	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	1/12	(15.4)	(3.1)	-	指ナデ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	5YR6/6 橙	廻間Ⅱ式	く字状口縁
213	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	1/12	(13.2)	(3.2)	-	指オサエ、板ナデ、ヨコナデ	ナナメハケ、直線文、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒を含む	内:10YR7/4 にぶい黄橙 外:10YR7/2 にぶい黄橙	廻間Ⅱ式	S字状口縁
214	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	2/12	(13.5)	(4.1)	-	指オサエ、ヨコナデ	ナナメハケ、直線文、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒を含む	内:7.5YR6/8 橙 外:7.5YR6/4 にぶい橙	廻間Ⅱ式	S字状口縁
215	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	2/12	(17.8)	(14.9)	-	タテ指ナデ、指オサエ、ヨコナデ	ナナメハケ、直線文、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒、礫を含む	5YR5/6 明赤褐	廻間Ⅲ式	S字状口縁
216	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	6/12	(13.6)	(13.6)	-	タテ指ナデ、指オサエ、ヨコナデ	ナナメハケ、直線文、タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	廻間Ⅲ式	S字状口縁
217	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	12/12	-	(6.8)	7.6	板ナデ	板ナデ、ナデ	砂粒、礫を含む	5YR7/8 橙	廻間式	
218	HH09-3	ⅡD4・5h	SB5	土師器	甕	1/12	-	(4.9)	(8.8)	指オサエ、ナデ	ナナメハケ、指オサエ、ナデ	砂粒を含む	内:10YR7/4 にぶい黄橙 外:10YR6/4 にぶい黄橙	廻間式	S字状口縁
219	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	10/12	-	(5.3)	8.0	タテハケ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR6/6 橙	廻間式	
220	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	1/12	-	(7.2)	(10.1)	板ナデ、ヨコナデ、ヨコハケ	タテハケ、ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR6/6 橙	廻間式	
221	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	10/12	-	(5.4)	8.6	板ナデ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	2.5YR6/8 橙	廻間式	
222	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	甕	12/12	-	(6.2)	9.0	板ナデ、ヨコナデ、ヨコハケ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	7.5YR6/6 橙	廻間式	
223	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	高杯	10/12	-	(7.1)	12.5	板ナデ	ナナメミガキ、横線文(ヨコミガキ)	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅰ式	穿孔3方向
224	HH09-3	ⅡD4・5h	SB5	土師器	高杯	1/12以下	-	(8.3)	(14.0)	板ナデ	ナナメミガキ、横線文(ヨコミガキ)	砂粒を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	廻間Ⅰ式	穿孔3方向
225	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	高杯	-	-	(2.7)	-	タテミガキ、ヨコミガキ	ヨコミガキ、ナデ、刺突文	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	廻間式	穿孔あり
226	HH09-3	ⅡD4h	SB5	土師器	器台	6/12	8.3	(2.1)	-	ヨコミガキ、磨滅	ヨコミガキ	砂粒を含む	5YR7/6 橙	廻間Ⅱ式	
227	HH09-3	ⅡD5h	SB5	土師器	器台	9/12	-	(7.0)	13.8	ナナメハケ、板ナデ、ナデ	タテミガキ、ヨコミガキ、横線文(ヨコミガキ)	砂粒、礫を含む	5YR6/6 橙	廻間Ⅰ式	穿孔3方向
228	HH09-3	ⅡD6o	SB6	土師器	広口壺	1/12	(14.5)	(5.2)	-	指オサエ、ヨコハケ、板ナデ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコハケ、ヨコナデ	砂粒を含む	5YR6/6 橙	松河戸Ⅰ式	
229	HH09-3	ⅡD6o	SB6	土師器	甕	3/12	(13.7)	(4.9)	-	ナナメハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	松河戸Ⅰ式	く字状口縁
230	HH09-3	ⅡD6o	SB6	土師器	甕	2/12	(15.1)	(7.6)	-	指オサエ、板ナデ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/8 黄橙	廻間Ⅰ式	く字状口縁
231	HH09-3	ⅡD3e・4e	SB7上層	土師器	壺	1/12	(9.8)	(4.2)	-	ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含む	内外:5YR5/6 明赤褐 断面:10YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅲ式	
232	HH09-3	ⅡD3e	SB7	土師器	甕	1/12以下	(14.7)	(3.1)	-	指ナデ、ヨコナデ	ヨコハケ、ナナメハケ、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒を含む	5Y7/2 灰白	廻間Ⅲ式	S字状口縁
233	HH09-3	ⅡD3e	SB7	土師器	鉢	3/12	(12.6)	(6.3)	-	板ナデ、ヨコハケ、ナデ	タテハケ、ナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	廻間Ⅲ式	
234	HH09-3	ⅡD6o	SK15	土師器	甕	10/12	20.4	29.8	8.1	ケズリ、ヨコハケ	ナナメハケ、磨滅	砂粒を含む	7.5YR6/4 にぶい橙	廻間Ⅰ式	く字状口縁
235	HH09-3	ⅡD6o	SK15	土師器	甕	9/12	-	(8.3)	8.9	板ナデ、ヨコハケ	ヨコハケ、ナナメハケ、磨滅	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙	廻間式	く字状口縁
236	HH09-3	ⅡD6o	SK15	土師器	高杯	5/12	(32.0)	(12.1)	-	ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒、礫を含む	7.5YR8/4 浅黄橙	廻間Ⅰ式	
237	HH09-3	ⅡD6p	SK15	土師器	高杯	2/12	(23.8)	(10.9)	-	ヨコミガキ、タテミガキ	ヨコミガキ、タテミガキ	砂粒を含まない	10YR7/3 にぶい黄橙	廻間Ⅰ式	
238	HH09-3	ⅡD5i	SK16	土師器	高杯	12/12	-	(8.1)	13.3	ナナメハケ、ケズリ、板ナデ	ナナメハケ、タテミガキ、横線文	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙	廻間Ⅱ式か	
239	HH09-3	ⅡD5i	SK16	土師器	甕	1/12	(14.8)	(4.5)	-	指ナデ、ヨコナデ	タテハケ、直線文、ヨコナデ、頸部沈線	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白	廻間Ⅲ式	S字状口縁
240	HH09-3	ⅡD5i	SK16	土師器	広口壺	3/12	(14.2)	(4.8)	-	指ナデ、ヨコナデ	タテハケ、ヨコナデ	砂粒、礫を含む	5YR6/6 橙	松河戸Ⅰ式	
241	HH09-3	ⅡD5i	SK4	須恵器	平頂蓋	6/12	(13.8)	(2.9)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含まない	10YR8/3 浅黄橙	岩崎41号窯式	
242	HH09-3	ⅡD5i	SK4	灰釉陶器	皿	1/12	(14.2)	2.8	(7.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	黒笹90号窯式	灰釉(刷毛塗り)
243	HH09-3	ⅡD5i	SK4	須恵器	甑	2/12	-	(7.8)	(22.0)	ロクロナデ、指オサエ	ロクロナデ、指オサエ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	5Y8/1 灰白		

遺物観察表

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
244	HH09-3	ⅡD5k	ST1	山茶碗	碗	7/12	16.6	5.5	7.1	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/3 浅黄	尾張型第5型式	籾殻痕あり
245	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1上層	山茶碗	碗	4/12	(13.0)	4.9	(5.0)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y8/2 灰白	尾張型第7型式	籾殻痕あり
246	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1掘方上層	山茶碗	碗	5/12	-	3.2	6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	7.5YR7/1 明褐灰	尾張型第7型式	籾殻痕あり
247	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1	山茶碗	碗	8/12	13.3	4.4	5.4	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第9型式	
248	HH09-3	ⅡD6m	SE1(甕内7段目)	山茶碗	小皿	11/12	8.5	2.0	4.4	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	5Y8/1 灰白	尾張型第6型式	底部墨書あり
249	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1掘方	山茶碗	小皿	6/12	9.0	1.8	5.2	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	10YR7/3 にぶい黄橙	尾張型第7型式	
250	HH09-3	ⅡD6m	SE1掘方上層	山茶碗	小皿	11/12	8.2	2.2	4.7	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
251	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1上層	山茶碗	小皿	11/12	7.6	1.6	4.7	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/2 灰黄	尾張型第8型式	
252	HH09-3	ⅡD6m	SE1掘方	山茶碗	小皿	11/12	7.5	1.6	5.1	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y8/1 灰白	尾張型第8型式	
253	HH09-3	ⅡD6m	SE1掘方	山茶碗	小皿	6/12	8.1	1.8	5.2	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
254	HH09-3	ⅡD6m	SE1掘方	土師器	ロクロ調整皿	11/12	8	1.8	4.7	ロクロナデ、指ナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	10YR8/4 浅黄橙		
255	HH09-3	ⅡD6m	SE1(甕内7段目)	土師器	ロクロ調整皿	2/12	(7.6)	1.7	4.7	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒を含む	7.5YR7/6 橙		
256	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1枠内(1層)	白磁	皿	1/12	(15.8)	(2.0)	-	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含まない	N 8/ 灰白	白磁皿Ⅸ類	白磁釉
257	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1	土師器	鍋	1/12	(22.0)	(2.5)	-	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/2 灰黄		伊勢型鍋
258	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1枠内(1層)	土師器	鍋	1/12	(23.8)	(3.2)	-	ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	砂粒、礫を含む	2.5Y8/1 灰白		伊勢型鍋
259	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1	土師器	釜	1/12	(19.8)	(3.5)	-	ヨコハケ、ヨコナデ	ヨコハケ、ヨコナデ、指オサエ	砂粒、礫を含む	7.5YR8/3 浅黄橙		羽付釜
260	HH09-3	ⅡD5m	SE1	常滑	片口鉢	2/12	(34.0)	(12.1)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	知多窯6b型式	内面使用による磨滅
261	HH09-3	ⅡD6m	SE1甕内	常滑	盤	1/12	(27.2)	7.2	(24.8)	ロクロナデ、指オサエ、板ナデ	ロクロナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	5YR5/3 にぶい赤褐	知多窯6a型式	
262	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1	山茶碗	花瓶	2/12	-	(6.2)	(6.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	7.5Y7/1 灰白		
263	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	3/12	(43.0)	(33.2)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	内:10YR5/3 にぶい黄褐 外:5YR4/3 にぶい赤褐	知多窯7型式	井戸枠(1段目)
264	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	3/12	(51.4)	(30.0)	-	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	ヨコナデ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	10YR6/6 明黄褐	知多窯7型式	井戸枠(2段目)
265	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	2/12	(50.2)	(29.8)	-	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	10YR8/4 浅黄橙	知多窯7型式	井戸枠(3段目)
266	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	3/12	(37.0)	(37.2)	-	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	10YR8/6 黄橙	知多窯7型式	井戸枠(4段目)
267	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	12/12	42.0	(27.2)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	知多窯6b型式	井戸枠(5段目)
268	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	12/12	46.6	(48.3)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	内:10YR3/1 黒褐 外:7.5YR4/3 褐	知多窯6b型式	井戸枠(6段目)
269	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	9/12	39.5	(42.0)	-	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR8/8 黄橙	知多窯6a型式	井戸枠(7段目)
270	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	3/12	(44.0)	(21.5)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、押印	砂粒を含む	5Y8/2 灰白	知多窯6b型式	
271	HH09-3	ⅡD6m	SE1	常滑	甕	2/12	(51.0)	(53.0)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	2.5YR6/8 橙	知多窯7型式	
272	HH09-3	ⅡD5・6m	SE1	常滑	甕	1/12	(38.6)	(44.6)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	砂粒、礫を含む	内:2.5YR4/3 にぶい赤褐 外:2.5YR4/4 にぶい赤褐	知多窯6b型式	
279	HM09-5	ⅧE6n	包含層	弥生土器	甕	1/12	(25.8)	(8.9)	-	ナデ	ナナメハケ、タテハケ、ナデ、削出突帯(沈線3条)、キザミ	砂粒、礫を含む	2.5Y5/2 暗灰黄	西志賀式	
280	HM09-5	ⅧE1f	SK2	土師器	広口壺	6/12	-	-	(10.0)	板ナデ、磨滅	直線文、波状文、円形文、磨滅	砂粒を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	廻間式	
281	HM09-5	ⅧE3h	SB1	須恵器	杯蓋	3/12	(10.3)	4.0	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	内:2.5Y6/2 灰黄 外:7.5Y5/1 灰	東山50号窯式	
282	HM09-5	ⅧE3h	SB1	須恵器	杯蓋	3/12	(10.0)	(2.9)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	N5/ 灰	東山50号窯式	
283	HM09-5	ⅧE2h	SB1上層	須恵器	杯身	2/12	(10.1)	(2.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	内:7.5Y7/1 灰白 外:7.5Y6/1 灰	東山50号窯式	
284	HM09-5	ⅧE3i	SB1	須恵器	杯	3/12	(9.8)	(3.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5B 7/1 明青灰	東山50号窯式	
285	HM09-5	ⅧE3i	SB1下層	須恵器	高杯	2/12	-	(2.4)	(12.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	内:2.5YR7/6 橙 外:10YR4/1 褐灰		
286	HM09-5	ⅧE2h	SB1上層	土師器	甕	2/12	(21.0)	(6.2)	-	ナデ、ヨコハケ、ヨコナデ	ナナメハケ、ナデ、ヨコナデ	砂粒を含む	5YR7/6 橙		三河系ナデ甕
287	HM09-5	ⅧE4j	包含層	須恵器	杯身	11/12	8.1	3.1	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒、礫を含む	N5/ 灰	岩崎17号窯式	
288	HM09-5	ⅧE4k	SB2	須恵器	無台杯	11/12	12.0	3.5	6.1	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	内:N5/ 灰 外:7.5YR7/6 橙	高蔵寺2号窯式	回転糸切痕あり
289	HM09-5	ⅧE4k	SB2	須恵器	無台杯	11/12	12.9	3.5	7.1	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含まない	7.5YR6/6 橙	高蔵寺2号窯式	ヘラオコシ痕あり
290	HM09-5	ⅧE4k	SB2	土師器	壺	1/12	(13.7)	(4.3)	-	ナナメハケ、ナデ	タテハケ、ナデ	砂粒、礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙		口縁下穿孔あり
291	HM09-5	ⅧE2f	SK3	土師器	甕	3/12	(11.5)	(9.5)	-	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/2 灰黄		
292	HM09-5	ⅧE1f	SK2	山茶碗	碗	4/12	(12.8)	4.9	(5.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	縁:5Y6/2 灰オリーブ 底:5Y5/2 灰オリーブ	尾張型第8型式	
293	HM09-5	ⅧE1e	SK2	山茶碗	碗	3/12	(13.6)	4.6	(8.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	尾張型第8型式	内面煤付着
294	HM09-5	ⅧE1f	SK2	山茶碗	小皿	6/12	8.1	2.1	5.6	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
295	HM09-5	ⅧE1f	SK2	山茶碗	片口鉢	5/12	-	(6.1)	(16.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒、礫を含む	N8/ 灰白	尾張型第7型式	砂粒痕あり

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
296	HM09-5	ⅧE6p	SK35	山茶碗	小皿	11/12	7.5	1.9	4.0	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
297	HM09-5	ⅧE6o	SK36	山茶碗	小皿	10/12	7.8	1.7	5.1	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
298	HM09-5	ⅧE6o	SK39	山茶碗	小皿	12/12	7.8	1.6	4.9	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
299	HM09-5	ⅧE6o	SK39	山茶碗	小皿	12/12	7.8	1.7	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	内:10Y5/2 オリーブ灰 外:5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
300	HM09-5	ⅧE6o	SK39	山茶碗	小皿	6/12	8.0	1.7	4.9	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
301	HM09-5	ⅧE6o	SK40	山茶碗	小皿	9/12	8.1	1.6	4.5	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
302	HM09-5	ⅧE6o	SK41	山茶碗	小皿	11/12	8.1	1.9	4.9	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
303	HM09-5	ⅧE6o	SK41	山茶碗	小皿	12/12	8.3	1.9	5.3	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	尾張型第8型式	
304	HM09-5	ⅧE6p	SK43	山茶碗	小皿	12/12	7.7	2.2	5.3	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	
305	HM09-5	ⅧE6p	SK44	山茶碗	小皿	11/12	8.7	2.0	5.5	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y8/1 灰白	尾張型第7型式	
306	HM09-5	ⅧE6o	SK47	山茶碗	小皿	8/12	8.0	1.7	5.8	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第8型式	
307	HM09-5	ⅧE6o	SK40	山茶碗	碗	5/12	(14.1)	5.3	6.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	籾殻痕あり
308	HM09-5	ⅧE2g	SD1下層	土師器	鍋	2/12	(24.6)	(8.9)	-	指ナデ	ケズリ、ヨコナデ、指オサエ	砂粒を含む	10YR8/3 浅黄橙		尾張型内耳鍋
309	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	碗	6/12	(15.4)	5.0	7.1	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y8/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
310	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	碗	2/12	(15.2)	4.6	7.2	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
311	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	碗	6/12	14.7	4.8	8.2	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5YR8/2 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
312	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	碗	5/12	-	(2.0)	(8.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	
313	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	碗	12/12	14.4	5.5	5.4	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y8/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
314	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	碗	12/12	-	3.8	4.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	内:2.5Y7/3 浅黄 外:2.5Y7/3 灰黄	尾張型第6型式	籾殻痕あり
315	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	小皿	5/12	(7.2)	1.9	3.6	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	7.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	
316	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	小皿	5/12	(7.3)	1.9	4.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	
317	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	小皿	8/12	7.9	1.5	5.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	尾張型第6型式	
318	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	小皿	10/12	7.6	1.8	4.8	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	10YR7/2 にぶい黄橙	尾張型第6型式	
319	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	小皿	12/12	8.4	1.8	5.2	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	7.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
320	HM09-5	ⅧE4k	SD2	土師器	ロクロ調整皿	7/12	-	(2.2)	6.0	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/6 橙		
321	HM09-5	ⅧE4k	SD2	山茶碗	片口鉢	2/12	(31.3)	11.0	(11.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
322	HM09-5	ⅧE4k	SD2	常滑	短頸壺	2/12	(18.1)	(13.6)	-	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ	砂粒を含む	内:10YR4/1 褐灰	知多窯5型式	
323	HM09-5	ⅧE4k	SD2	常滑	甕	1/12	(30.7)	(10.8)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y6/2 灰黄	知多窯4型式	
324	HM09-5	ⅧE5k・l	SD3	山茶碗	碗	2/12	(14.4)	4.9	(6.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	7.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
325	HM09-5	ⅧE41	SD3	山茶碗	碗	4/12	-	(2.6)	(7.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄	尾張型第6型式	籾殻痕あり
326	HM09-5	ⅧE5k・l	SD3	山茶碗	小皿	2/12	(8.4)	1.5	(5.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y8/1 灰白	尾張型第6型式	
327	HM09-5	ⅧE51	SD4下層	山茶碗	小碗	3/12	(7.5)	2.4	(4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	7.5Y8/2 灰白	尾張型第4型式	
328	HM09-5	ⅧE51	SD4	山茶碗	小皿	12/12	8.2	1.8	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
329	HM09-5	ⅧE51	SD5底面	山茶碗	碗	9/12	16.2	4.5	8.0	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
330	HM09-5	ⅧE51	SD5底面	山茶碗	碗	1/12	(15.8)	4.6	7.4	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台、指ナデ	砂粒、礫を含む	7.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
331	HM09-5	ⅧE5m	SD5	山茶碗	小皿	10/12	8.0	2.4	4.2	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	10YR6/4 にぶい黄橙	尾張型第5型式	
332	HM09-5	ⅧE5m	SD5	山茶碗	小皿	12/12	8.8	2.5	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	尾張型第5型式	
333	HM09-5	ⅧE5m	SD5	山茶碗	小皿	11/12	9.0	2.8	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	10YR7/4 にぶい黄橙	尾張型第5型式	
334	HM09-5	ⅧE5m	SD5	山茶碗	小皿	12/12	8.2	2.6	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ、指ナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	
335	HM09-5	ⅧE5m	SD5	土師器	鍋	3/12	(19.3)	(5.5)	-	ヨコナデ、指ナデ	ヨコナデ、指オサエ	砂粒、礫を含む	5Y7/2 灰白		伊勢型鍋
336	HM09-5	ⅧE5k・l	SD6	山茶碗	碗	4/12	-	(2.0)	(6.4)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	7.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
337	HM09-5	ⅧE61・m	SD6	山茶碗	小皿	1/12	(7.5)	1.7	4.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	7.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
338	HM09-5	ⅧE5n	包含層	山茶碗	小碗	12/12	8.3	2.9	4.7	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄	尾張型第4型式	籾殻痕あり
344	GC09-6B	ⅦD19t	SB1底面	弥生土器	無頸壺	2/12	(13.6)	(7.5)	-	指ナデ、板ケズリ、指オサエ	指ナデ、ハケ	砂粒を含む	10YR8/4 浅黄橙	山中式	
345	GC09-6B	ⅦD19t	SB1底面	弥生土器	高杯	2/12	(11.0)	(16.0)	(11.4)	絞り痕	磨滅	砂粒、礫を含む	10YR8/2 灰白	山中Ⅰ式	
346	GC09-6A	ⅦD13m	包含層	須恵器	皿	7/12	12.2	2.3	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y6/2 灰黄	黒笹90号窯式	回転糸切り痕あり
347	GC09-6A	ⅦD14m	包含層	緑釉陶器	碗	-	-	(2.0)	-	ロクロナデ、ヘラミガキ	ロクロナデ、ヘラミガキ	砂粒を含む	断面 5Y5/1 灰	黒笹90号窯式	緑釉

遺物観察表

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	産地材質	器種	残存率	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	内面	外面	胎土	色調	時期	備考
348	GC09-6A	VIID141	撹乱	灰釉陶器	碗	-	-	(3.3)	-	ロクロナデ、陰刻花文	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	黒笹90号窯式	陰刻花文あり、灰釉(刷毛塗り)
349	GC09-6A	VIID10c	包含層	灰釉陶器	碗	2/12	-	(1.6)	(7.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	黒笹14号窯式	灰釉(刷毛塗り)
350	GC09-6A	VIID15k	SP60	山茶碗	碗	7/12	14.9	6.0	6.6	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y6/1 黄灰	尾張型第6型式	籾殻痕あり
351	GC09-6A	VIID13l	SK15	山茶碗	碗	12/12	13.6	5.4	6.7	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	10Y7/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
352	GC09-6A	VIID13l	SK15底面	山茶碗	小皿	12/12	7.7	1.7	5.0	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	2.5Y8/2 灰白	尾張型第6型式	
353	GC09-6B	VIID18t	SK30	山茶碗	碗	5/12	16.6	5.2	7.7	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第4型式	籾殻痕あり
354	GC09-6B	VIID18t	SK30	山茶碗	碗	11/12	17.0	5.7	8.0	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第4型式	籾殻痕あり
355	GC09-6B	VIID18t	SK30	山茶碗	輪花碗	8/12	16.5	5.4	7.6	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第4型式	輪花5ヶ所、籾殻痕あり
356	GC09-6A	VIID13m	ST1	山茶碗	碗	12/12	12.8	5.3	(5.1)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	N8/ 灰白	尾張型第7型式	籾殻痕あり
357	GC09-6A	VIID13h	SD2	瀬戸美濃	小天目	4/12	(6.4)	4.5	(3.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、削出高台	砂粒を含まない	5Y7/2 灰白	大窯第3段階	灰釉
358	GC09-6B	VIID18t	SD5	山茶碗	小碗	3/12	(10.0)	3.1	(4.8)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台、指ナデ	砂粒を含む	7.5YR7/1 明褐灰	尾張型第4型式	
359	GC09-6B	VIIE18a	SD5	山茶碗	碗	5/12	(15.1)	5.1	6.9	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄	尾張型第5型式	籾殻痕あり
360	GC09-6B	VIIE20b	SD5	山茶碗	碗	2/12	(13.5)	2.9	(4.6)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒を含まない	10YR7/1 灰白	東濃型第11型式	
361	GC09-6B	VIID18t	SD5	山茶碗	小皿	9/12	7.9	1.9	5.7	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	
362	GC09-6A	VIID12m	SD7	山茶碗	碗	5/12	(15.3)	4.9	6.8	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/2 灰黄	尾張型第5型式	籾殻痕あり
363	GC09-6A	VIID12m	SD7	山茶碗	碗	1/12	(14.0)	5.5	5.0	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
364	GC09-6A	VIID12n	SD7	山茶碗	片口鉢	3/12	(29.3)	12.8	(13.2)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒、礫を含む	10YR7/1 灰白	尾張型第6型式	砂粒痕あり
365	GC09-6A	VIID12n	SD7	山茶碗	壺	3/12	-	(5.1)	(10.0)	指ナデ、指オサエ	板ナデ、指ナデ、指オサエ	砂粒を含む	内:7.5Y8/1 灰白 外:N6/ 灰		
366	GC09-6A	VIID12n	SD7	常滑	甕	2/12	(36.9)	(6.9)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR3/3 暗褐	知多窯5型式	
367	GC09-6A	VIID15k	SE1掘方(下層)	山茶碗	碗	4/12	-	(2.1)	(7.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
368	GC09-6A	VIID15k	SE1掘方(下層)	山茶碗	碗	5/12	-	(3.4)	(8.3)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台、指ナデ	砂粒を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第5型式	籾殻痕あり
369	GC09-6A	VIID15j	SE1掘方	山茶碗	碗	3/12	(14.2)	5.5	(6.6)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	5Y7/1 灰白	尾張型第6型式	籾殻痕あり
370	GC09-6A	VIID15j	SE1曲物内	山茶碗	碗	5/12	(13.6)	5.4	(5.7)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、貼付高台	砂粒、礫を含む	2.5Y7/1 灰白	尾張型第7型式	籾殻痕あり
371	GC09-6A	VIID15j	SE1(2段目)甕内	山茶碗	碗	6/12	(11.8)	4.6	5.4	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ、板状圧痕	砂粒、礫を含む	N8/ 灰白	尾張型第8型式	
372	GC09-6A	VIID15j	SE1掘方	山茶碗	小皿	4/12	(8.0)	2.1	3.7	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒を含む	2.5Y6/1 黄灰	尾張型第5型式	
373	GC09-6A	VIID15j	SE1(2・3段目)甕内	山茶碗	小皿	6/12	(7.6)	1.7	(5.0)	ロクロナデ、指圧痕	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR7/1 明褐灰	尾張型第7型式	
374	GC09-6A	VII15j	SE1	常滑	甕	3/12	(48.5)	上(11.6) 下(46.2)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	内:2.5YR5/6 明赤褐 外:2.5YR4/4 にぶい赤褐	知多窯6b型式	井戸枠(1段目)
375	GC09-6A	VIID15j	SE1	常滑	甕	3/12	(45.8)	(43.4)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	内:10YR4/1 褐灰 外:7.5YR5/4 にぶい褐	知多窯6a型式	井戸枠(2段目)
376	GC09-6A	VIID15j	SE1	常滑	甕	3/12	(38.4)	(44.0)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ、押印、ヘラ描き文	砂粒、礫を含む	10YR6/6 明黄褐	知多窯6a型式	井戸枠(3段目)
377	GC09-6A	VIID15j	SE1(2・3段)甕内	常滑	甕	1/12	(44.1)	(21.0)	-	ヨコナデ、板ナデ	ヨコナデ、板ナデ	砂粒、礫を含む	内:5YR5/4 にぶい赤褐 外:5YR3/3 暗赤褐	知多窯6b型式	
378	GC09-6A	VIID15j	SE1	常滑	甕	7/12	(41.6)	(16.0)	-	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ	ヨコナデ、指オサエ、板ナデ、押印	砂粒、礫を含む	内面口縁部・外面肩部:N6/灰 内面:10YR4/1 褐灰 外面:7.5YR4/2 灰褐	知多窯6a型式	
379	GC09-6A	VIID12m	SD8	肥前磁器	蓋	5/12	(9.1)	3.1	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含まない	10Y8/1 灰白		外青磁、呉須絵、透明釉
380	GC09-6A	VIID12m	SD8	肥前磁器	広東碗	4/12	(9.6)	(3.4)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含まない	5Y8/1 灰白		呉須絵、透明釉
381	GC09-6A	VIID12n	SD8	瀬戸美濃	梅文皿	6/12	(11.7)	4.5	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含まない	5Y8/3 淡黄		呉須絵、灰釉
382	GC09-6A	VIID12n	SD8	瀬戸美濃	丸碗	3/12	(11.1)	6.5	(4.0)	ロクロナデ	ロクロナデ、貼付高台	砂粒を含まない	2.5Y8/2 灰白		呉須絵、透明釉
383	GC09-6A	VIID12n	SD8	瀬戸美濃	合子蓋	4/12	(7.0)	1.1	-	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y8/2 灰白		灰釉
384	GC09-6A	VIID12m	SD8	土師器	鍋	1/12	-	(2.6)	-	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ	砂粒を含む	7.5Y6/4 にぶい橙		焙烙鍋
385	GC09-6A	VIID12m	SD8	瀬戸美濃	徳利	4/12	(3.8)	(12.5)	-	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄		灰釉
386	GC09-6A	VIID9・10c・d	NR3	瀬戸美濃	丸碗	2/12	(10.0)	6.6	5.1	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、削出高台	砂粒を含まない	2.5Y8/3 淡黄		染付
387	GC09-6A	VIID9・10c・d	NR3	瀬戸美濃	丸皿	1/12	(10.0)	2.2	6.1	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄		灰釉、底部墨書あり
388	GC09-6A	VIID10c	NR3	瀬戸美濃	輪禿皿	7/12	12.4	4.5	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、削出高台	砂粒を含まない	10YR8/2 灰白		灰釉
389	GC09-6A	VIID10c	NR3	瀬戸美濃	中皿	3/12	(22.2)	4.7	(12.1)	ロクロナデ	ロクロナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台	砂粒を含む	2.5YR7/2 明赤灰		灰釉
390	GC09-6A	VIID9d	NR3(北肩下層)	瀬戸美濃	播鉢	6/12	-	(11.3)	9.7	ロクロナデ、クシ目(19本)	ロクロナデ、回転ヘラケズリ	砂粒を含む	10YR7/3 にぶい黄橙		錆釉
391	GC09-6A	VIID9・10c・d	NR3	瀬戸美濃	水滴	4/12	長さ9.3	3.2	幅5.6	ナデ	ナデ	砂粒を含まない	7.5Y7/1 灰白		灰釉
392	GC09-6A	VIID10c	NR3	常滑	壺	2/12	11.0	(9.2)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒を含む	5YR3/4 暗赤褐		
393	GC09-6A	VIID9・10c・d	NR3	常滑	火鉢	4/12	20.0	(6.6)	-	ロクロナデ	ロクロナデ	砂粒、礫を含む	7.5YR6/6 橙		赤物
394	GC09-6A	VIID9d	NR3(北肩下層)	常滑	くど	2/12	(24.3)	(14.4)	-	ヨコナデ、指ナデ	ヨコナデ、指ナデ	砂粒を含む	5YR7/6 橙		赤物、外面煤付着

第３表　東畑・郷中遺跡出土土製品観察表

1. 括弧付きの数値について、残存値を示した。
2. 外面調整の項目では調整技術を記載した。
3. 胎土は、基本的に砂粒・礫を含むか含まないかを記載した。
4. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。
5. 備考では、土錘については孔径の直径を記載した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	種類	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	外面調整	胎土	色調	備考
171	HH09-2	ⅠE20k	SB11	土錘(有孔土玉)	12/12	3.3	3.4	－	28.75	ナデ	砂粒を含む	7.5YR8/6 浅黄橙	孔径0.6cm
273	HH09-3	ⅡD6m	SE1上層	土錘	11/12	4.2	1.2	0.4	(6.52)	指ナデ、指オサエ	砂粒を含む	5YR7/6 橙	孔径0.4cm
274	HH09-3	ⅡD6m	SE1上層	土錘	12/12	2.9	0.7	0.3	10.8	指ナデ	砂粒を含む	2.5Y7/2 灰黄	孔径0.3cm
395	GC09-6A	ⅦD8d	NR3	フイゴ羽口	胴部1/12	(3.6)	短径 －	長径 －	(48.6)	ナデ	砂粒を含む	5YR6/8 橙	
396	GC09-6A	ⅦD10c	NR3	フイゴ羽口	1/12	(7.0)	短径(4.4)	長径 6.0	(33.5)		砂粒、礫を含む	10YR8/2 灰白	

第４表　郷中遺跡出土軒丸瓦観察表

1. 括弧付きの数値について、直径・内区直径では復元径を、長さ・厚さでは残存値を示した。
2. 凹面と凸面の項目では調整技術を記載した。
3. 胎土は、基本的に砂粒・礫を含むか含まないかを記載した。
4. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	種類	直径(cm)	内区直径(cm)	内区紋様	外縁幅(cm)	外縁高さ(cm)	長さ(cm)	厚さ(cm)	凹面	凸面	胎土	色調	備考
397	GC09-6A	ⅦD13h	SD2底面	軒丸瓦	(17.0)	(9.6)	右三巴	1.0	0.9	－	2.6	－	－	砂粒を含む	5Y6/1　灰	珠文11個残存
398	GC09-6A	ⅦD13h	包含層	軒丸瓦	－	(8.8)	右三巴	－	－	－	3.8	－	－	砂粒を含む	瓦当面：10YR6/2 灰黄褐 裏面：5Y6/1　灰	珠文6個残存

第５表　畑間・東畑・郷中遺跡出土瓦観察表

1. 括弧付きの数値について、残存値を示した。
2. 凹面と凸面の項目では調整技術を記載した。
3. 胎土は、基本的に砂粒・礫を含むか含まないかを記載した。
4. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	凹面	凸面	胎土	色調	備考
172	HH09-2	IE19d	包含層	瓦塔	(6.75)	(5.5)	(1.5)	外面調整　ケズリ、ナデ		砂粒を含む	N5/ 灰	
275	HH09-3	ⅡD5ｉ	SK4	平瓦	(10.0)	(7.3)	2.0	平行状コビキ、布目痕、面取り	縄タタキ	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	
276	HH09-3	ⅡD5ｉ	SK4	平瓦	(4.2)	(7.3)	2.0	緩弧状コビキ、布目痕、ナデ、面取り	縄タタキ	砂粒を含む	表：2.5YR7/3 淡赤橙 裏：10Y7/1	
339	HM09-5	ⅧE4k	SD2	丸瓦	(5.2)	(7.3)	1.4	平行状コビキ、布目痕	ケズリ、指ナデ	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	
340	HM09-5	ⅧE4k	SD2	丸瓦	(8.3)	(11.2)	2.2	布目痕、ケズリ、指ナデ	ケズリ、指ナデ	砂粒を含む	5Y7/1 灰白	
341	HM09-5	ⅧE4k	SD2	平瓦	(8.3)	(15.6)	2.0	板ナデ、ケズリ、指ナデ	縄タタキ	砂粒を含む	5Y6/1 灰	
399	GC09-6A	ⅦD12n	SD7	丸瓦	(5.4)	(9.5)	(1.9)	布目痕、ケズリ	縄タタキ	砂粒を含む	7.5Y7/4 にぶい橙	

第６表　東畑遺跡出土石器観察表

1. 括弧付きの数値について、残存値を示した。
2. 石材鑑定は表面観察による。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	種類	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
27	HH09-1	ⅡF1b	SB6	敲石	一部欠	9.0		3.6	(458.1)	安山岩	
173	HH09-2	ⅠE19f	SB18	石鏃	一部欠	(6.4)		0.6	(4.6)	下呂石	
174	HH09-2	ⅡE1m	包含層	石鏃	一部欠	(3.7)		0.6	(2.3)	頁岩	
175	HH09-2	ⅠE16h	SP73(SA1)	石鏃	完形	3.8		0.6	2.7	下呂石	
176	HH09-2	ⅡE2n	包含層	石鏃	完形	2.4		0.6	1.28	チャート	
177	HH09-2	ⅡE1m	包含層	石鏃	一部欠	2.2		0.5	(1.0)	下呂石	
178	HH09-2	ⅠE19g	SB7	磨製石斧	半欠	(7.1)		2.7	(131.6)	緑泥片岩	

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	種類	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	備考
179	HH09-2	ⅠE19f	SB18	磨製石斧	刃部片	(4.1)	(4.4)	(1.8)	(38.6)	緑泥片岩	
180	HH09-2	ⅠE20g	包含層(黒褐色土)	磨製石斧	刃部片	(3.5)	(3.9)	(1.9)	(29.2)	緑泥片岩	
181	HH09-2	ⅡE1g	包含層	磨製石斧	刃部片	(7.7)	(4.9)	(2.8)	(116.9)	緑泥片岩	
182	HH09-2	ⅠE19g	SB7	磨製石斧	完形	8.4	4.7	1.8	157.7	泥岩	
183	HH09-2	ⅡE1k	SK62(SB12)	磨製石斧	一部欠	14.9	7.4	4.0	891.3	ハイアロクラスタイト	
184	HH09-2	ⅡE11	SB12	砥石	一部欠	6.7	2.3	1.4	(18.9)	泥岩	
185	HH09-2	ⅠE19f	SB18	敲石	半欠	(11.6)	10.2	5.3	(967.4)	安山岩	
186	HH09-2	ⅠE19f	SB18	敲石	完形	16.6	6.9	4.5	825.1	砂岩	被熱による赤色化
187	HH09-2	ⅠE15h	SK23(SB1)	砥石	半欠	11.2	(7.0)	(2.9)	(321.9)	砂岩	
188	HH09-2	ⅠE20j	SB10	砥石	一部欠	13.8	17.9	5.2	882.9	砂岩	
277	HH09-3	ⅡD4･5h	SB5	敲石	完形	19.1	12.2	8.2	2630	泥岩	
278	HH09-3	ⅡD6o	SK21(SB6)	砥石	完形	7.1	6.4	2.6	113.9	軽石	

第７表　畑間・東畑・郷中遺跡出土金属製品観察表

1. 括弧付きの数値について、残存値を示した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	種類	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
28	HH09-1	ⅡE2s	SP44	銅鏃	一部欠	3.3	1.2	0.3	(3.59)	
189	HH09-2	IE14h	SE1	鉄滓	-	9.8	8.6	3.8	365.5	
342	HM09-5	ⅧE3i	SB1	鉄鏃	完形	7.8	2.8	0.9	16.0	
343	HM09-5	ⅧE6m	SD6	銅銭	完形	2.4	2.4	0.13	3.4	
400	GC09-6A	ⅦD13m	ST1	刀子	一部欠	(20.4)	(3.4)	(2.0)	(96.6)	鉄製

第８表　東畑遺跡出土製塩土器観察表

1. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	器種	残存部位	色調	分類	備考
401	HH09-1	ⅡF1b	SB7	知多式製塩土器	脚下端	黄橙色	3類?	
402	HH09-2	IE14h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	灰白色＋灰褐色	4A1類	付け根径2.0cm
403	HH09-2	IE20j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡赤橙色＋灰赤色	4A2類	付け根径1.3cm
404	HH09-2	IE18g	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡橙色	4A類	付け根径1.5cm
405	HH09-2	IE18c	包含層	知多式製塩土器	脚中程	淡赤橙色	4A類	
406	HH09-2	IE14h	SE1(2段目甕内)	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
407	HH09-2	IE14h	SE1(3段目甕内)	知多式製塩土器	脚下端	にぶい赤褐色	4A類	
408	HH09-2	ID18s	包含層	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色	5A類	付け根径2.6cm
409	HH09-2	IE201	SP158	知多式製塩土器	脚下端	赤褐色＋灰赤色＋暗赤灰色	5類	
410	HH09-3	ⅡD5f	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A1類	付け根径1.8cm
411	HH09-3	ⅡD4e	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色＋淡赤橙色の斑紋	4A3類	付け根径1.6cm
412	HH09-3	ⅡD4f･g	SB3	知多式製塩土器	杯口縁部	にぶい赤褐色＋暗赤灰色 (内面:にぶい赤褐色)	4A類	砂粒を多く含む
413	HH09-3	ⅡD4e	包含層	知多式製塩土器	杯口縁部	にぶい橙色＋赤灰色	4A類	
414	HH09-3	ⅡD4e	包含層	知多式製塩土器	杯胴部	橙色	4A類	
415	HH09-3	ⅡD6m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	
416	HH09-3	ⅡD5h	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
417	HH09-3	ⅡD7o	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
418	HH09-3	ⅡD4e	SL1	知多式製塩土器	脚下端	淡橙色	4A類	
419	HH09-3	ⅡD4f	包含層	知多式製塩土器	脚下端	淡橙色	4A類	
420	HH09-3	ⅡD4f	包含層	知多式製塩土器	脚下端	淡橙色	4A類	

第９表　畑間遺跡出土製塩土器観察表

1. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	器種	残存部位	色調	分類	備考
421	HM09-5	ⅧE6n	SK21	知多式製塩土器	脚上部	灰黄色	3A類	付け根径3.0cm
422	HM09-5	ⅧE6p	SD7上層	知多式製塩土器	脚上部と下端	にぶい黄橙色	3B1類	
423	HM09-5	ⅧE6q	SK28	知多式製塩土器	脚中程	にぶい褐色	3B1類	
424	HM09-5	ⅧE1e･f	SK1	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色+赤橙色	3B類	付け根径1.7cm
425	HM09-5	ⅧE1e･f	SK1	知多式製塩土器	脚中程	浅黄橙色	3B類	
426	HM09-5	ⅧE2f	SK3	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色+灰白色	3B類	
427	HM09-5	ⅧE4l	SD4	知多式製塩土器	脚中程	淡橙色+橙色	3B類	
428	HM09-5	ⅧE5l	SD4	知多式製塩土器	脚中程	明褐灰色	3B類	
429	HM09-5	ⅧE3j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	橙色	3B類	
430	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	黒褐色	3B類	
431	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰黄褐色	3B類	
432	HM09-5	ⅧE6m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色	3B類	
433	HM09-5	ⅧE6n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	3B類	
434	HM09-5	ⅧE6n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰黄褐色+褐灰色	3B類	
435	HM09-5	ⅧE3i	SB1上層	知多式製塩土器	脚下端	にぶい橙色	3B類	
436	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚下端	にぶい橙色	3B類	
437	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	灰黄色+黒褐色	3B類	
438	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色	3B類	
439	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色	3B類	
440	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	にぶい黄橙色	3B類	
441	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	黒褐色	3B類	
442	HM09-5	ⅧE1e	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色	4A1類	付け根径2.0cm
443	HM09-5	ⅧE3i	SB1	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色	4A2類	付け根径2.0cm
444	HM09-5	ⅧE2h	SK7	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A2類	付け根径1.5cm
445	HM09-5	ⅧE2h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色+橙色	4A2類	付け根径1.6cm
446	HM09-5	ⅧE3h	SB1	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色	4A3類	付け根径1.6cm
447	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色＋灰白色＋黒色	4A3類	付け根径2.1cm
448	HM09-5	ⅧE2h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A3類	付け根径1.8cm
449	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A3類	付け根径1.7cm
450	HM09-5	ⅧE3h･i	SB1	知多式製塩土器	杯口縁部	褐灰色(内面:淡橙色)	4A類	
451	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	杯口縁部	赤灰色＋淡赤橙色(内面:にぶい橙色)	4A類	
452	HM09-5	ⅧE3i	SB1上層	知多式製塩土器	脚上部	灰白色＋淡橙色	4A類	付け根径1.8cm
453	HM09-5	ⅧE3i	SB1上層	知多式製塩土器	脚上部	褐灰色＋黒褐色	4A類	付け根径1.7cm
454	HM09-5	ⅧE4k	SB2	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径2.0cm
455	HM09-5	ⅧE4k	SB2	知多式製塩土器	脚上部	灰褐色	4A類	付け根径1.8cm
456	HM09-5	ⅧE6p	SP70	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径2.2cm
457	HM09-5	ⅧE4l	SD4	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色+橙色	4A類	
458	HM09-5	ⅧE5k	SD6	知多式製塩土器	脚上部	浅黄色	4A類	付け根径1.5cm
459	HM09-5	ⅧE5m	SX4粘土3	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色+赤褐色の斑紋	4A類	
460	HM09-5	ⅧE1e	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色	4A類	付け根径1.6cm
461	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径1.4cm
462	HM09-5	ⅧE2g	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4A類	
463	HM09-5	ⅧE2g	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4A類	付け根径1.7cm
464	HM09-5	ⅧE2g	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい赤橙色	4A類	付け根径1.7cm
465	HM09-5	ⅧE2h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡赤橙色	4A類	付け根径1.7cm
466	HM09-5	ⅧE3h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径1.8cm
467	HM09-5	ⅧE3h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径1.7cm
468	HM09-5	ⅧE3h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色	4A類	付け根径1.8cm
469	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径2.2cm

遺物観察表

番号	調査区	グリッド	層位・遺構	器種	残存部位	色調	分類	備考
470	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径2.0cm
471	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	褐灰色	4A類	付け根径1.7cm
472	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡赤橙色+淡橙色	4A類	付け根径1.7cm
473	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡橙色	4A類	
474	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡赤橙色＋橙色	4A類	
475	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡赤橙色	4A類	付け根径2.1cm
476	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径1.7cm
477	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色＋橙色	4A類	付け根径1.6cm
478	HM09-5	ⅧE4k	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色＋淡橙色	4A類	付け根径2.0cm
479	HM09-5	ⅧE5k	包含層	知多式製塩土器	脚上部	明赤褐色	4A類	
480	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	
481	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4A類	付け根径1.9cm
482	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4A類	付け根径2.3cm
483	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色＋褐灰色	4A類	付け根径2.2cm
484	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	明褐灰色	4A類	付け根径1.9cm
485	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色	4A類	付け根径1.9cm
486	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい赤橙色	4A類	
487	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚上部	灰黄褐色	4A類	付け根径1.9cm
488	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚上部	黄灰色	4A類	
489	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	
490	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚上部	褐灰色	4A類	
491	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	
492	HM09-5	ⅧE1e	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰褐色	4A類	
493	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	脚中程	浅黄色	4A類	
494	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	脚中程	橙色	4A類	
495	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
496	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰褐色	4A類	
497	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
498	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚中程	褐灰色	4A類	
499	HM09-5	ⅧE3j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
500	HM09-5	ⅧE3j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
501	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	淡赤橙色＋橙色	4A類	
502	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
503	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	明褐灰色	4A類	
504	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4A類	
505	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4A類	
506	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
507	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
508	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	明褐灰色	4A類	
509	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色+褐灰色	4A類	
510	HM09-5	ⅧE3i	SB1	知多式製塩土器	脚下端	灰白色	4A類	
511	HM09-5	ⅧE5n	SP47	知多式製塩土器	脚下端	黄灰色	4A類	
512	HM09-5	ⅧE1f	包含層	知多式製塩土器	脚下端	灰白色	4A類	
513	HM09-5	ⅧE2f	包含層	知多式製塩土器	脚下端	明褐灰色	4A類	
514	HM09-5	ⅧE2g	包含層	知多式製塩土器	脚下端	浅黄橙色	4A類	
515	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚下端	明褐灰色	4A類	
516	HM09-5	ⅧE3i	包含層	知多式製塩土器	脚下端	灰褐色	4A類	
517	HM09-5	ⅧE5l	包含層	知多式製塩土器	脚下端	にぶい橙色	4A類	
518	HM09-5	ⅧE5l	包含層	知多式製塩土器	脚下端	にぶい橙色	4A類	
519	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色	4A類	
520	HM09-5	ⅧE5m	包含層	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色	4A類	
521	HM09-5	ⅧE6m	包含層	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色	4A類	

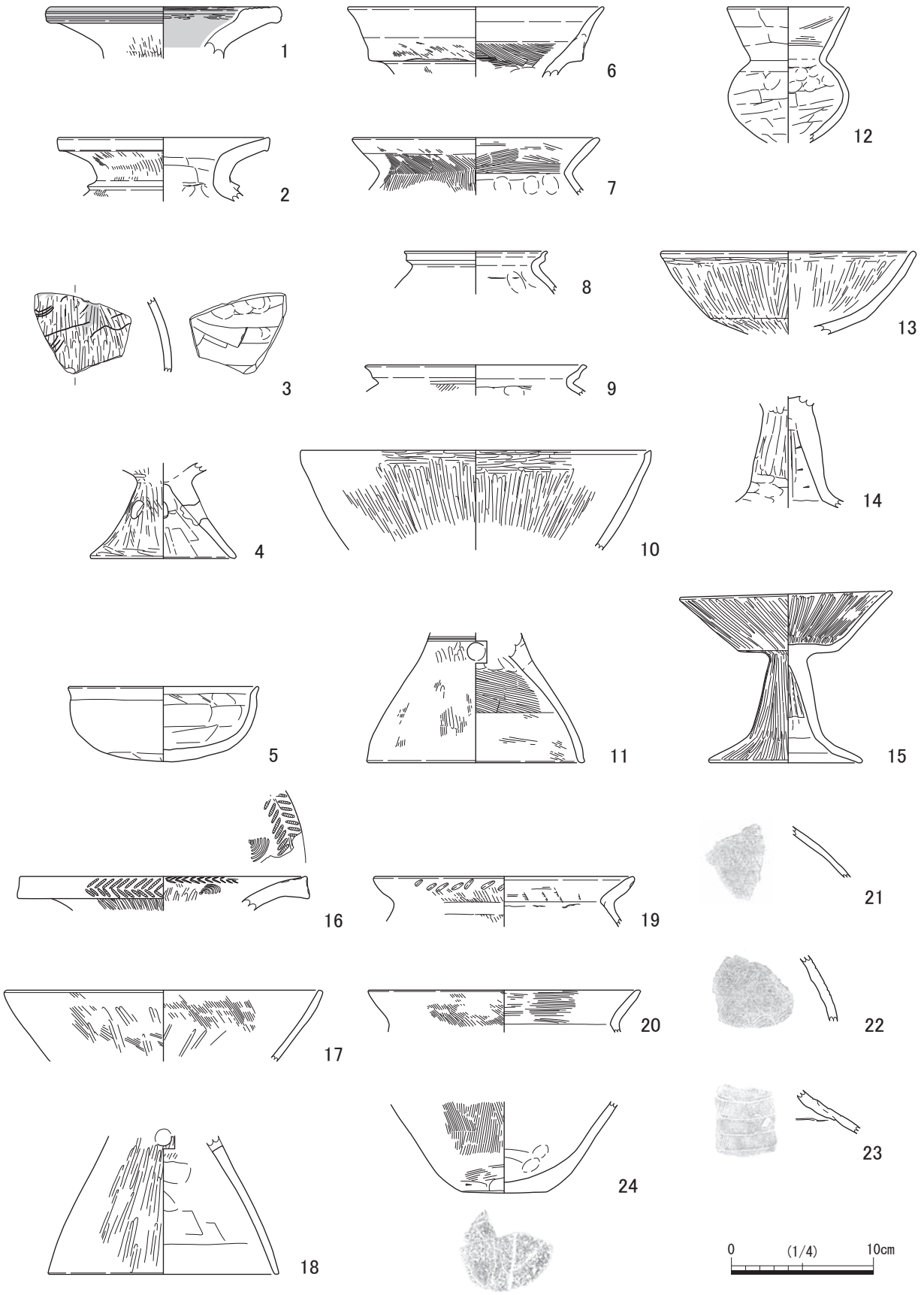
番号	調査区	グリッド	層位・遺構	器種	残存部位	色調	分類	備考
522	HM09-5	ⅧE4k	SB2	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色	4B類	付け根径2.4cm
523	HM09-5	ⅧE5・6m	SP21	知多式製塩土器	脚上部	にぶい黄橙色	4B類	付け根径2.3cm
524	HM09-5	ⅧE1e	SK1	知多式製塩土器	脚上部	にぶい赤褐色	4B類	付け根径2.2cm
525	HM09-5	ⅧE4l	SD3	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4B類	付け根径2.3cm
526	HM09-5	ⅧE4m	SD4	知多式製塩土器	脚上部	褐灰色	4B類	付け根径2.3cm
527	HM09-5	ⅧE1g	包含層	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色	4B類	付け根径2.1cm
528	HM09-5	ⅧE2h	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4B類	付け根径2.4cm
529	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色＋褐灰色	4B類	付け根径2.2cm
530	HM09-5	ⅧE4k	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色＋褐灰色	4B類	付け根径2.4cm
531	HM09-5	ⅧE5l	包含層	知多式製塩土器	脚上部	明赤褐色+暗赤灰色	4B類	付け根径2.2cm
532	HM09-5	ⅧE5l	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4B類	付け根径2.1cm
533	HM09-5	ⅧE5m、6m・n	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4B類	付け根径2.3cm
534	HM09-5	ⅧE6・7・p・q	表土掘削	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4C類	
535	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	杯口縁部	灰白色	4類	
536	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	杯口縁部	暗灰色(内面:暗灰色+灰色)	4類	
537	HM09-5	ⅧE3i	SB1	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
538	HM09-5	ⅧE2h	SP2	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
539	HM09-5	ⅧE6n	SP34	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
540	HM09-5	ⅧE5n	SP47	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色+褐灰色	4類	
541	HM09-5	ⅧE1e	SK1	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
542	HM09-5	ⅧE1e	SK1	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
543	HM09-5	ⅧE6p	SK44	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
544	HM09-5	ⅧE4m	SD4・5	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4類	
545	HM09-5	ⅧE5l	SD5	知多式製塩土器	脚中程	灰黄褐色	4類	
546	HM09-5	ⅧE1e	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色	4類	
547	HM09-5	ⅧE1f	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
548	HM09-5	ⅧE2h	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色+橙色	4類	
549	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色+橙色	4類	
550	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	橙色	4類	
551	HM09-5	ⅧE4j	包含層	知多式製塩土器	脚中程	橙色	4類	
552	HM09-5	ⅧE4l	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰赤色	4類	
553	HM09-5	ⅧE5l	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色+黒褐色	4類	
554	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰黄色	4類	
555	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	黒褐色	4類	
556	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4類	
557	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	褐灰色	4類	
558	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	黄灰色	4類	
559	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4類	
560	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色	4類	
561	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	褐灰色	4類	
562	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚中程	褐灰色	4類	
563	HM09-5	ⅧE5n・0	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4類	
564	HM09-5	ⅧE6m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	
565	HM09-5	ⅧE6m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色	4類	
566	HM09-5	ⅧE2g	撹乱	知多式製塩土器	脚中程	にぶい褐色	4類	
567	HM09-5	ⅧE3h以東	表土掘削	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色	4類	
568	HM09-5	ⅧE5n	SP42	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色+黒褐色	4類	
569	HM09-5	ⅧE4l	SD4	知多式製塩土器	脚下端	にぶい橙色	4類	
570	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	灰白色	4類	
571	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	浅黄橙色	4類	
572	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	褐灰色	4類	
573	HM09-5	ⅧE5n	包含層	知多式製塩土器	脚下端	灰白色+黄灰色	4類	

第 10 表　郷中遺跡出土製塩土器観察表

1. 色調は、『新版標準土色帖』（例言参照）に基づき記載した。

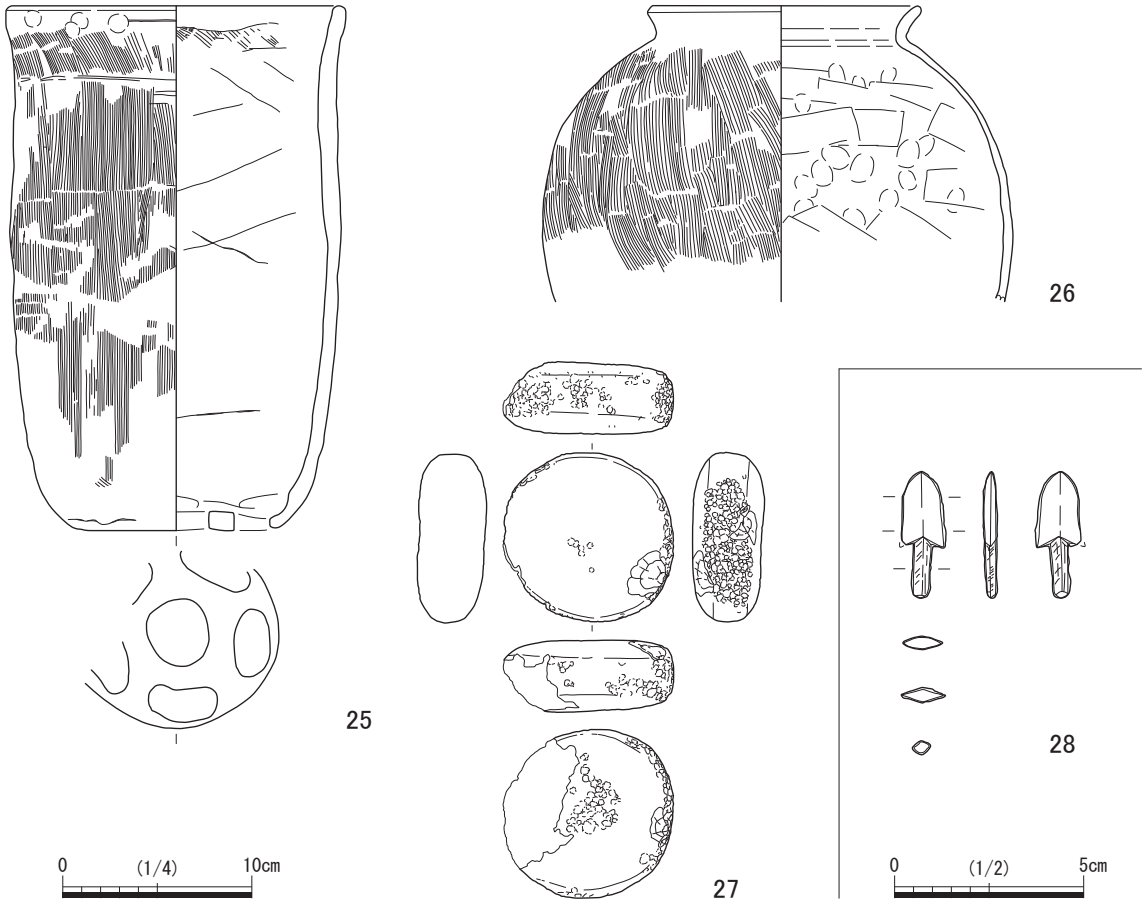
番号	調査区	グリッド	層位・遺構	器種	残存部位	色調	分類	備考
574	GC09-6B	ⅦD18t	SD5	知多式製塩土器	脚上部	橙色	1類	付け根径2.9cm
575	GC09-6A	ⅦD15K	SP59	知多式製塩土器	杯口縁部	淡赤橙色＋灰赤色(内面:橙色)	1類～3類	
576	GC09-6A	ⅦD14l	包含層	知多式製塩土器	脚上部	淡橙色	2類	付け根径3.3cm
577	GC09-6A	ⅦD13m	SK8	知多式製塩土器	脚中程	橙色	3B類	付け根径1.7cm。砂粒を多く含む
578	GC09-6A	ⅦD15l	SK16	知多式製塩土器	脚下端	灰白色	3B類	
579	GC09-6B	ⅦD19t	SB1底面	知多式製塩土器	脚上部	浅黄橙色	4A1類	付け根径1.8cm
580	GC09-6A	ⅦD15j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色＋明赤灰色＋灰赤色	4A2類	付け根径1.8cm
581	GC09-6A	ⅦD13i	SK26	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4A類	付け根径1.7cm
582	GC09-6A	ⅦD13･14j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4A類	
583	GC09-6A	ⅦD13m	包含層	知多式製塩土器	脚上部	明黄褐色	4A類	付け根径2.1cm
584	GC09-6A	ⅦD15k	包含層	知多式製塩土器	脚上部	褐灰色＋灰白色	4A類	付け根径1.8cm
585	GC09-6A	ⅦD15k	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4A類	付け根径1.7cm
586	GC09-6B	ⅦD20t	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい赤褐色	4A類	付け根径1.7cm
587	GC09-6B	ⅦE1c	撹乱	知多式製塩土器	脚上部	赤色	4A類	付け根径1.4cm
588	GC09-6A	ⅦD14m	SK13	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
589	GC09-6A	ⅦD14l	SK16	知多式製塩土器	脚中程	浅黄橙色	4A類	
590	GC09-6A	ⅦD15l	SK16	知多式製塩土器	脚中程	黒色	4A類	
591	GC09-6B	ⅦD18t	SD5	知多式製塩土器	脚中程	明褐灰色	4A類	
592	GC09-6B	ⅦD18t	SD5	知多式製塩土器	脚中程	灰褐色	4A類	
593	GC09-6A	ⅦD15j･k	SE1掘方	知多式製塩土器	脚中程	橙色	4A類	
594	GC09-6A	ⅦD15j･k	SE1掘方	知多式製塩土器	脚中程	暗赤褐色	4A類	
595	GC09-6A	ⅦD8p	包含層	知多式製塩土器	脚中程	橙色＋淡橙色	4A類	
596	GC09-6A	ⅦD12･13m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰赤色	4A類	
597	GC09-6A	ⅦD13m	包含層	知多式製塩土器	脚中程	浅黄橙色	4A類	
598	GC09-6B	ⅦD18･19t	包含層	知多式製塩土器	脚中程	灰白色	4A類	
599	GC09-6A	ⅦD14l	撹乱	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4A類	
600	GC09-6B	ⅦD18t	SD5	知多式製塩土器	脚下端	明褐灰色	4A類	
601	GC09-6A	ⅦD14m	包含層	知多式製塩土器	脚下端	にぶい赤褐色	4A類	
602	GC09-6A	ⅦD8p	包含層	知多式製塩土器	脚上部	にぶい橙色	4B類	付け根径2.3cm
603	GC09-6A	ⅦD13j	包含層	知多式製塩土器	脚上部	橙色	4B類	付け根径2.5cm
604	GC09-6A	ⅦD13h･i	包含層	知多式製塩土器	脚上部	灰白色	4類	付け根径2.0cm
605	GC09-6A	ⅦD7･8e	SK2	知多式製塩土器	脚中程	にぶい黄橙色	4類	
606	GC09-6A	ⅦD15j･k	SE1(1段目甕内)	知多式製塩土器	脚中程	にぶい橙色	4類	

図　　版

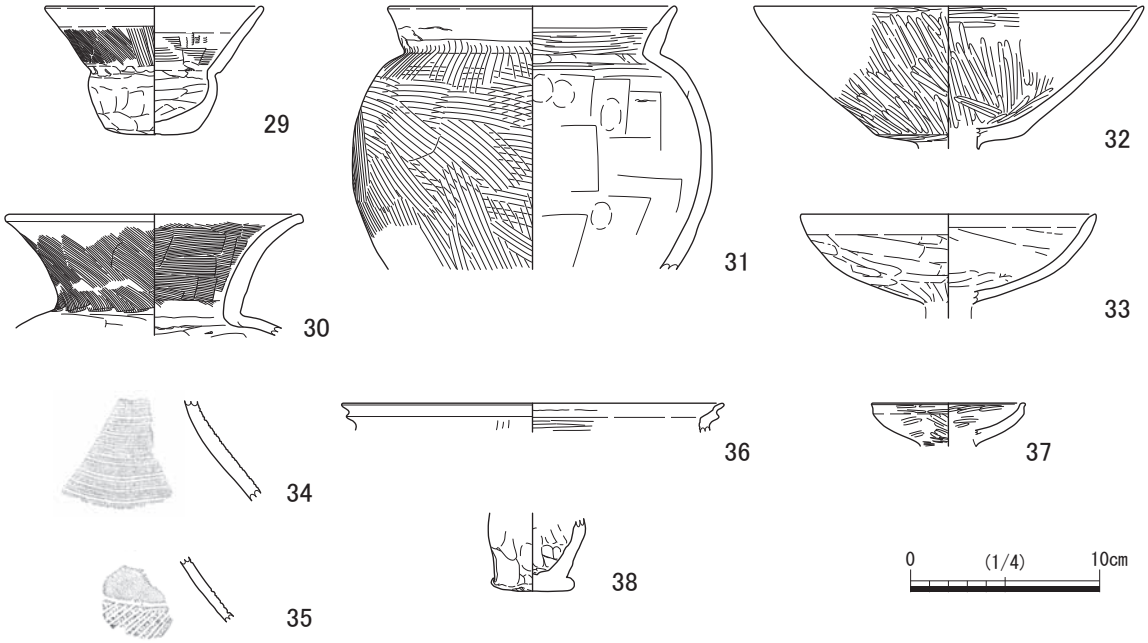


東畑遺跡 1 地点出土土器実測図 (1/4) (1)

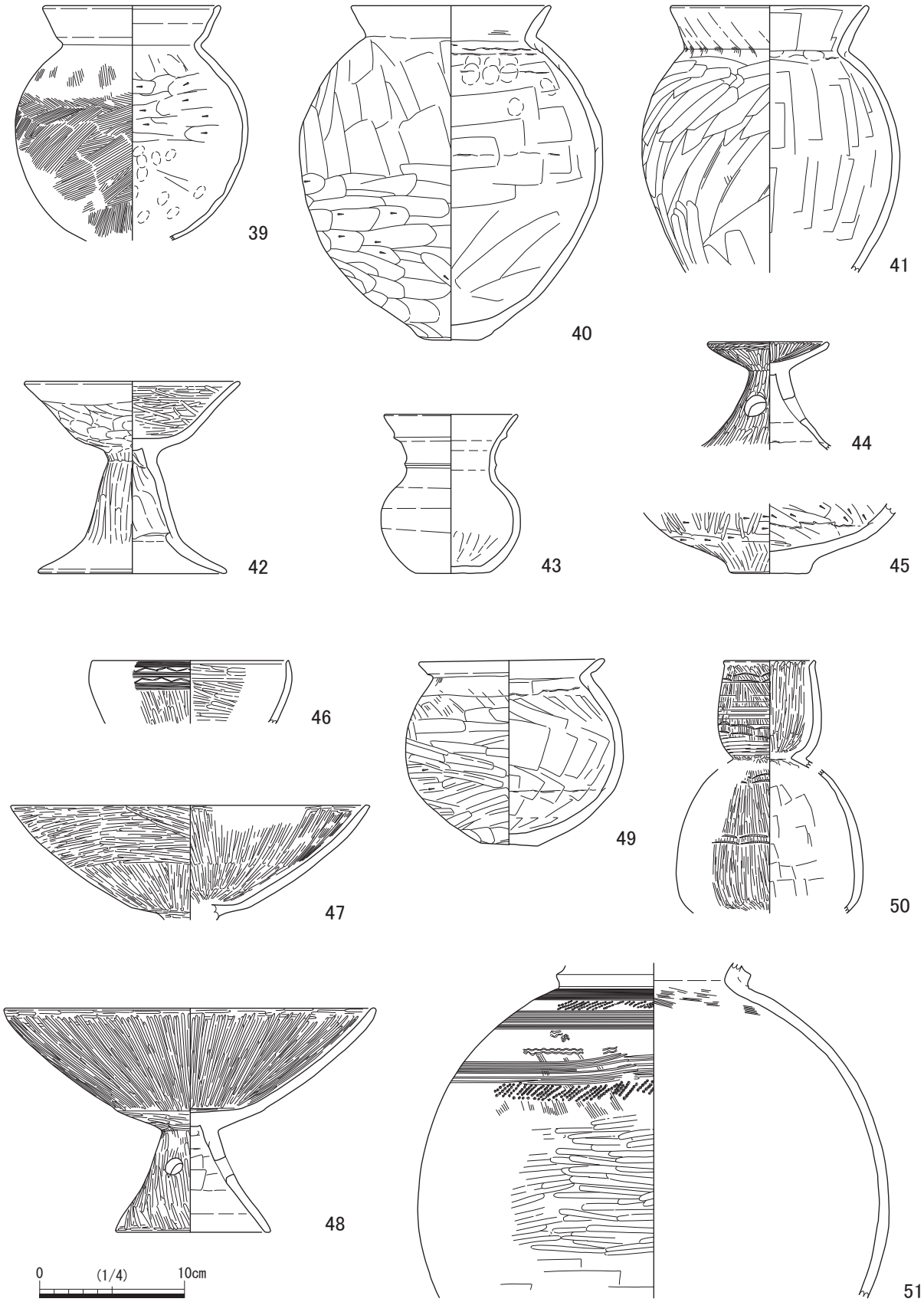
図版第 2



東畑遺跡 1 地点出土土器実測図 (1/4)(2)・石器実測図 (1/4)・銅鏃実測図 (1/2)

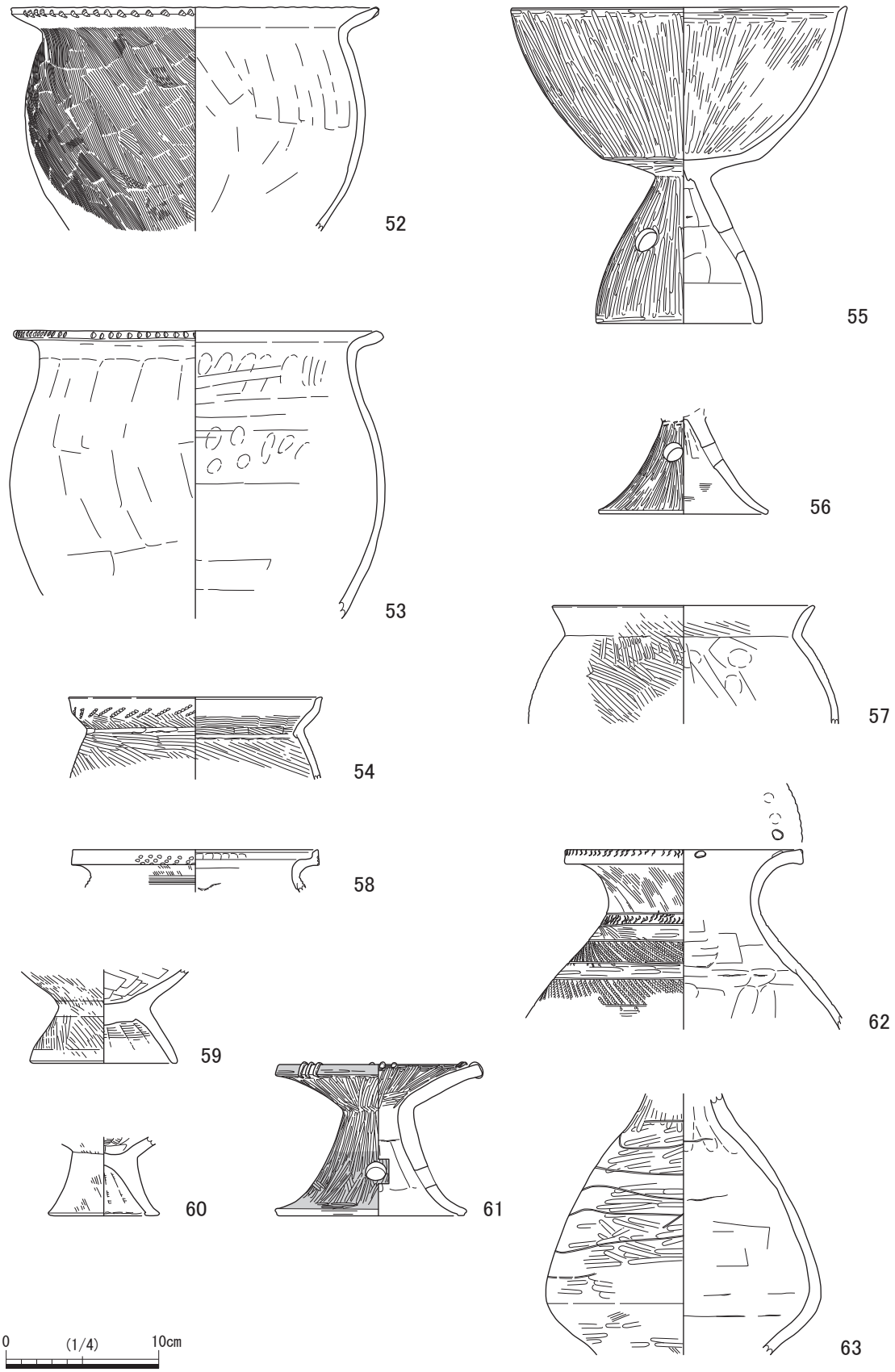


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4)(1)

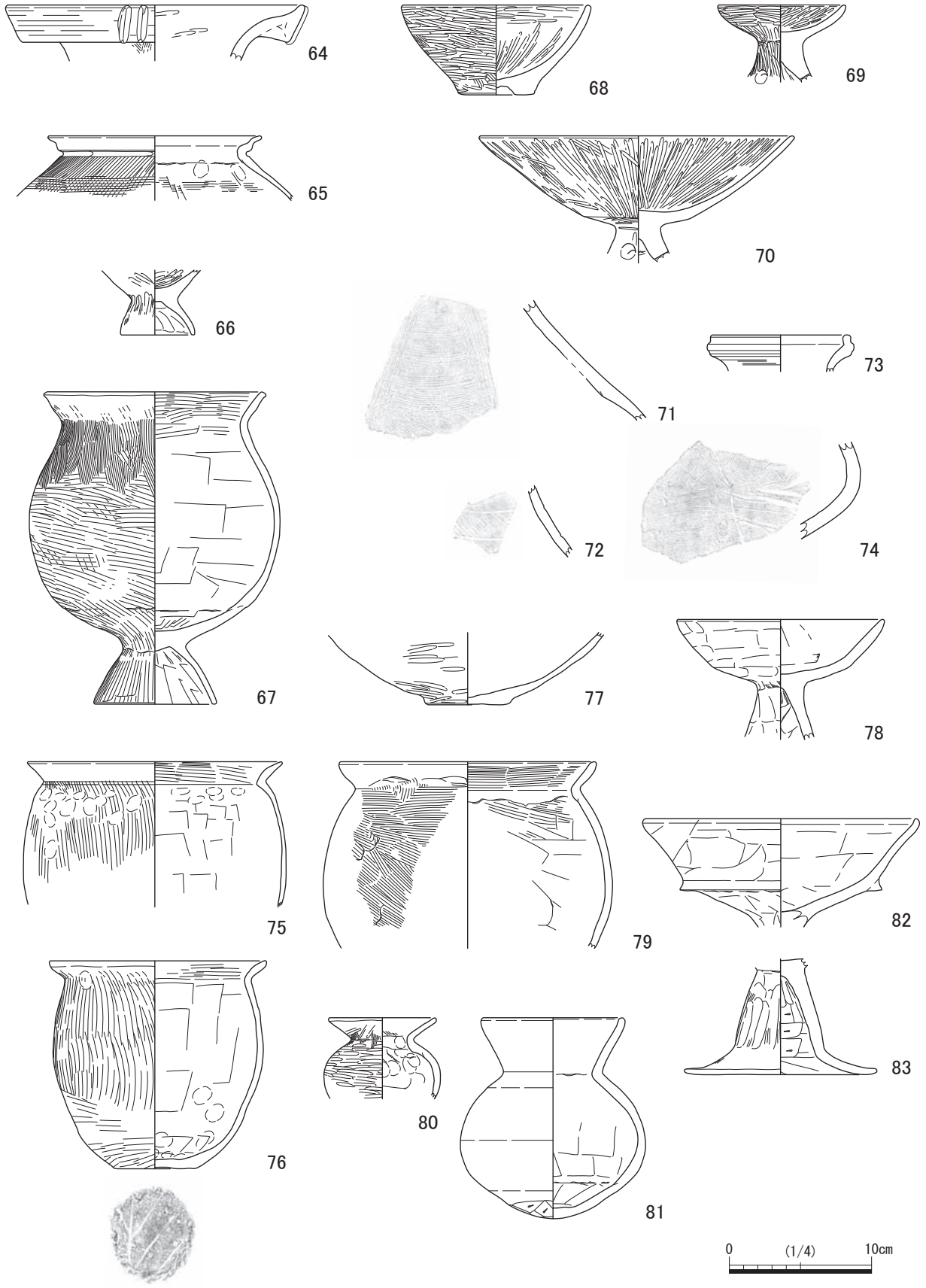


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (2)

図版第 4

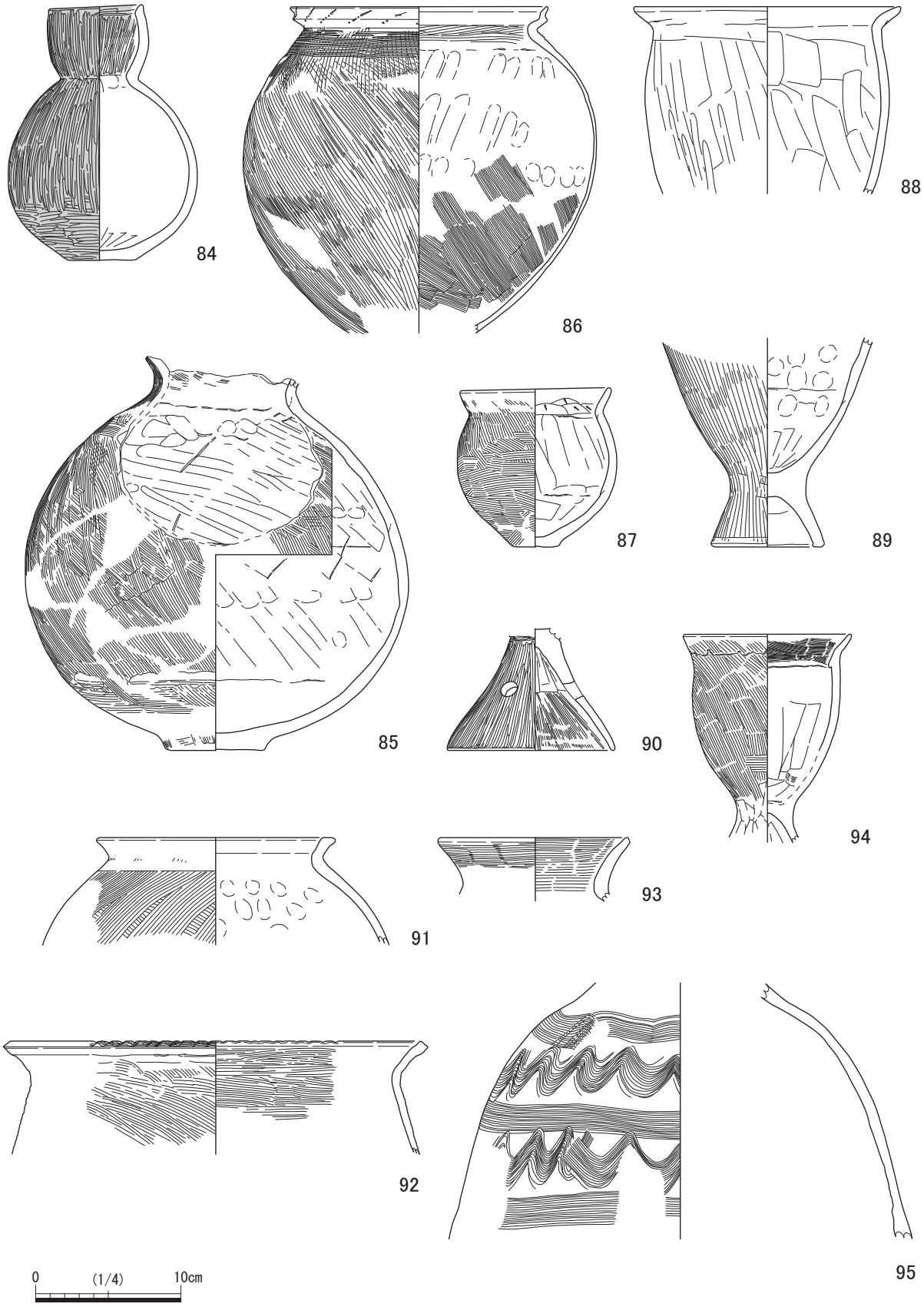


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (3)

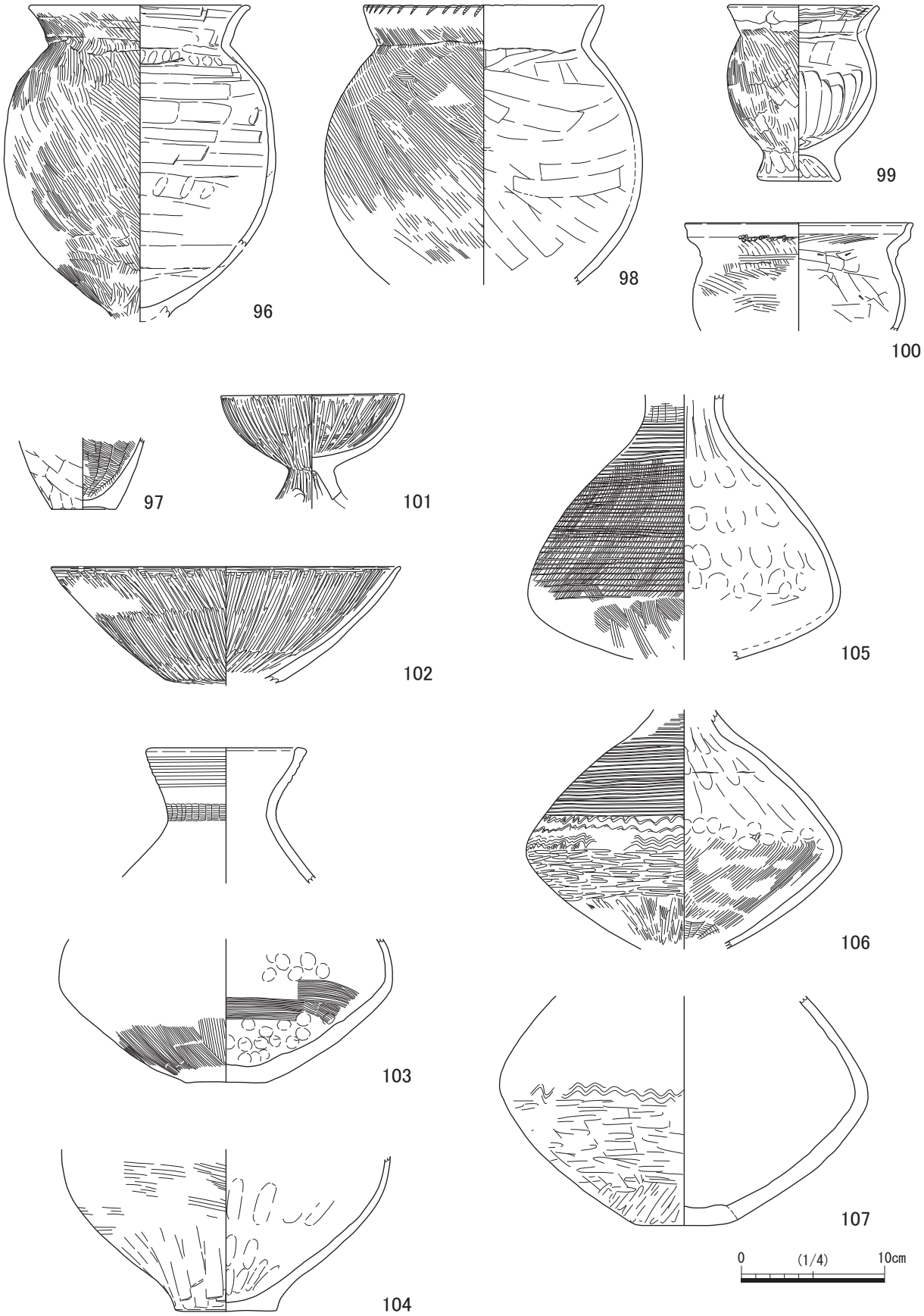


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (4)

図版第 6

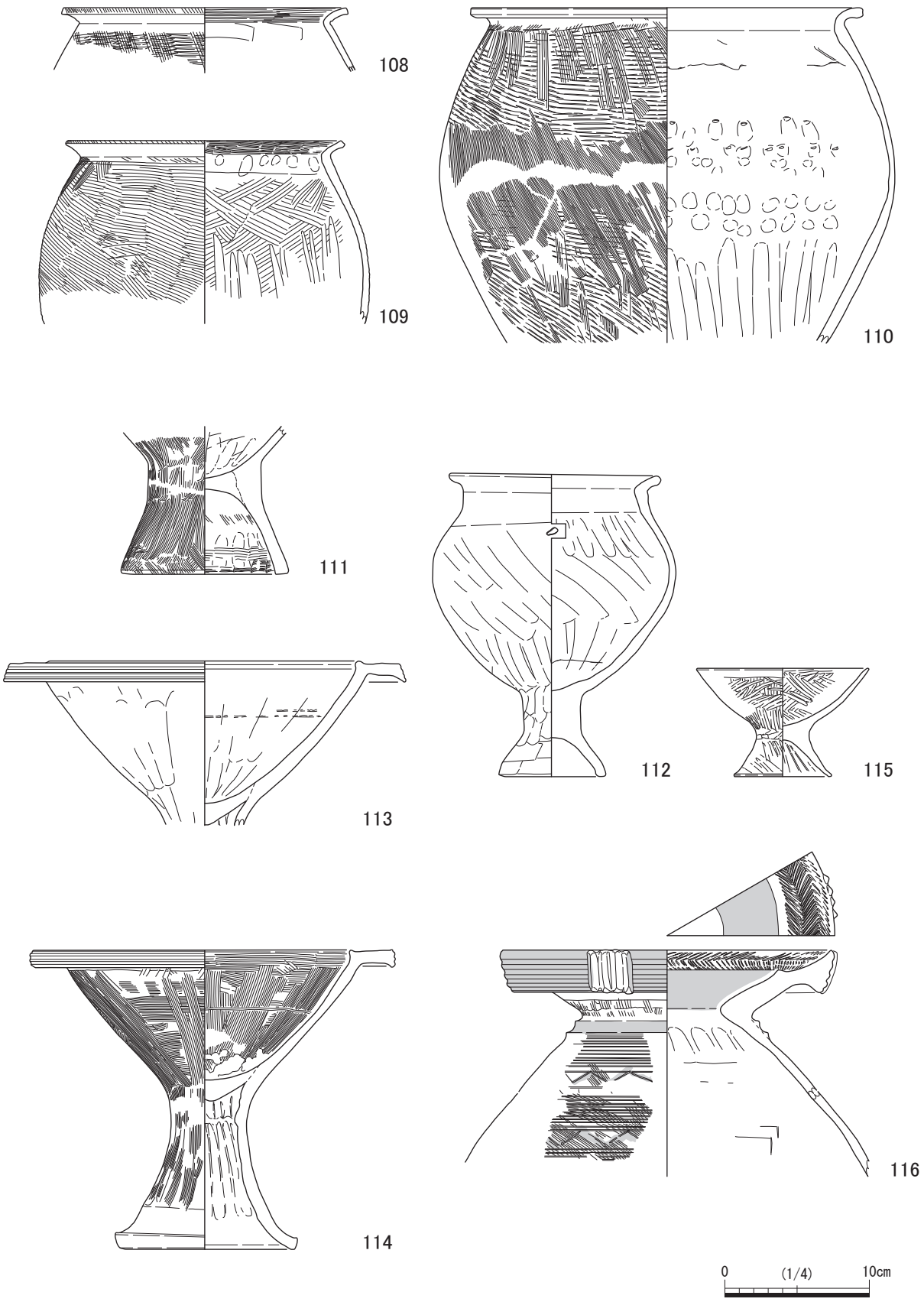


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (5)

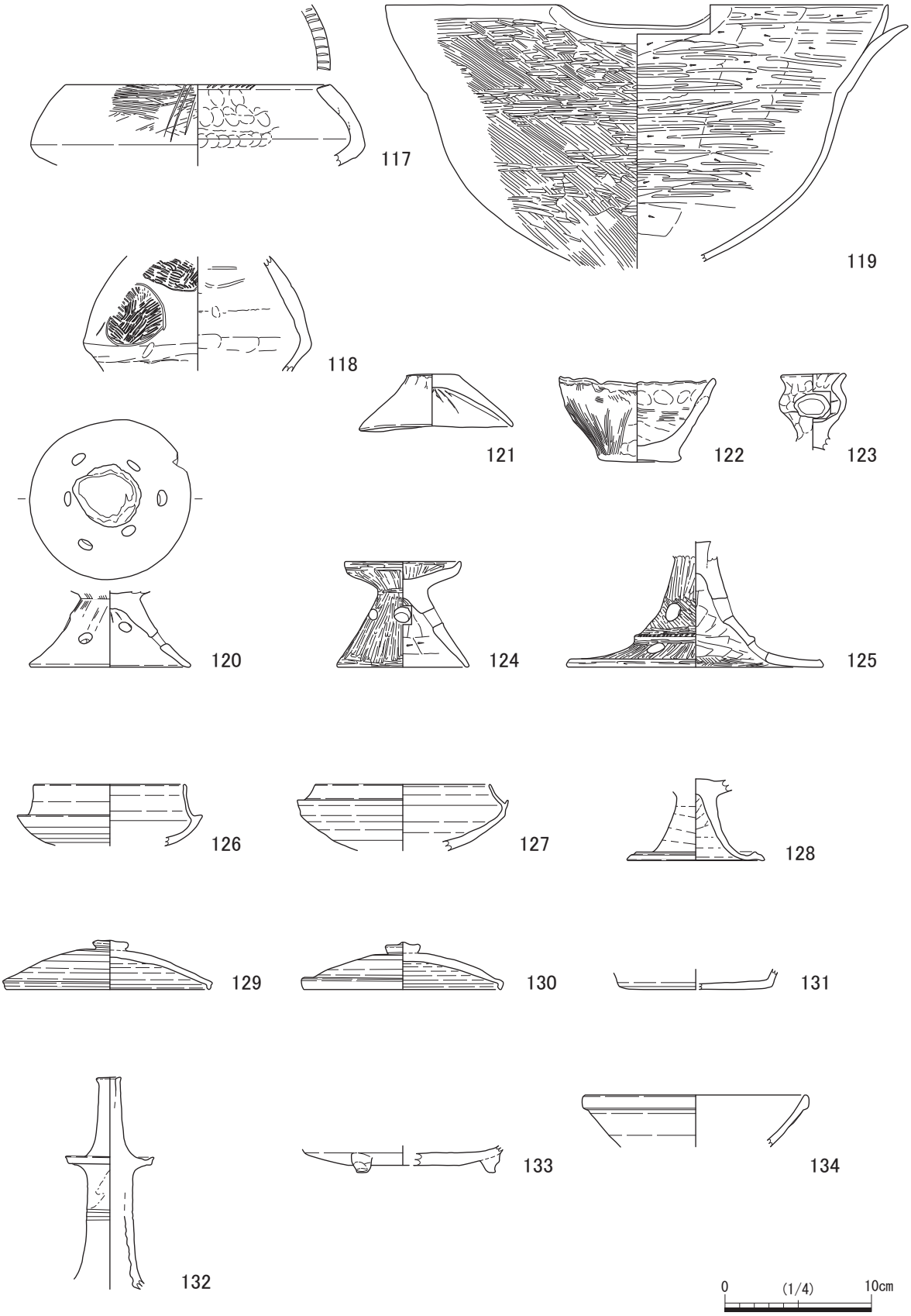


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (6)

図版第 8

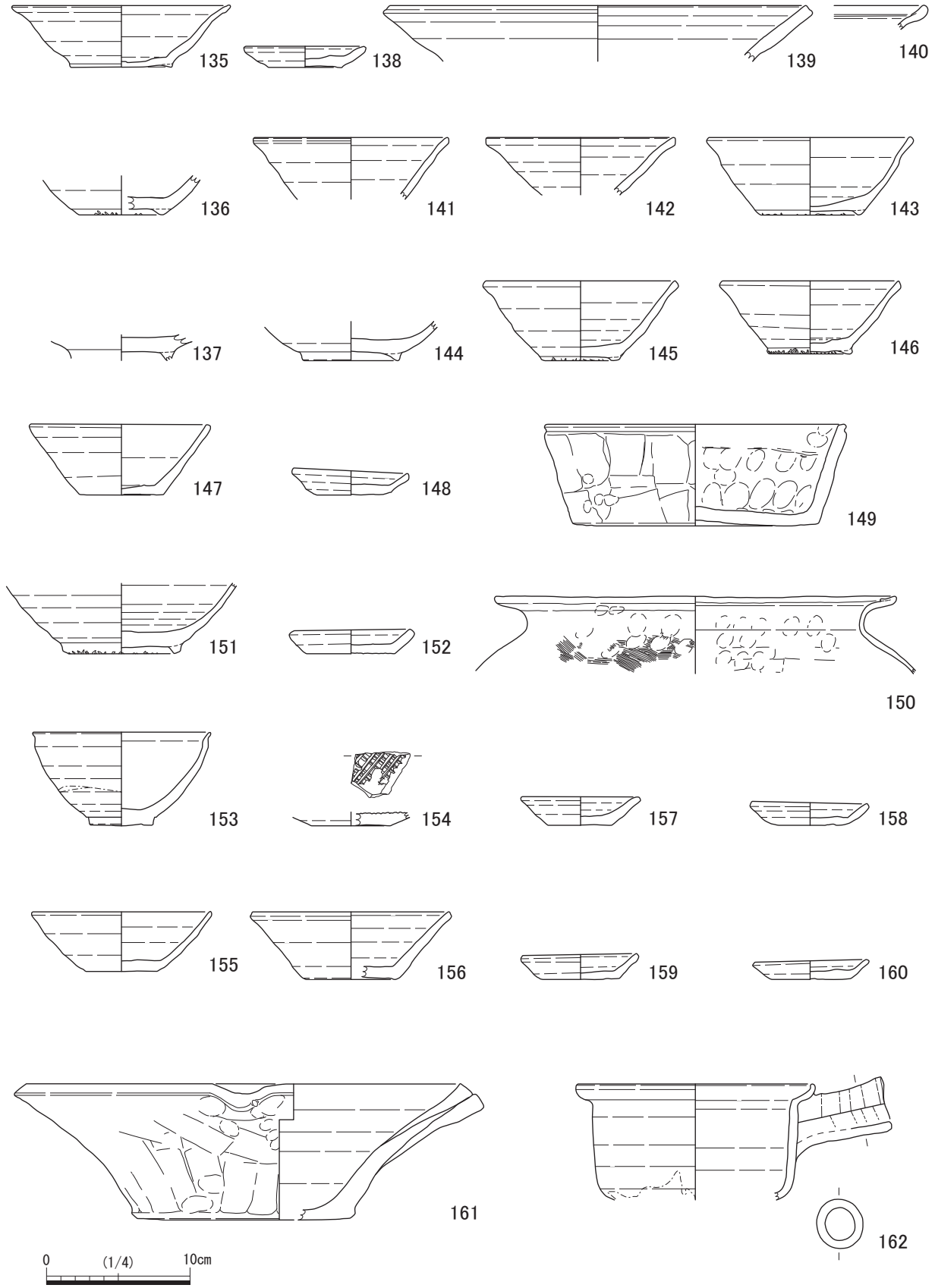


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (7)

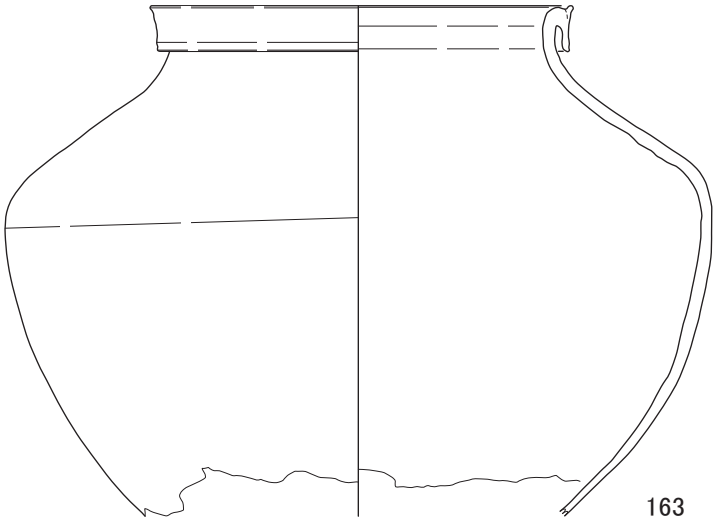


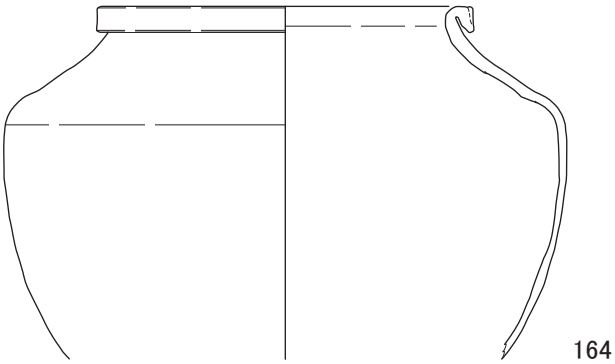
東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (8)

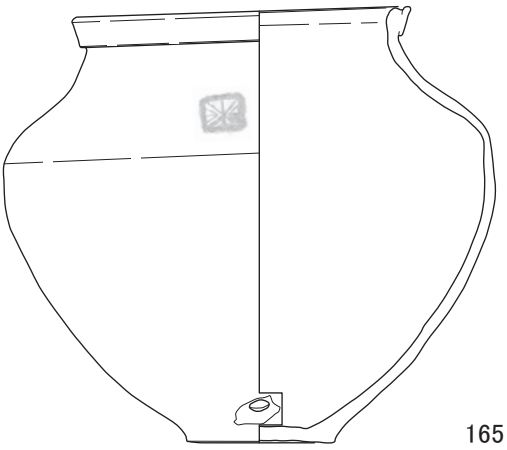
図版第 10

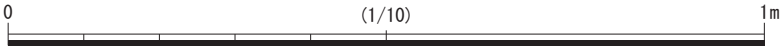


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4) (9)



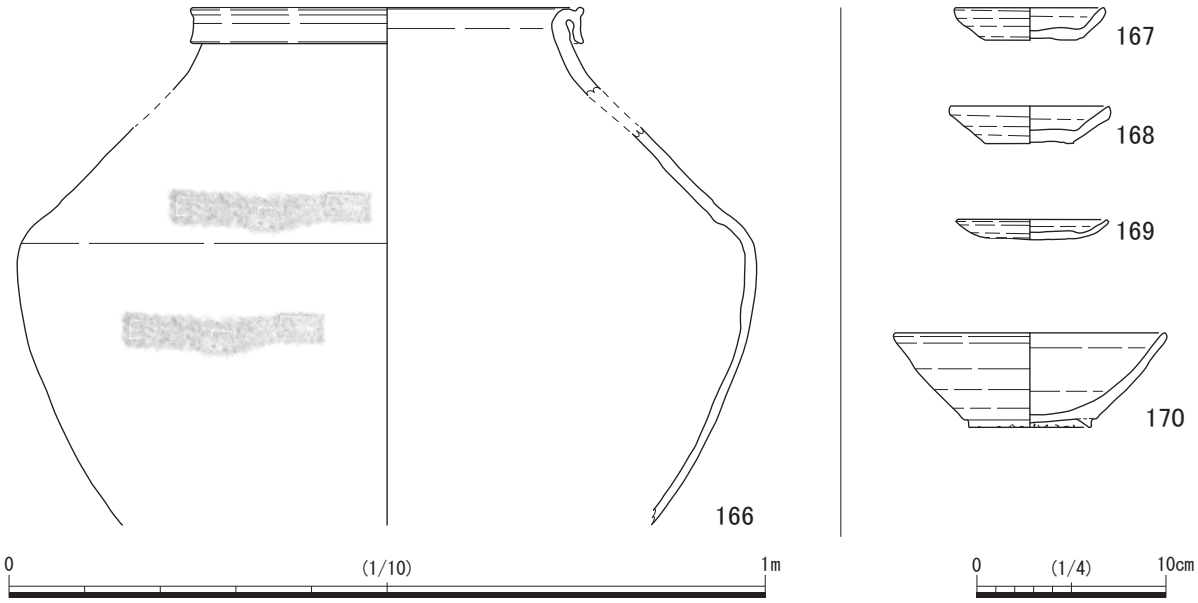




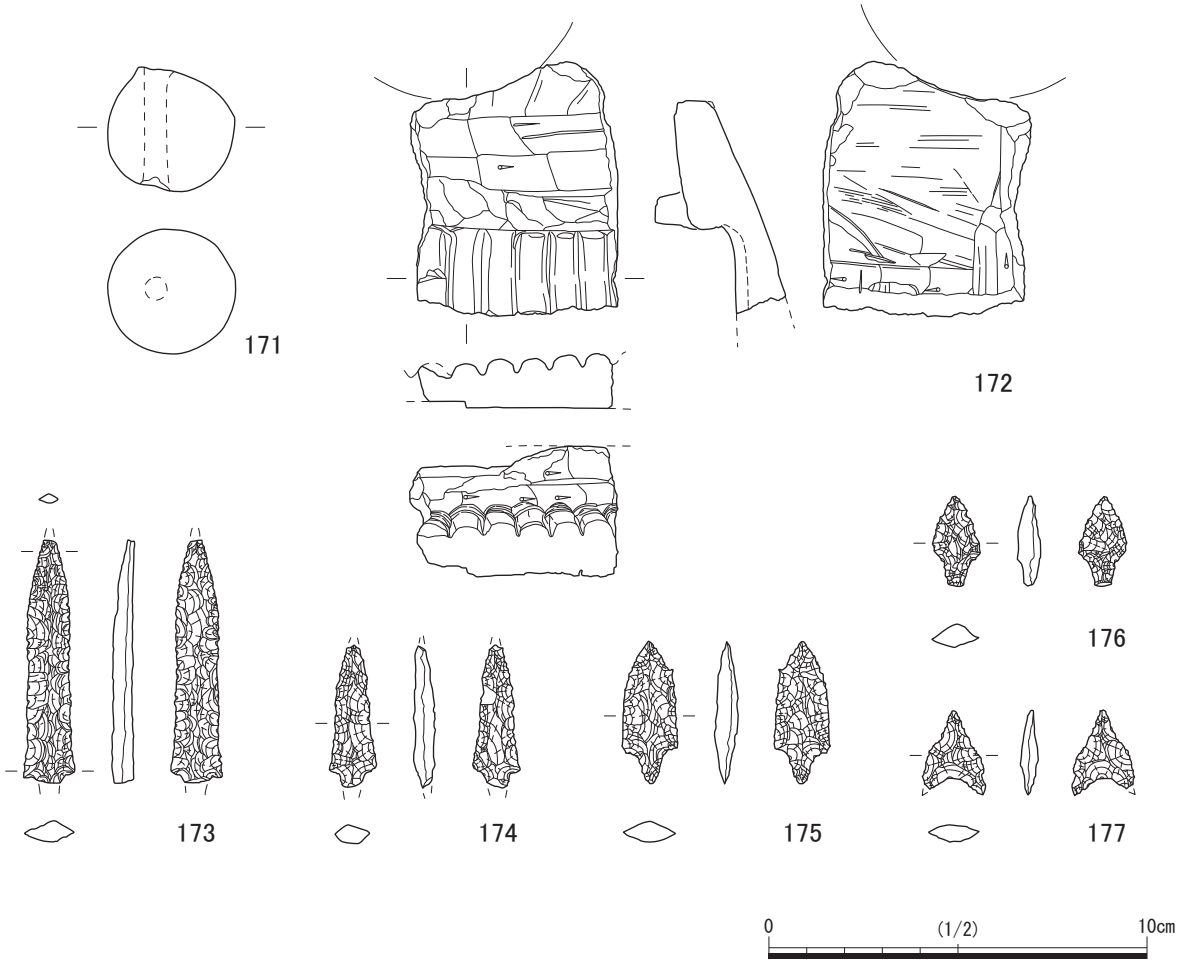


東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/10) (10)

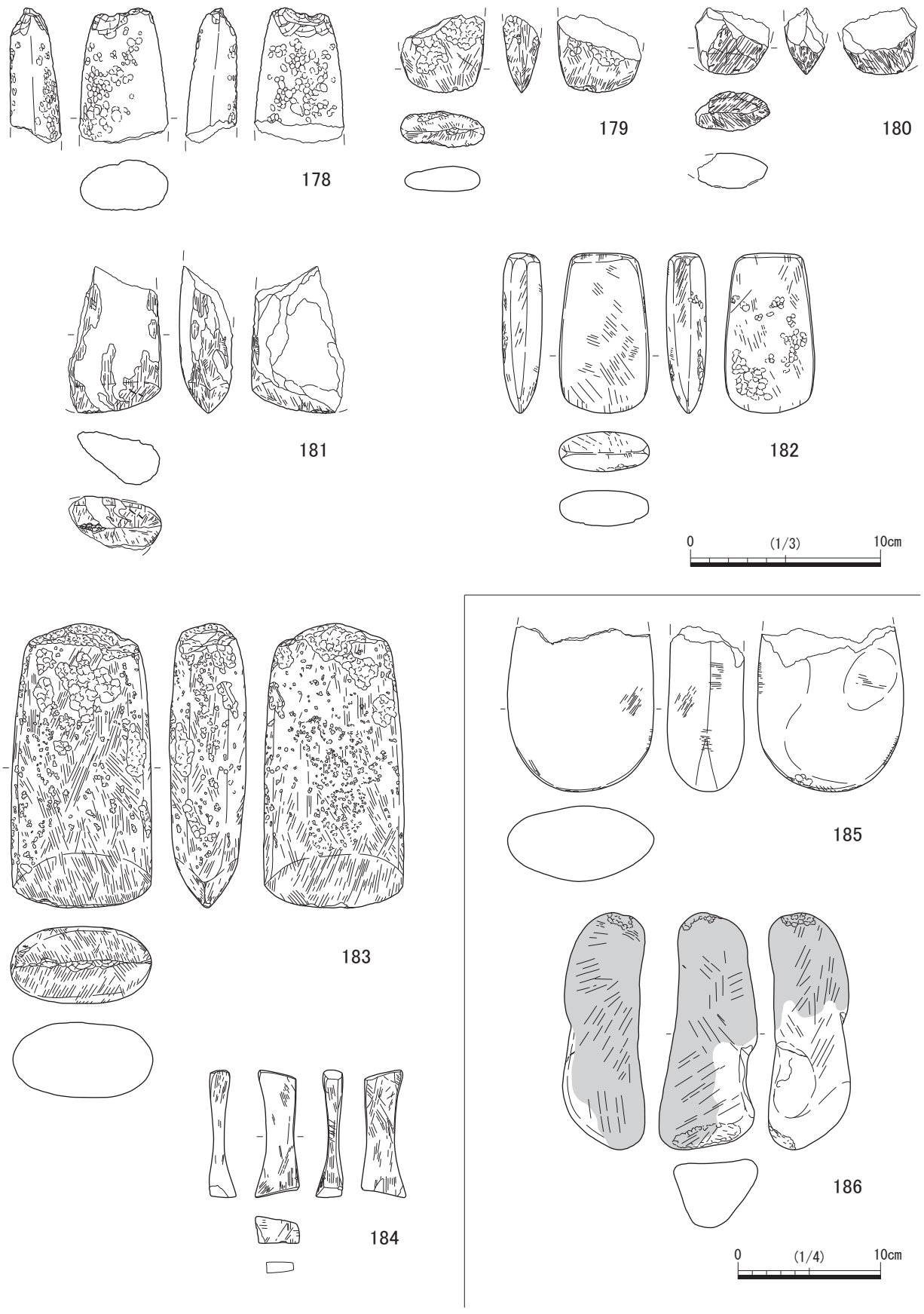
図版第 12



東畑遺跡 2 地点出土土器実測図 (1/4, 166 のみ 1/10) (11)

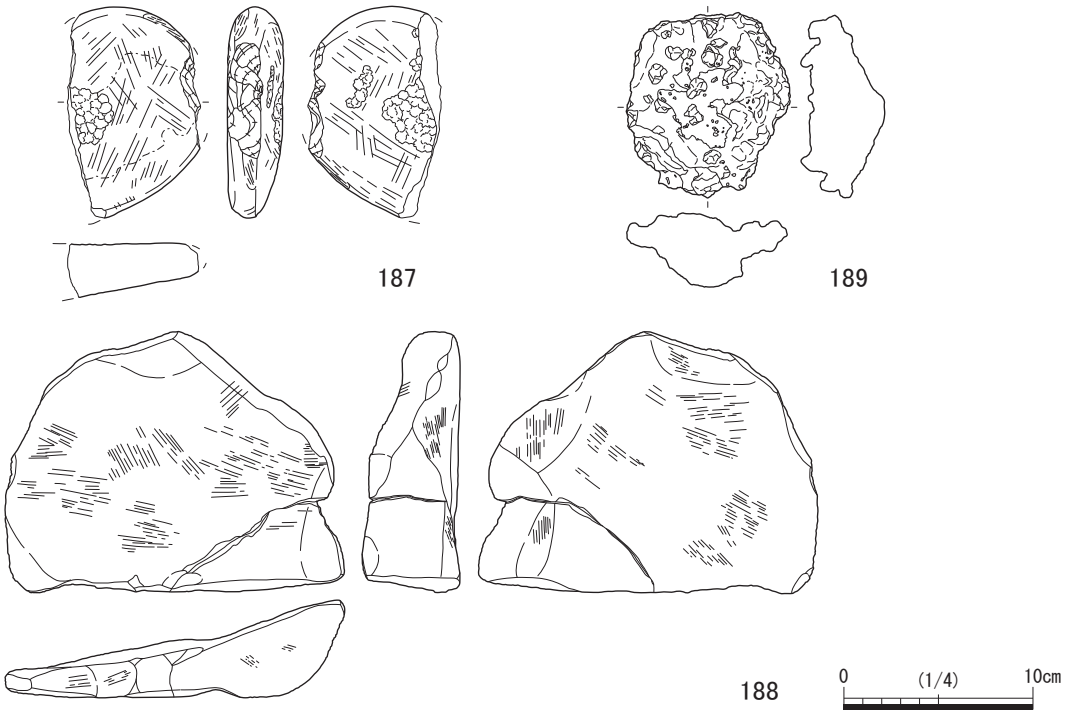


東畑遺跡 2 地点出土土製品・瓦塔実測図 (1/2) ・ 石器実測図 (1/2) (1)

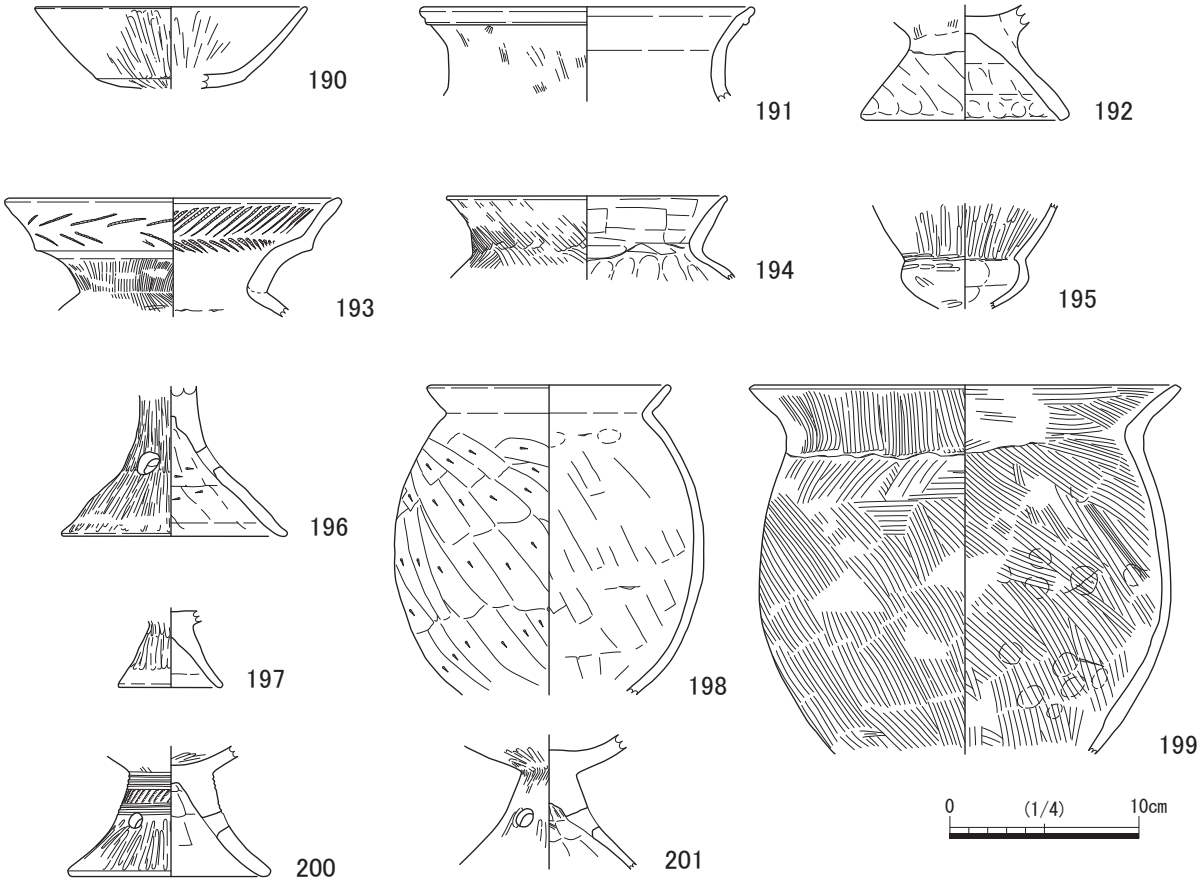


東畑遺跡 2 地点出土石器実測図（178 ～ 184 は 1/3, 185・186 は 1/4）(2)

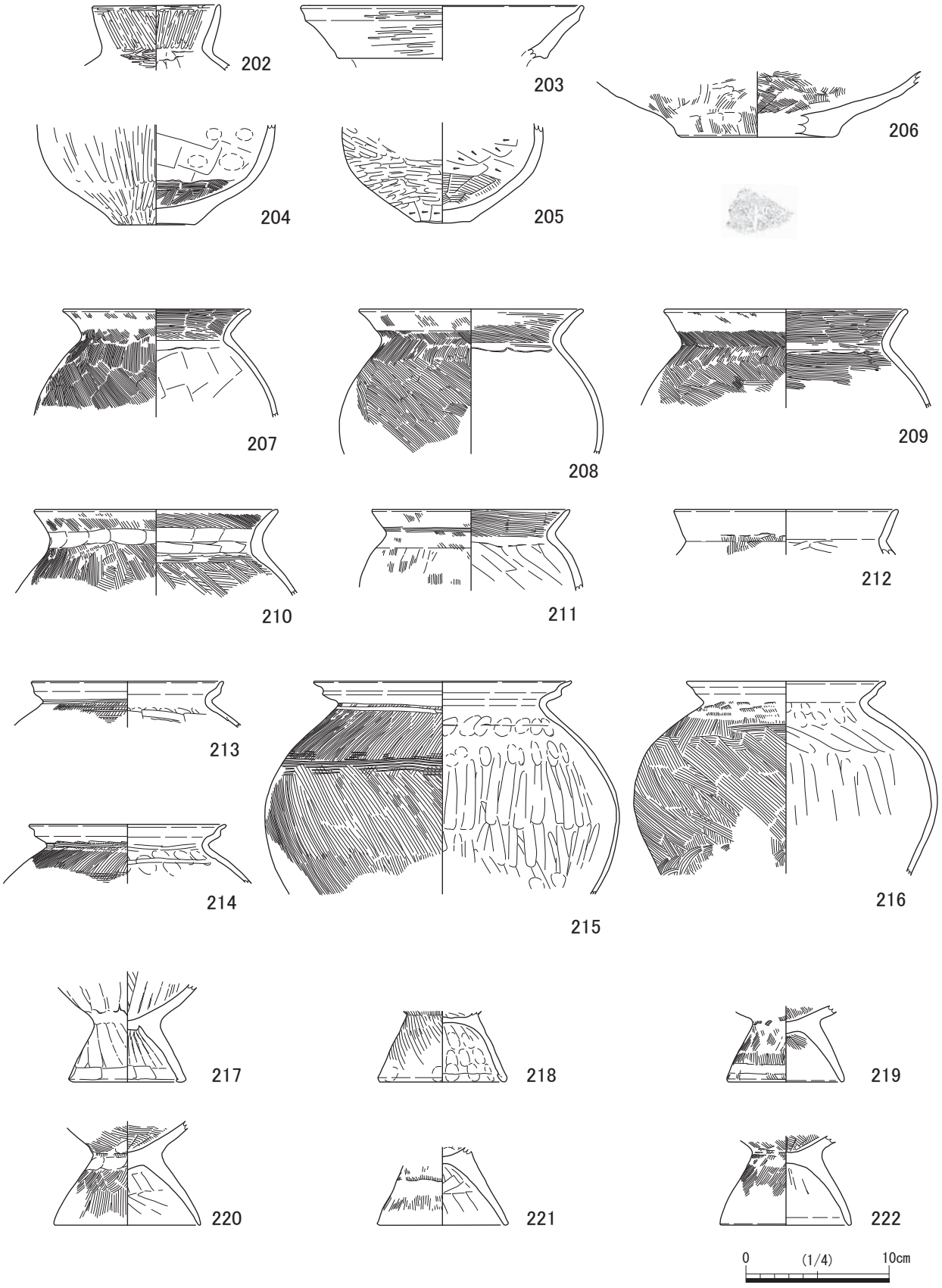
図版第 14



東畑遺跡 2 地点出土石器実測図 (1/4)(3)・鉄滓実測図 (1/4)

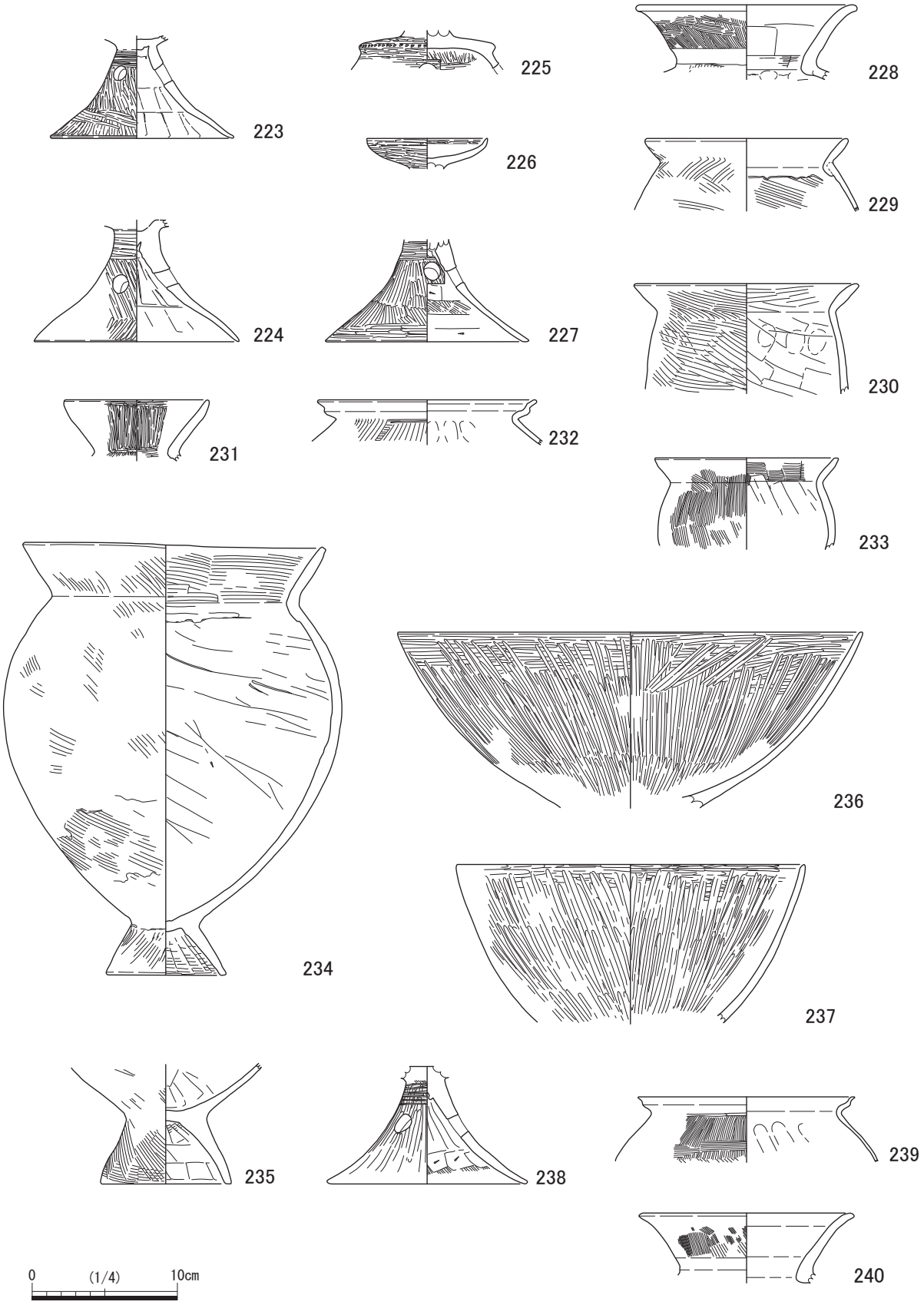


東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1/4)(1)

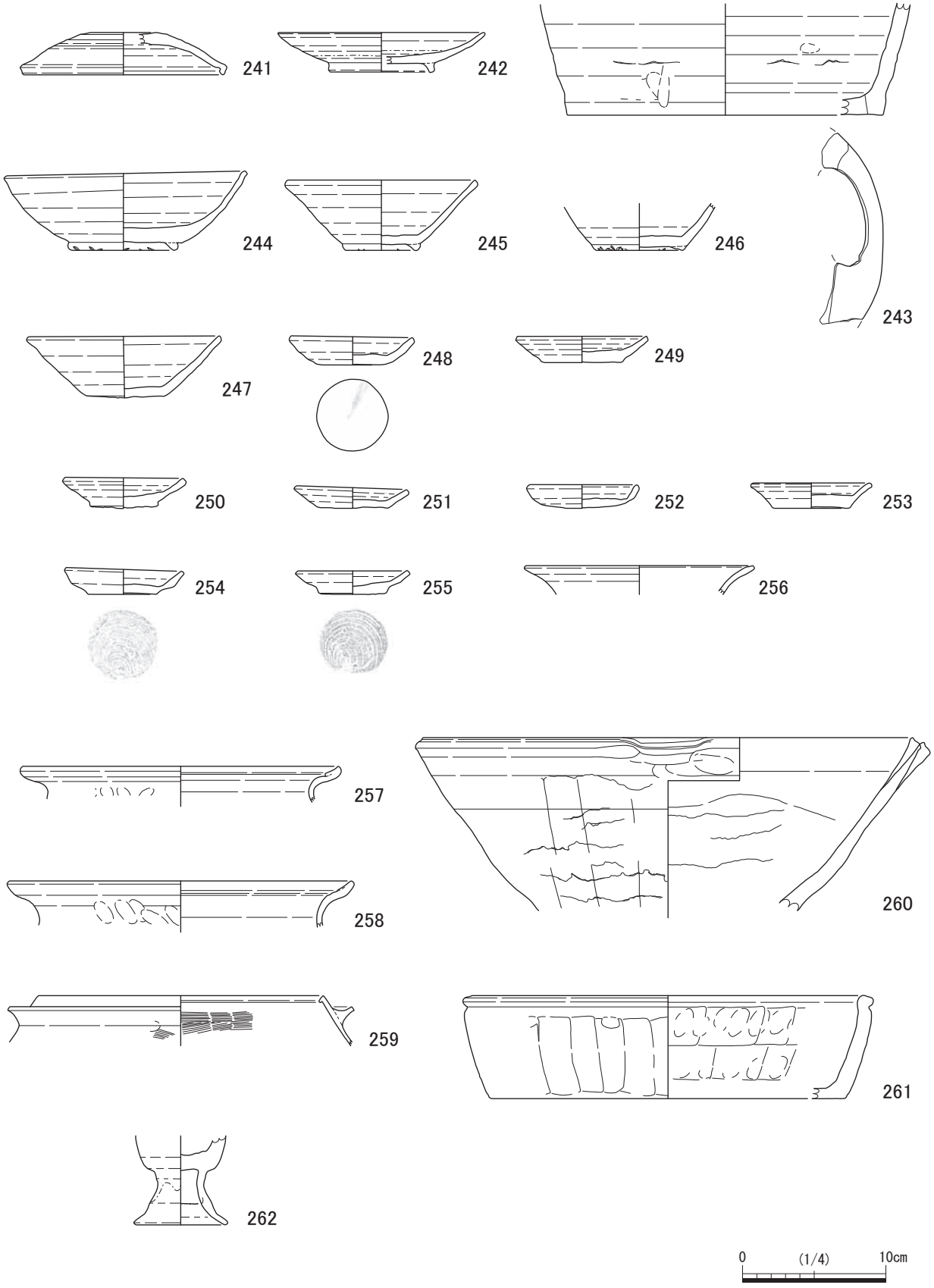


東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1/4)(2)

図版第 16

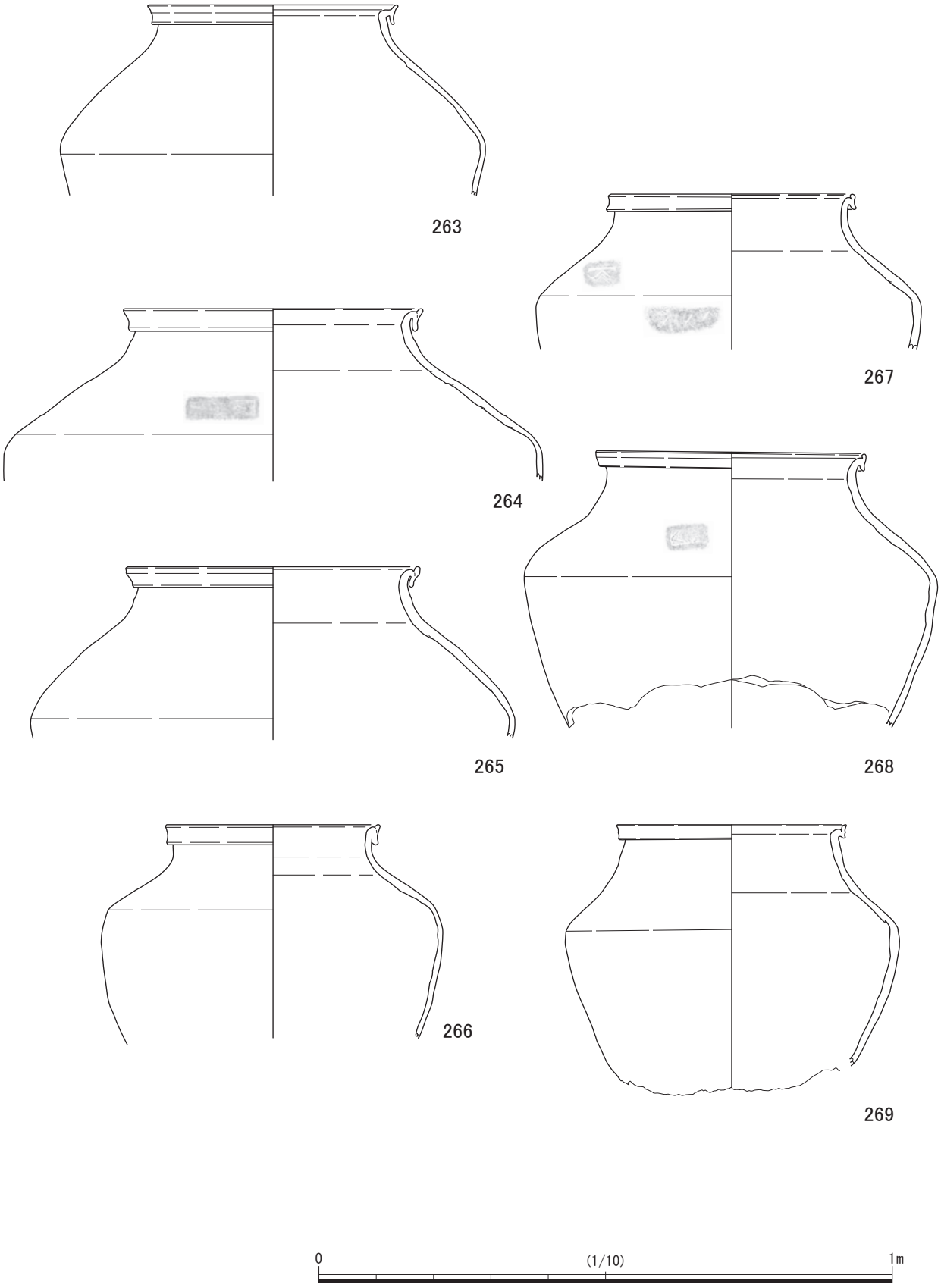


東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1/4) (3)

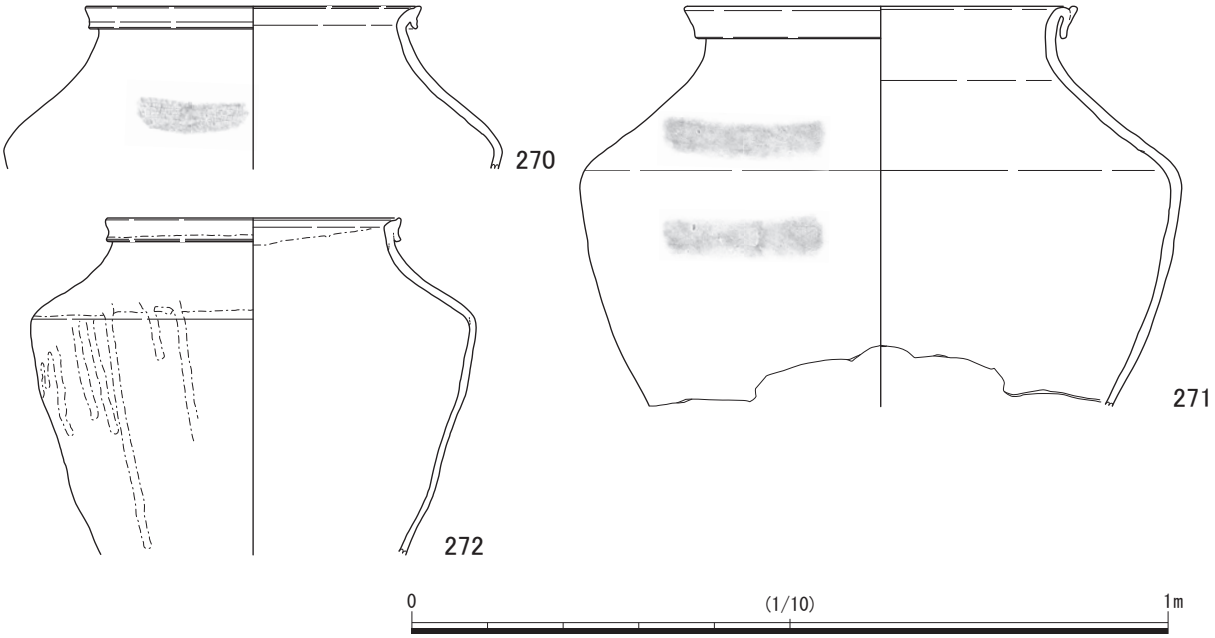


東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1/4) (4)

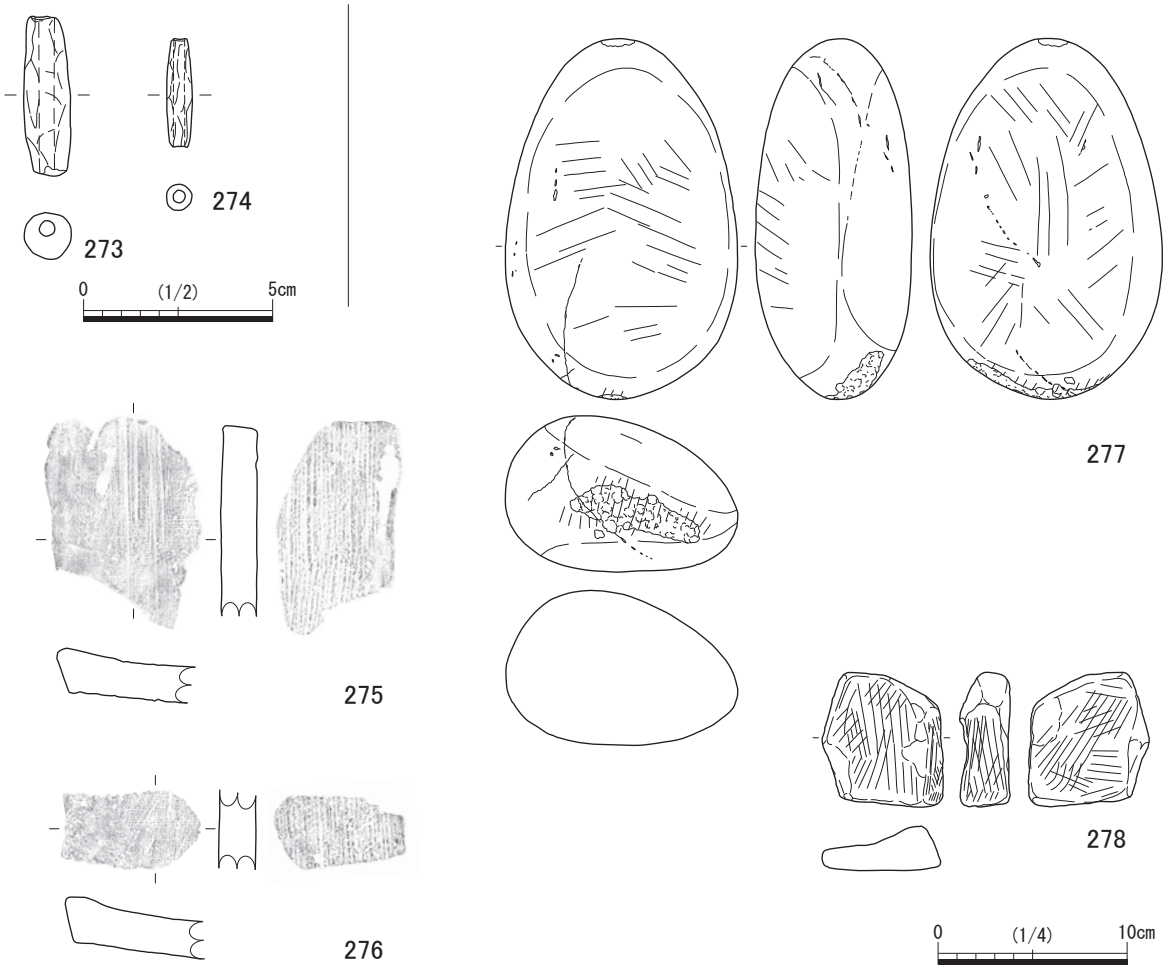
図版第 18



東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1/10) (5)

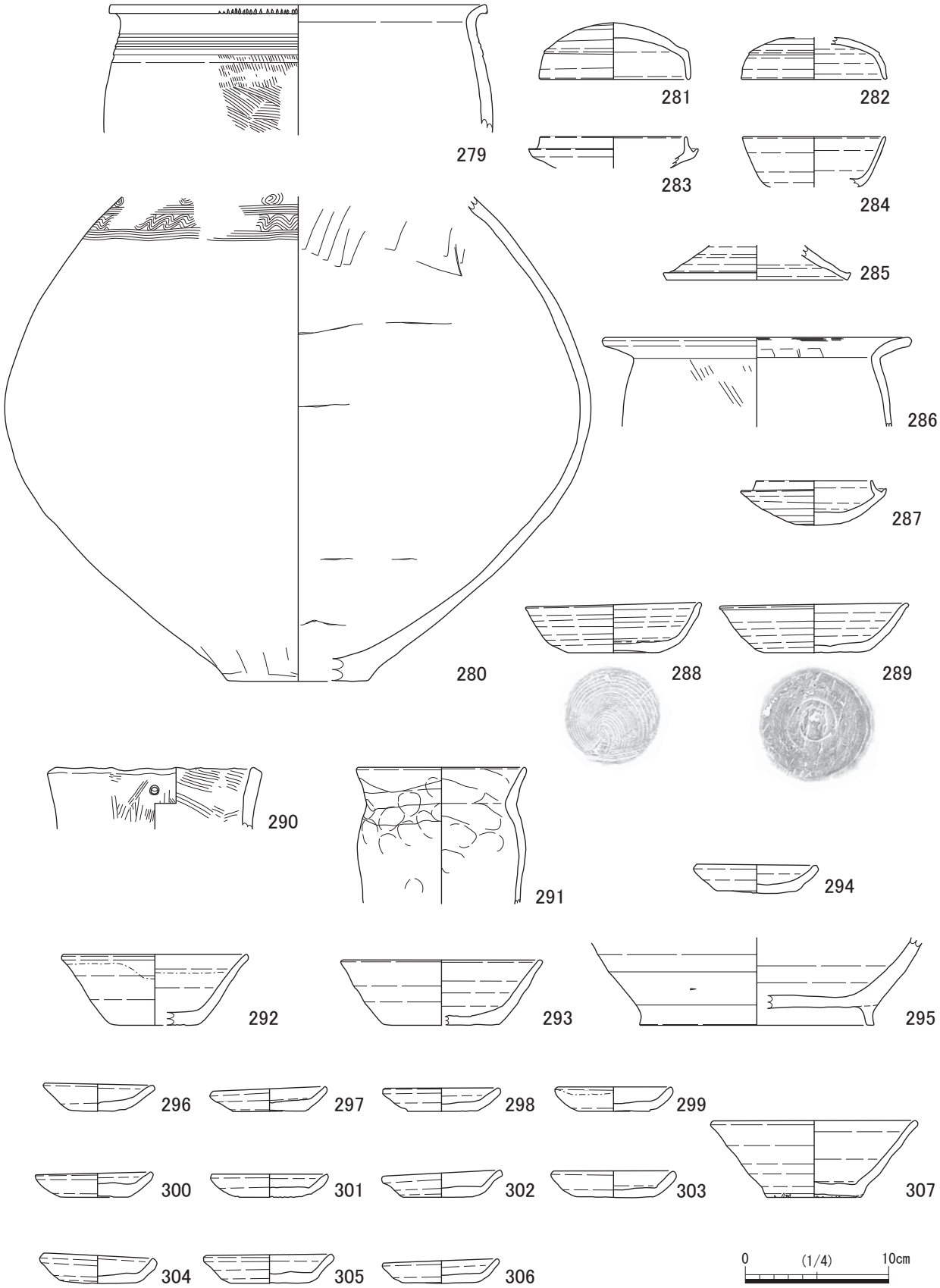


東畑遺跡 3 地点出土土器実測図 (1/10) (6)

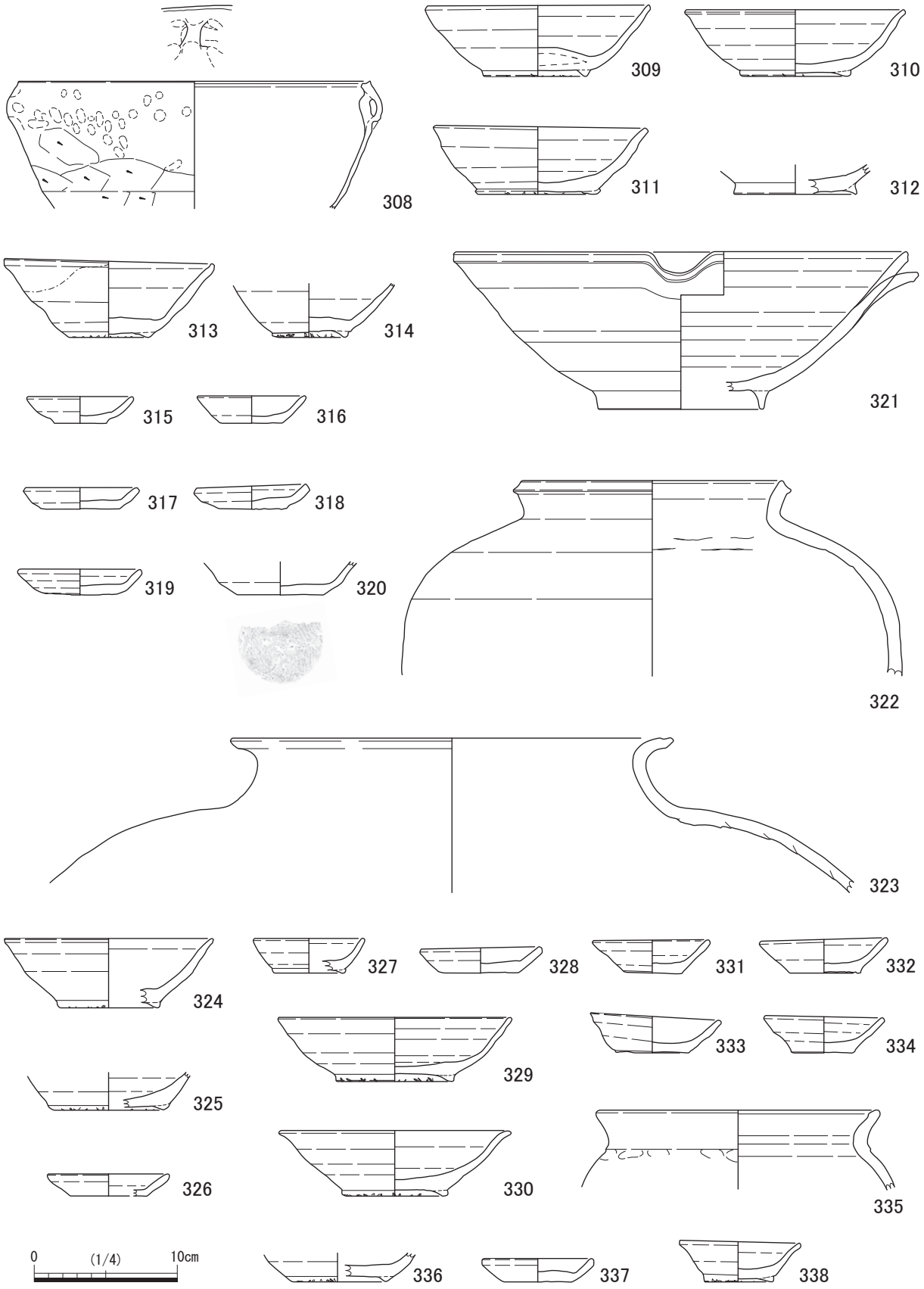


東畑遺跡 3 地点出土土製品実測図 (1/2)・瓦･石器実測図 (1/4)

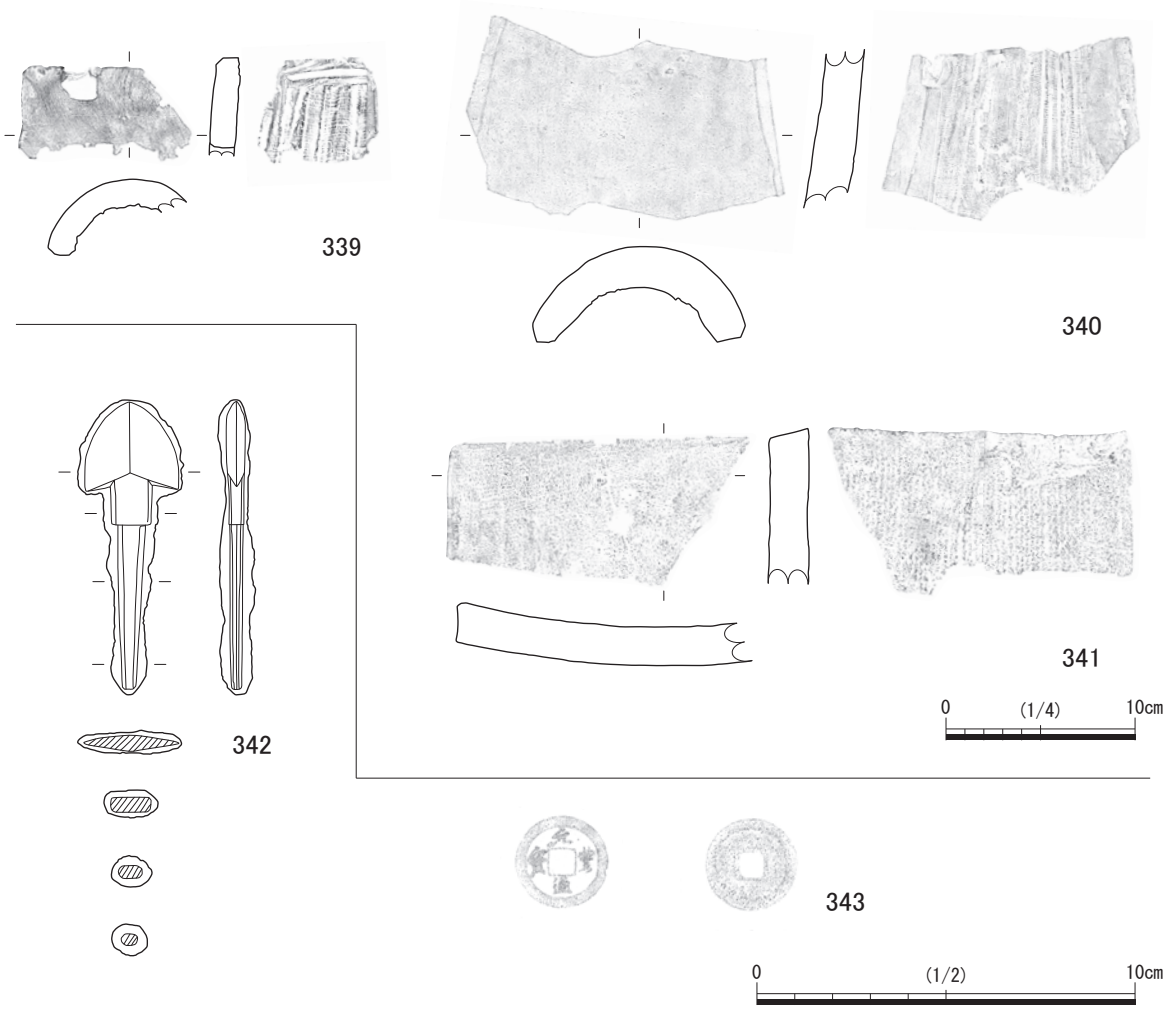
図版第 20



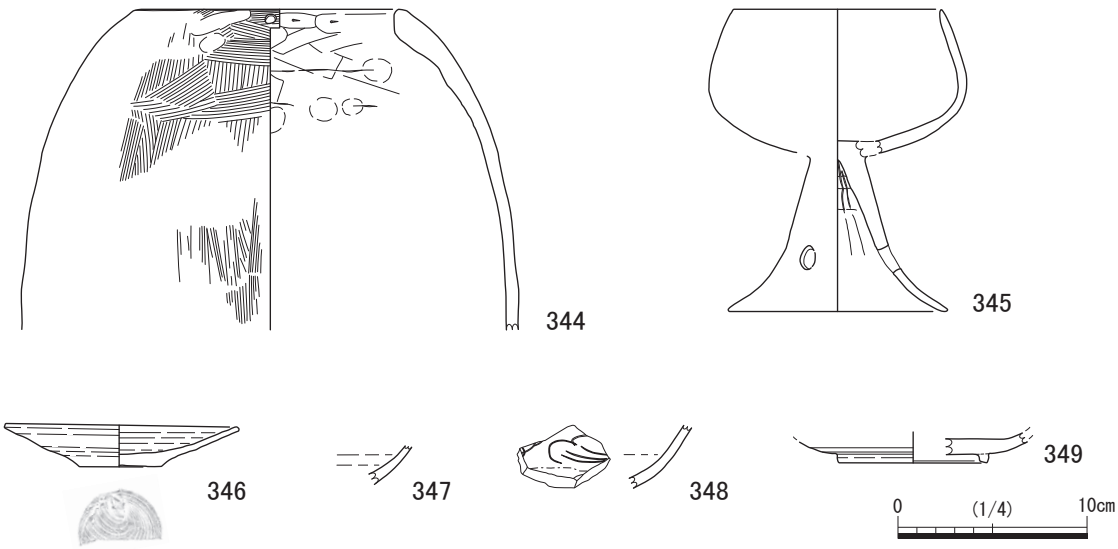
畑間遺跡 5 地点出土土器実測図 (1/4) (1)



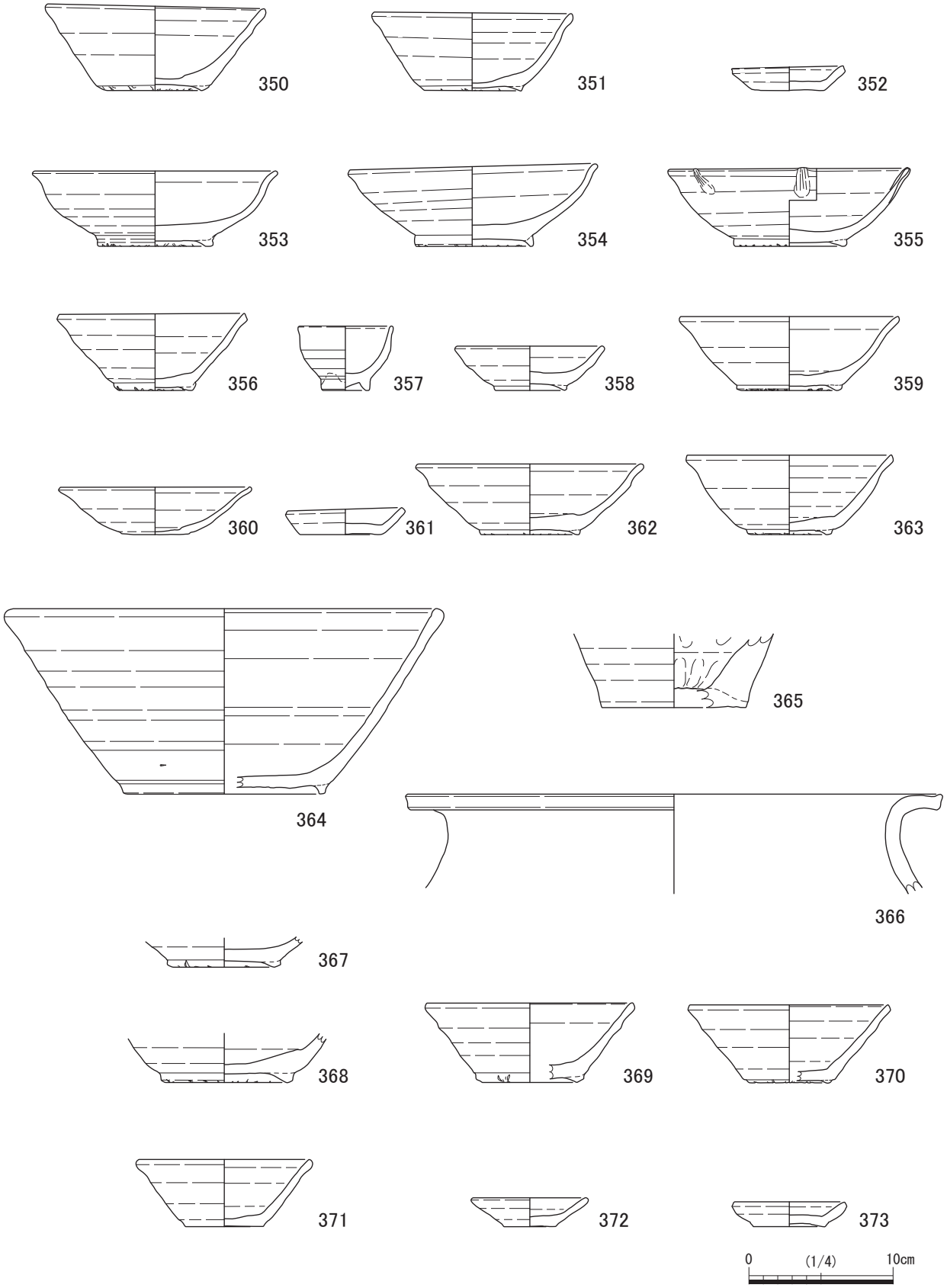
畑間遺跡 5 地点出土土器実測図 (1/4) (2)



畑間遺跡 5 地点出土瓦実測図（1/4）・鉄鏃･銭貨実測図（1/2）

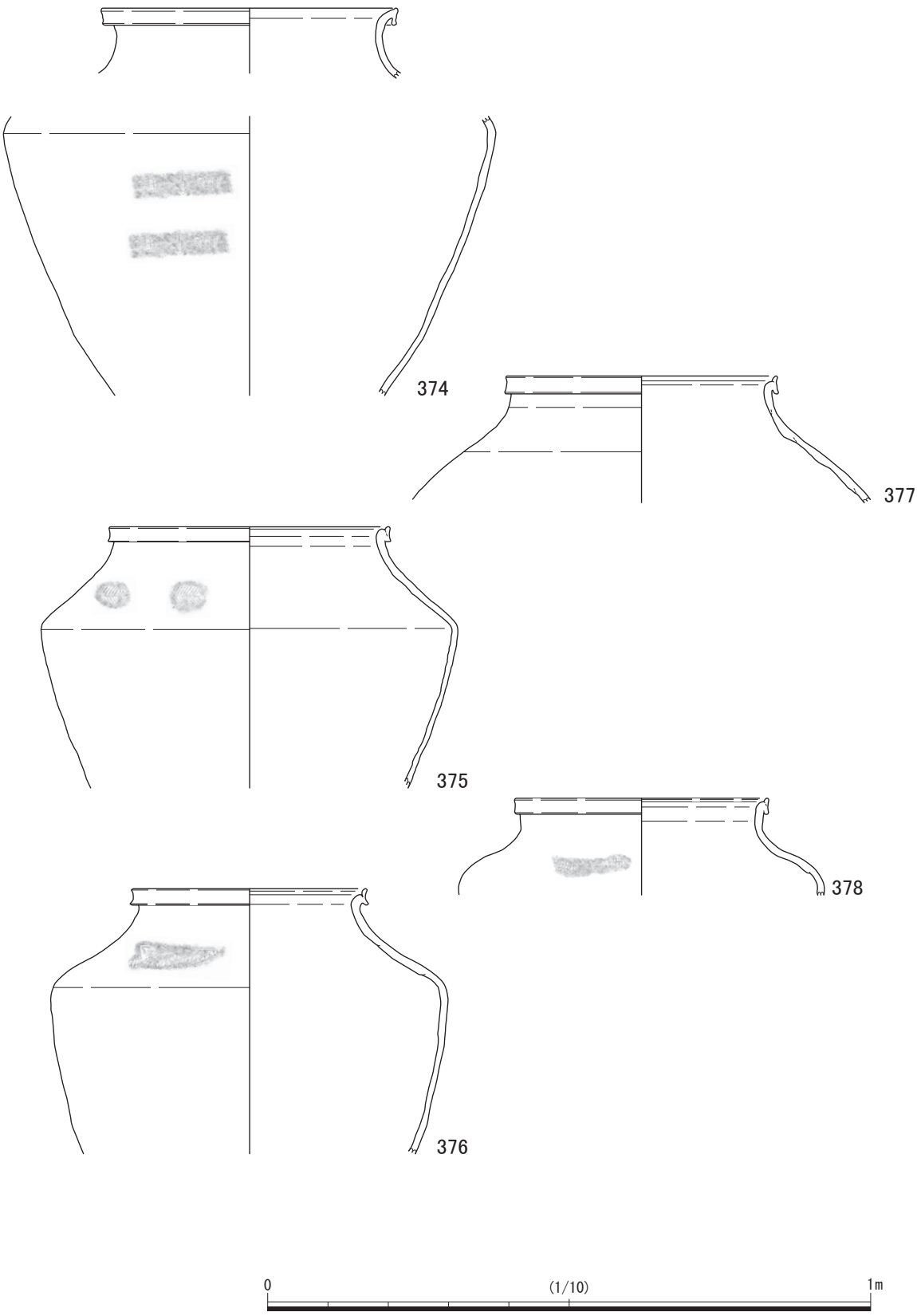


郷中遺跡 6 地点出土土器実測図（1/4）(1)

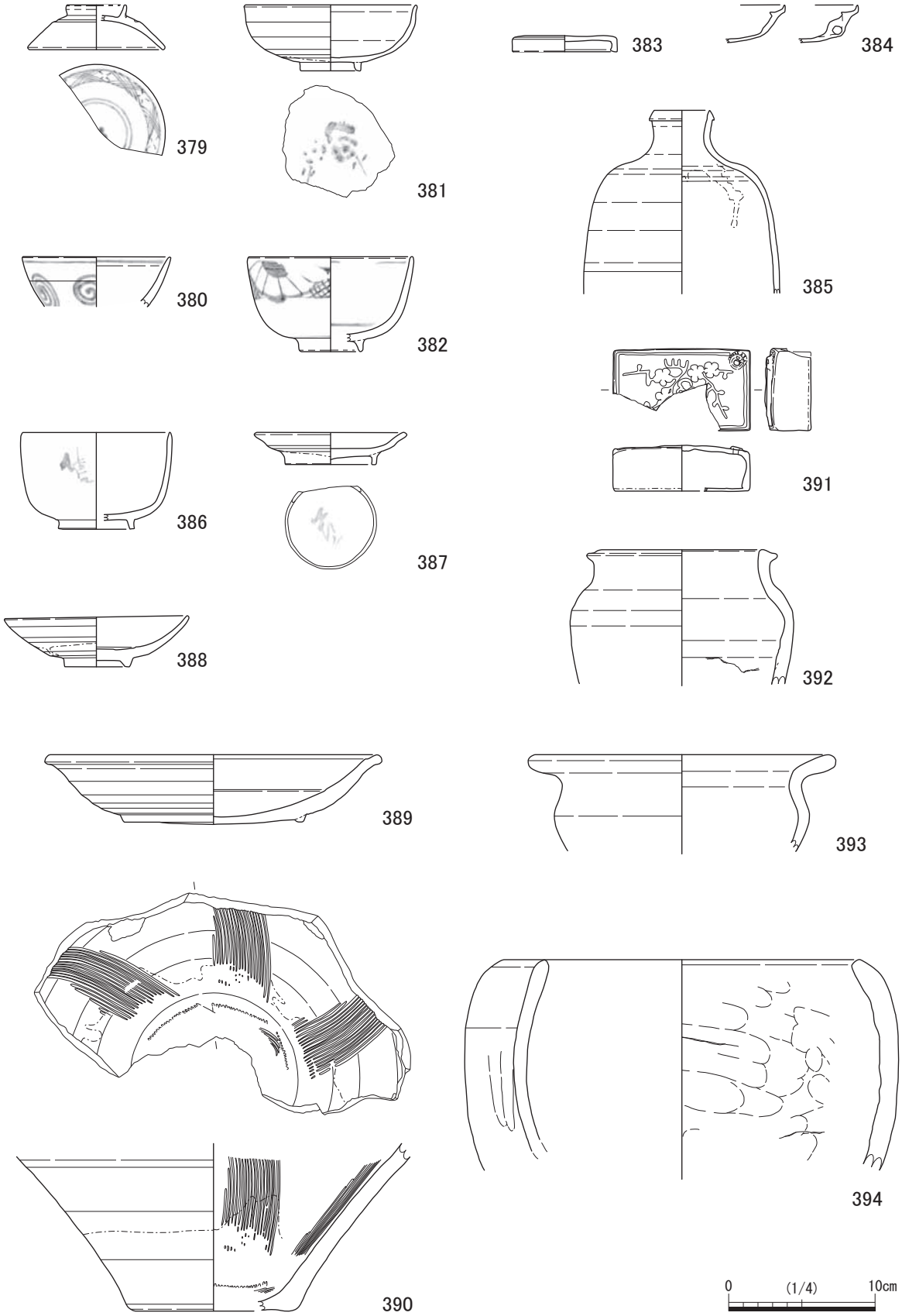


郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (1/4) (2)

図版第 24

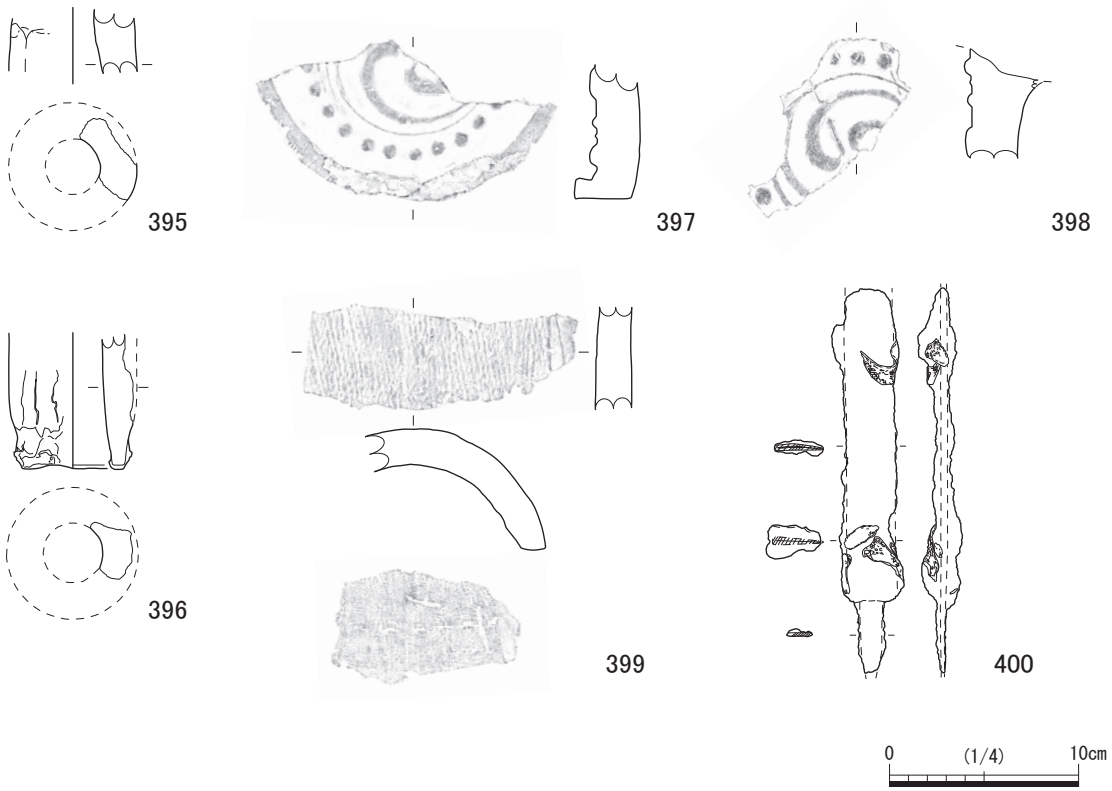


郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (1/10) (3)



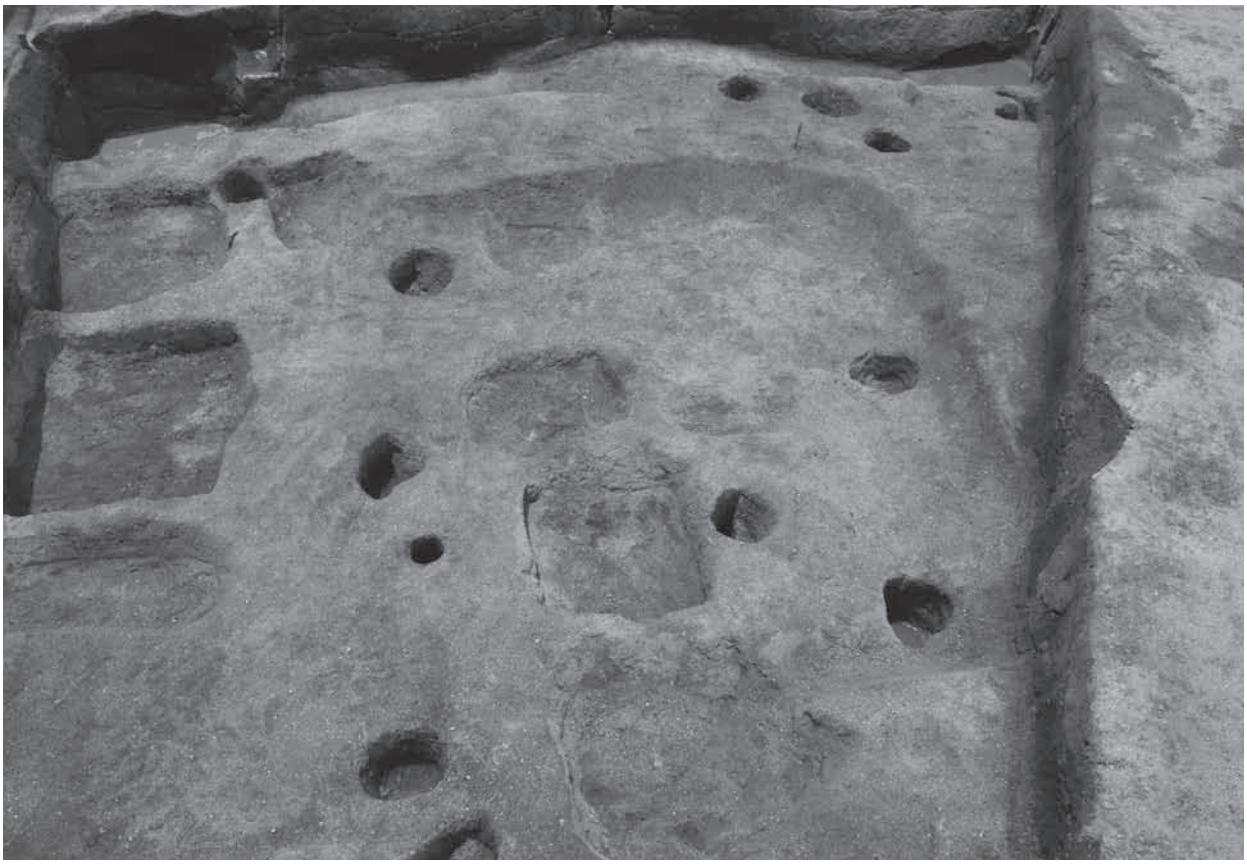
郷中遺跡 6 地点出土土器実測図 (1/4) (4)

図版第 26



郷中遺跡 6 地点出土土製品・瓦・鉄製品実測図 (1/4)

東畑遺跡 1 地点調査区全景（東より）



東畑遺跡 1 地点 SB1 完掘状況（東より）

図版第 28

東畑遺跡 1 地点 SB2 遺物出土状況 (1)(北より)

東畑遺跡 1 地点 SB2 遺物出土状況 (2)(北より)

東畑遺跡 1 地点 SB2 断面（西より）

東畑遺跡 1 地点 SB3 完掘状況（東より）

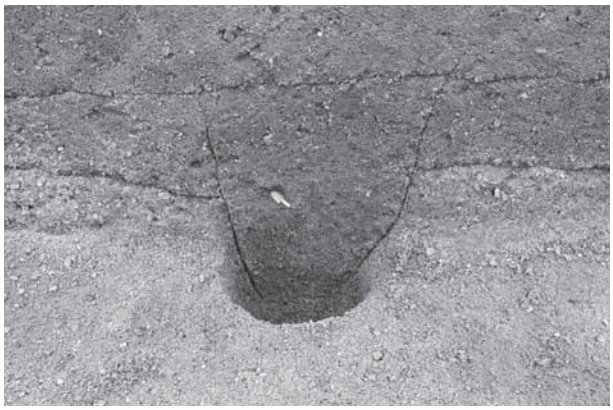
東畑遺跡 1 地点 SB4 完掘状況（東より）

東畑遺跡 1 地点 SB5 完掘状況（西より）

東畑遺跡 1 地点 SB6・7 完掘状況（東より）

東畑遺跡 1 地点 SL1 遺物出土状況（南より）

東畑遺跡 1 地点 SP24 遺物出土状況（北より）


東畑遺跡 1 地点 SP44 銅鏃出土状況（北より）

図版第 30

東畑遺跡 2 地点南北調査区全景（北より）

東畑遺跡 2 地点南北調査区全景（南より）

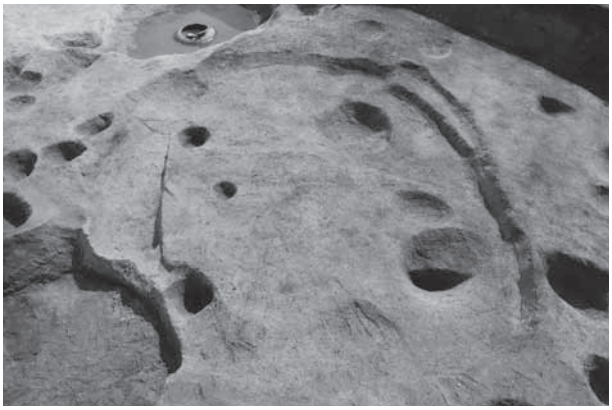
東畑遺跡 2 地点東西調査区東側全景（西より）

東畑遺跡 2 地点東西調査区西側全景（東より）

図版第 32

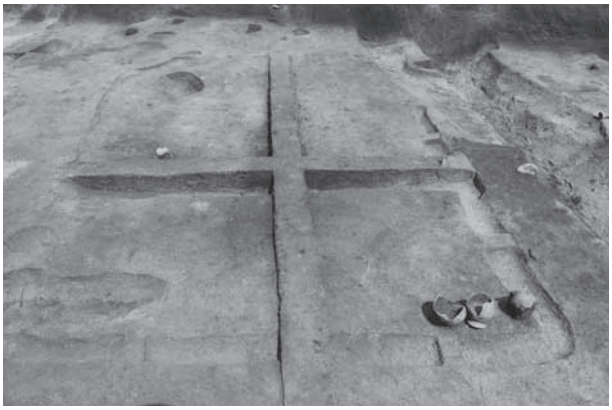
東畑遺跡 2 地点東西調査区西端全景（南東より）

東畑遺跡 2 地点 SB1 遺物出土状況（北東より）



東畑遺跡 2 地点 SB1 完掘状況（南西より）

東畑遺跡 2 地点 SB3 完掘状況（北より）



東畑遺跡 2 地点 SB4 遺物出土状況 (1)（西より）

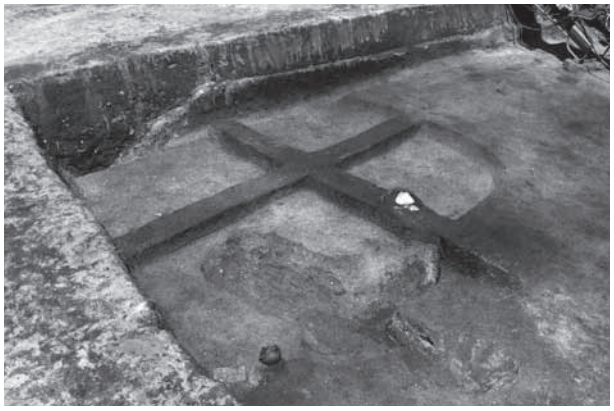
東畑遺跡 2 地点 SB4 遺物出土状況 (2)（東より）

東畑遺跡 2 地点 SB4 遺物出土状況 (3)（西より）

図版第 34

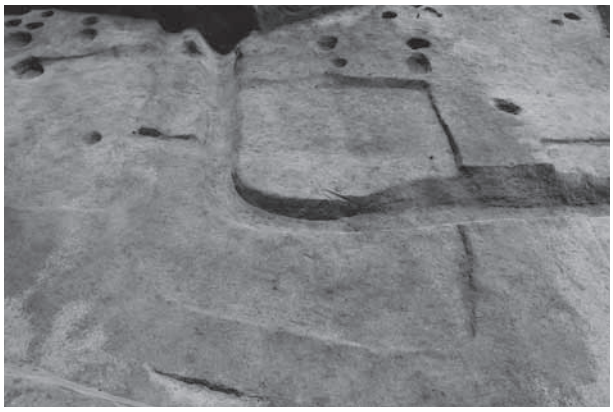
東畑遺跡 2 地点 SB4 完掘状況（西より）

東畑遺跡 2 地点 SB5 遺物出土状況（西より）


東畑遺跡 2 地点 SB6 遺物出土状況（南東より）

東畑遺跡 2 地点 SB6 完掘状況（南より）

東畑遺跡 2 地点 SB7 遺物出土状況（北より）


東畑遺跡 2 地点 SB7 完掘状況（西より）

東畑遺跡 2 地点 SB8 完掘状況（西より）

東畑遺跡 2 地点 SB9・10 完掘状況（南より）

東畑遺跡 2 地点 SB11 遺物出土状況（南より）

東畑遺跡 2 地点 SB11・12 完掘状況（南より）

図版第 36

東畑遺跡 2 地点 SB13 完掘状況（南西より）

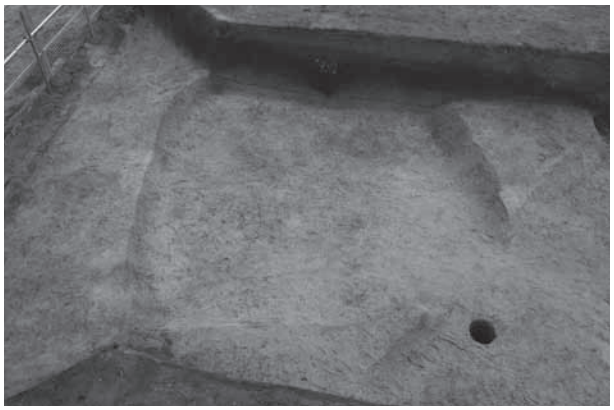
東畑遺跡 2 地点 SB15 完掘状況（北東より）

東畑遺跡 2 地点 SB14 遺物出土状況（北より）

東畑遺跡 2 地点 SB14 完掘状況（北より）

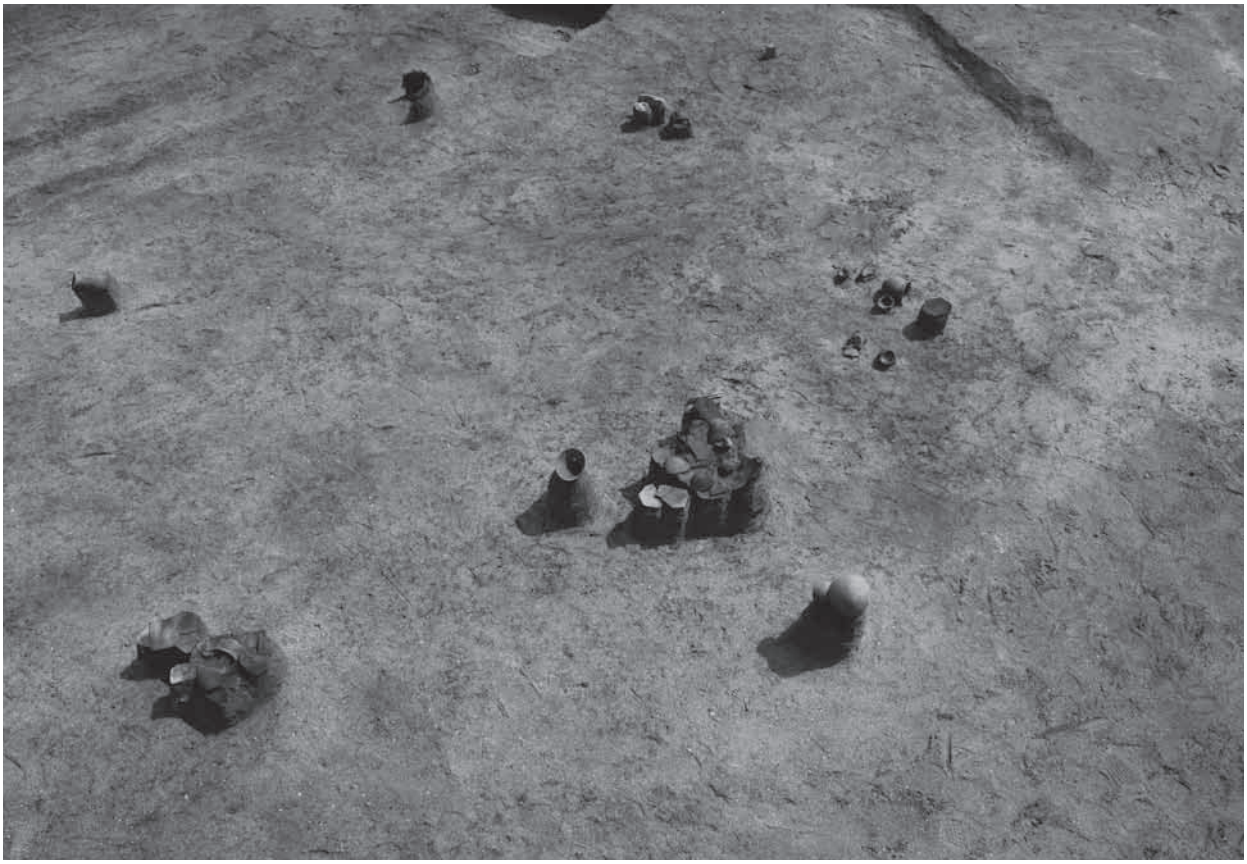
東畑遺跡 2 地点 SB16 完掘状況（北より）

東畑遺跡 2 地点 SB17 完掘状況（北より）



東畑遺跡 2 地点 SB18 完掘状況（北より）

東畑遺跡 2 地点 SB18 遺物出土状況 (1)（南より）



東畑遺跡 2 地点 SB18 遺物出土状況 (2)(北より)

東畑遺跡 2 地点 SL1 遺物出土状況 (西より)

東畑遺跡 2 地点 SL1 断面 (南東より)

東畑遺跡 2 地点 SK20 遺物出土状況 (南より)

東畑遺跡 2 地点 SD16 完掘状況 (北東より)

図版第 38

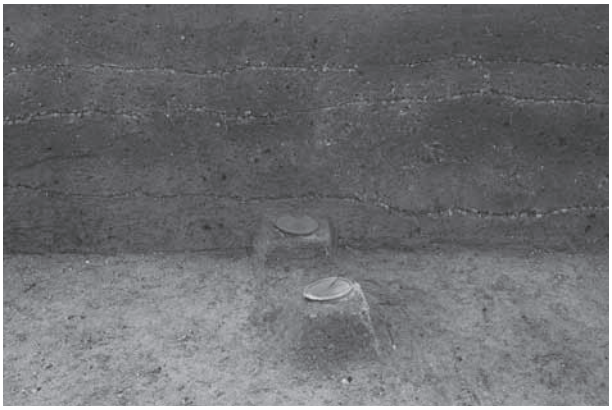
東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物出土状況 (1)(北より)

東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物出土状況 (2)(東より)

東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物出土状況 (3)(西より)

東畑遺跡 2 地点 SX2 完掘状況 (北西より)

東畑遺跡 2 地点 ID17s・t 遺物包含層 (南より)



東畑遺跡 2 地点 SK61 遺物出土状況（東より）

東畑遺跡 2 地点 IE19c 遺物出土状況（北より）

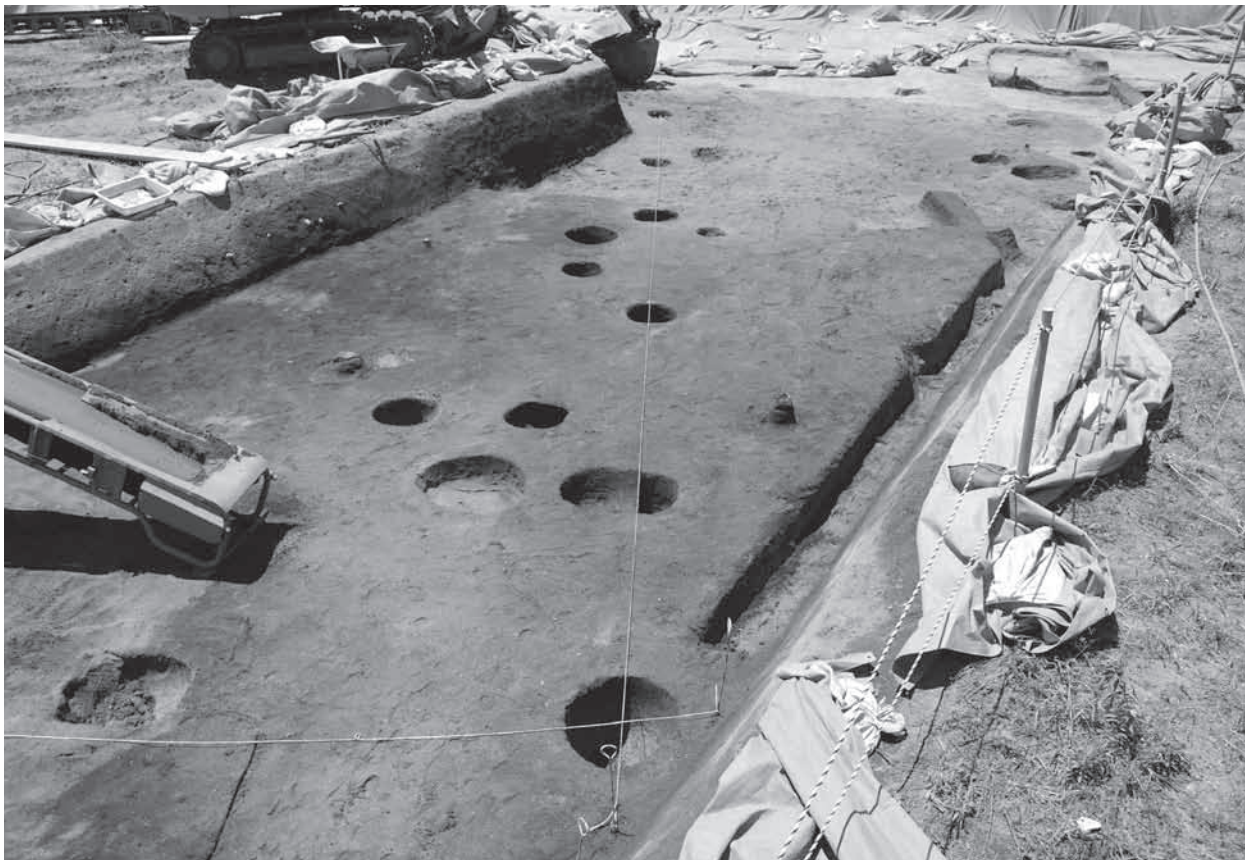
東畑遺跡 2 地点 SP51 断面（北東より）

東畑遺跡 2 地点 SP111 遺物出土状況（南より）

東畑遺跡 2 地点南北調査区 SB 完掘状況（北より）

図版第 40

東畑遺跡 2 地点 SB19・20・21 完掘状況（北より）



東畑遺跡 2 地点 SA2 完掘状況（北東より）

東畑遺跡 2 地点 SK18 遺物出土状況（西より）

東畑遺跡 2 地点 SD5 完掘状況（北より）

図版第 42

東畑遺跡 2 地点 SD5 亀出土状況 (1)(北東より)

東畑遺跡 2 地点 SD5 亀出土状況 (2)(北西より)

東畑遺跡 2 地点 SE1 断面 (南西より)

東畑遺跡 2 地点 SE1 甕底面 (北より)

東畑遺跡 2 地点 SE1 甕出土状況 (西より)

東畑遺跡 3 地点調査区全景（南東より）

東畑遺跡 3 地点調査区全景（東より）

東畑遺跡 3 地点西側 SB 完掘状況（西より）

東畑遺跡 3 地点 SB1 完掘状況（南西より）

東畑遺跡 3 地点 SL1 検出状況（南東より）

図版第 44

東畑遺跡 3 地点 SB2 完掘状況（南西より）

東畑遺跡 3 地点 SB3 断面（南西より）

東畑遺跡 3 地点 SB3 遺物出土状況（北西より）

東畑遺跡 3 地点 SB3 完掘状況（北西より）

東畑遺跡 3 地点 SB4 完掘状況（北より）

東畑遺跡 3 地点 SB5 遺物出土状況 (1)(南より)

東畑遺跡 3 地点 SB5 遺物出土状況 (2)(東より)

図版第 46

東畑遺跡 3 地点 SB5 床面検出状況（南より）

東畑遺跡 3 地点 SB5 完掘状況（北より）

東畑遺跡 3 地点 SB6 完掘状況（北より）

東畑遺跡 3 地点 ST1 歯出土状況（東より）

東畑遺跡 3 地点 ST1 人骨出土状況（北より）

東畑遺跡 3 地点 SK15 遺物出土状況（南西より）

東畑遺跡 3 地点 SK16 遺物出土状況（南西より）

東畑遺跡 3 地点 SE1 断面（西より）

東畑遺跡 3 地点 SE1 甕出土状況 (1)（西より）

東畑遺跡 3 地点 SE1 甕出土状況 (2)（西より）

図版第 48

東畑遺跡 4 地点調査区全景（南西より）

畑間遺跡 5 地点調査区西側全景（北西より）

畑間遺跡 5 地点調査区西側全景（南東より）

畑間遺跡 5 地点調査区東側全景（北西より）

図版第 50

畑間遺跡 5 地点調査区東側全景（南東より）

畑間遺跡 5 地点 SB1 完掘状況（南西より）

畑間遺跡 5 地点 SB1 鉄鏃出土状況（北より）

畑間遺跡 5 地点 SK2 遺物出土状況（南東より）

畑間遺跡 5 地点 SK2 完掘状況（西より）

畑間遺跡 5 地点 SK41・47 検出状況（南より）

畑間遺跡 5 地点 SK41 遺物出土状況（東より）

畑間遺跡 5 地点 SK43･44 検出状況（南西より）

畑間遺跡 5 地点東側 SK 群検出状況（南西より）

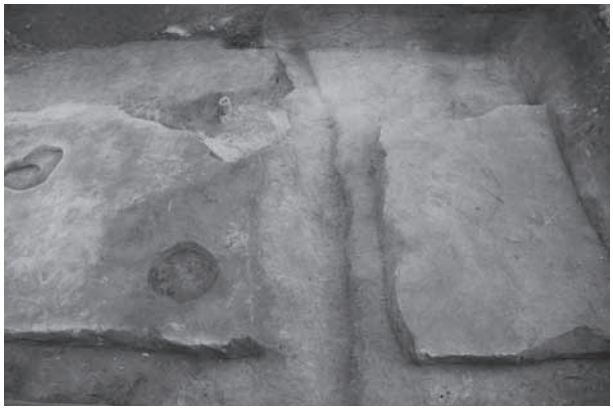
畑間遺跡 5 地点 SD2 第 1 面 (1)（北東より）

図版第 52

畑間遺跡 5 地点 SD2 第 1 面 (2)(南東より)

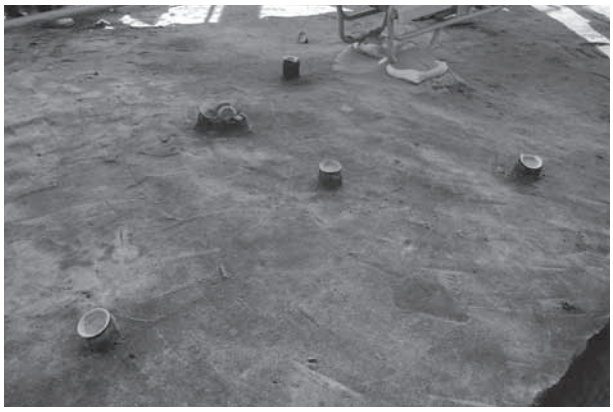
畑間遺跡 5 地点 SD2 第 2 面 (1)(北西より)

畑間遺跡 5 地点 SD2 第 2 面 (2)(南西より)



畑間遺跡 5 地点 SD2 完掘状況 (南西より)

畑間遺跡 5 地点 SD3 完掘状況 (南西より)



畑間遺跡 5 地点 SD5 遺物出土状況 (北東より)

畑間遺跡 5 地点 SD4・5 完掘状況 (南西より)

畑間遺跡 5 地点 SD3 ～ 6 完掘状況 (1)(北より)

畑間遺跡 5 地点 SD3 ～ 6 完掘状況 (2)(南西より)

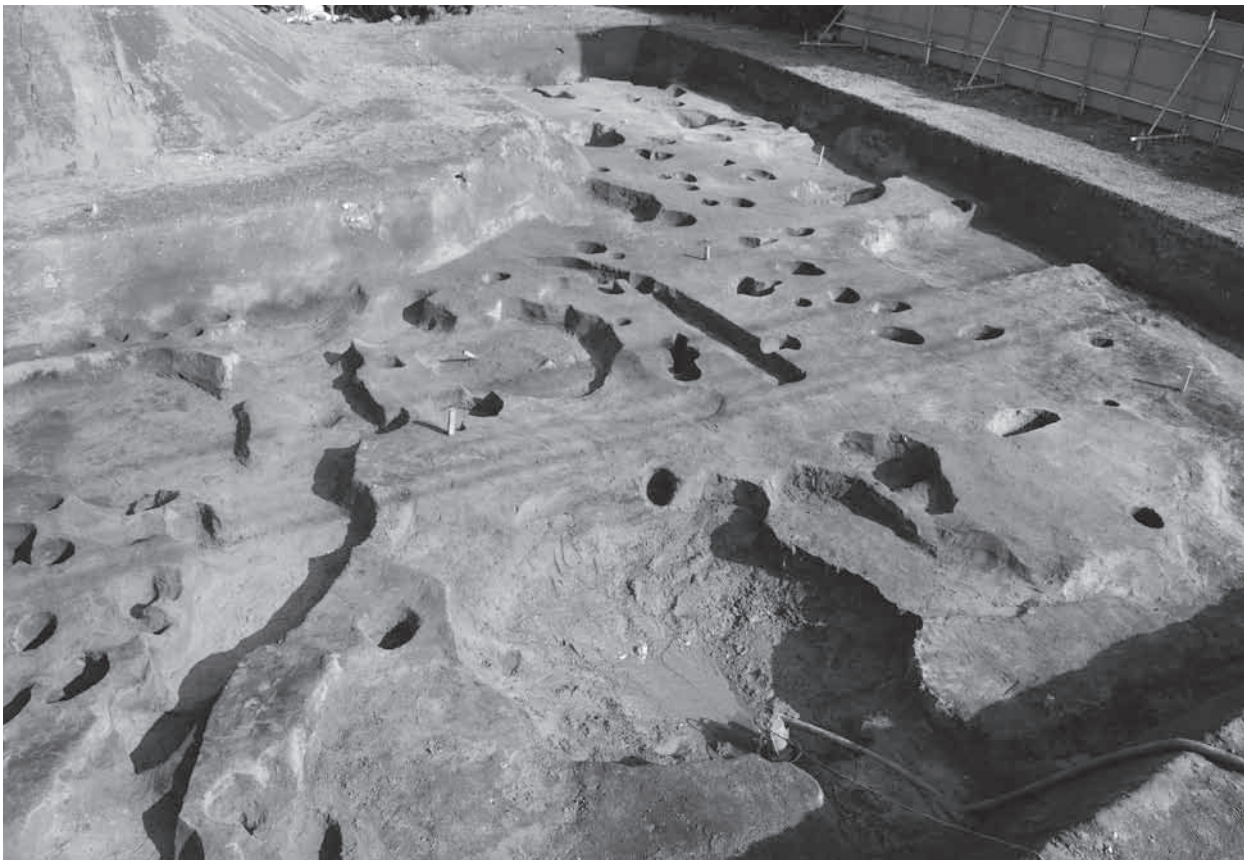
郷中遺跡 6A 地点調査区西側完掘状況 (南西より)

図版第 54

郷中遺跡 6A 地点調査区西側完掘状況（北東より）

郷中遺跡 6A 地点調査区南東側全景（北西より）

郷中遺跡 6A 地点調査区南東側完掘状況（北東より）



郷中遺跡 6A 地点調査区南東側完掘状況（南西より）

図版第 56

郷中遺跡 6A 地点調査区東側全景（南西より）

郷中遺跡 6B 地点調査区全景（北西より）

郷中遺跡 6B 地点調査区全景（南東より）

郷中遺跡 6B 地点 SB1 完掘状況（北より）

郷中遺跡 6A 地点 SP60 遺物出土状況（南西より）

郷中遺跡 6A 地点 SK15 遺物出土状況（北東より）

郷中遺跡 6A 地点 SK15 底面（南東より）

図版第 58

郷中遺跡 6B 地点 SK30 遺物出土状況（南より）

郷中遺跡 6B 地点 SK30･SD5 完掘状況（西より）

郷中遺跡 6A 地点 ST1 遺物出土状況（南東より）

郷中遺跡 6A 地点 ST1 完掘状況（西より）

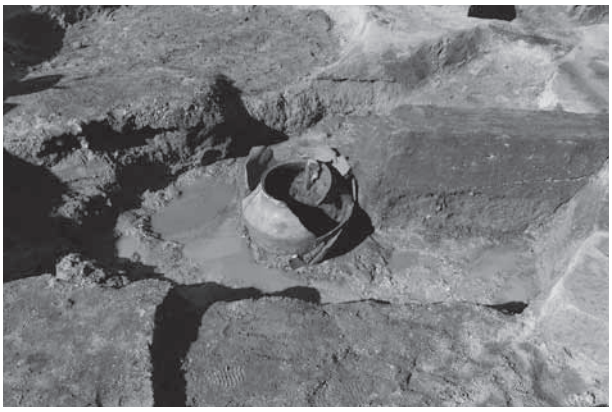
郷中遺跡 6A 地点 SD2 遺物出土状況（西より）

郷中遺跡 6A 地点 SD7・8 掘削状況（南東より）

郷中遺跡 6A 地点 SD7 遺物出土状況（東より）

郷中遺跡 6A 地点 NR3 断面（南西より）

郷中遺跡 6A 地点 SE1 断面（南東より）



郷中遺跡6A地点SE1甕出土状況(1)(南東より)

郷中遺跡 6A 地点 SE1 甕出土状況 (2)（東より）

郷中遺跡 6A 地点 SE1 曲物出土状況（西より）

郷中遺跡6A地点ⅦD13h瓦当出土状況（西より）

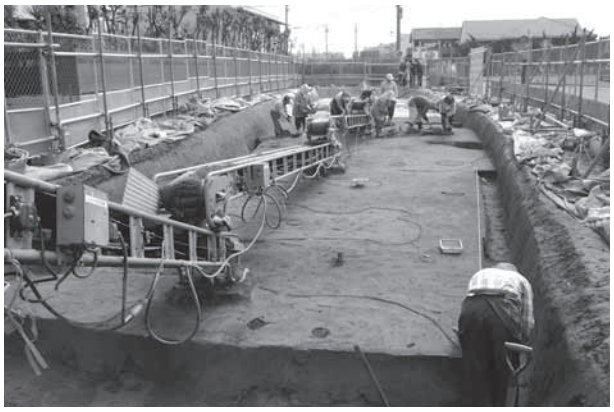
図版第 60

東畑遺跡 2 地点 SB1 掘削作業

東畑遺跡 2 地点 SX2 遺物検出作業

東畑遺跡 3 地点 SB2 掘削・測量作業

東畑遺跡 3 地点 SE1 掘削作業



畑間遺跡 5 地点遺構検出作業

郷中遺跡 6A 地点遺物包含層掘削作業

ジェットマーカーによる遺物注記作業

遺物写真撮影作業

出土遺物 (1)

出土遺物 (2)

出土遺物 (3)

図版第 64

52

53

61

62

63

76

81

84

出土遺物 (4)

85

87

94

95

96

98

99

105

出土遺物 (5)

図版第 66

出土遺物 (6)

出土遺物（7）

図版第 68

出土遺物 (8)

263

264

265

266

267

268

269

270

出土遺物 (9)

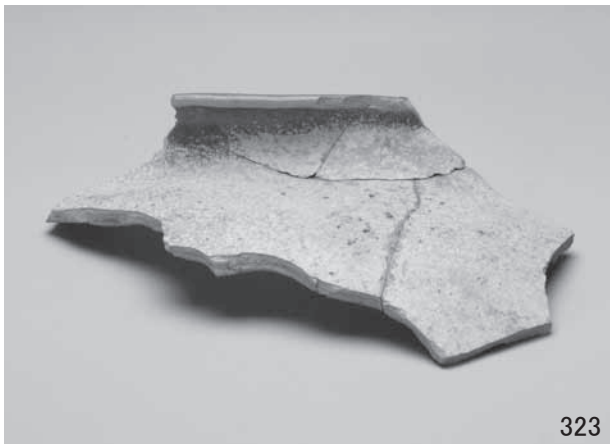
図版第 70

271

272

280

308


323

342

345

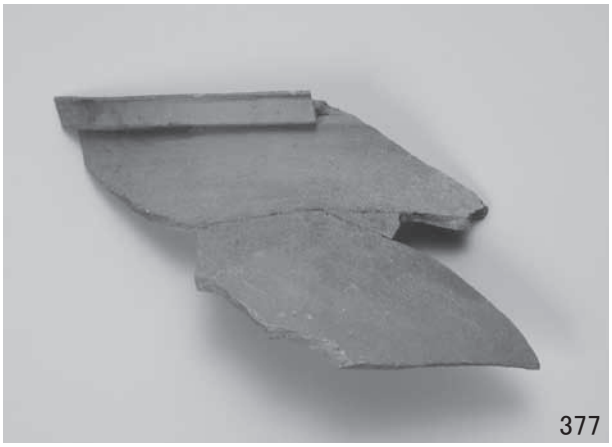
364

出土遺物（10）

374

375

376


377

378

397

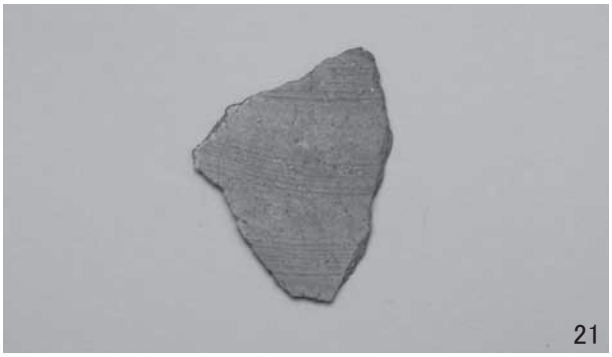
398

400

出土遺物（11）

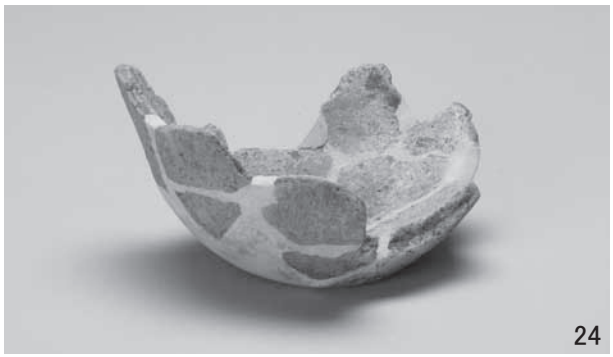
図版第 72

出土遺物（12）



出土遺物（13）

図版第 74



出土遺物（14）

36

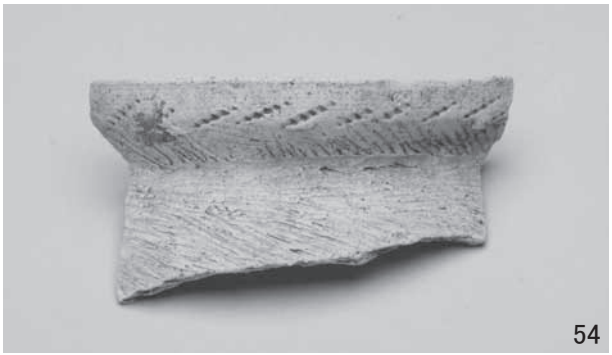
37

38

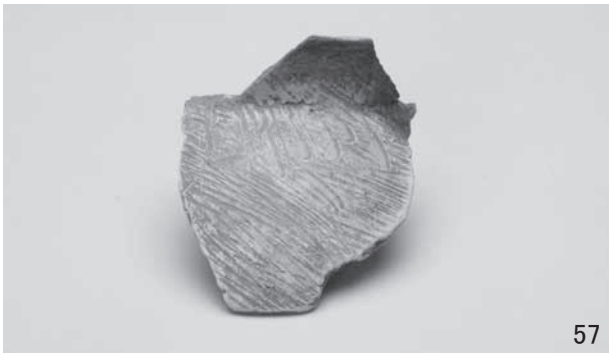
44

45

46


54

56


57

58

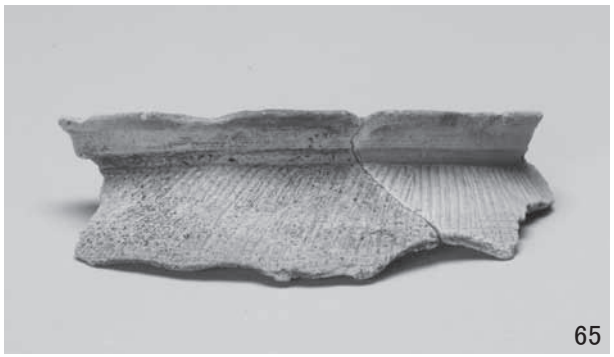
出土遺物（15）

図版第 76

59

60

64


65

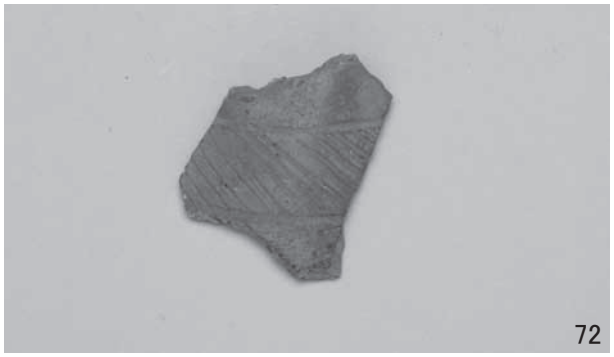
66

68

69

70

71


72

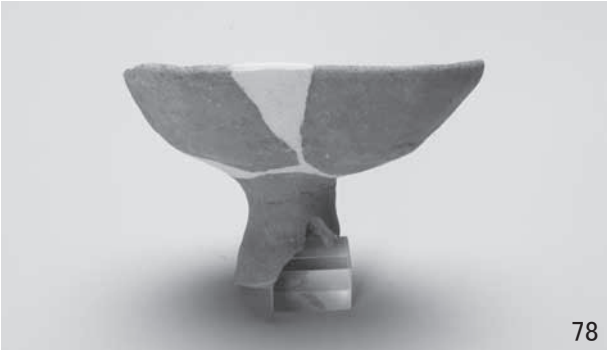
出土遺物（16）

73

74

75

77


78

79

80

82

83

88

出土遺物（17）

図版第 78

89

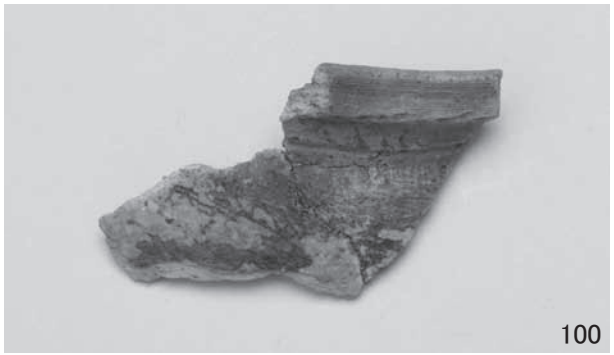
90

91

92

93

97


100

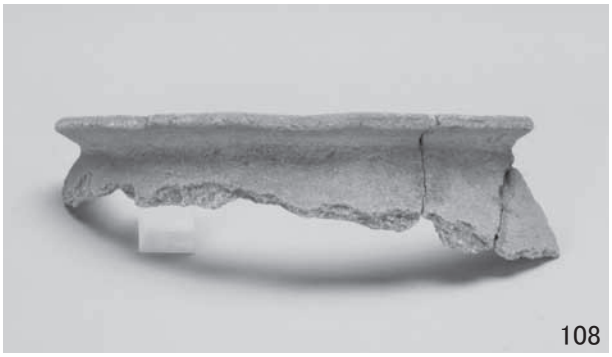
101

102

104

出土遺物（18）

107


108

111

113

115

120

121

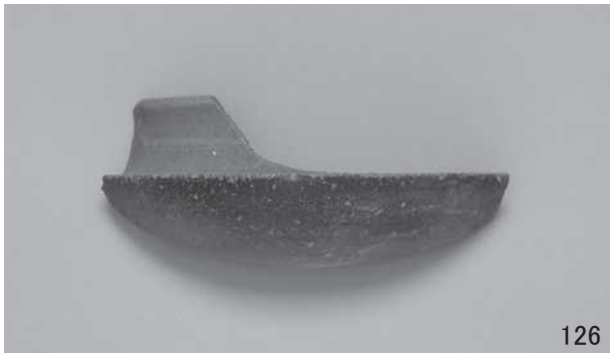
122

123

125

出土遺物（19）

図版第 80

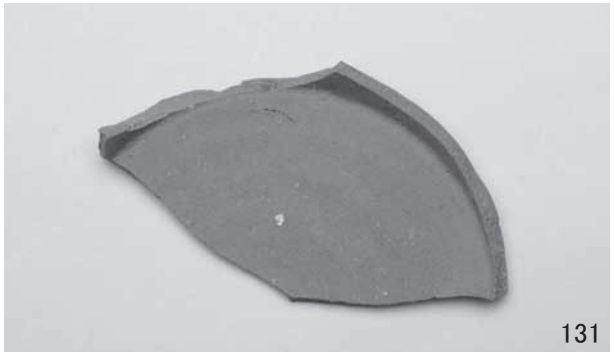

126

127

128

129

130


131

133

134

135

136

出土遺物 (20)

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

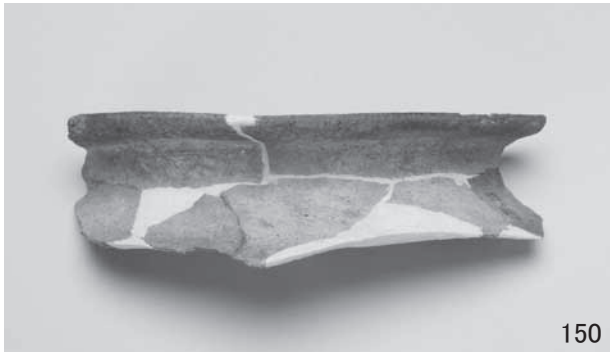
出土遺物 (21)

図版第 82

147

148

149


150

151

152

153

154

155

156

出土遺物 (22)

157

158

159

160

161

162

167

168

169

170

出土遺物 (23)

図版第 84

171

173

174

175

176

177

178

179

180

181

出土遺物 (24)

182

184

185

186

187

188

189

190

191

192

出土遺物 (25)

図版第 86

194

195

196

197

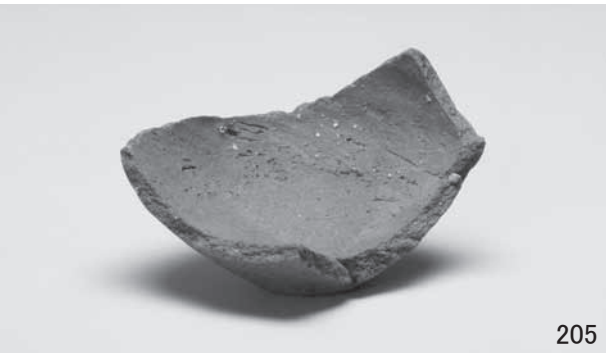
200

201

202

203

204


205

出土遺物 (26)

206

207

208

209

210

211

212

213

214

217

出土遺物 (27)

図版第 88

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

出土遺物 (28)

228

229

230

231

232

233

235

236

237

238

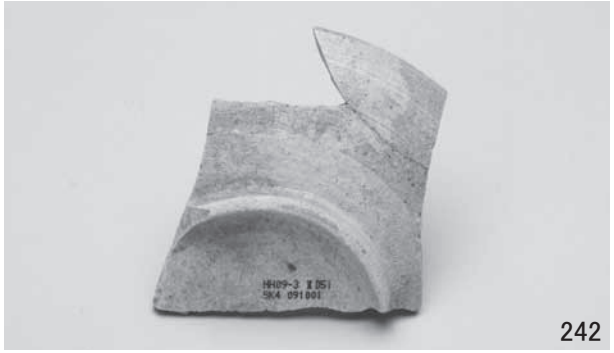
出土遺物 (29)

図版第 90

239

240

241


242

243

244

245

246

247

248

出土遺物（30）

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

出土遺物 (31)

図版第 92

259

260

261

262

273

274

275

276

277

278

出土遺物 (32)

279

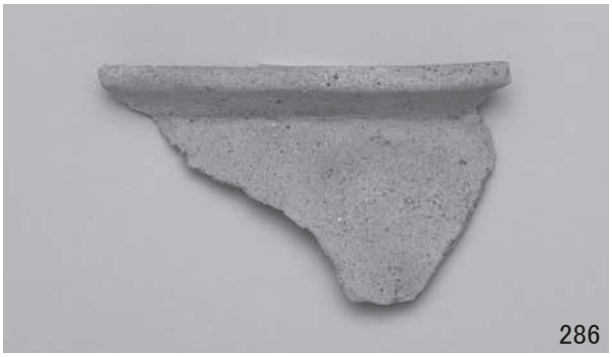
281

282

283

284

285


286

287

288

289

出土遺物 (33)

図版第 94

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

出土遺物 (34)

300

301

302

303

304

305

306

307

309

310

出土遺物（35）

図版第 96

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

出土遺物 (36)

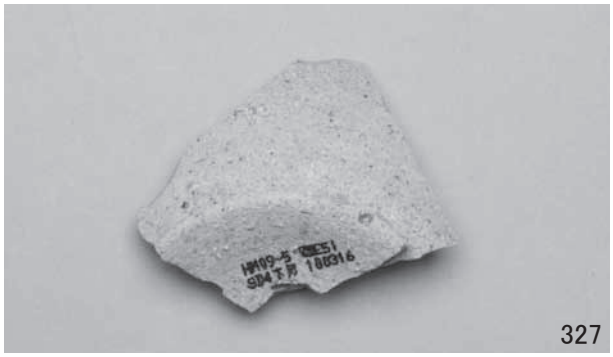
321

322

324

325

326


327

328

329

330

331

出土遺物 (37)

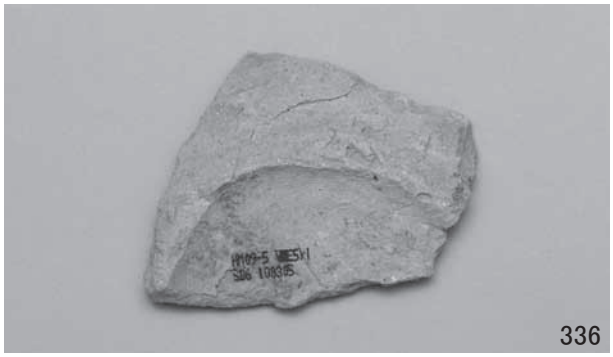
図版第 98

332

333

334

335


336

337

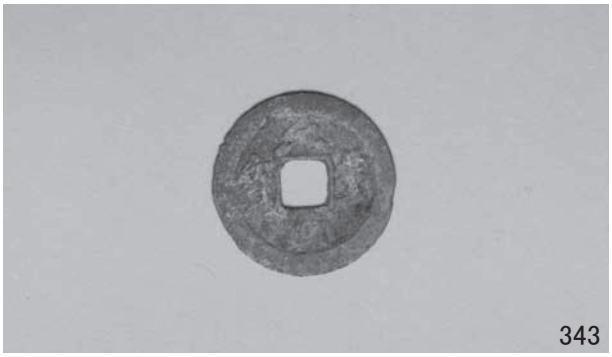
338

339

340

341

出土遺物（38）


343

344

346

347

348

349

350

351

352

353

出土遺物 (39)

354

355

356

357

358

359

360

361

362

363

365

366

367

368

369

370

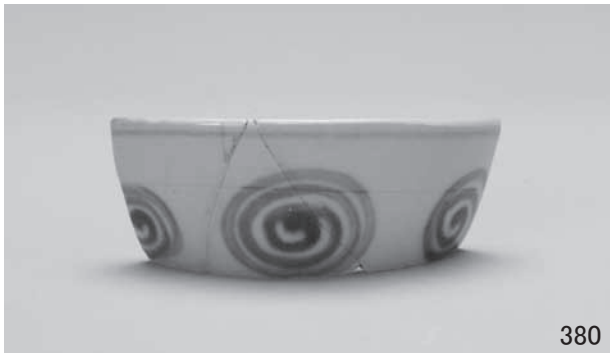
371

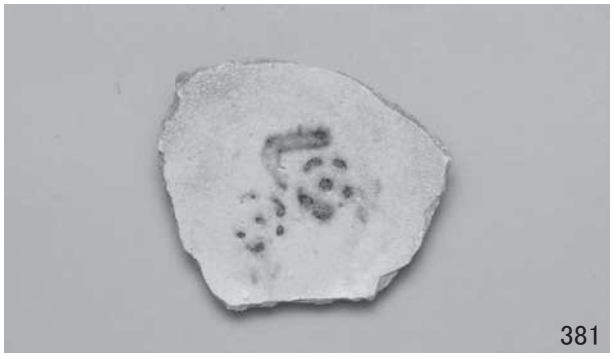
372

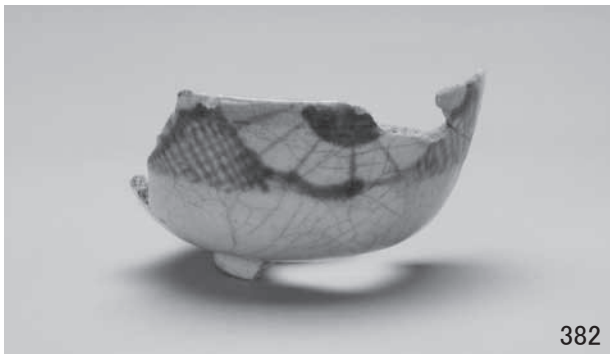
373

379

出土遺物（41）


380


381


382

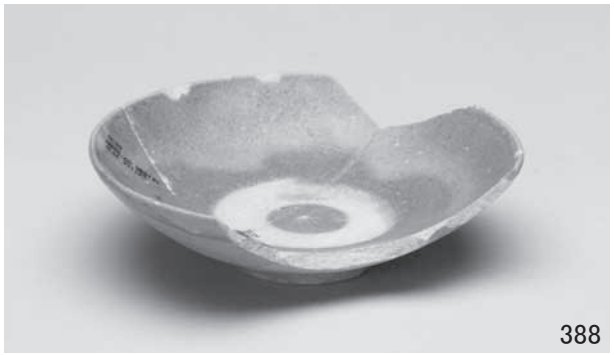
383

384

385

386

387


388

389

出土遺物（42）

390

391

392

393

394

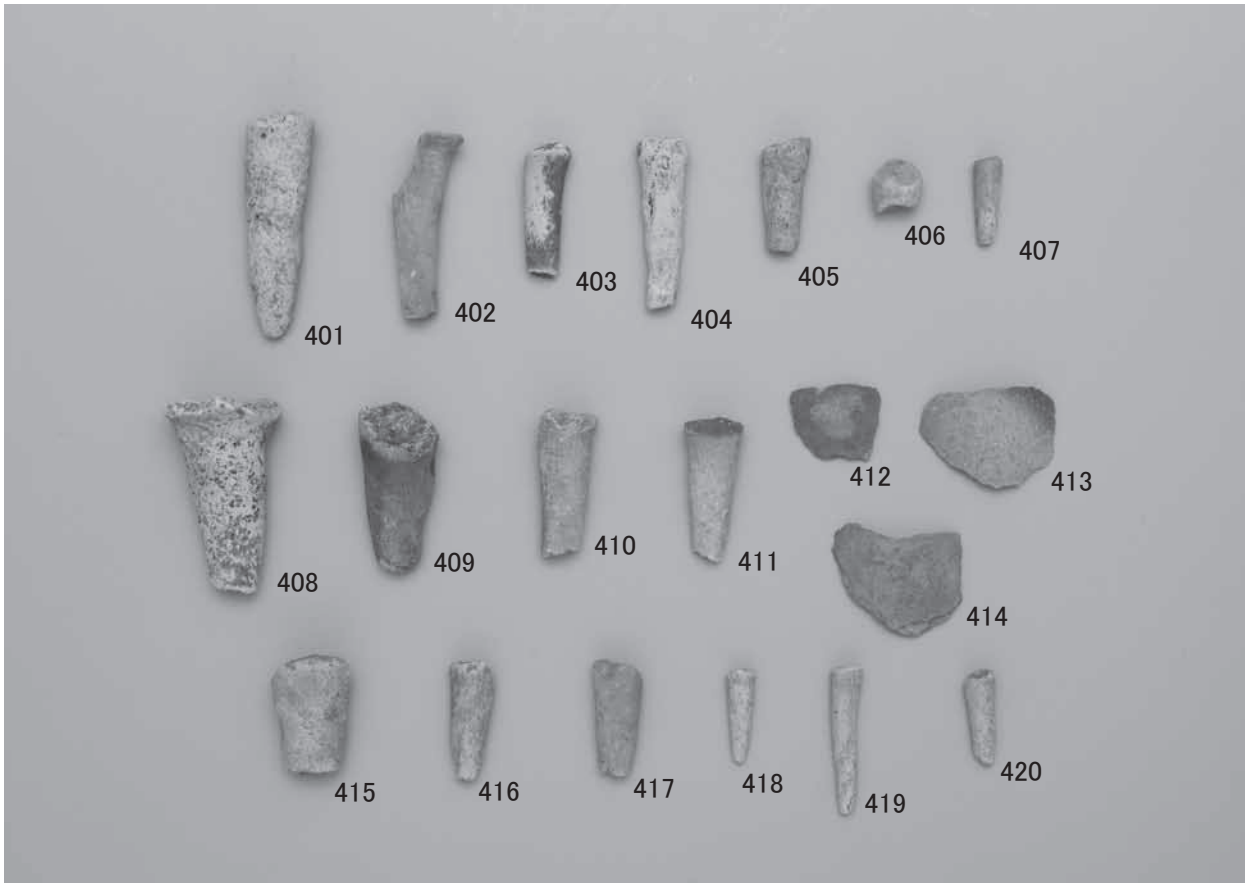
395

396

399

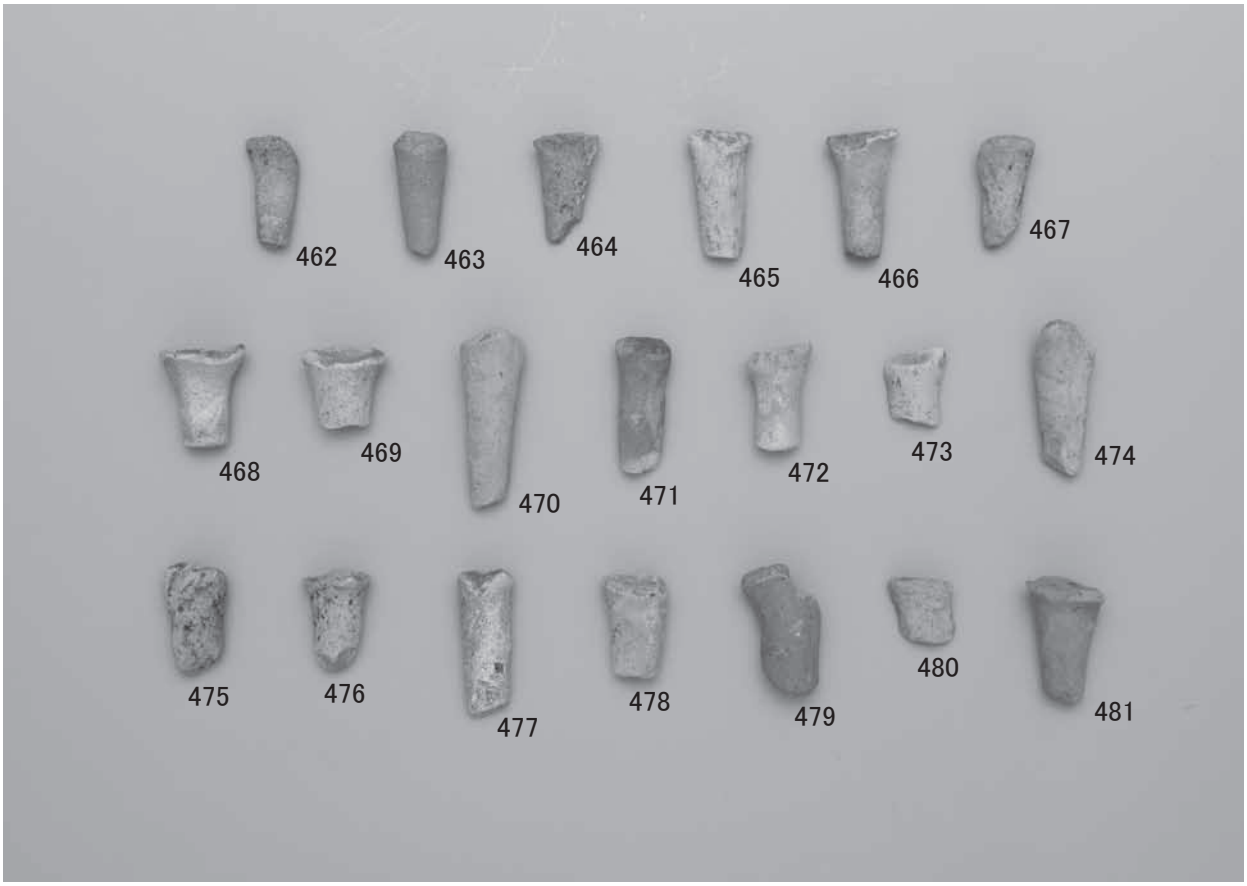
出土遺物（43）

図版第 104



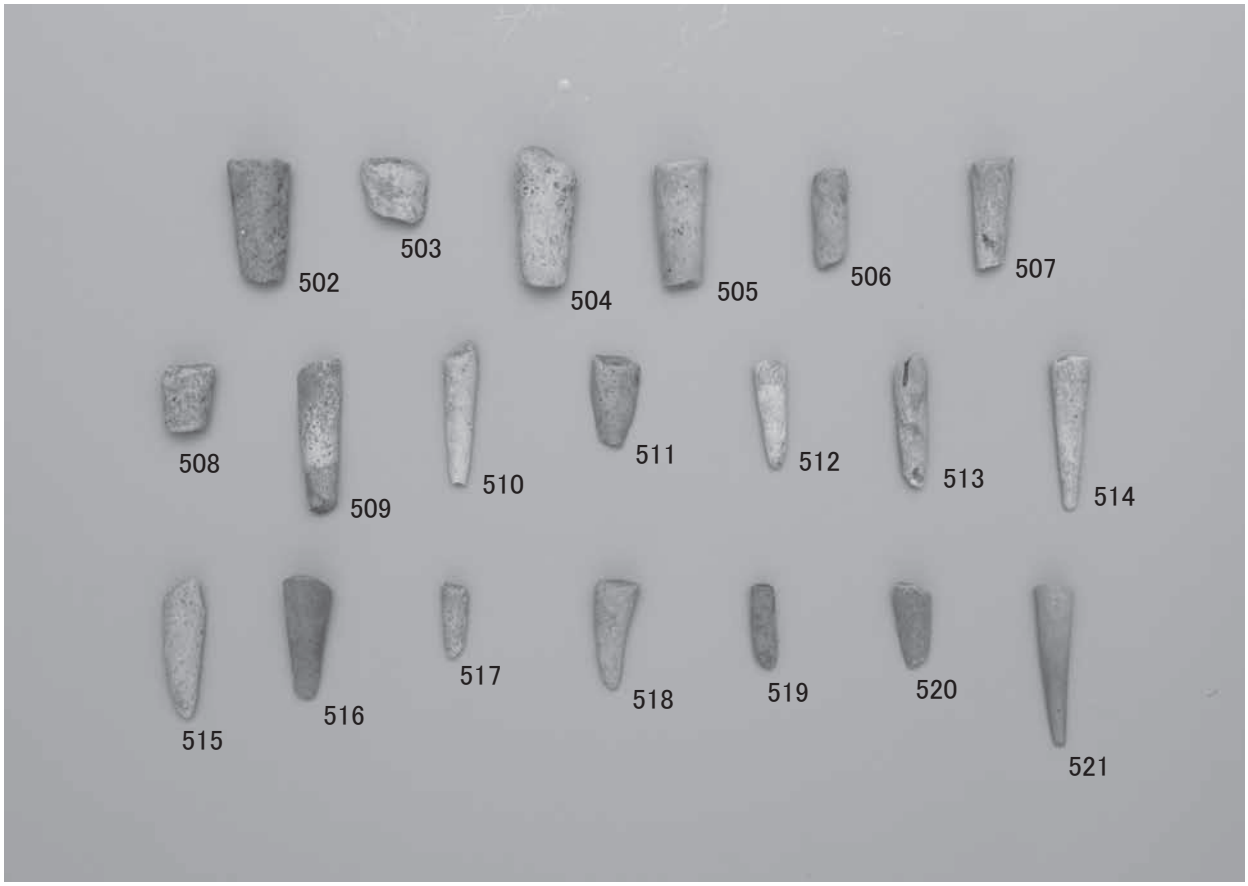
出土遺物（44）

442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461


462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481

出土遺物（45）

図版第 106



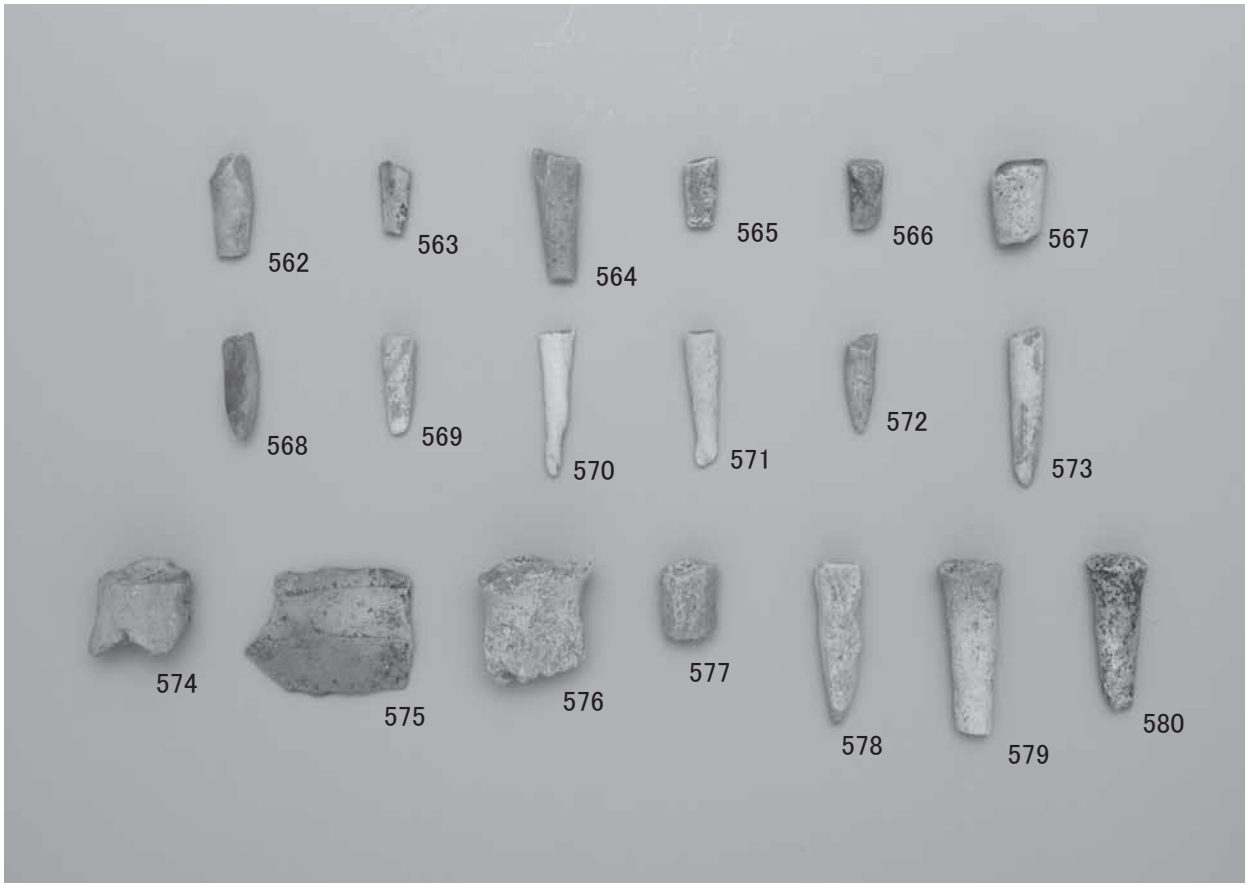
出土遺物（46）

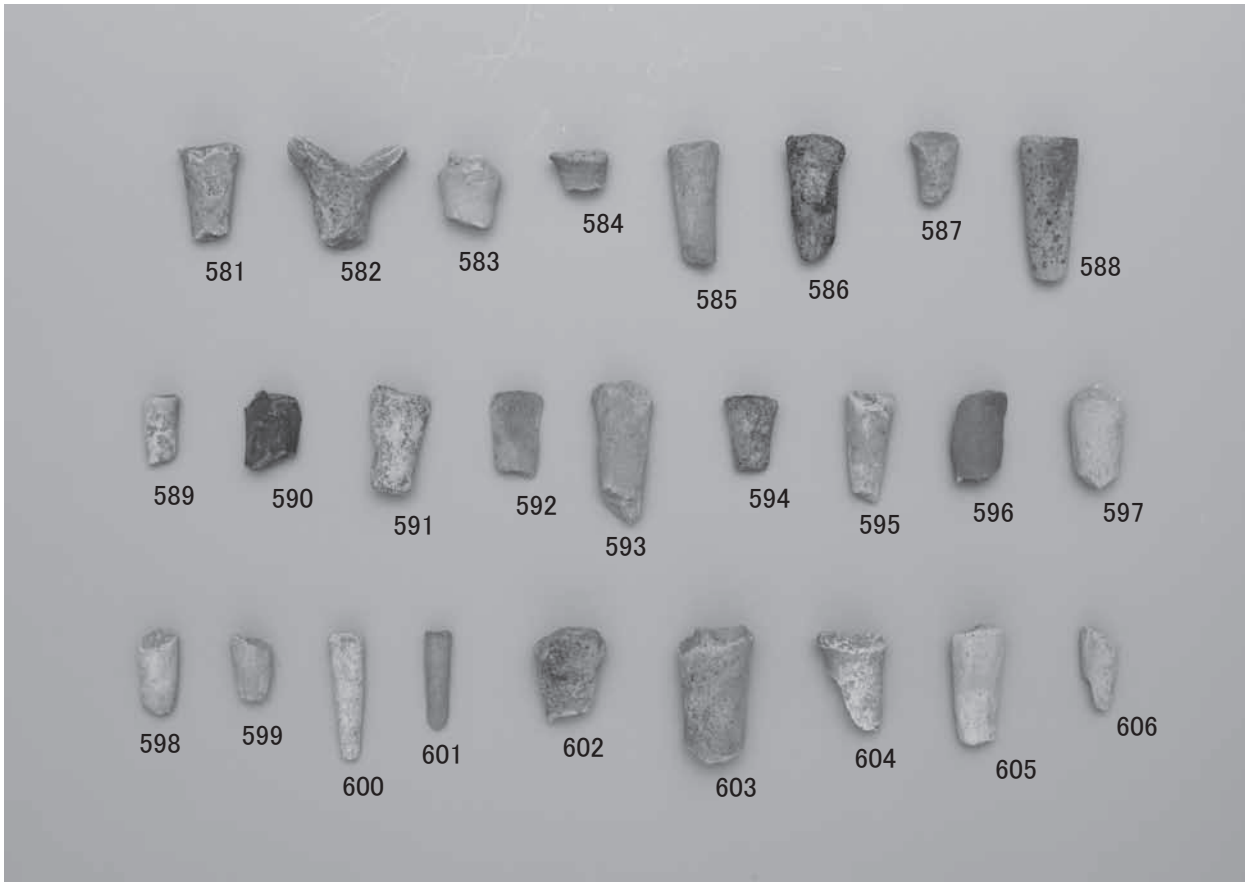
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541

542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561

出土遺物（47）

図版第 108





出土遺物（48）

1. ヒト右上顎犬歯（記号1）
2. ヒト右上顎中切歯（記号k）
3. ヒト左上顎中切歯（記号j）
4. ヒト左上顎側切歯（記号i）
5. ヒト左上顎犬歯（記号h）
6. ヒト左上顎第1小臼歯（記号g）
7. ヒト左上顎第2小臼歯（記号f）
8. ヒト左上顎第1大臼歯（記号e）
9. ヒト右大腿骨（記号c）
10. ヒト右脛骨（記号a）
11. ヒト左脛骨（記号b）
12. ヒト左大腿骨（記号d）

東畑遺跡 3 地点出土人骨

報告書抄録

ふりがな	はたま・ひがしはた・ごうちゅういせきはっくつちょうさほうこく
書　　名	畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	宮澤浩司・有馬啓介・金井慎司
編集機関	安西工業株式会社　名古屋支店
所 在 地	〒465-0046　愛知県名古屋市名東区望が丘268-501　　TEL 052-769-6500
発行機関	愛知県東海市教育委員会
所 在 地	〒476-8601　愛知県東海市中央町1丁目1番地　　TEL 052-603-2211
発行年月日	2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はたま いせき 畑間遺跡	あいちけん とうかいし 愛知県東海市 おおたまち 大田町	23222	43050	35°1′11″	136°53′51″	20100127 ～20100323	490	土地区画 整理事業
ひがしはた いせき 東畑遺跡	あいちけん とうかいし 愛知県東海市 おおたまち 大田町	23222	43052	35°0′59″	136°53′50″	20090914 ～20100622	1,965	土地区画 整理事業
ごうちゅう いせき 郷中遺跡	あいちけん とうかいし 愛知県東海市 おおたまち 大田町	23222	43122	35°1′13″	136°53′47″	20091120 ～20100708	1,275	土地区画 整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
はたま いせき 畑間遺跡	集落	古墳時代～中世	竪穴建物　2 溝　7	土師器、須恵器、 製塩土器、山茶碗、 常滑、瓦、鉄鏃、銅銭	古墳時代から中世にかけての集落跡。 知多式製塩土器が出土。
ひがしはた いせき 東畑遺跡	集落	縄文時代～中世	竪穴建物　33 掘立柱建物　4 柵　2 土坑墓　1 井戸　3	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、 製塩土器、灰釉陶器、 山茶碗、常滑、瓦塔、瓦、 銅鏃、石鏃、磨製石斧	弥生時代から古墳時代にかけての集落跡。 瓦塔や浄瓶といった古代の仏教に関わる遺物が出土。
ごうちゅう いせき 郷中遺跡	集落	弥生時代 中世～近世	竪穴建物　1 土坑墓　1 井戸　1 溝　15 自然流路　3	弥生土器、製塩土器、 緑釉陶器、灰釉陶器、 山茶碗、常滑、 瀬戸美濃、肥前磁器、 瓦、刀子	中世から近世にかけての集落跡。

愛知県東海市
畑間・東畑・郷中遺跡発掘調査報告

平成 24 年 3 月 14 日 印刷
平成 24 年 3 月 31 日 発行

編　　集　安西工業株式会社　名古屋支店
〒465-0046　愛知県名古屋市名東区望が丘268-501
TEL 052-769-6500
発　　行　愛知県東海市教育委員会
〒476-8601　愛知県東海市中央町1丁目1番地
TEL 052-603-2211
印刷・製本　三星商事印刷株式会社